上田市文化財調査報告書第37集

林之郷・八千原

林之郷遺跡ほか緊急発掘調査報告書

1991年3月

上田市教育委員会
上小地方事務所

上田市文化財調査報告書第37集

林之郷・八千原

林之郷遺跡ほか緊急発掘調査報告書

1991年3月

上田市教育委員会
上小地方事務所

序

県営ほ場整備事業殿城地区の実施に伴い大規模な林之郷遺跡・八千原遺跡緊急発掘調査が終了し、ここに調査報告書の発行ができますことは、誠に喜びにたえないところであります。

このたび発掘調査された林之郷遺跡・八千原遺跡をはじめ、上田市には数多くの埋蔵文化財があります。それらはすなわち、市域が古くからの人々の生活の場となっていたことの証であり、いかに私たちの郷土が豊かな水や緑や大地などの、高度な文化を育み支えるための自然的条件を有した素晴らしい地域であるかを意味するものであります。

21世紀を目前にし、今日の日本は、経済やテクノロジーの分野において世界有数の大国と称せられ、産業や生活基盤は大きく変貌しています。私たちの上田市においても、商工業の発展や農業の近代化により、街や農村の風景も日を追うごとに激しく変わっています。

しかし、一方で産業等の発展を図りながら、国民共通の財産である文化財を保護し、後世に正しく伝えていくことも今日に生きる私たちに課せられている義務といえましょう。

かつてのどん底の終戦直後から見れば、今日の日本の姿はまさに夢のようです。しかし、戦後から今日までの間に、知らず知らずのうちに切り捨ててしまったものや失ったもの、また、後まわしにした問題等は図らずも少なくありません。経済大国になった今、本当の豊かさを求めて私たちは進むべき方向性を新たに考える時がきています。

文化財は私たちに多くのことを教え、また、私たちに郷土を愛する心を芽生えさせてくれます。人間が社会の向上を求める限り、文化財から与えられるものは尽きないといっていいでしょう。

最後となりましたが、このたびの調査では地元のほ場整備実行委員会の皆さん、並びに関係自治会の皆さん、調査対象地区の地権者の皆さんに深い御理解と御協力をいただきました。また、作業員の皆さんには猛暑の中たいへんな御尽力をいただきました。ここに心より御礼申し上げ、はじめの言葉といたします。

平成3年3月

上田市教育委員会教育長　内藤　尚

例　言

1　本書は長野県上田市大字殿城字漆戸における県営ほ場整備事業殿城地区に伴う、平成元年度～2年度林之郷遺跡ほか発掘調査の報告書である。

2　調査は、上田市教育委員会が赤羽　衆を調査団長として、林之郷遺跡ほか発掘調査団を編成し、調査を委託して実施した。なお、事務局は上田市教育委員会社会教育課が担当した。

3　発掘調査は現場での調査を平成元年5月15日から11月2日まで実施した。この間の調査は調査団の指導のもと、主に久保田が担当した。

4　遺構の実測は久保田・倉沢・猪熊・中沢・荒井かき子・川崎康子・神林松子が行い、一部を（有）写真測図研究所、新日本航業（株）に委託した。トレースは窪田幸子・小林由美子・田中弥重子・小野沢恵美子・唐沢裕子が行った。

5　遺物の実測とトレースは一部を中沢・倉沢・坂巻ケン子が行い、久保田の指導の下に窪田・小林・田中・小野沢・唐沢が行った。

6　本文の執筆は、主に久保田・中沢が行った。

7　版組は荒井・窪田・小林・田中・大井敬子・市村みつ子が行った。

8　遺構・遺物の写真撮影は中沢・久保田が行い、縄文土器と石器は小川忠博に委託して行った。

9　本調査に係る基準点測量は（有）写真測図研究所に委託した。

10　遺物の接合作業は猪熊・荒井・窪田・小林・田中・小口久仁子・中山文子・米窪千鶴が行い、石膏復元は清水関二・樋口眞知子が行った。

11　本調査に係る資料は上田市教育委員会の責任下、上田市信濃国分寺資料館に保管してある。

12　本書の編集刊行は事務局が担当した。

13　本調査にあたり次の皆さんにご協力、ご助言を賜った。記して感謝する次第である。（順不同、敬称略）漆戸・林之郷・下郷自治会、ほ場整備実行委員会、森島稔、赤塩一巳、望月町教育委員会学芸員福島邦男、小川忠博、坂井美嗣、堀田雄二、翠川泰弘、長野県教育委員会文化課、シルバー人材センター、上田市農村整備課、上田市農村改善センター、上田市立清明小学校

14　本調査に係る林之郷遺跡ほか発掘調査団の組織は次のとおりである。

顧　　問　五十嵐幹雄（日本考古学協会員、上田市文化財保護審議会委員）

顧　　問　小林　幹男（日本考古学協会員）

調査主任　岩佐今朝人（日本考古学協会員、上田小県誌考古編編纂副主任）

団　　長　赤羽　　衆（上田市教育委員会教育長・平成2年10月10日退任後も引続き行った）

副 団 長　中島　孝一（上田市教育委員会教育次長・平成2年3月31日退任）

副 団 長　小林陽三（上田市教育委員会教育次長・平成２年４月１日着任）

調 査 員　塩入秀敏（日本考古学協会員、上田女子短期大学助教授）

調 査 員　猪熊啓司（長野県長野高等学校教諭）

調 査 員　川上元（日本考古学協会員、社会教育課課長補佐兼文化係長）

調 査 員　倉沢正幸（上田市立信濃国分寺資料館学芸員）

調 査 員　塩崎幸夫（社会教育課主事）

調 査 員　中沢徳士（社会教育課学芸員）

調 査 員　久保田敦子（社会教育課主事）

事務局長　三輪善方（社会教育課長・平成２年４月30日退任）

事務局長　須藤清彬（社会教育課長・平成２年５月１日着任）

事務局次長　川上元（社会教育課課長補佐兼文化係長）

事務局員　塩崎幸夫（社会教育課主事）

事務局員　中沢徳士（社会教育課学芸員）

事務局員　久保田敦子（社会教育課主事）

事務局員　小林香保利（社会教育課主事・平成２年５月１日着任）

16　発掘・整理作業に参加、協力していただいた方々（順不同、敬称略）

荒井かぎ子・荒井公徳・飯塚健三・池田浮きよ・井部定雄・岩上望・岩下真・岩瀬卓治・大原広枝、小田中栄佐吾・金田清・川上純一・川崎康子・神林松子・久保寺純子・小泉好武・後藤政枝・小林一衛・小林佐代子・小林増右エ門・小林悌・小林ひさ江・小林ふみゑ・小林基・小林好友・小山信子・酒井あい子・酒井ちずゑ・坂口巽昌・佐野志津江・佐野とも・佐野もと枝・沢信・柴崎和美・柴崎仁志・清水関二・杉松健・春原茂代・春原忠代・春原信子・春原範子・春原弘毅・関茂樹・滝沢政子・滝沢りつ子・竹内和美・竹内千恵子・田中まさ子・田中孝雄・茅野恵・寺島貴幸・富井恒彦・富井秀子・中沢正一・長浜峰吉・中村博昭・萩原隆一・林正治・平田信江・堀内袈裟次・松島正一・三井千代子・宮沢富実・宮下美代・宮之上よし子・屋ヶ田正寿・柳沢斉・柳沢仁美・山越そう・山崎美津子・吉崎吾一・依田すみ江・渡辺袈裟俊・市村みつ子・大井敬子・小口久仁子・小野沢忠美子・唐沢裕子・窪田幸子・小林明子・小林由美子・坂巻ケン子・田中弥重子・鶴田紀子・戸谷栄子・中山文子・樋口眞知子・樋口若子・翠川暢泰・米窪千鶴・堀内節子

凡　　例

遺　構

1　竪穴住居址（ＳＢ－）、土壙（ＳＫ－）、掘立柱建物址（ＳＴ－）、ピット（Ｐ－）、溝址（ＳＤ－）、竪穴住居址のピット（Ｐ）の番号は任意である。

2　遺構の版組は国家座標の北を基準に行ったが、紙面の都合により例外もある。

3　遺構実測図は原則として原図1／20、縮尺1／4を基本とした。なお、竪穴住居址の竈、炉、遺物出土状況等、必要に応じて原図1／10、縮尺1／4とした。

4　遺構が時代の新しい遺構によって、あるいは攪乱等によって破壊を受け、プランが明確でない場合は古い遺構を破線で示した。

5　竪穴住居址の主軸方位は、国家座標の北と竈等を通る住居址の中軸線とのなす角度で示してある。

6　土壙、ピット、柱穴の規模は（長軸×短軸×深さ）で示した。

7　遺構断面図の標高は、すべてm単位で示してある。

8　挿図中のスクリーントーンは次のとおり示した。

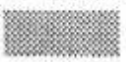
焼　土

9　遺構写真図版の縮小は任意である。

遺物

1　遺物実測図は原図は１／１、縮尺は１／１～１／６とした。

2　土器の実測方法は４分割法を用い、右側１／２に断面及び内面を、左側に外面を記録した。

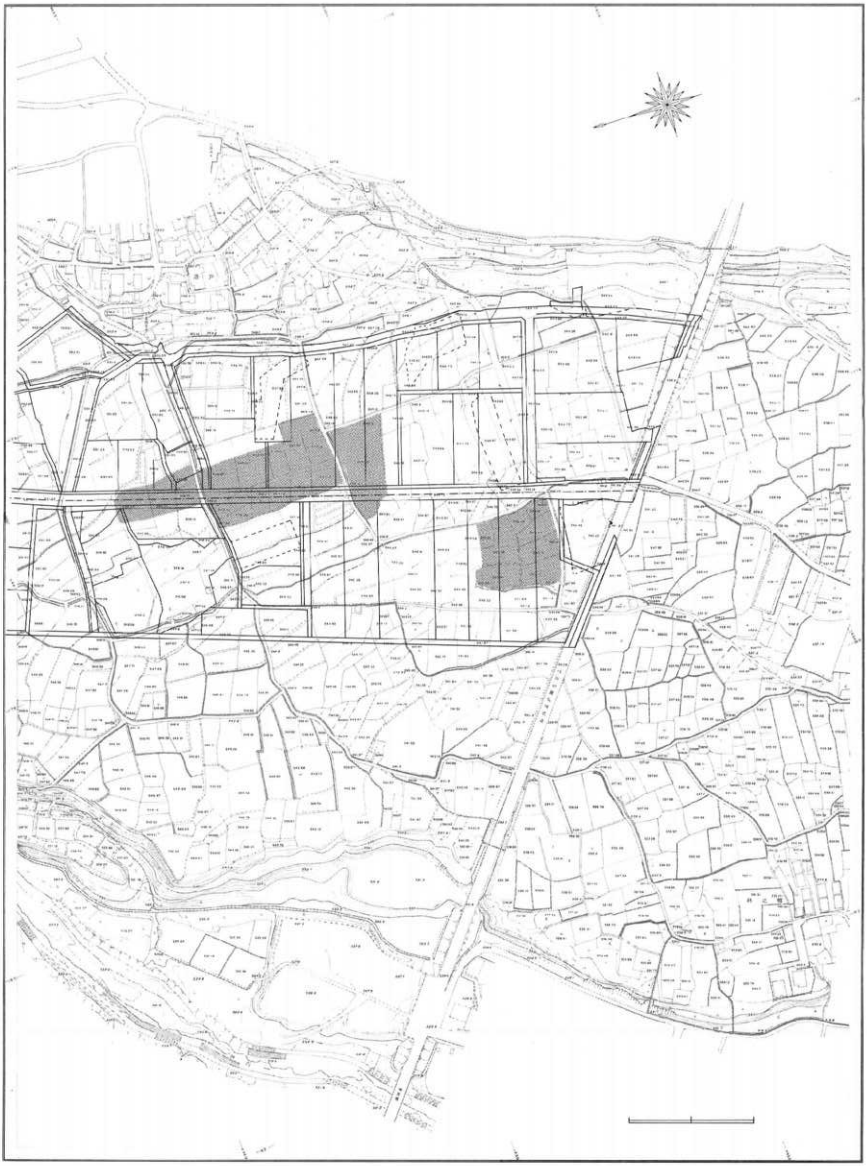
3　黒色処理のある遺物はスクリーントーン  で示した。

4　篦削りの方向は→で示した。

5　出土遺物一覧表の器質は、胎土を「胎」、焼成「焼」、色調を「色」と記載した。なお、色調は遺物の外面・内面の基本的な色調を農林省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』１９９０年を用いて判別した。

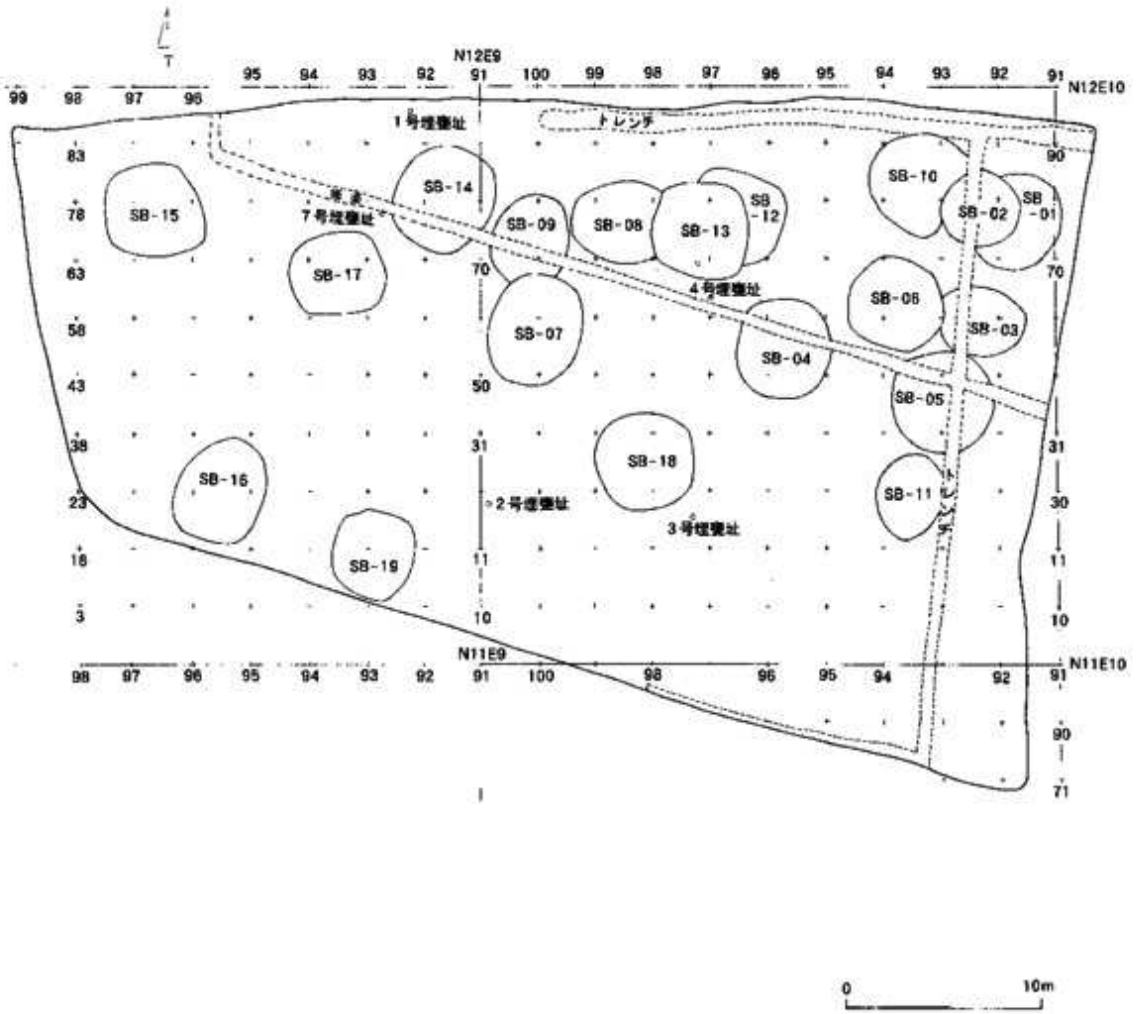
6　遺物番号は実測図版番号及び写真図版番号と一致している。

7　遺物写真図版の縮小は任意である。

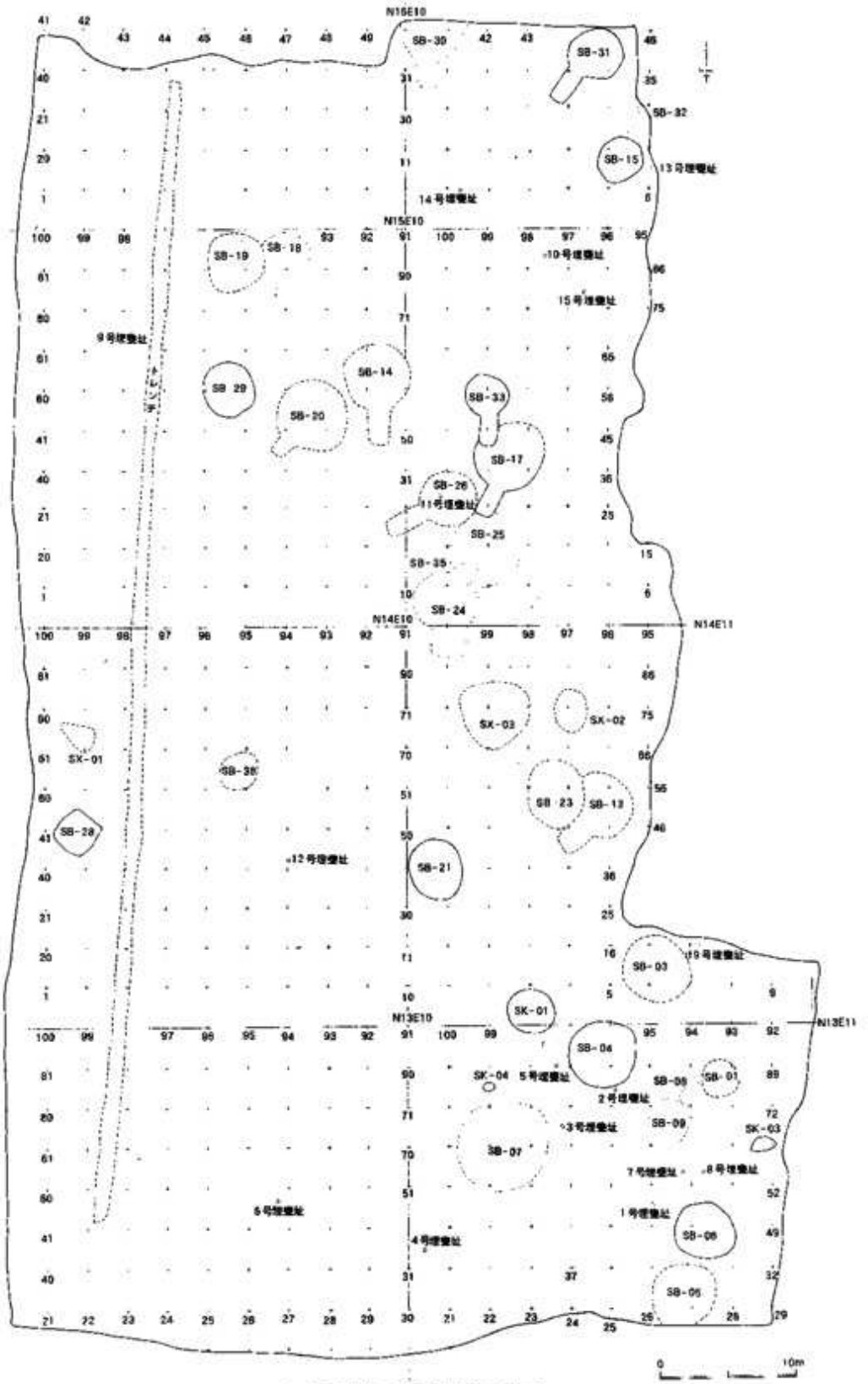


県営ほ場整備事業殿城地区計画平面図

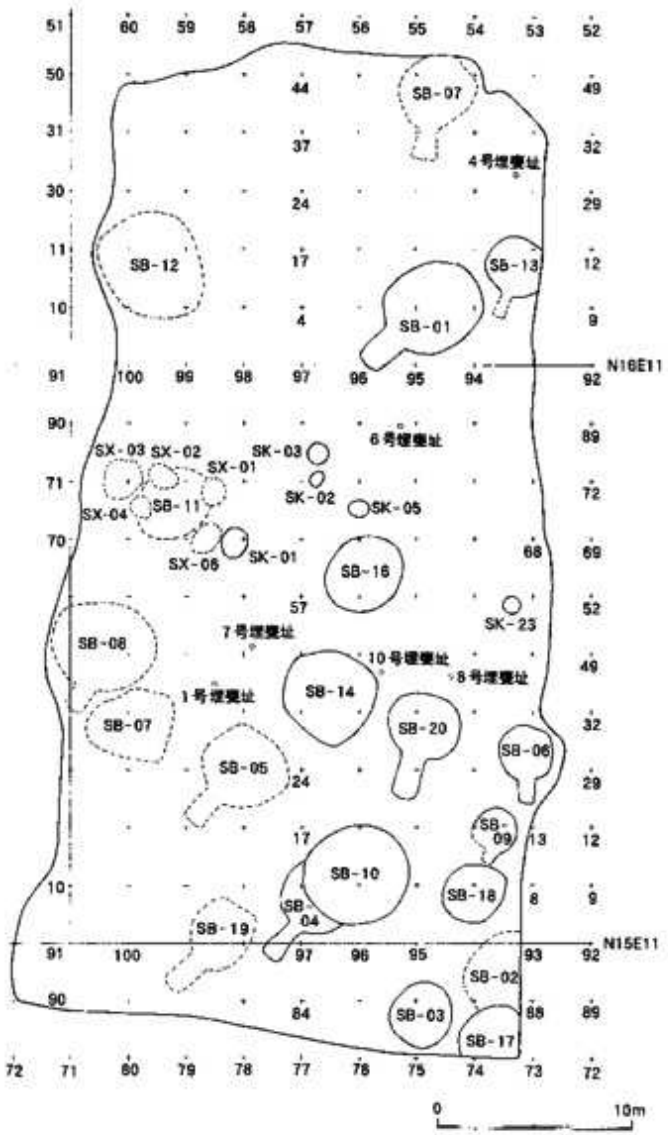
林之郷遺跡E地区遺構配置図



八千原遺跡A地区遺構配置図



八千原遺跡B地区遺構配置図



八千原遺跡C地区遺構配置図

目　　次

序

例言

凡例

目次

第一章　序説 ……1

第1節　調査の原因と経過 ……1

1 調査に至る経過

2 調査の経過

第2節　調査の方法 ……3

第3節　調査日誌（抄） ……4

第二章　遺跡の環境 ……5

第1節　自然的環境 ……5

第2節　歴史的環境 ……8

第3節　基本的層序 ……9

第三章　林之郷遺跡の調査 ……11

第1節　概要 ……11

第2節　検出された遺構 ……13

第3節　出土した遺物 ……68

第四章　八千原遺跡の調査 ……130

第1節　概要 ……130

第2節　検出された遺構 ……132

第3節　出土した遺物 ……201

1　土器

2　石器

写真図版 ……340

第一章　序　　説

第1節　調査の原因と経過

1　調査に至る経過

昭和62年6月23日付け農村発第80号で、上田市農政部農村整備課から「県営ほ場整備事業殿城地区における埋蔵文化財発掘調査について（協議）」として、上田市殿城地区のほ場整備事業を昭和63年度からの事業として計画している旨の協議があり、昭和63年度の当該事業に係る埋蔵文化財発掘調査については、昭和63年度上田市教育委員会・上小地方事務所発行の『林之郷』に報告したとおりである。

平成元年度のほ場整備施工区に係る埋蔵文化財については、長野県教育委員会（以下県教委という）教育長発上田市教育委員会（以下市教委という）受の昭和63年6月30日付け63教文第185号「昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財について（通知）」により、市教委が上田市農政部課長宛てに昭和63年7月5日付け上教社発第160号により同名で照会した文書の回答により把握した。これによれば、林之郷集落の中央東から行沢川に至る250,000㎡をほ場整備するというもので、その施工区域内には周知の埋蔵文化財包蔵地である林之郷遺跡と八千原遺跡が存在していた。このことを昭和63年7月25日付上教社発第191号で県教委宛て回答したところ、県教委教育長発市教委受の昭和63年8月22日付け63教文第185号で「昭和64年度の農業基盤整備事業等に係る埋蔵文化財の保護協議（通知）」により、9月26日に保護協議を実施することに決定した。

この保護協議には、県教委、上小地方事務所、上田市、市教委の担当課・担当職員が出席した。この席上、市教委は、遺跡の範囲確認のための試掘を早急に実施するよう、県教委より指導を受け、その結果によって再度協議を実施することとした。市教委ではこの後、試掘調査を実施し、この結果をもって11月28日再度協議を実施し、下記の計画で調査を実施することとした。

発掘調査計画書

発掘調査地	上田市大字諏戸遺跡名
遺跡名	林之郷遺跡・八千原遺跡
遺跡の状況	地目（水田・畑）破壊状況（一部破壊）
調査の目的及び概要	開発事業県営ほ場整備事業殿城地区に先立ち10,000㎡以上を発掘調査して記録保存をはかる。 遺跡における発掘作業は平成元年10月31日までに終了する。 調査報告書は平成2年3月31日までに刊行するものとする。
調査の作業日数	発掘作業120日、整備作業120日、合計240日
調査に要する費用	32,000,000円
調査報告書作製部数	300部
発掘調査の主体者	上田市教育委員会

経費の負担割合	農政部局側負担額（原因者）24,160,000円（75.5％） 文化財保護部局側負担額（農家負担分）7,840,000円（24.5％）
備考	調査の結果、重要な遺構等が検出された時は、その保存について改めて協議するよう配慮する。

平成元年4月12日、この調査に際し市教委が新たに組織した『林之郷遺跡ほか発掘調査団』の赤羽奈調査団長以下調査団員に委嘱状が交付され、調査団会議を開催し、調査の方法等について検討を加えた。5月8日、調査に係る事務担当者レベルの協議を行い、調査の段取りについて最終の打合わせを行い、5月15日付けで上田市と調査団の委託契約が成立し、同日、調査に着手した。

2　調査の経過

(1) 平成元年度事務処理の経過

本調査に係る平成元年度の契約、補助金等の申請事務は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	上小地方事務所	発掘調査団
平成元年4月3日 庁保伝第7号 補助金の内示	平成元年4月3日 2教文第2号 補助金の内示	平成元年5月12日 委託契約締結	平成元年5月13日 委託契約締結
平成元年5月24日付 上教社発第121号 補助金交付申請	平成元年7月17日付 上教社発第165号 補助金交付申請		
平成元年11月17日付 委保第71号 補助金交付決定	平成元年12月20日付 長野県教育委員会教育長指令元教文第2－39号	平成元年10月2日 変更委託契約締結 （消費税の扱いの変更によるもの）	平成元年10月24日 変更委託契約締結 （消費税の扱いの変更によるもの）
平成元年11月28日付 上教社発第264号 計画変更承認申請	平成元年11月28日付 上教社発第264号 計画変更承認申請	平成元年11月6日 変更委託契約締結 （計画変更による）	平成2年2月14日 変更委託契約締結 （計画変更による）
平成2年2月22日付 委保第71号 補助金変更交付決定	平成2年3月20日付 長野県教育委員会教育長指令元教文第2－39号		
平成2年3月31日付 上教社発第72－1号 補助事業実績報告	平成2年3月31日付 上教社発第72－2号 補助事業実績報告	平成2年3月26日 上教社発第72－3号 事業実績報告	平成2年3月26日 事業実績報告
平成2年4月10日付 長野県教育委員会達元教文第1－16号 補助金確定	平成2年3月31日付 長野県教育委員会教育長達元教文第2－39号 補助金確定		
平成2年4月10日付 上教社発第72－1号 補助金交付請求	平成2年3月31日付 上教社発第72－2号 補助金交付請求	平成2年3月26日 上教社発第72－3号 委託金交付請求	
平成2年4月24日 補助金入金	平成2年5月18日 補助金入金	平成2年4月27日 委託金入金	

＊計画変更・契約変更は、遺物整理の一部と報告書作成を平成2年度に実施するとしたものである。

(2) 平成2年度事務処理の経過

本調査に係る平成2年度の契約、補助金等の申請事務は次に示すとおりである。

国庫補助金関係	県費補助金関係	上小地方事務所	発掘調査団
平成2年4月4日 庁保伝第7号 補助金の内示	平成2年4月4日 2教文第2号 補助金の内示	平成2年4月10日 委託契約締結	平成2年4月10日 委託契約締結
平成2年4月5日付 上教社発第118－1号 補助金交付申請	平成2年8月10日付 上教社発第173号 補助金交付申請		
平成2年7月24日付 委保第71号 補助金交付決定	平成2年10月12日付 長野県教育委員会教育長指令2教文第2－6号 補助金交付決定		
平成3年3月30日付 上教社発第84－1号 補助事業実績報告	平成3年3月30日付 上教社発第84－1号 補助事業実績報告	平成3年3月25日 上教社発第84－1号 事業実績報告	平成3年3月25日 事業実績報告
平成3年4月10日付 長野県教育委員会達2 教文第1－11号 補助金確定	平成34年3月31日付 長野県教育委員会教育長達元教文第2－6号 補助金確定		
平成3年4月11日付 上教社発第84－1号 補助金交付請求	平成3年4月2日付 上教社発第84－1号 補助金交付請求	平成3年3月31日 上教社発第84－1号 委託金交付請求	
平成3年4月25日 補助金入金	平成3年5月23日 補助金入金	平成3年4月26日 委託金入金	

平成3年3月25日、本報告書を刊行してすべての調査を終了した。

第2節　調査の方法

遺跡名は長野県教育委員会作成の遺跡台帳に記載されている名称『林之郷遺跡』『八千原遺跡』とした。また、記録の便宜を図るため、遺跡記号としてHAYASHI－NO－GOUのHNG、YA－CHI－HARAのYCHを組み合わせて与えた。各種の記録や遺物の注記等はこの記号を用いている。さらに、各地区にアルファベット順に地区名を与え、例えばA地区の地区記号はYCH－Aとした。なお、林之郷遺跡のA地区からC地区の調査は昭和63年度に行われ、本報告はE地区のものである。D地区の調査は諸般の事情で行わなかった。

この調査地区の設定については、予め試掘ピットを掘り、おおよその範囲は把握してしたものの、ピットの密度が極めて粗かったため、本発掘に際しては改めてトレンチ調査を行い、遺跡の性格と土層の把握をし、併せて面的調査の範囲＝調査区の設定を行った。

面的調査については、表土、耕作土の排除はすべてバックホーを用い、その後の作業は人手によった。なお、面的調査に際しては、グリッドを設定し、遺物の取り上げ、遺構測量に利用した。このグリッド杭の設定については、国家座標のメッシュに従い、遺跡周辺の三角点の座標値から調査区南側に引っ張り、この点を基準点として30×30大グリッドを設定し、この中をさらに3×3のメッシュに区切って、グリッドを設定した。すなわち、大グリッド内に100の小グリッド

が設定される訳である。

なお、基準点の座標値はX＝43,590.000、Y＝－17,865.000であり、上田地区は国家座標第Ⅷ量系に属している。

第3節　調査日誌（抄）

平成元年

5月15日	晴　　れ	国分寺資料館から発掘機材を現地へ搬入。テント設営。
5月16日	晴れ後曇	林之郷遺跡に重機による試掘トレンチを設定し、平面調査区を決定する。
5月19日	曇後雨	林之郷遺跡表土剥ぎ・遺構検出作業・グリッド設定（3m×3m）
6月6日	曇時時晴	八千原遺跡重機による試掘トレンチを設定。林之郷遺跡遺構検出作業・遺構掘上げ作業。
6月12日	晴　　れ	八千原遺跡試掘調査により調査区設定。
6月20日	雲時時晴れ	八千原遺跡表土剥ぎ開始。作業員を2組に分け、林之郷遺跡と八千原遺跡の調査を並行して行う。
6月26日	晴　　れ	林之郷遺跡、八千原遺跡の調査を平行して行う。
6月30日	雲　　り	作業員の班の編成。（5班）八千原遺跡遺構検出作業開始。
7月5日	晴　　れ	豊殿小学校の先生方見学。
7月15日	晴　　れ	林之郷遺跡SB－23遺構掘上げ開始。
7月20日	晴　　れ	テントを八千原遺跡の調査地区付近に移動。
7月25日	晴　　れ	林之郷遺跡SB－23とSB－11の平面実測を専門業者に委託し、写真測量を行う。
8月3日	雲　　り	国分寺資料館夏休み考古学教室で小学生来訪、遺物収集を行う。
8月4日	曇時時晴れ	林之郷遺跡遺構の平面実測を専門業者のドットマップシステムにより開始する。八千原遺跡調査区をA地区B地区に分ける。
8月18日	曇時時晴れ	八千原遺跡敷石住居等の確認からB地区に東側に拡張。
9月6日	曇後雨	林之郷遺跡の調査ほぼ終了。
9月7日	雲時時雨	八千原遺跡B地区の北側に調査区を設定し、C地区とする。
9月21日	曇　　り	八千原遺跡のC地区遺構検出開始。
10月5日	晴　　れ	八千原遺跡A地区調査ほぼ終了。担当職員及びほ場整備実行委員会の協議により、調査期限を15日延長することに決定。
10月13日	晴　　れ	作業員増員。
10月19日	雨	望月町教育委員会学芸員の福島邦男氏を招いて指導を仰ぐ。
10月30日	晴　　れ	航空測量による遺構実測のための写真撮影の準備。
10月31日	雲後雨	午前11：00航空測量による遺構実測。八千原遺跡A地区からC地区の遺構実測。
11月1日	晴　　れ	発掘調査終了・機材撤収・テントも外す。

この後、清明小学校内埋蔵文化財整理室において平成2年度まで整理・報告書作成作業を実施し、平成3年3月25日、調査報告書を刊行してすべての調査を終了した。

第二章　遺跡の環境

第１節　自然的環境

林之郷遺跡Ｅ地区および八千原遺跡の位置する地域は、地形的に見ると大きくは千曲川右岸に展開する上田盆地の東側にあたる。ここはとくに上田盆地の北東部にそびえる四阿山（2332m）に源をもつ神川によって形成された一大扇状地形を呈した地域である。神川左岸の神川扇状地では、第１段丘面・第２段丘・第３段丘面及び赤坂集落の谷口扇状地などから構成されている。第１段丘面では標高約580mの大口ノ木集落付近を頂点として半径4kmの規模で南に広がり、その先端部は500m の等高線をもって段丘崖として終わっている。またこの押出しが第２段丘にも及び、新しい扇状地をつくっている。現在の神川は回春して下刻し、この面よりかなり低いところを流れているが、長い年月のうちに流路が次第に西に偏したため、このように南北方向に見事な三段の段丘を形成しているといえるのである。

第１段丘面は現河床面より約20～30mの比高をもち、森・大口ノ木・小井田・町吉田などの各集落が立地する広い面で、通称吉田面と呼ばれている。この面の地質は神川の運んだ厚い砂礫層からなり、地表面は1～2mほどの厚さを持つローム層に覆われている。古くから周辺の神明川や瀬沢川から、この面に水を取り入れたり、また吉田堰（産女堰）の開削などによる開拓が行われたため、現在立派な水田地帯となっている。しかし、昭和62年度この面の大字芳田字訳口上に所在する訳口上遺跡の発掘調査を実施した地域では、水便の悪さのため、下流の水田地帯へ田用水を公平に配分する用水堰の分配施設としての『訳口』が字名になったと見られ、水に苦心をしたかつての歴史を見た。近年この面の段丘崖に沿って、桜台・みすず台・などの住宅団地もでき、また浅間山麓広域農道などの開通に伴って、様相が一変しつつある。

第２段丘面は今回発掘調査を実施した林之郷遺跡Ｅ地区および八千原遺跡の位置する面で、第１段丘より約10～12m低く形成されている。この面も比較的広く林之郷や上青木など五つの集落があり、林之郷面と呼ばれている。地質も第１段丘面と比べて、あまりローム質の強くない上層で比較的通水性もよく、またいくつかの用水堰に恵まれているため、現在同様に広い水田地帯になっている。この面もまた宅地化の波が押し寄せてきていることもいなめない。林之郷集落周辺では、住宅のある部分がやや高い微高地となっており、集落東側即ち第１段丘崖下で低くなる。いわゆる後背湿地の様相を呈していることがわかる。遺跡の主体部は、したがってこの若干高い部分の集落の中で、さらに一帯に広がっていることが分布調査で確認されている。また、第３段丘面は全体的には神川氾濫原としての比較的狭い平坦面としてとらえられている。この段丘面に包括されている久保林集落のあるところは、2～3m 高い微段丘を形成して安全な平坦地となっている。

第2図　林之郷遺跡の周辺遺跡分布図

番号	遺跡名	時代	備考	番号	遺跡名	時代	備考
2	石矢遺跡	縄弥平		30	荒神田遺跡	平	1987年度調査
3	赤坂将軍塚古墳	古	市指定史跡	31	沢口上遺跡	奈～平	
4	托田遺跡	縄・平		32	中吉田遺跡	縄弥平	
5	北屋敷遺跡	縄・平		33	今井遺跡	平	
6	城山遺跡	縄		34	いなご坂遺跡	縄	
7	上組遺跡	平		35	吉田原古墳群	古	
8	矢沢古墳	古		39	中道遺跡	縄・弥	
9	宿組遺跡	平		40	上野東遺跡	縄	
10	平沢遺跡	平		41	陣馬塚古墳	古	
11	下左口遺跡	縄		42	玄馬塚古墳	古	
12	下樋口遺跡	平		43	熱泰寺古墳	古	
13	石坪遺跡	弥		44	熱泰寺遺跡	縄	
14	神林遺跡	縄弥平		45	七ツ塚古墳群	古	市指定史跡
15	下郷古墳群	古		46	塚田塚古墳	古	
16	大日の木古墳	古		47	野竹塚古墳	古	
17	大日の木遺跡	縄弥平		48	篠井久保遺跡	弥・平	
18	北の平遺跡	平		49	笹井塚古墳	古	
19、20	八千原・堂下遺跡	縄～平		50	掛の宮遺跡	縄・古	
21	太田遺跡	平		51	掛の宮古墳	古	
22	柴崎古墳	古		52	染屋台条里水田遺跡	弥～平	'84, '85 調査
23	井戸田遺跡	縄弥平		54	国分遺跡群	弥～平	
24	尾無遺跡	縄・平		56	国分周辺遺跡群	縄～平	
25	林之郷遺跡	縄～平	'88一部調査	398	氷沢古墳群	古	
26	日ノ井古墳	古		399	氷沢遺跡	縄・平	
27	高寺古墳群	古		407	矢沢氏支城跡	近	
28	生地場古墳	古		410	伊勢崎城跡	近	
29	中村Ⅱ遺跡	縄		412	岩門城跡	近	

第1表　周辺遺跡一覧表

この面は久保林面と呼ばれているところであるが、やはり近年宅地かが急速に進化しており、かつての景観が変貌している。

一方、神川右岸の染屋面では25m内外の急崖となっており、僅かにベンチ状に第2・第3段丘が形成されているだけである。これは前述の通り、神川の流路が下刻と同時に漸次西偏したため、東側の左岸では見事な段丘となるのに対して、右岸では浸蝕され段丘が形成されにくいといえる。

第2節　歴史的環境

上田市域の東側にあたる一帯の歴史的環境を見てみると、とくに考古学的遺跡で烏帽子岳西南麓に分布する遺跡として把握され、各段丘からは縄文期から奈良・平安時代に属すいくつかの遺物・遺構が確認されている。

今回調査を実施した第2段丘面の考古遺跡から概観すると、まず一連の林之郷遺跡群の中に包括される遺跡としては、蒼久保・林之郷・漆戸地籍にまたがる茅御堂・坂田・貝戸・池田・狐塚・松ノ木・下ノ畑などの各遺跡がある。また、この遺跡群の北側には林之郷地籍の太田、漆戸地籍の八千原・堂下・北の平などの遺跡があり、南側では蒼久保地籍の中村Ⅱ遺跡が分布調査等によって確認されている。このうちとくに太田・茅御堂の両遺跡は、昭和49年広域農道開削に伴う事前の発掘調査が行われ、太田遺跡からは古墳時代鬼高期の住居祉4軒、同期の高床状遺構、また平安時代国分期の住居址4軒とこれらに伴う豊富な遺物を検出した。また茅御堂遺跡からも古墳時代五領期・和泉期・鬼高期の各住居址及び集石遺構・竪穴遺構とそれぞれに伴う遺物が検出され、この地域の様相がかなり明らかにされたのである。また、林之郷堂下遺跡からは縄文中期加曽利E式土器・後期の堀之内式土器片・打製石斧・石棒・土偶さらに弥生後期の箱清水式土器片、土師などが発見され、北ノ平遺跡からは若干の後半期の土師器が採集された。古墳は遺跡群の中の南側、蒼久保字中村に高寺古墳1・2・3・号墳が、およそ30m前後の間隔で南北に並んでいる。いずれもほとんど破壊された古墳で、正確な規模は不明であるが、3号墳の残存状態等から直径約5・高さ約1mほどの比較的小規模な終末期古墳と見られる。同様な規模の生地場古墳が高寺古墳の僅か西南部の墓地内にある。また、林之郷字塚田の段丘端部にも口ノ井古墳がある。この古墳も墓地内にあり、墳丘が破壊され石室が露出しているが、直径約9mほどの円墳とみられる。なお、対岸の第2段丘面にあたる笹井地籍にも、笹井塚古墳・掛ノ宮塚古墳また第1段丘面の社宮寺古墳等の小規模な終末期古墳があり注意される。このうち特に笹井塚古墳からは、かつて直刀2本と刀子などが発見されている。

第1段丘面では、小井田集落を中心として縄文中期加曽利E式土器・石鏃・打製石斧・凹石・砥石、弥生後期箱清水式土器及土師器・須恵器など豊富な遺物を出土する井戸田遺跡、縄文中期土器・土師器などを出土する尾無遺跡、平安期と見られる土師器を出土する戒田遺跡などがある。また中吉田集落一帯に広がる中吉田遺跡群は、この面における最も豊富な資料を提供している遺跡

として知られる。この遺跡群の中心は次郎淵と無量寺の両遺跡で、前者からは縄文中期勝坂式土器片、弥生後期箱清水式土器片、土師器・須恵器などが採集され、さらに子持勾玉も検出されており、注意される遺跡である。後者からは縄文中期加曽利E式土器、弥生後期土器、土師器・須恵器が採集されている。ここからは加曽利E期に比定される台付有孔鍔付土器も発見されており、本遺跡も特に注意されている。

さらにこの遺跡群の西側に、いずれも後半期の土師器・須恵器を出土する荒神田遺跡、訳口上遺跡、今井遺跡が確認されている。このうち、昨年調査を実施した訳口上遺跡からは、奈良時代前半と見られる竈を伴う住居祉や溝址・土壙・ピットなどの遺構が検出された。また、この段丘面の古墳分布を見ると、南側段丘崖のみすず台団地のほぼ中央にある下肴木吉田原古墳が現存するのみである。この古墳の墳丘は東西15m、南北13m、高さ4mの円墳で、石室内部は玄室と羨道の区分が明確ないわゆる両袖式で、石室の総長6.6mを計る横穴式石室を持っており、市指定史跡となっている。このほか周辺には、旗鉾塚古墳・寺沢古墳・尾無古墳など、古墳時代後期に属すいくつかの古墳がかつて存在したが、団地の造成等で破壊されてしまった。このうち、尾無古墳からは直刀・鉄鏃などが出土したという記録がある。このように、神川扇状地周辺にはいくつかの考古遺跡が存在していることが知られ、林之郷遺跡E地区および八千原遺跡はこうした考古的環境のなかにあるのである。

第3節　基本的層序

林之郷遺跡E地区、八千原遺跡A～C地区の基本的な土層は第1図・第2図に示したとおりである。

林之郷遺跡E地区の土層は第1図に示し以下の通りである。

Ia　水田耕作土

Ib　水田耕作土

II　鉄分を含む溶脱層

III　黒褐色土層

IV　黄茶褐色土層

V　黄茶褐色土層（人頭大～拳大の石含む）

なお、遺物包含層は第III層で、遺構は第IV層において確認された。

八千原遺跡A～C地区の土層は第2図に示し以下の通りである。

I　水田耕作土

II　鉄分を含む溶脱層

III　茶褐色土層

IV　黒褐色土層

Ⅴ　暗茶褐色土層（1cm～10cmの礫を含む）

Ⅵ　明茶褐色土層

Ⅶ　茶灰色土層

A地区からC地区は水田造成時に削平や盛土が行われており、それぞれ田面の標高は30cm ～90cm の段差がある。特にA地区は大きく削平されていた。したがってA地区からC地区の土層はやや異なる部分がある。A地区の場合Ⅳ層が遺物包含層で、Ⅵ層において遺構を確認し、B地区・C地区はⅤ層において遺構を確認した。

第三章　林之郷遺跡の調査

第1節　概　　要

林之郷遺跡は上田市の東部、殿城地区の大字上青木から林之郷、漆戸の神川の第2段丘上に広がる遺跡で、正確には、いくつかの遺跡が集まる遺跡群といえる。1988年（昭和63年）にはこの内の林之郷地区の調査を行い、平安時代の集落址を検出している。

今回調査したのは、さらに北によった大字漆戸字茅御堂である。当地は、昭和49年の浅間山麓広域農道の工事にともない調査された、『茅御堂遺跡』と同一の遺跡であるが、呼称は『林之郷遺跡E地区』とした。調査区は神川第2段丘ほぼ中央の、微段丘上に展開しているもので、調査区の東西はいずれも湿地の、いわゆる「ヤチ」の様相を呈している。このため、遺構の出方も調査区の西寄りに偏しており、また、東寄りは礫混じりあるいは泥炭に近い遺物包含層を呈している。

調査の結果、竪穴住居址25軒、掘立柱建物址1件、土壙34件、が検出された。概ね、弥生時代末から古墳時代にかけての集落址である。

弥生時代後期からの遺構としては第27号住居址があげられる。本址は調査区の南東隅に検出され、平面形態はほぼ隅丸方形を呈し、床面中央には3方を石で囲い、底部を欠いた甕を置く炉が検出されたほか、壁際の四周を周溝が巡いている。また、住居のものと思われる炭化材も検出された。出土遺物は、高坏、甕、台付甕、甑があり、箱清水期の様相を呈している。

この第27号住居址の他はいずれも古墳時代の住居址である。中でも23号住居址は焼失家屋と思われ、大量の炭化材と共に良好な土器セットが検出された。本住居址は東壁に竈を設け、竈内には甕が2個体並立して出土している。そして、左の甕の下には燃焼効率を高めるため、支柱の代わりに高坏を倒置した状態で置いてあった。竈右側には坏・高坏・小型の甑および底部を欠いた甕が、左側には大型の甑・甕・壺が、おそらく往時のままの状態で発見された。遺物から、古墳時代後期に属すると思われるが、須恵器は蓋が1点出土したのみである。この事は本遺跡全般に特徴的なことであるが、須恵器出現以後の時代に属する遺構が多くありながら、須恵器の出土が極めて少ないことである。今後の研究を待ちたい。

23号住居址のほか、焼失家屋は、11号、12号住居址でも見られる。11号住居址は、調査区のほぼ中央に検出された。床面四周を周溝が巡き、4本主柱のピットと石組竈、貯蔵穴というきわめて典型的な住居のパターンを示している。また、煙道の穴も検出された。出土遺物は坏・小型甕・甕等があり、古墳時代後期に属する。12号住居址は調査区南西隅に7号住居址を切って検出された。川原石を芯に用いた竈を西壁中央に有し、焚口には厚手の天井石が検出された。出土遺物は、坏・高坏・小型丸底土器・甑等があり、古墳時代後期初頭の様相を呈する。

第6号住居址は27号住居址に続く、古墳時代前期の住居址である。出土遺物は、脚部に孔を穿った高坏・台付甕・緩いS字状口縁の壺・肩部に横位の刷毛目とこれをT字状に切る刷毛目を有する壺、そして有段口縁の大型の壺や器台と小型丸底土器などである。覆土が浅かったため、若干時期の異なる遺物の混入も見られる。

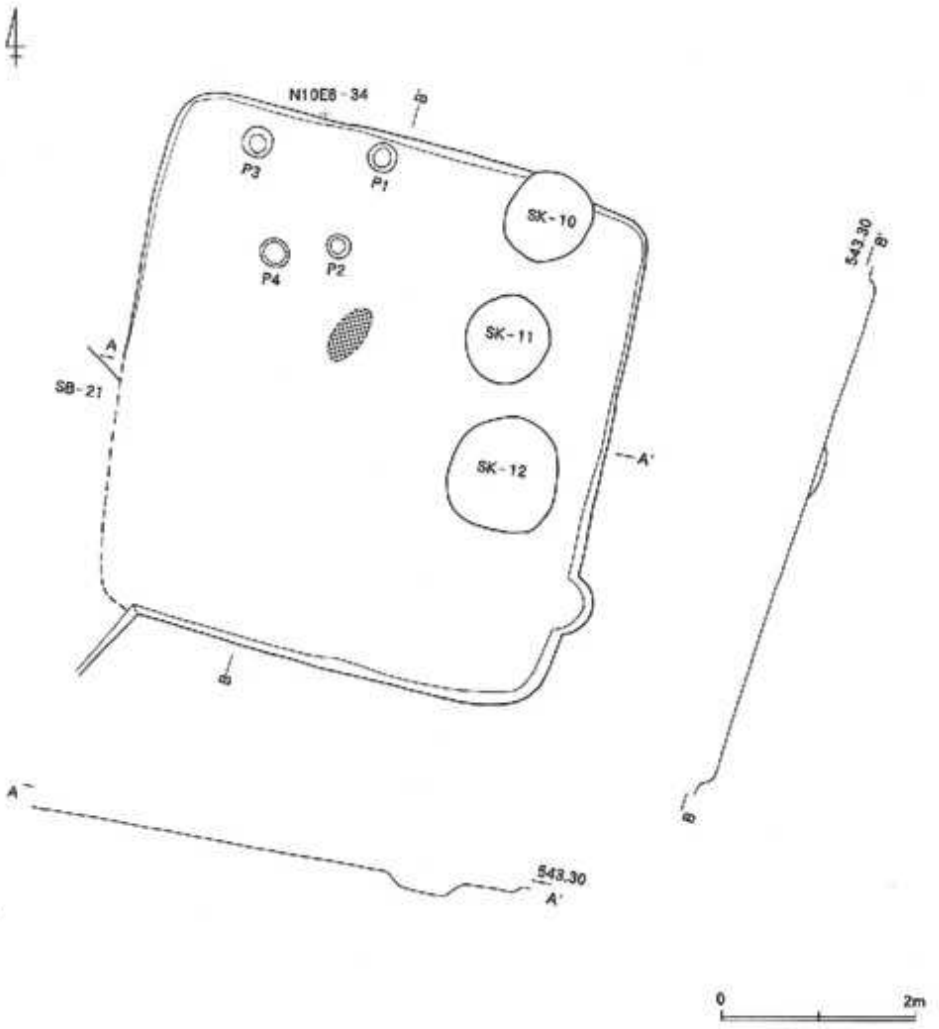
第5号住居址と第19号住居址は本遺跡の中で最大の住居址である。第5号住居址は調査区の北側で第1号住居址の南側に検出され、平面形態は隅丸方形を呈し、一辺8mほどの大型の住居で、西側の壁のほぼ中央に石組竈が僅かに確認された。竈の左袖は壊滅し、右袖は石組とその下部を支える構築土が僅かに残って検出された。また、床には周溝が南壁側と西壁側の一部を除き、ほぼ一周して巡っている。出土遺物は高坏・坏・甕・甑・長頸壺等があり、坏は体部中央で屈曲するものや、内面に屈折のあるもの、屈曲がなく内湾するもの等がある。やや覆土が少なかったため、遺物の混在もみられるが、おおむね古墳時代終末期に該当しようかと思われる。19号住居址は調査区の西に、9号住居址及び20号住居址を切って検出された。一辺7mほどの住居の西壁中央に20cm 前後の石を芯とした竈を設け、支脚石はやや丸みを帯びている。出土遺物は、口縁端部を短く外反し、あるいは内傾する丸底の坏、頸部が「くの字」状に外反する甕、さらに土鈴もあり、概ね古墳時代後期前葉に属すると思われる。

この他、縄文期の埋甕が数点検出されているが、中でも第33号土壙からは当地でも出土例の少ない称明寺期のほぼ完形の甕が出土し、これとほぼ同一のデザインを持つ遺物が佐久地方で出土している。

ピットも多数検出されているが、これによって構成される掘立柱建物址は1件確認できたのみである。

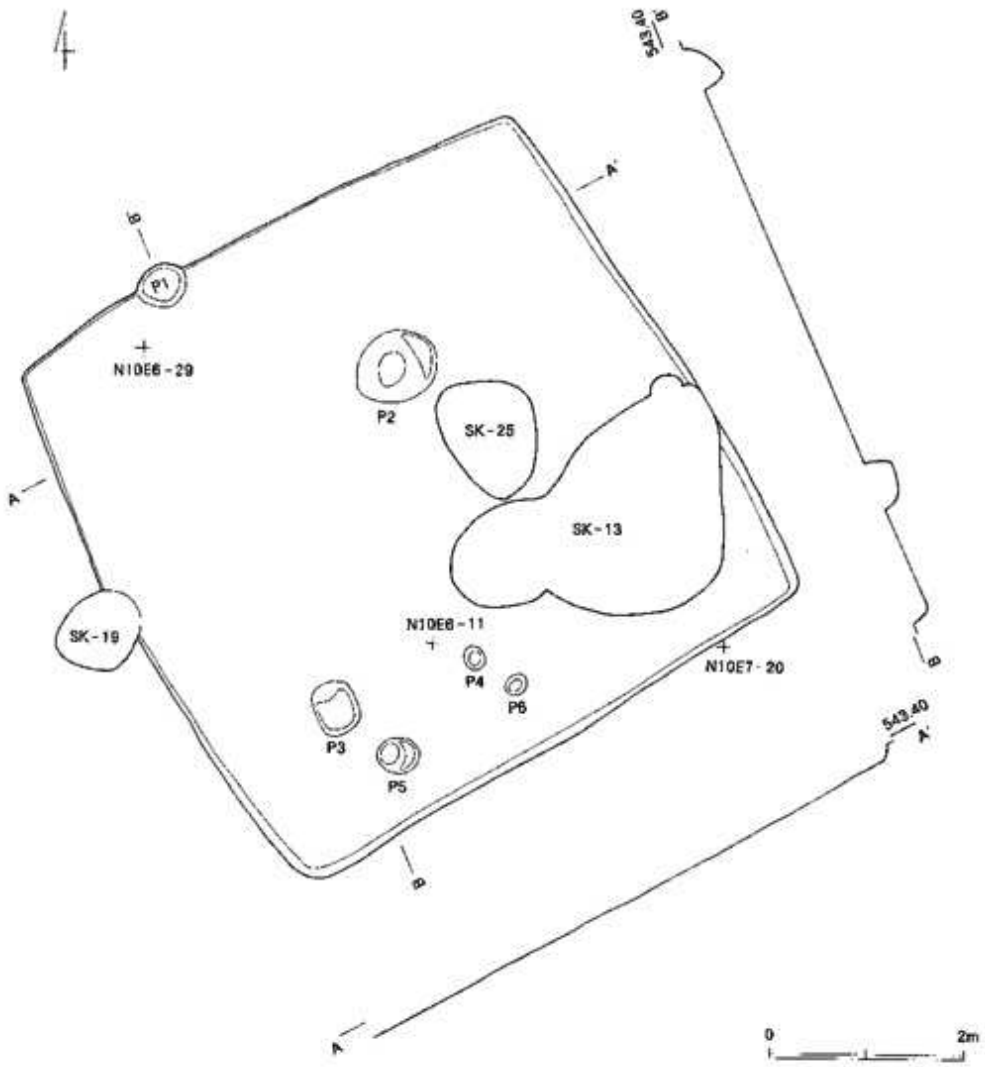
総じて当遺跡は弥生時代末から古墳時代にかけて展開された集落で、遺存状態は良好な状態であった。当書における報告はその中から代表的なものを抽出しているが、今後の調査研究により、該期の研究に良好な資料を提供でき得る遺跡であった。

第2節　検出された遺構



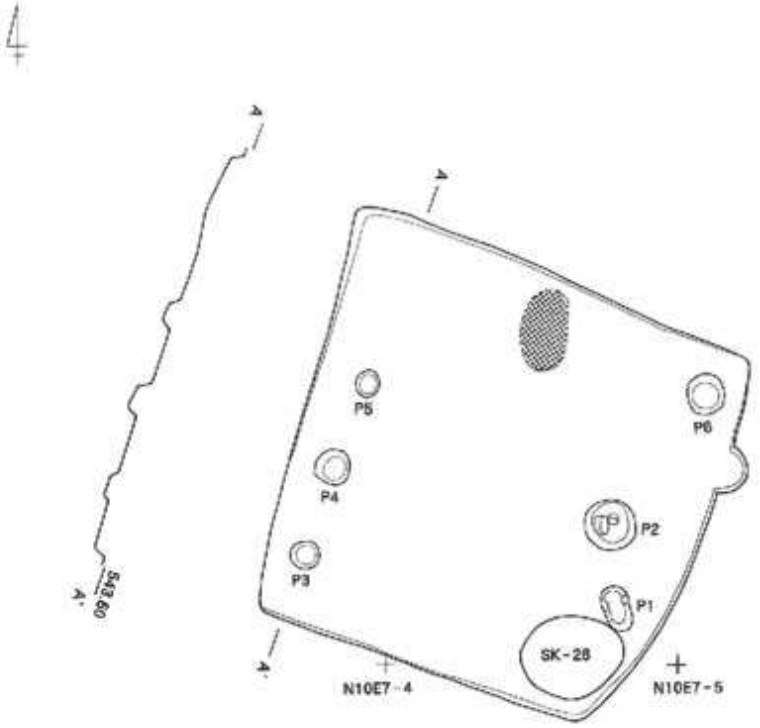
遺構番号 遺構図版 遺物図版	1号住居址 第3図 第54.55図	位置 (グリット)	N10E6－13、27、28、32、33、34、47	平面形態 主軸方位 規模	N－12°－E 隅丸方形 5.40×5.10	壁高 床高	(N) 0.1 542.85～543.3
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.30×0.31×0.04）P2（0.25×0.25×0.06） P3（0.30×0.31×0.09）P4（0.32×0.32×0.53）				覆土		I 黒褐色土
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	21号住居址を切り、10、11、12、号土壙に切られる。						

第3図　林之郷遺跡E地区第1号住居実測図



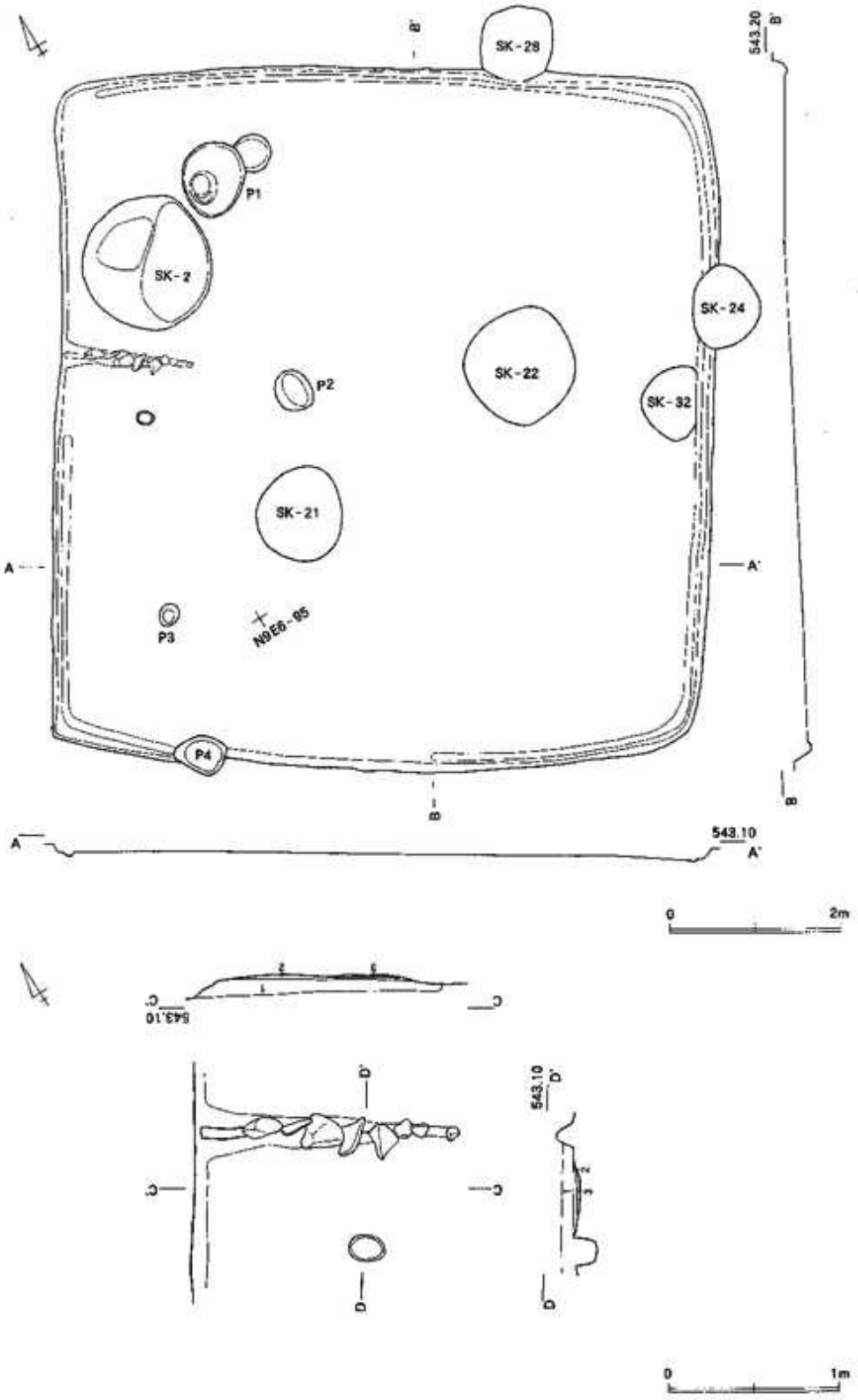
遺構番号 遺構図版 遺物図版	2号住居址 第4図 第56、57図	位置 (グリット)	N10E5－11、29、30、31、32 N10E7－20、21、22、40	平面形態 主軸方位 規模	隅丸方形 N－25°－E 6.10×6.30	壁高 床高	(E) 0.21 543.14～543.19
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.45×0.53×0.27) P2 (0.72×0.90×0.54) P3 (0.57×0.44×0.18) P4 (0.26×0.21×0.57) P5 (0.39×0.46×0.13) P6 (0.22×0.23×0.84)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×焚口幅）		覆土 備考				
備考	備考13、19、25号土壙に切られる。						

第4図　林之郷遺跡E地区第2号住居実測図

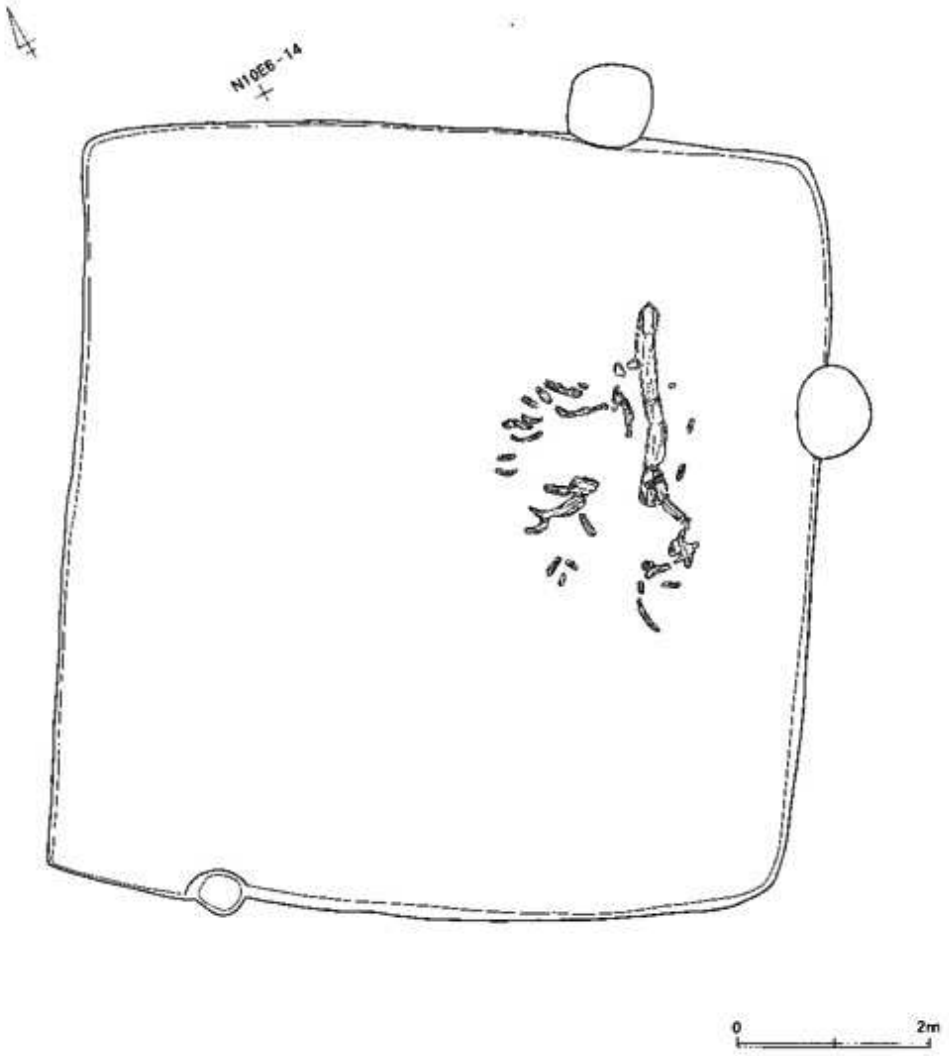


遺構番号 遺構図版 遺物図版	3号住居址 第5図 第58～60図	位置 (グリット)	N10E7－5、15、16、17、24、25、26	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－20°－E 4.30×4.30	壁高 床高	(W) 0.14 543.32～543.40
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.48×0.26×0.42) P2 (0.53×0.54×0.19) P3 (0.29×0.30×0.56) P4 (0.37×0.37×1.10) P5 (0.29×0.24×0.92) P6 (0.42×0.38×0.30)			覆土	Ⅰ黒褐色土		
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	備考26号土壙を切る。床面は凹凸がある。						

第5図　林之郷遺跡E地区第3号住居址実測図


SK-28
P1
SK-7
SK-24
SK-22
P2
SK-32
SK-21
P3
N9E6-95
P4
543.20
543.10
0
2m
543.10
543.10
0
1m

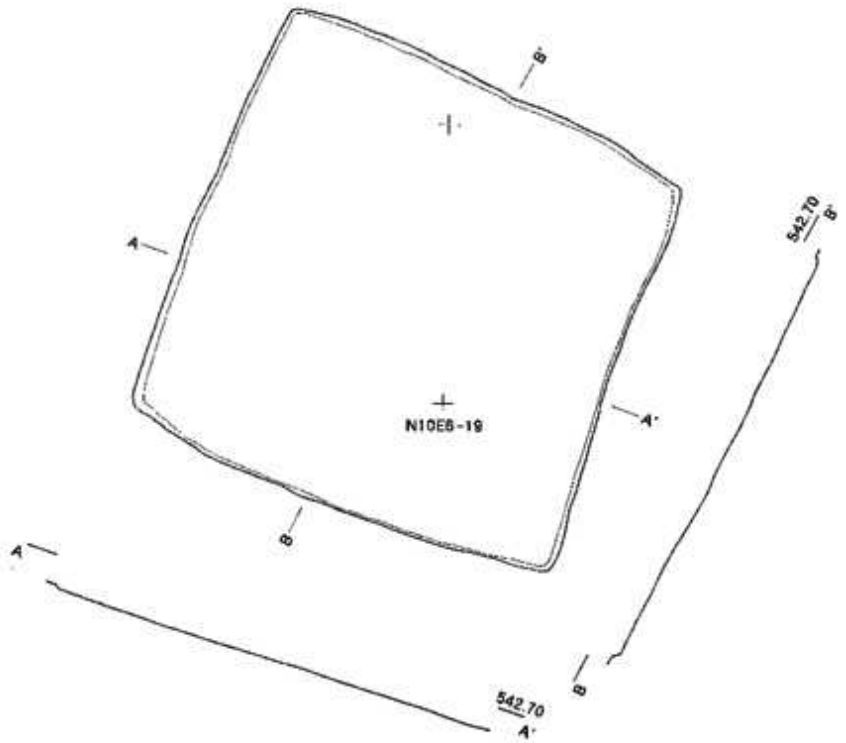
第6図 (1)



第6図 (2)

遺構番号 遺構図版 遺物図版	5号住居址 第6図 第61～66図	位置 (グリット)	N10E6－6、7、8、9、12、13、14、15、27 N10E6－87、88、92、93、94、95	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－45°－W 7.80×7.70	壁高 床高	(N) 0.13 542.9～543.0
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.80×1.15×0.50) P2 (0.50×0.43×0.40) P3 (0.27×0.21×0.10) P4 (0.45×0.60×0.16)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	西壁中央 N－45°－W 規模不明	覆土 備考				
備考	21、22、28、32号土壙に切られる。竈の左袖は壊滅しており、右袖は石とその下部を支える構築土が僅かに残存している。周溝は南側と西側の一部をのぞきほぼ一周している（北、南、東は幅0.07床からの深さ0.02西側は幅0.08床からの深さ0.02）。20号住居址を切る。						

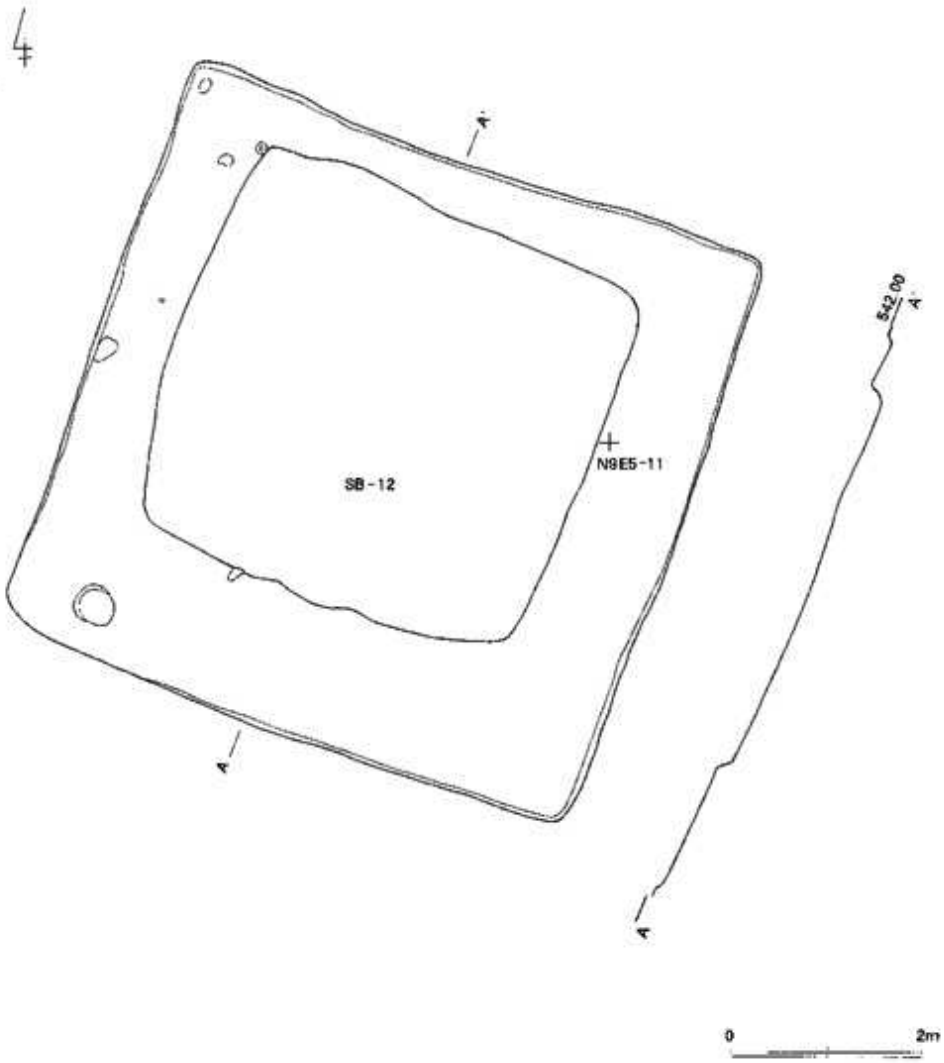
第6図　林之郷遺跡E地区第5号住居址、竈、炭化材状態実測図



遺構番号	6号住居址	位置（グリット）	N10E6－18、19、20、21、22、23、38、39	平面形態	隅丸方形	壁高	(W) 0.1
遺構図版	第7図			主軸方位	N－20°－E	床高	542.38～542.44
遺物図版	第67～71図			規模	4.70×4.60		

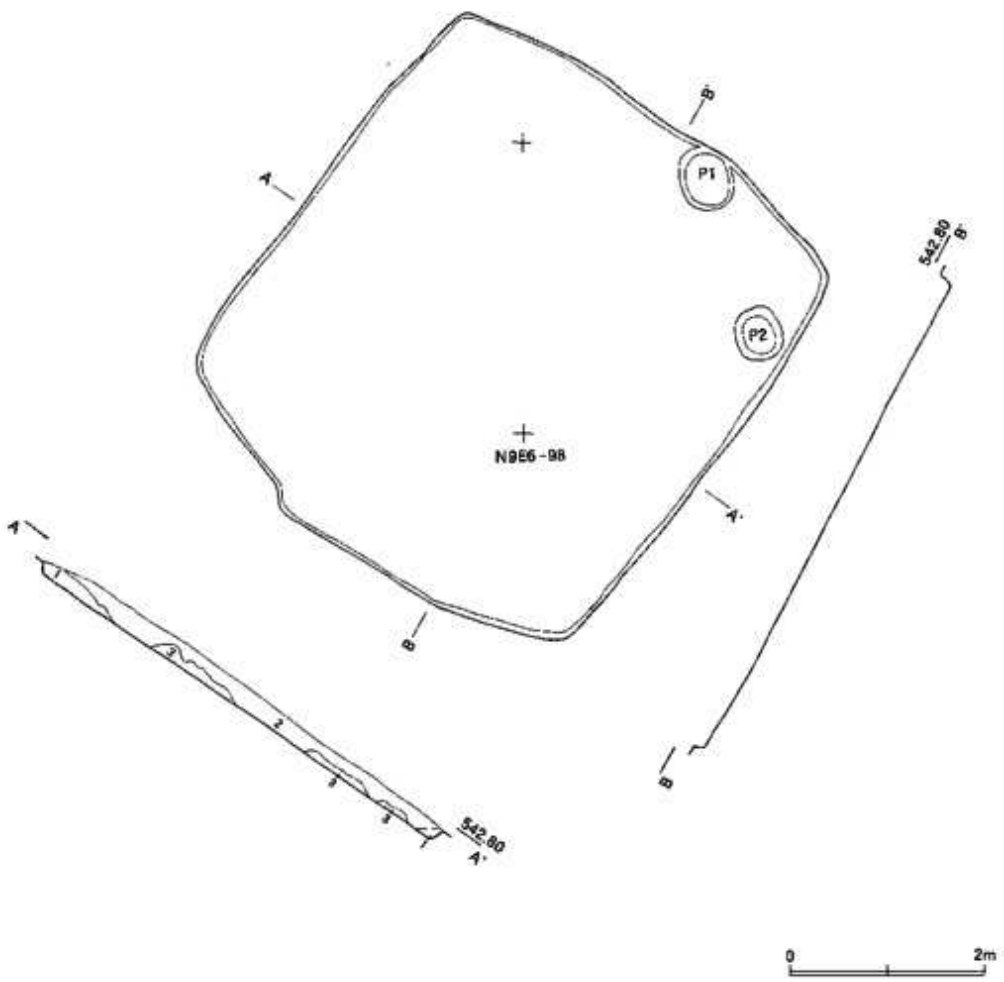
柱穴（長径×短径×深さ）		覆土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考
備考			

第7図　林之郷遺跡E地区第6号住居址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	7号住居址 第8図 第72図	位置 (グリット)	N9E5－9、10、11、12、13、29、30、31、32 N9E6－20、21	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－28°－E 6.20×6.30	壁高 床高	(N) 0.16 461.19～461.23
住穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	12号住居址に切られる。						

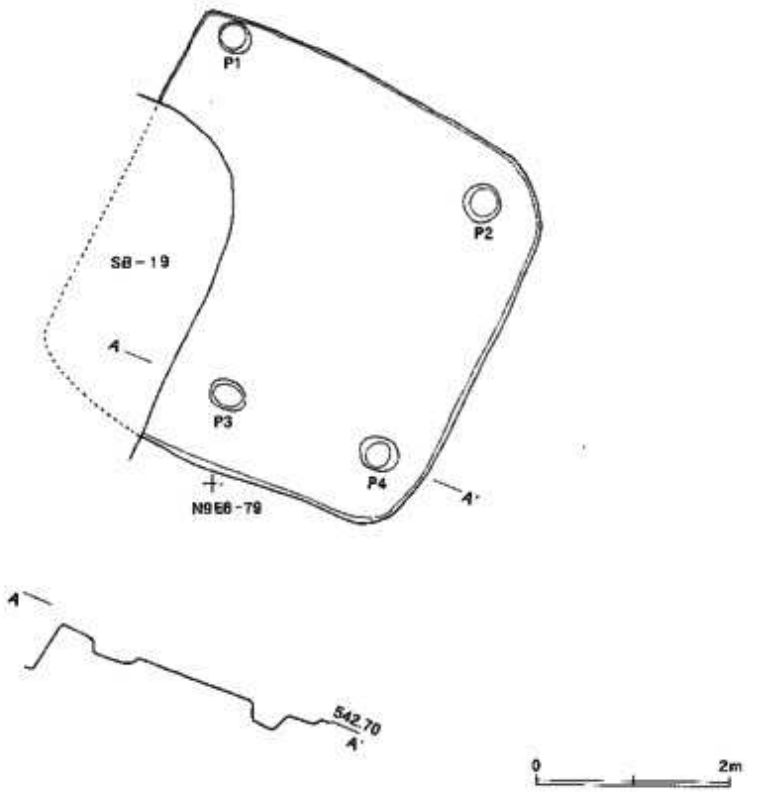
第8図　林之郷遺跡E地区第7号住居址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	8号住居址 第9図 第73図	位置 (グリット)	N9E6－97、98、99 N10E6－2、3、4、17、18	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－29°－E 5.50×4.90	壁高 床高	(E) 0.16 542.629~542.591
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.65×0.55×0.26) P2 (0.55×0.50×0.19)					覆土	1 茶褐色（黄色土ブロック状混入） 2 茶褐色（炭化物混入） 3 明茶褐色土（黄色土ブロック状混入）
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考							

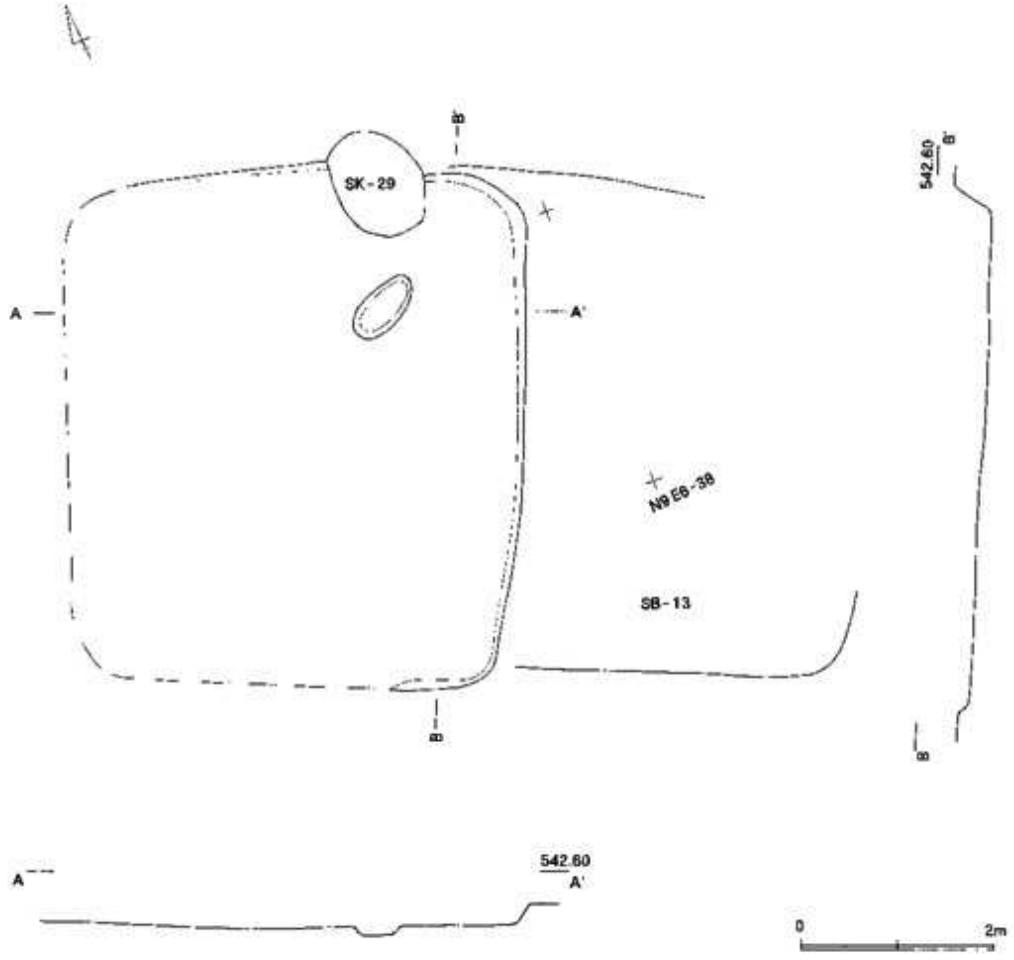
第9図　林之郷遺跡E地区第8号住居址実測図

4



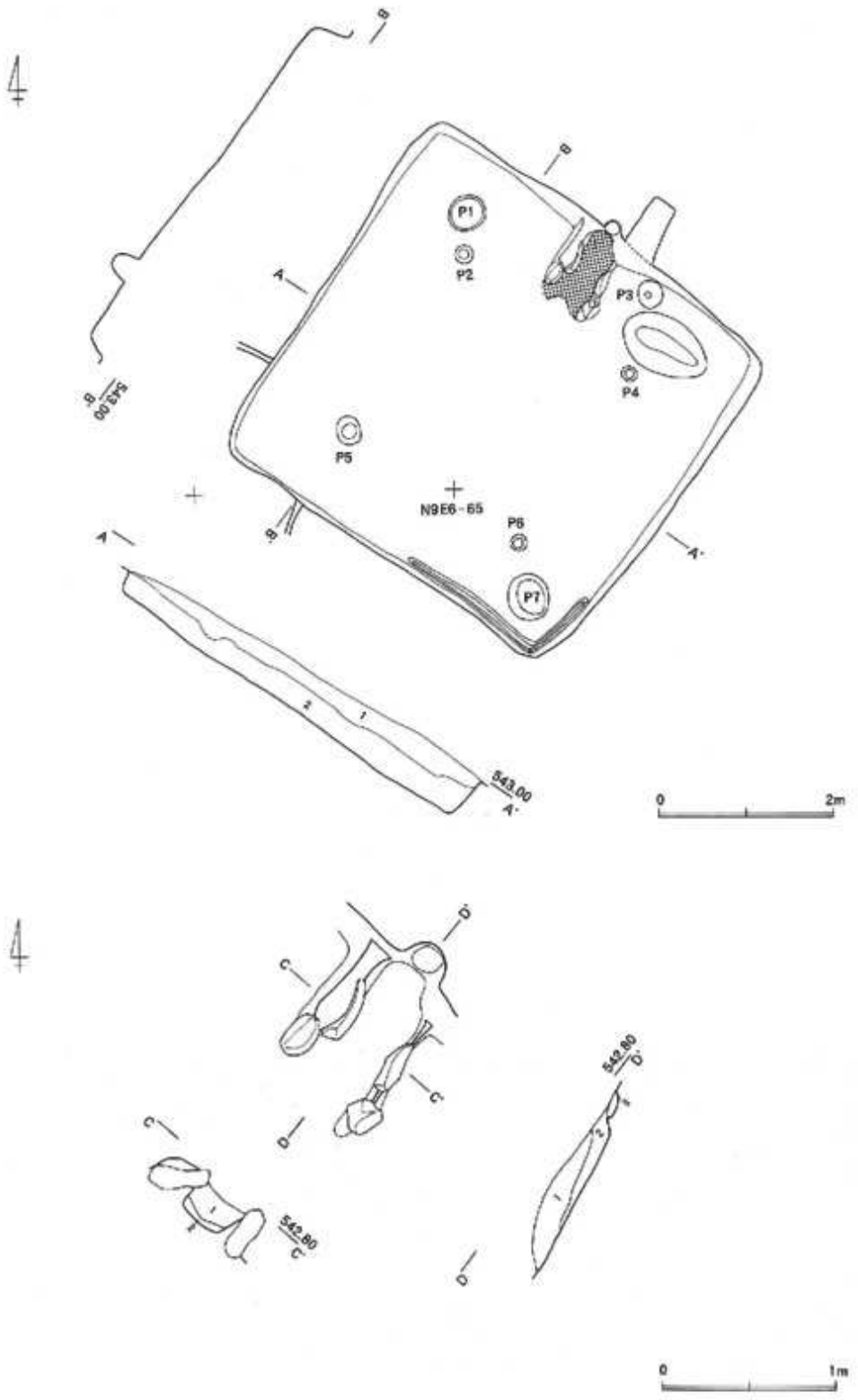
遺構番号 遺構図版 遺物図版	9号住居址 第10図 第74図	位置 (グリット)	N956－78、82、84、98、99	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－27°－E 4.40×4.25	壁高 床高	(E) 0.08 542.23~542.17
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土（砂質） 2 暗茶褐色土（黄色土ブロック状混入）
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	19号住居址に切られる。						

第10図　林之郷遺跡E地区第9号住居址実測図

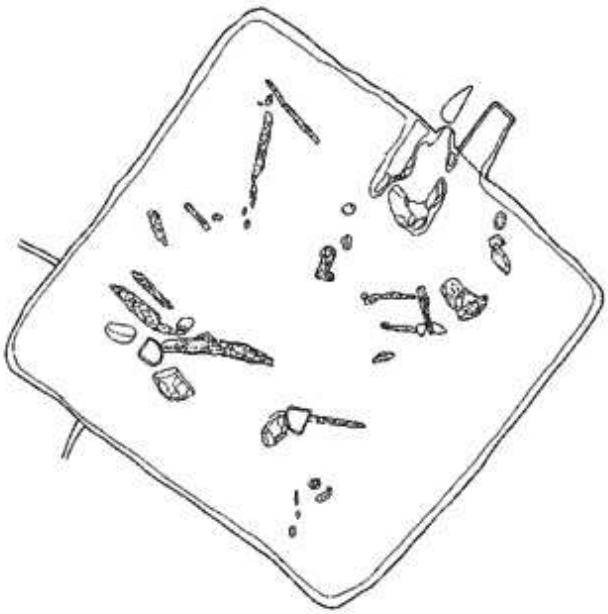


遺構番号 遺構図版 遺物図版	10号住居址 第11図 第75、76図	位置 (グリット)	N9E6－38、39、42、43、59、60	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 不明 5.36×4.66	壁高 床高	(E) 0.22 542.28～547.98
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	13号住居址を切る。						

第11図　林之郷遺跡E地区第10号住居址実測図


B
B'
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
N9E6-65
A
A'
543.00
543.00
A'
0
2m
C
C'
D
D'
542.80
542.80
C'
D'
0
1m

第12図（1）

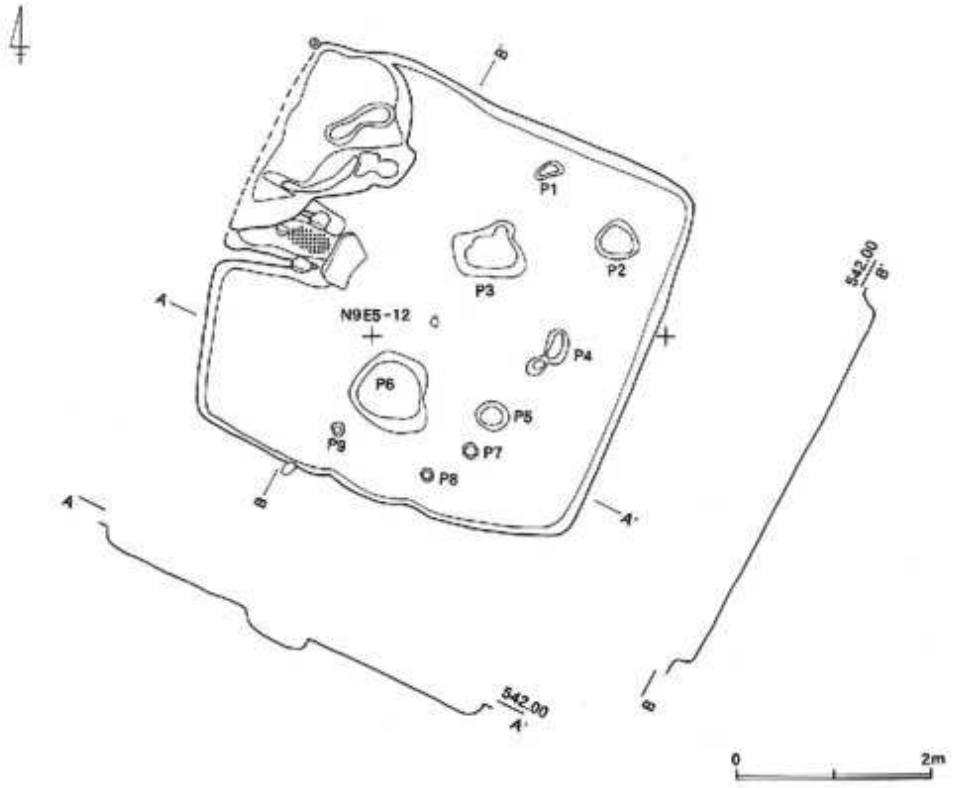


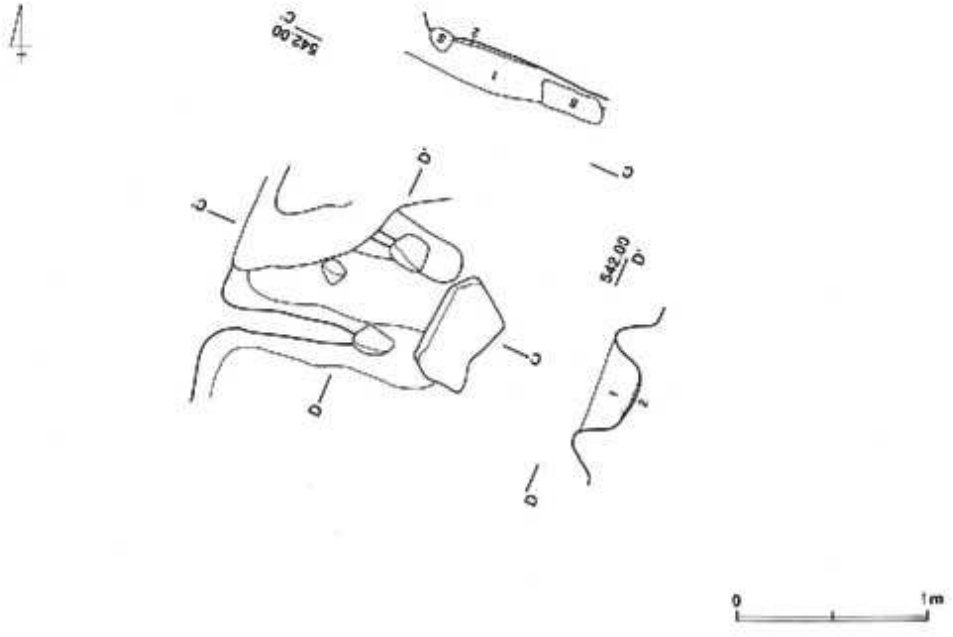
0 2m

第12図 (2)

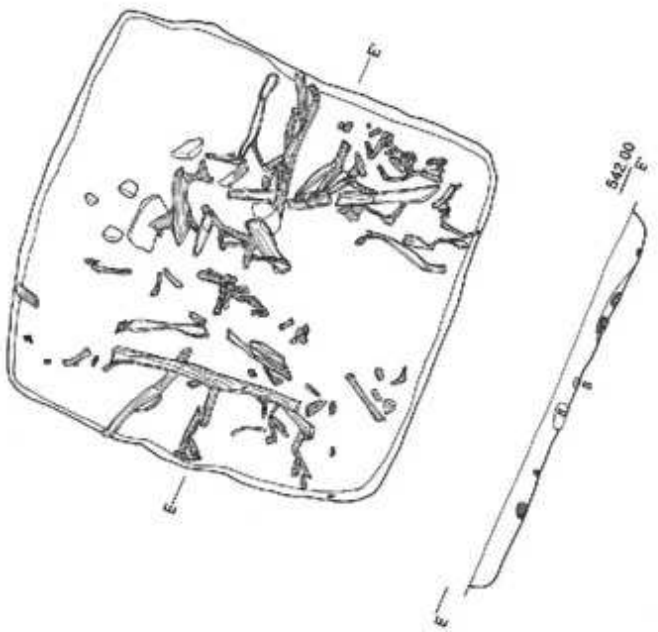
遺構番号 遺構図版 遺物図版	11号住居址 第12図 第77、78図	位置 (グリット)	N9E6－65、66、74、75、85、86	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－55°－E 4.6×4.8	壁高 床高	(E) 0.41 542.39~542.47
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.40×0.42×0.14) P2 (0.21×0.21×0.30) P3 (0.32×0.29×0.18) P4 (0.17×0.19×0.40) P5 (0.33×0.28×0.29) P6 (0.18×0.20×0.42) P7 (0.54×0.48×0.16)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	北東壁中央 N－55°－E (1.20×0.74)	覆土備考	1 黒褐色粘質土（焼土混入）2 赤褐色土　3 黒褐色土 右袖下部のみ残る　煙道部 (0.16×0.20)			
備考	貯蔵穴が住居西隅に設けられている（0.65m×1.02m床面からの深さ0.28m）。覆土1黒褐色土						

第12図　林之郷遺跡E地区第11号住居址、竈、炭化材出土状態実測図


B
P1
P2
P3
N9E5-12
P4
P6
P5
P9
P7
P8
A
A'
B'
542.00
A'
542.00
B'
0
2m


542.00
C
C
D
D
542.00
D'
D
0
1m

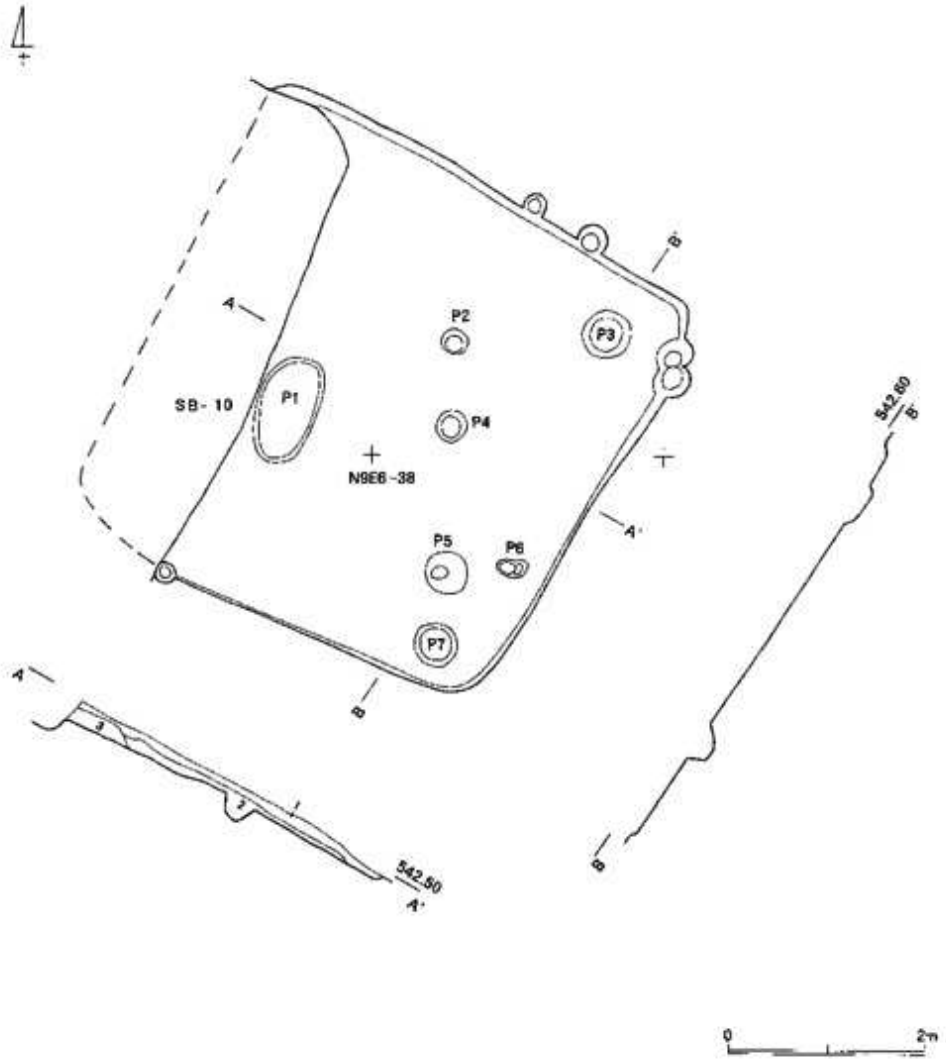
第13図（1）



第13図 (2)

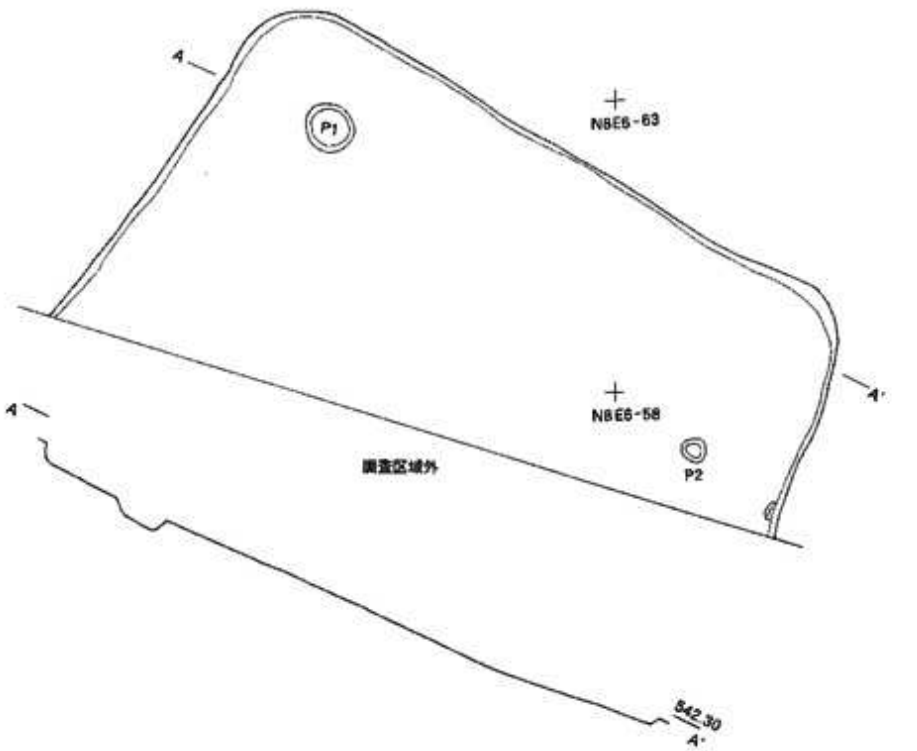
遺構番号 遺構図版 遺物図版	12号住居址 第13図 第79～81図	位置 (グリット)	N9E5－11、12、29、30 N9E6－21	平面形態 主軸方位 規模	隅丸方形 N－22°－E 4.40×4.20	壁高 床高	(W) 0.15 541.65～541.97
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.16×0.26×0.11) P2 (0.43×0.47×0.13) P3 (0.43×0.47×0.13) P4 (0.54×0.22×0.30) P5 (0.31×0.35×0.26) P6 (0.83×0.67×0.18) P7 (0.18×0.16×0.08) P8 (0.15×0.13×0.12) P9 (0.15×0.13×0.08)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	西壁中央 N－22°－E (1.10×0.14)	覆土備考	1 暗茶褐色土（黄色土ブロック状に混入） 2 暗赤褐色土（黄色土ブロック状に混入）			
備考	7号住居址を切る。						

第13図　林之郷遺跡E地区第12号住居址、竈、炭化材出土状態実測図



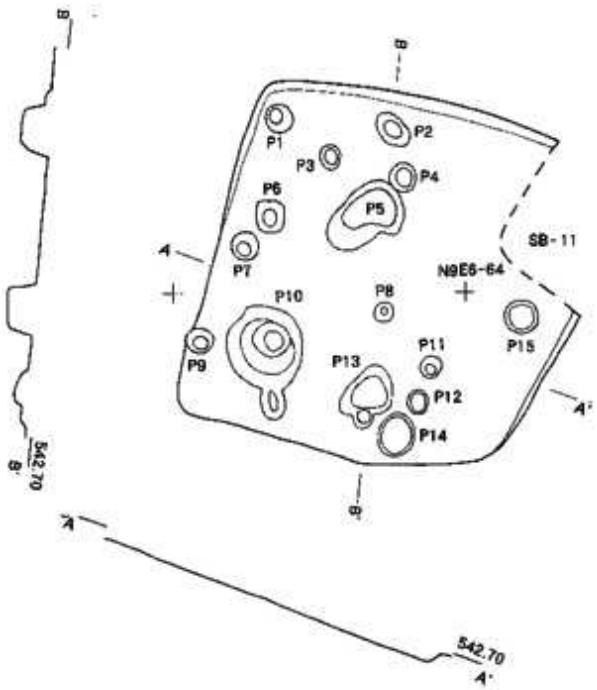
遺構番号 遺構図版 遺物図版	13号住居址 第14図 第82図	位置 (グリット)	N9E6－37、38、39、43、44、57、58	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－32°－E 4.80×3.70	壁高 床高	(N) 0.21 542.04~54258
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (1.10×0.60×0.05) P2 (0.25×0.28×0.09) P3 (0.50×0.50×0.09) P4 (0.31×0.30×0.20) P5 (0.43×0.43×0.16) P6 (0.16×0.30×0.10) P7 (0.47×0.45×0.30)				覆土	1 黒褐色土 2 黒褐色粘質土 3 明茶褐色粘質土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	10号住居址に切られる。						

第14図　林之郷遺跡E地区第13号住居址実測図



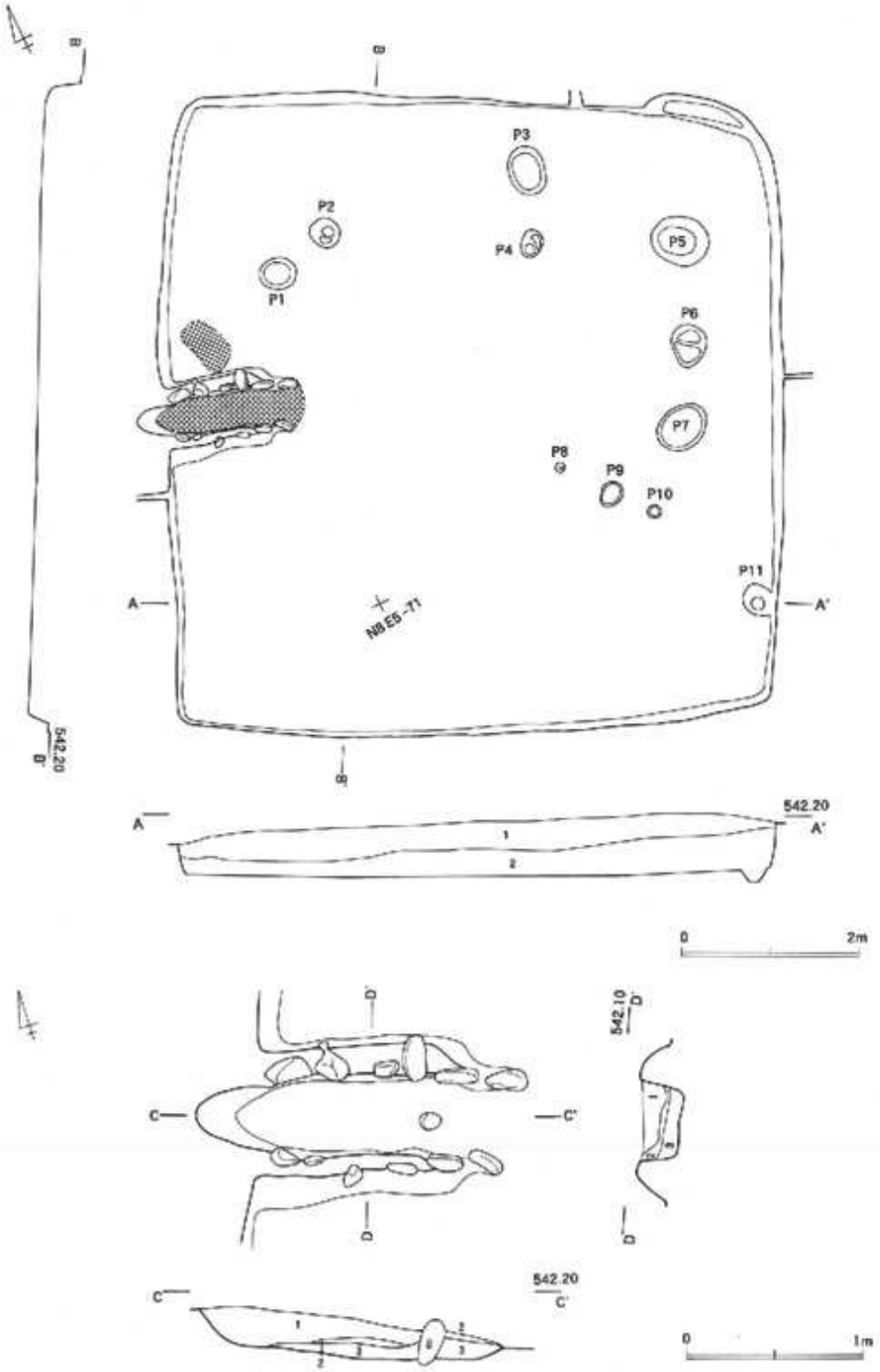
遺構番号 遺構図版 遺物図版	14号住居址 第15図 第83、84図	位置 (グリット)	N8E6－57、58、59、62、63、64、78、79	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－35°－E 3.4×6.9	壁高 床高	(N) 0.13 541.89~542.19
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.50×0.52×0.11）P2（0.25×0.25×0.03）					覆土	1 黒褐色土
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	住居址南側は調査区外である。						

第15図　林之郷遺跡E地区第14号住居址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	17号住居址 第16図	位置 (グリット)	N9E6－64、65、76、77	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－16°－E 3.80×3.60	壁高 床高	(E) 0.15 543.59~543.54
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.30×0.28×0.33) P2 (0.31×0.34×0.05) P3 (0.25×0.21×0.10) P4 (0.29×0.26×0.06) P5 (0.60×0.76×0.29) P6 (0.60×0.76×0.12) P7 (0.29×0.29×0.25) P8 (0.20×0.20×0.17) P9 (0.25×0.29×0.35) P10 (1.12×0.78×0.25) P11 (0.22×0.22×0.27) P12 (0.24×0.21×0.25) P13 (0.68×0.51×0.35) P14 (0.47×0.38×0.08) P15 (0.34×0.35×0.15)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	11号住居址に切られる。						

第16図　林之郷遺跡第17号住居址実測図


B
B
P3
P2
P4
P5
P1
P6
P7
P8
P9
P10
P11
A
A'
NB E5 -71
B'
542.20
B
A
542.20
A'
1
2
0
2m
D
542.10
D'
C
C'
D
542.20
C'
C
1
2
3
0
1m

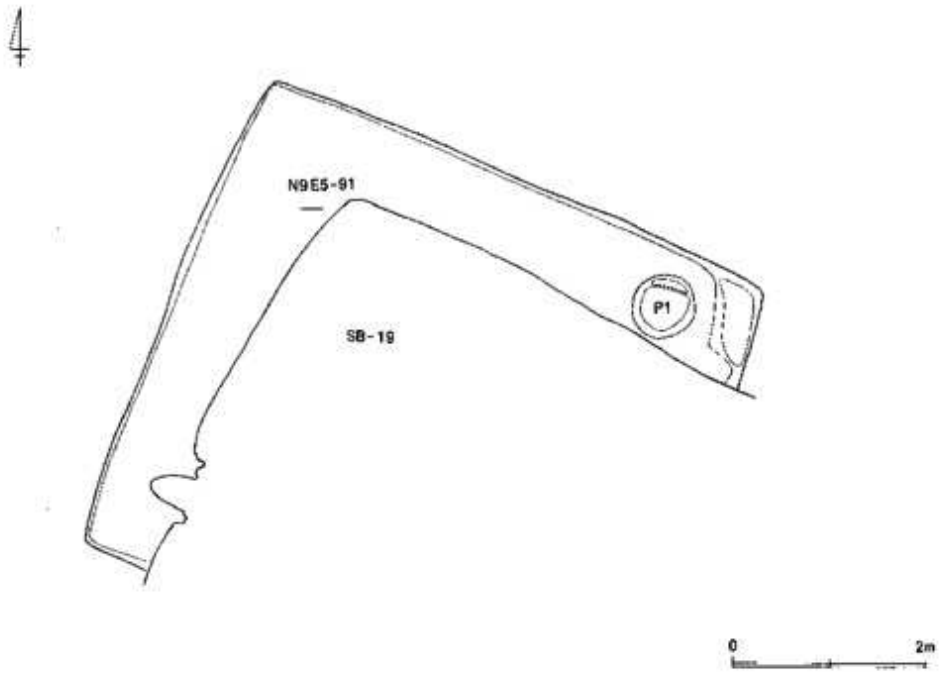
遺構番号	19号住居址	位置（グリット）	N9E5－71、90N10E6－1 N9E6－79、80、81、82、 83、99、100	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－71°－E 7.34×7.10	壁高 床高	(E) 0.49 541.78~542.19
遺構図版	第17図						
遺物図版	第85~87図						

柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.27×0.43×0.33) P2 (0.35×0.34×0.44) P3 (0.55×0.43×0.17) P4 (0.29×0.25×0.26) P5 (0.60×0.61×0.23) P6 (0.45×0.39×0.45) P7 (0.48×0.59×0.09) P8 (0.11×0.11×0.08) P9 (0.26×0.28×0.08) P10 (0.16×0.16×0.05) P11 (0.39×0.32×0.14)	覆土	1 黒褐色土 2 暗茶褐色（黄色土ブロック状混入）

竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	西壁中央 N－71°－W (1.90×089)	覆土 備考	1 暗茶褐色土 2 赤褐色土（焼土、炭化物多量に混入） 3 明赤褐色土（焼土）河原石による支脚

備考	9号住居址を切る。竈より北の床面に0.63m×0.35mの焼土堆積部あり。

第17図　林之郷遺跡E地区第19号住居址、竈実測図



遺構番号	20号住居址	位置（グリット）	N10E5－10、N9E5－90、91 N10E6－1、N9E6－99、100	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－19°－E 5.20×5.20	壁高 床高	(E) 0.28 542.11~542.14
遺構図版	第18図						
遺物図版	第88図						

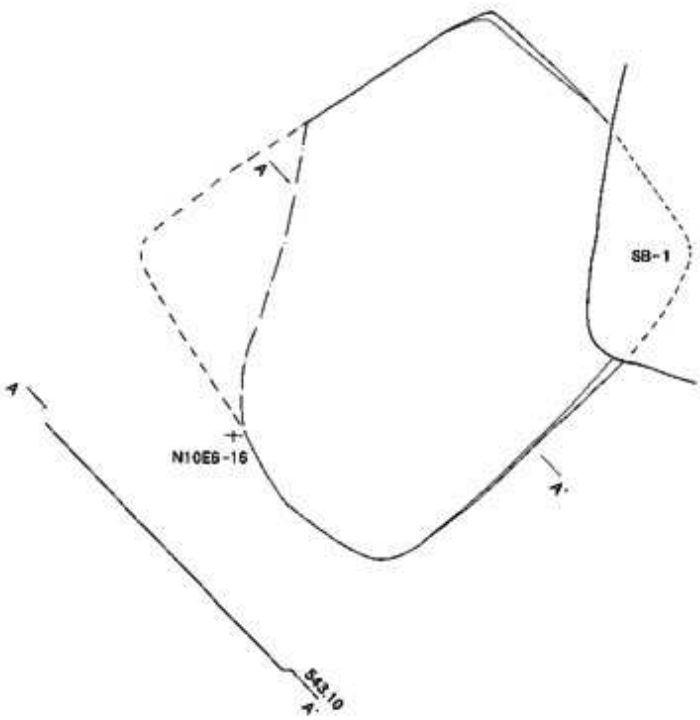
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.65×0.65×0.32)	覆土	1 黒褐色土

竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考	

備考	19号住居址を切る。

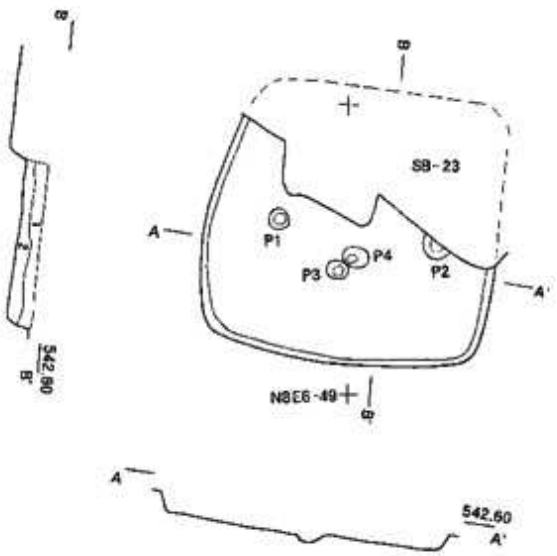
第18図　林之郷遺跡E地区第20号住居址実測図

4



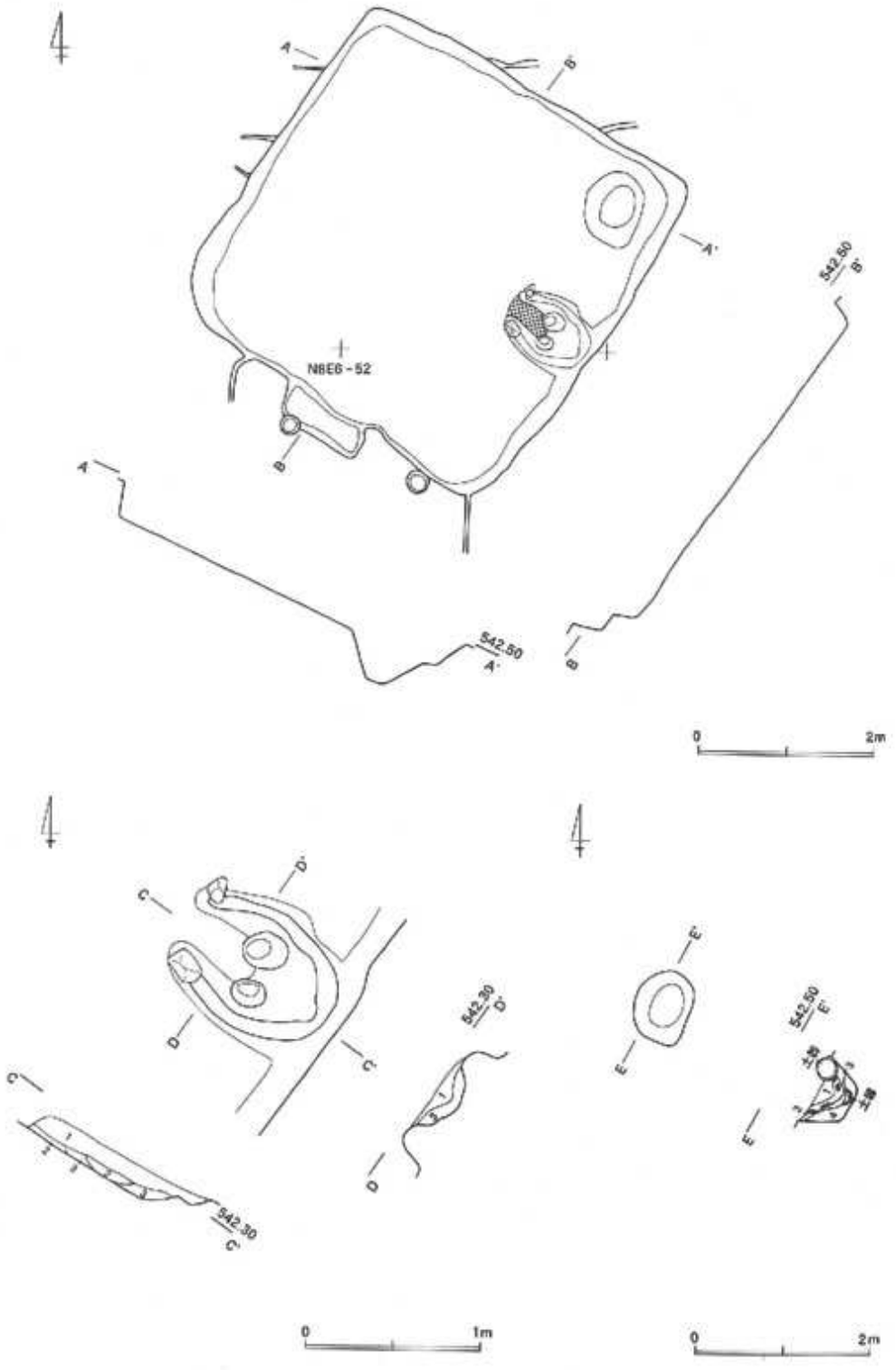
遺構番号 遺構図版 遺物図版	21号住居址 第19図	位置 (グリット)	N10E6－15、16、25、26、35	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－50°－E 4.00×4.60	壁高 床高	(W) 0.07 542.85～543.13
柱穴（長径×短径×深さ）					覆土	1　黒褐色土	
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	1号住居址に切られる。						

第19図　林之郷遺跡E地区第21号住居址実測図

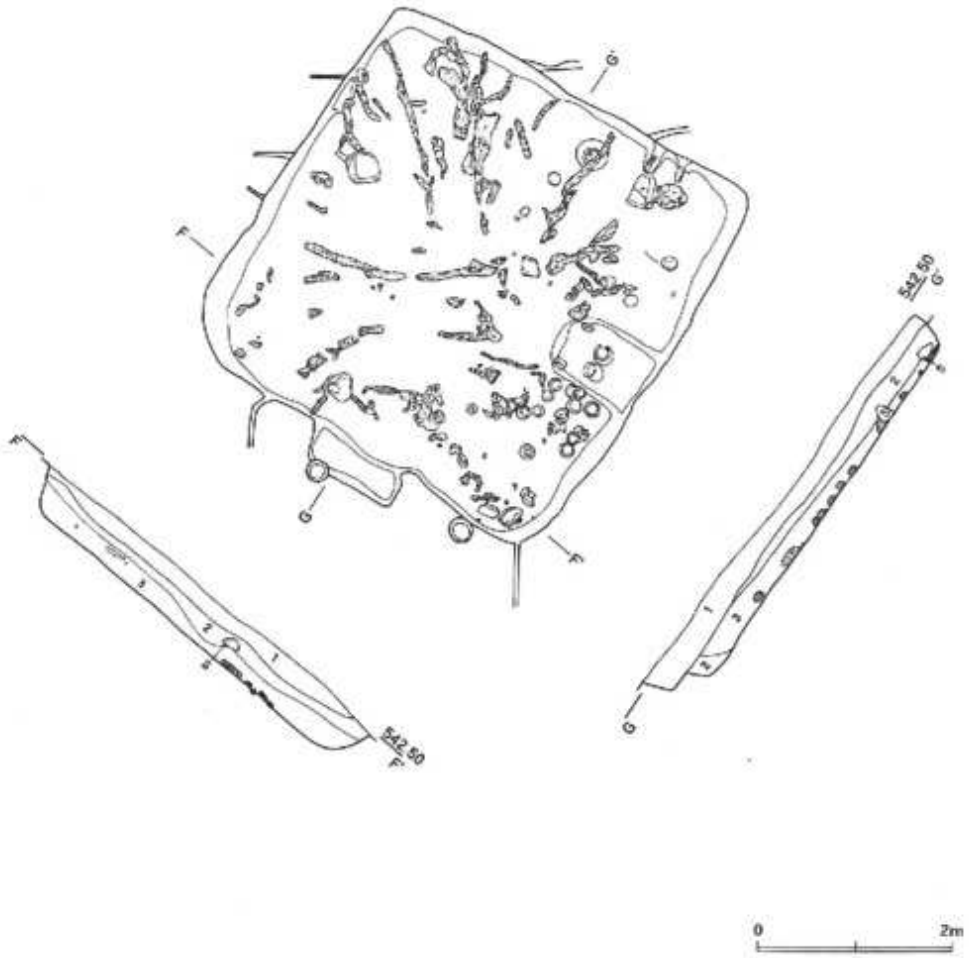


遺構番号 遺構図版 遺物図版	22号住居址 第20図	位置 (グリット)	N8E6－51、52	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－10°－E 6.20×6.30	壁高 床高	(N) 0.26 461.20～462.31
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.21×0.21×0.11）P2（0.16×0.26×0.12） P3（0.19×0.26×0.07）P4（0.14×0.23×0.11）				覆土		1 暗茶褐色土 2 明茶褐色土（黄色土ブロック状混入）
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	23号住居址に切られる。						

第20図　林之郷遺跡E地区第22号住居址実測図



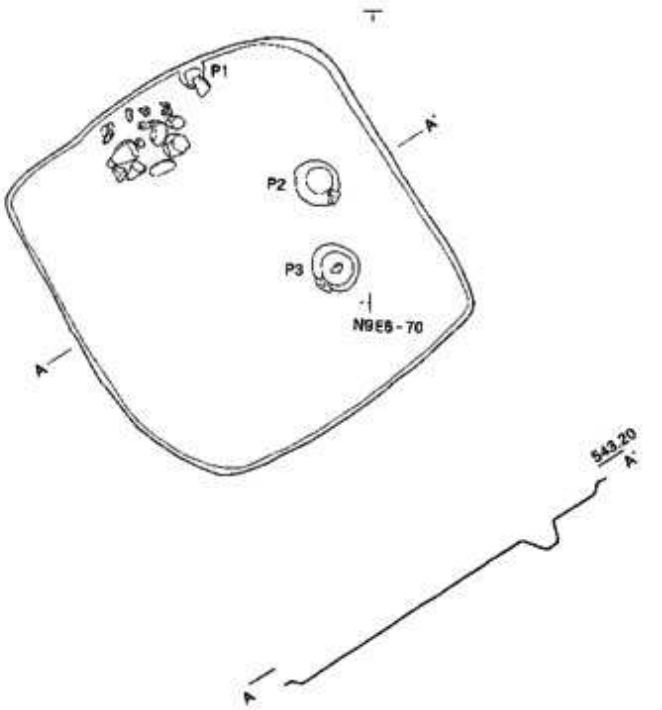
第21図 (1)



第21図 (2)

遺構番号 遺構図版 遺物図版	23号住居址 第21図 第89～91図	位置 (グリット)	N8E6－51、52、69、70、71 N8E7－61	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－53°－E 4.60×4.30	壁高 床高	(E) 0.38 541.99～542.08
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土 2 暗茶褐色土 3 黒褐色砂質土（黄色土ブロック状混入）
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	東壁中央 N－53°－W (1.00×0.80)	覆土 備考	1 黒褐色土 2 黒色土（焼土混入）3 赤褐色土（焼土）			
備考	住居東隅に貯蔵穴（0.86m×0.65m、床面からの深さ0.65m）覆土 1 暗茶褐色土 2 暗茶褐色土（炭化物、焼土ブロック状混入）3 明茶褐色土 4 明茶褐色粘質土						

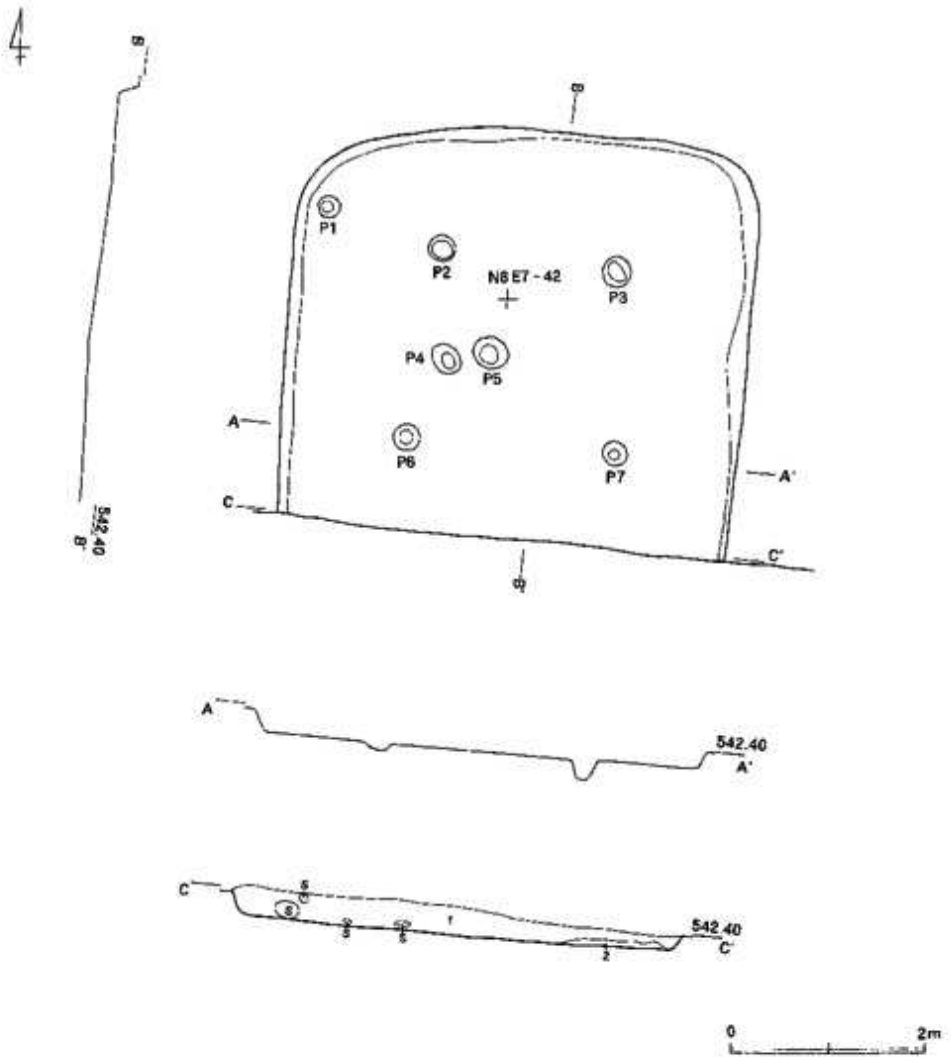
第21図　林之郷遺跡E地区第23号住居址、竈、炭化材出土状態実測図



0 2m

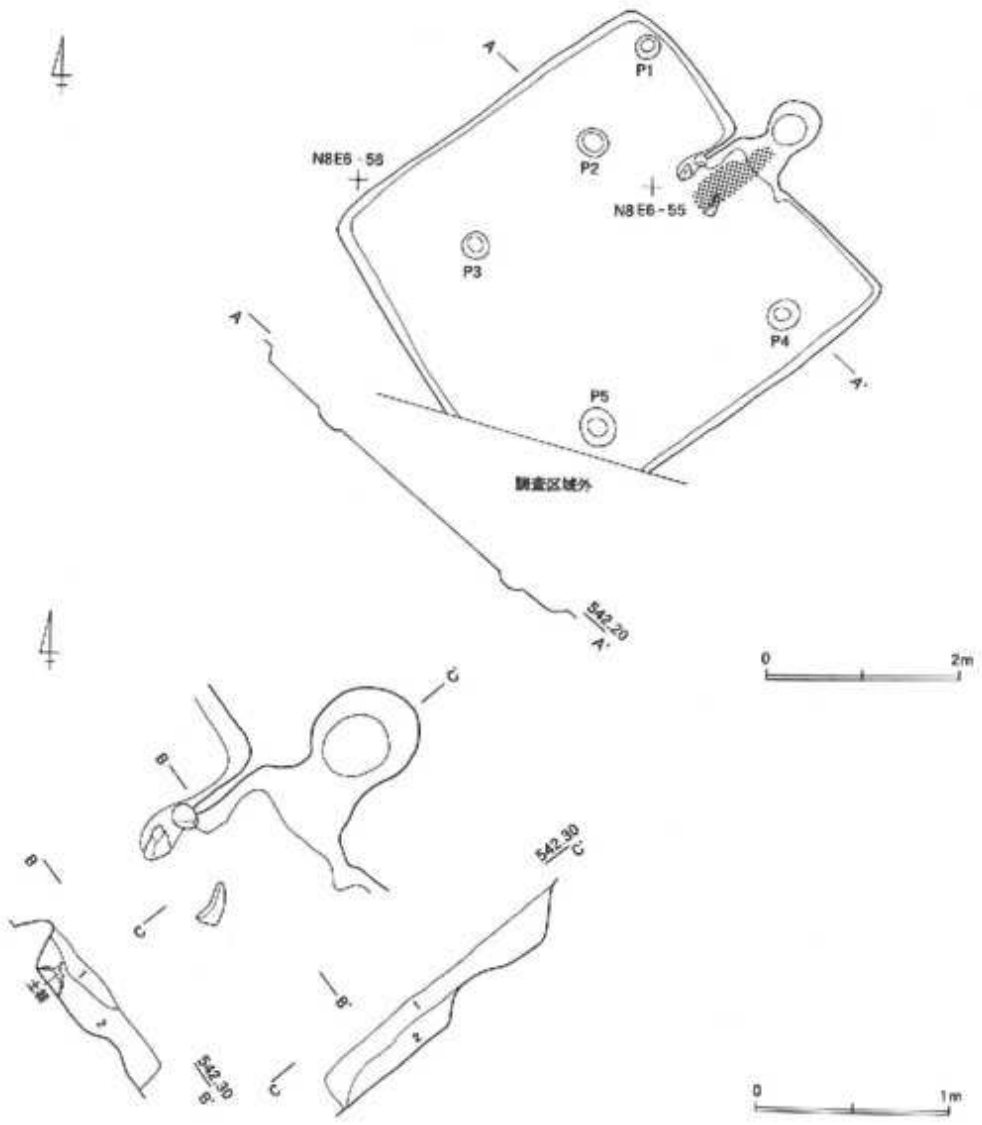
遺構番号 遺構図版 遺物図版	24号住居址 第22図 第92、93図	位置 (グリット)	N9E6－69、70、71、72 N9E7－80	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－14°－W 3.70×4.00	壁高 床高	(N) 0.17 542.92～543.04
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.31×0.25×0.11) P2 (0.47×0.43×0.23) P3 (0.49××0.50×0.18)					覆土	1 黒褐色土
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考							

第22図　林之郷遺跡E地区第24号住居址実測図



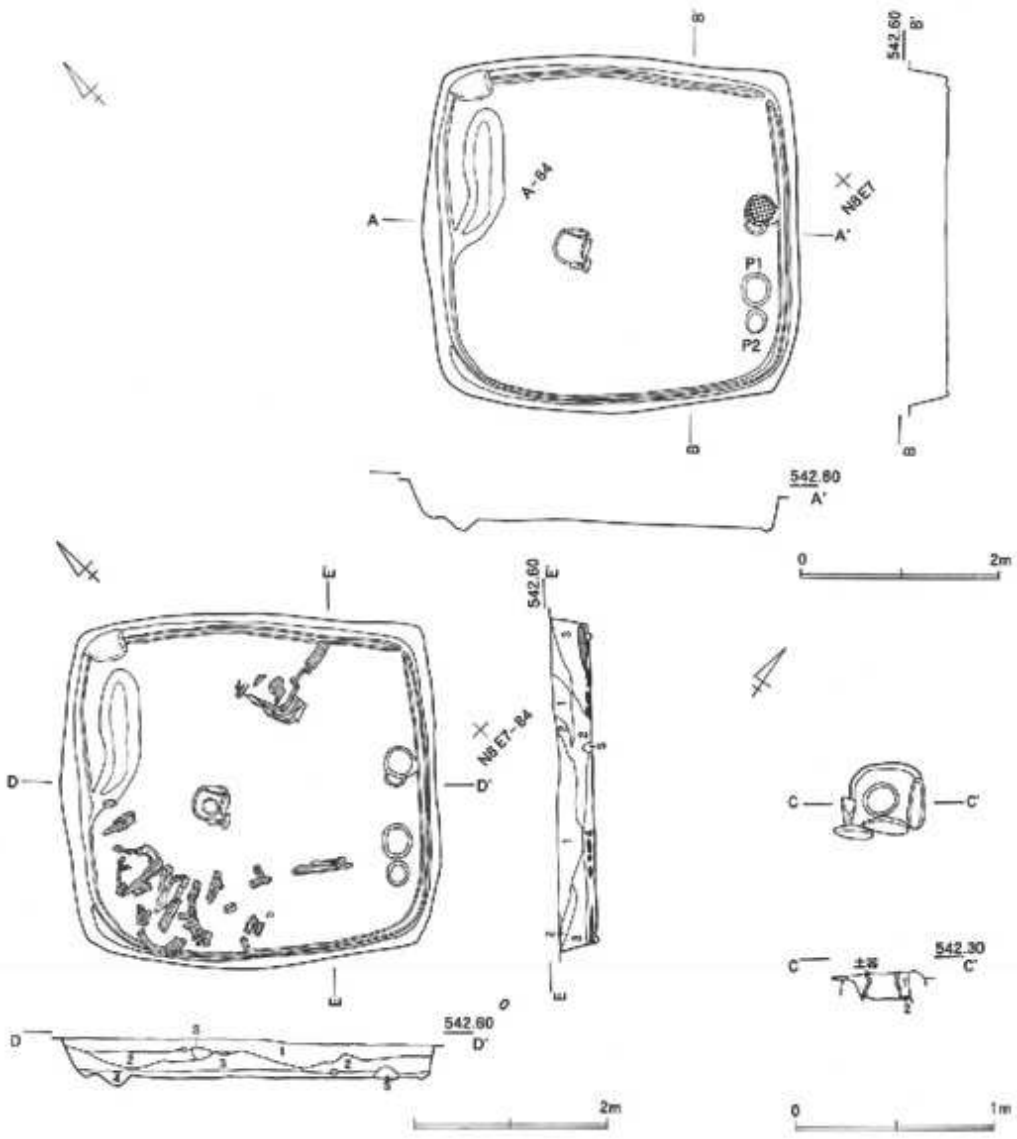
遺構番号 遺構図版 遺物図版	25号住居址 第23図 第94図	位置 (グリット)	N8E6－42、43、58、59	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－10°－E 4.20×4.70	壁高 床高	(W) 0.23 541.89~542.49
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.23×0.23×0.26) P2 (0.28×0.27×0.12) P3 (0.30×0.27×0.18) P4 (0.30×0.30×0.27) P5 (0.34×0.36×0.07) P6 (0.27×0.27×0.08) P7 (0.25×0.25×0.21)				覆土	1 暗茶褐色砂質土 2 暗茶褐色土（黄色土ブロック状に混入）	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	住居址南側は調査区外である。						

第23図　林之郷遺跡E地区第25号住居址実測図



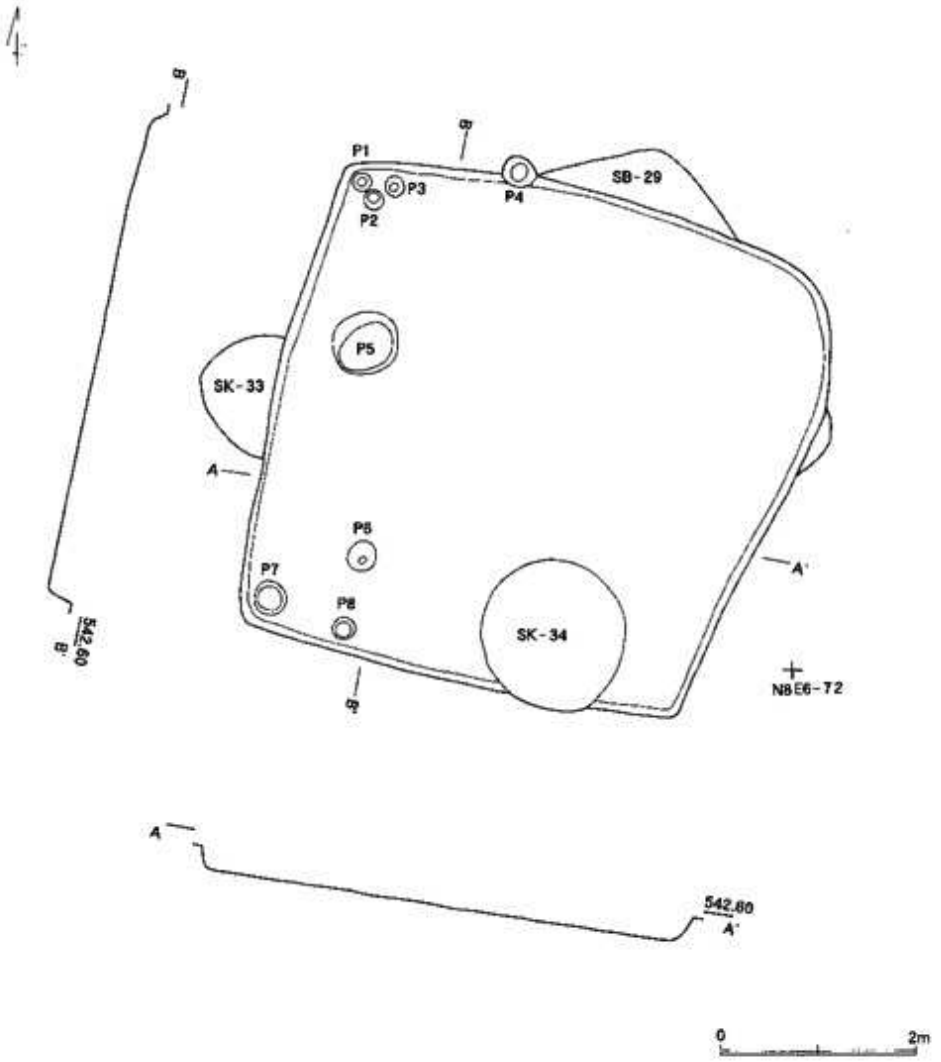
遺構番号 遺構図版 遺物図版	26号住居址 第24図 第95図	位置 (グリット)	N8E5－54、55、56、66、67	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－55°－E 4.10×4.10	壁高 床高	(S) 0.15 541.83~541.99
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.25×0.25×0.21) P2 (0.28×0.28×0.13) P3 (0.28×0.28×0.13) P4 (0.31×0.34×0.08) P5 (0.40×0.38×0.03)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	東壁中央 N－55°－E (1.55×?)	覆土 備考	1 黒褐色粘質土（焼土ブロック状に混入） 2 赤褐色粘質土（焼土多量に混入）			
備考	住居址南側調査区外						

第24図　林之郷遺跡E地区第26号住居址、竈実測図



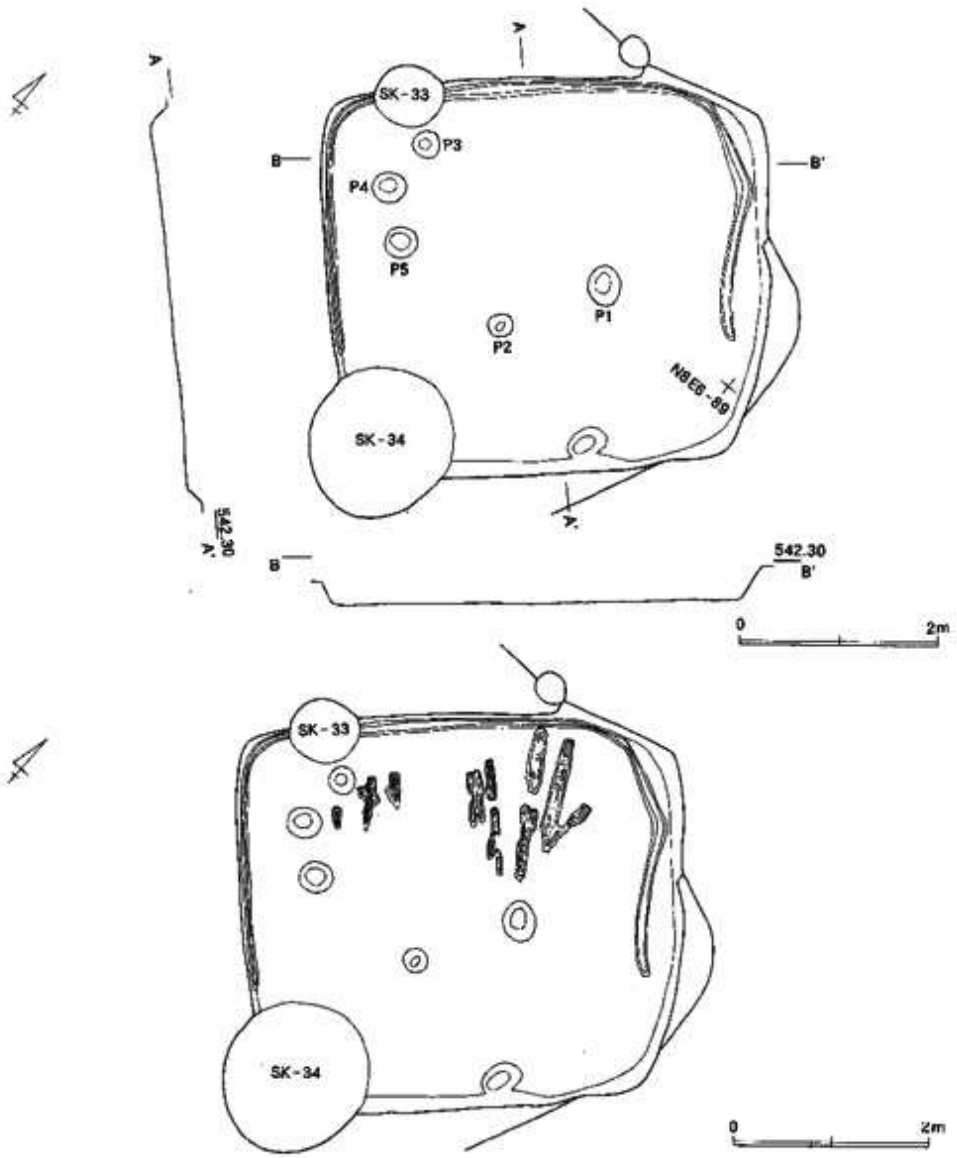
遺構番号 遺構図版 遺物図版	27号住居址 第25図 第96図	位置 (グリット)	N8E7－83、84、96、97、98 N9E7－4	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－40°－W 3.70×3.90	壁高 床高	(N) 0.38 542.10~542.14
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.32×0.29×0.15）P2（0.23×0.25×0.10）					覆土	1 黒褐色砂質土 2 茶褐色砂質土 3 黒褐色砂質土（炭化物混入） 4 茶褐色砂質土（炭化物混入）
竈	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居床面中央 N－40°－W (0.39×0.41)		袖土 備考	1 黒褐色土（炭化物多量に混入） 2 茶褐色粘土（堅くしまる） 三方に河原石で石囲		
備考	周溝が住居址内床面上を一周し（1.40m×0.45m、床からの深さ0.03m）、楕円形を呈するの溝に続く（幅0.05m床からの深さ0.04m）住居南壁近くの床面上に焼土堆積部あり（0.35m×0.40m）。						

第25図　林之郷遺跡E地区第27号住居址、竈、炭化材出状態実測図



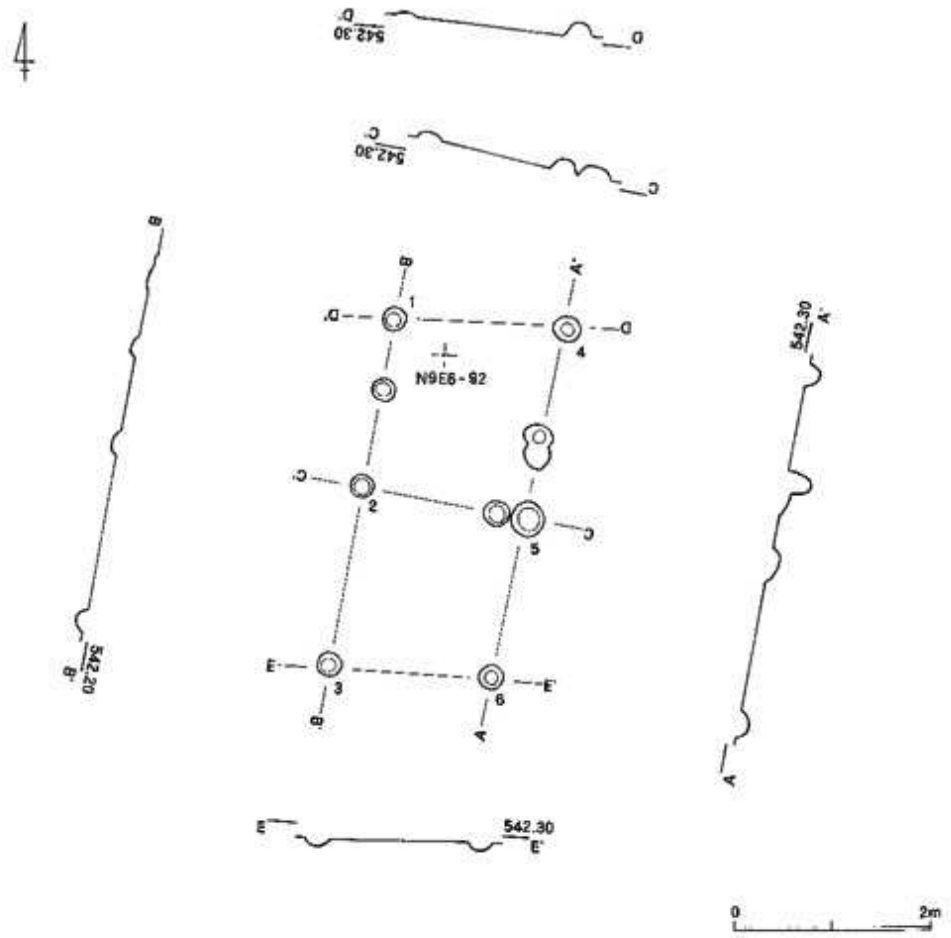
遺構番号 遺構図版 遺物図版	28号住居址 第26図 第97図	位置 (グリット)	N8E6－72、73、88、89、90、92、93	平面形態 主軸方位 規　模	隅丸方形 N－10°－E 5.40×5.50	壁高 床高	(E) 0.26 542.19~542.48
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.19×0.20×0.14) P2 (0.19×0.20×0.10) P3 (0.22×0.20×0.09) P4 (0.32×0.35×0.15) P5 (0.64×0.66×0.24) P6 (0.32×0.29×0.36) P7 (0.35×0.33×0.10) P8 (0.23×0.25×0.11)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	29号住居址を切る。						

第26図　林之郷遺跡E地区第28号住居址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	29号住居址 第27図 第98、99図	位置 (グリット)	N8E6－72、73、88、89、92、93	平面形態 主軸方位 規模	隅丸方形 N－25°－E 4.10×4.60	壁高 床高	(N) 0.37 542.01~542.07
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.33×0.42×0.25) P2 (0.22×0.36×0.20) P3 (0.28×0.27×0.37) P4 (0.38×0.38×0.56) P5 (0.32×0.31×0.11) P6 (0.40×0.25×0.12)				覆土	1 黒褐色土	
竈	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	28号住居址に切られる。						

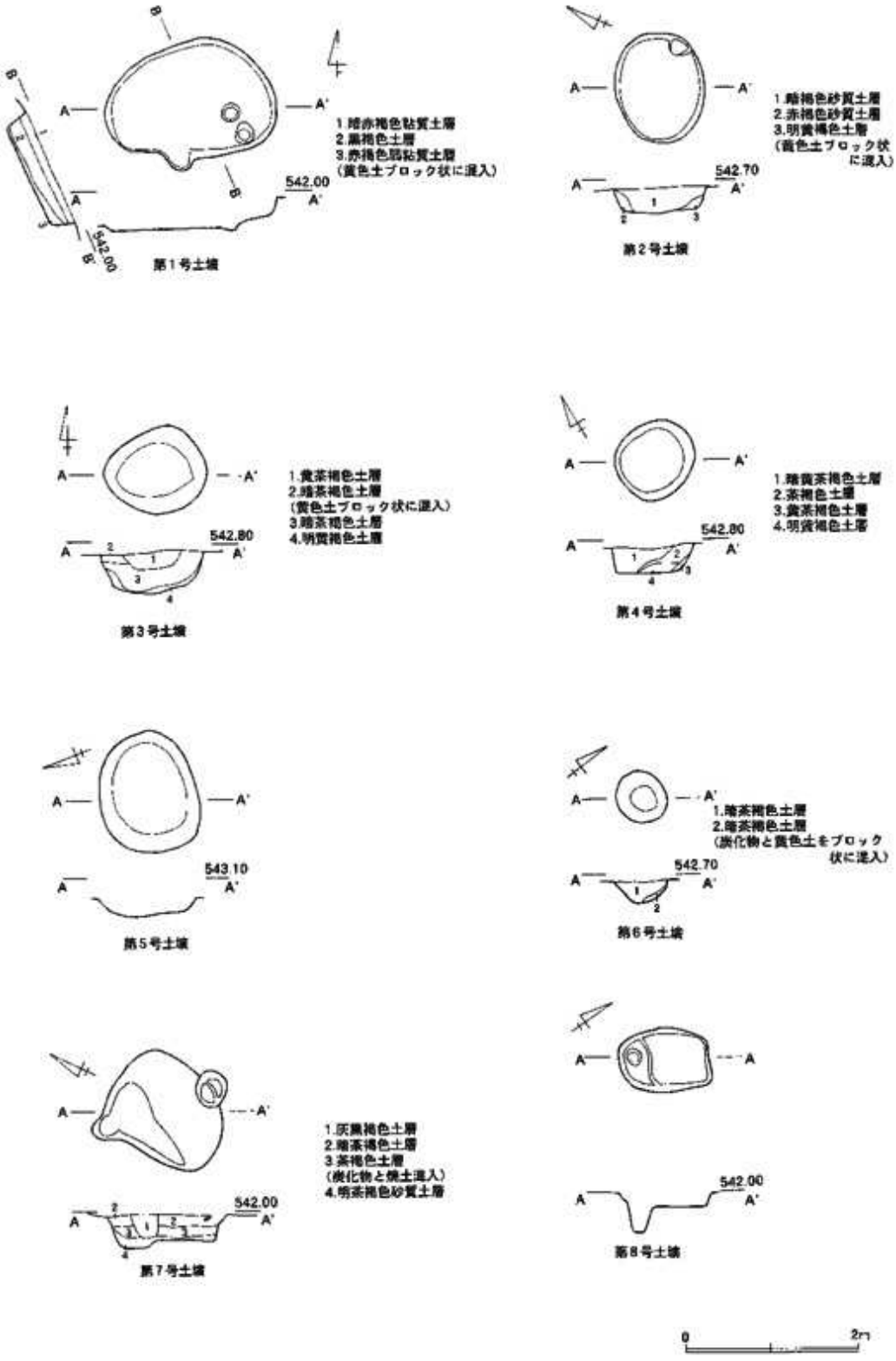
第27図　林之郷遺跡E地区第29号住居址、炭化材出状態実測図



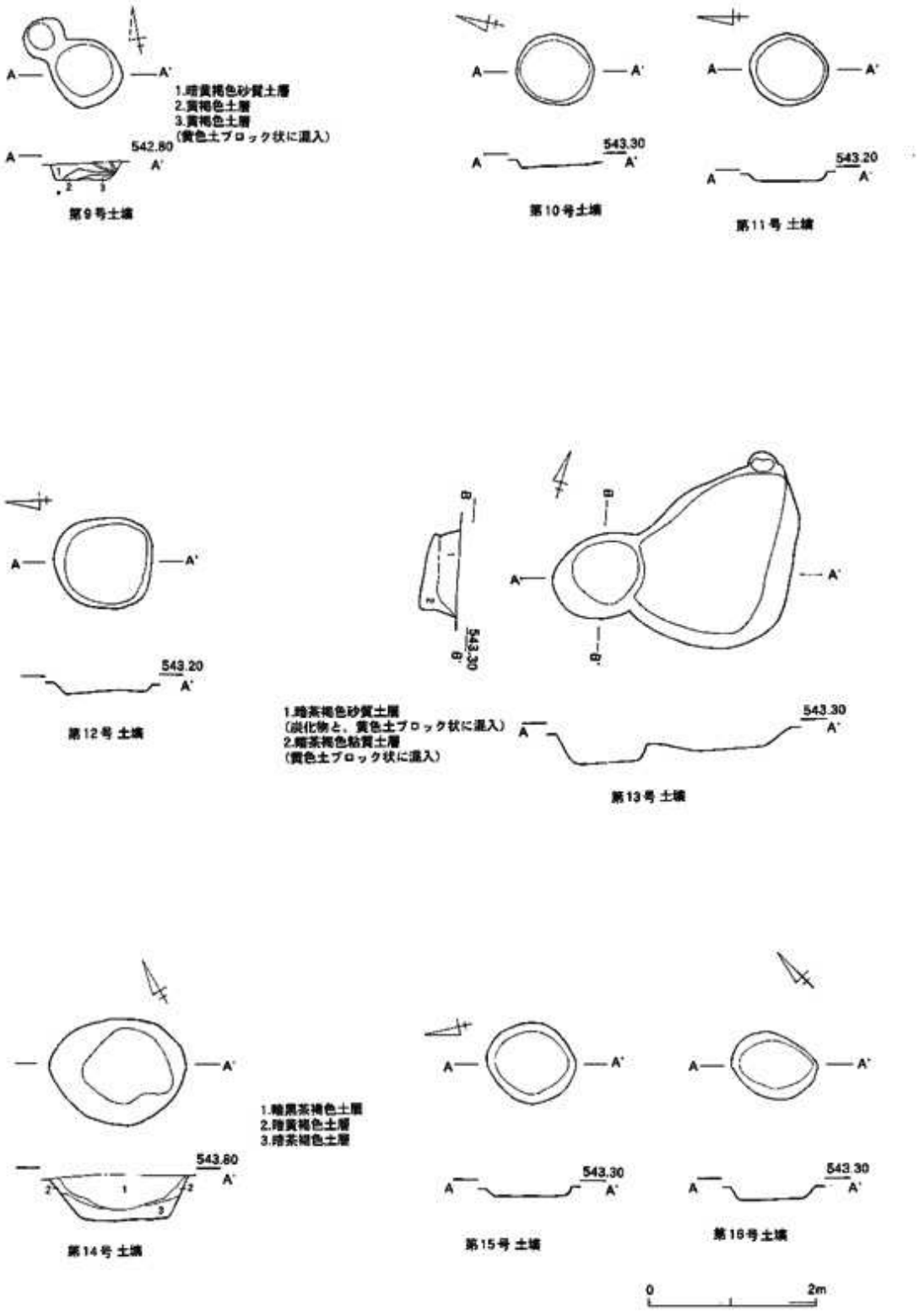
遺構名	掘立柱建物址実測図	図版番号	第28図	ピット数	6個
位置	N9E6－89、90、91、92N10E6－9、10				
主軸方位	N－10°－E	標高	543.08m～543.24m	規模	4.0m×2.0m

Pit－No	長径×短径×深	Pit－No	長径×短径×深	Pit－No	長径×短径×深
1	0.26×0.24×0.18	3	0.26×0.26×0.20	5	0.38×0.34×0.20
2	0.24×0.24×0.22	4	0.30×0.26×0.20	6	0.26×0.26×0.20

第28図　林之郷遺跡E地掘立柱建物址実測図



第29図　林之郷遺跡E地区土壙実測図（第1、2、3、4、5、6、7、8号）

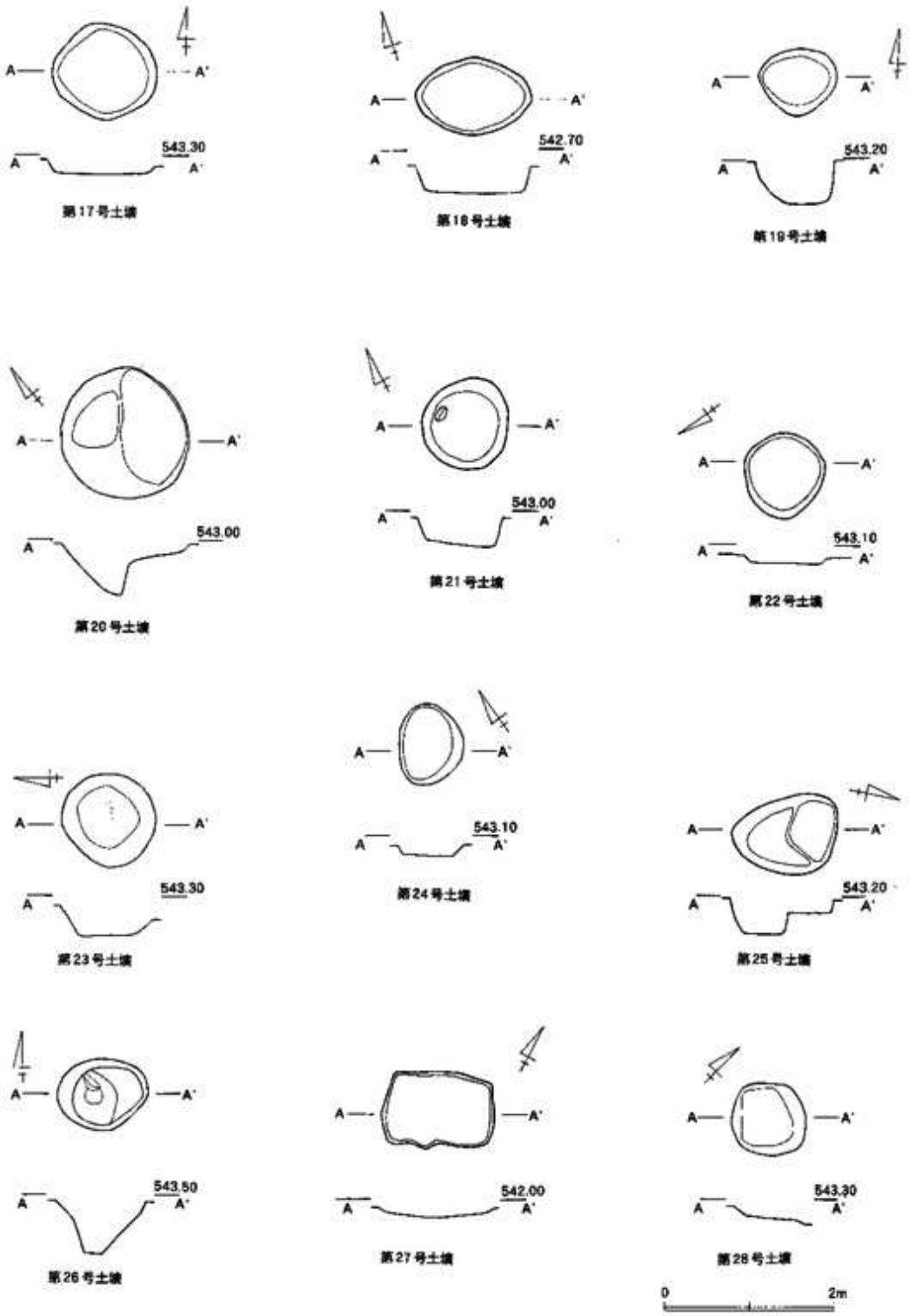


第9号土壙　第10号土壙　第11号 土壙

第12号 土壙　第13号 土壙

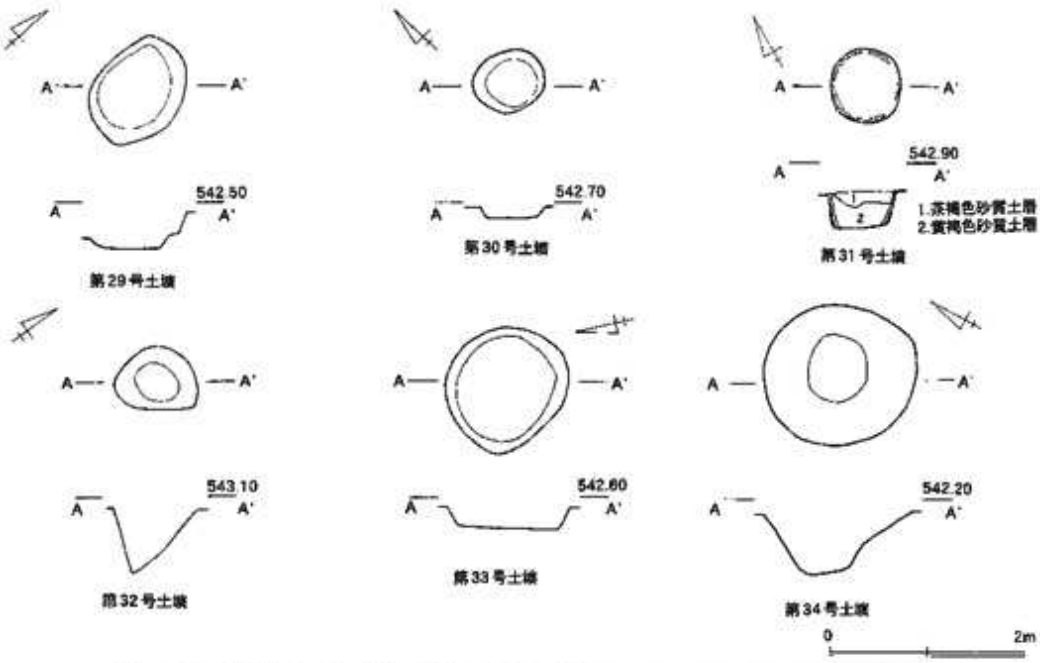
第14号 土壙　第15号 土壙　第16号土壙

第30図　林之郷遺跡E地区土壙実測図（第9、10、11、12、13、14、15、16号）



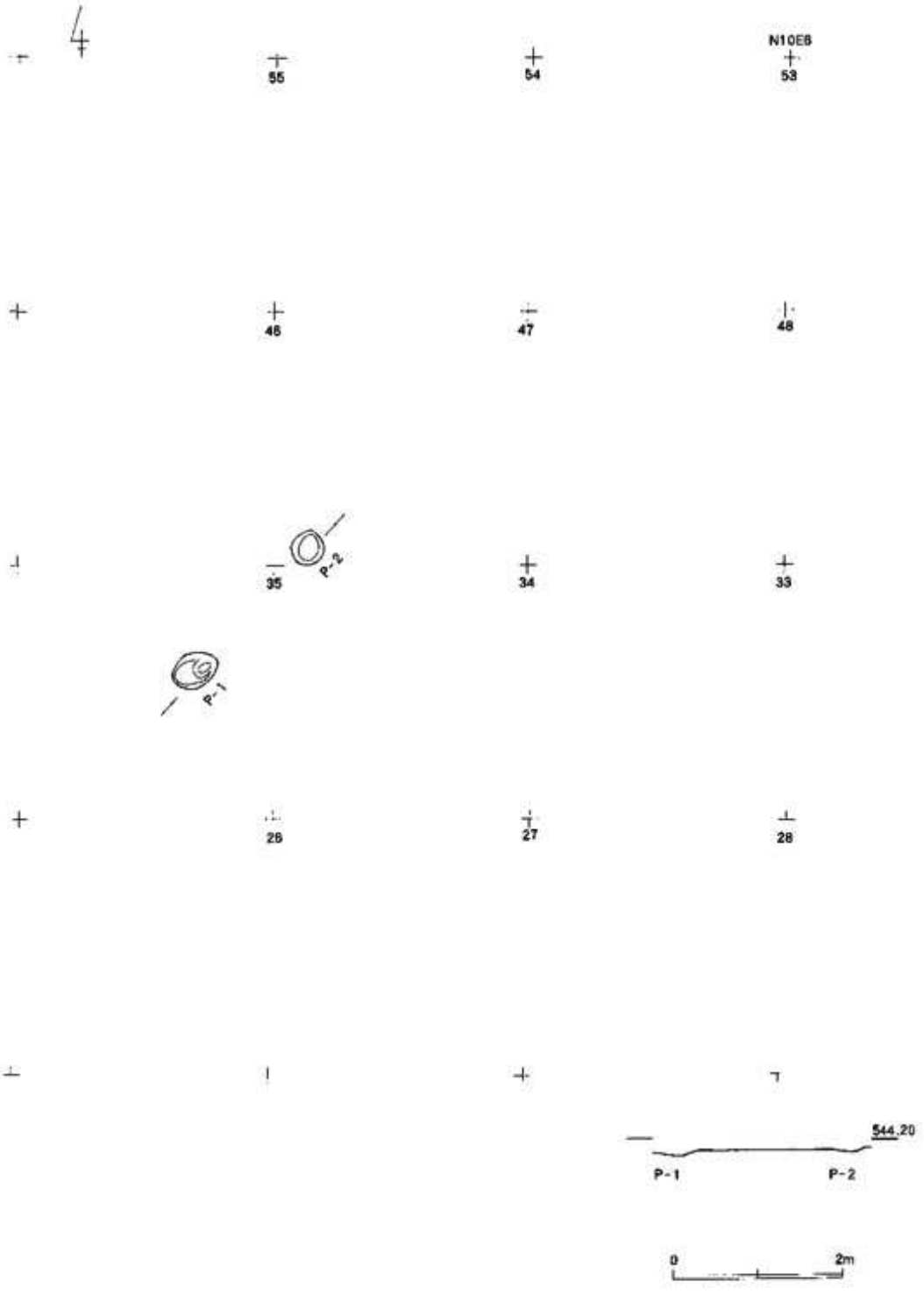
第31図　林之郷遺跡E地区土壙実測図

（第17、18、19、20、21、22、23、24、25、26、27、28号）



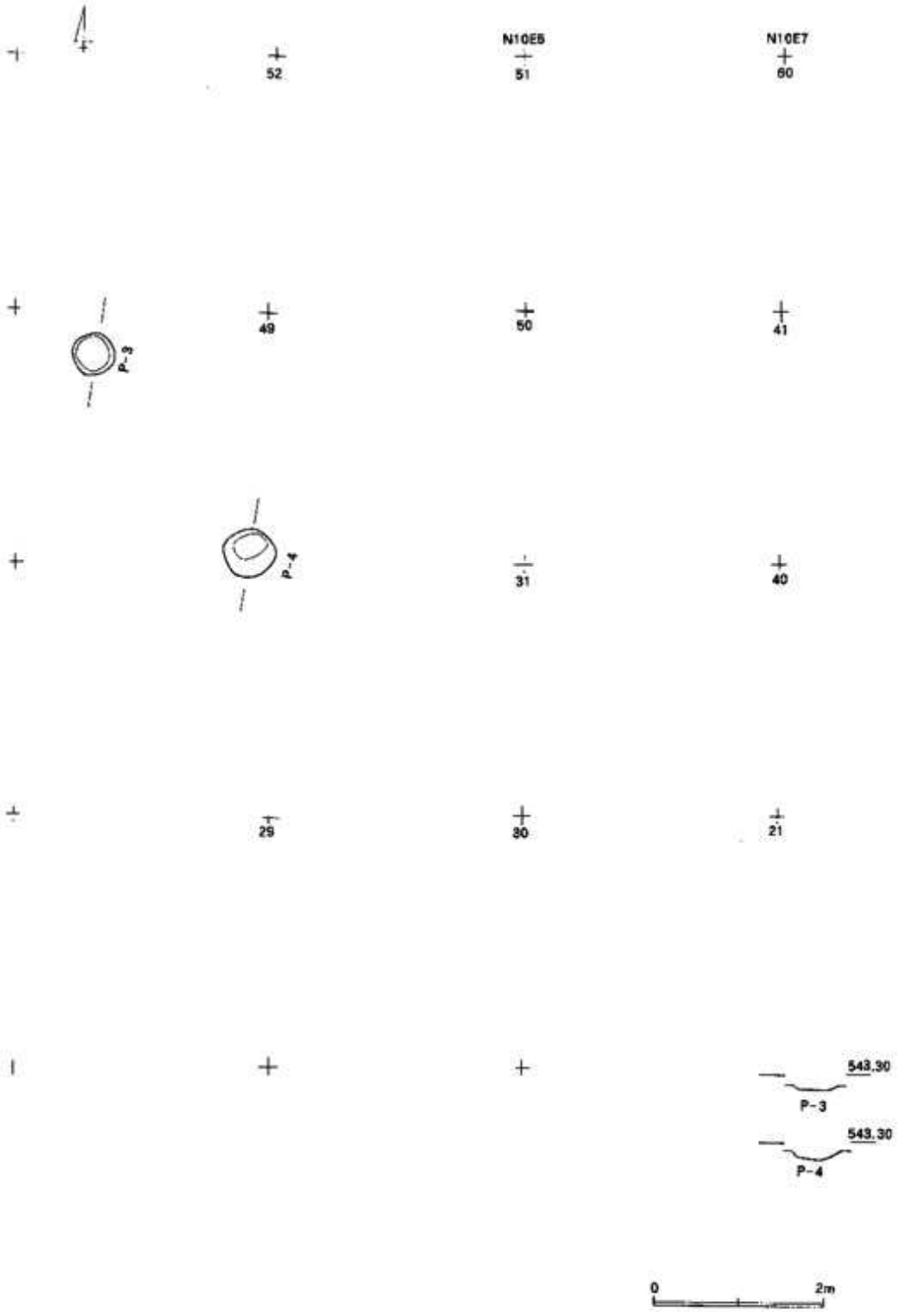
第32図　林之郷遺跡E地区土壙実測図（第29、30、31、32、33、34号）

遺構番号	位置	規模（長径×短径×深さ）	平面形態	断面形態	備考
1号土壙	N9E6-22, 23	2.00×1.60×0.30	長楕円形	たらい状	
2号土壙	N9E6-78	1.30×1.10×0.30	楕円形	たらい状	
3号土壙	N9E6-65	1.25×1.00×0.53	楕円形	たらい状	
4号土壙	N9E6-96	1.95×0.95×0.30	円形	たらい状	
5号土壙	N10E6-5 N9E6-96	1.45×0.70×0.28	楕円形	たらい状	
6号土壙	N9E6-84	0.61×0.61×0.25	円形	すり鉢状	
7号土壙	N8E5-91, 92	1.35×1.30×0.41	不整形	たらい状	
8号土壙	N9E6-21, 40 N9E5-30, 31	0.70×0.61×0.50	楕円形	不整形	
9号土壙	N9E6-84, 97	1.30×0.75×0.21	不整形	たらい状	土器埋没
10号土壙	N10E6-33	0.95×0.85×0.15	円形	たらい状	1号住居址をきる
11号土壙	N10E6-33	0.93×0.90×0.10	円形	たらい状	1号住居址をきる
12号土壙	N10E6-28	1.20×0.10×1.50	円形	たらい状	1号住居址をきる
13号土壙	N10E5-21	2.90×2.40×0.40	不整形	不整形	
14号土壙	N9E6-84	1.67×1.28×0.57	楕円形	たらい状	2号住居址を切る
15号土壙	N10E6-49	1.10×1.00×1.30	円形	たらい状	
16号土壙	N10E6-49	1.03×0.82×0.17	楕円形	たらい状	
17号土壙	N10E6-10	1.22×1.15×0.17	円形	たらい状	
18号土壙	N9E6-6, 7	1.37×0.92×0.32	楕円形	たらい状	
19号土壙	N10E6-12, 29	0.90×0.80×0.53	円形	たらい状	2号住居址を切る
20号土壙	N10E6-14	1.53×1.50×0.60	円形	不整形	5号住居址に切られる
21号土壙	N10E6-7	1.10×1.00×0.35	円形	たらい状	5号住居址を切る
22号土壙	N10E6-8	1.04×0.93×0.07	円形	たらい状	5号住居址を切る
23号土壙	N10E6-9	1.10×10.9×0.38	円形	たらい状	
24号土壙	N9E6-92N10E6-9	0.98×0.76×0.15	楕円形	たらい状	
25号土壙	N10E6-21	1.25×0.98×0.42	楕円形	たらい状	2号住居址を切る
26号土壙	N10E7-5, 16	1.07×0.85×0.63	楕円形	すり鉢状	3号住居址に切られる
27号土壙	N9E6-20	1.35×0.90×0.08	隅丸方形	たらい状	
28号土壙	N10E6-12, 13	0.85×0.85×0.20	隅丸方形	不整形	5号住居址を切る
29号土壙	N9E6-58	1.17×0.90×0.37	楕円形	たらい状	10号住居址を切る
30号土壙	N9E6-84	0.75×0.65×0.12	円形	たらい状	
31号土壙	N10E6-5	0.48×0.45×0.18	円形	たらい状	土器埋没
32号土壙	N9E6-93N10E6-8	0.85×0.70×0.55	円形	すり鉢状	5号住居址を切る
33号土壙	N8E6-87, 88, 93, 94	1.35×1.27×0.22	円形	たらい状	28, 29号住居址に切られる土器埋没
34号土壙	N8E6-72, 73, 88, 89	1.55×1.44×0.62	円形	すり鉢状	28,29号住居址を切る



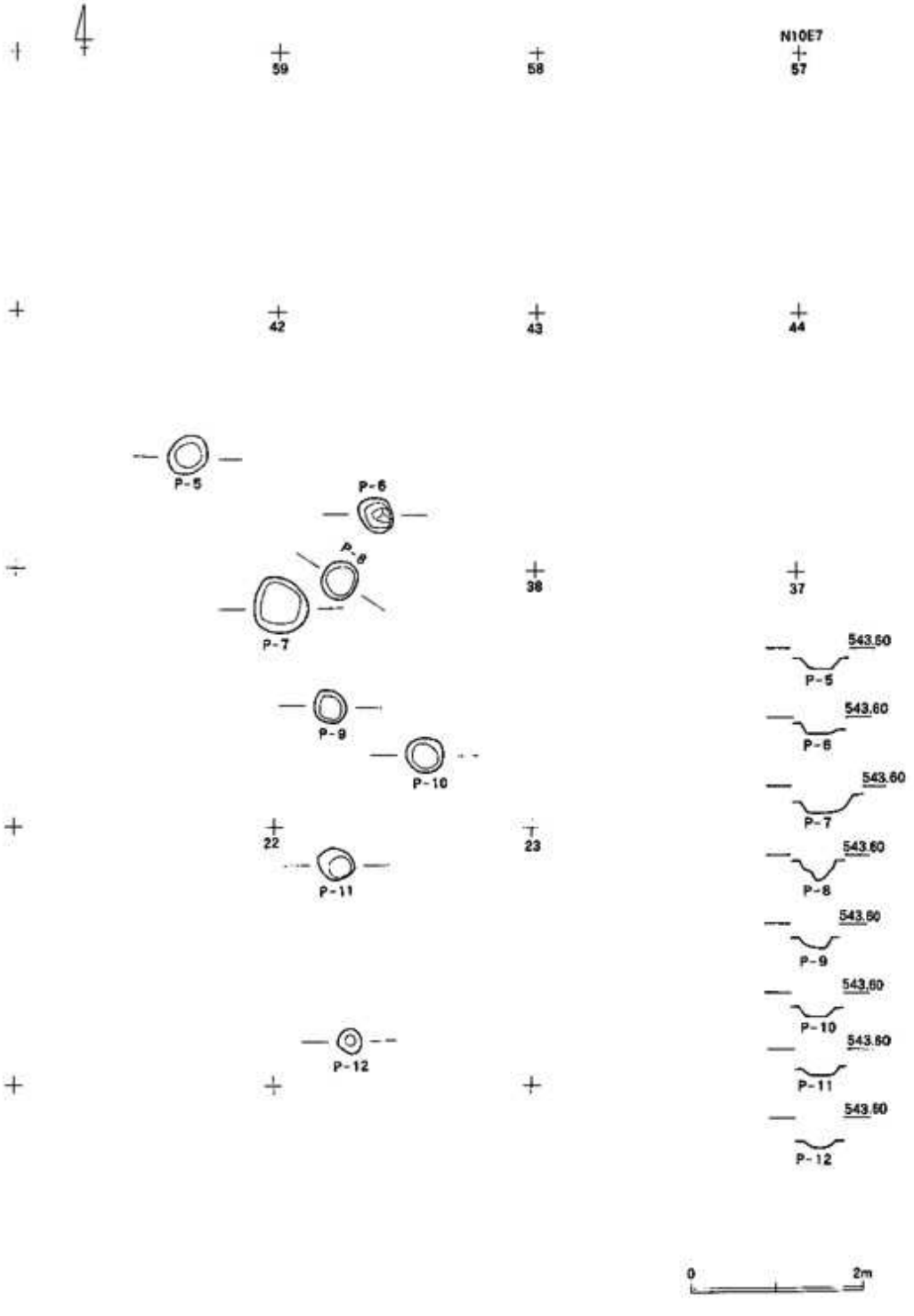
第33図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN10E6－26、27、28、33、34、35、46、47、48、53、54、55）



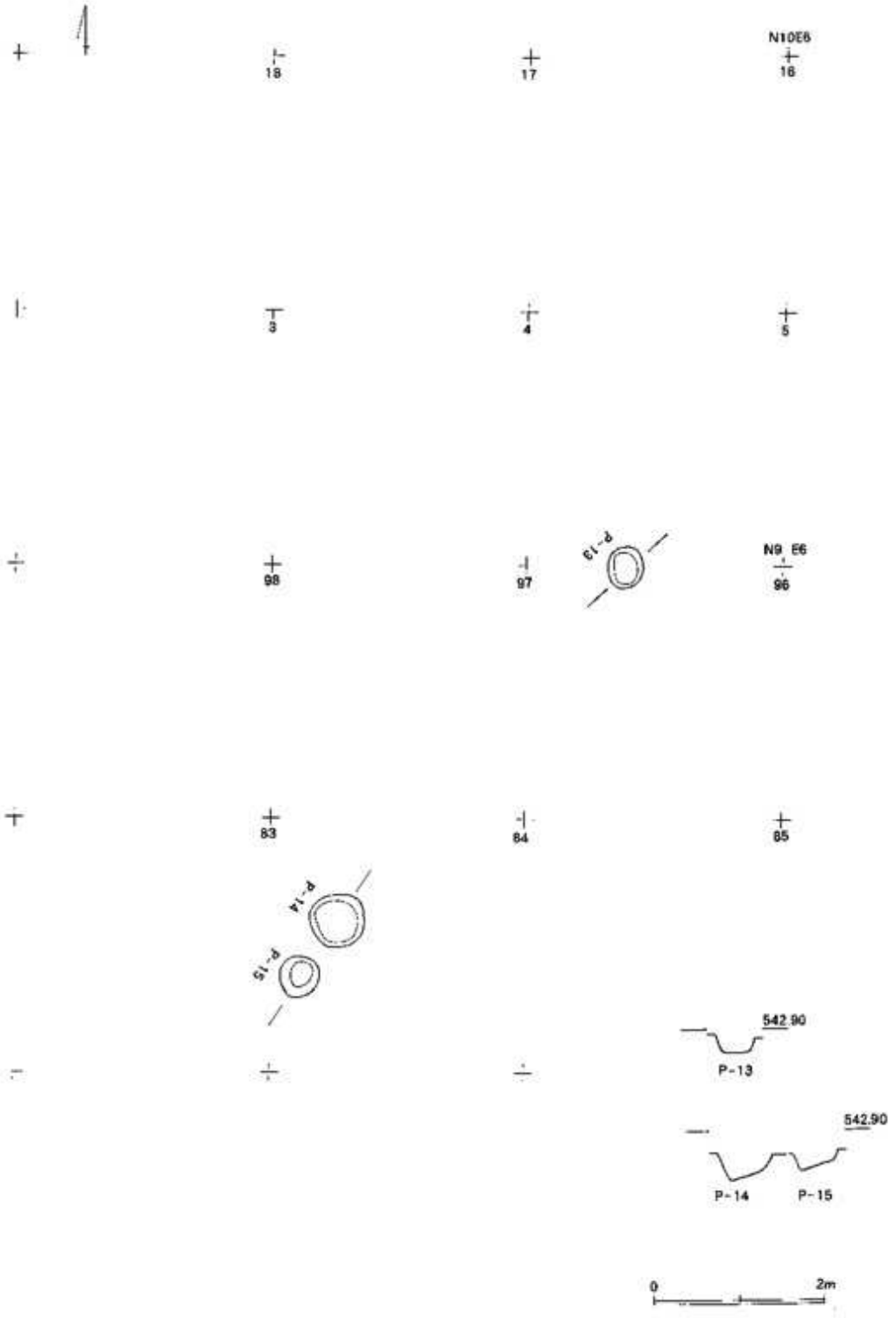
第34図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN10E6－29、30、31、32、49、50、51、52、N10E7－21、40、41、60）



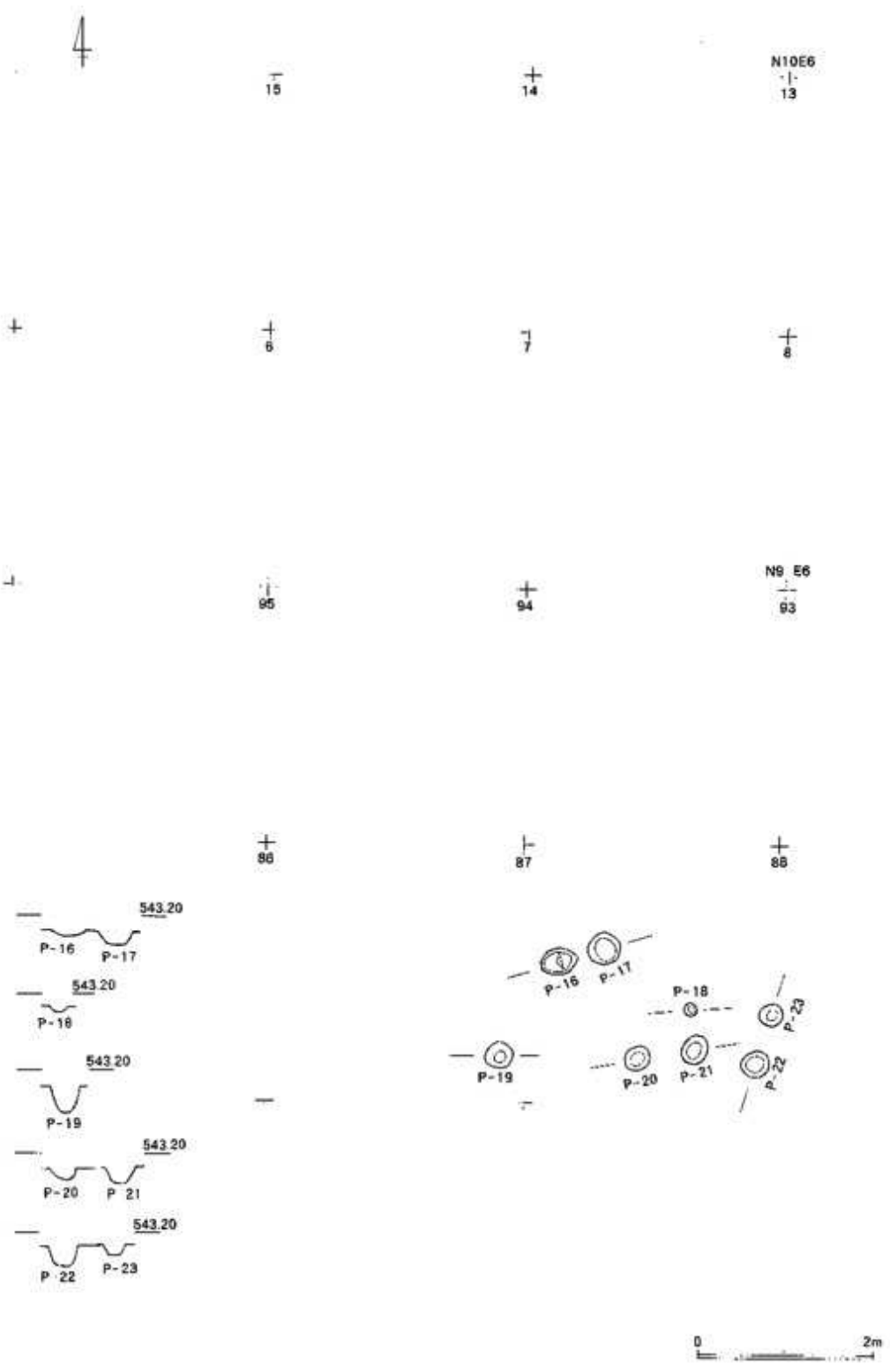
第35図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN10E7－22、23、24、37、38、39、42、43、44、57、58、59）



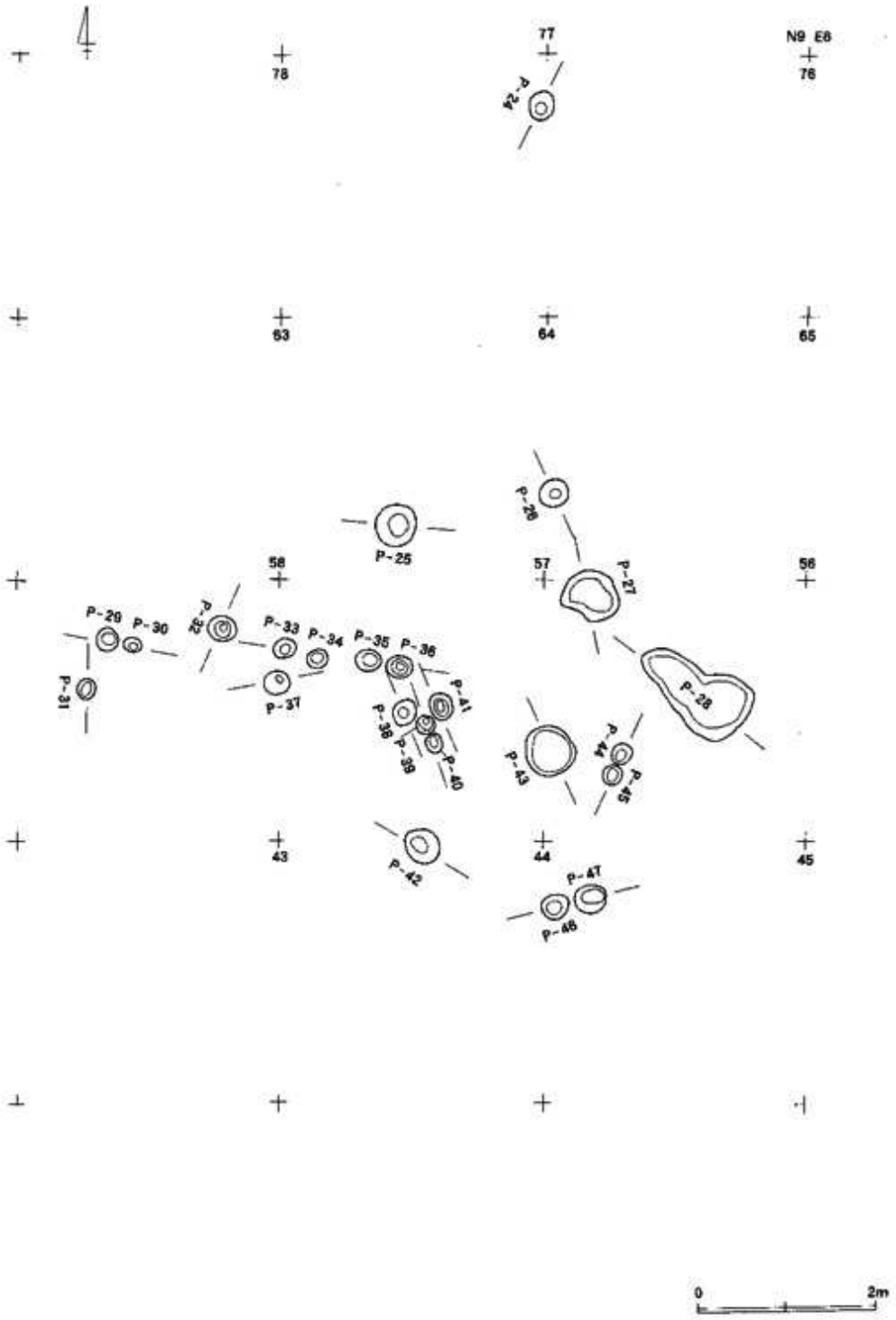
第36図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－83、84、85、96、97、98、N10E6－3、4、5、16、17、18）



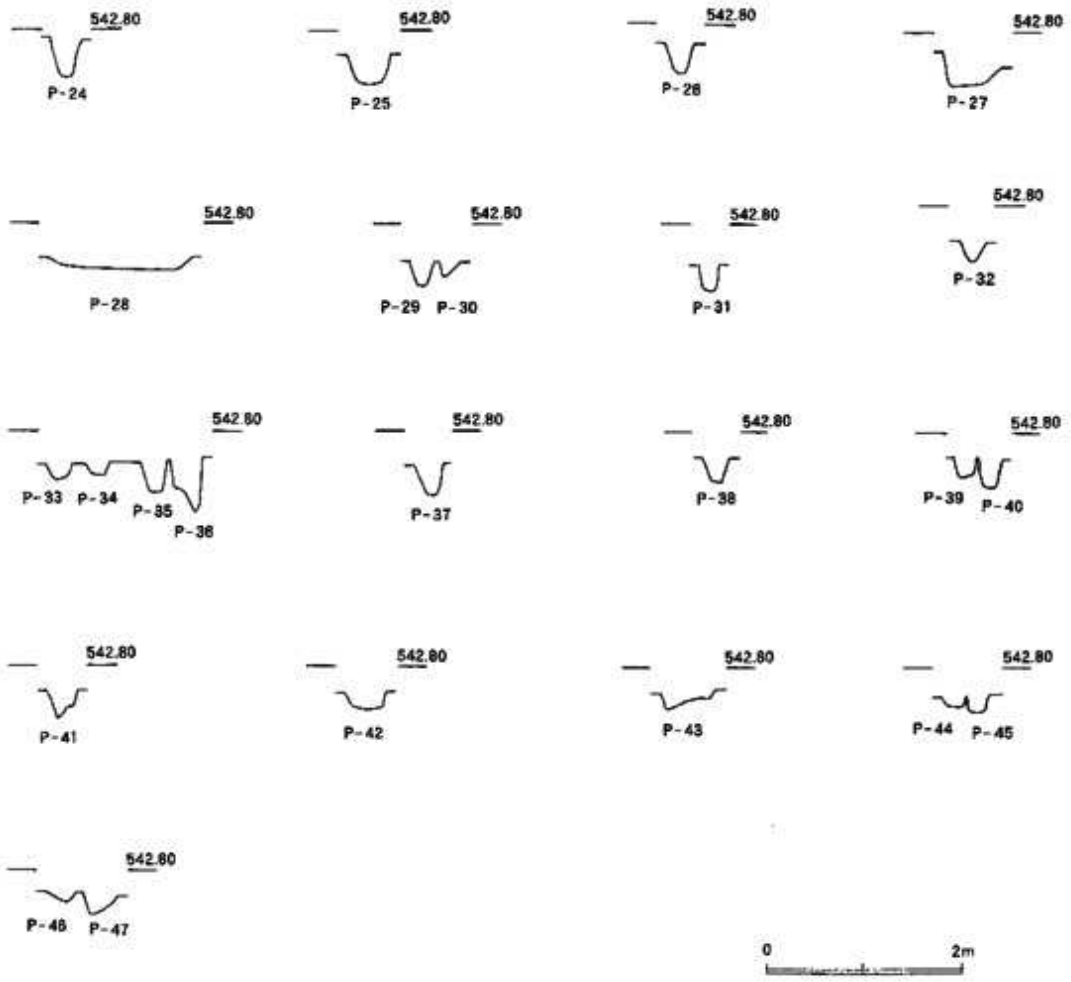
第37図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－86、87、88、93、94、95、N10E6－6、7、8、13、14、15）

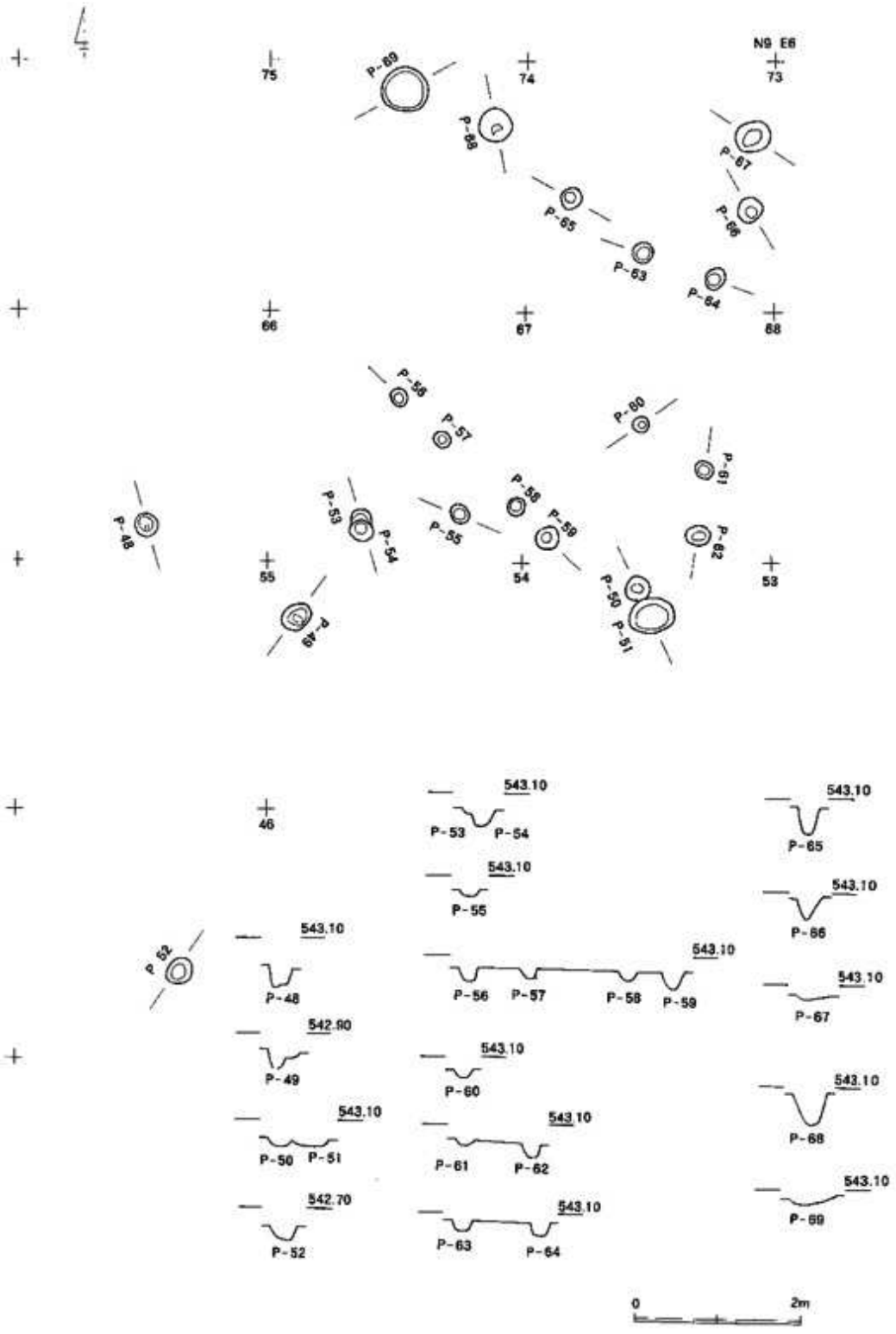


第38図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－43、44、45、56、57、58、63、64、65、76、77、78、）（1）

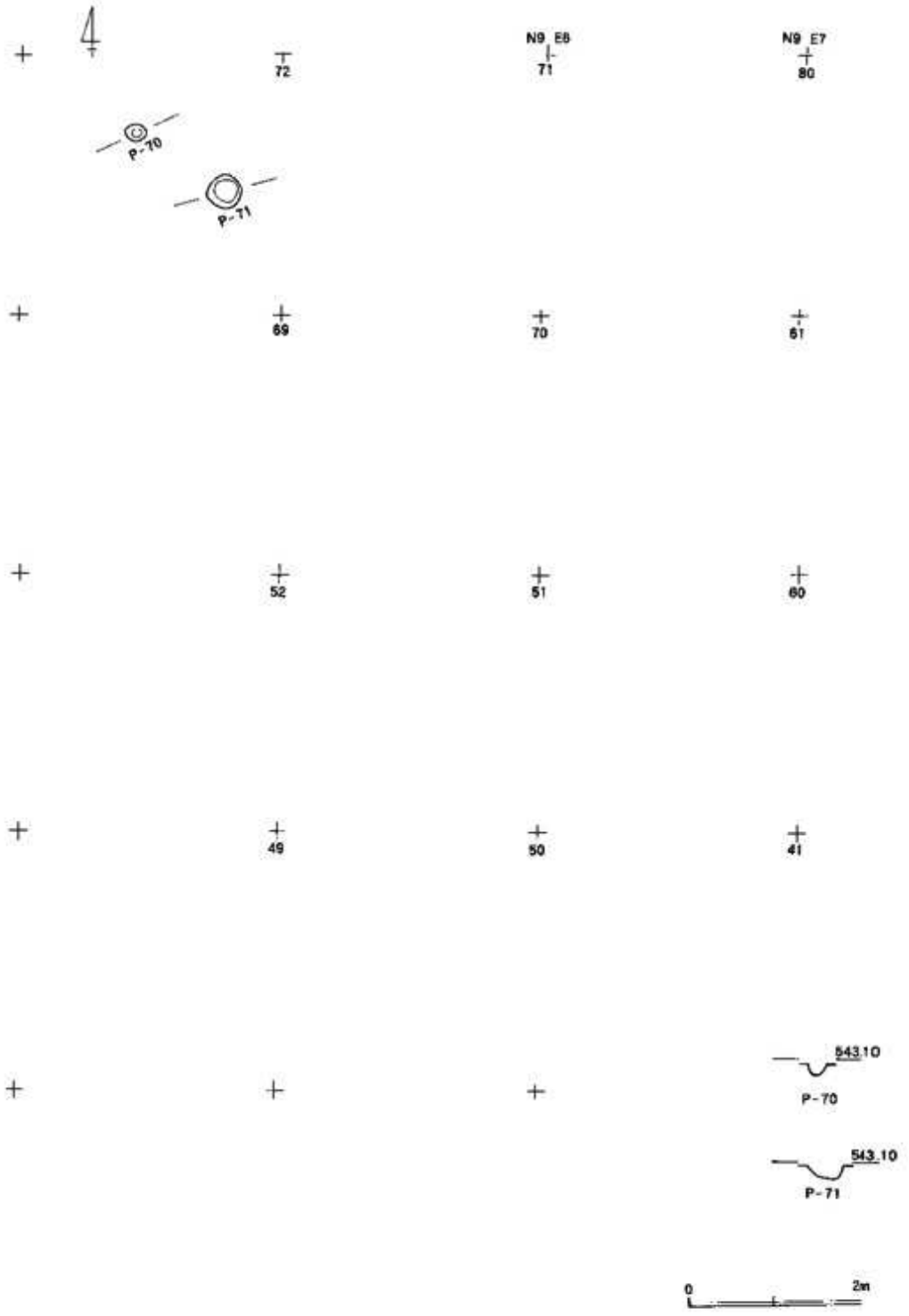


第39図　林之郷遺跡E地区ピット実測図（2）



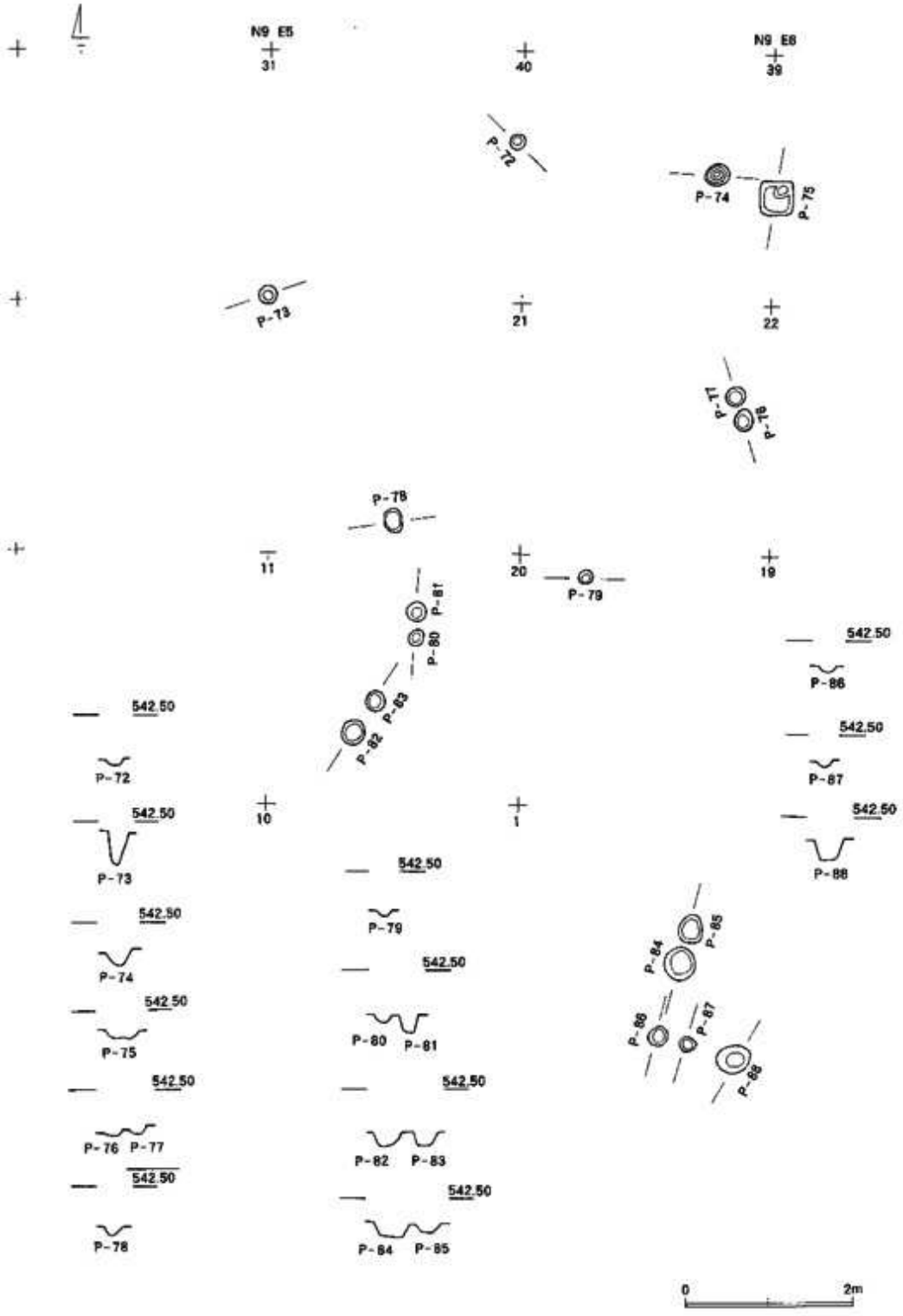
第40図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－46、47、48、53、54、55、66、67、68、73、74、75）



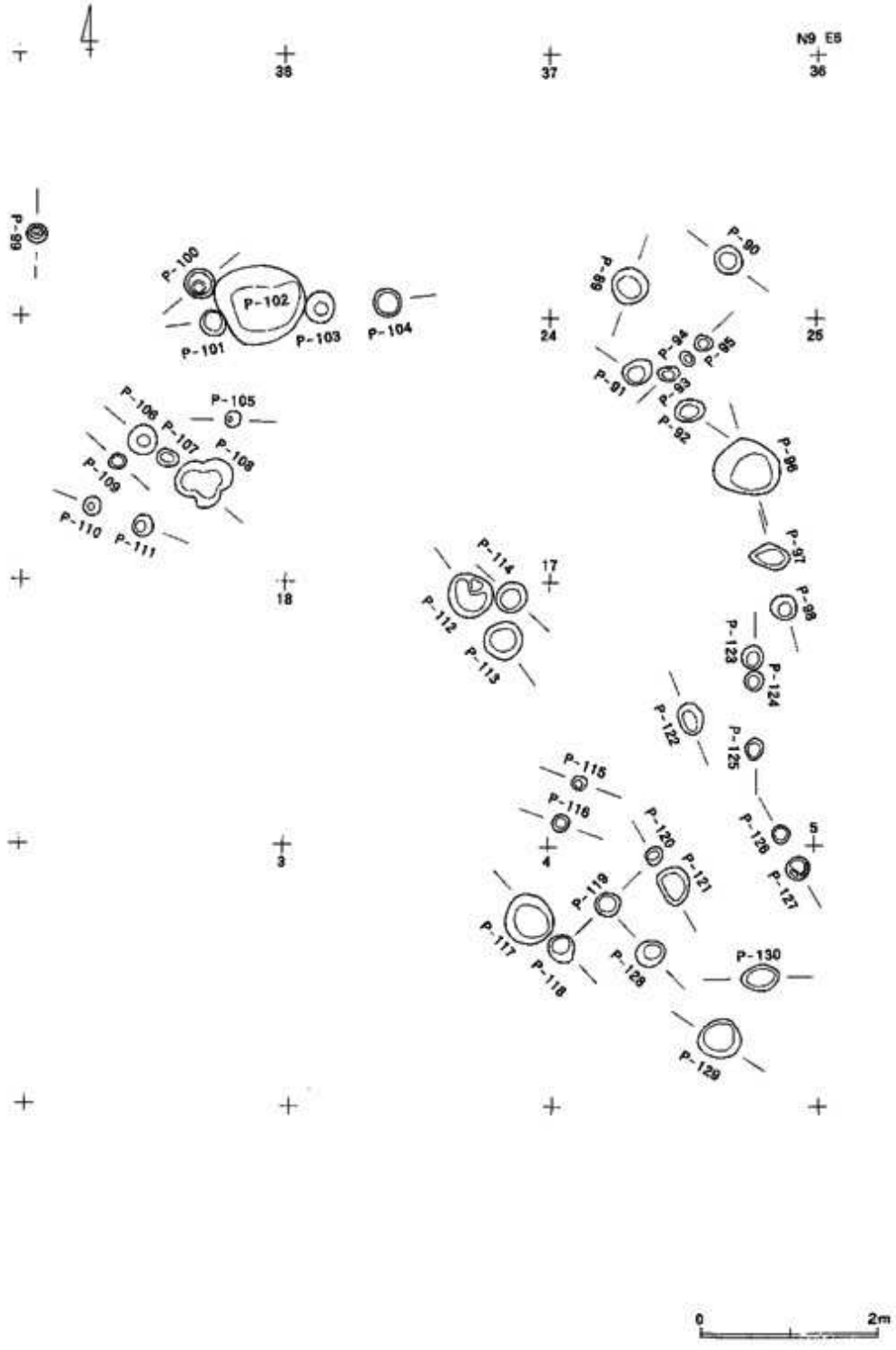
第41図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－49、50、51、52、69、70、71、72、N9E7－41、60、61、80）



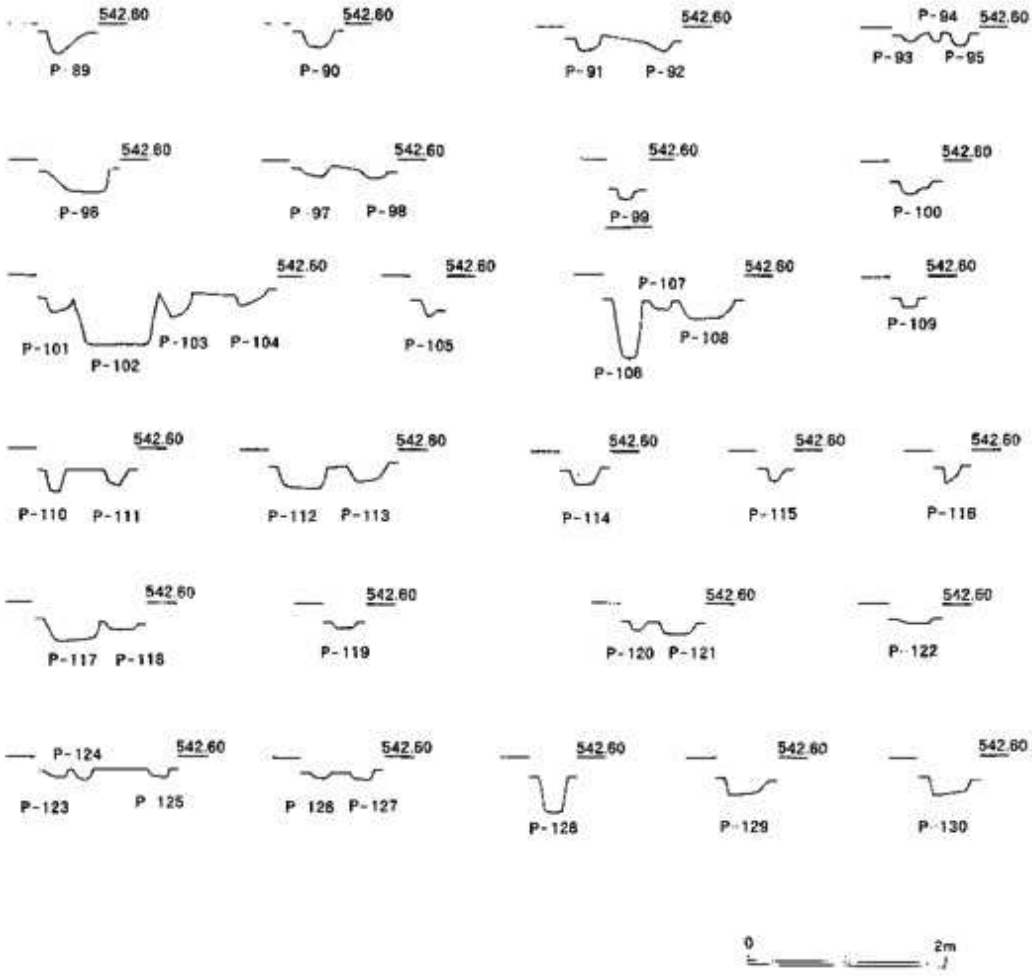
第42図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

(グリットN9E5－10、11、30、31、N9E6－1、2、19、20、21、22、39、40)

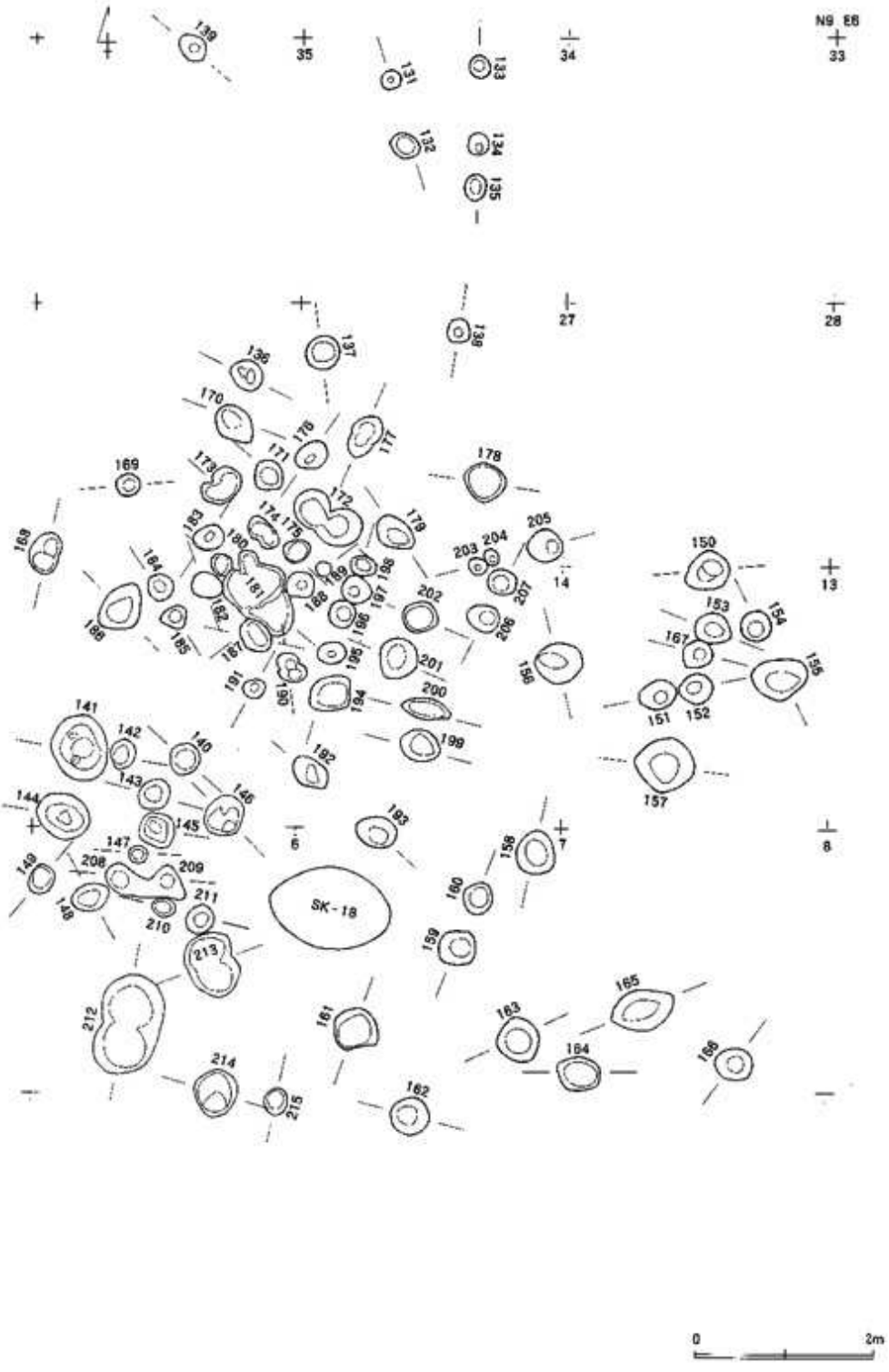


第43図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－3、4、5、16、17、18、23、24、25、36、37、38、）（1）

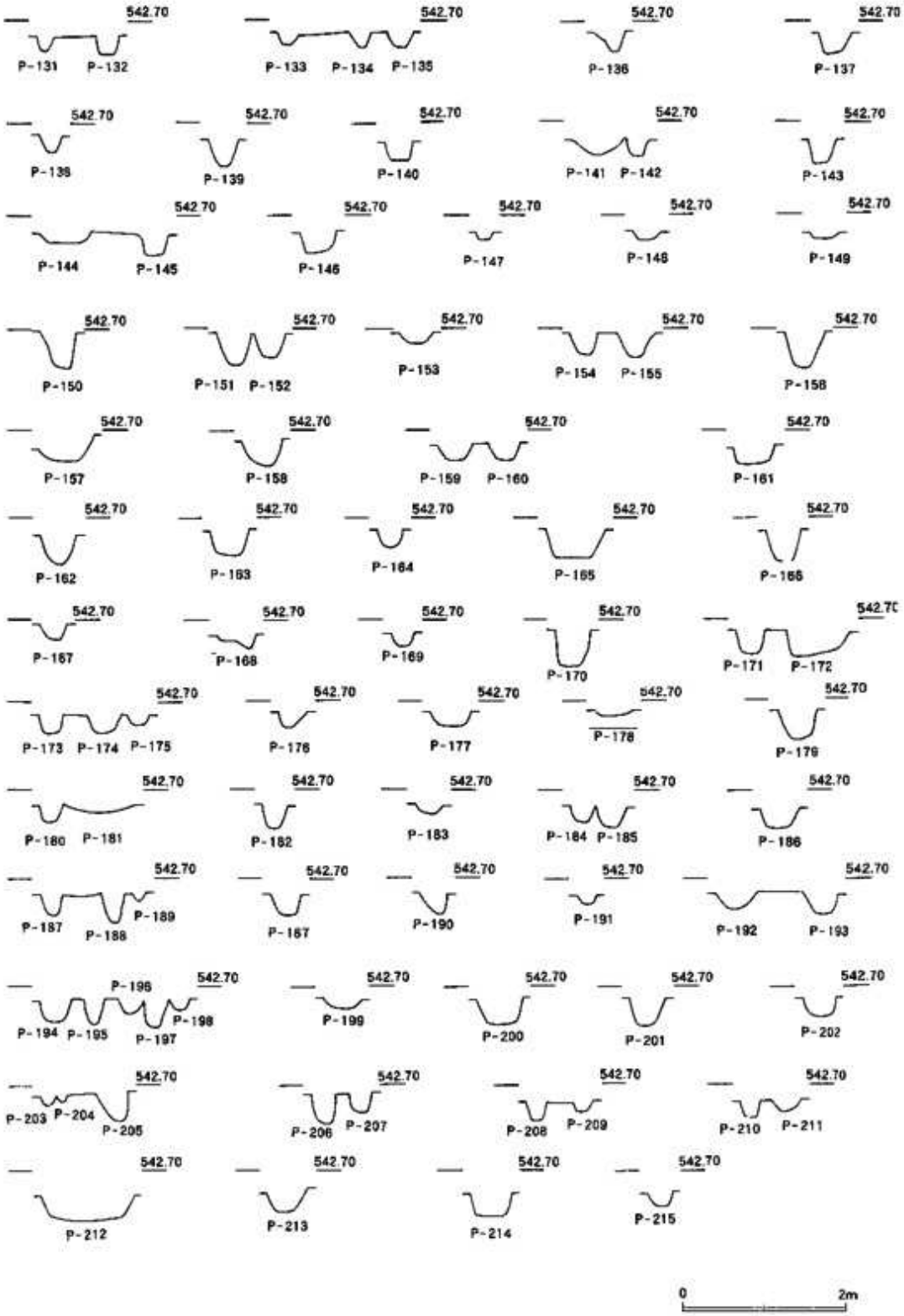


第44図　林之郷遺跡E地区ピット実測図（2）

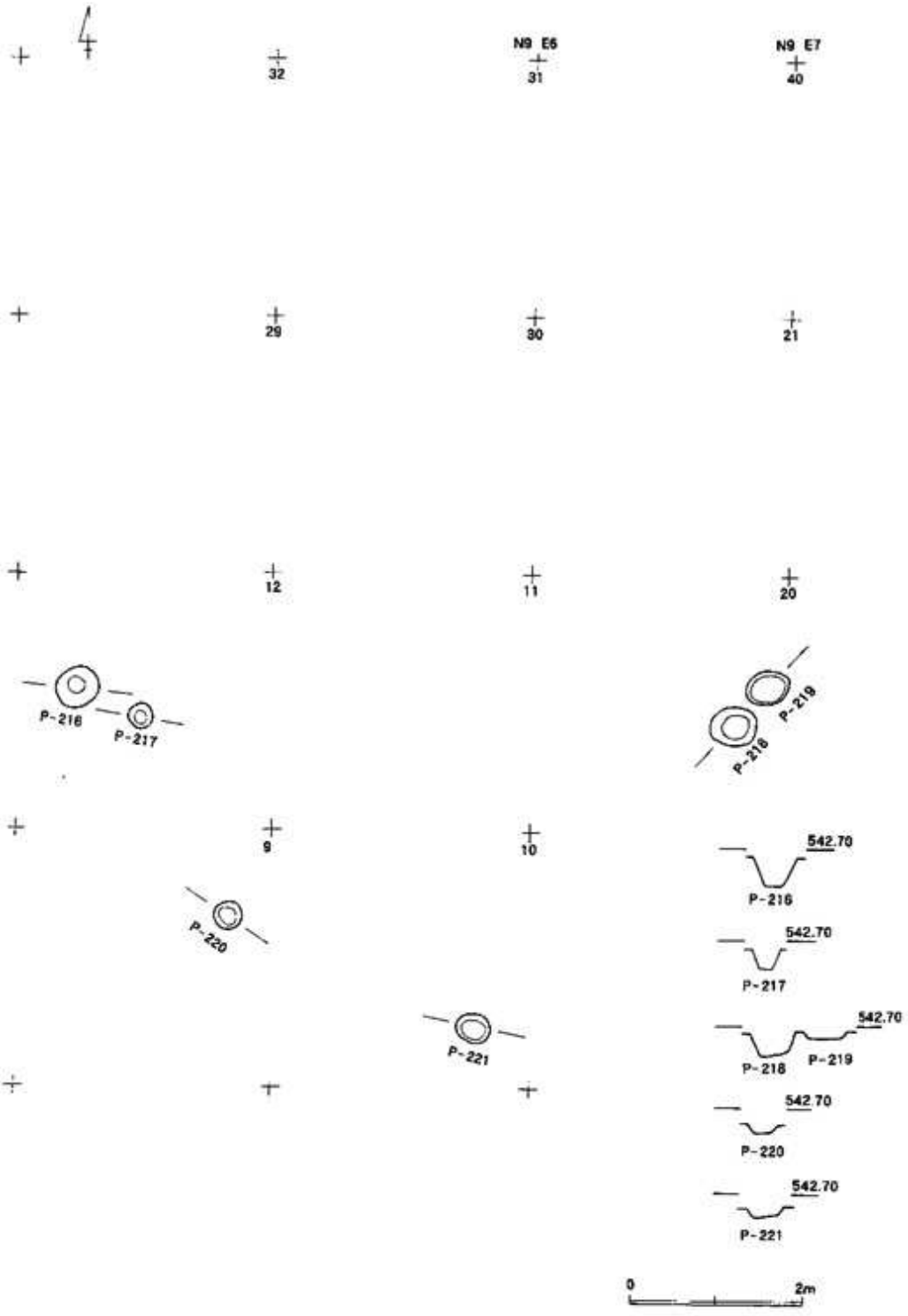


第45図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－6、7、8、13、14、15、26、27、28、33、34、35、）（1）

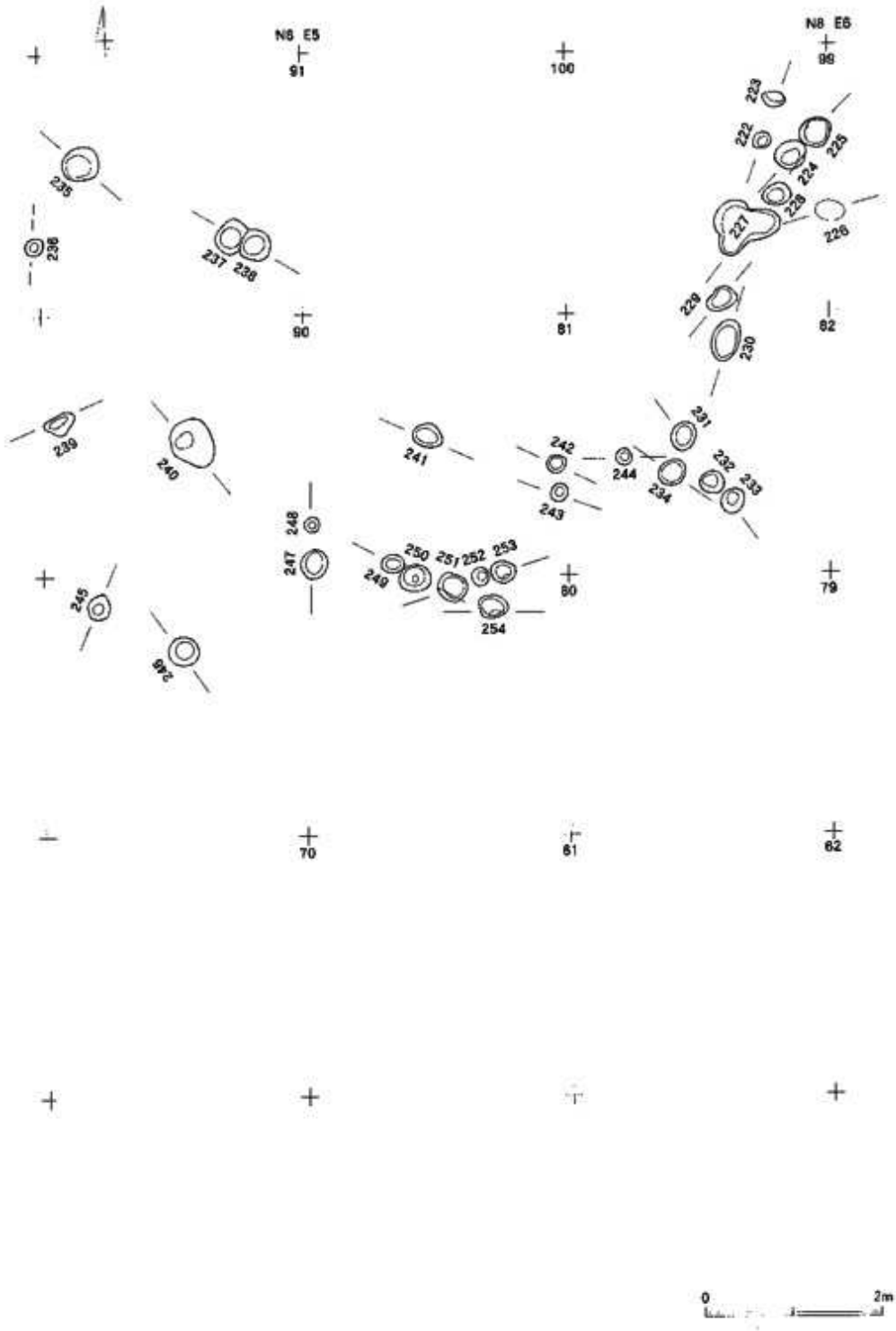


第46図　林之郷遺跡E地区ピット実測図（2）



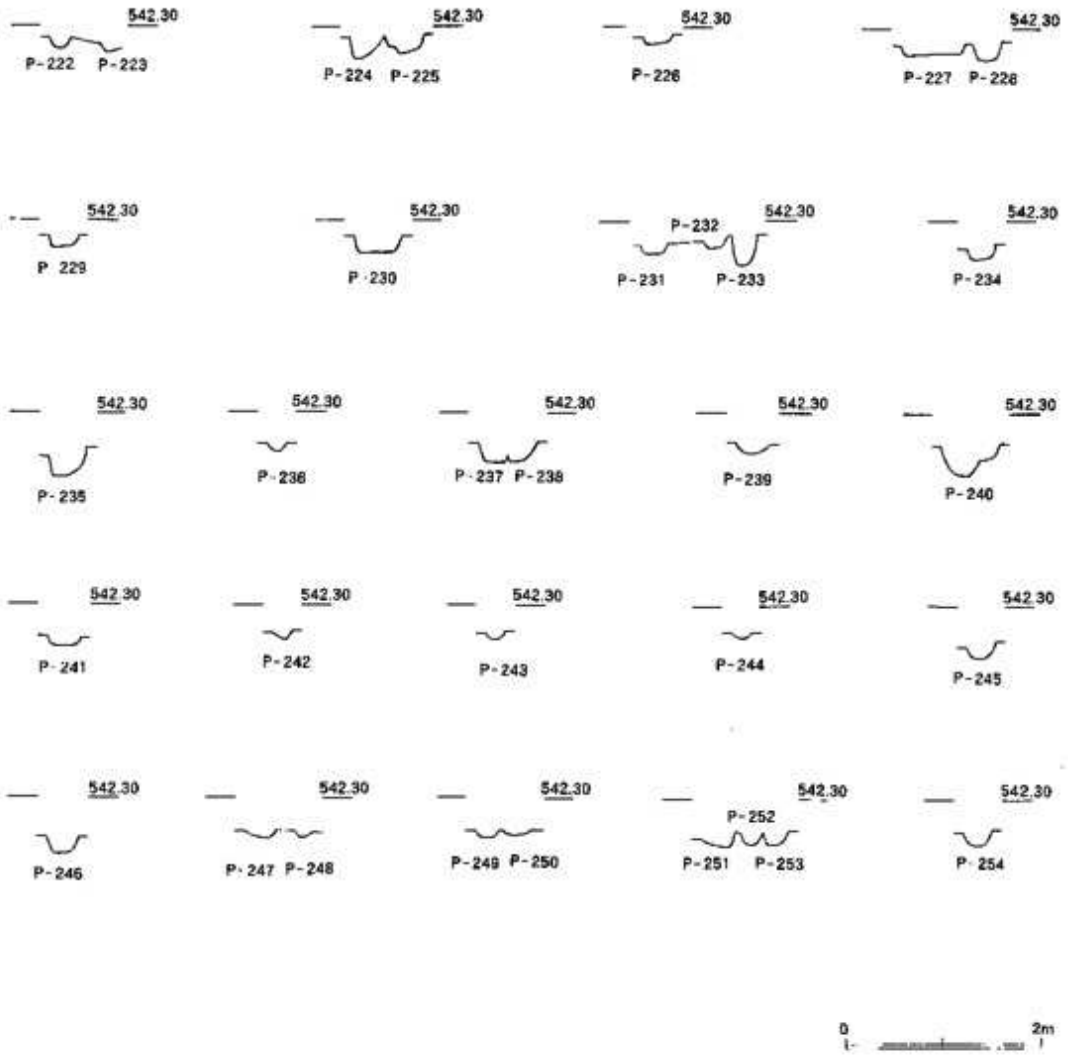
第47図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN9E6－9、10、11、12、29、30、31、32、N9E7－1、20、21、40）

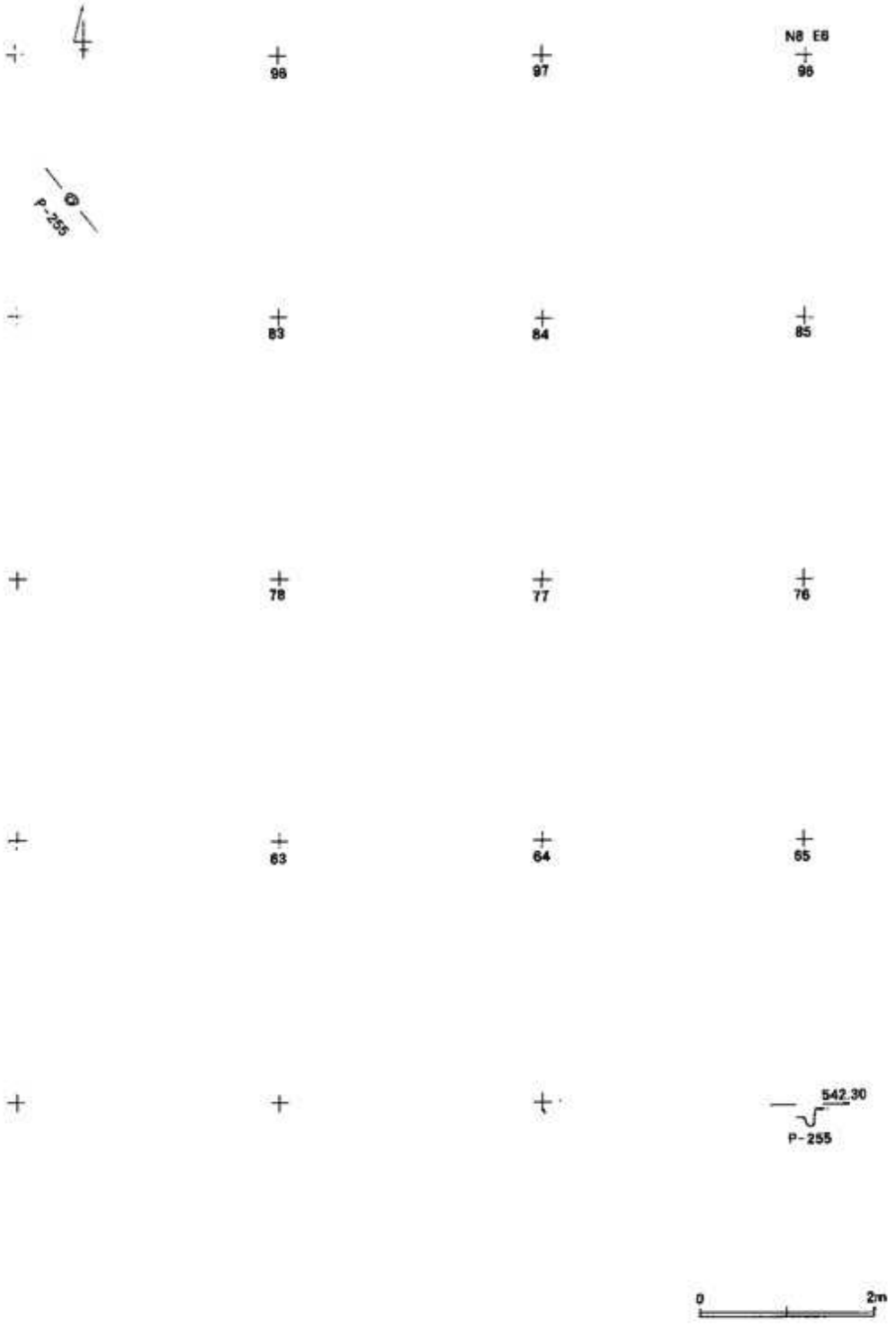


第48図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN8E5－70、71、90、91、N8E6－61、62、79、80、81、82、99、100）（1）

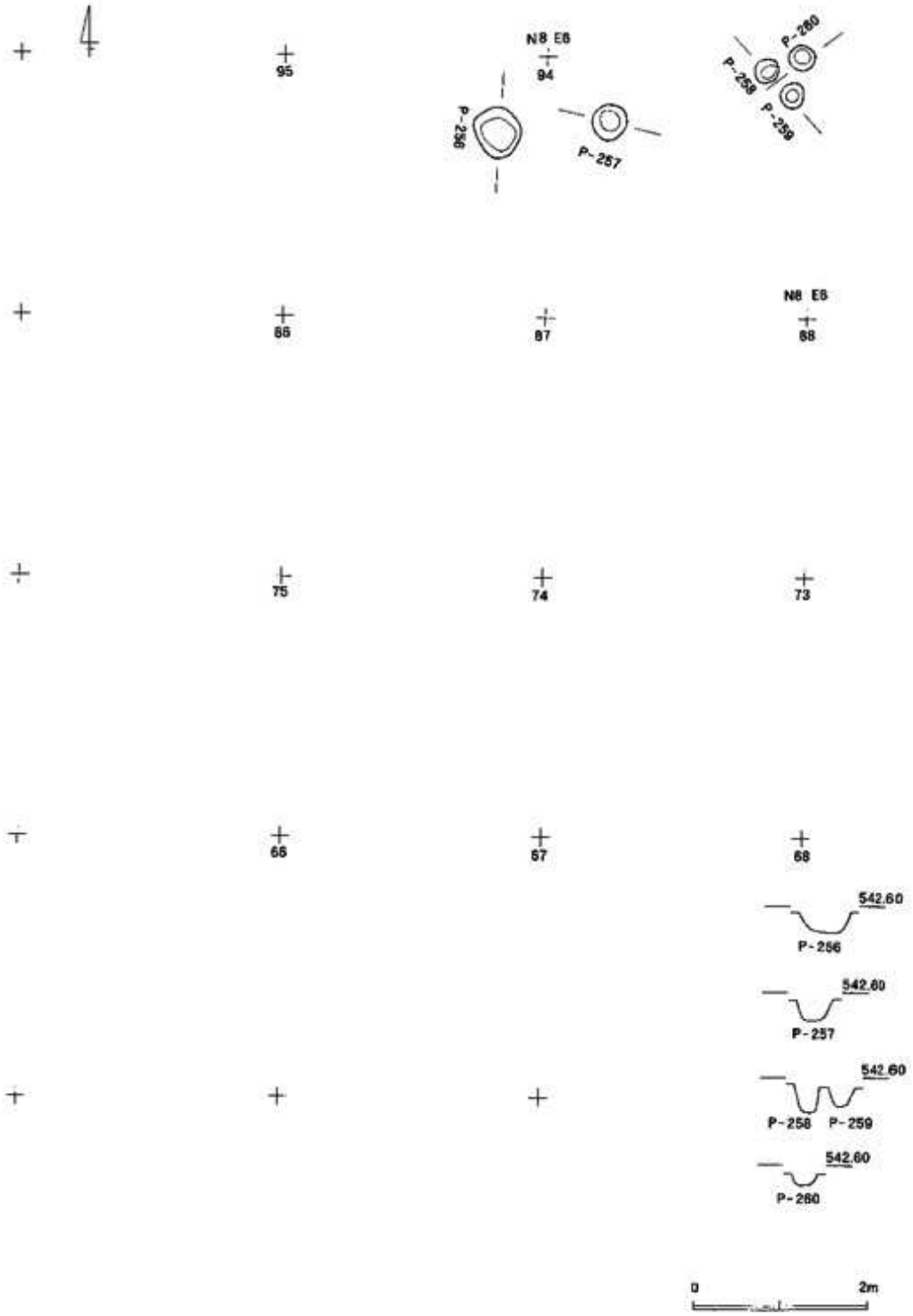


第49図　林之郷遺跡E地区ピット実測図（2）



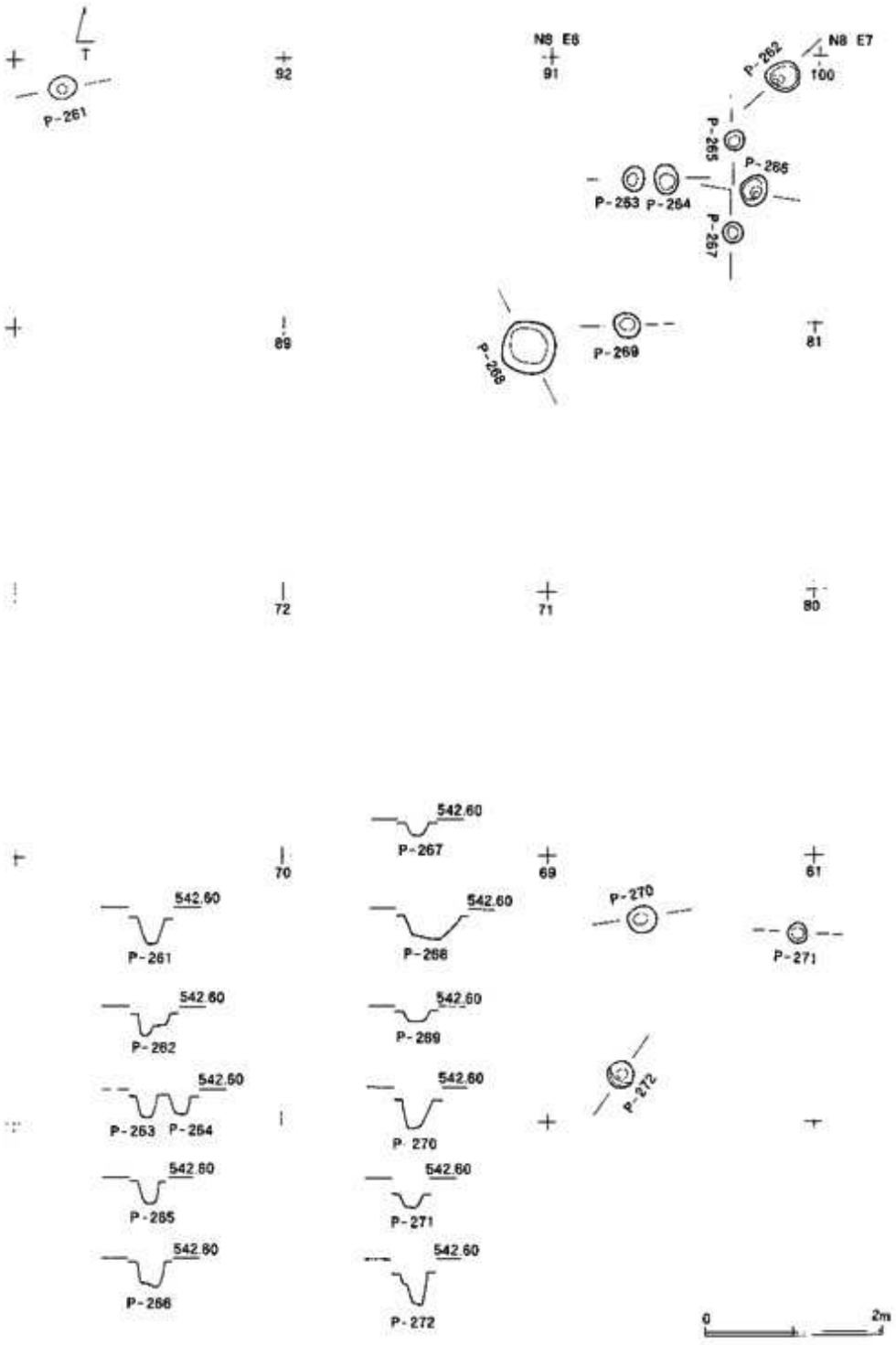
第50図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN8E6－63、64、65、76、77、78、83、84、85、96、97、98）



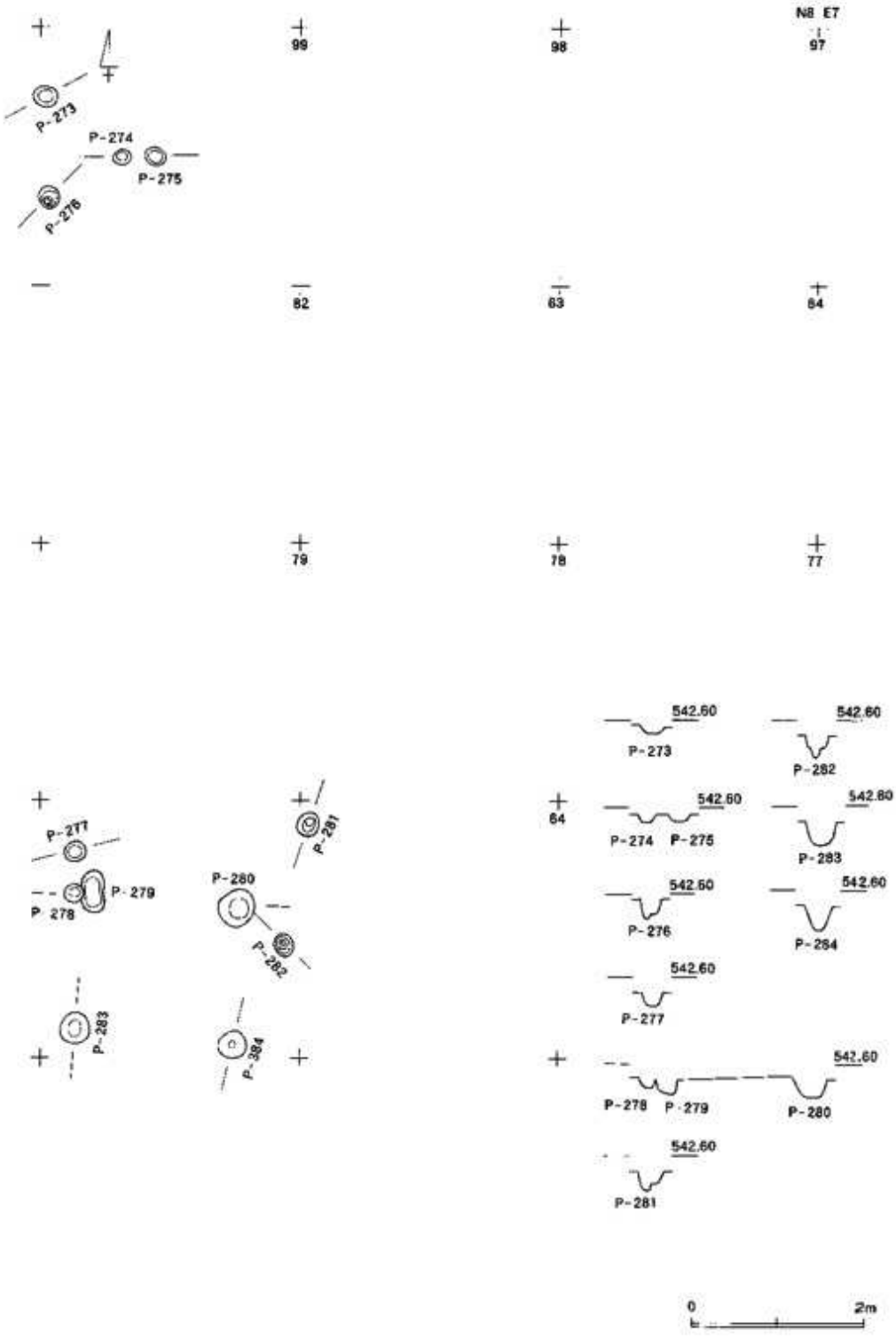
第51図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN8E6－66、67、68、73、74、75、86、87、88、93、94、95）



第52図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

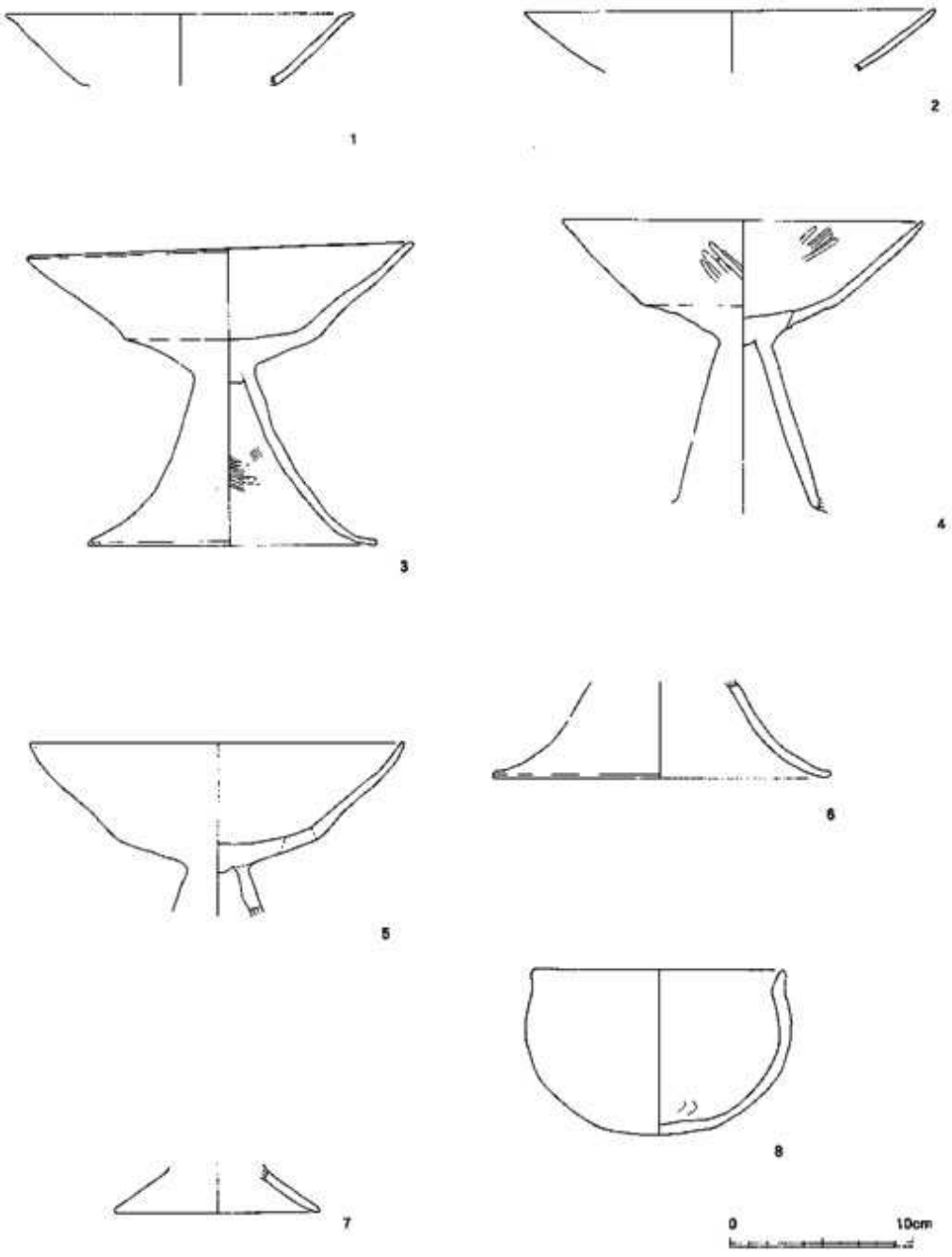
（グリットN8E6－69、70、71、72、89、90、91、92、N8E7－61、80、81、100）



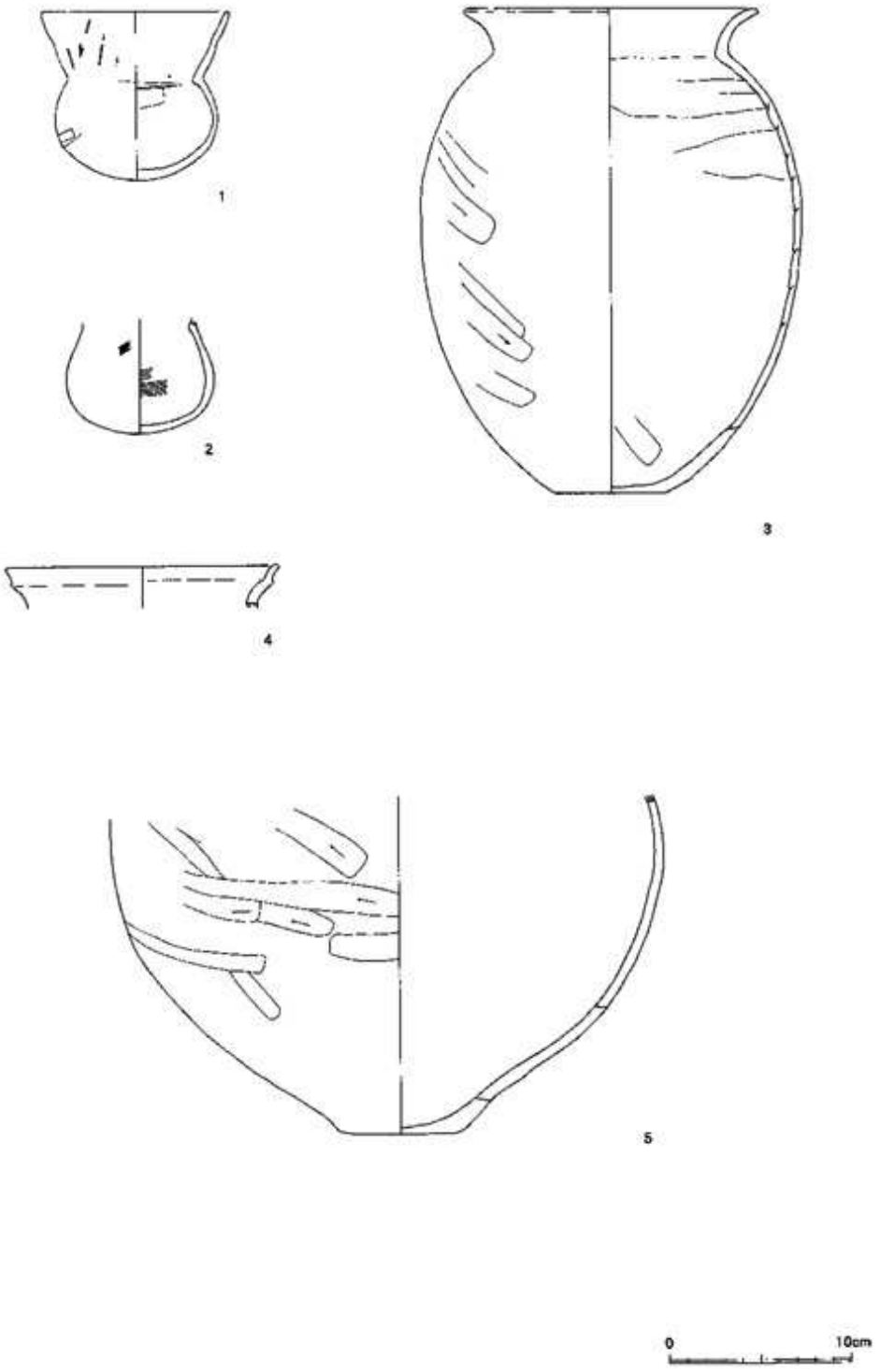
第53図　林之郷遺跡E地区ピット実測図

（グリットN8E7－62、63、64、77、78、79、82、83、84、97、98、99）

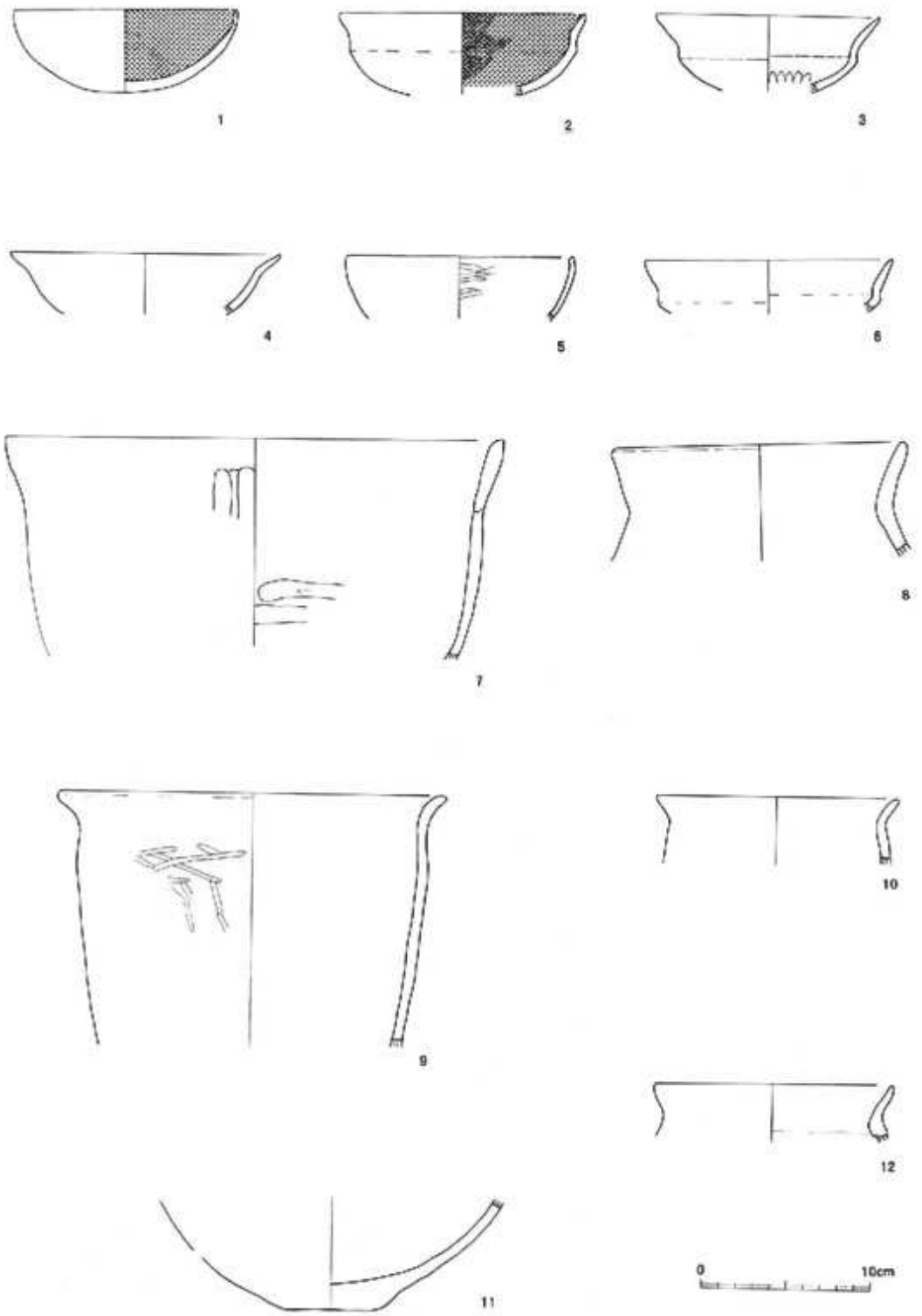
第3節　出土した遺物



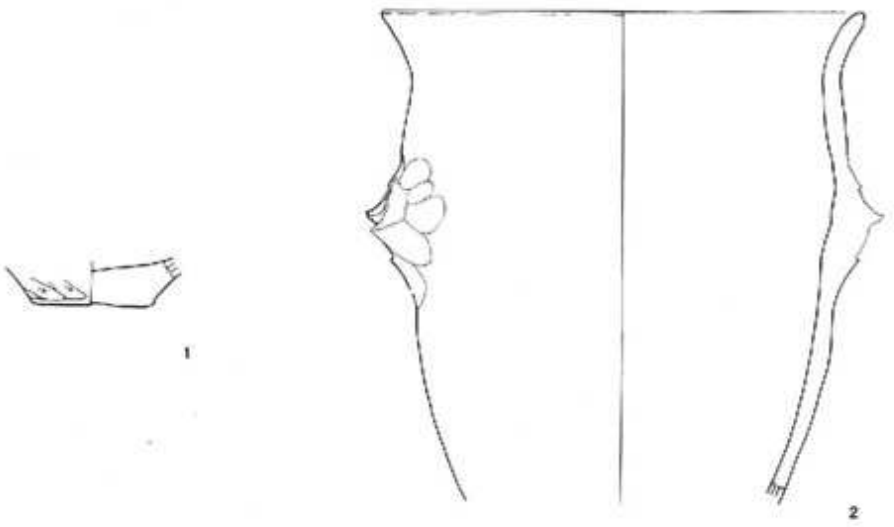
第54図　林之郷遺跡E地区第1号住居址遺物実測図（1）



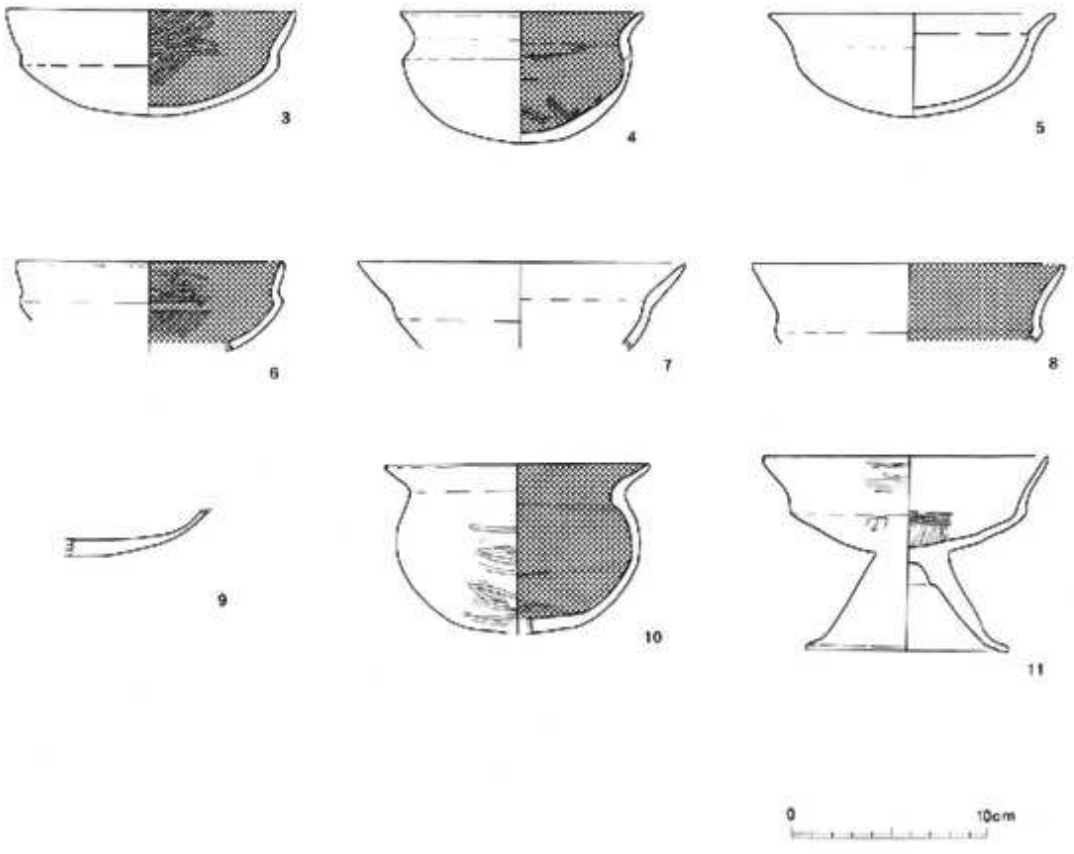
第55図　林之郷遺跡E地区第1号住居址遺物実測図（2）



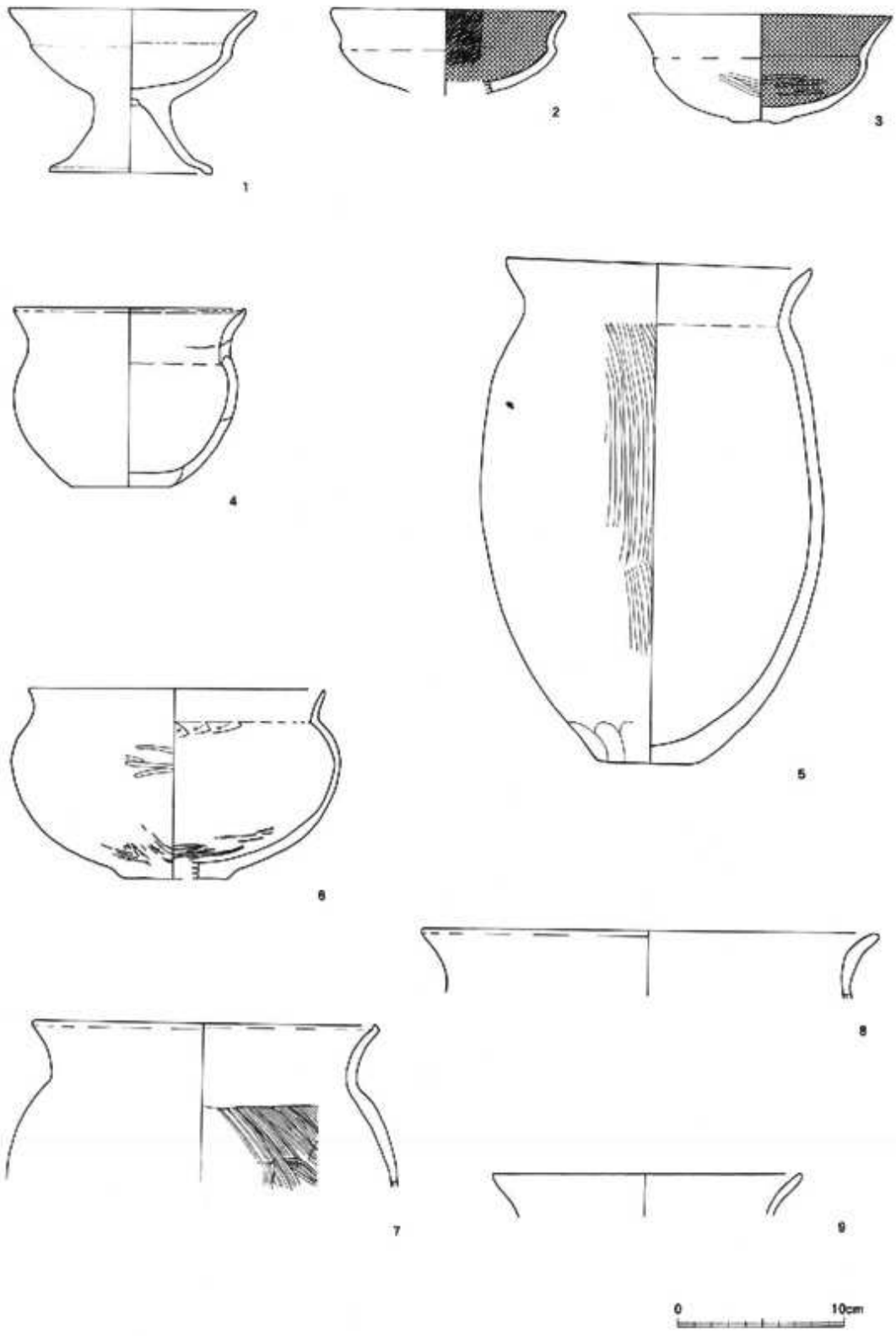
第56図　林之郷遺跡E地区第2号住居址遺物実測図（1）



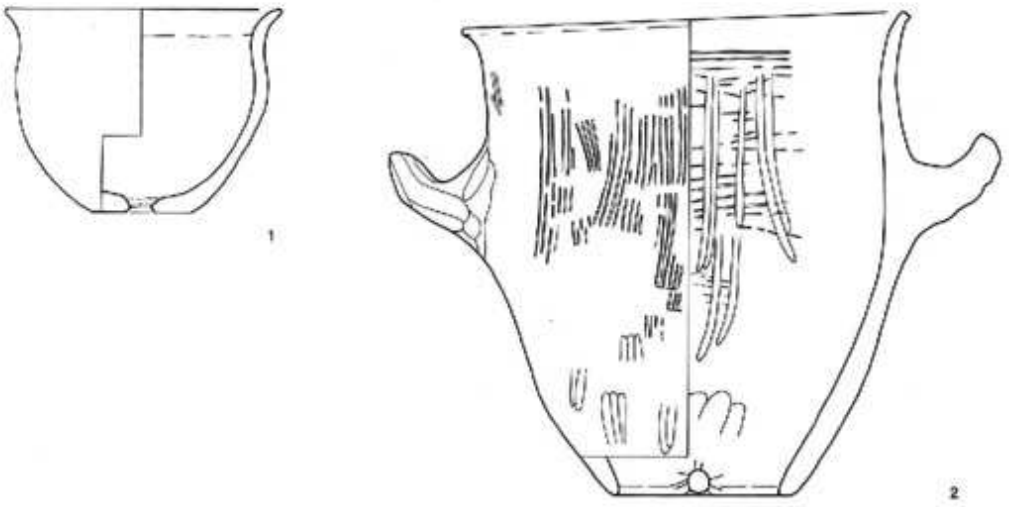
第57図　林之郷遺跡E地区第2号住居址遺物実測図（2）



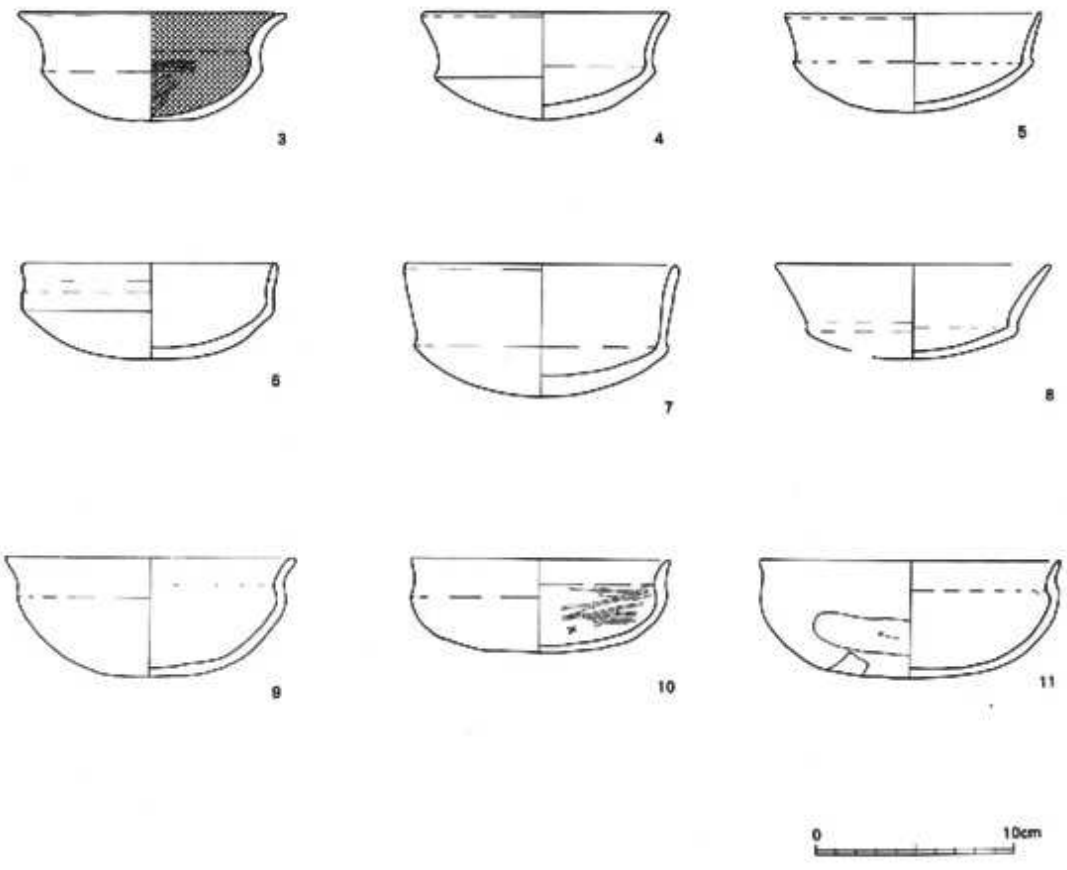
第58図　林之郷遺跡E地区第3号住居址遺物実測図（1）



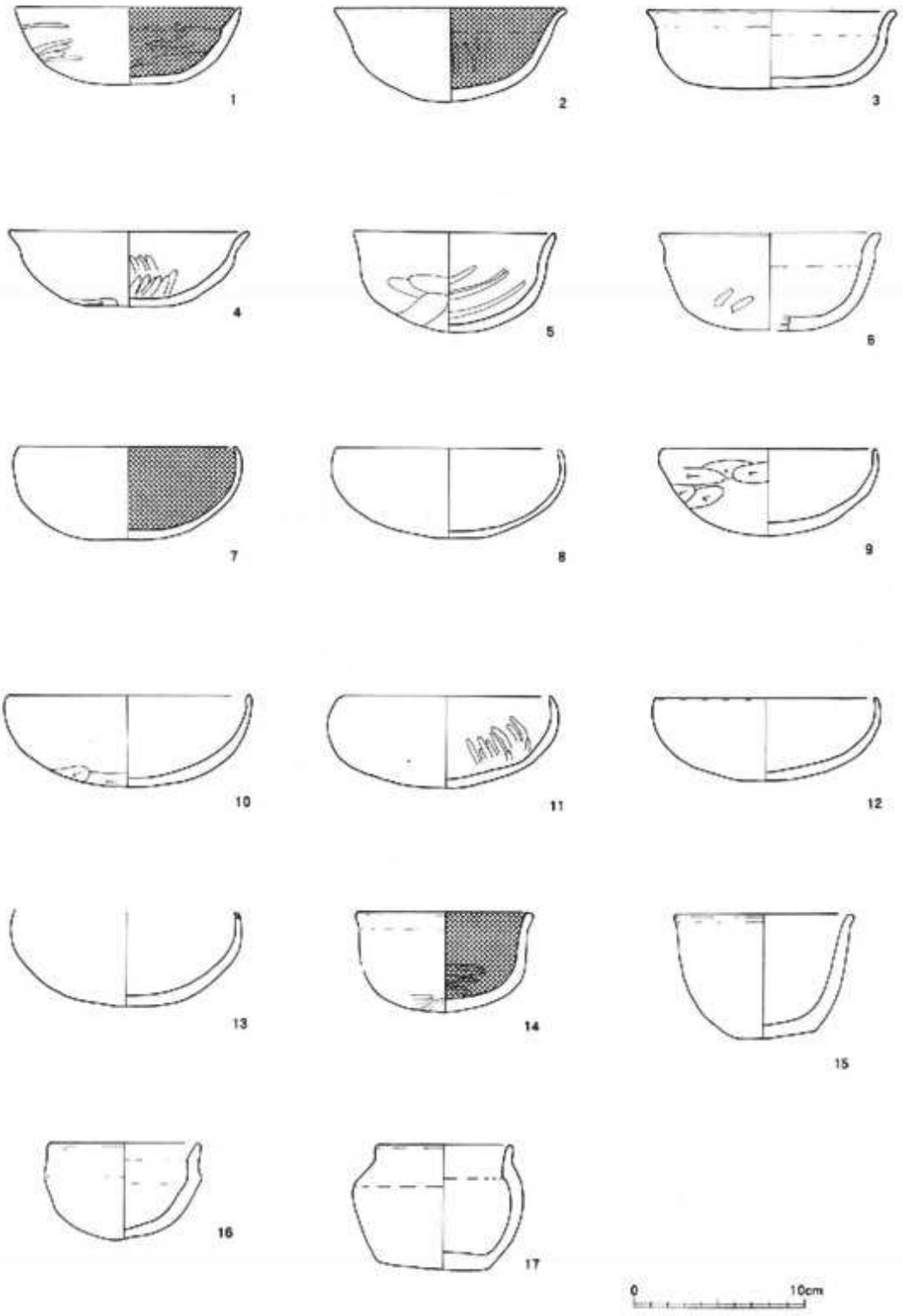
第59図　林之郷遺跡E地区第3号住居址遺物実測図（2）



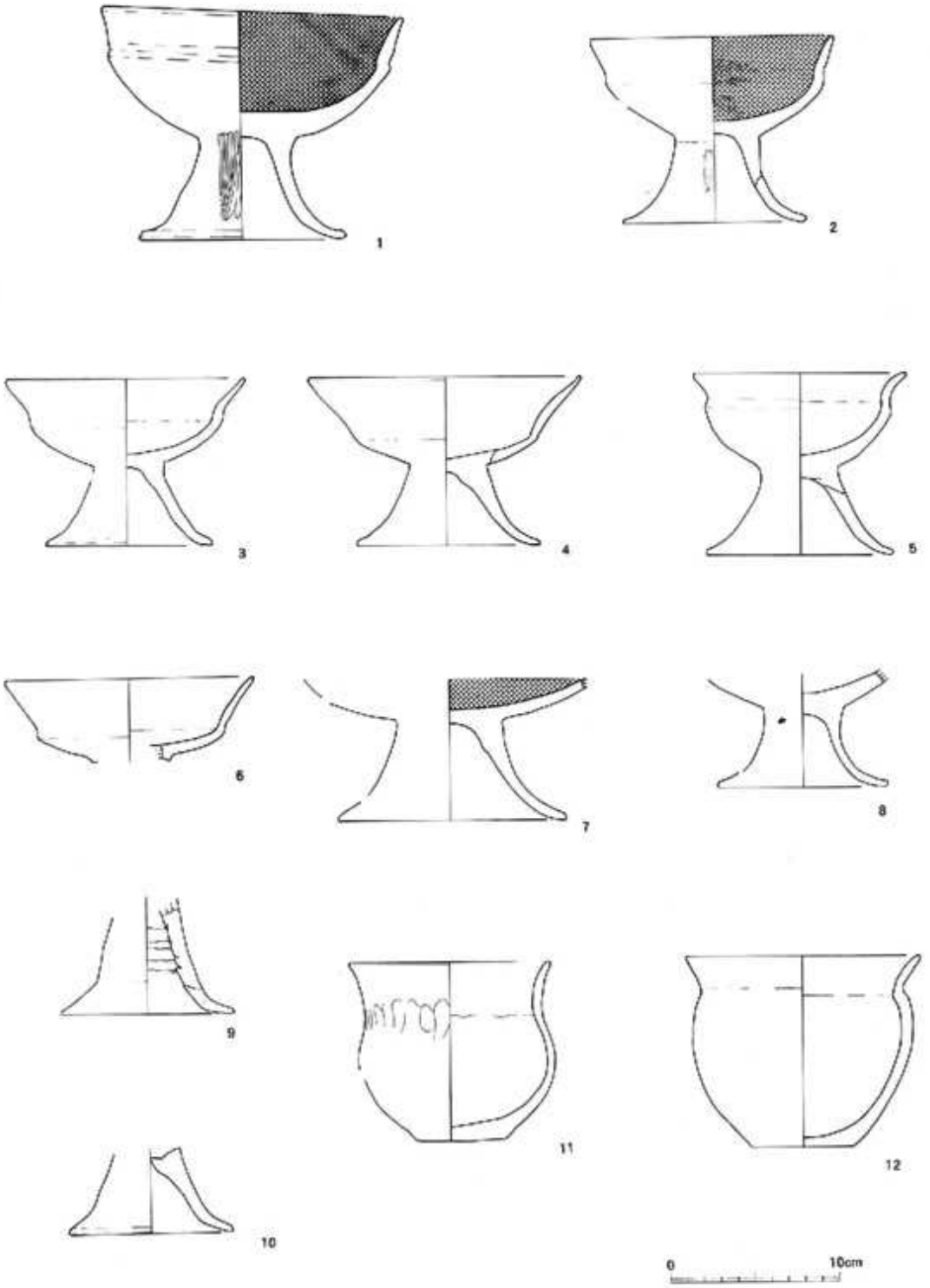
第60図　林之郷遺跡E地区第3号住居址遺物実測図（3）



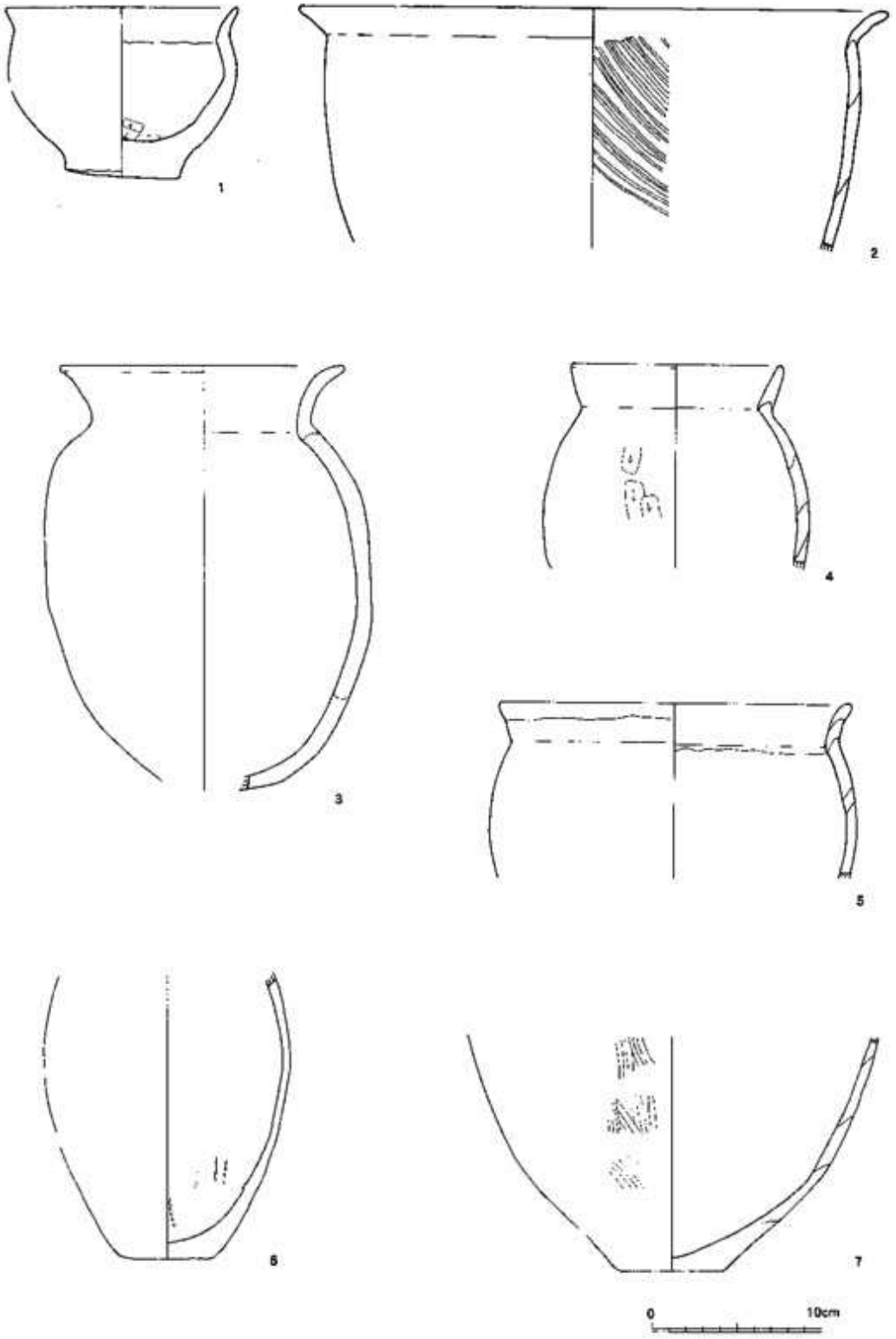
第61図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（1）



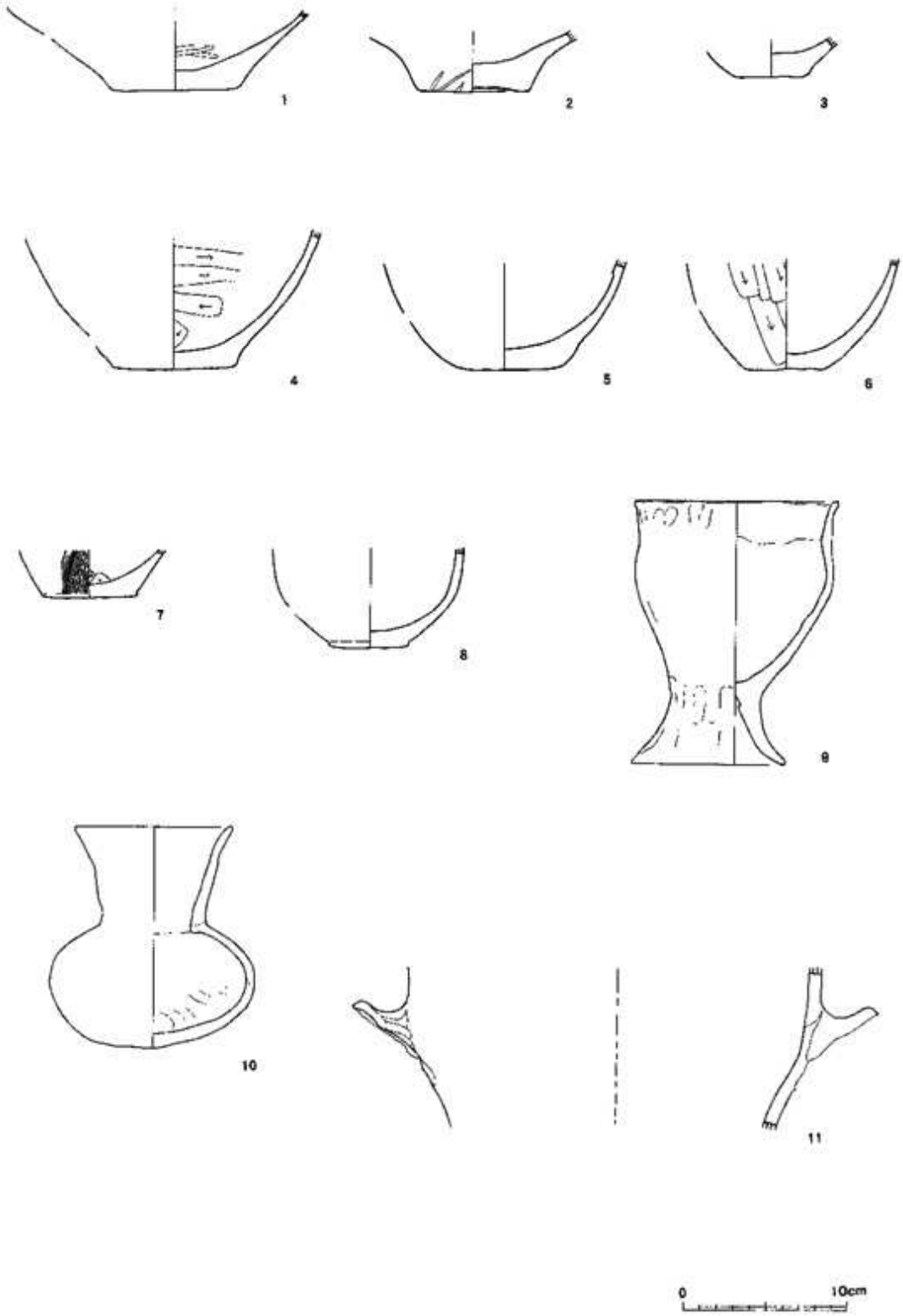
第62図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（2）



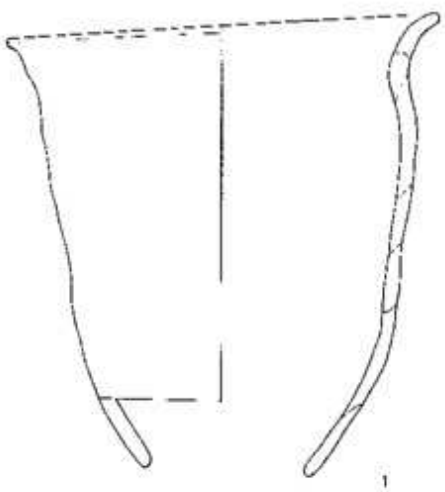
第63図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（3）



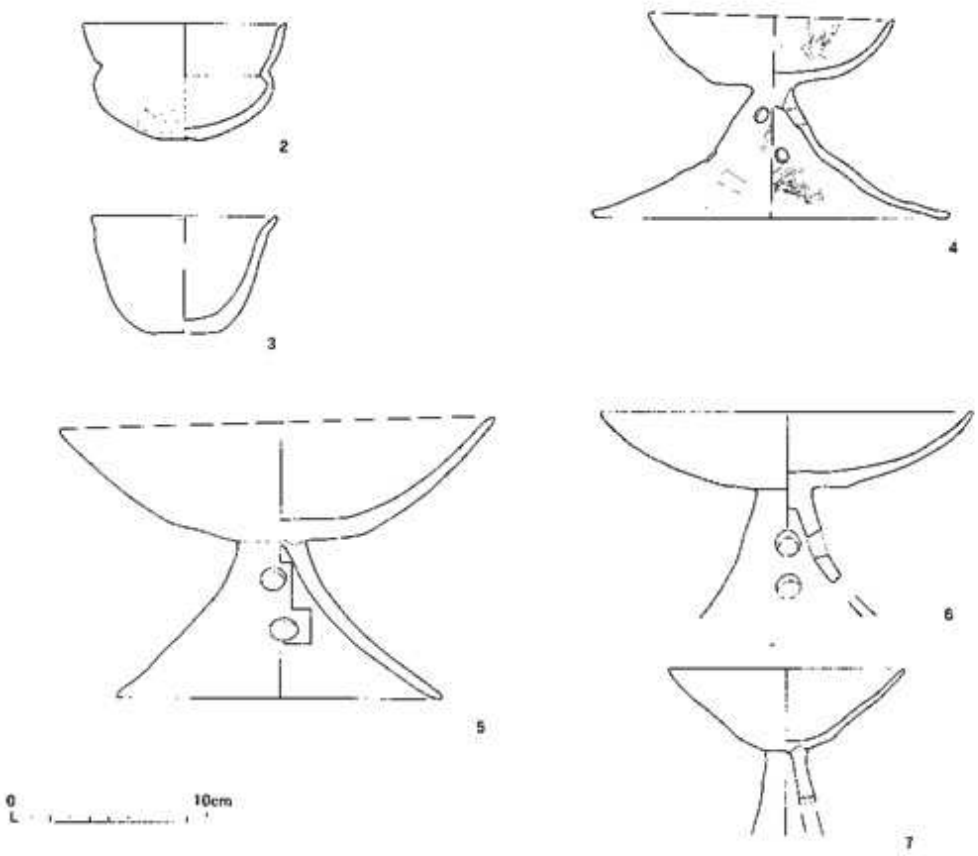
第64図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（4）



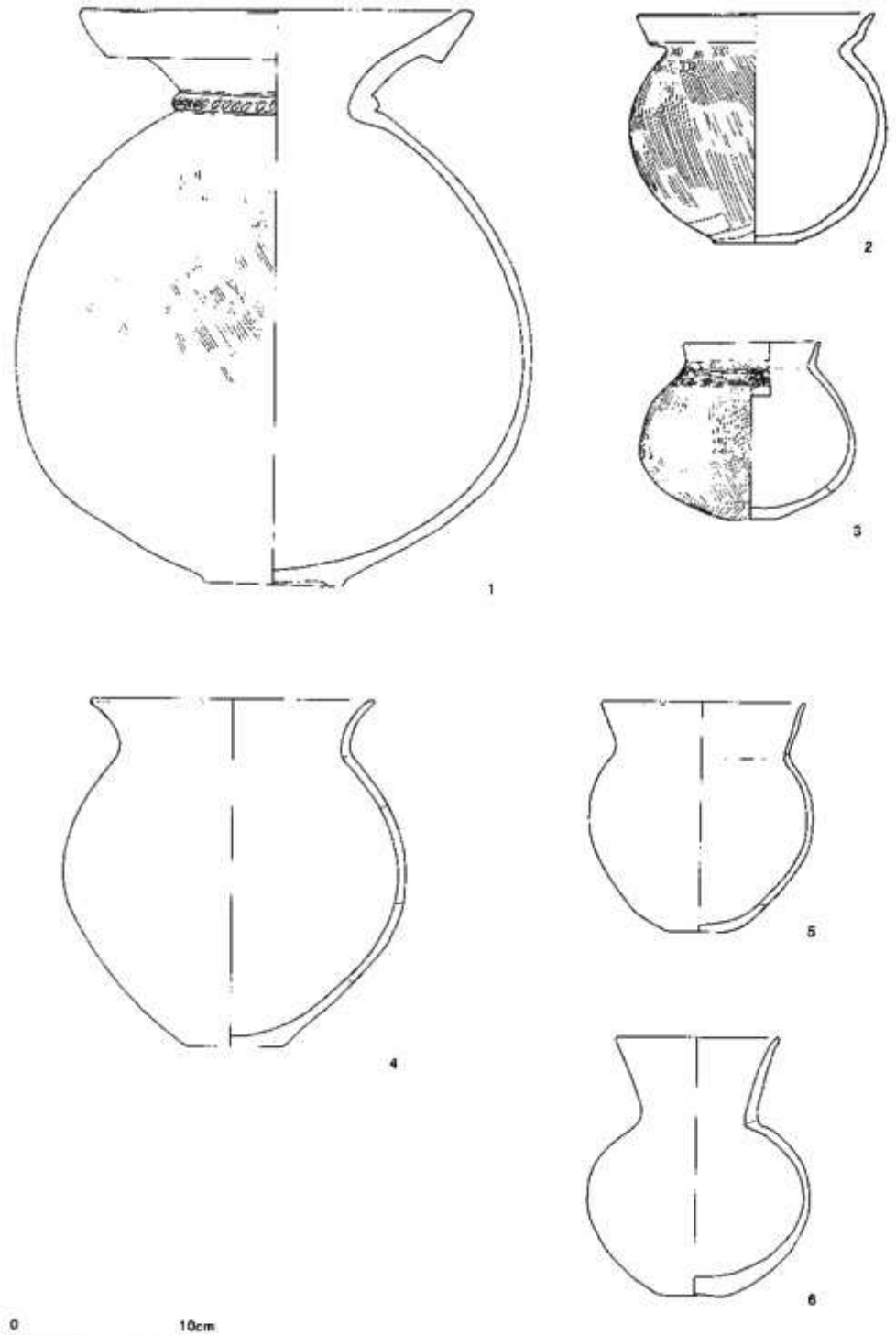
第65図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（5）



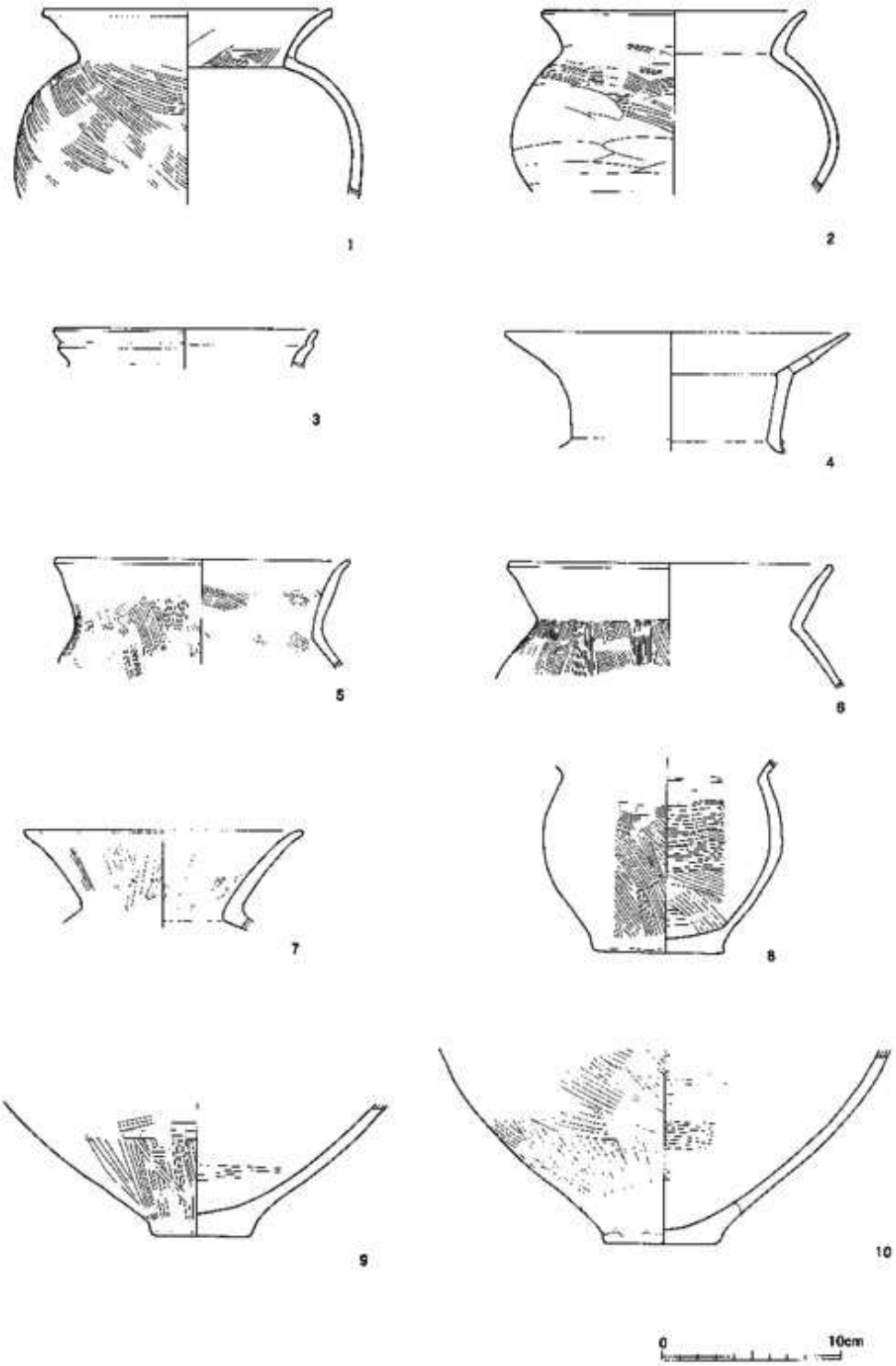
第66図　林之郷遺跡E地区第5号住居址遺物実測図（6）



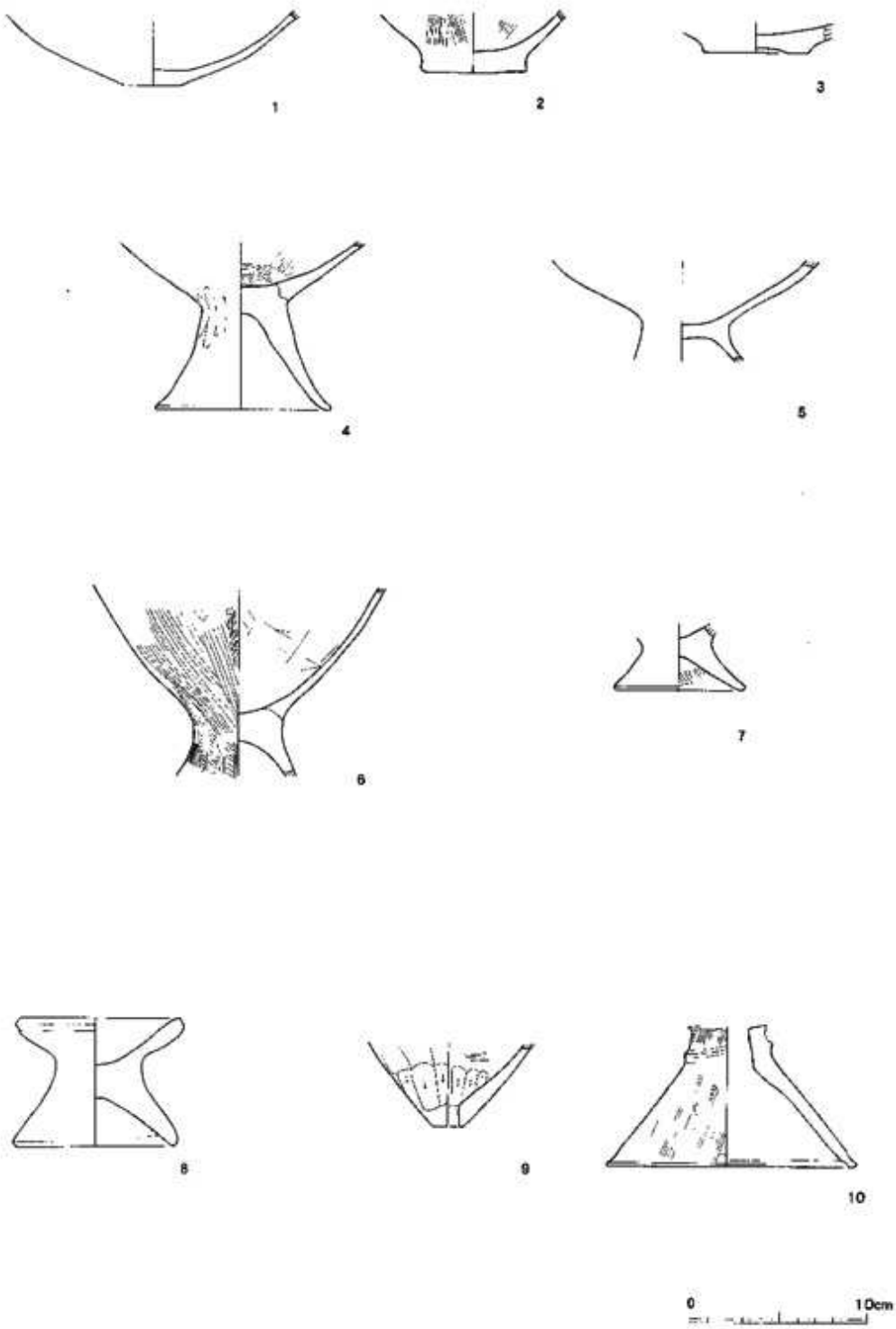
第67図　林之郷遺跡E地区第6号住居址遺物実測図（1）



第68図　林之郷遺跡E地区第6号住居址遺物実測図（2）

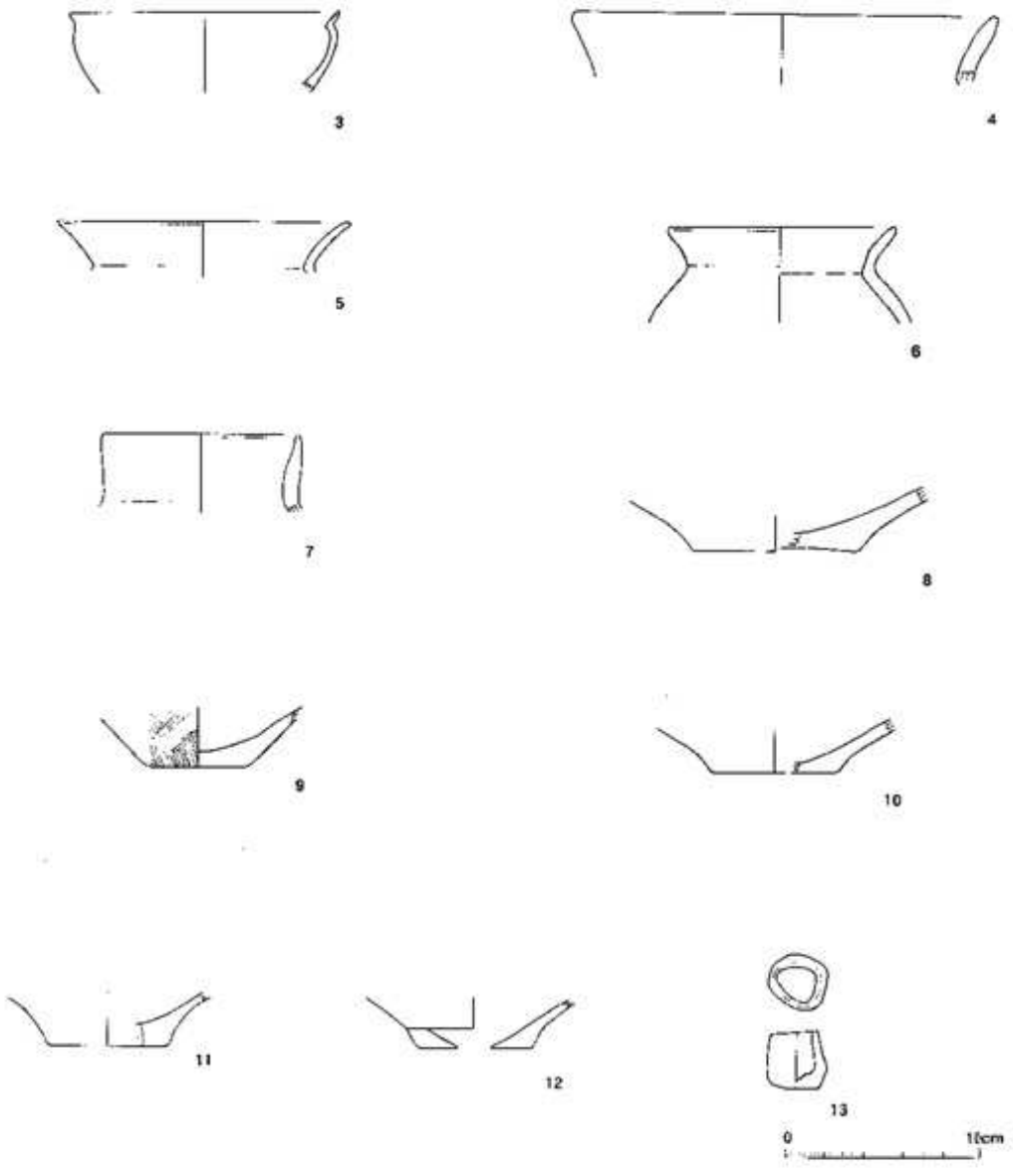


第69図　林之郷遺跡E地区第6号住居址遺物実測図（3）

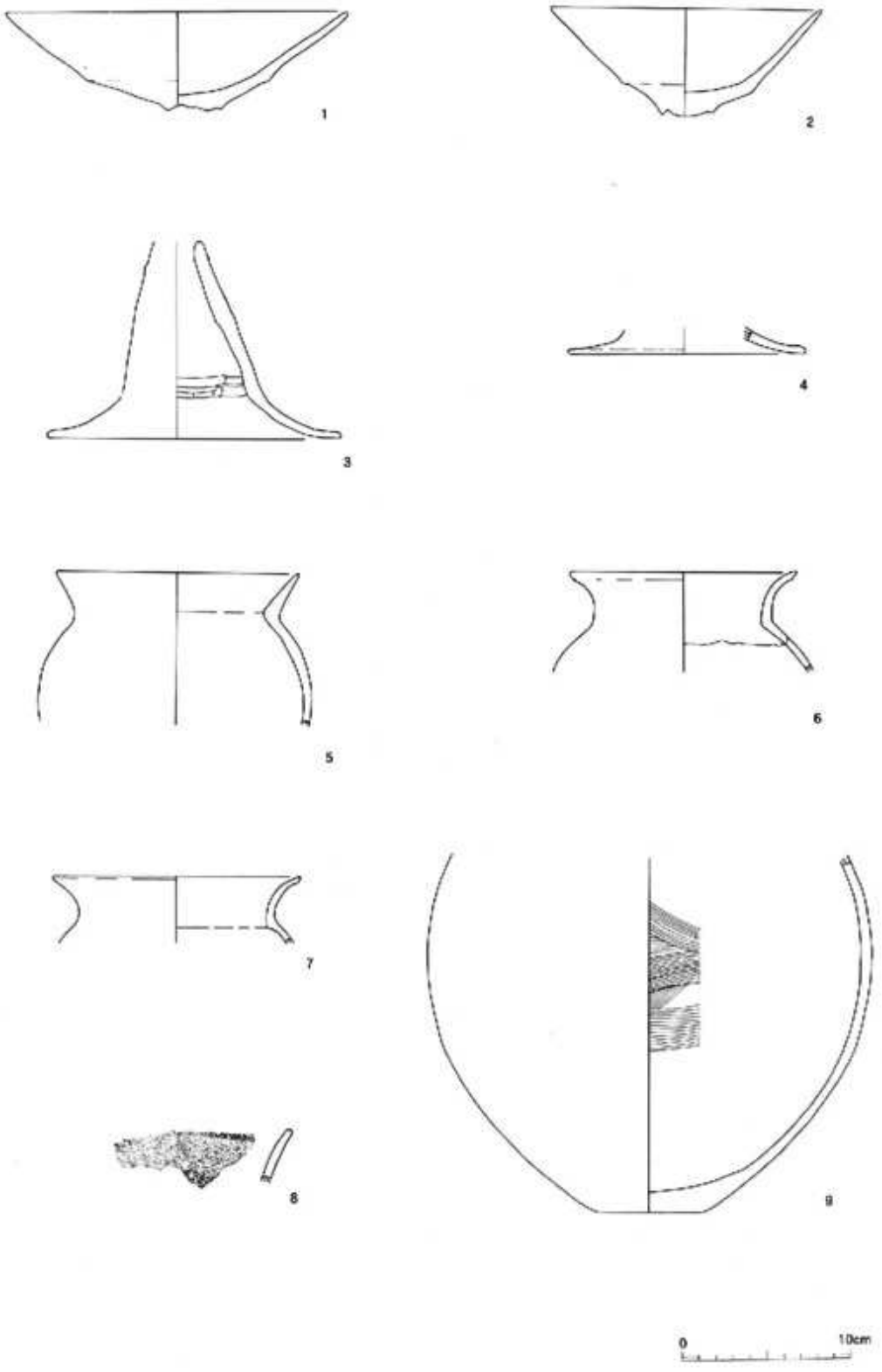


第70図　林之郷遺跡E地区第6号住居址遺物実測図（4）

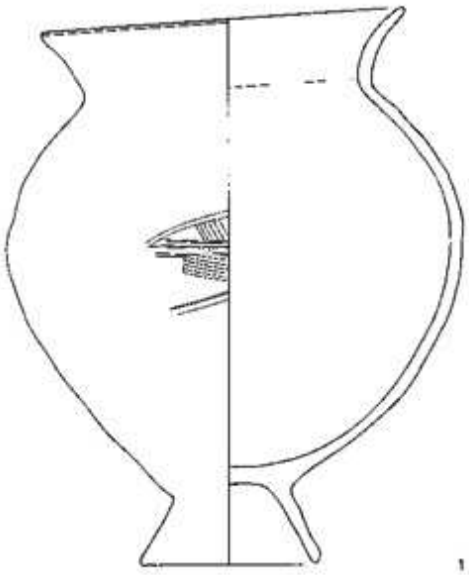
第71図　林之郷遺跡E地区第6号住居址遺物実測図（5）



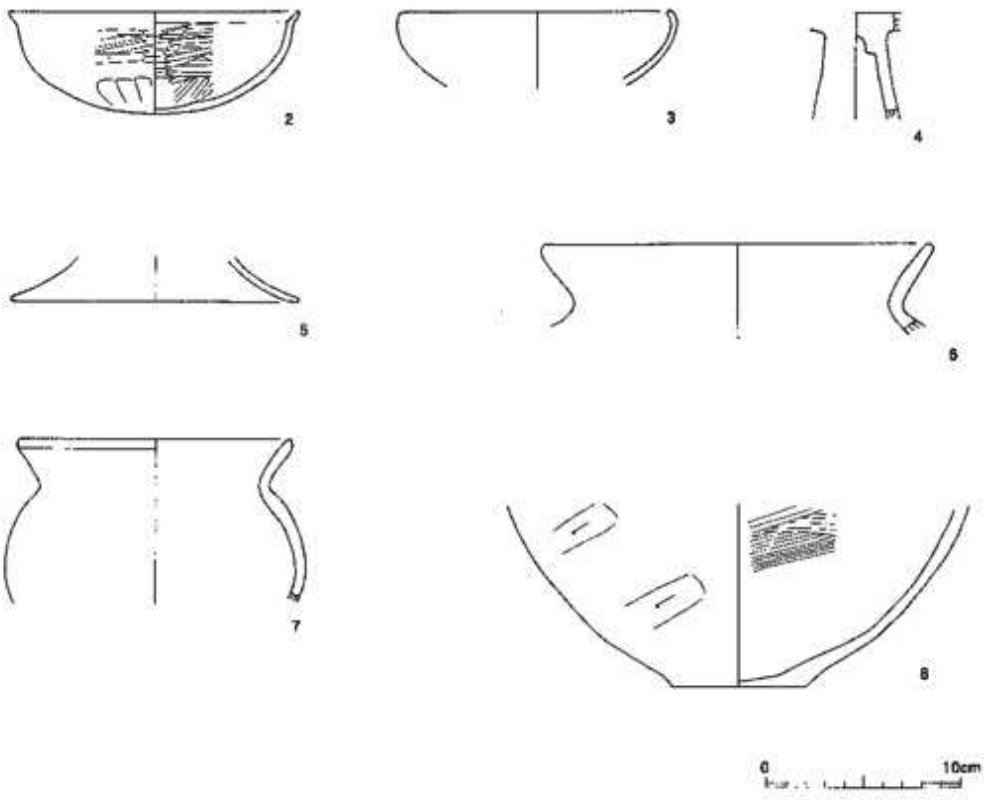
第72図　林之郷遺跡E地区第7号住居址遺物実測図



第73図　林之郷遺跡E地区第8号住居址遺物実測図

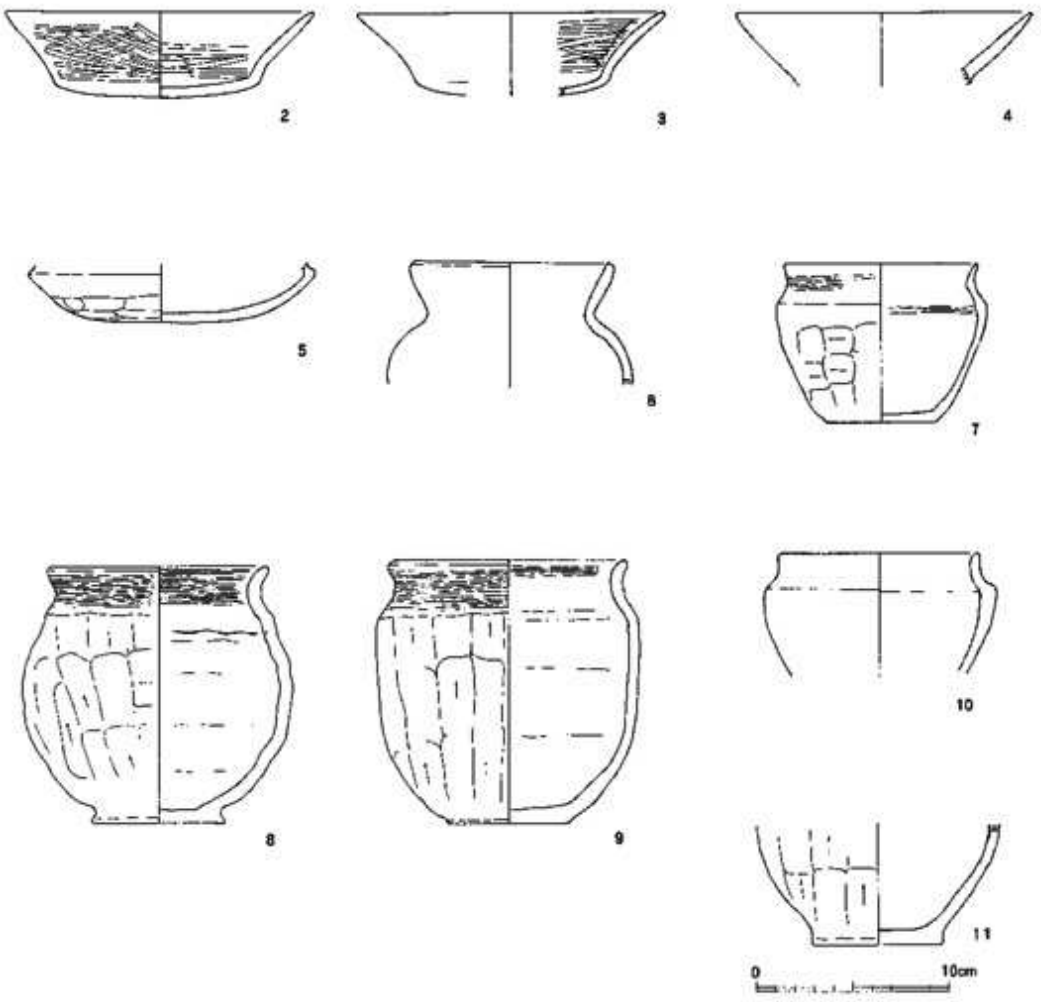


第74図　林之郷遺跡E地区第9号住居址遺物実測図

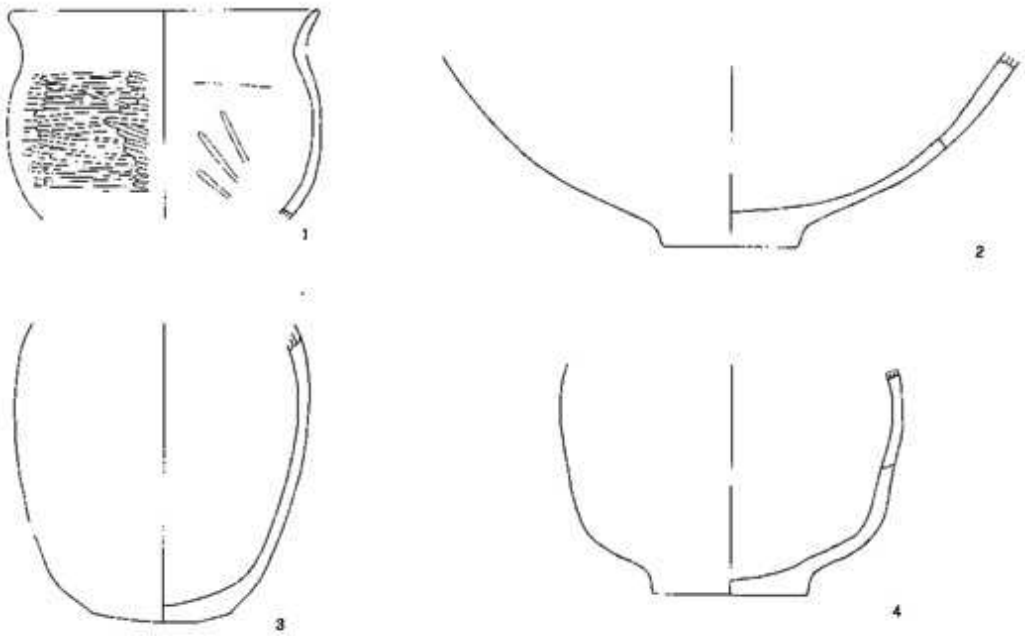


第75図　林之郷遺跡E地区第10号住居址遺物実測図（1）

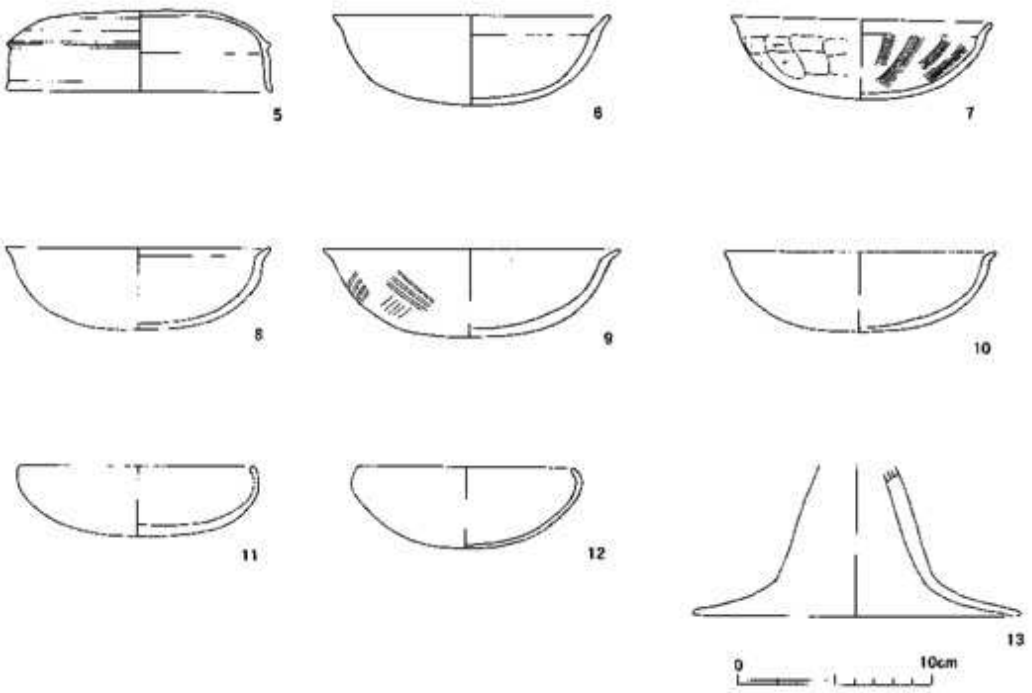
第76図　林之郷遺跡E地区第10号住居址遺物実測図（2）



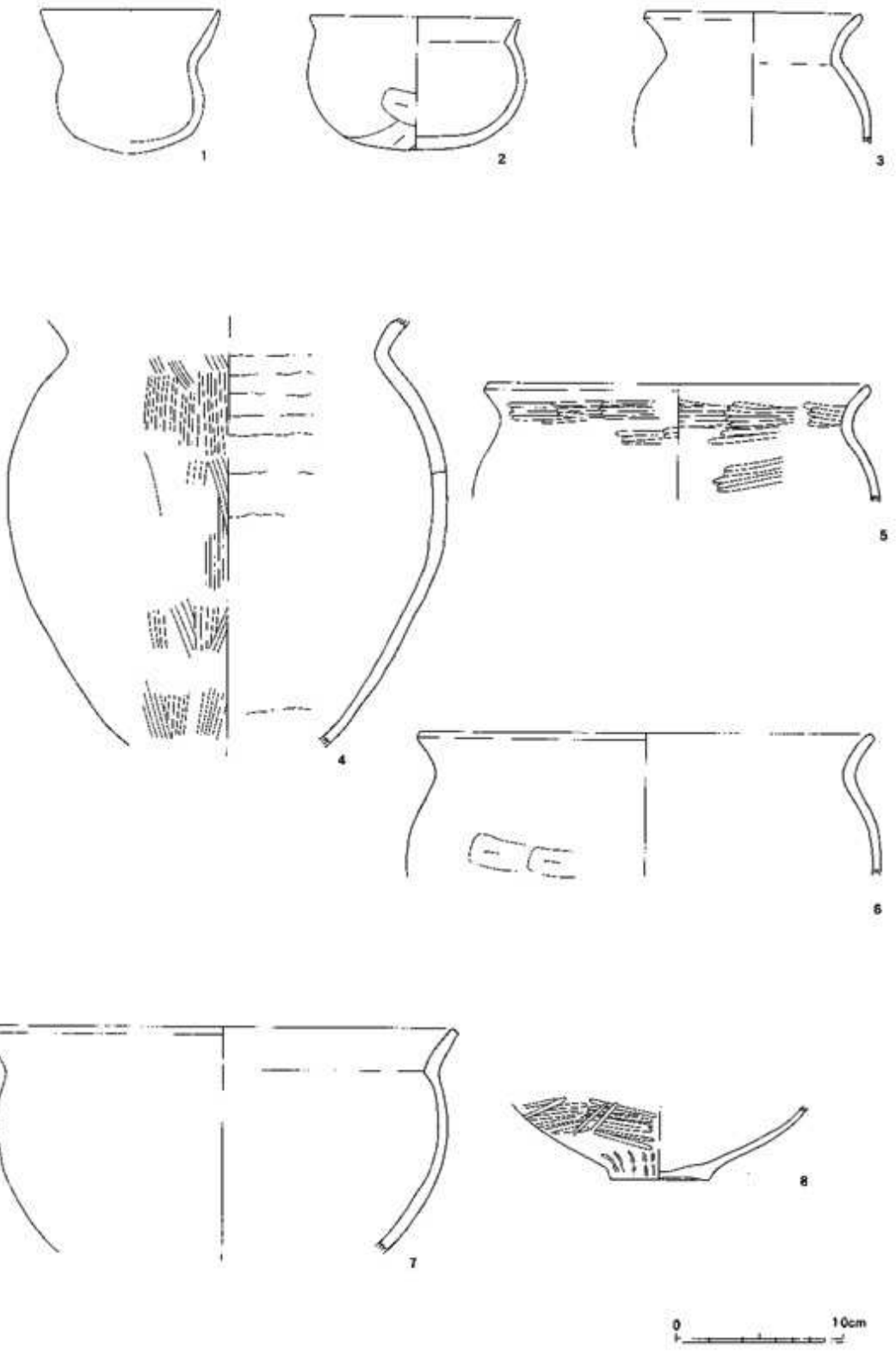
第77図　林之郷遺跡E地区第11号住居址遺物実測図（1）



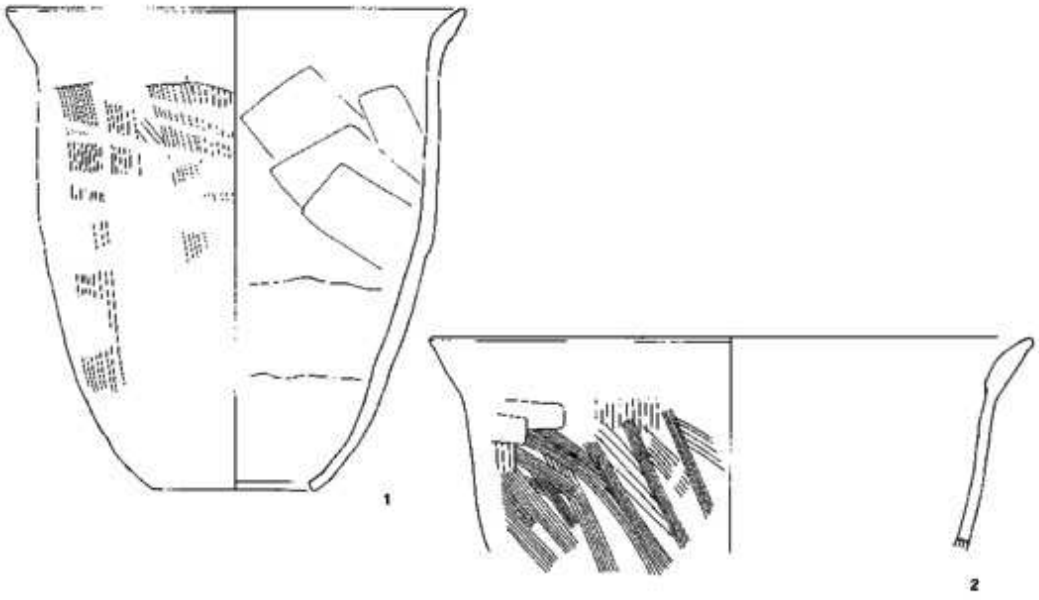
第78図　林之郷遺跡E地区第11号住居址遺物実測図（2）



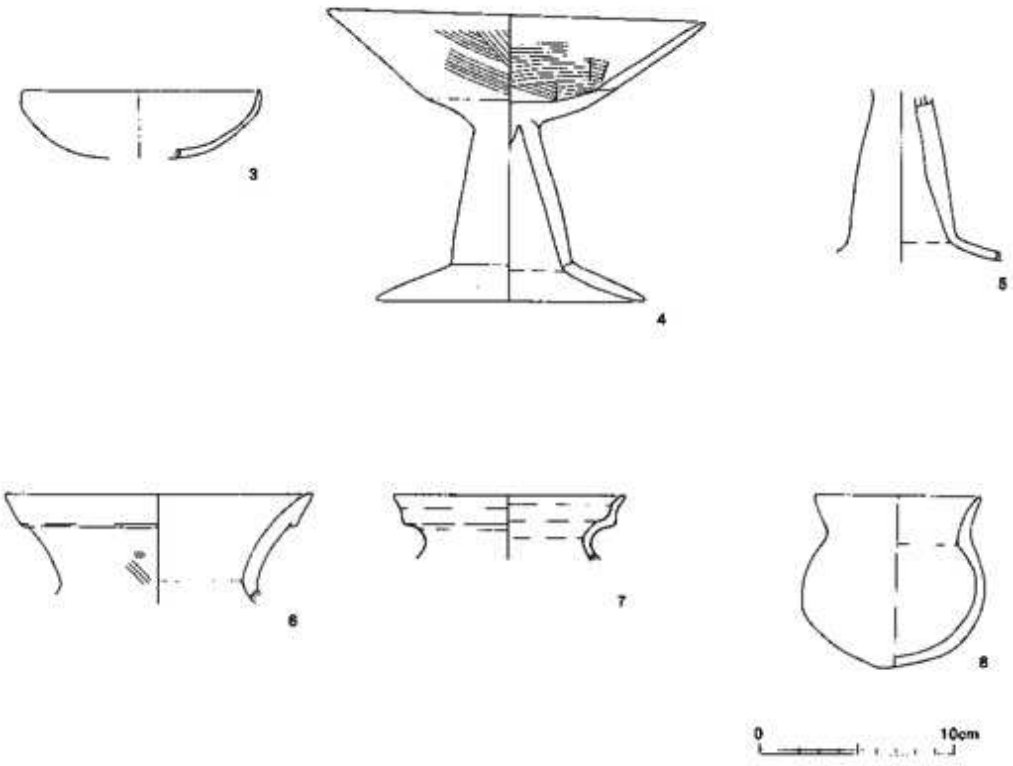
第79図　林之郷遺跡E地区第12号住居址遺物実測図（1）



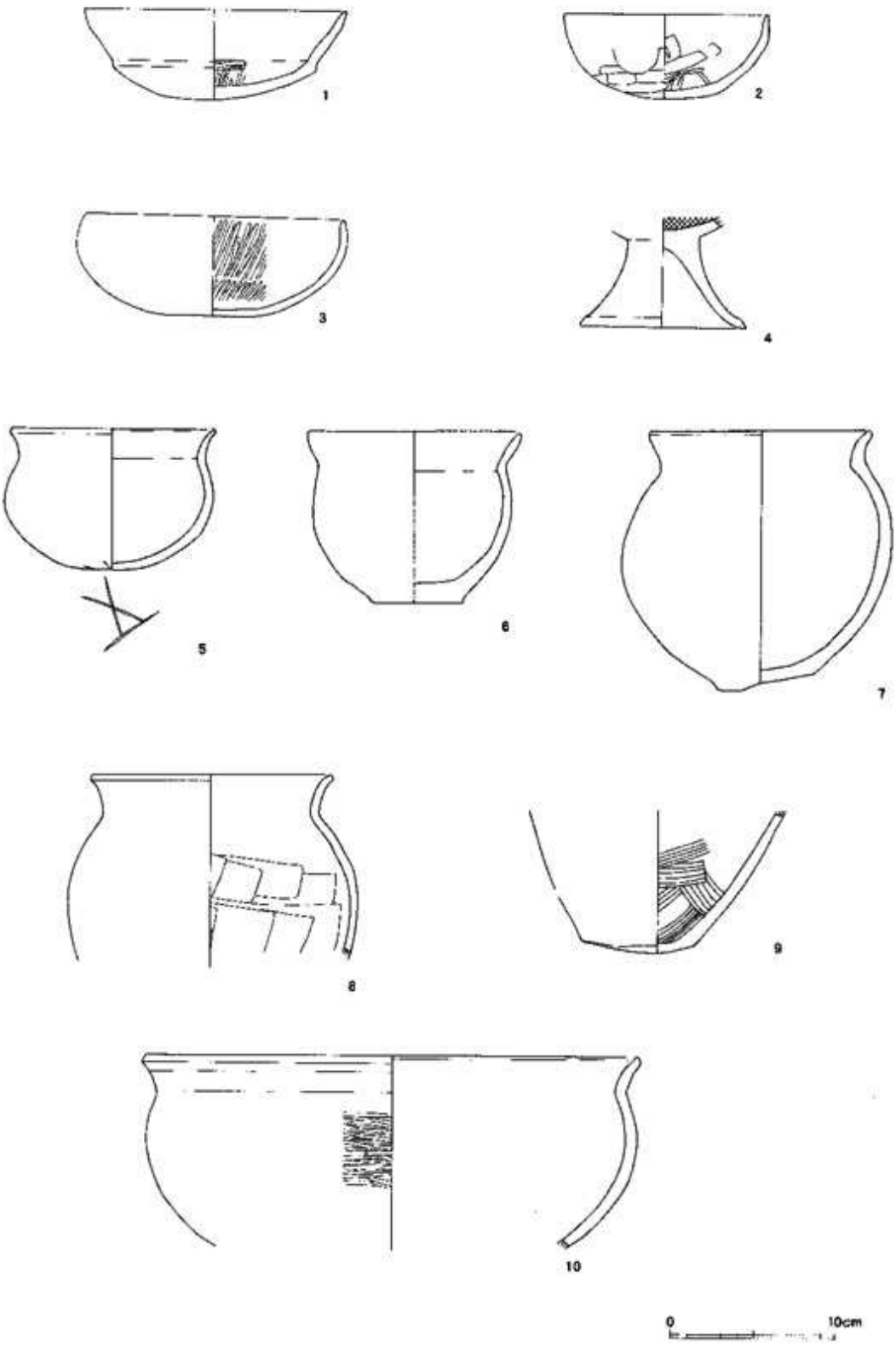
第80図　林之郷遺跡E地区第12号住居址遺物実測図（2）



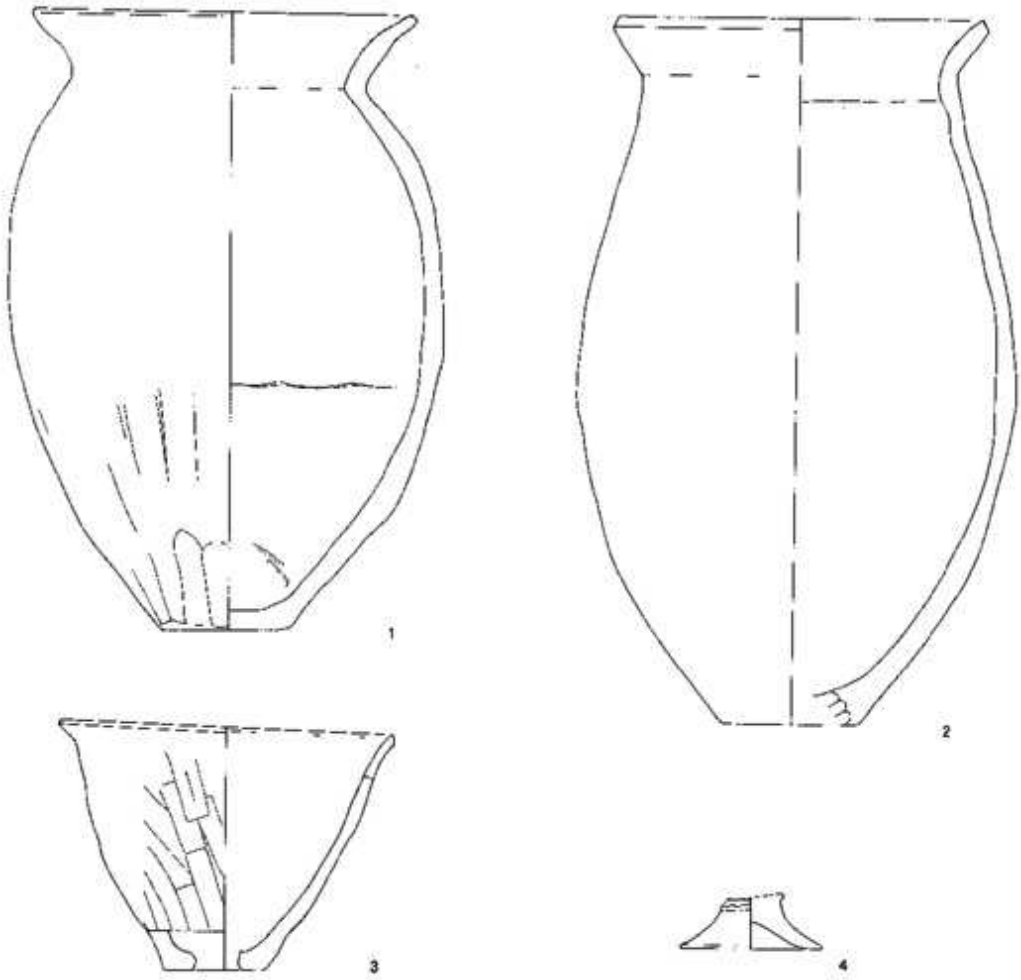
第81図　林之郷遺跡E地区第12号住居址遺物実測図（3）



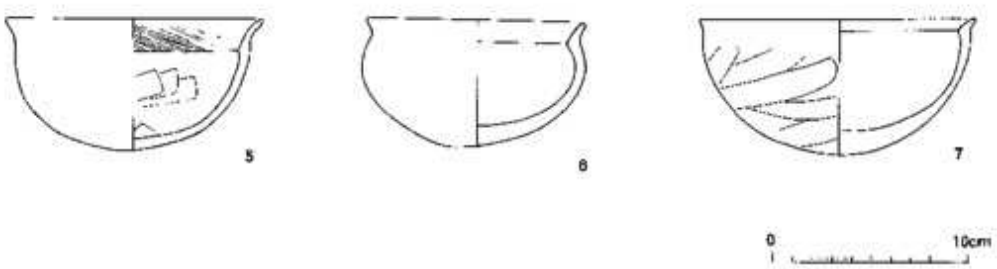
第82図　林之郷遺跡E地区第13号住居址遺物実測図



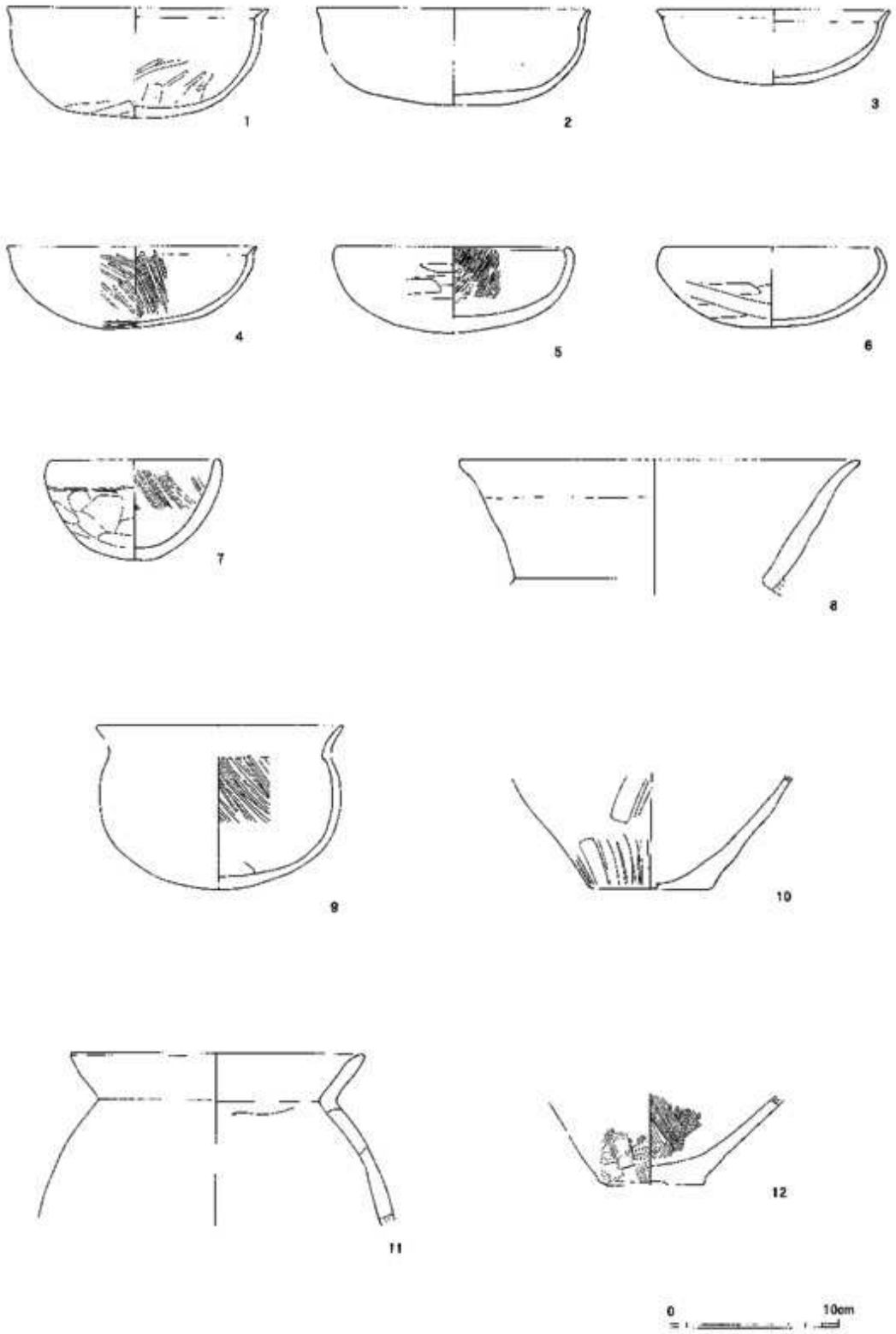
第83図　林之郷遺跡E地区第14号住居址遺物実測図（1）



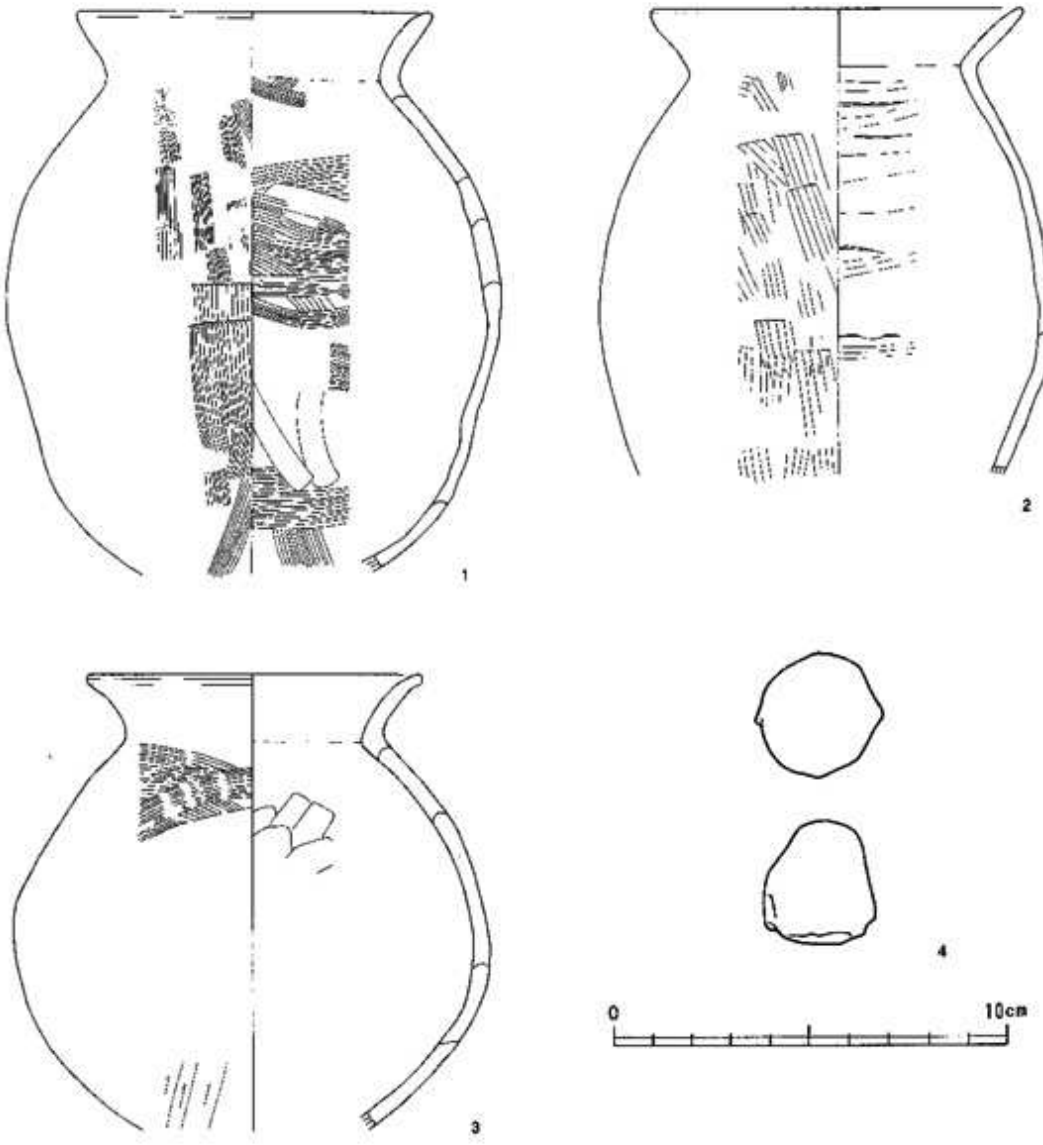
第84図　林之郷遺跡E地区第14号住居址遺物実測図（2）



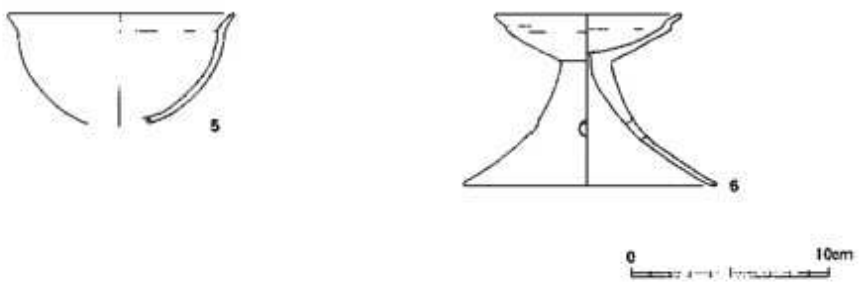
第85図　林之郷遺跡E地区第19号住居址遺物実測図（1）



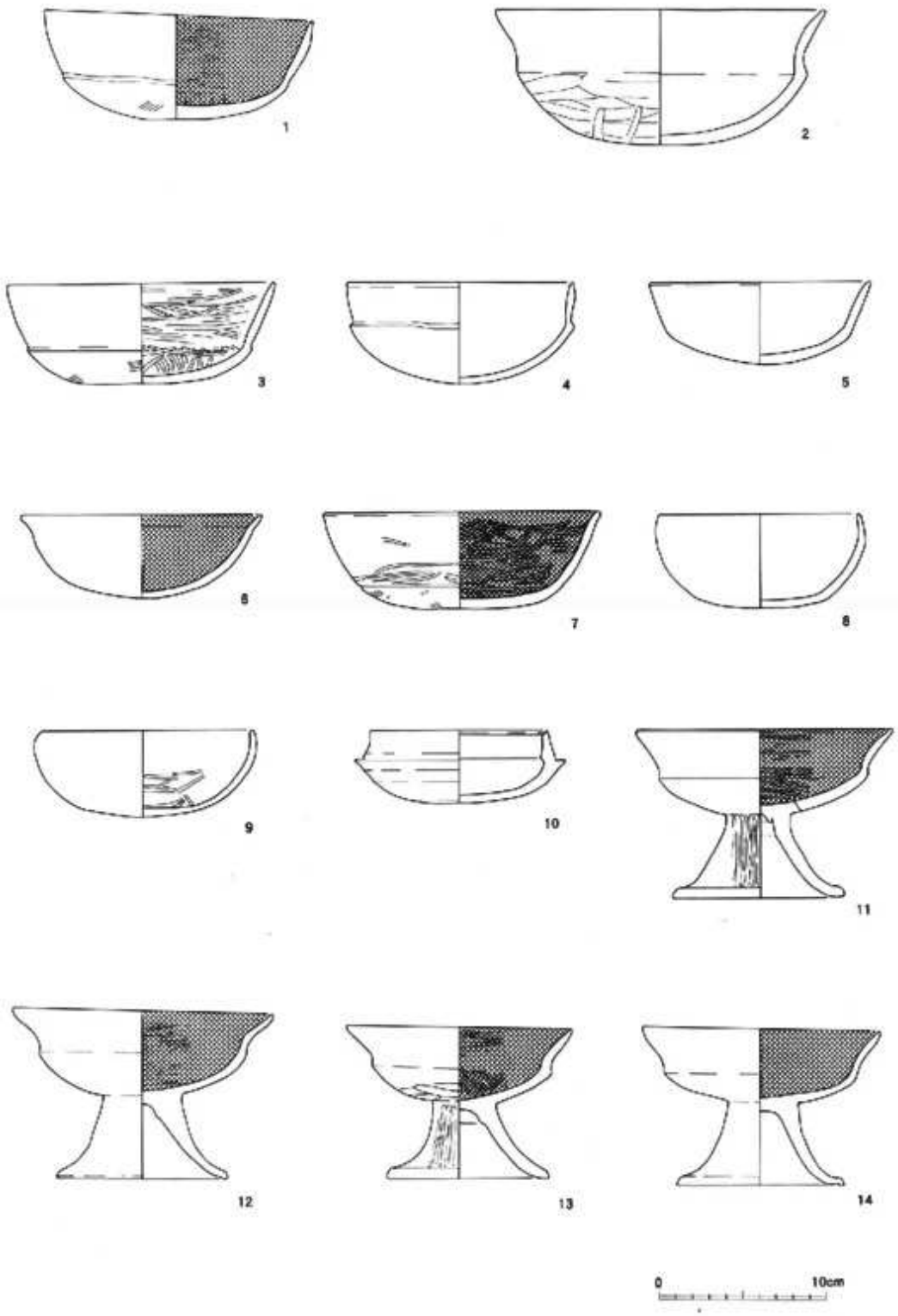
第86図　林之郷遺跡E地区第19号住居址遺物実測図（2）



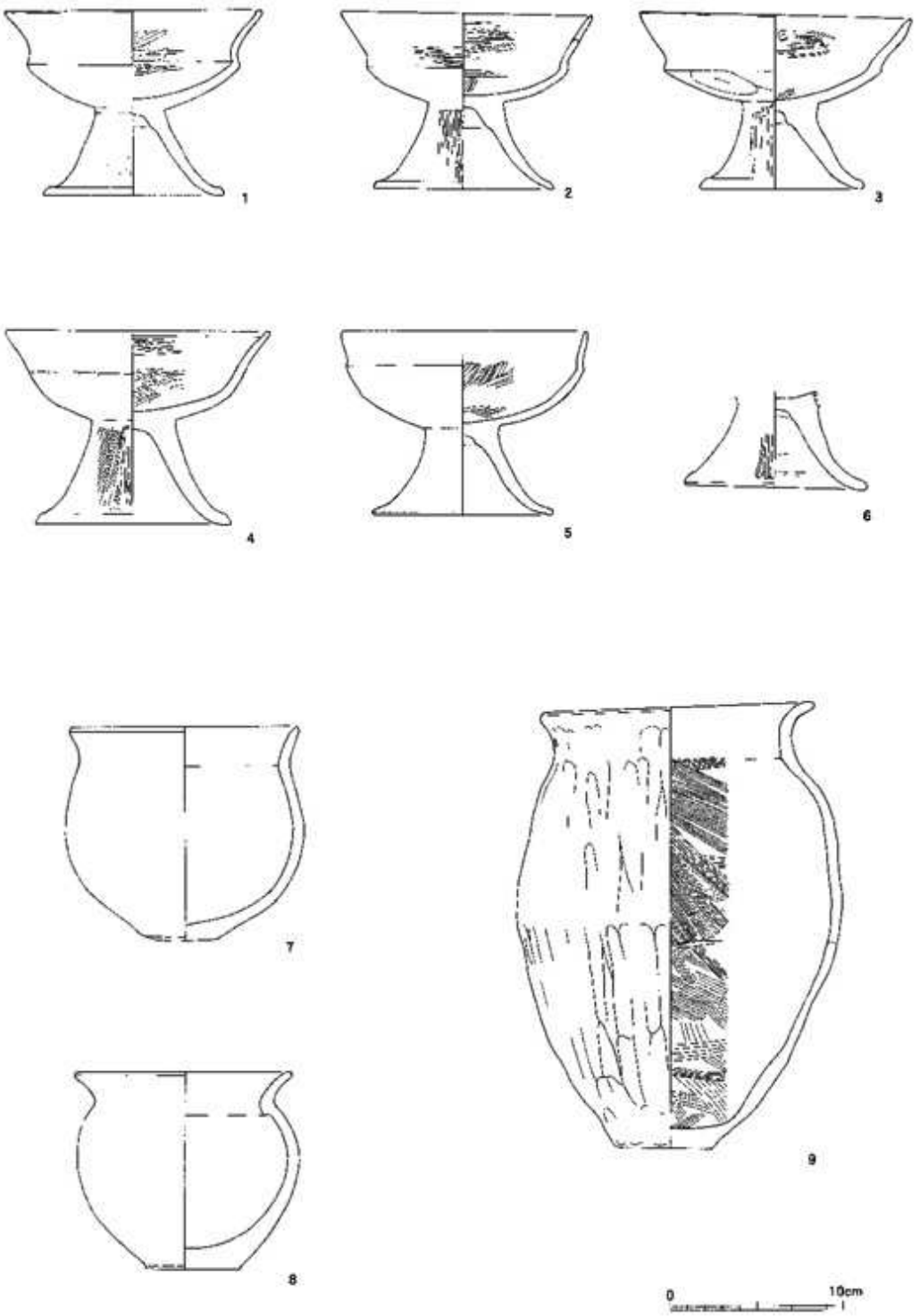
第87図　林之郷遺跡E地区第19号住居址遺物実測図（3）



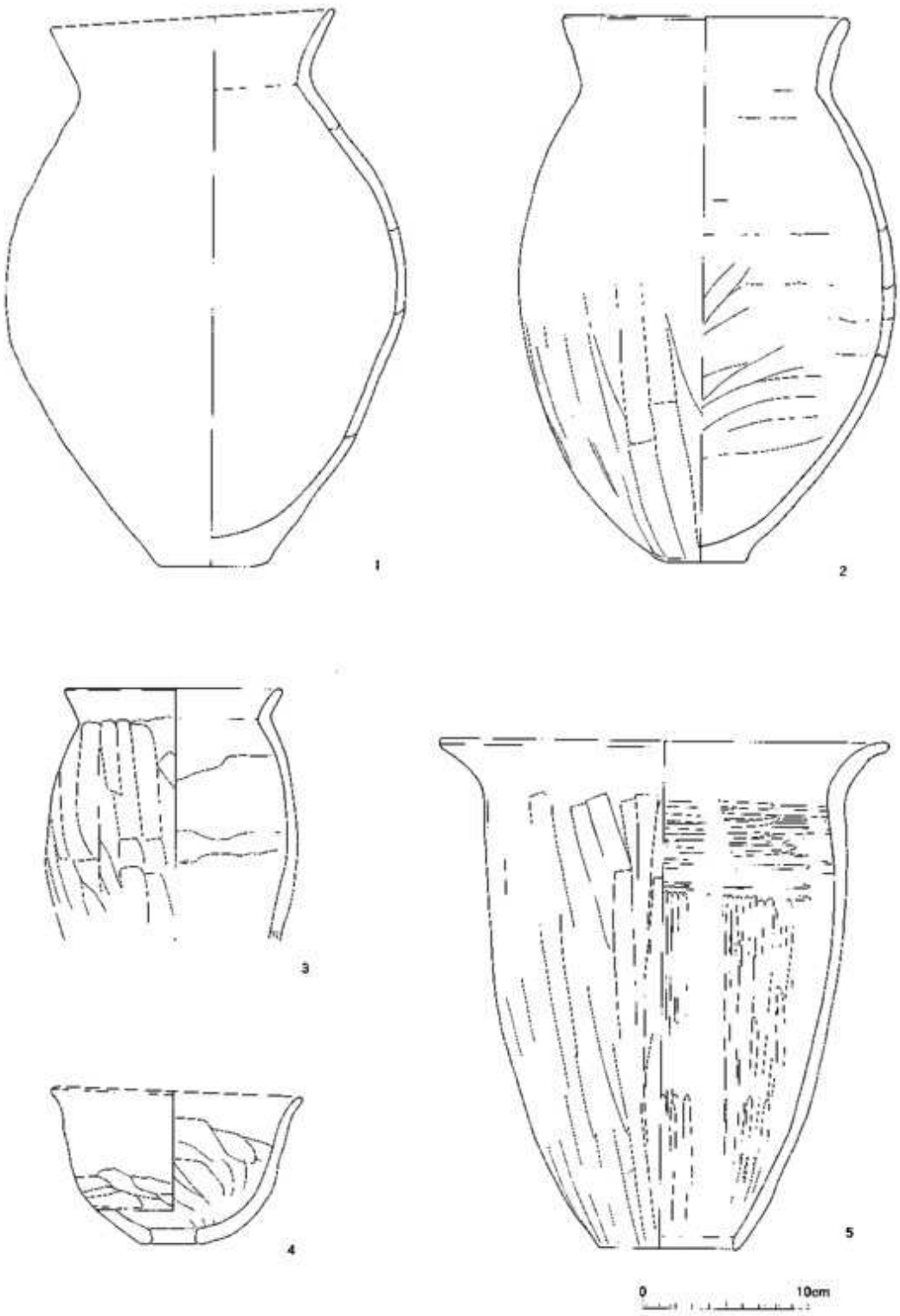
第88図　林之郷遺跡E地区第20号住居址遺物実測図



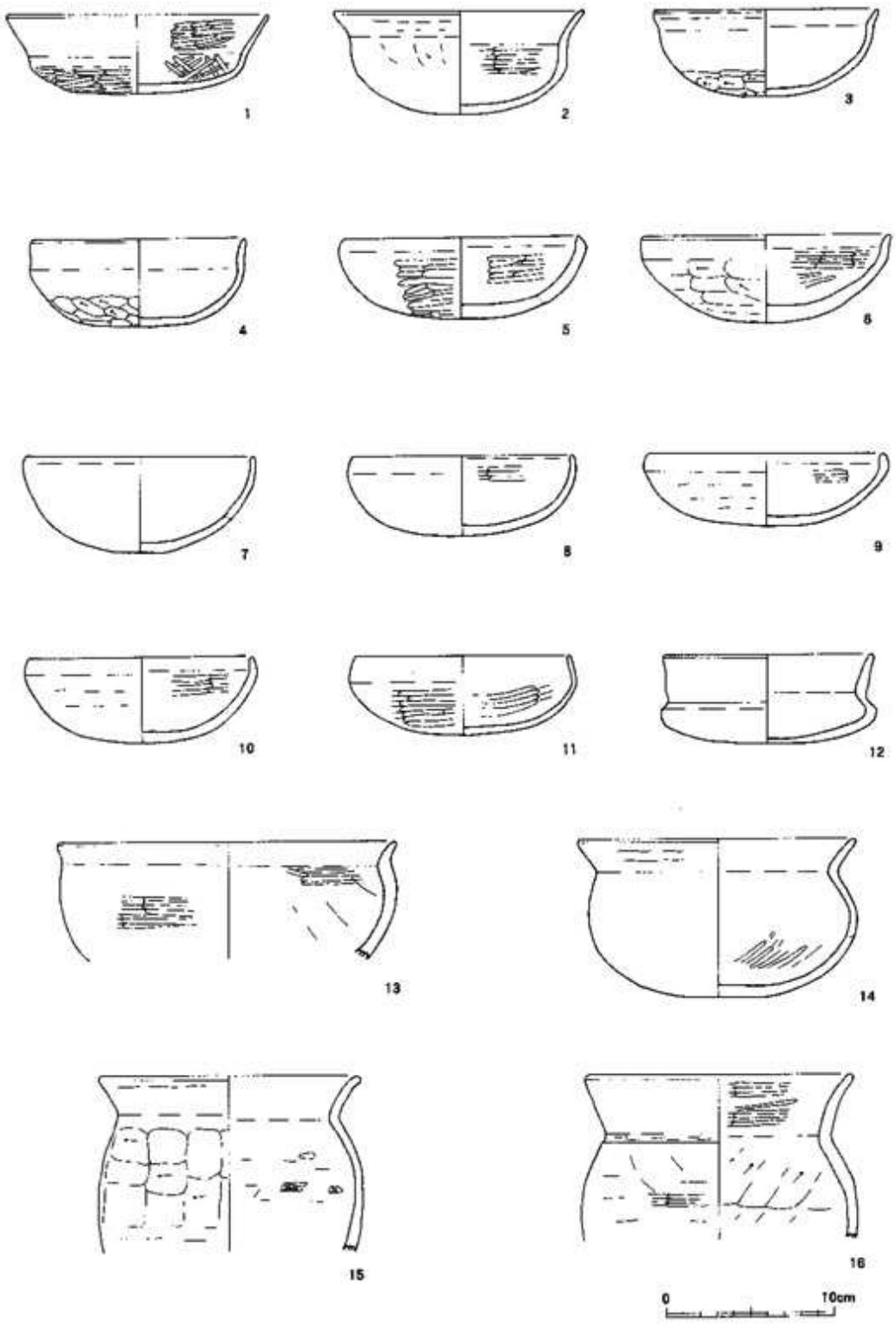
第89図　林之郷遺跡E地区第23号住居址遺物実測図（1）



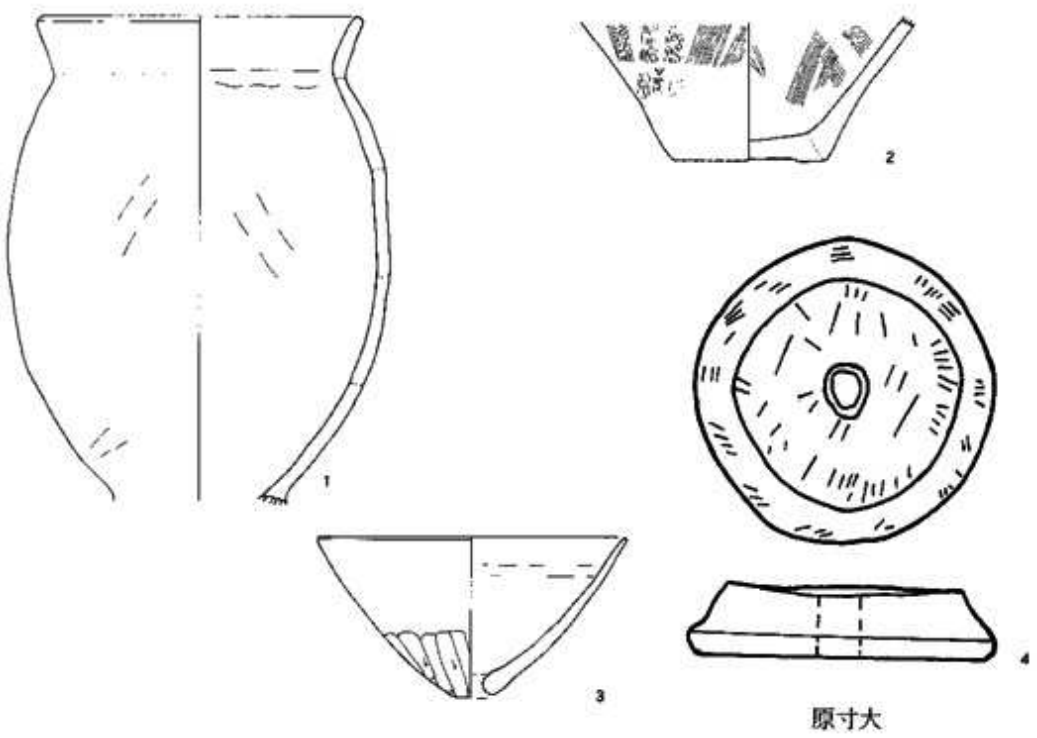
第90図　林之郷遺跡E地区第23号住居址遺物実測図（2）



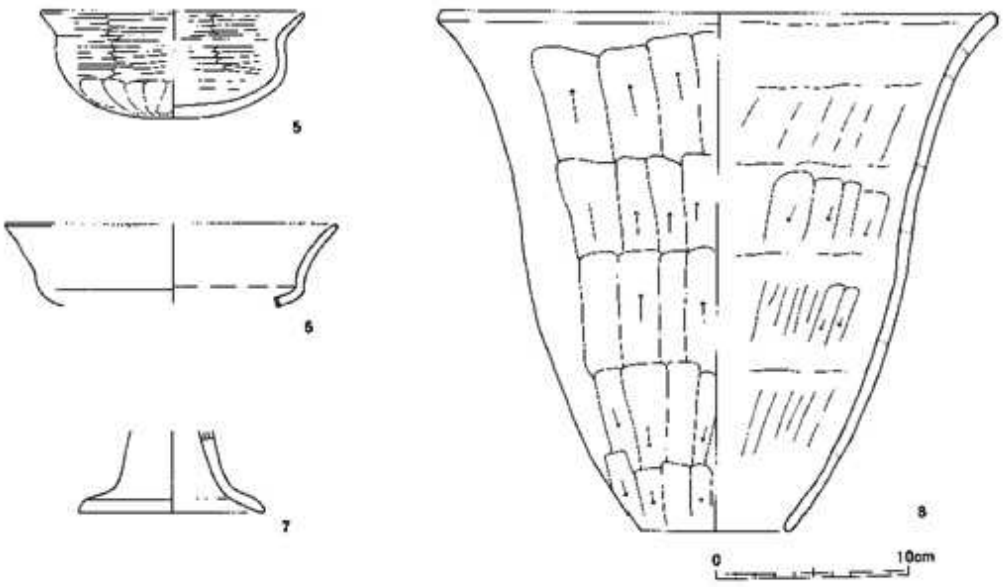
第91図　林之郷遺跡E地区第23号住居址遺物実測図（3）



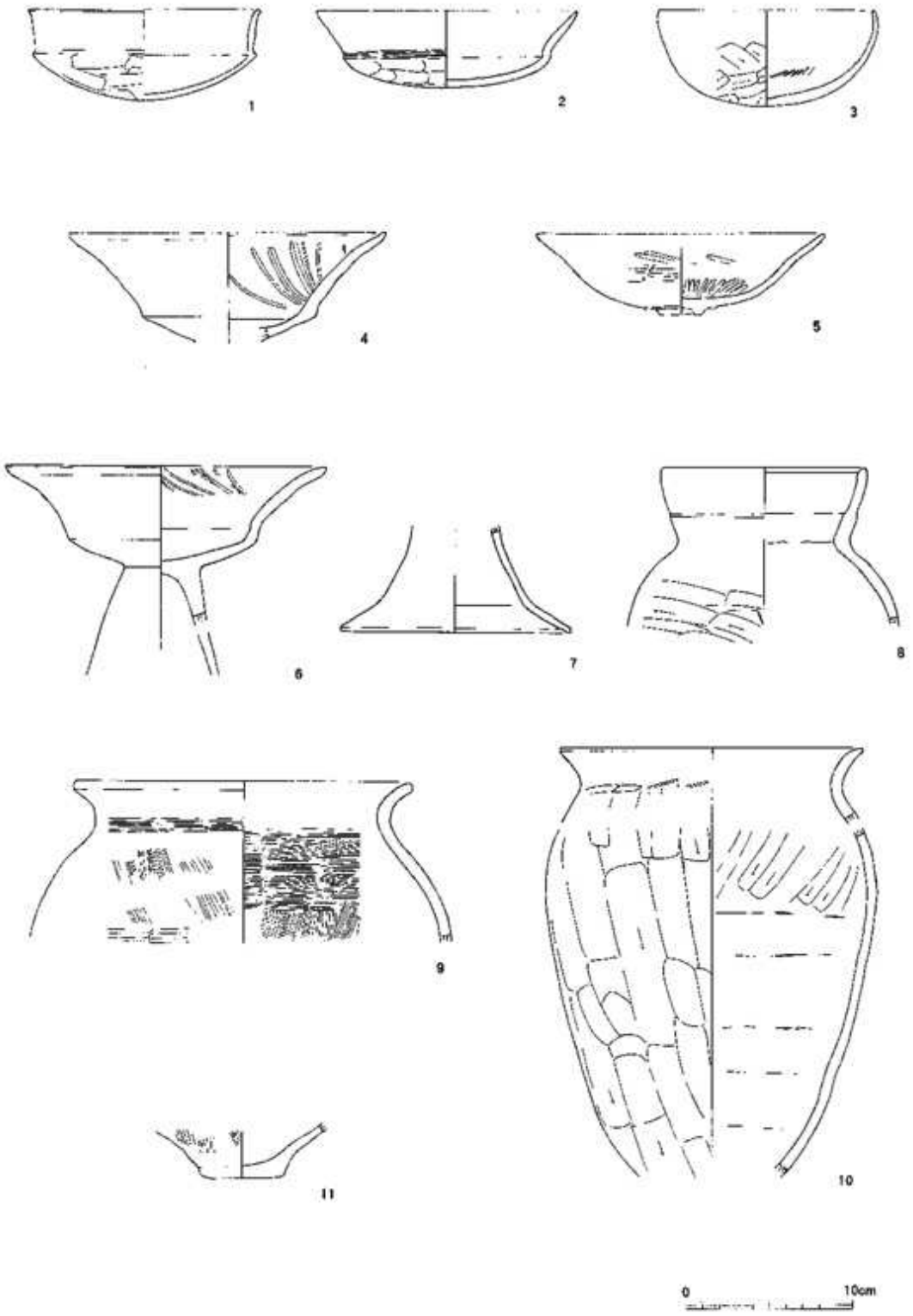
第92図　林之郷遺跡E地区第24号住居址遺物実測図（1）



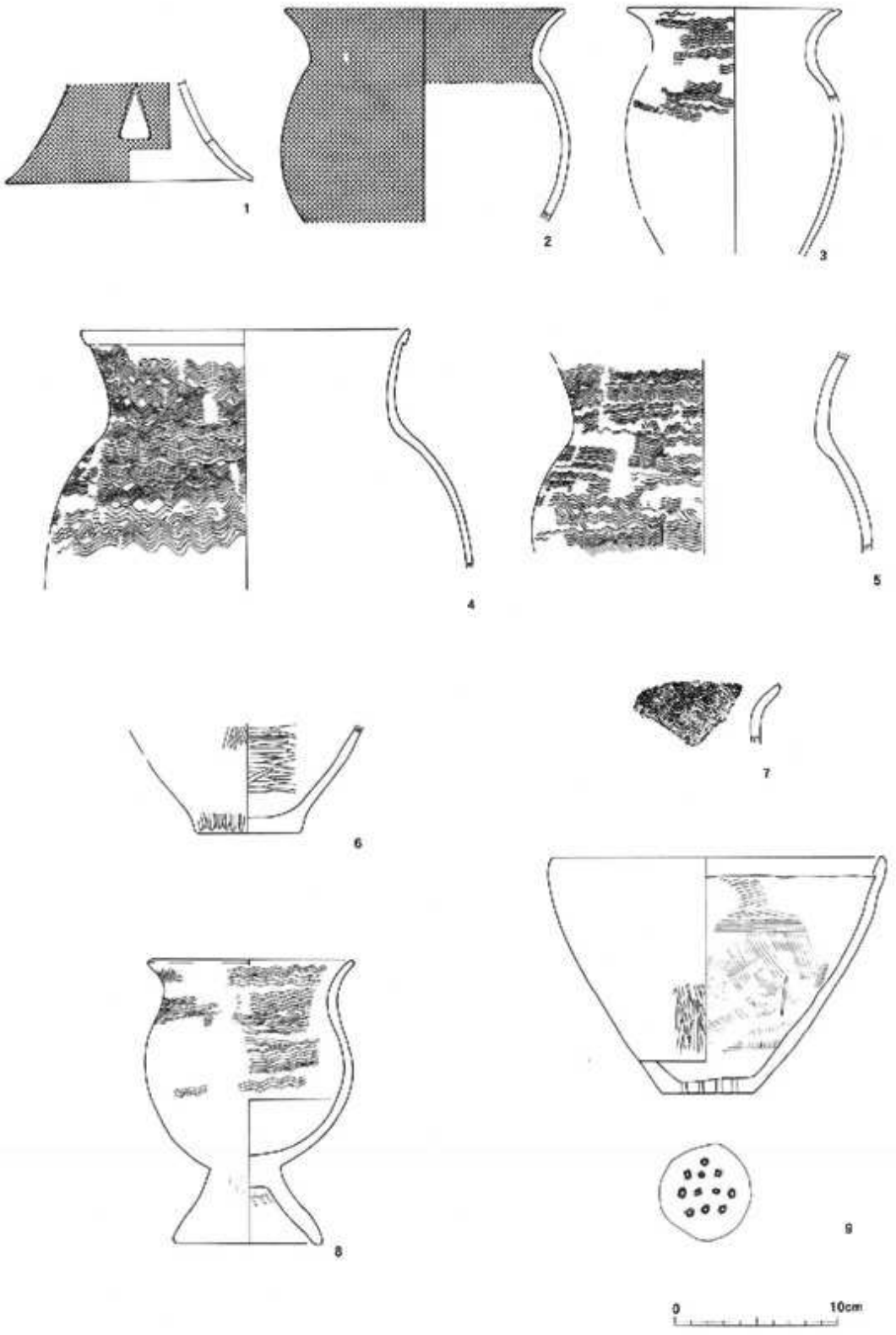
第93図　林之郷遺跡E地区第24号住居址遺物実測図（2）



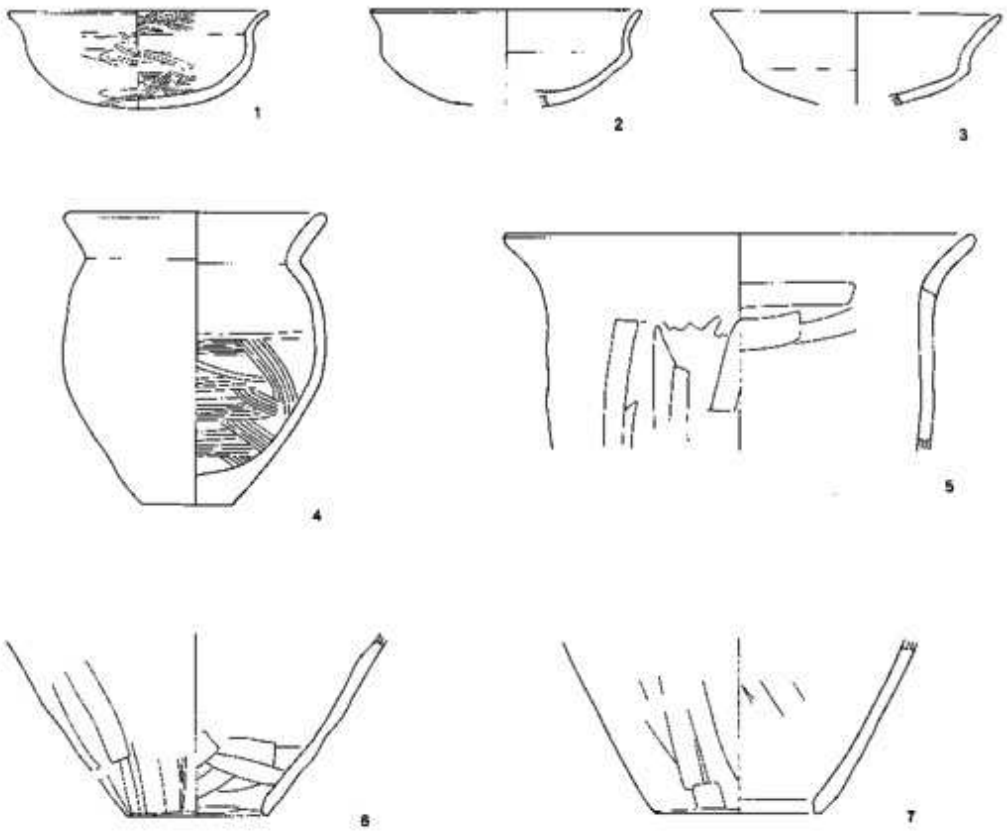
第94図　林之郷遺跡E地区第25号住居址遺物実測図



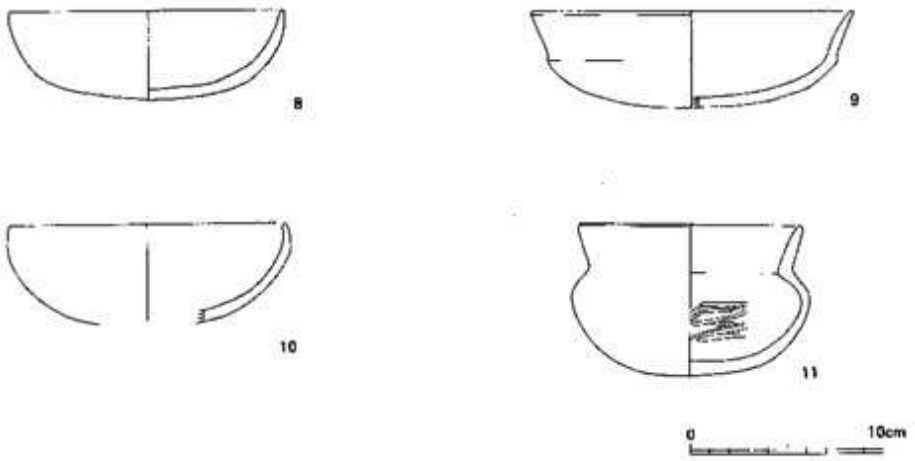
第95図　林之郷遺跡E地区第26号住居址遺物実測図



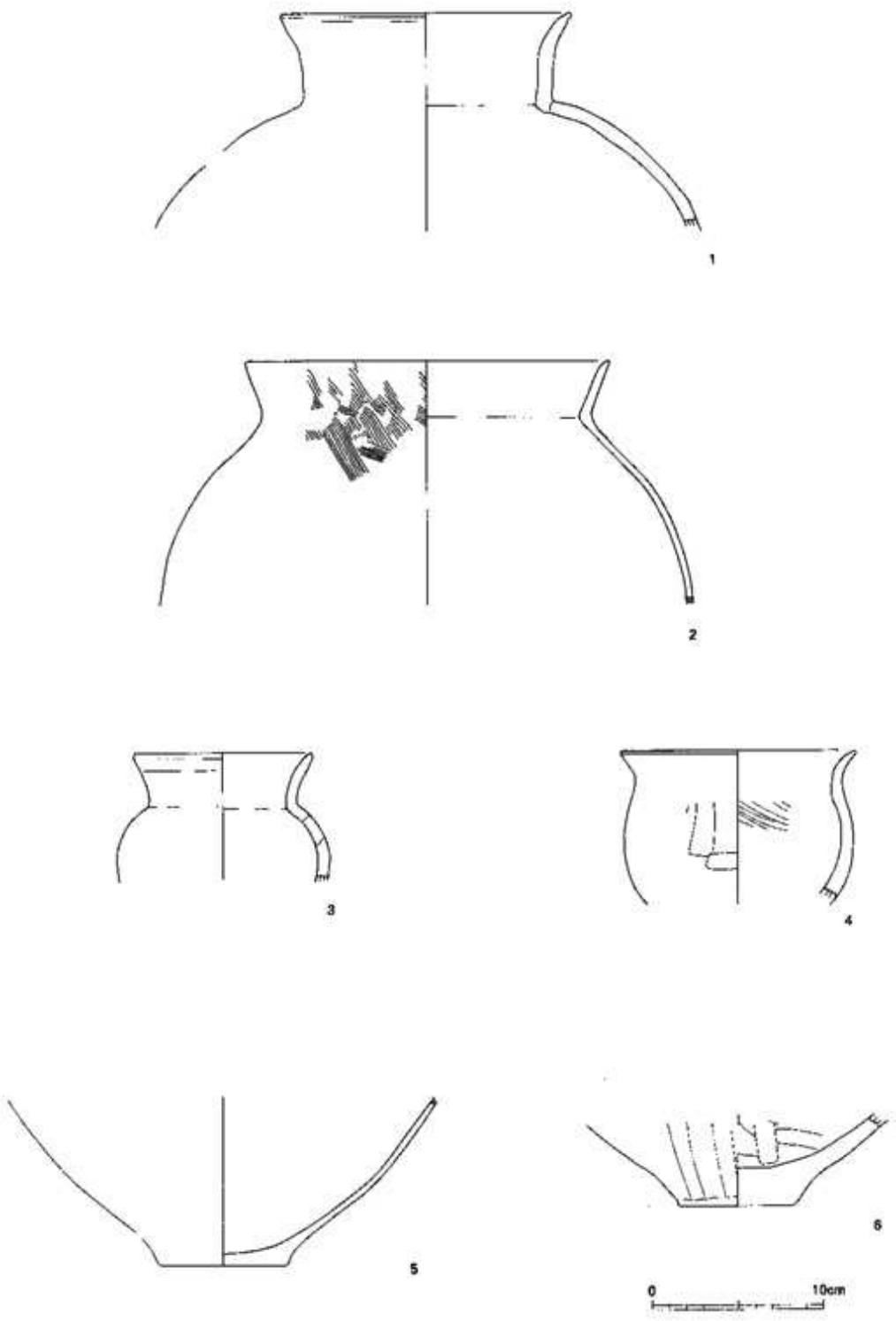
第96図　林之郷遺跡E地区第27号住居址遺物実測図



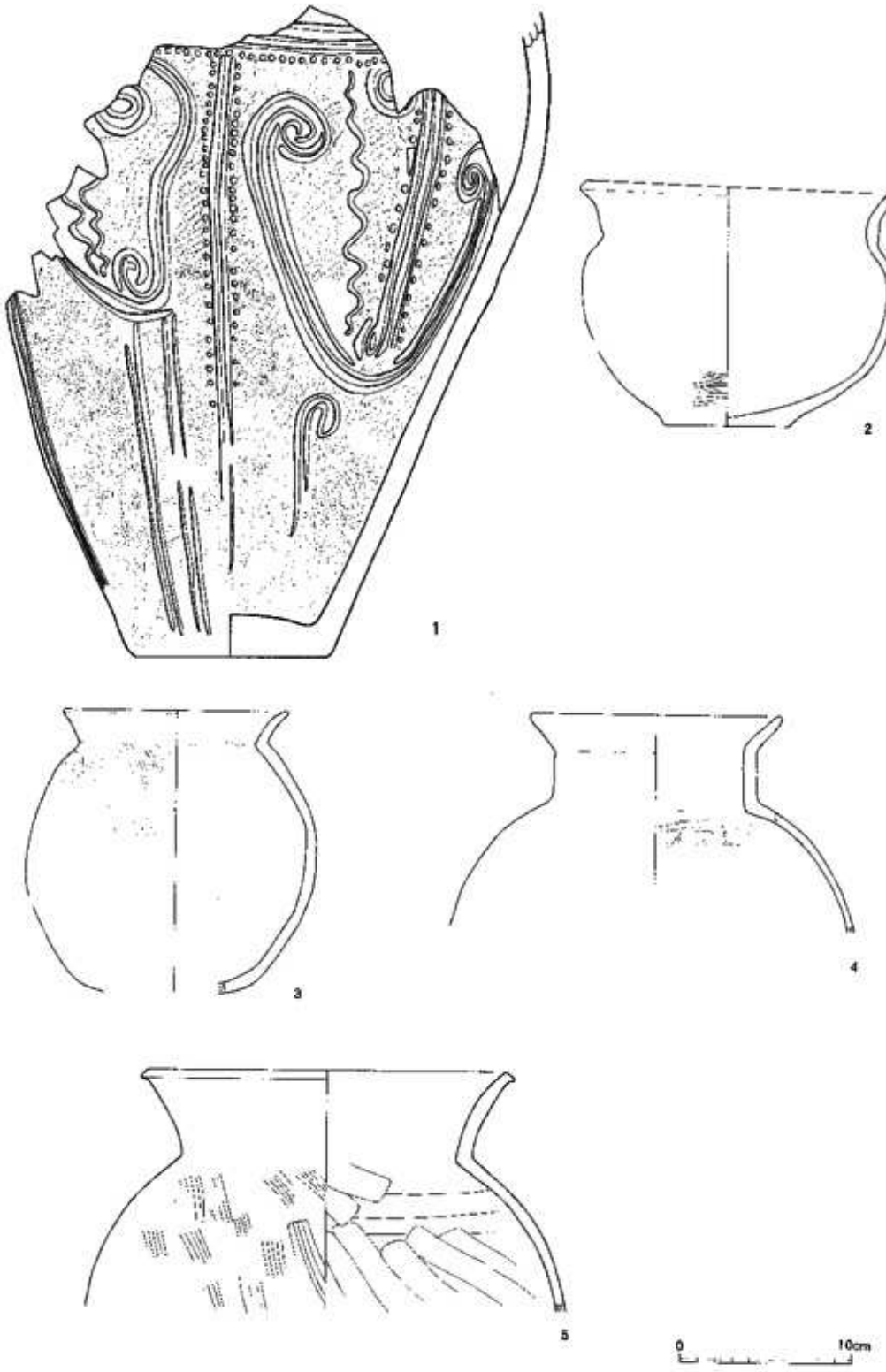
第97図　林之郷遺跡E地区第28号住居址遺物実測図



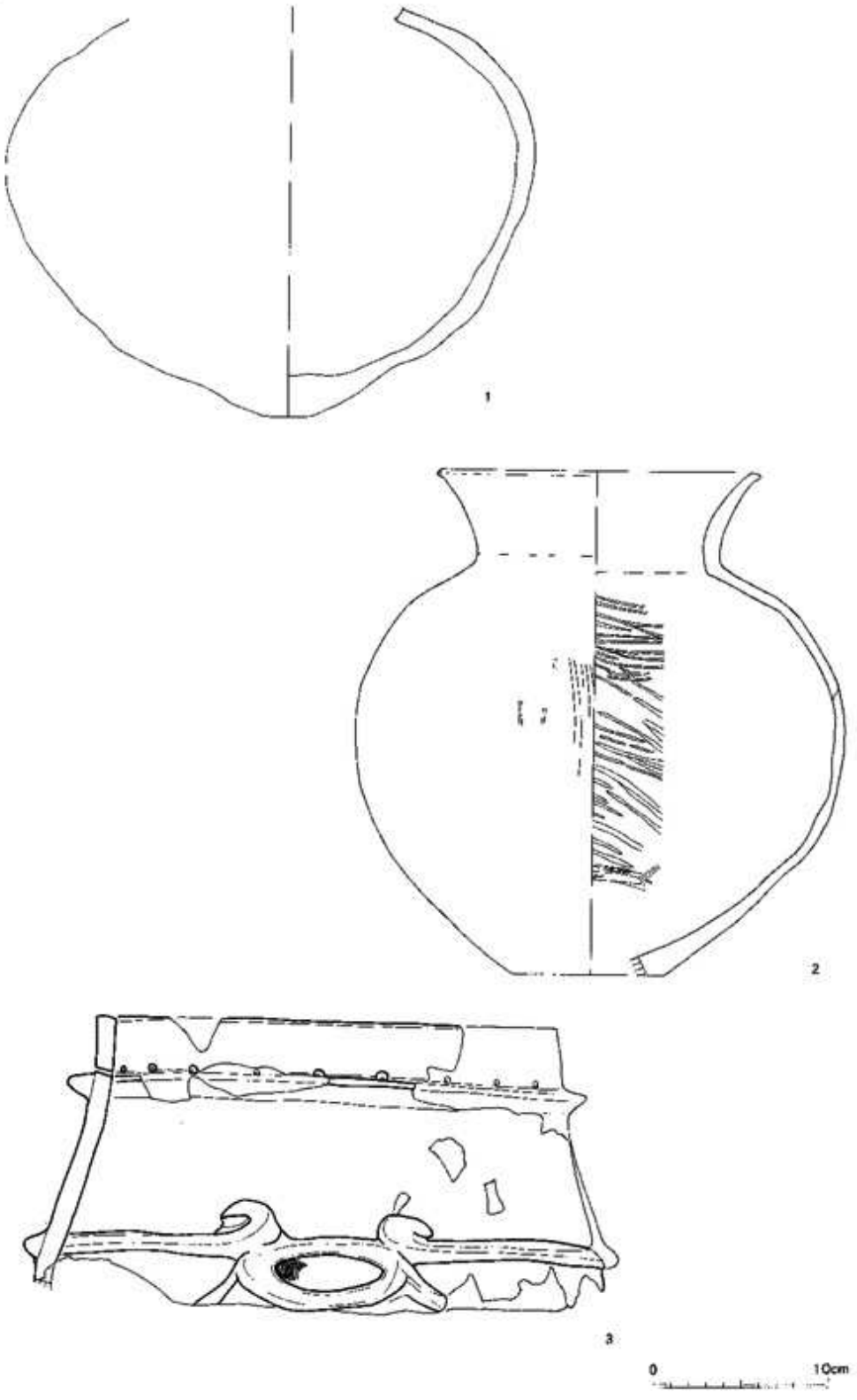
第98図　林之郷遺跡E地区第29号住居址遺物実測図（1）



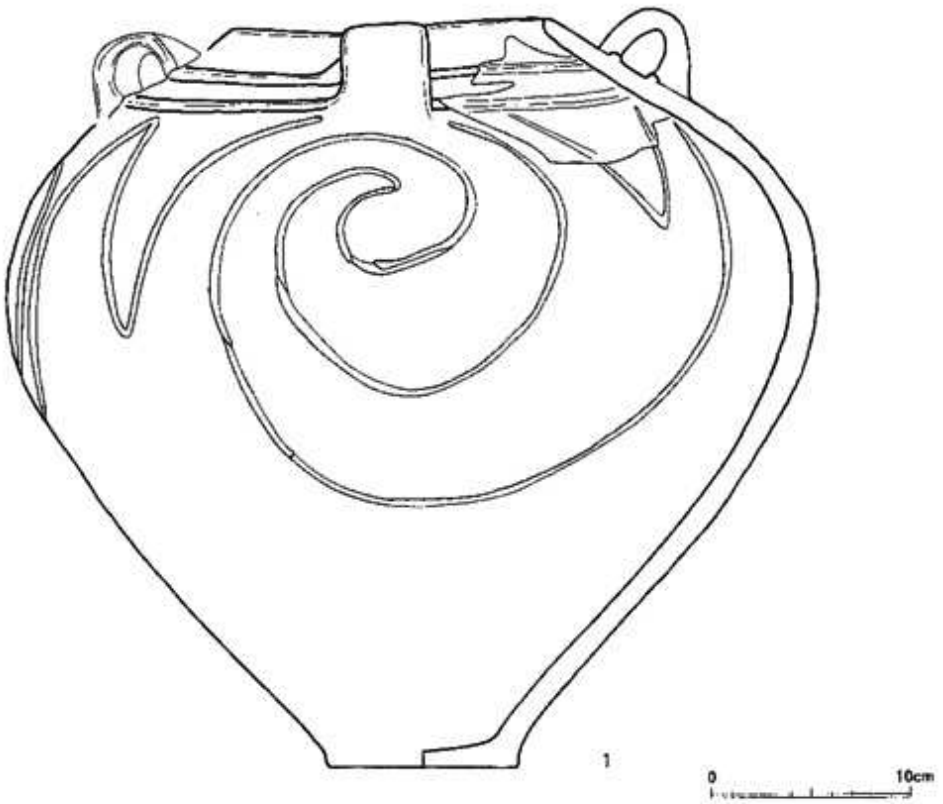
第99図　林之郷遺跡E地区第29号住居址遺物実測図（2）



第100図　林之郷遺跡E地区第9号第20号土壙出土遺物実測図



第101図　林之郷遺跡E地区第23号第26号第31号土壙出土遺物実測図



第102図　林之郷遺跡E地区第33号土壙出土遺物実測図

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
1号住居址 第54図－1	高坏 土師	口径18.9 残高 3.9 口縁部1/4	胎：0.3の赤褐色粗砂粒を含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6/4にぶい橙色	体部は直線的に立ち上がり、口縁部でやや外反する。	口縁部横撫で、箆状工具による横位の撫で
1号住居址 第54図－2	高坏 土師	口径22.2 残高 3.4 口縁部1/6	胎：有色細砂粒、鉱物を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙色； (内) 7.5YR7／5橙色；		
1号住居址 第54図－3	高坏 土師	口径20.7 器高16.7 裾径15.5 ほぼ完形	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(内外) 5YR7／4にぶい橙色 粘土帯積上げ坏部	粘土帯積み上げ 坏部に稜を有し、口縁は直線的に立ち上がる。脚はラッパ状に開く。	(外) 坏部は箆削りの後、撫で後、磨き。裾部は横位斜位の箆磨き (内) 横撫で、裾部は横位の刷毛目
1号住居址 第54図－4	高坏 土師	口径19.6 残高16.1 裾部欠損	胎：礫、粗砂粒、石英、雲母を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／6橙	粘土帯積上げ 坏部は接合ぶより稜を経て外斜し、脚部は接合部より張りをもって緩やかに開く。	(外) 坏部箆状工具による削りの後、斜位の箆状工具による磨き (内) 斜位の箆状工具による磨き
1号住居址 第54図－5	高坏 土師	口径20.3 残高 9.3 址部1/2	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／2明褐灰色 (内) 5YR7／3にぶい橙	粘土帯積上げ 接合部より開き、緩く屈曲し口縁部でやや内湾する。	(外) 箆状工具による削り、撫で。口縁部刷毛目 (内) 箆状工具による磨き
1号住居址 第54図－6	高坏 土師	残高 5.6 裾径18.4 裾部1/3	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR8／4淡橙 (内) 5YR6／8明赤褐	粘土帯積上げ 裾部外反して開く。	(内外) 裾部横撫で
1号住居址 第54図－7	高坏 土師	残高 2.6 底径11.2 裾部1/9	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／6橙		(内外) 裾部横撫で
1号住居址 第54図－8	坏 土師	口径13.5 器高 9.0 口縁部1/4	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／4にぶい橙色	丸底より内湾して深く立上がり、口縁部は短く僅かに外反する。	(内外) 口縁部横撫で (内) 体部から底部横位の箆状工具による削りの後磨き
1号住居址 第55図－1	壷 土師	口径10.1 器高 9.3 1/2	胎：赤褐色粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙色 (内) 7.5YR7／1明褐灰色	口縁部は直線的に立上がり、胴部はやや偏平な球形を呈する。	(外) 口縁部縦位の箆状工具による撫で、胴部は横位の箆状工具による削り
1号住居址 第55図－2	壷 土師	残高6.4 体部1/2	胎：黒褐色砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR8／3淡橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	体部は下膨れぎみの球形	(外) 撫で、刷毛状工具による撫で、(内) 刷毛状工具による撫で、底部撫で
1号住居址 第55図－3	甕 土師	口径16 器高28.2 底部 6 3/2	胎：粗砂粒、白色砂粒多量に含む 焼：良好 色：(内外) 5YR4／1褐灰色	粘土帯積上げ 平底より緩やかに立上がり、胴部上位に最大径をもつ、口縁は外反する。	(外) 口縁部横撫で斜位の箆状工具による削り (内) 胴部下位箆削り
1号住居址 第55図－4	甕 土師	口径15 残高 2.3 口縁部1/10	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR5／3にぶい褐	粘土帯積上げ 口縁部段を有して外反する。	(外) 口縁部横撫で (内) 口縁部横撫で
1号住居址 第55図－5	甕 土師	残高18.7 底径 6.8 底部～胴部	胎：粗砂粒、雲母、白色砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい赤褐	粘土帯積上げ 平底より球形を呈して立上がる。	(外) 横位、斜位の箆状工具による削り (内) 箆状工具による削り
2号住居址 第56図－1	坏 土師	口径13.2 残高 4.9 口縁部1/4	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／2灰黄褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	粘土帯積上げ 丸底より内湾ぎみの口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、体部箆削りの後、横位の箆磨き (内) 口縁部横撫で、体部箆磨き、黒色処理

第2表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
2号住居址 第56図－2	坏 土師	口径14.5 残高 4.8 口縁部1/6	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR1.7／7黒	丸底より稜を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、箆状工具による磨き (内) 口縁部から体部斜位の箆状工具による磨き黒色処理
2号住居址 第56図－3	坏 土師	口径13.2 残高 4.5 口縁部1/8	胎；雲母、白色砂粒、細砂粒を含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR3／1黒褐	粘土帯積上げ 稜を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部箆削り (内) 口縁部横撫で体部箆状工具による磨き
2号住居址 第56図－4	坏 土師	口径13.4 残高 3.8 口縁部1/10	胎；粗砂粒を僅かに含む 焼；良好 色；(内外) 7.5YR7／6橙	内湾ぎみの体部から緩く屈曲して外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で
2号住居址 第56図－5	坏 土師	口径16.0 残高 3.6 口縁部1/9	胎；石英、細砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 7.5YR7／4にぶい橙	内湾ぎみの体部より短く内傾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、体部横位の箆状工具による磨き (内) 口縁部横撫で、体部箆削り
2号住居址 第56図－6	坏 土師	口径14.6 残高 3.1 口縁部1/11	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 口縁部横撫で	稜を経て外傾する口縁に至る。	(外) (内外) 口縁部横撫で
2号住居址 第56図－7	甕 土師	口径29.4 残高13.0 口縁部1/9	胎；2mm未満の石英、雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(内) 5YR6／6橙 (外) 5YR6／4橙	粘土帯積上げ 緩やかに開く胴部よりやや外傾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で胴部斜位の箆状工具による削り (内) 口縁部横撫で胴部横位の箆削り
2号住居址 第56図－8	甕 土師	口径15.6 残高 6.9 口縁部1/6	胎；雲母、石英、細砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 2.5YR6／6橙	胴部より窄まる頸部を経て外傾する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で
2号住居址 第56図－9	甕 土師	口径23.2 残高14.9 口縁部1/6	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 張りのない胴部より短く外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で胴部箆削りの後箆状工具による磨き
2号住居址 第56図－10	甕 土師	口径14.4 残高 4.0 口縁部1/8	胎；石英、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4／4にぶい赤橙 (内) 2.5YR3／1暗赤褐	口縁部は外反する。	(外) 口縁部横撫で (内) 口縁部横撫で胴部横位の箆状工具による削り
2号住居址 第56図－11	甕 土師	残高 6.7 底径 6.2 底部～胴部	胎；粗砂粒、雲母、石英含む 焼；良好 色；(内外) 5YR6／6橙	粘土帯積上げ 平底より緩やかに立ち上がる。	(内) 箆状工具による削り
2号住居址 第56図－12	甕 土師	口径14.0 残高 3.2 口縁部1/7	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 口縁部は外反する。	(内外) 口縁部横撫で
2号住居址 第57図－1	甕 土師	残高 1.8 底径 6.4 底部	胎；粗砂粒多量に含む 焼；良好 色；(内外) 5YR3／4暗赤褐	粘土帯積上げ 平底	(内外) 箆状工具による削り
2号住居址 第57図－2	甑 土師	口径24.4 残高25.5 口縁部～胴部	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR8／3淡黄橙 (内) 10YR8／1灰白	粘土帯積み上げ やや膨らみをもった胴部より緩やかに外反する口縁部に至る。胴部上位に一対の把手	(外) 口縁部横撫で 胴部縦位の箆状工具による削り (内) 口縁部横撫で体部箆削り、指ナデ
3号住居址 第58図－3	坏 土師	口径14.7 残高 5.4 ほぼ完形	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR1.7／1黒	粘土帯積上げ 丸底より稜を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、体部箆状工具による削り (内) 箆状工具による磨き黒色処理

第3表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
3号住居址 第58図－4	坏 土師	口径12.3 器高 6.8 完形	胎；細砂粒を僅かに含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6／6橙 (内) 2.5YR1.7／1赤黒	粘土帯積上げ 深い丸底より外反する口縁に至る。	(内外) 丁寧な箆状工具による磨き 黒色処理
3号住居址 第58図－5	坏 土師	口径14.4 器高 5.5 口縁部1	胎；粗砂粒、雲母、石英含む 焼；良好 色；(内外) 7.5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ 丸底よりそのまま緩く外反する口縁に至る。	(外) 箆状工具による削りの後箆状工具による磨き
3号住居址 第58図－6	坏 土師	口径13.8 残高 5.5 口縁部1/2	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR4／7にぶい橙 (内) 5Y1／2黒	粘土帯積上げ 丸底より稜を経て外反する口縁に至る。	(内外) 箆状工具による削り、磨き、撫で
3号住居址 第58図－7	坏 土師	口径16.8 残高 4.5 口縁部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR2／1黒褐	粘土帯積上げ 緩い稜を経て外傾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で (内) 口縁部横撫で 箆状工具による磨き
3号住居址 第58図－8	坏 土師	口径16.0 残高 4.0 口縁部1/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5／6 (内) 2.5YR1.7／1	粘土帯積上げ 稜を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で (内) 口縁部横撫で 体部屈曲部箆状工具による横位の磨き 黒色処理
3号住居址 第58図－9	坏 土師	残高2.5 底部	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR4／6 (内) 2.5YR4／8	粘土帯積上げ 丸底	(内外) 箆状工具による削り 箆状工具による磨き
3号住居址 第58図－10	坏 土師	口径13.8 器高 8.8 口縁部1/7	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR3／3 (内) 2.5YR2／1	粘土帯積上げ 丸底より緩やかに立上がり、胴部は偏平な球形を呈し、口縁は外反する。	(外) 口縁部横撫で 胴部から底部まで箆状工具による横位の磨き (内) 黒色処理
3号住居址 第58図－11	高坏 土師	口径14.5 器高10.2 裾径10.3 一部欠損	胎；礫砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR5／4 (内) 2.5YR4／6	脚部は接合部より大きく開き裾部でさらに広がる。坏部は稜を経て口縁で外反する。	(外) 口縁部は横撫での後横位の箆削り体部は箆削り、脚部は縦位の撫で、裾部は横位の撫で
3号住居址 第59図－1	高坏 土師	口径15.2 器高10.0 裾径 9.6 口縁部3/4	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR7／3にぶい橙 (内) 5YR6／2灰褐	脚部は接合部より大きく開き裾部でさらに広がる。坏部は稜を経て口縁で外反する。	(外) 口縁部横撫で坏部横位の箆磨き裾部横位の撫で (内) 坏部横位、斜位の箆磨き脚部横位、縦位の撫で
3号住居址 第59図－2	高坏 土師	口径15.0 残高 5.5 脚部欠損	胎；細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR6／3 (内) 2.5YR2／1	粘土帯積上げ 接合部より稜を経て外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で箆状工具による磨き 黒色処理
3号住居址 第59図－3	高坏 土師	口径16.0 残高 6.7 脚部欠損	胎；細砂粒、1mm 未満の雲母 焼；良好 色；(外) 2.5YR7／4淡赤橙 (内) 5YR2／1黒褐	丸底より鈍い稜を経て外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で体部箆状工具による削り、撫で 黒色処理
3号住居址 第59図－4	甕 土師	口径14.2 器高10.9 底径 6.0 完形	胎；粗砂粒、石英多量に含む 焼；良好 色；(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 10YR4／8赤	粘土帯積上げ 平底より丸みをもって立上がり外反する口縁部に至る。	(内外) 口縁部横撫で胴部から底部にかけて箆削り
3号住居址 第59図－5	甕 土師	口径18.6 器高31.0 底径 6.0 完形	胎；粗砂粒、雲母、石英に含む 焼；良好 色；(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ 平底より立上がり、張りの無い胴部より緩く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で胴部は縦位の刷毛目、(内) 胴部から底部箆状工具による削り
3号住居址 第59図－6	甕 土師	口径18.0 器高11.4 底径 7.0 口縁部2/3	胎；粗砂粒を僅かに含む 焼；良好 色；(外) 5YR6／2橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 平底より偏平な球形の胴部を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で胴部横位の撫で、箆状工具による磨き胴部下位箆状工具による磨き (内) 底部指ナデ

第4表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
3号住居址 第59図－7	甕 土師	口径21.0 残高 9.8 口縁部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 2.5YR6／6橙	粘土帯積上げ 口縁部は外反し、口唇部に面取りを施す。	(外) 口縁部横撫で、胴部上位箆状工具による削り (内) 口縁部横撫で、胴部箆状工具による撫で
3号住居址 第59図－8	甕 土師	口径23.4 残高 4.0 口縁部1/7	胎；細砂粒、雲母含む 焼；良好 色；(内外) 5YR6／6橙	粘土帯積上げ 口縁部は外反する。	(内外) 口縁部横撫で (内) 黒色処理
3号住居址 第59図－9	甕 土師	口径16.8 残高 2.5 口縁部1/10	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(内外) 2.5YR3／2暗赤褐	粘土帯積上げ 口縁部は外反する。	
3号住居址 第60図－1	甑 土師	口径14.2 器高10.5 口縁部5.0	胎；細砂粒多量に含む 焼；良好 色；(外) 5YR5／2灰褐 (内) 5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ 平底に一孔を有し、口縁は外反する。	(外) 口縁部横撫で、胴部縦位、斜位の箆状工具による削り
3号住居址 第60図－2	甑 土師	口径22.8 器高25.0 孔径 9.4 歪完形	胎；細砂粒、雲母、石英含む 焼；良好 色；(内外) 2.5YR6／6橙	粘土帯積上げ 孔部より立上がり緩く外反する口縁に至る。胴部に一対の把手を有し円柱が孔部を二等分する。	(外) 口縁部横撫で、胴部木口状工具による刷毛目の後へら磨き (内) 胴部木口状工具による掻き取りの後磨き
5号住居址 第61図－3	坏 土師	口縁13.8 器高 5.6 口縁部2/3	胎；雲母、粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 10YR8／4浅黄橙 (内) 10YR3／1黒褐	粘土帯積上げ 丸底より強い稜を経て外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で体部横位箆削り (内) 黒色処理
5号住居址 第61図－4	坏 土師	口縁12.5 器高 5.6 口縁部1/3	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 5YR7/4にぶい橙	粘土帯積上げ 丸底より強い稜を経て外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で体部横位の箆状工具による削り、箆磨き
5号住居址 第61図－5	坏 土師	口縁13.0 器高 5.1 口縁部1/2	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／2灰白	丸底より稜を経て外傾する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で体部横位の箆状工具による削り、横位の磨き
5号住居址 第61図－6	坏 土師	口縁13.0 器高 4.9 口縁部1/2	胎；雲母、細砂粒含む 焼；良好 色；(内外) 10YR8／3浅黄橙	浅い丸底より稜を経て、弱い沈線を有する直立気味の口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部横位の箆状工具による磨き、(内) 体部放射線状の箆磨き
5号住居址 第61図－7	坏 土師	口縁14.2 器高 6.8 完形	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR8／4淡橙 (内) 7.5YR8／4浅黄橙	浅い丸底より稜を経て、長く外向する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部横位の箆状工具による削り (内) 体部箆状工具による磨き
5号住居址 第61図－8	坏 土師	口縁14.0 器高 4.9 口縁部1/2	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／1褐灰	丸底より稜を経て、外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部箆削り (内) 体部箆削りの後箆磨き
5号住居址 第61図－9	坏 土師	口縁14.8 器高 6.2 完形	胎；粗砂粒、雲母 焼；良好 色；(内外) 5YR6／4にぶい橙	丸底より弱い稜を経て、外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で
5号住居址 第61図－10	坏 土師	口縁13.4 器高 4.8 完形	胎；粗砂粒含む 焼；良好 色；(外) 5YR8／3淡橙 (内) 2.5YR6／4にぶい橙	平底気味の丸底より弱い稜を経て外反する口縁に至る。	(外) 口縁部箆状工具による横位の撫で体部箆削り後撫で (内) 体部箆磨き
5号住居址 第61図－11	坏 土師	口縁15.2 器高 6.1 口縁部1/3	胎；細砂粒、雲母含む 焼；良好 色；(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	丸底より内湾して短く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部箆削り

第5表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
5号住居址 第62図－1	坏 土師	口径10.6 器高 4.7 底径 3.4 口縁部3/4	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい橙 (内) 7.5YR2／1黒	丸みのある平底より緩やかに立ち上がり内側に稜を経てそのまま開く口縁に至る。	(外) 口縁部横撫での後横位の箆磨き体部箆削り (内) 口縁部横撫で、体部箆削り
5号住居址 第62図－2	坏 土師	口径13.6 器高 5.6 口縁部1/4	胎：細砂粒 焼：良好 色：(外) 7.5YR7/4にぶい橙 (内) 7.5YR2／1黒	粘土帯上げ 丸底よりそのまま外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で底部箆削り (内) 口縁部横撫で、底部縦位の箆磨き黒色処理
5号住居址 第62図－3	坏 土師	口径14.8 器高 4.7 口縁部3/4	胎：細砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	浅い平底より短く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で底部箆削り (内) 口縁部横撫で、底部箆磨き
5号住居址 第62図－4	坏 土師	口径14.4 器高 4.5 完形	胎：細砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	丸底より短く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部箆削り (内) 口縁部横撫で、体部箆磨き
5号住居址 第62図－5	坏 土師	口縁17.8 器高 6.9 完形	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／4淡赤橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	丸底よりそのまま僅かに屈曲して外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部箆削り (内) 口縁部横撫で、体部斜位の箆磨き
5号住居址 第62図－6	坏 土師	口縁13.0 器高 5.8 口縁部1/3	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／1黄灰 (内) 2.5YR5／2暗灰黄	粘土帯積上げ 丸底より弱い稜を経て短く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部斜位の箆削り (内) 口縁部から底部横位の横撫で
5号住居址 第62図－7	坏 土師	口縁13.0 器高 5.6 完形	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3黄橙 (内) 10YR2／1黒	丸底より短く内湾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で体部横位の箆削り (内) 口縁部横撫で、体部箆磨き
5号住居址 第62図－8	坏 土師	口縁13.4 器高 5.4 完形	胎：雲母、石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	丸底より内湾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、体部横位の箆状工具による削り
5号住居址 第62図－9	坏 土師	口縁12.8 器高 5.2 完形	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／2灰白	丸底よりそのまま短く内傾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、体部箆状工具による削り (内) 口縁部横撫で、箆状工具による磨き
5号住居址 第62図－10	坏 土師	口縁14.6 器高 5.6 完形	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄橙 (内) 10YR8／2灰白	丸底より内湾する口縁に至る	(外) 口縁部横撫での後箆磨き (内) 口縁部横撫で、体部横位の箆削り
5号住居址 第62図－11	坏 土師	口縁12.6 器高 5.6 完形	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	丸底より内湾する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、底部横位の箆削り (内) 口縁部横撫で、底部放射状の箆磨き
5号住居址 第62図－12	坏 土師	口縁13.0 器高 5.0 完形	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい黄橙	丸底で口縁は内湾する。	
5号住居址 第62図－13	坏 土師	口縁 器高 5.5 口縁部欠損	胎：雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR3／2黒褐	丸底で、口縁は内湾する。	
5号住居址 第62図－14	坏 土師	口縁10.0 器高 6.0 口縁部1/2	胎：雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／4にぶい橙 (内) 7.5YR1.7／1黒	深い丸底より外反する口縁に至る。	(内外) 体部から口縁部に横位の箆磨き (内) 黒色処理

第6表　林之郷E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
5号住居址 第62図－15	坏 土師	口径10.6 器高 7.5 完形	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR4／1赤灰	平底より深く立ち上がり短く外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で、体部箆削り (内) 黒色処理
5号住居址 第62図－16	坏 土師	口径9.0 器高5.8 完形	胎：雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／2灰褐 (内) 7.5YR4／1褐灰	深い丸底より稜を経て直立する口縁に至る。口唇は内面に稜を持つ。	(内外) 口縁部横撫で、体部横位の箆削り
5号住居址 第62図－17	坏 土師	口径8.2 器高7.5 完形	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR3／1明赤灰	粘土塊を指で摘み上げて成形半底からやや丸みを持った体部を経て鈍い稜を経て直立する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で体部指による撫で
5号住居址 第63図－1	高坏 土師	口径18.0 器高14.0 裾径11.6 口縁部1/2	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／6浅黄橙 (内) 10BG1.7／1青黒	粘土帯積上げ坏部は接合部より稜を経て外傾する口縁に至る。脚部は接合部より大きく外反して開く。	(外) 口縁部横撫で、体部の箆削り、脚部縦位の箆削り、裾部横位の箆削り (内) 坏部放射状の箆磨き黒色処理
5号住居址 第63図－2	高坏 土師	口径14.4 器高11.0 裾径10.7 口縁部1/3	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR7.5黒	粘土帯積上げ坏部は接合部よりは丸みをもって立上がり鈍い稜を経て外反する口縁に至る。脚部は接合部より大きく開く。	(外) 口縁部横撫で、体部箆削り、裾部横位の撫で (内) 体部箆磨き
5号住居址 第63図－3	坏 土師	口径14.3 器高 9.9 裾径10.7 完形	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR8／4淡橙 (内) 5YR7／6橙	粘土帯積上げ坏部は接合部よりにぶい稜を経て外反する口縁に至る脚部は接合部より大きく開く。	(外) 口縁部横撫で、体部横位の箆削り、裾部横位の撫で (内) 体部箆磨き
5号住居址 第63図－4	高坏 土師	口径16.2 器高10.0 裾径11.1 完形	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 10YR6／8赤橙	粘土帯積上げ坏部は接合部より稜を経て長く外反する口縁に至る。脚部は接合部より大きく開く。	(外) 口縁部横撫で、脚部縦位の箆磨き、裾部横位の撫で
5号住居址 第63図－5	高坏 土師	口径22.6 器高10.6 裾径11.0 完形	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR7／6橙	坏部は深く丸みを持ち、鈍い稜を経て外反する口縁に至る脚部は接合部より大きく開く。	(外) 口縁部横撫で、体部箆削り、裾部横位の撫で
5号住居址 第63図－6	高坏 土師	口径14.8 器高 5.0 口縁部1/3	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR7／1黒	坏部は接合部より稜を経て、長く外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で (内) 口縁部横撫で、体部箆磨き
5号住居址 第63図－7	高坏 土師	残高 8.5 裾径14.0 口縁部欠損	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR3／1黒褐	粘土帯積上げ 脚部は径が大きく、接合部より大きく開く。	(内外) 脚部は縦位の撫で、裾部は横位の撫で (内) 黒色処理
5号住居址 第63図－8	高坏 土師	残高 7.1 裾径10.0 口縁部欠損	胎：粗砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／4浅黄橙 (内) 7.5YR8／3浅黄橙	粘土帯積上げ 脚部は接合部より大きく広がり裾部でさらに開く。	(外) 体部箆削り、裾部横位の撫で (内) 体部は横位の撫で
5号住居址 第63図－9	高坏 土師	残高 7.0 裾径10.4 坏部欠損	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ 脚部は接合部より徐々に広がり裾部で大きく開く。	(内外) 裾部横位の撫で
5号住居址 第63図－10	高坏 土師	残高 5.1 裾径 9.8 坏部欠損	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／4にぶい橙		(内外) 裾部横位の撫で
5号住居址 第63図－11	甕 土師	残高12.0 器高10.7 底径 5.3 口縁部1/2	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 2.5YR4／1赤灰	平底より丸みを持って立上がり外反する口縁に至る。	(外) 頸部横位の撫でつけ、胴部縦位の箆削り (内) 箆削り

第7表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
5号住居址 第63図－12	甕 土師	口径14.0 器高11.4 底径 6.0 口縁部2/3	胎：礫粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ平底より立上がり、胴部は上位に最大径を持ち、外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で (内) 底部箆状工具による削り
5号住居址 第64図－1	甕 土師	口径13.6 器高10.1 底径 6.9 完形	胎：粗砂粒、雲母 焼：良好 色：(内外) 10YR5／6にぶい橙	底部粘土板に胴部、口縁部粘土をのせている。平底より丸みをもって立上がり口縁は外反する。	(外) 口縁部、横撫で (内) 箆削り、胴部縦位の撫で、底部箆削り
5号住居址 第64図－2	甕 土師	口径 3.5 残高11.0 口縁部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／2灰色 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 胴部は上位に最大径をもち、口縁は大きく外反する。	(外) 口縁部横撫で (内) 胴部横位の撫で、斜位の箆削り
5号住居址 第64図－3	甕 土師	口径16.4 残高25.3 底径 7.0 完形	胎：礫、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／4赤褐 (内) 10YR4／3赤褐	粘土帯積上げ 平底より丸みを持って立上がり、胴部は中位に最大径をもち、口縁は外反する。	(内外) 口縁部横撫で、胴部箆削り
5号住居址 第64図－4	甕 土師	口径12.6 残高12.0 口縁部2/5	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR2／1黒褐 (内) 5YR5／6明赤褐	粘土帯積上げ 丸みのある胴部より外反する口縁部に至る。	(外) 口縁部横撫で、胴部縦位の箆削り (内) 胴部箆削り
5号住居址 第64図－5	甕 土師	口径21.0 残高10.5 口縁部1/2	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ 張りのある胴部より外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、横位の箆磨き、胴部縦位の箆磨き (内) 口縁部横撫で、胴部横位の撫で
5号住居址 第64図－6	甕 土師	残高17.0 底径 5.6 口縁部欠損	胎：礫、雲母 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	粘土帯積上げ 平底より立上がり、胴部上位に最大径を持つ。	(外) 箆削り (内) 横位の箆削り、箆撫で
5号住居址 第64図－7	甕 土師	残高14.0 底径 6.0 口縁部欠損	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR6／1褐灰	粘土帯積上げ 平底より立上がる。	(外) 胴部縦位の刷毛目 (内) 胴部横位の刷毛目
5号住居址 第65図－1	甕 土師	残高 5.0 底径 7.7 底部残存	胎：粗砂粒、雲母多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR3／1黒褐	粘土帯積上げ 平底より大きく開いて立ち上がる。	(内) 胴部から底部箆削りの後横位の箆ぶき
5号住居址 第65図－2	甕 土師	残高 3.7 底径 6.6 底部残存	胎：礫、粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	上げ底ぎみの底部より外反しながら立ち上がる。	(内外) 箆状工具による削り
5号住居址 第65図－3	甕 土師	残高 2.3 底径 4.0 底部残存	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5/3にぶい赤褐 (内) 2.5YR5/4にぶい赤褐	平底	
5号住居址 第65図－4	甕 土師	残高 8.5 底径 7.4 底部残存	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR3／6暗赤褐 (内) 2.5YR2／4暗赤褐	粘土帯積上げ 平底より丸みをもって立ち上がる。	(内) 胴部横位の箆削り、底部箆削り
5号住居址 第65図－5	甕 土師	残高 6.5 底径 6.0 底部残存	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／2灰褐	粘土帯積上げ 平底より立ち上がる。	(外) 胴部箆削り (内) 底部から胴部箆削り
5号住居址 第65図－6	甕 土師	残高 6.7 底径 4.5 底部残存	胎：石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／4赤褐 (内) 5YR4／2灰褐	粘土帯積上げ 平底より立ち上がる。	(外) 胴部縦位の箆状工具による削り

第8表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
5号住居址 第65図－7	甕 土師	残高 2.1 底径 5.6 底部残存	胎：白色砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／6赤 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	粘土帯積上げ 平底	(外) 胴部上位の刷毛目 (内) 箆削り
5号住居址 第65図－8	甕 土師	残高 6.0 底径 4.8 底部残存	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6 (内) 5YR5／6	粘土帯積上げ 平底より丸みを持った胴部へ移行する。	(内外) 箆状工具による削り
5号住居址 第65図－9	台付甕 土師	口径12.4 器高16.0 脚径 9.3 口縁部1/2	胎：礫、粗砂粒、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 5YR2／1黒褐	粘土塊を摘み上げて成形 胴部は上位に最大径を持ち、口縁部は外反する。脚部は大きく開く。	(外) 口縁部、脚部縦位の撫でつけ (内) 箆状工具による撫で
5号住居址 第65図－10	壺 土師	口径 9.4 器高13.5 完形	胎：赤褐色粗砂粒を多量に含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR8／4浅黄橙	粘土帯積上げ 丸底より大きく張り出し偏平な胴部に至り、長い頸部より外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、頸部縦位の撫で後箆削り、胴部箆削りと撫で (内) 頸部縦位の撫で、体部指撫で
5号住居址 第65図－11	甑 土師	残高10.0	胎：雲母、石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 2.5YR5／6明赤褐		(外) 縦位の木口状工具による刷毛目 (内) 箆削り
5号住居址 第66図－1	甑 土師	口径22.0 器高24.0 孔径 8.5 完形	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／6橙	粘土帯積上げ 孔部より立上がり、張りのない胴部より外反する口縁に至る。	(内外) 口縁部横撫で
6号住居址 第67図－2	坏 土師	口径10.2 器高 6.0 完形	胎：粗砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	口縁部は内湾しながら外傾、体部は偏球形で、口辺部との境は深くくびれる。底部は凹みを有す。	(外) 口縁部横位の撫で、体部下位へら削り (内) 口縁部横位の撫で、体部箆撫で
6号住居址 第67図－3	坏 土師	口径9.4 器高6.0 底径3.8 口縁部4/3	胎：雲母、石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 2.5YR6／4にぶい橙	口縁部僅かに外反し、体部上位で屈曲している。底部は平底。全体的に器形に歪みがみられ、やや粗雑なつくり。	(外) 口縁部横撫で、体部箆削りの後に撫で (内) 体部は横位に箆削りの後に撫で
6号住居址 第67図－4	高坏 土師	口径12.5 器高10.6 脚径18.1 完形	胎：粗砂粒、黒雲母、長石含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	坏部最低位で稜を持ち、屈曲して大きく開く。脚部はラッパ状を呈し、上位に3孔下位に3孔を遠向かいに計6孔有す。	(外) 口縁部、脚部横位の撫で、坏部、脚部箆削りの後箆磨き (内) 坏部、底位の箆磨き、脚部横位の横削り
6号住居址 第67図－5	高坏 土師	口径21.8 器高15.3 脚径16.6 完形	胎：礫、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／4浅黄橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	坏部、脚部屈曲外反し、大きく開く。脚部はラッパ状を呈し、縦2孔ずつ3方向に計6孔を有する。	(外) 口縁部、脚部横位の撫で、箆磨き (内) 坏部、脚部撫で
6号住居址 第67図－6	高坏 土師	口径19.0 残高10.7 脚部4/5	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 2.5YR6／6橙	坏部下位で稜を持ち屈曲外反し、大きく開く。脚部はラッパ状を呈し、縦に2孔ずつ3方向に計6孔を有す。	(外) 口縁部、脚部横位の撫で、箆磨き (内) 坏部、脚部撫で
6号住居址 第67図－7	高坏 土師	口径13.5 残高 8.6 脚部欠損	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／6橙	坏部下位で稜を持ち、屈曲外反する。脚部は柱状を呈する。	(外) 口縁部、横位の撫で、坏部、脚部箆削りの後に撫で (内) 口縁部、横位の撫で、脚部撫で
6号住居址 第68図－1	壺 土師	口径23.8 器高33.2 底径 7.6 完形	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／1褐灰	平底より球形を呈して立上がり胴部下位で最大径をとり、次帯が巡る頸部を経て、段を有して外反する口縁に至る。	(内外) 刷毛目、頸部の突帯に刻みが施される
6号住居址 第68図－2	壺 土師	口径13.2 器高13.0 底径 4.6 完形	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	口縁が2段に外反する有段口縁壺	(外) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の刷毛目が細かく施される (内) 口縁部横位の撫で、胴部撫で

第9表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
6号住居址 第68図－3	壺 土師	口径 8.0 器高10.0 底径 2.8 完形	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／4にぶい赤橙	口縁部直立気味に外反する。体部は半球形を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部最上位に横位の刷毛目胴部縦位の刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、胴部撫で
6号住居址 第68図－4	甕 土師	口径16.0 器高19.6 底径 5.5 完形	胎：粗砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部はくの字に外反し、胴部上位は最大径を有する。口縁部に篦状工具により沈線を一本廻らす。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部篦削りの後撫で、煤、炭化物付着 (内) 胴部篦削りの後撫で、刷毛目痕
6号住居址 第68図－5	壺 土師	口径11.3 器高13.0 底径 3.2 完形	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR7／3にぶい橙	口縁部は緩くくの字状に外反し、胴部中位に最大径を有する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部の一部に斜位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部篦状工具による撫で
6号住居址 第68図－6	壺 土師	口径 9.4 器高14.5 底径 4.0 完形	胎：粗砂粒、石英、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部僅かに外反して開く、胴部はやや偏平な球形を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部撫で
6号住居址 第69図－1	甕 土師	口径16.2 残高11.0 底部欠損	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 10YR7／4にぶい橙	口縁部くの字状に外反し、胴部中位に最大径を有する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の刷毛目 (内) 口辺部に一部刷毛目、胴部指頭による圧痕
6号住居址 第69図－2	甕 土師	口径14.8 残高10.3 底部欠損	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部は外反し、胴部上位に最大径を有する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の刷毛目、横位の撫削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部刷毛目と篦削り痕
6号住居址 第69図－3	甕 土師	口径14.2 残高 2.1 口縁部 1/12	胎：雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	口縁部はS字状に屈曲して外反する。S字口縁台付甕？	(内外) 口縁部横位の撫で
6号住居址 第69図－4	壺 土師	口径18.9 残高 6.6 胴底部 欠損	胎：礫、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	口縁部屈曲して直立し、更に屈曲して外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部磨滅が著しいが篦磨きと見られる。
6号住居址 第69図－5	甕 土師	口径16.1 残高 7.0 胴底部 欠損	胎：礫、石英含む 焼：良好 色：(内外) 5YR7／4にぶい橙	口縁部くの字状に外反する。	(内外) 口縁部横位の撫で、胴部一部斜位の刷毛目
6号住居址 第69図－6	甕 土師	口径18.0 残高 7.0 口縁部1/7	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／2灰赤 (内) 2.5YR6／6橙	口縁部くの字状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部は縦位の細かい刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、胴部上位に指頭による圧痕
6号住居址 第69図－7	甕 土師	口径15.7 残高 5.8 口縁部	胎：粗砂粒、石英、雲母含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	口縁部くの字状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、口辺部は斜位の篦磨き (内) 口縁部横位の撫で、口辺部斜位の篦磨き
6号住居址 第69図－8	甕 土師	口径12.2 残高10.9 底径 6.4 口縁部欠損	胎：細砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 5YR5／2灰褐	胴部上位に最大径を有する。底部は平底で、器肉が厚い。	(外) 胴部一面に斜位の細かい刷毛目 (内) 胴部一面に横位の刷毛目
6号住居址 第69図－9	甕 土師	残高7.5 底径6.5 胴部1/4	胎：粗砂粒、石英含む 焼：良好 色：(外) 5YR5/4にぶい赤褐 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	胴部はやや張ると推定される。底部は平底。	(外) 胴部下半横位、斜位、縦位の刷毛調整 (内) 篦撫でと刷毛調整
6号住居址 第69図－10	甕 土師	残高10.9 底径 6.2 胴部1/4	胎：粗砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ	(外) 胴部斜位、縦位の刷毛目 (内) 横位の刷毛目

第10表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
6号住居址 第70図－1	甕 土師	残高 4.3 底径 3.2 底部のみ	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR6／1褐灰	平底で胴部は緩く外傾しながら立ち上がる。	(外) 箆状工具による撫で一部に箆削り (内) 箆状工具による撫で
6号住居址 第70図－2	甕 土師	残高 3.3 底径 5.9 底部のみ	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) N3暗黒	底部は平底	(外) 胴部縦位の刷毛目 (内) 胴部一部斜位の刷毛目
6号住居址 第70図－3	甕 土師	残高 1.7 底径 5.8 底部のみ	胎：細砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR3／1黒褐 (内) 7.5YR4／1褐灰	底部中央が凹む。	(外) 胴部箆削りの後に撫で (内) 胴部箆磨きと撫で
6号住居址 第70図－4	台付甕 土師	残高 9.5 据径 9.8 坏部欠損	胎：細砂粒、石英、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 2.5YR6／6橙	坏部は脚部より屈曲して大きく開く、脚部はラッパ状を呈する。	(外) 坏部撫で、一部に斜位の箆削り、脚部横位の撫で (内) 坏部、脚部撫で、脚部上位に横位の箆削り
6号住居址 第70図－5	台付甕 土師	残高 5.6	胎：細砂粒、雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／6赤 (内) 7.5YR5／4にぶい橙	粘土紐巻き上げ	(外) へら削りの後撫で (内) 箆状工具による撫で
6号住居址 第70図－6	台付甕 土師	残高10.8 脚部欠損	胎：粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ	(外) 胴部斜位の刷毛目、脚部斜位と縦位の刷毛目 (内) 箆状工具による撫で
6号住居址 第70図－7	台付甕 土師	残高 3.8 据径 7.2 脚部完存	胎：2㎜の礫、雲母・石英、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	脚部は外反し、大きく開く。	(外) 撫で (内) 箆削りの後、撫で
6号住居址 第70図－8	器台 土師	口径 9.5 器高 7.3 底径 9.0	胎：雲母・石英等細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／2灰褐		(外) 体部箆削りの後、箆撫で、脚部撫で (内) 体部箆削りの後撫で、脚部刷毛目
6号住居址 第70図－9	甑 土師	残高 4.8 底径 9.5 底部～胴部下位1/5	胎：雲母細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙		(外) 縦位の箆削り (内) 最下位縦位の箆削り、横位の刷毛目 外面に僅かに赤色塗彩痕
6号住居址 第70図－10	器台 土師	残高 8.0 底径14.2 脚部9/10	胎：雲母・石英等細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR5／6明赤褐	脚部上位で屈曲し、面線的に開く。	(外) 脚部箆削り後、刷毛状工具による撫で (内) 横位の撫で台部との接合部に刷毛目
6号住居址 第71図－1	甑 土師	残高 2.0 底部の一部残存	胎：雲母細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR1／6明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい橙	孔は内側から穿つ	(外) 縦位の箆削り (内) 刷毛調整＋撫で
6号住居址 第71図－2	手捏 土師	口径 5.2 器高 3.6 底径 3.6 部完存	胎：雲母・石英細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR5／2にぶい橙	手捏ね	(外) 縦位の撫で (内) 指頭の圧痕
7号住居址 第72図－3	坏 土師	口径14.0 残高 4.2 口縁部～体部1/7	胎：粗砂粒、雲母細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部は屈曲して外反する。	(外) (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
7号住居址 第72図－4	甕 土師	口径21.8 残高 4.6 口縁部 1/10	胎：石英粗砂粒、細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR3／3明赤褐 (内) 7.5YR5／4にぶい橙		(外) (内) 横位の撫で

第11表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
7号住居址 第72図－5	甕 土師	口径15.2 残高 2.7 口縁部1/5	胎：雲母・細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／1褐灰		(外)(内) 横位の撫で
7号住居址 第72図－6	甕 土師	口径11.7 残高 5.0 口縁部1/8	胎：雲母・石英の細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 7.5YR6/4にぶい橙	口縁部は「くの字」状に外反する。	(外)(内) 横位の撫で
7号住居址 第72図－7	壺 土師	口径10.4 残高 4.1 口縁部1/5	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／1灰白 (内) 7.5YR7／2明褐灰	直立する口縁部。	(外)(内) 横位の撫で
7号住居址 第72図－8	壺 土師	残高 3.3 底径 8.8 底部1/3	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) N－3暗灰 (内) N－4灰	平底の底部から外反して立ち上がる。	(外) 精緻な箆磨き (内) 箆削りの後撫で
7号住居址 第72図－9	壺 土師	残高 3.1 底径 6.4 底部1/4	胎：石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR3／6暗赤褐 (内) 5YR4／1褐灰		(外) 刷毛目 (内) 箆削りの後撫で
7号住居址 第72図－10	壺 土師	残高 2.8 底径 6.4 底部1/4	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／2灰赤 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	平底の底部から外反し立ち上がる。	(外) 縦位の箆削りの後撫で (内) 箆削りの後撫で
7号住居址 第72図－11	壺 土師	残高 2.8 底径 6.8 底部1/4	胎：石英・雲母の粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい橙 (内) 5YR3／3暗赤褐	平底の底部から外反し立ち上がる。	(内外) 精緻な箆磨き
7号住居址 第72図－12	甑 土師	口径 2.6 底径 6.0 底部のみ 完存	胎：雲母・石英等細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／3にぶい黄橙 (内) 10YR6／2灰黄褐		(外) 縦位の箆削りの後撫で (内) 横位の撫で
7号住居址 第72図－13	ミニチュア	口径 2.5 器高 3.1 底径 2.0 完形	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤橙 (内) 5YR3／3暗赤褐	手ずくね	
8号住居址 第73図－1	高坏 土師	口径 8.1 残高 6.3 坏部1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 7.5YR7／6	脚部との接合から外反して立ち上がり、坏部下位に稜を有し、体部は直線的に開く。	(外)(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－2	高坏 土師	口径20.2 残高 5.9 坏部1/3	胎：雲母・石英等粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	脚部との接合から外反して立ち上がり、坏は下位に稜を有し、体部は僅かに内湾しつつ直線的に開く。	(外)(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－3	高坏 土師	残高11.6 底径17.4 脚部完存	胎：雲母・石英細砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 2.5YR6／6橙	坏部との接合部から緩やかな膨らみを持って下がり、裾部で大きく開く。	(外) 縦位の撫削りの後撫で裾部横位の撫で(内) 横位の箆削りの後撫で裾部横位の撫で
8号住居址 第73図－4	(高坏) 土師	残高 1.6 底径14.2 裾部1/8	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい黄橙 (内) 5YR6／4にぶい橙		(外)(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－5	甕 土師	口径14.4 残高 9.1 口縁部1/3 胴部1/7	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／4淡赤褐 (内) 2.5YR5／6明赤褐	粘土帯積上げ？ 胴部から口縁部に向かって「くの字」状に外反する。	(外)(内) 口縁部横位の撫で

第12表林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
8号住居址 第73図－6	壺 土師	口径13.4 残高 6.0 口縁部～ 肩部1/3	胎：雲母・石英ほか細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／2灰褐 (内) 5YR5／4にぶい橙	粘土帯積上げなで肩の肩部から口縁部に向かって外反して開く。	(外)(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－7	甕 土師	口径14.6 残高 4.0 口縁部～ 肩部1/6	胎：雲母・石英ほか細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	肩から口縁部に向かって外反して開き、口縁部で僅かに内湾する。	(外)(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－8	甕 土師	口径13.6 残高 3.1 口縁部1/5	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／6明褐		(外) 波状文(内) 横位の撫で
8号住居址 第73図－9	壺 土師	残高21.2 底径 6.0 胴部1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 胴部は球形を呈する。	(外) 縦位の箆削りの後撫で (内) 横位の刷毛目
9号住居址 第74図－1	甕 土師	口径18.8 器高28.6 底径 9.4 略完存	胎：0.2未満の石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 5YR7／3にぶい橙	球形を呈する胴部から外反する口縁部に至る。	(外) 口縁部・台部横位の撫で、胴部刷毛目 (内) 口縁部・台部横位の撫で、胴部箆削りの後撫で
10号住居址 第75図－2	坏 土師	口径14.8 器高 5.2 完形	胎：細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR6／2灰黄褐	丸底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。	(外) 体部横位の箆磨き底部縦位の箆削り (内) 体部横位の箆磨き底部縦位の箆磨き
10号住居址 第75図－3	坏 土師	口径13.8 残高 3.9 口縁部	胎：雲母、細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 5YR7／4にぶい橙	口縁部で内湾して窄まる。	(外) 箆状工具による撫で (内) 精緻な箆磨き
10号住居址 第75図－4	高坏 土師	残高 5.5 脚部	胎：微砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	脚部は接合点から若干開き、裾部で大きく開くと推定される。	(外) 縦位の箆状工具による撫で (内) 箆状工具による削り、撫で
10号住居址 第75図－5	高坏 土師	残高 2.4 裾径14.8 裾部1/6	胎：細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／2にぶい黄橙	裾部は広がりラッパ状を呈する。	(外) 縦位の丁寧な箆状工具による撫で (内) 箆状工具による削り、横位の撫で
10号住居址 第75図－6	甕 土師	口径19.8 残高 4.7 口縁部1/8	胎：細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	口縁部は外反する。	(外) 口縁部横撫で、胴部箆状工具による削り、撫で (内) 口縁部横撫で、胴部箆状工具による撫で
10号住居址 第75図－7	甕 土師	口径14.2 残高 8.5 口縁部～ 胴部	胎：微砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／2灰褐 (内) 5YR7／3にぶい橙	球形を呈する胴部より外反する口縁に至る。	(外) 口縁部横撫で、胴部箆状工具による撫で (内) 口縁部横撫で、胴部箆状工具による撫で
10号住居址 第75図－8	甕 土師	口径 残高 9.4 底径 6.8 胴部～底部	胎：雲母、微砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／2明褐灰	平底より丸みのある胴部に移行する。	(外) 胴部縦位の箆状工具による削り、縦位の撫で (内) 胴部刷毛目整形、箆状工具による撫で
10号住居址 第76図－1	石製模造品 土師	縦 3.3 横 1.4 厚み0.4 完形		剣形の石製造品。	双孔で、孔径は0.2cm×0.2cm
11号住居址 第77図－2	坏 土師	口径15.6 器高 4.4 口縁7/8	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底の底部から低い位置で体部に屈曲し、体部は大きく外反する。	(外) 口縁部横位撫で、体～底部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部箆磨き

第13表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
11号住居址 第77図－3	坏 土師	口径15.4 残高 4.2 口縁部1/4 体部1/6	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 黒	底部から低い位置で体部に屈曲し、体部は大きく外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体～底部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部箆磨き
11号住居址 第77図－4	坏 土師	口径15.2 残高 3.7 口縁部2/7	胎：雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR7／6橙	体部から口縁部に直線的に外傾する。	(外)(内) 横位の撫で
11号住居址 第77図－5	坏 土師	残高 3.1 口縁部 のみ欠損	胎：石英・粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／2灰褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐		(外) 横位の箆削り (内) 横位の箆削りの後撫で
11号住居址 第77図－6	壺 土師	口径 9.8 残高 6.3 口縁部～ 体部1/5	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3赤褐 (内) 7.5YR1.7／1黒		(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後横位の箆撫で(内) 口縁部横位の撫で、体部箆撫で
11号住居址 第77図－7	甕 土師	口径 9.9 器高 8.2 底径 5.6 2/3	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR6／2灰褐	肩部に最大径を有する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
11号住居址 第77図－8	甕 土師	口径10.8 器高13.3 底径 6.4 7/8	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／3赤褐 (内) 2.5YR5／2灰赤	平底の底部から胴部中位に最大径を有して立上がり、口縁部で短く外反する。	(外) 口頸部横位の撫で、口縁～頸部横位の刷毛目胴部縦位の箆削り (内) 口頸部横位の撫で、口縁～頸部横位の刷毛目胴部箆撫で
11号住居址 第77図－9	甕 土師	口径11.7 器高13.6 底径 6.2 6/8	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／4赤褐色 (内) 2.5YR5／2灰赤	平底の底部から胴部は張りを持たずに立上がり、口縁部で短く外反する。	(外) 口頸部横位の撫で、口縁～頸部横位の刷毛目胴部縦位の箆削り (内) 口頸部横位の撫で、口縁～頸部横位の刷毛目胴部箆撫で
11号住居址 第77図－10	甕 土師	口径10.2 残高 8.3 口縁部～ 胴部1/4	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／4赤褐色 (内) 2.5YR6／4にぶい橙	肩部に最大径を有し、口縁部は内傾して外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後撫で(内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
11号住居址 第77図－11	甕 土師	残高 6.2 底径 6.7 底部完存、 胴下位1/5	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ。	(外) 胴部縦位の箆削り (内) 胴部箆撫で
11号住居址 第78図－1	甕 土師	口径15.6 残高10.7 口縁～胴 部下位5/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)(内) 7.5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ。 口縁部は緩く外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
11号住居址 第78図－2	甕 土師	残高10.2 底径 7.0 底部ほぼ 完存 胴部下位1/3	胎：雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ。 平底の底部から球形の胴部に立ち上がる。	(外) 器面が荒れ不明 (内) 撫で
11号住居址 第78図－3	甕 土師	残高15.4 底径7.0 底部完存 胴部1/5	胎：雲母・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤褐 (内) 5YR4／1褐灰	砲弾状を呈する。	(外) 箆撫で(内) 横位の撫で
11号住居址 第78図－4	甕 土師	残高11.8 底径 7.8 底部～胴部 下位完存 胴部中位1/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 黒	底部は平底で、胴部は筒状を呈する。	(外) 横位の撫で (内) 横位の箆削りの後箆撫で
12号住居址 第79図－5	蓋 須恵	推径13.6 器高 4.1 9/10	胎：精良 焼：良好 色：(外) 5B5／1青灰 (内) 5PB5／1青灰		(外) 天井部轆轤による箆削り、胴部横位の撫で (内) 轆轤による撫で

第14表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
12号住居址 第79図－6	坏 土師	口径14.2 器高 4.7 1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／3にぶい橙	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－7	坏 土師	口径13.4 器高 4.1 1/2	胎：白色粗砂粒、黒雲母を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／1黄灰 (内) 10YR6／1褐灰	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部箆磨き＋刷毛目
12号住居址 第79図－8	坏 土師	口径13.5 器高 4.2 ほぼ完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR7／4にぶい橙	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－9	坏 土師	口径15.2 器高 4.5 1/2	胎：雲母・石英の粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で＋刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－10	坏 土師	口径14.0 器高 4.1 1/4	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 10YR7／4にぶい黄橙	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－11	坏 土師	口径12.1 器高 3.6 1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／1灰白	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部でさらに内湾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－12	坏 土師	口径11.2 器高 4.2 1/2	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／2灰褐 (内) 7.5YR5／1褐灰	丸底の底部から内湾しながら立上がり、口縁部でさらに内湾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後…部撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
12号住居址 第79図－13	高坏 土師	残高 7.7 復径16.8 脚部1/5	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／3にぶい黄褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	ラッパ状を呈する。	(外) 脚部縦位の箆撫で、裾部横位の撫で (内) 脚部横位の箆削りの後撫で、裾部横位の撫で
12号住居址 第80図－1	壺 土師	口径10.4 器高 8.6 完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	丸底。口縁部は僅かに内湾しながら開く。	(外) 箆削りの後箆撫で (内) 箆削りの後撫で
12号住居址 第80図－2	甕 土師	口径12.4 器高 8.0 完存	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 丸底の底部から、体部は偏平な球形を呈し、口縁部で「くの字」状に外反する。	(外) 口縁～胴部横位の撫で底部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、底部箆削り
12号住居址 第80図－3	甕 土師	口径12.8 残高 7.7 口縁部1/2	胎：石英・雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 5YR6／2灰褐	口縁部は「くの字」状に外反し、口唇部に面取りを施す。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後箆撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
12号住居址 第80図－4	甕 土師	口径21.6 残高25.8 1/3	胎：黒雲母粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	胴部は張りがあり、口縁部で「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後縦位の刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆撫で
12号住居址 第80図－5	甕 土師	口径27.8 残高 7.0 口縁～胴部上位1/8	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／1褐灰 (内) 10YR6／2灰黄褐	口縁部は緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫での後横位の箆磨き、胴部箆撫で (内) 口縁部横位の撫での後横位の箆磨き、胴部箆撫で
12号住居址 第80図－6	甕 土師	口径26.4 残高 8.6 口縁～胴部上位1/6	胎：石英・雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部は緩い「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後箆撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で

第15表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
12号住居址 第80図－7	甕 土師	口径27.4 残高13.5 口縁～ 胴部1/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	口縁部は「くの字」状に外反し、口唇部に面取りを施す。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で、一部箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴部丁寧な箆撫で
12号住居址 第80図－8	壺 土師	残高 4.6 底径 5.8 底部1/3	胎：細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR1.7／1黒 (内) 7.5YR4／1褐灰		(外) 箆削りの後横位の箆磨き (内) 箆撫で
12号住居址 第81図－1	甕 土師	口径23.4 器高24.8 底径 8.2 1/5	胎：白色粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR3／1黒褐		(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後、刷毛目・箆撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
12号住居址 第81図－2	(甕) 土師	口径29.4 残高12.0 口縁～胴 部上位1/6	胎：0.1の粗砂粒・雲母粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／1褐灰 (内) 7.5YR5／2灰褐	口縁部は緩く「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部刷毛目調整＋箆撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部丁寧な箆撫で
13号住居址 第82図－3	坏 土師	口径12.4 残高 3.0 口縁～ 体部1/2	胎：雲母、細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR8／2灰色 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	内湾する体部から、口縁部は直立する。	(外) 口縁部横位の撫で体部箆磨き？ (内) 口縁部横位の撫で、体部精緻な箆磨き
13号住居址 第82図－4	高坏 土師	口径19.4 器高15.1 裾径13.8 口縁1/4欠	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ。 坏部は外面に稜い稜を台し、大きく外傾する。脚部は柱状の脚から裾が屈曲して大きく広がる。	(外) 口縁部横位の撫で、体部刷毛目、裾部撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部刷毛目、脚部箆削り
13号住居址 第82図－5	高坏 土師	残高 8.9 脚部のみ	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	僅かに膨らみを有す柱状の脚	(外) 縦位の箆磨き (内) 横位の箆削り
13号住居址 第82図－6	壺 土師	口径15.8 残高 5.7 口縁部1/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)・(内) 10YR7/4にぶい黄橙	口縁端部を折り返す。	(外) 口縁部横位の撫で、頸部斜位の刷毛目 (内) 横位の撫で
13号住居址 第82図－7	甕 土師	口径11.8 残高 3.3 口縁部1/8	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	口縁部はS字状に屈曲する。	(外)・(内) 横位の撫で
13号住居址 第82図－8	壺 土師	口径 8.6 器高 8.9 ほぼ完存	胎：0.5の礫・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	丸底から僅かに偏平な体部に立上がり、外反する口縁部に至る。	(外) 口縁部～体部上位横位の撫で、体部下位箆削り (内) 口縁部～体部上位横位の撫で、体部下位箆削り
14号住居址 第83図－1	坏 土師	口径15.7 器高 5.5 完存	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	丸底から屈曲して稜を成し、内湾気味に開く口縁部に至る。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で、(内) 口縁部横位の撫で、体部横位と縦位の箆磨き
14号住居址 第83図－2	坏 土師	口径12.3 器高 5.1 完存	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／2灰色 (内) 10YR8／1灰色	半球形を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部～底部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部箆削り＋箆磨き
14号住居址 第83図－3	坏 土師	口径15.4 器高 6.3 1/2	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	平底気味の丸底から、体部は内湾して立上がり、口縁部は直立する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部～底部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部箆削り＋箆磨き
14号住居址 第83図－4	高坏 土師	口径 6.7 裾径 9.9 脚部のみ ほぼ完存	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 脚部5YR7/4にぶい橙坏黒	脚部緩やかに外反しながら開く。	(外) 脚部縦位の箆磨き、坏部横位の撫で (内) 脚部縦位の箆削りの後撫で、坏部黒色処理

第16表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
14号住居址 第83図－5	甕 土師	口径12.4 器高 8.5 口縁部1/6 欠損	胎：粗砂粒を僅かに含む。精良 焼：良好 色：(外)(内) 7.5YR8／3浅黄橙	胴部は偏平な球形を呈し、口縁部は外反する。 ＊底部に籠の刻み	(外) 口縁部横位の撫で、胴～底部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴～底部箆削りの後箆撫で
14号住居址 第83図－6	甕 土師	口径12.8 器高10.4 底径 5.5 口縁1/3欠	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／4にぶい橙 (内) 2.5YR6／3にぶい橙	平底の底部から緩く内湾し立上がり、口縁部で屈曲外傾する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削り、底部箆切り (内) 口縁部横位の撫で、胴～底部箆削りの後撫で
14号住居址 第83図－7	甕 土師	口径13.2 器高15.3 底径 6.0 口縁1/2欠	胎：雲母・石英等粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ 底部から大きく傾く。縦長の球形胴から、口縁部に緩く外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆削り
14号住居址 第83図－8	甕 土師	口径14.6 残高11.2 口縁部1/10 胴部1/5	胎：粗砂粒をごく僅かに含む。精良 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	口縁部は外反し、端部に面取りを施す。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部精微な箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆削り
14号住居址 第83図－9	甕 土師	残高 8.7 胴部下位 ～底部	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／4赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	丸底気味の底部から胴部は僅かに内湾して立上がる。	(外) 縦位の箆削り？(内) 横位の箆削り？器面が著しく荒れる。
14号住居址 第83図－10	甕 土師	口径30.0 残高11.6 口縁部1/7	胎：雲母・石英等粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR3／1黒褐 (内) 7.5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ 上位に最大径を持つ丸みのある胴部より外反し口縁に至る。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆削り、磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆削り
14号住居址 第84図－1	甕 土師	口径20.4 器高32.0 底径6.5 底胴部 一部欠損	胎：0.3未満の石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／6赤 (内) 10YR4／4赤褐	粘土帯積上げ 口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部上位の箆削りの後撫で、胴部下位縦位の箆削り (内) 撫で、底部箆削り
14号住居址 第84図－2	甕 土師	口径18.6 器高36.5 底径 6.8 1/2	胎：粗砂粒、雲母・石英粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ 口辺部は「くの字」状に外反し、口唇部に面取りを施す。	(外)(内) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の箆削りの後撫で
14号住居址 第84図－3	甕 土師	口径17.0 器高12.9 底径 5.3 口縁部1/2欠	胎：雲母・石英粗砂粒を多量に含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 2.5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後撫で
14号住居址 第84図－4	ミニチュア 土師	残高 2.8 底径 7.2 1/2	胎：雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR6／6橙		(外)(内) 胴部縦位の箆削り後横撫位の撫で
19号住居址 第85図－5	坏 土師	口径13.2 器高 6.8 完存	胎：雲母、礫を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR5／4にぶい赤褐	半球形の底部から、口縁部は屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部箆削り＋箆撫で
19号住居址 第85図－6	坏 土師	口径11.3 器高 6.7 口唇部1/6 ほか完存	胎：雲母、石英粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤橙	体部は偏平な球形を呈し、口縁部は屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部箆撫で
19号住居址 第85図－7	坏 土師	口径14.0 器高 7.0 2/3	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／4浅黄橙 (内) 7.5YR8／3浅黄橙	半球形の体部から、口縁部は屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部箆削り＋箆撫で
19号住居址 第86図－1	坏 土師	口径15.8 器高 5.8 完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／6明黄褐	半球形の体部から、口縁部は屈曲外反する。	(外) 体部箆削りの後精緻な箆磨き、底部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部縦位の精緻な箆磨き

第17表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
19号住居址 第86図－2	坏 土師	口径16.4 器高 5.8 体部1/2 口縁部1/16	胎：粗砂粒をごく僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 7.5YR6／1褐灰	丸底の底部から体部は強く内湾して立上がり、口縁部で緩く外反する。	(外) 体部箆削りの後精緻な箆磨き (内) 体部横位の精緻な箆磨き
19号住居址 第86図－3	坏 土師	口径13.8 器高 4.5 完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 10YR8／3浅黄橙	丸底の底部から体部は内湾して立上がり、口縁部は外反する。	(外) 体部箆削りの後精緻な箆磨き (内) 体部縦位の精緻な箆磨き
19号住居址 第86図－4	坏 土師	口径14.9 器高 5.0 完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む精良 焼：良好 色：(外) (内) 5YR6／6橙	丸底の底部から体部は内湾して立上がり、口縁部は屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の、体部斜位の箆磨き (内) 口縁部横位の、体部斜位の箆磨き
19号住居址 第86図－5	坏 土師	口径14.0 器高 5.2 完存	胎：石英・雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙一部黒色 (内) 5YR6／6橙	丸底の底部から体部は内湾して立上がり、口縁部はさらに内傾する。口唇部は面取りが施される。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆削り (内) 体部斜位の箆磨き
19号住居址 第86図－6	坏 土師	口径12.8 器高 4.8 完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む精良 焼：良好 色：(外) (内) 5YR7／4にぶい橙	丸底の底部から体部は内湾して立上がり、口縁部はさらに屈曲内湾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後精緻な箆磨き (内) 体部斜位の箆磨き
19号住居址 第86図－7	坏 土師	口径10.2 器高 6.0 ほぼ完存	胎：白色粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 10YR5／2灰黄褐色	半球形を呈する。 粗製	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部木口状工具の撫で
19号住居址 第86図－8	壺 土師	口径23.6 残高 8.2 口縁部 ～頸部	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR4／1褐灰	外傾する頸部は口縁部で僅かに外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、頸部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、頸部箆撫で
19号住居址 第86図－9	甕 土師	口径14.8 器高 7.8 口縁部1/3 体部5/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) (内) 10YR5／6赤	偏平な球形の体部から口縁部は外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で
19号住居址 第86図－10	甕 土師	残高 7.0 底径 7.4 底部1/2	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／6赤褐		(外) 縦位の箆削り (内) 不明
19号住居址 第86図－11	甕 土師	口径17.8 器高10.3 口縁部～胴部上位1/5	胎：石英・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR4／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ 口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の刷毛目がごく僅かに残る。 (内) 口縁部横位の撫で
19号住居址 第86図－12	甕 土師	残高 5.4 底径 6.2 底部のみ	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR3／1黒褐 (内) 2.5YR5／4にぶい赤褐		(外) (内) 刷毛目。 －1と同一個体か
19号住居址 第87図－1	甕 土師	口径18.2 残高28.8 口縁部1/8 胴部1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	粘土帯積上げ 卵形の胴部は張りを持って中位に最大径を有し、口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の刷毛目＋撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の刷毛目
19号住居址 第87図－2	甕 土師	口径18.5 残高24.0 胴部下位 ～底部欠損	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／6橙 (内) 2.5YR6／6橙	粘土帯積上げ 卵形の胴部は張りを持って中位に最大径を有し、口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の撫で
19号住居址 第87図－3	甕 土師	口径17.0 残高23.5 口縁部完存 胴部3/4	胎：石英・雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 2.5YR5／4にぶい赤褐	胴部は球形を呈し、口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部上位刷毛目箆削り、下位箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部上位箆削り、下位撫で

第18図　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
19号住居址 第87図－4	土鈴 土師	長径 3.2 短径 3.0 高さ 3.4 完存	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐	手ずくね	中空部には、音質から、硬質の玉が2個入っていると思われる。
20号住居址 第88図－5	坏 土師	口径11.6 器高 5.6 口縁部 1/10	胎：石英、雲母細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	半球形の体部から口縁部は外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部下位箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後磨き
20号住居址 第88図－6	器台 土師	口径 9.6 器高 8.8 裾径13.2 脚部1/2欠	胎：石英、雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) (内) 7.5YR7/4にぶい橙	脚部は僅かに外反しながら開き、体部は僅かに内湾して立上がり口縁部で屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削り、脚縦位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で
23号住居址 第89図－1	坏 土師	口径16.0 器高11.6 ほぼ完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む精良 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐	丸底の底部から内湾して立上がり、低い稜を有してごく僅かに内湾する口縁部に至る。	(外) 底部箆削りの後精緻な箆磨き (内) 黒色処理箆磨き
23号住居址 第89図－2	坏 土師	口径19.8 器高10.1 口縁 1/10欠	胎：粗砂粒、雲母・石英細砂粒含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR6／6橙	丸底の底部から体部へ内湾して立上がり、稜を有して口縁部は外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、底部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、底部箆磨き
23号住居址 第89図－3	坏 土師	口径16.0 器高 6.1 3/4	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／2灰褐 (内) 7.5YR6／3にぶい褐	丸底の浅い底部から、稜を有して外傾する口縁に立上がる。	(外) 口縁部箆削りの後精緻な箆磨き 体部刷毛目調整の後箆磨き (内) 箆磨き
23号住居址 第89図－4	坏 土師	口径13.4 器高 6.1 ほぼ完存	胎：粗砂粒、長石粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／4淡赤橙 (内) 5YR8／4淡橙	丸底の底部から体部は内湾して立上がり、高い稜を有して口縁部は外傾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体～底部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体～底部箆磨き
23号住居址 第89図－5	坏 土師	口径13.2 器高 5.0 口縁 1/10欠	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 5YR7／2明褐灰	丸底の底部から内湾して立上がり、緩い稜を経て口縁部は外傾する。	(外) 口縁部横位の撫で、底部箆削り化粧粘土を施すか？(内) 撫で？器面が荒れる
23号住居址 第89図－6	坏 土師	口径14.4 器高 5.0 完存	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐色 (内) 黒	丸底の底部から体部へ内湾して立上がり、口縁部で屈曲外反する。	(外) 箆削りの後箆磨き (内) 黒色処理箆磨き？
23号住居址 第89図－7	坏 土師	口径16.7 器高 5.8 底径 4.4 口縁1/6欠	胎：白色粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 黒	丸底に近い平底から僅かな沈線を経て外傾する口縁部に立ち上がる。口唇部は短く外反する。	(外) 口縁～体部横位の箆磨き底部箆削りの後木口状工具による撫で (内) 黒色処理箆磨き
23号住居址 第89図－8	坏 土師	口径12.0 器高 5.6 完存	胎：白色粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／6浅黄橙	丸底の底部から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	(外) 底部を箆削りの後精緻な箆磨き (内) 精緻な箆磨き
23号住居址 第89図－9	坏 土師	口径13.2 器高 5.2 口縁1/4欠	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR7／6橙	丸底の底部から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部は内傾する。	(外) 底部を箆削りの後精緻な箆磨き (内) 精緻な箆磨き
23号住居址 第89図－10	坏 土師	口径10.6 器高 4.4 完存	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／1褐灰 (内) N5／1灰	丸底の底部から体部へ内湾して立ち上がり、受部を有して内傾する口縁部に至る。	(外) 口縁部横撫による撫で底部横撫による箆削り (内) 横撫による撫で
23号住居址 第89図－11	高坏 土師	口径15.4 器高10.1 裾径10.4 一部欠損	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 黒	坏底部は内湾し、稜を有して外反する口縁部に立ち上がる。脚部は中位が僅かに膨らみ、裾部で開く。	(外) 坏部横位の、脚部縦位の箆磨き (内) 坏部黒色処理 横位の箆磨き 脚部横位の箆削り

第19表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
23号住居址 第89図－12	高坏 土師	口径16.4 器高10.2 脚径10.3 ほぼ完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 黒	坏部は底部から内湾して立ち上がり、中位で屈曲外反し、内湾外傾する口縁部に至る。脚部はラッパ状に開く。	(外) 坏部横位の、脚部縦位の篦磨き？ (内) 坏部黒色処理＋篦磨き脚部剥離のため不明
23号住居址 第89図－13	高坏 土師	口径13.4 器高 9.0 脚径 9.8 一部欠損	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 黒	坏部は底部から内湾して立ち上がり、中位で屈曲し、外傾する口縁部に至る。脚部はラッパ状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部黒色処理＋篦磨き脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第89図－14	高坏 土師	口径14.3 器高 9.5 脚径 9.9 口縁1/4欠	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 黒	坏部は底部から内湾して立ち上がり、中位で屈曲し、外反する口縁部に至る。脚部はラッパ状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部黒色処理＋篦磨き脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第90図－1	高坏 土師	口径14.8 器高10.6 脚径10.4 一部欠損	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 2.5YR6／6橙	坏部は底部から内湾して立ち上がり、中位で屈曲し、外反する口縁部に至る。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部横位の篦磨き、脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第90図－2	高坏 土師	口径14.5 器高10.2 脚径10.4 ほぼ完存	胎：白色粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) (内) 2.5YR5／6明赤褐	坏部は底部から浅く内湾して立ち上がり、屈曲して外傾する口縁部に至る。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部横位の篦磨き、脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第90図－3	高坏 土師	口径15.7 器高10.0 脚径 9.5 一部欠損	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／4にぶい橙 (内) 2.5YR6／3にぶい橙	坏部は底部から浅く内湾して立ち上がり、屈曲して外傾する口縁部に至る。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部横位の篦磨き、脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第90図－4	高坏 土師	口径15.2 器高11.2 脚径11.2 ほぼ完存	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR6／4橙	坏部は底部から浅く内湾して立ち上がり、外反する口縁部に至る。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部横位の、脚部縦位の篦磨き (内) 坏部横位の篦磨き、脚部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第90図－5	高坏 土師	口径13.8 器高10.7 脚径10.4 ほぼ完存	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR6／6橙	坏部は底部から内湾して立ち上がり、屈曲して稜をなし、外傾する口縁部に至る。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏底部篦削りの後坏部撫で、脚部縦位の篦磨き (内) 口縁横位の撫で、体部斜位の篦磨き、脚部撫で
23号住居址 第90図－6	高坏 土師	残高 5.7 脚径10.5 脚部のみ	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 7.5YR4／2灰褐	脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 縦位の篦磨き (内) 坏底部篦磨き 脚部横位の篦削りの後篦撫で
23号住居址 第90図－7	甕 土師	口径13.0 器高12.4 底径 4.7 ほぼ完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR7／6橙	底りの悪い底部から偏平な球形を呈する胴部に立ち上がり、口縁部で緩い「くの字」状に外反する。	(外) (内) 口縁部～胴部上位横位の撫で、胴部下位～底部篦削り
23号住居址 第90図－8	甕 土師	口径12.6 器高11.4 底径 5.3 口縁2/3欠	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 2.5YR4／1赤灰	口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) (内) 口縁部～胴部上位横位の撫で、胴部下位～底部篦削り
23号住居址 第90図－9	甕 土師	口径15.2 器高25.8 底径 5.7 完存	胎：雲母・石英、長石粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／8赤 (内) 2.5YR6／8橙	胴部は歪んだ鶏卵形を呈し、頸部～口縁部は開いた「コの字」状を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部刷毛目調整
23号住居址 第91図－1	甕 土師	口径16.9 器高33.1 底径 6.7 ほぼ完存	胎：雲母・石英、長石粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ 胴部中位は張りの強い鶏卵形を呈し、頸部～口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の篦削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の篦削りの後撫で
23号住居址 第91図－2	甕 土師	口径16.8 器高28.9 底径 6.5 ほぼ完存	胎：雲母・石英、長石粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ 胴部は鶏卵形を呈し、頸部～口縁部は開いた「コの字」状を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部下位篦削り、上位未調整

第20表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
23号住居址 第91図－3	甕 土師	口径13.3 残高15.0 口縁～胴部上位残存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4明赤褐 (内) 2.5YR4／4にぶい赤褐	胴部は樽形を呈し、頸部～口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部箆撫で
23号住居址 第91図－4	甕 土師	口径15.2 器高 9.4 孔径 2.6 完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／4にぶい赤褐 (内) 7.5YR3／3暗褐	穿孔は内から外へ行う。	(外) 体部上位縦位の、下位斜位の箆削り (内) 体部上位横位の、下位斜位の箆削り
23号住居址 第91図－5	甕 土師	口径16.6 器高30.0 孔径 7.6 ほぼ完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)・(内) 5YR7／6橙	孔部は面取りを施し、胴部砲弾形を呈し、口縁部で大きく外反する。	(外) 胴部縦位の箆削り (内) 胴部上位横位、下位縦位の箆磨き
24号住居址 第92図－1	坏 土師	口径15.2 器高 4.7 完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 黒	丸底から浅く直立気味に立ち上がり、口縁部は内湾気味に開く。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き (内) 黒色処理 口縁部は横位の、体部は斜位の箆磨き
24号住居址 第92図－2	坏 土師	口径14.4 器高 6.1 2/3	胎：黒雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底から体部へ強く内湾して立ち上がり、口縁部で屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部箆削りの後撫で (内) 口縁部は横位の撫で、体部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－3	坏 土師	口径13.0 器高 5.2 5/6	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 10YR4／1褐灰	丸底から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部で屈曲して開く	(外) 口縁部～体部横位の撫で、底部横位の箆削り (内) 口縁部は横位の撫で、体部横位の精緻な箆磨き
24号住居址 第92図－4	坏 土師	口径12.6 器高 5.1 1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄褐 (内) 7.5YR7／2明褐灰	丸底から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。	(外) 口縁部～体部横位の撫で、底部斜位の箆削り (内) 横位の撫で
24号住居址 第92図－5	坏 土師	口径13.8 器高 4.8 7/8	胎：石英・雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、直立する口縁部は外面に稜を有する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部箆磨き
24号住居址 第92図－6	坏 土師	口径14.4 器高 5.2 4/5	胎：黒雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底から緩く内湾して体部へ立ち上がり、口縁部は外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－7	坏 土師	口径13.4 器高 5.7 7/8	胎：細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR7／2にぶい橙	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、口縁部は直立する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－8	坏 土師	口径12.8 器高 4.8 4/5	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、口縁部は僅かに内傾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き？(内) 口縁部横位の撫で、体部～底部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－9	坏 土師	口径14.0 器高 4.3 ほぼ完存	胎：雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR7／3にぶい橙	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、口縁部は僅かに内湾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き？(内) 口縁部横位の撫で、体部～底部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－10	坏 土師	口径13.2 器高 5.1 7/8	胎：雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、口縁部は僅かに内湾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き？(内) 口縁部横位の撫で、体部～底部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－11	坏 土師	口径12.7 器高 4.7 7/8	胎：雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／3にぶい褐	丸底から内湾して体部へ立ち上がり、屈曲して口縁部は内傾する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部斜位の箆磨き

第21表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
24号住居址 第92図－12	坏 土師	口径12.1 器高 5.3 3/5	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 10YR6／3にぶい褐	浅い丸底から体部は屈曲内湾し、口縁部はほぼ直立して開く。	(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の撫で？ (内) 口縁部横位の撫で、体部～底部撫で？
24号住居址 第92図－13	鉢 土師	口径19.8 残高 7.0 1/5	胎：黒雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／1褐灰 (内) 7.5YR6／3にぶい褐		(外) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、体部横位の箆磨き
24号住居址 第92図－14	甕 土師	口径16.2 器高 9.4 底径 4.4 3/5	胎：黒雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／2灰褐～黒	胴部は偏平な球形を呈し、頸部から口縁部にかけて「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆磨き？(内) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の箆磨き
24号住居址 第92図－15	甕 土師	口径15.2 残高11.3 1/5	胎：石英・長石粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 10YR6／3にぶい褐	胴部の張りは弱く、頸部から口縁部にかけて「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆撫で
24号住居址 第92図－16	甕 土師	口径15.6 残高 9.7 1/5	胎：黒雲母粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 7.5YR5／1褐灰	口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部箆削りの後箆磨き (内) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の箆削り
24号住居址 第93図－1	甕 土師	口径16.0 残高25.0 1/2	胎：雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の箆削りの後撫で (内) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の箆削りの後撫で
24号住居址 第93図－2	甕 土師	残高 7.6 底径 7.6 胴部下位～底部のみ	胎：雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／2灰褐 (内) 5YR7／4にぶい橙	平底から胴部へ直線的に広がる。	(外) 胴部縦位の箆削りの後斜位の刷毛目調整 (内) 胴部斜位の刷毛目調整
24号住居址 第93図－3	甑 土師	口径15.6 器高 8.3 孔径 1.2 ほぼ完存	胎：黒雲母・石英粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／3にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	体部は僅かに内湾して開く。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部下位縦位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の箆磨き
24号住居址 第93図－4	紡錘車 滑石	上面径2.9 厚さ 0.9 底面径3.8 完存		断面形は台形を呈する。	孔径0.7
25号住居址 第94図－5	坏 土師	口径13.4 器高 5.5 1/3	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／6橙	丸底から体部は内湾直立し、口縁部で屈曲外反する。	(外) 口縁～体部横位の箆磨き、底部縦位の箆削り (内) 口縁～体部横位の箆磨き、底部横位の箆削り
25号住居址 第94図－6	高坏 土師	口径17.0 残高 4.3 1/8	胎：雲母・石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい褐	底部から体部にかけて屈曲し、外反する。	(外)(内) 横位の撫で－7と同一個体か
25号住居址 第94図－7	高坏 土師	残高 4.0 裾径 9.6 1/6	胎：雲母・石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい褐	裾部で外反し大きく開く。	(外) 横位の撫で (内) 横位の箆削りの後撫で
25号住居址 第94図－8	甑 土師	口径28.4 器高26.7 孔径 6.9 1/2	胎：雲母・石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	粘土帯積上げ 口唇部に面取りを施す。	(外) 口縁部横位の横位の撫で、胴部縦位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の箆削りの後撫で
26号住居址 第95図－1	坏 土師	口径13.7 器高 5.5 口縁 1/4 欠損	胎：粗砂粒を僅かに含む 精良 焼：良好 色：(外)(内) 2.5YR6／6橙	浅い丸底から強い稜を経て外反する口縁部に至る。	(外) 口縁部横位の横位の撫で、底部箆削りの後箆撫で (内) 横位の撫で、化粧粘土を施す？

第22表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
26号住居址 第95図－2	坏 土師	口径15.4 器高 4.6 1/3	胎：粗砂粒を含む精良 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	浅い丸底から屈曲して外反する口縁部に立ち上がる。	(外) 口縁部木口状工具による撫で、底部横位の篦削り (内) 横位の撫で
26号住居址 第95図－3	坏 土師	口径12.6 器高 5.7 口縁1/2欠	胎：粗砂粒、石英細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 黒	丸底から内湾して直立する口縁部に至る。	(外) 口縁部横位の撫で、底部篦削りの後篦磨き (内) 黒色処理篦磨き？
26号住居址 第95図－4	高坏 土師	口径18.0 残高 5.3 坏部1/3	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR7／6橙	体部から口縁部にかけて大きく外反して開く。	(外) 口縁部縦位の篦磨き (内) 口縁部斜位の篦磨き
26号住居址 第95図－5	高坏 土師	口径17.2 残高 4.8 坏部1/4	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR7／4にぶい橙	坏底部から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部で僅かに外反した後、内湾気味に開く。	(外) 横位の篦磨き (内) 体部横位の、底部縦位の篦磨き
26号住居址 第95図－6	高坏 土師	口径19.2 残高12.6 坏部完存 脚部1/2	胎：白色粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外)(内)7.5YR7/6橙	坏部は底部から屈曲して口縁部に向かって外反して開く。脚部は「ハの字」状に開く。	(外) 坏部木口状工具による横位の撫で、脚部篦磨き (内) 坏部横位の撫での後斜位の篦磨き、脚部篦削り
26号住居址 第95図－7	高坏 土師	残高 6.4 裾径13.6 脚裾部1/3	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR7／3にぶい橙	裾部は屈曲外反して開く。	(外) 横位の撫で (内) 脚部横位の篦削り 裾部横位の撫で
26号住居址 第95図－8	壺 土師	口径12.1 残高 9.5 口縁～ 肩部1/6	胎：粗砂粒をごく僅かに含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR6／6橙	口辺部中位に低い段を有する。	(外) 口縁部～肩部横位の撫で、体部横位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、頸部～体部横位の篦撫で
26号住居址 第95図－9	甕 土師	口径19.8 残高 9.5 胴部上位～ 口縁部1/2	胎：黒雲母・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10R5／4赤褐 (内) 2.5YR1.7／1赤黒	頸部から口縁部にかけて大きく外反し、胴部は球形状に大きく張る。	(外) (内) 口縁部横位の撫で、頸部～肩部横位の、胴部上位斜位の刷毛目 外面胴部中位に篦磨き
26号住居址 第95図－10	甕 土師	口径18.1 残高24.7 1/3	胎：0.3の礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4赤褐 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 口辺部は「くの字」状に外反し、胴部は卵形状を呈する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部篦削りの後撫で
26号住居址 第95図－11	甕 土師	残高 2.9 底径 4.8 底部のみ	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) (内) 7.5YR6/4にぶい橙	胴部に向かって外反し立ち上がる。	(外) 斜位の刷毛目 (内) 篦撫で
27号住居址 第96図－1	高坏 弥生	残高 6.1 裾径15.0 脚部のみ	胎：細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10R3／6暗赤 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	4か所に三角形透し孔。	(外) 脚部縦位の篦磨き 裾部横位の篦磨き赤色塗彩 (内) 撫で
27号住居址 第96図－2	甕 弥生	口径17.1 残高12.9 口縁部～ 胴部上位	胎：雲母・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) (内) 2.5YR3／4暗赤褐		(外) (内) 横位の精緻な篦磨き赤色塗彩
27号住居址 第96図－3	甕 弥生	口径13.1 残高15.0 口縁部～ 胴部1/2	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) (内) 5YR6／2灰褐	胴部上位に最大径を有する。	(外) 口縁～胴部上位横位の波状文、胴下位縦位の篦磨き (内) 口縁部木口状工具による撫で。
27号住居址 第96図－4	甕 弥生	口径20.0 残高15.8 口縁部1/2 ～胴部上位	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 10R3／6暗赤	口唇部を折り返す。	(外) 7条単位と5条単位の横位の波状文 (内) 横位の篦磨き

第23表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
27号住居址 第96図－5	甕 弥生	残高13.5 口縁部～ 胴部上位	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10R4／4赤褐 (内) 10R2／2赤黒		(外) 斜位の刷毛目調整後、7条単位の波状文 (内) 横位の精緻な篦磨き＊炉胎土器
27号住居址 第96図－6	甕 弥生	残高 6.6 底径 6.4 底部完存 胴部1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐		(外) 胴部縦位の篦磨き 底部篦削り (内) 横位の篦磨き
27号住居址 第96図－7	甕 弥生	残高 3.6 口縁の 一部	胎：石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／3にぶい赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐		(外) 波状文
27号住居址 第96図－8	甕 弥生	口径12.6 器高17.5 底径 9.3 ほぼ完存	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) (内) 2.5YR4/4にぶい赤褐	胴部は球形を呈し、最大径を外反する口縁に有する。	(外) 刷毛目調整の後、横位の7条単位と5条単位の波状文 (内) 胴部横位の篦磨き
27号住居址 第96図－9	甕 弥生	口径20.2 器高14.8 底径 5.8 口縁1/2欠	胎：粗砂粒・細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10R5／4赤褐 (内) 10R4／4赤褐	口縁部を内側に折り返す。底部に11個の孔をうがつ。	(外) 口縁部指頭による縦位の撫で付け、体部縦位の篦磨き (内) 刷毛目調整＋撫で
28号住居址 第97図－1	坏 土師	口径13.6 器高 5.0 口縁1/6欠	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 黒	丸底から体部へ内湾して立ち上がり、口縁部で屈曲外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、体部篦削りの後横位の篦磨き (内) 黒色処理 横位の篦磨き
28号住居址 第97図－2	坏 土師	口径14.0 残高 4.9 口縁部1/6	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) (内) 7.5YR5／6明褐	丸底から屈曲して外反する口縁部に至る。	器面が荒れ不明
28号住居址 第97図－3	坏 土師	口径15.0 残高 4.8 体部1/3	胎：雲母・石英細砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 黒	丸底から屈曲して外反する口縁に至る。あるいは高坏の坏部か？	(外) 口縁部横位の篦磨き、底部篦削りの後縦位の篦磨き (内) 黒色処理 篦磨き
28号住居址 第97図－4	甕 土師	口径23.8 器高15.0 底径 4.2 胴部1/3欠	胎：雲母・石英粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6明赤褐 (内) 5YR6／6橙	口辺部は「くの字」状に外反する。	(外) 口辺部横位の撫で、胴部篦削り (内) 口辺部横位の篦撫で、胴部横位の刷毛目調整
28号住居址 第97図－5	(甑) 土師	口径21.0 残高11.0 口縁部1/6	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／6橙	粘土帯積上げ 33－7と同一個体か	(外) 口縁部横位の撫で、胴部縦位の篦削り (内) 口縁部横位の撫で、胴部横位の篦削り＋篦撫で
28号住居址 第97図－6	甑 土師	残高10.3 底径 7.4 底部1/3	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄橙 (内) 2.5YR7／3浅橙		(外) 縦位の篦削り (内) 横位の篦削り
28号住居址 第97図－7	甑 土師	残高 9.0 底径 8.8 底部1/5	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR6／6橙	33－5と同一個体か	(外) 縦位の篦削り (内) 縦位の篦削りの後撫で
29号住居址 第98図－8	坏 土師	口径14.2 器高 4.6 1/4	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 5YR8／4淡橙	丸底から内湾して立ち上がり、口縁部は直立する。	(外) 口縁部横位の撫で、底部篦削り (内) 篦磨き
29号住居址 第98図－9	坏 土師	口径16.8 器高 5.0 1/3	胎：石英・雲母細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR7／3にぶい橙	浅い丸底から僅かに屈曲して外反する口縁に立ち上がる。	(外) 口縁部横位の撫で、底部篦削りの後篦磨き (内) 調整不明

第24表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
29号住居址 第98図－10	坏 土師	口径14.4 残高 5.1 口縁部1/4	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／2灰黄褐 (内) 10YR4／3にぶい黄褐	丸底から内湾して、僅かに内傾する口縁部に至る。	(外)(内) 調整不明
29号住居址 第98図－11	坏 土師	口径11.6 器高 7.9 1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 黒	深い丸底から体部上位は内湾内傾し、屈曲して外傾する口縁部に至る。	(外) 横位の精緻な箆磨き (内) 黒色処理、横位の精緻な箆磨き
29号住居址 第99図－1	壺 土師	口径16.8 残高12.8 口縁部3/4、 肩部1/6	胎：白色粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 2.5YR4／6赤褐	粘土帯積上げ 肩部の張り出しが強く、頸部は外傾し、外反する口縁部に立ち上がる。	(外) 横位の精緻な箆磨き (内) 口縁～頸部横位の精緻な箆磨き、肩部木口状工具による撫で
29号住居址 第99図－2	壺 土師	口径21.2 残高12.5 口縁部3/4 体部1/2	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／2灰褐 (内) 5YR7／3にぶい橙	頸部は「くの字」状に屈曲し、口縁部は外傾する。	(外) 口縁部横位の撫での後体部にかけて斜位の刷毛目調整 (内) 撫で
29号住居址 第99図－3	壺 (坏) 土師	口径10.4 残高 7.7 1/3	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 2.5YR5／6明赤褐	粘土帯積上げ 偏平な球形を呈する体部から屈曲して外反する口縁部に至る。	(外) 口縁部横位の撫で、体部縦位の木口状工具による撫で (内) 撫で
29号住居址 第99図－4	甕 (椀) 土師	口径13.8 残高 9.5 2/5	胎：雲母・石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 7.5YR7/4にぶい橙		(外) 口縁部横位の撫で、体上位縦位の刷毛目、下位横位の箆削り (内) 口縁部横位の撫で、体部斜位の箆磨き
29号住居址 第99図－5	甕 土師	残高 9.8 底径 7.2 底部完存、 胴部1/3	胎：石英・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙		(外) 木口状工具による撫で (内) 箆撫で
29号住居址 第99図－6	甕 土師	残高 5.4 底径 6.8 底部1/2	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／4にぶい赤褐 (内) 10R5／6赤		(外) 縦位の箆削り (内) 縦位・横位の箆削り
9号土壙 第100図－1	深鉢 縄文	残高38.0 底径11.2 胴部2/3、 底部完存	胎：0.5以下の礫を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR3／2暗赤褐		
20号土壙 第100図－2	甕 土師	口径18.2 器高24.3 底径 7.2 1/3	胎：粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	胴部は偏平な球形を呈し、頸部～口縁部は緩い「コの字」状に外反する。口唇端部は面取りを施す。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部下位箆削りの後、頸部～胴部箆磨き (内) 撫で、胴一部箆磨き
20号土壙 第100図－3	甕 土師	口径13.1 残高16.5 底部欠損 胴下位1/2	胎：0.3の礫・粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／3にぶい橙 (内) 5YR6／2灰褐	胴部はやや下膨れの球形を呈し、頸部～口縁部は「くの字」状に外反する。	(外) 口縁部横位の撫で、胴部斜位の刷毛目調整 (内) 箆撫で
20号土壙 第100図－4	壺 土師	口径14.6 残高12.5 口縁部1/2 体部1/4	胎：粗砂粒を僅かに含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR7／4にぶい橙	肩部～口縁部「コの字」状に外反する。	(外) 横位の撫で (内) 口縁部横位の撫で、頸部箆撫で、体部横位の刷毛目調整
20号土壙 第100図－5	壺 土師	口径16.0 残高14.0 口縁部1/6 体部1/8	胎：粗砂粒、黒雲母・石英を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	頸部は「くの字」状に屈曲し、外反する口縁の端部は面取りを施す。	(外) 口縁部横位の撫で、頸部箆撫で、体部刷毛目 (内) 口縁部横位の撫で、頸部箆撫で、体部箆削り
23号土壙 第101図－1	壺 土師	残高23.8 体部完存	胎：粗砂粒をごく僅かに含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／2明褐灰 (内) 7.5YR4／1褐灰	小振りの底部から、体部は球形状に立ち上がる。	(外) 横位の箆削りの後箆磨き (内) 箆削り＋横位の撫で

第25表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	成形・形態	整形技法ほか
26号土壙 第101図－2	壺 土師	口径18.0 残高23.8 口縁部7/8 体部1/3	胎：0.5の礫・粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR7／4にぶい橙	粘土帯積上げ 球形を呈す体部から、頸部で「くの字」状に屈曲して外反する口縁部の端部は面取り。	(外) 口縁部横位の指で、体部縦位の篦削りの後篦磨き (内) 口縁部横位の指で、体部斜位の篦削りの後篦磨き
31号土壙 第101図－3	有孔壺付土器 縄文	口径26.2 残高17.0	胎：0.5の礫・金雲母粒を多く含む 焼：良好 色：(外)(内) 2.5YR5/4にぶい赤褐		
33号土壙 第102図－1	深鉢 縄文	口径16.0 器高38.0 ほぼ完存	胎：0.5の礫を含む 焼：良好 色：(外)(内) 5YR7/4にぶい橙		

第26表　林之郷遺跡E地区出土遺物観察表

第四章　八千原遺跡の調査

第1節　概　要

八千原遺跡は上田市の東部、殿城地区の漆戸の神川第2段丘上のほぼ中央の微段丘上にあり、林之郷遺跡の北に隣接して展開している。調査区は同年調査した林之郷遺跡E地区より60m北の大字漆戸字堂下及び字西平に設定した。調査区の北東には、八千原遺跡の名称の由来となった字名「ヤチ原」があるが、この場所は湿地のいわゆる「ヤチ」の様相を呈し、試掘調査をおこなった結果、遺構・遺物などは確認されず、むしろ、遺跡はヤチ原の南西に広がっていることがわかった。調査は3地区に分けて行い、南から北に向かってA地区、B地区、C地区とした。遺跡の存在する段丘は全体的に南向きの緩やかな斜面であるため、A地区からC地区までの比高差は3m～4mある。

検出された遺構は、A地区において、住居址19件、埋甕5基、B地区において、住居址29件、土壙4基、集石3基、埋甕16基、C地区において、住居址20件、土壙4基、集石3基、埋甕6基が検出された。いずれも縄文時代中期から後期にかけての遺構で、特に、敷石住居はB地区で19件、C地区で15件が確認され、注目を集めた。

1. A地区

A地区は水田造成時に全体的に深く削平されていた。そのため、竪穴住居址の壁高は10cm以上残っているものはほとんど無かった。検出された遺構の時期は縄文時代の中期初頭から後期初頭におよび、特に中期後葉の遺構が多く見られたが、包含層からは多量に沈線文を多用した土器が出土した。また、その他に包含層からは、越後中南部から北信濃を中心に分布する土器の影響を受けたものが見られる。

中期初頭の住居址は第12号住居址がある。第12号住居址は調査区東側に検出され、第13号住居址に切られてる。五領ヶ台式期の土器片を出土する、住居の大半が破壊され形態等に不明な点が多い。その他にも、五領ヶ台式期の土器片を出土する住居址がみられるが、他の時期の土器が混在し、明瞭な資料を得られたものは無かった。

中期後葉の住居址は第4号、第5号、第6号、第7号、第8号、第10号、第13号、第14号、第16号、第17号、第18号、第19号住居址等がある。第4号住居址は調査区東側に検出され、円形の平面形態を呈する。

後期の住居址は第2号があり、大安寺式土器、称名寺式土器が出土している。

住居の炉址は石囲炉が主で、第8号住居址は埋甕炉であった可能性がある。第13号、第17号、第18号住居址には埋甕が設けられていた。

この他、単独で検出された埋甕はいずれも中期後葉のものである。

2. B地区

中期後葉、曽利Ⅲ～Ⅳ期の住居址としては第15号、第21号住居址が上げられ、第21号住居址には敷石の一部と思われる平石が散在していた。

曽利Ⅳ期の住居址としては第1号、第6号、第8号、第9号、第18号、第37号住居址が上げられ、うち第9号、第18号、第37号住居址は敷石住居であり、特に第9号住居址は敷石のプランが方形を呈し、周囲にはこの敷石に沿う形で柱穴が検出された。

曽利Ⅳ期の住居址としては第3号住居址があり、石囲炉とそれを取り巻く柱穴が比較的明瞭なプランで検出された。

後期の住居址は第5号、第14号、第17号、第19号、第20号、第23号、第24号、第25号、第26号、第30号、第31号、第33号住居址がある。このうち敷石住居は第17号、第24号、第25号、第26号、第30号、第31号、第33号住居址がある。特に、第24号住居址は柄鏡型を呈し、望月町でさきに検出されたいわゆる「平石タイプ」に属すると思われる。なお、当住居址からは堀之内Ⅰ式期の炉胎土器が出土している。また、当住居址に隣接している第25号住居址は張り出し部に敷石を良く残し、炉胎土器は堀之内Ⅰ式期の無文深鉢を出土している。

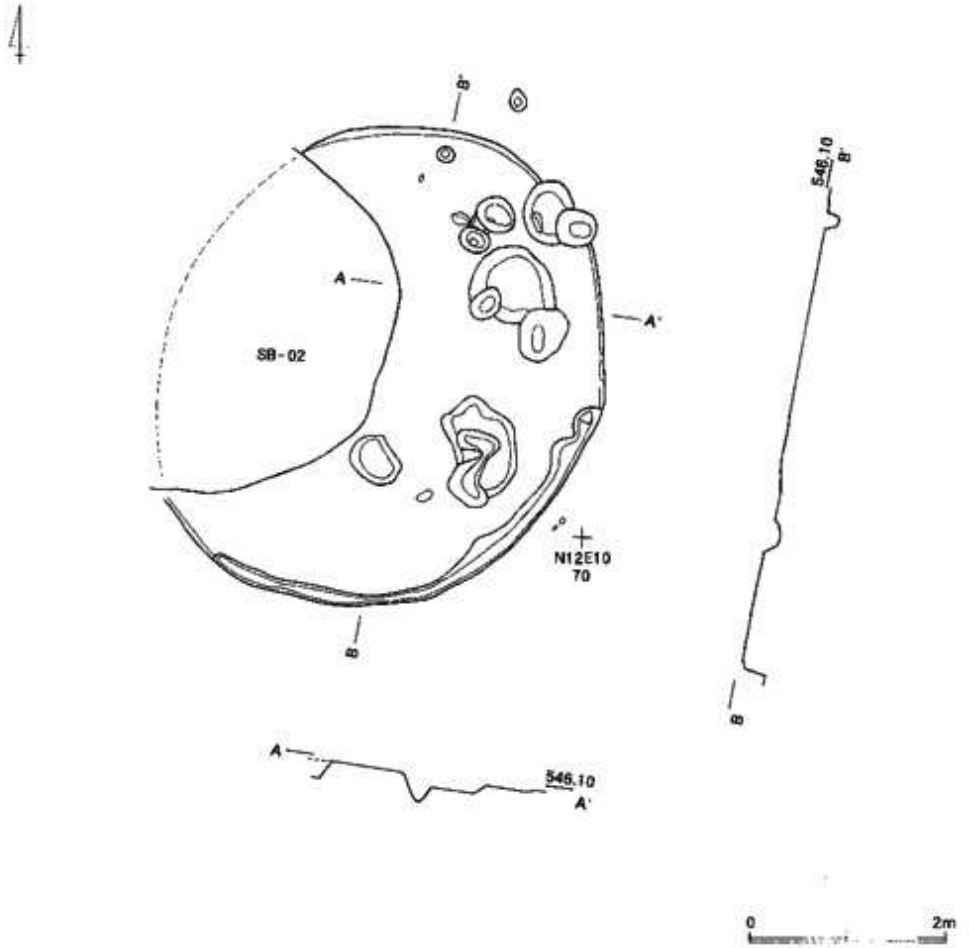
この他、時期は不明であるが、第7号住居址の床縁辺部には拳大の河原石が並んで検出されている。

3. C地区

阿玉台式期の炉胎土器を有する第14号住居址からは、把手の付いた有孔鍔付土器が出土している。

中期後葉では、曽利Ⅰ～Ⅱ期の第2号住居址、曽利Ⅲ期の第4号住居址があり、第4号住居址は第10号住居址に切られているものの、敷石を良く残している。

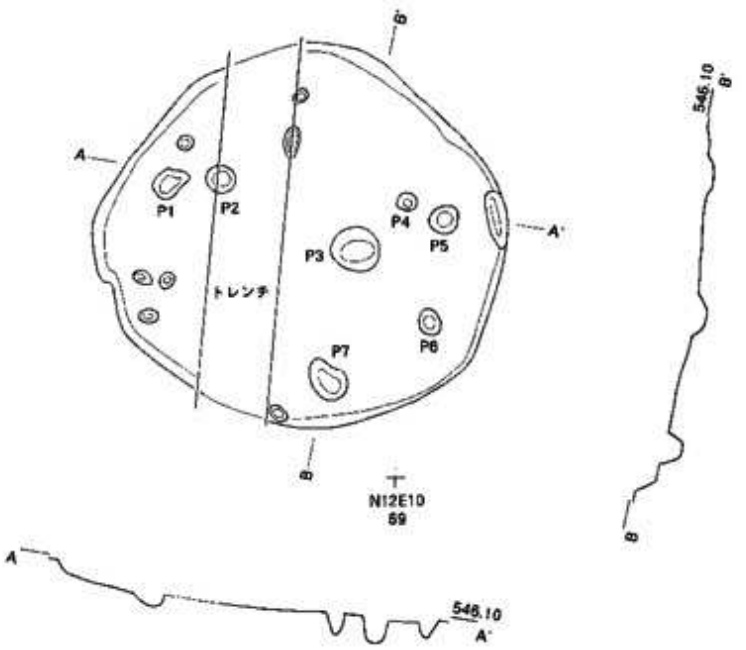
後期では、第1号、第3号、第5号、第6号、第7号、第8号、第9号、第10号、第11号、第16号、第17号、第19号住居址がある。第6号住居址は大安寺式期～堀之内Ⅰ式期に属する住居で、住居の北半部に敷石が良好に検出されている。また第9号住居址は住居の中央、堀之内Ⅰ式期の浅鉢を胎す石囲炉を取り巻くように敷石が逆三角形に検出され、特異な形態を呈している。第10号住居址は直径5.10～5.88mの非常に大型の住居で、炉も1.24×1.11と飛び抜けて大きな数値を示す。



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－1号住居址 第103図 第176図	位置 (グリット)	N12E10－69,70,71,72, 89,90	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 5.00×？	壁高 床高	(N) 0.05 546.00～546.05
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	2号住居址と重複し、平面形は明らかでない。住居址南側に周溝が巡る。（幅30cm～10cm、床からの深さ10cm～15cm）						

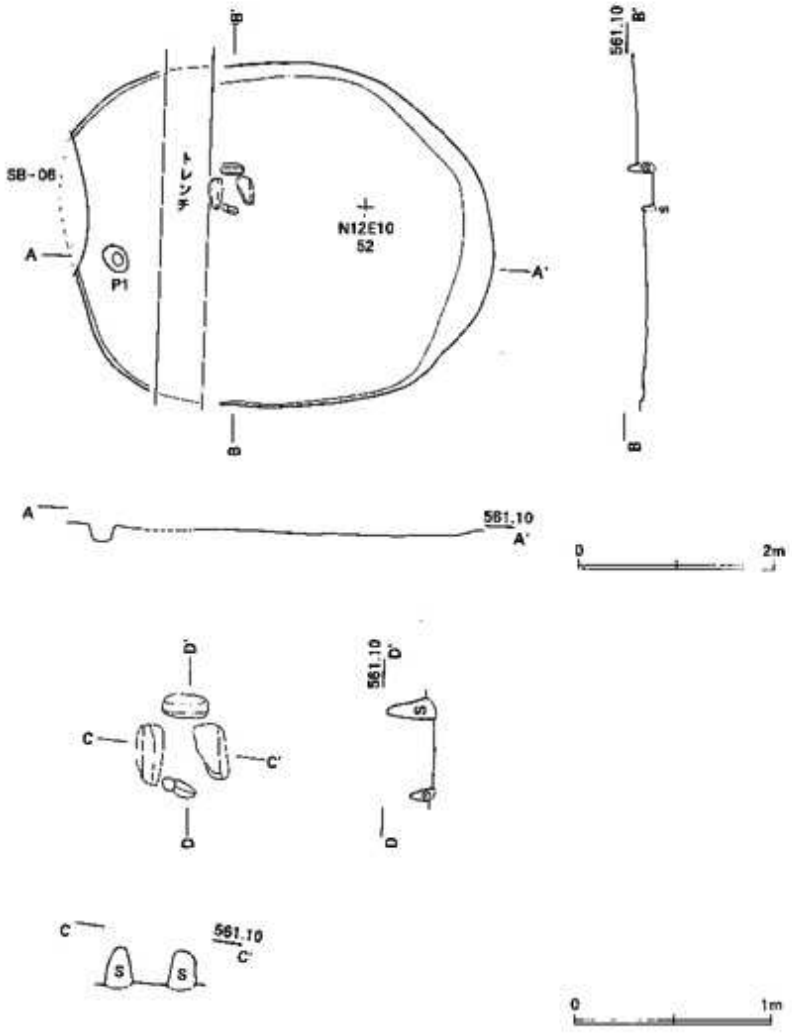
第103図　八千原遺跡A地区第1号住居址実測図

4



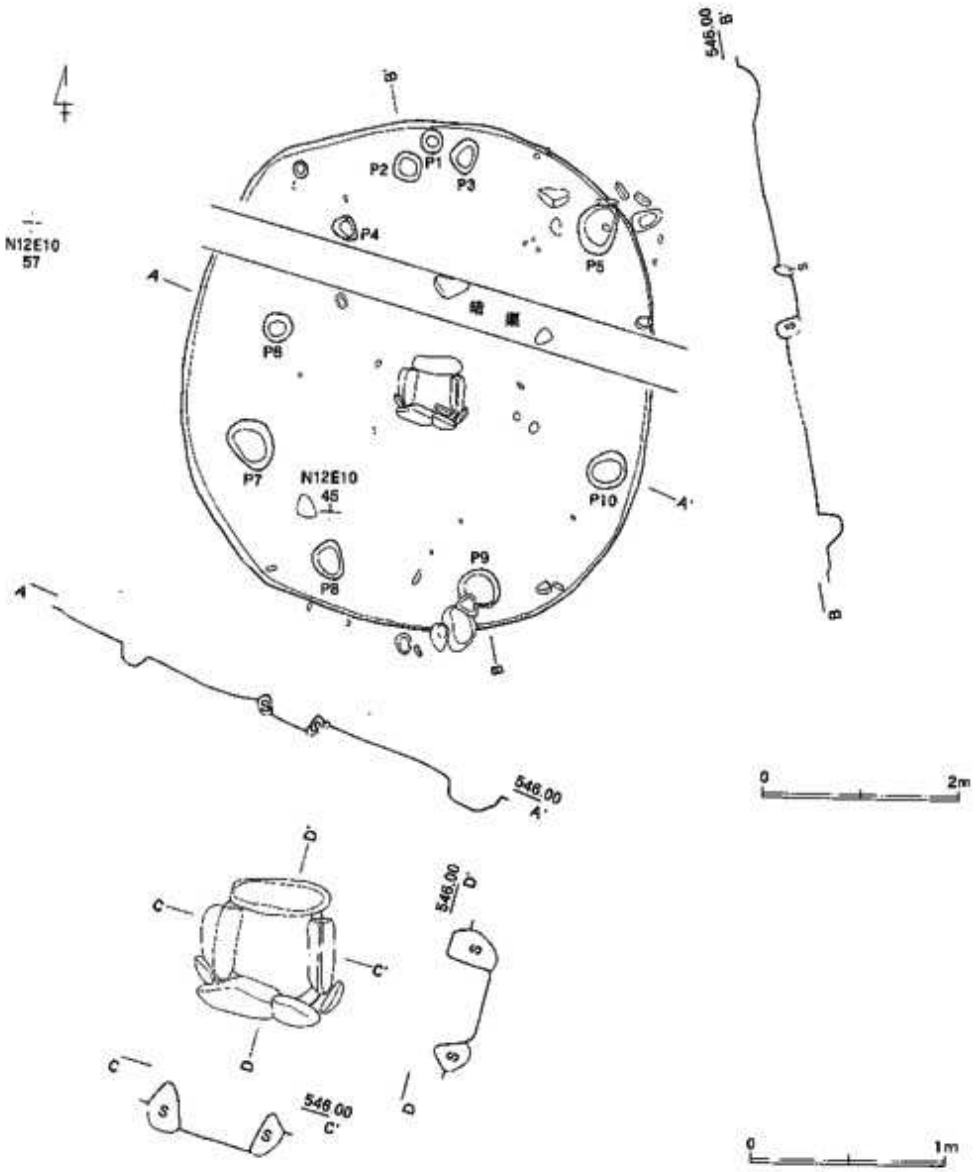
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－2号住居址 第104図 第176図	位置 (グリット)	N12E10－71,72,89,90	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 4.00×4.20	壁高 床高	(S) 0.25～ (N) 0.54 545.85～546.05
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.30×0.40×0.15) P2 (0.30×0.30×0.15) P3 (0.45×0.50×0.09) P4 (0.18×0.20×0.17) P5 (0.30×0.30×0.13) P6 (0.25×0.22×0.04) P7 (0.40×0.38×0.30)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	暗渠に切られ、1号住居址、10号住居址を切る。						

第104図　八千原遺跡A地区第2号住居址実測図



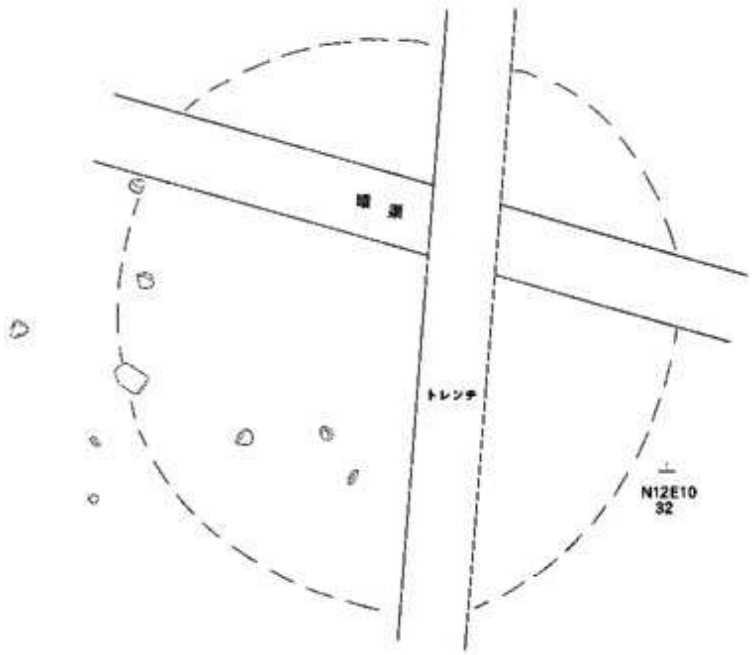
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－3号住居址 第105図 第176図	位置 (グリット)	N12E10－51,52,69,70	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－10°－W 3.55×4.25	壁高 床高	(E) 0.10 545.80~545.95
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.26×0.24×0.03)					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－10°－W (5.25×4.78)	覆土備考	1 黒褐色土 河原石による方形の石囲炉である。炉石の上部はどれも欠損している。			
備考	暗渠に切られる。						

第105図　八千原遺跡A地区第3号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－4号住居址 第106図 第176、177図	位置 (グリット)	N12E10－45,46,54,55, 56,65,66	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－5°－E 5.25×4.28	壁高 床高	(S) 0.06～(W) 0.08 545.75～545.59
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.25×0.21×0.05) P2 (0.30×0.28×0.18) P3 (0.35×0.28×0.12) P4 (0.25×0.25×0.26) P5 (0.50×0.40×0.22) P6 (0.30×0.30×0.12) P7 (0.52×0.45×0.17) P8 (0.40×0.30×0.12) P9 (0.40×0.42×0.03) P10 (0.38×0.40×0.20)					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－5°－E (0.71×0.70)	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石による方形の石囲炉である。			
備考	暗渠に切られる。炉底はよく焼けている。						

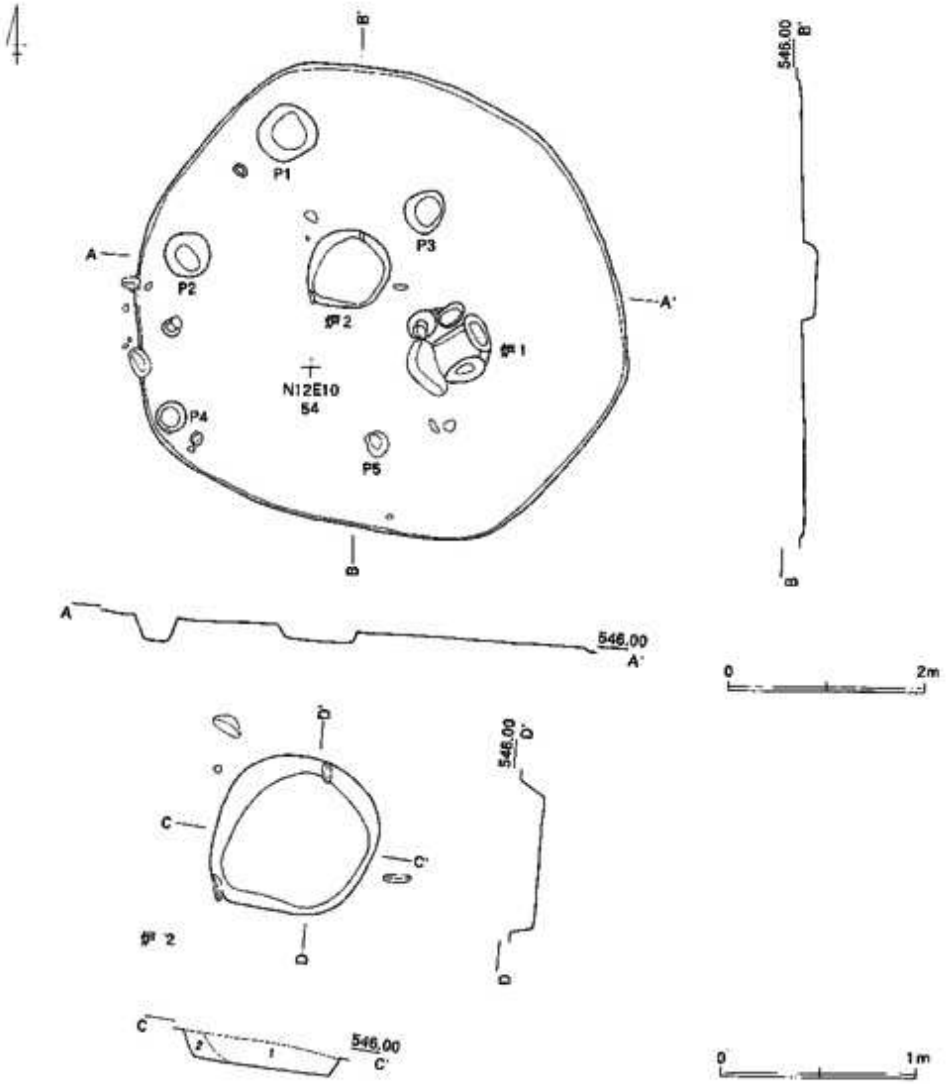
第106図　八千原遺跡A地区第4号住居址、炉址実測図



0 2m

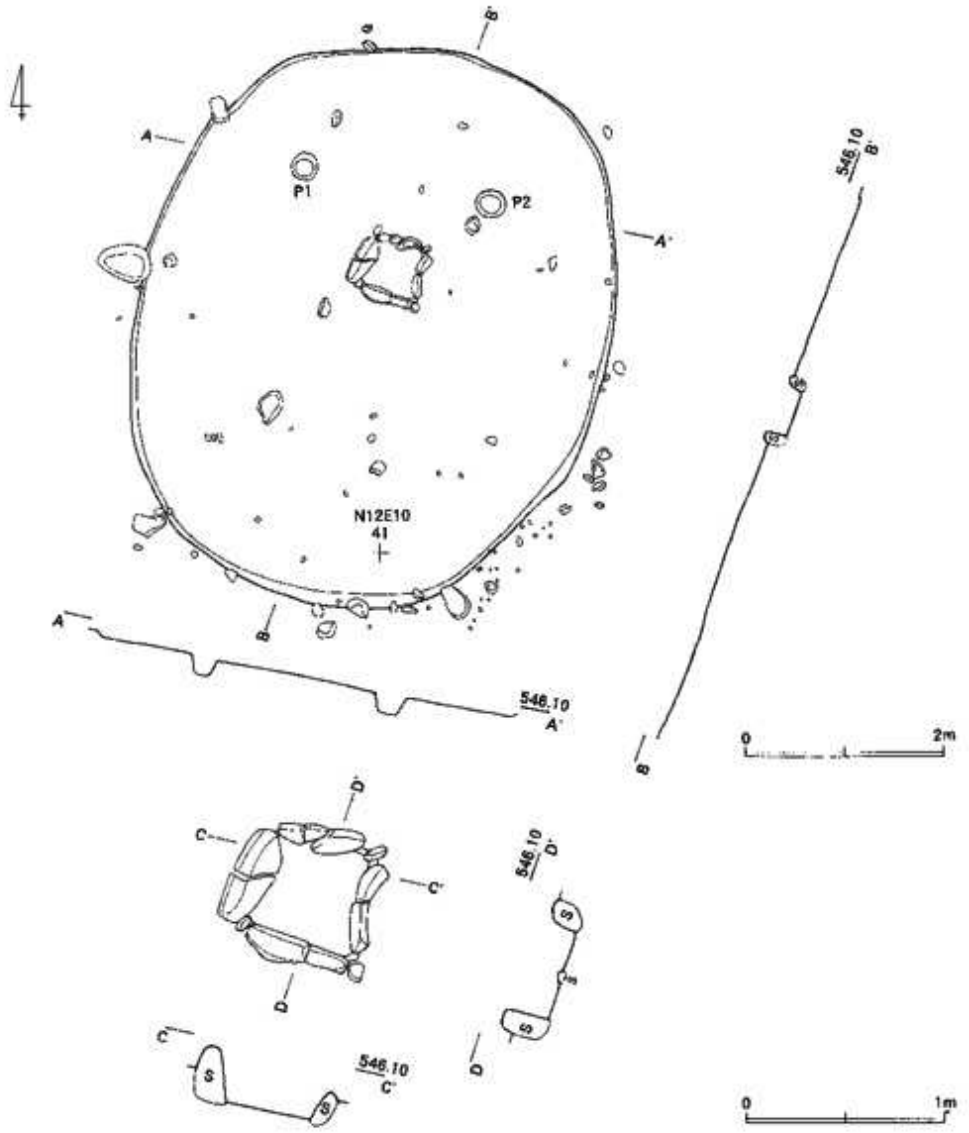
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－5号住居址 第107図 第177図	位置 (グリット)	N12E10－32,33,48,49, 52,53	平面形態 主軸方位 規　模	(円形) 不明 不明	壁高 床高	不明 545.70~545.80
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	暗渠に切られる。遺物が集中し、床に部分的に堅くしまった面や、焼けた部分があるため住居址と判断した。						

第107図　八千原遺跡A地区第5号住居址実測図



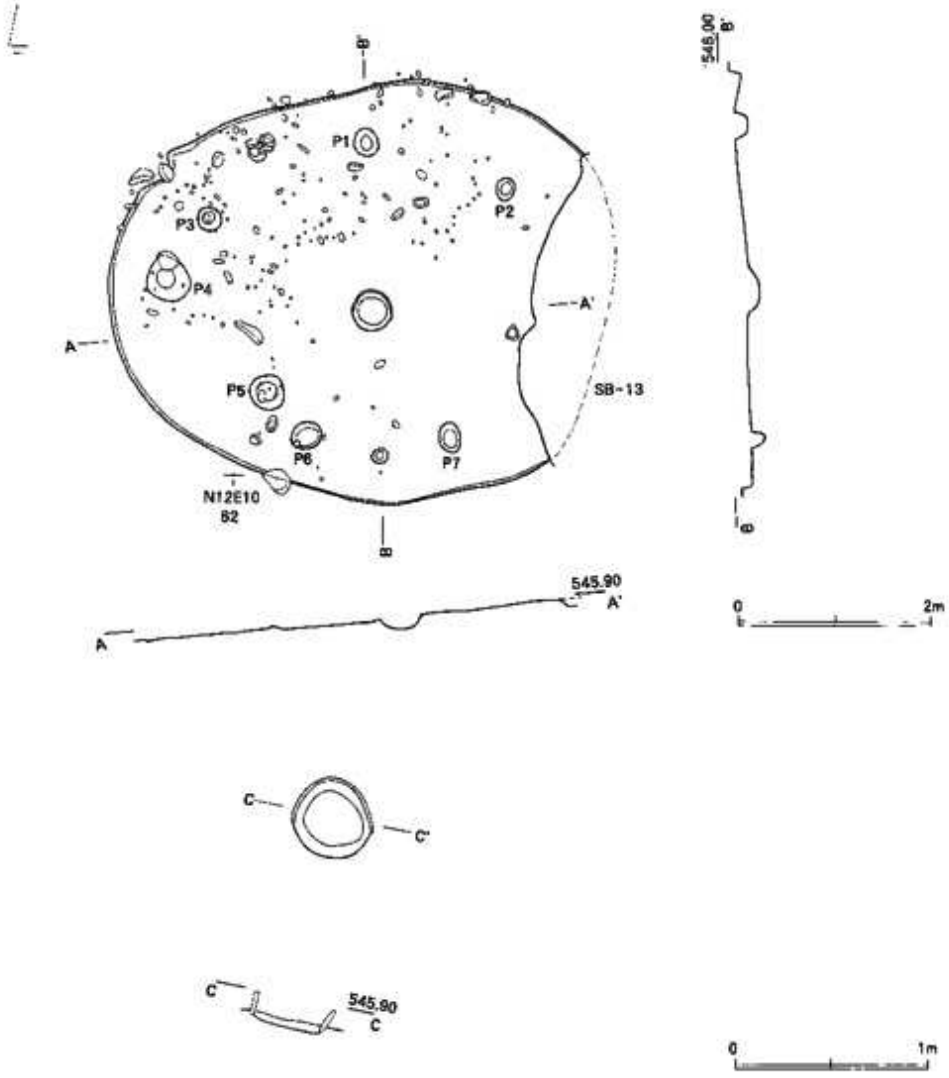
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－6号住居址 第108図 第177図	位置 (グリット)	N12E10－53,54,66,67, 68,69	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－15°－W 5.20×5.00	壁高 床高	(N) 0.05～ (W) 0.02 545.96～545.98
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.60×0.60×0.28）P2（0.45×0.45×0.27）P3（0.45×0.40×0.21） P4（0.30×0.30×0.25）P5（0.25×0.20×0.12）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居中央東側 N－15°－W (0.90×0.90)		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を1個残すのみであり、形態等は不明である。		
備考	住居中央にもう一つの炉があるが、形態等は不明で炉石も確認できなかった。覆土は1層で、黒褐色土に焼土がブロック状に混入している。						

第108図　八千原遺跡A地区第6号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－7号住居址 第109図 第177～179図	位置 (グリット)	N12E10－41,42,59,60, 61,62	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－25°－E 5.87×4.80	壁高 床高	(W) 0.06 545.92～545.96
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.28×0.25×0.19）P2（0.28×0.30×0.20）					覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央北側 N－25°－E (0.75×0.77)	覆土備考	1 黒褐色土 河原石による方形の石囲炉である。火熱のため赤色を呈し、剥れている。			
備考	炉石は4枚の大きな河原石で方形に構成され、四隅に小さく丸い河原石を配している。						

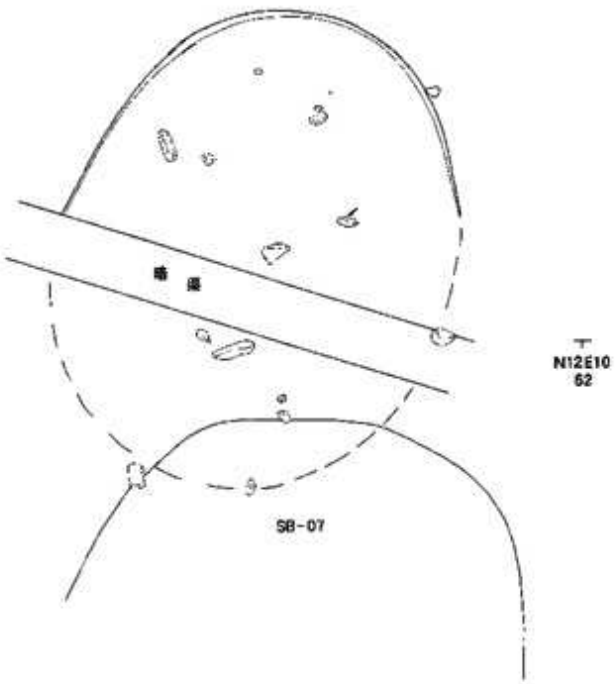
第109図　八千原遺跡A地区第7号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－8号住居址 第110図 第179、180図	位置 (グリット)	N12W10－62,63,64,77, 78,79,81,82,83	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 4.40×？		壁高 床高	(N) 0.13～(W) 0.02 545.78～545.89
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.30×0.25×0.14）P2（0.22×0.17×0.16）P3（0.23×0.23×0.15） P4（0.45×0.44×0.15）P5（0.35×0.35×0.17）P6（0.27×0.33×0.27） P7（0.30×0.21×0.16）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央南側 不明 0.44×0.40	覆土備考	1 黒褐色土（焼土僅かに混入する。） 炉石は確認できず胴下半を切断した甕が逆さに埋没されている。				
備考	13号住居址と重複する。							

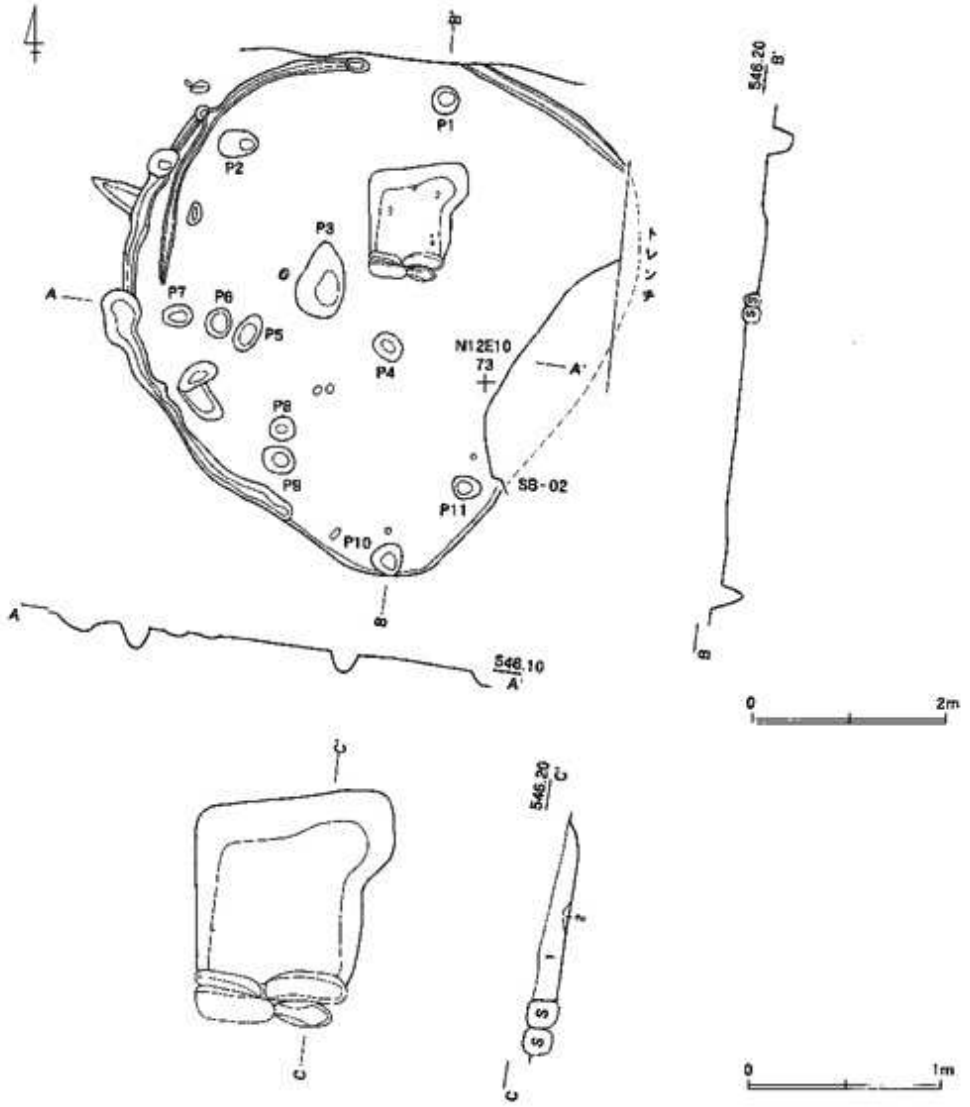
第110図　八千原遺跡Ａ地区第８号住居址、炉址実測図

4



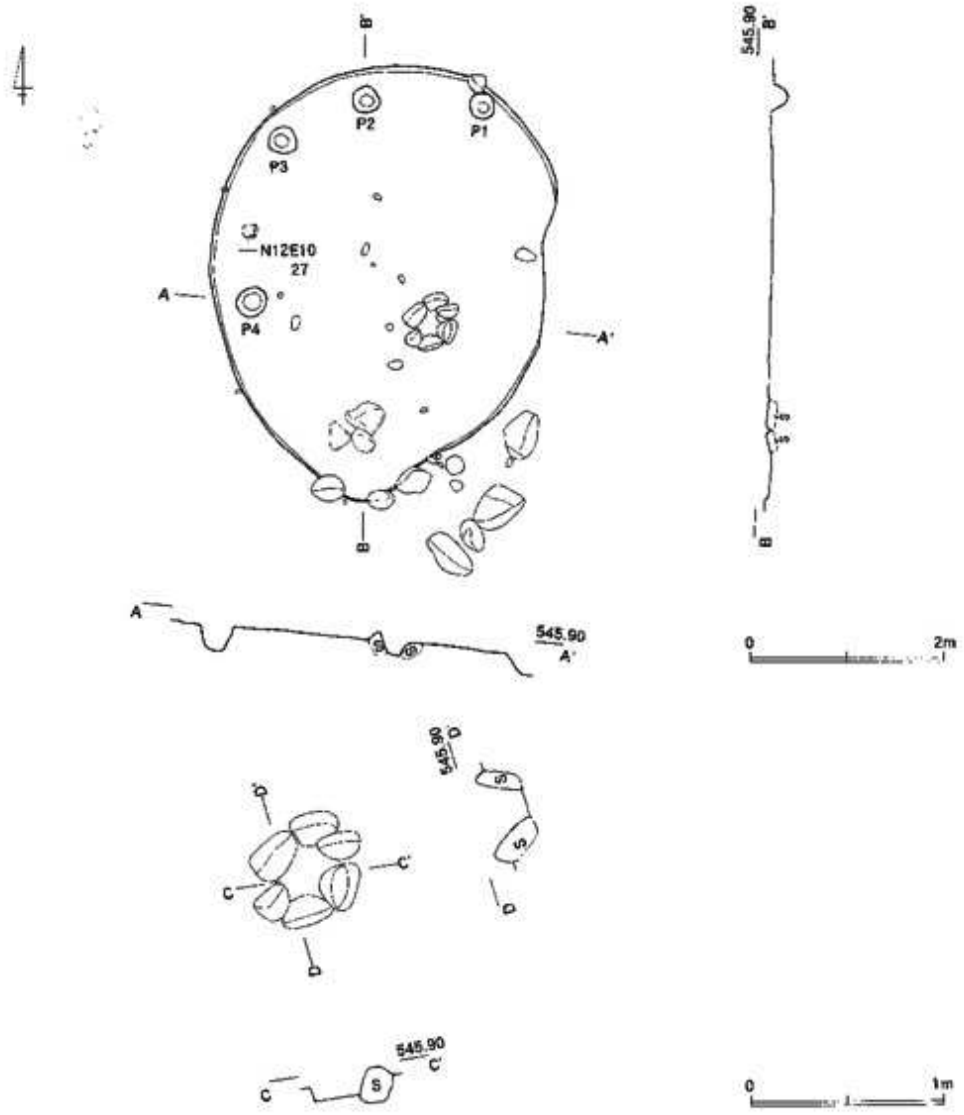
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A－9号住居址 第111図 第180図	位置 (グリット)	N12E10－61,,62,79,80	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 5.00×3.94	壁高 床高	(N) 0.04 545.90～545.97
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	暗渠に切られる。7号住居址に切られる。北側に壁を残すが、南側は削平され、不明である。						

第111図　八千原遺跡A地区第9号住居址実測図



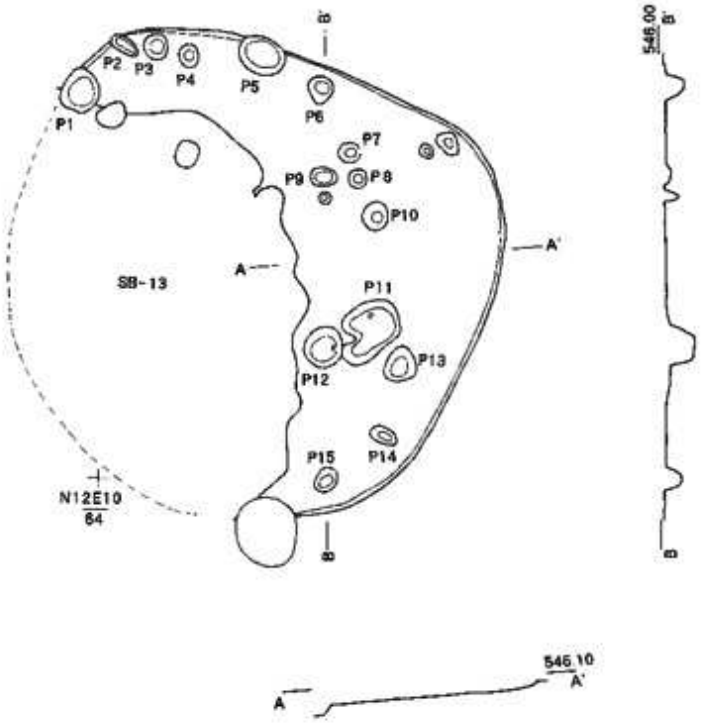
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-10号住居址 第112図 第180図	位置 (グリット)	N12E10－72,73,74,86, 87,89	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 5.40×4.10	壁高 床高	(S) 0.06 545.94～546.07
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.27×0.27×0.19）P2（0.26×0.40×0.18）P3（0.77×0.50×0.40） P4（0.30×0.30×0.22）P5（0.40×0.24×0.05）P6（0.30×0.25×0.20） P7（0.22×0.30×0.24）P8（0.25×0.25×0.20）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居やや北側 不明 (1.12×0.84)		覆土備考	1 暗茶褐色土 2 暗茶褐色土（焼土ブロック状に混入） 炉石は南側に2個ずつ二重に配されている。		
備考	暗渠と、2号住居址に切られる。住居址南側から西側の壁下に周溝が巡らされている。（幅10cm ～38cm ,床からの深さ 10cm）						

第112図　八千原遺跡A地区第10号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-11号住居址 第113図 第181図	位置 (グリット)	N12E10－27,28,29,32, 33,34	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－10°－E 4.50×3.40	壁高 床高	(N) 0.04～(S) 0.01 545.73～545.79
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.25×0.24×0.19）P2（0.26×0.27×0.19）P3（0.26×0.28×0.19） P4（0.30×0.30×0.26）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居中央南東 不明		覆土備考	1 黒褐色土 河原石を配した石囲炉で、炉石が花びら状に開く。焼土は確認されなかった。		
備考	南側の床に偏平の河原石が3枚配されている。						

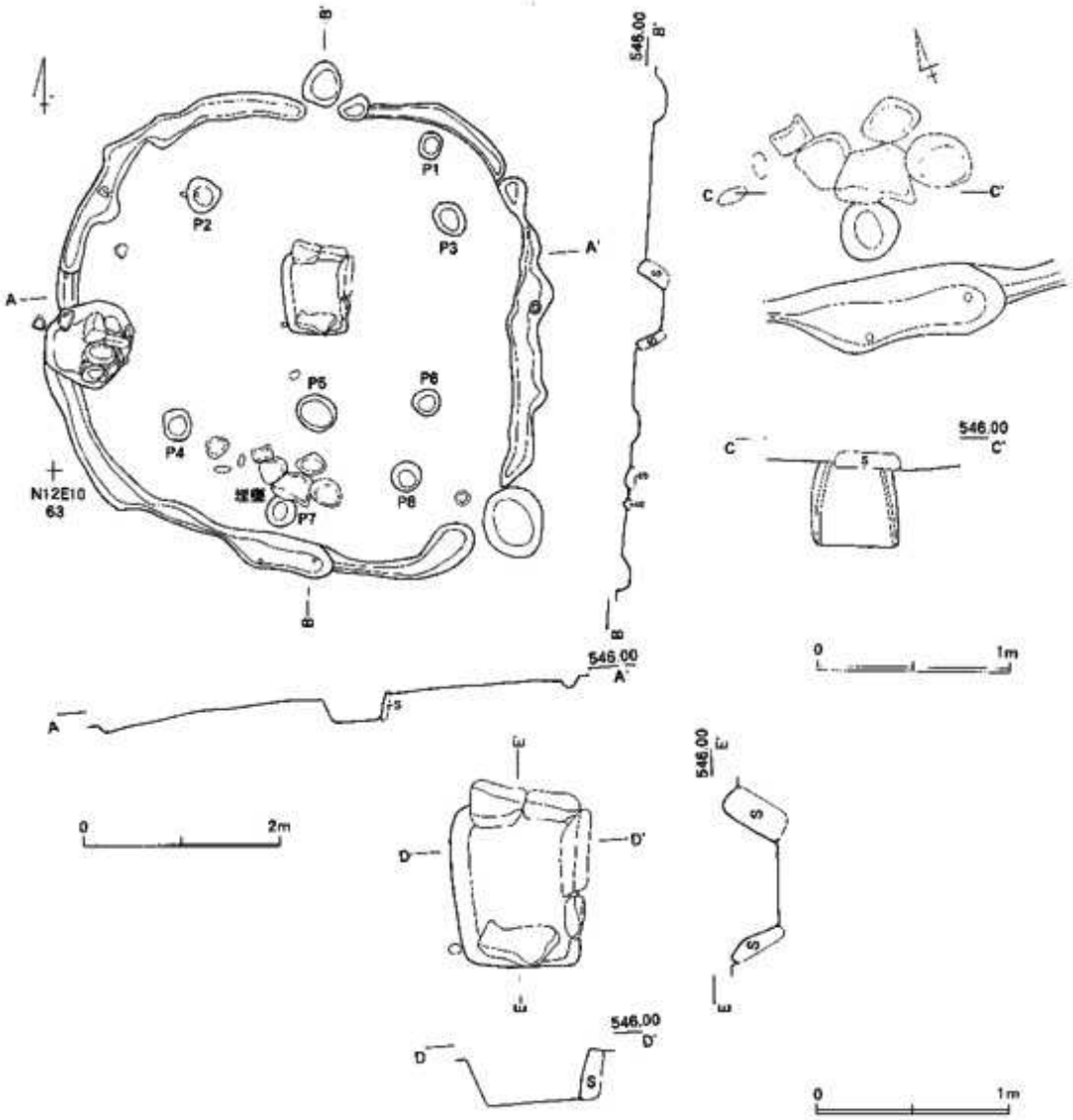
第113図　八千原遺跡A地区第11号住居址、炉址実測図



0 2m

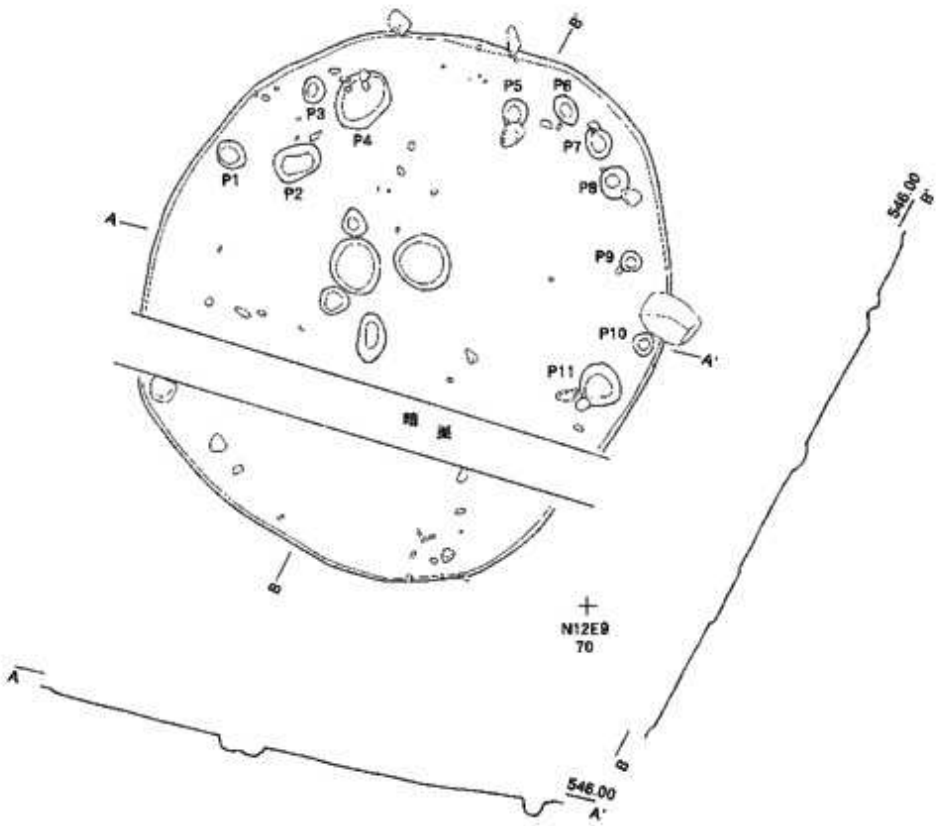
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-12号住居址 第114図 第181図	位置 (グリット)	N12E10－64,65,75,76, 77,78,84,85,86	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 5.00×？	壁高	(E) 0.08～ (S) 0.01
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.46×0.40×0.11) P2 (0.15×0.30×0.17) P3 (0.25×0.23×0.38) P4 (0.22×0.19×0.10) P5 (0.37×0.50×0.19) P6 (0.27×0.26×0.04) P7 (0.20×0.23×0.19) P8 (0.19×0.17×0.07) P9 (0.20×0.28×0.04) P10 (0.30×0.25×0.15) P11 (0.75×0.60×0.15) P12 (0.41×0.40×0.27) P13 (0.36×0.31×0.23) P14 (0.16×0.28×0.18) P15 (0.25×0.25×0.14)			覆土	1 黒褐色土		
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土備考				
備考	13号住居址に切られる。						

第114図　八千原遺跡A地区第12号住居址実測図



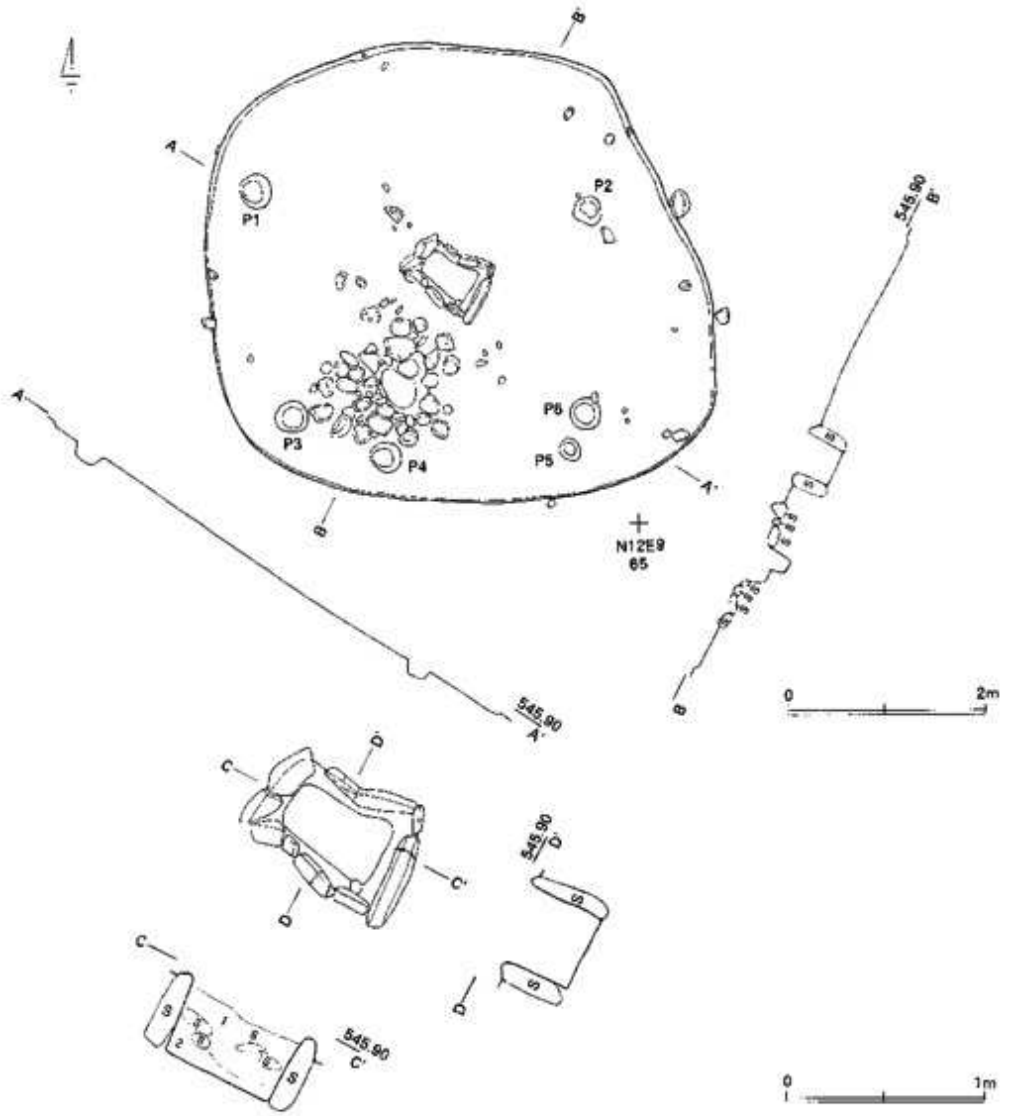
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-13号住居址 第115図 第181～183図	位置 (グリット)	N12E10－64,65,76,77, 83,84	平面形態 主軸方位 規　模	円形 4.90×5.10	壁高 床高	(W) 0.07 545.88～545.93
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.26×0.23×0.10) P2 (0.35×0.35×0.17) P3 (0.32×0.30×0.11) P4 (0.31×0.27×0.13) P5 (0.38×0.41×0.05) P6 (0.27×0.27×0.08) P7 (0.30×0.30×0.17) P8 (0.30×0.29×0.14)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－0°－W (0.93×0.70)		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉である。 炉石は4枚配されていたと見られるが、西側は無い。		
備考	12号住居址を切る。周溝が住居址のほぼ全周を巡る（最大幅40cm、深さ10cm）。 住居址南側に平石と、偏平の河原石が数枚床に敷かれ、その下部に甕が埋設されている。住居址西側には集石部がある。						

第115図　八千原遺跡A地区第13号住居址、炉址、埋甕址実測図



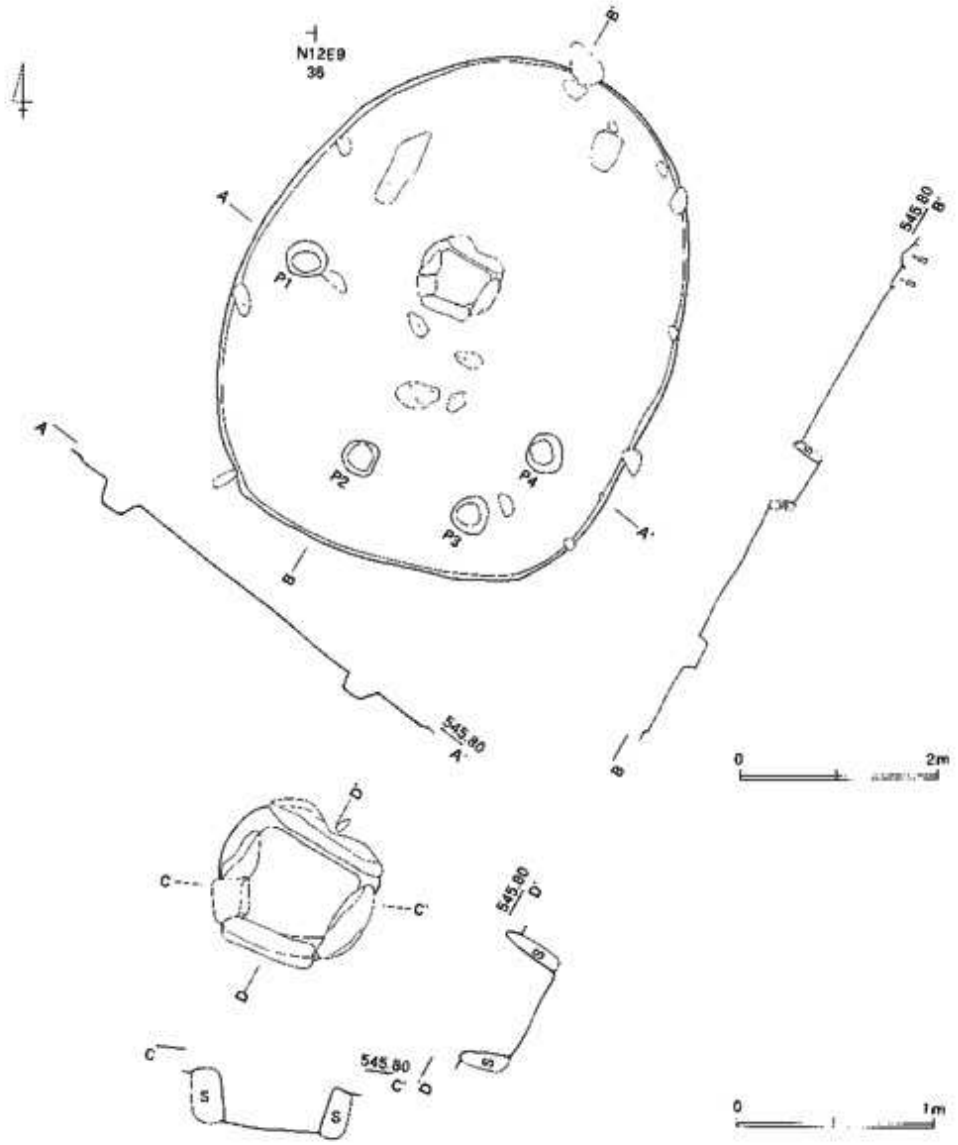
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-14号住居址 第116図 第184図	位置 (グリット)	N12E9－71,72,89,90 N12E10－70,71	平面形態 主軸方位 規　模	円形 5.63×5.35	壁高 床高	(S) 0.03～(W) 0.02 545.78～545.89
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.58×0.28×0.05) P2 (0.35×0.47×0.11) P3 (0.26×0.22×0.14) P4 (0.56×0.55×0.20) P5 (0.30×0.25×0.14) P6 (0.30×0.21×0.07) P7 (0.32×0.26×0.07) P8 (0.33×0.29×0.12) P9 (0.20×0.21×0.12) P10 (0.23×0.20×0.12)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土備考				
備考	暗渠に切られる。						

第116図　八千原遺跡A地区第14号住居址実測図



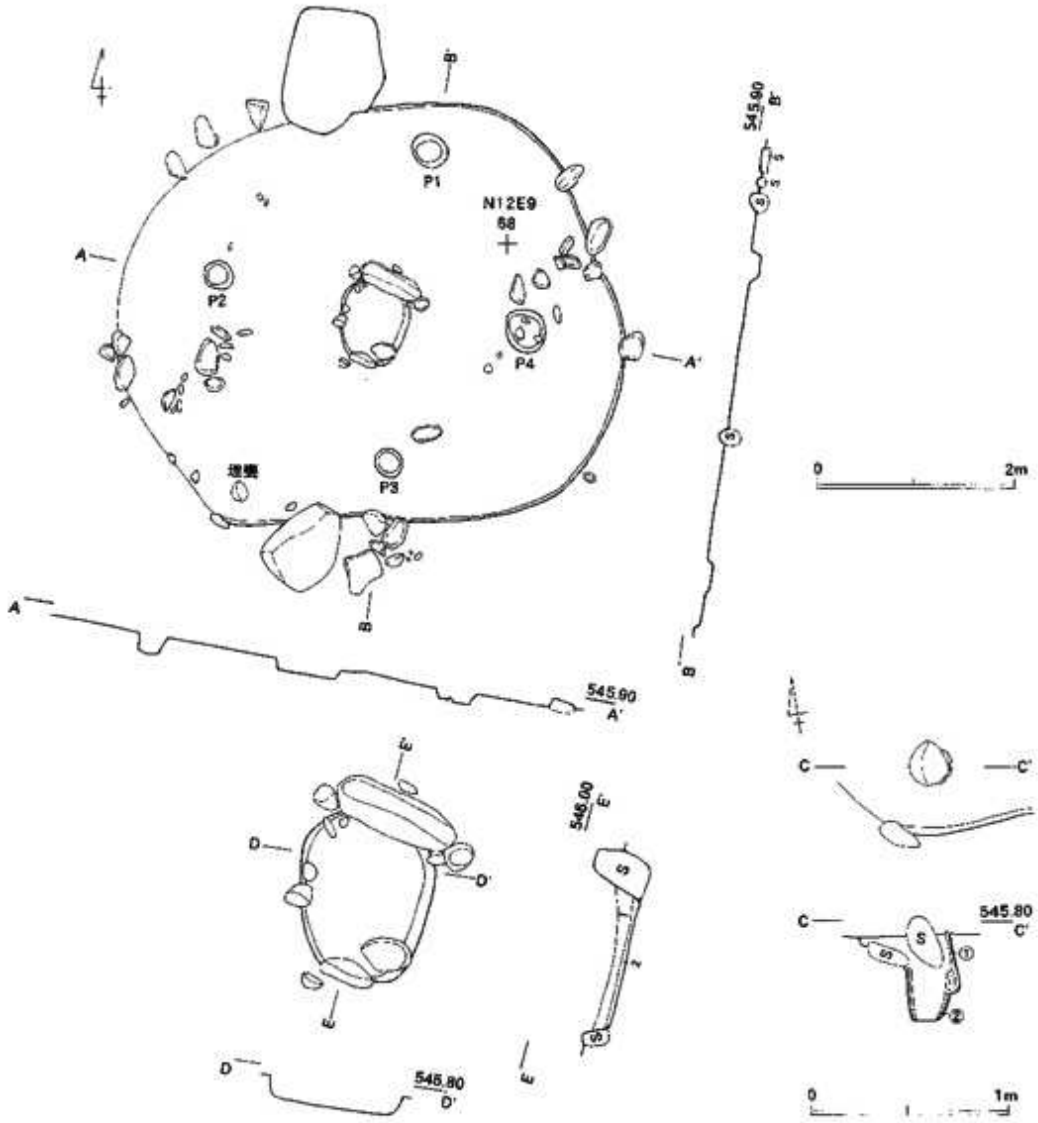
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-15号住居址 第117図 第184図	位置 (グリット)	N12E9－76,77,78,83,84,85	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－58°－W 4.60×5.10	壁高 床高	(N) 0.04 545.74～545.81
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.35×0.31×0.14）P2（0.30×0.27×0.22）P3（0.31×0.33×0.21） P4（0.30×0.31×0.14）P5（0.25×0.21×0.90）P6（0.31×0.30×0.15）				覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－58°－W (0.90×0.58)		覆土備考	1 黒褐色土 平石を使用した方形の石囲炉で、炉石は火熱を受け赤色を呈し、割れている。		
備考	住居址南西側に集石部を有する。						

第117図　八千原遺跡A地区第15号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-16号住居址 第118図 第184、185図	位置 (グリット)	N12E9－25,26,34,35,36	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－28°－E 5.53×4.45	標高 床高	(N) 0.04 545.60~545.72
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.36×0.41×0.10）P2（0.35×0.35×0.14） P3（0.38×0.37×0.21）P4（0.40×0.37×0.29）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－28°－E （0.82×0.81）		覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉で、炉石は火熱を受け　部赤色を呈し、ひび割れている。		
備考	床面は部分的に堅い面もあるが、全体的には軟弱である。						

第118図　八千原遺跡Ａ地区第16号住居址、炉址実測図

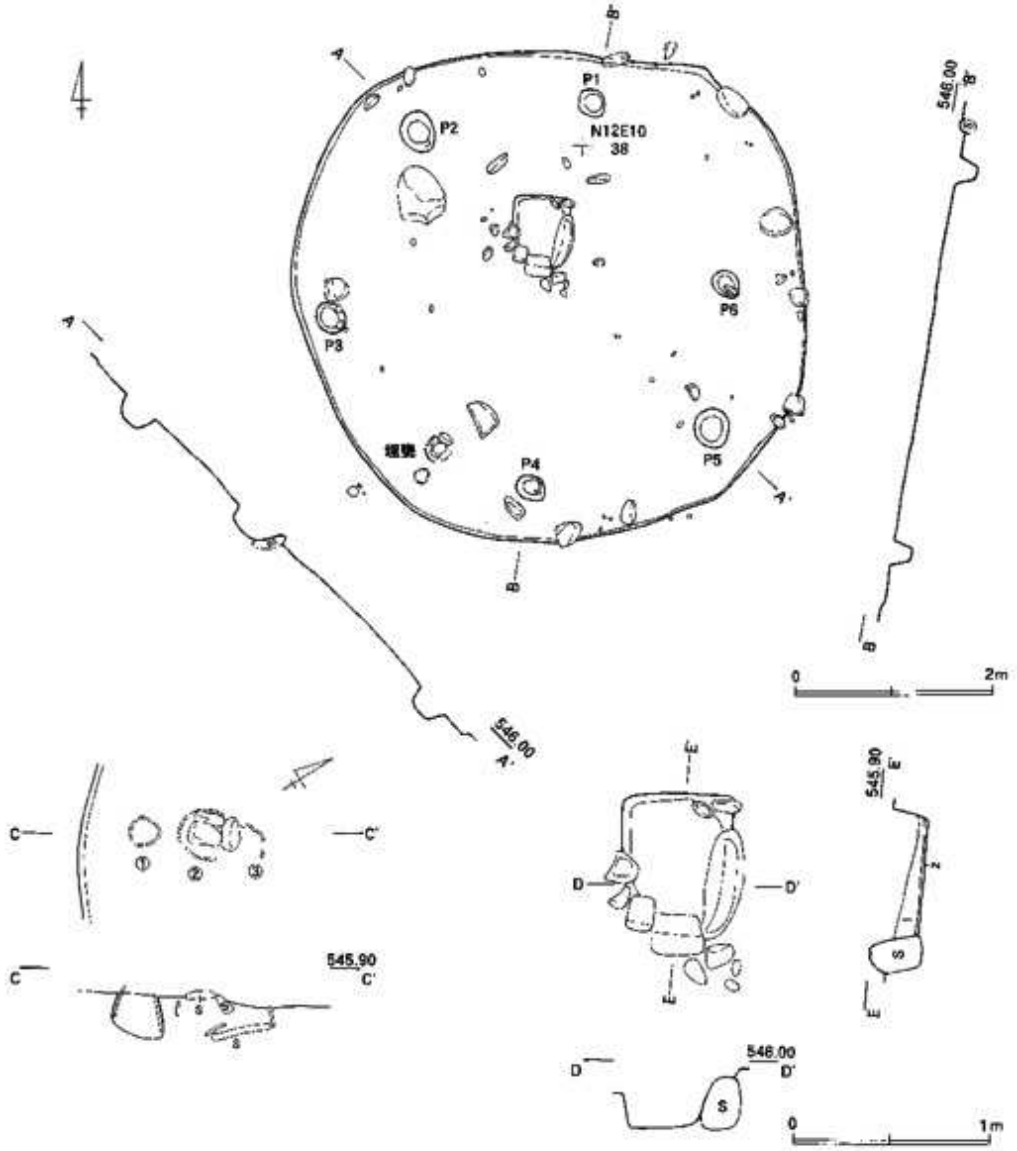


遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-17号住居址 第119図 第185、186図	位置 (グリット)	N12E9－53,67,68,69,72,73,74	平面形態 主軸方位 規模	円形 N－20°－E 4.37×5.16	壁高 床高	(S) 0.05 545.70～545.77

柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.23×0.35×0.10) P2 (0.28×0.29×0.24) P3 (0.18×0.17×0.09) P4 (0.30×0.27×0.17) P5 (0.44×0.39×0.10)	覆土	1 黒褐色土

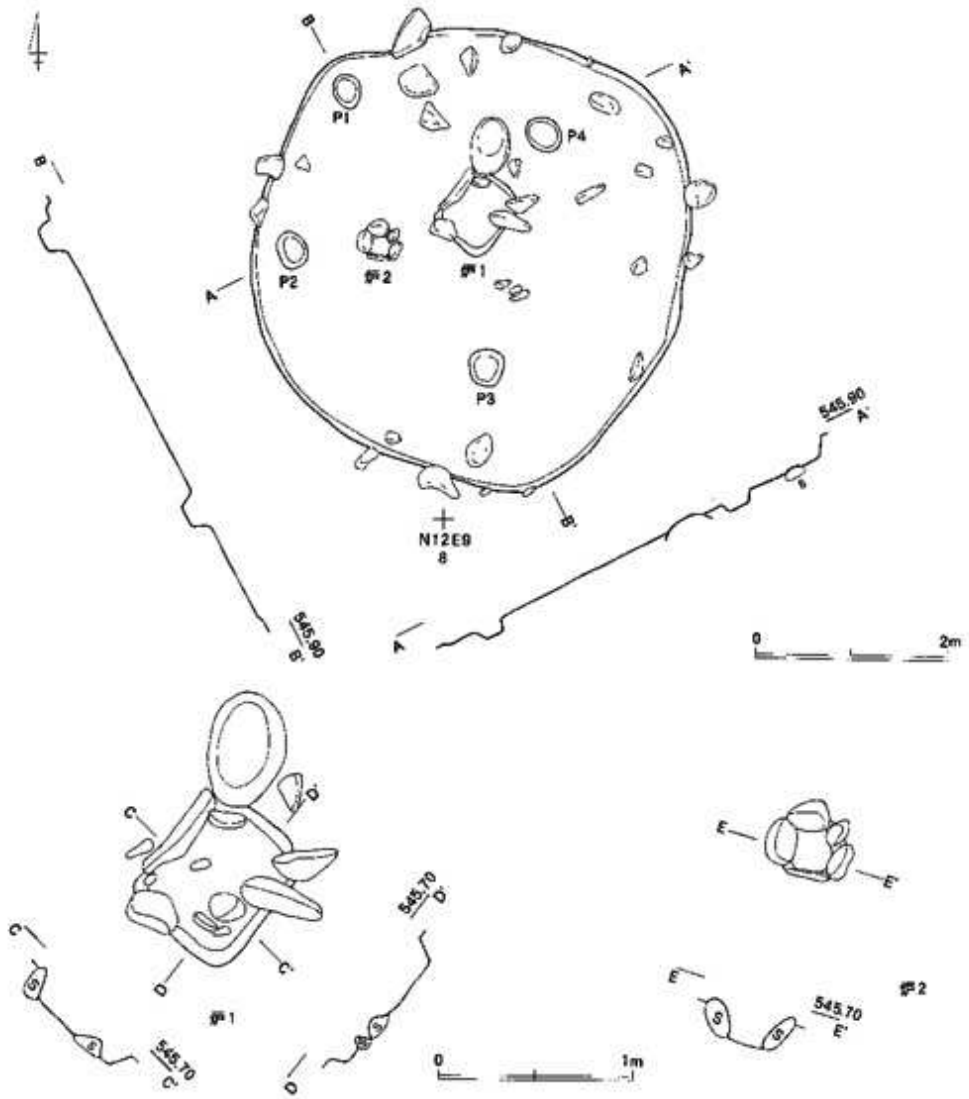
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址中央 N－20°－E (1.00×0.71)	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉と推定されるが、炉石は北側にあるのみである。炉底は焼け堅くしまる。
備考	床面は部分的に堅い。住居址南西側の壁近くに、2個体の土器を埋設している。			

第119図　八千原遺跡A地区第17号住居址、炉址、埋甕址実測図



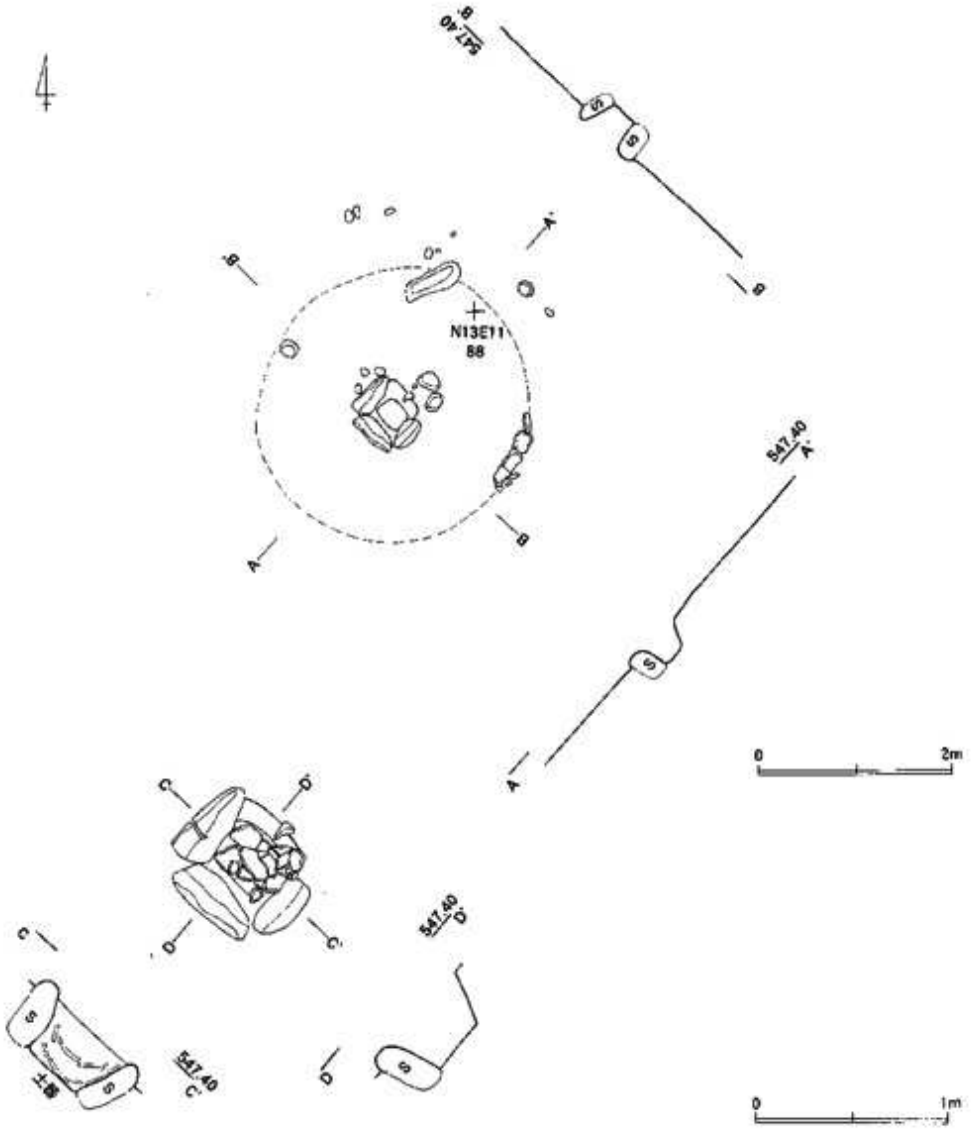
遺構番号	A-18号住居址	位置（グリット）	N12E9－23,24,37,38,39,43,44	平面形態	円形	壁高	(E) 0.07
遺構図版	第120図			主軸方位	N－8°－E	床高	545.76～545.77
遺物図版	第187～189図			規模	5.05×5.19		
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.27×0.26×0.19）P2（0.41×0.34×0.23）P3（0.30×0.30×0.23）P4（0.24×0.27×0.16）P5（0.23×0.26×0.11）P6（0.26×0.26×0.11）					覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居址床面中央 N－8°－E （0.82×0.70）		覆土備考	1 暗茶褐色土 2 暗茶褐色土（焼土ブロック状混入） 河原石を配した石囲炉と推定されるが、炉石は南と東の2面しか残っていない。		
備考	住居址西端の床下から3個体の土器が並んで逆位に埋設されている。						

第120図　八千原遺跡Ａ地区第18号住居址、炉址、埋甕址実測図



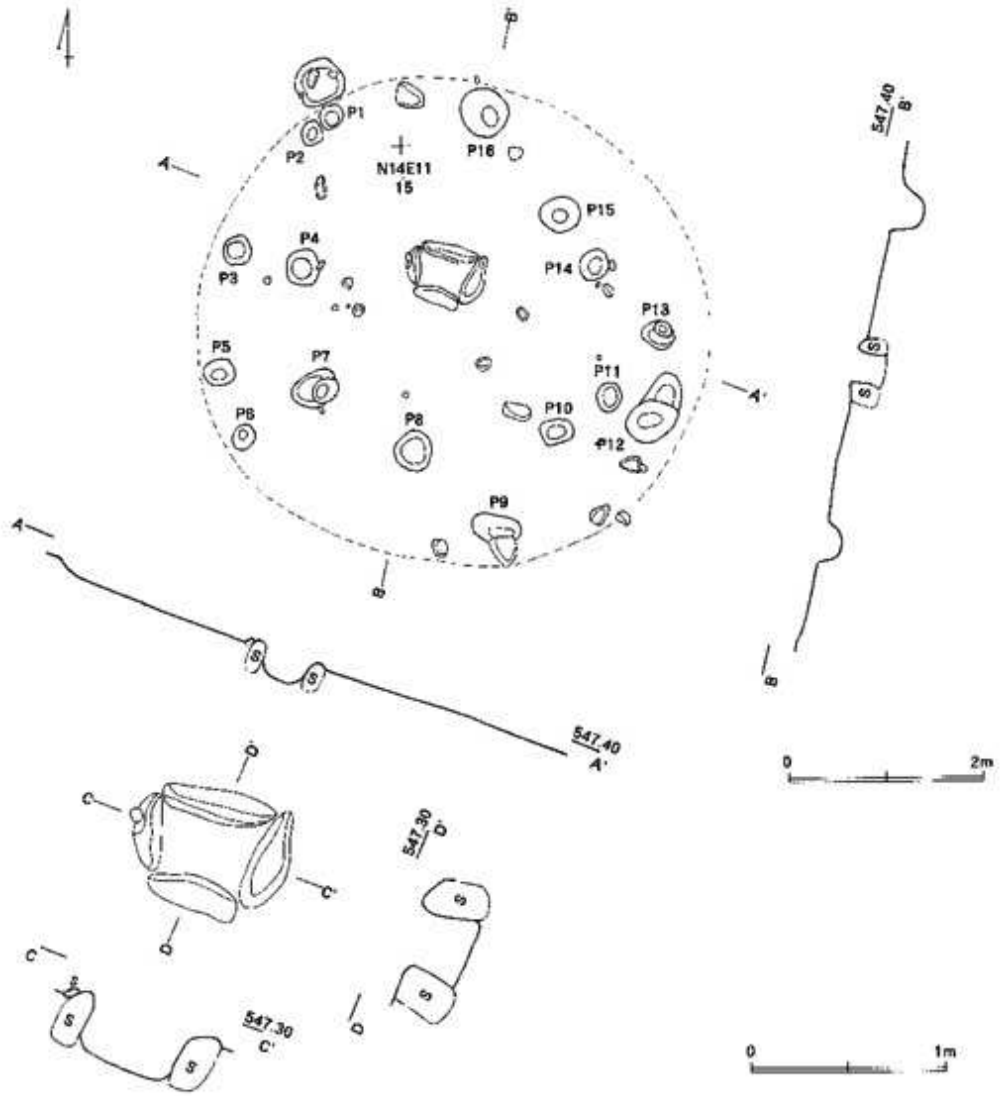
遺構番号 遺構図版 遺物図版	A-19号住居址 第121図 第189、190図	位置 (グリット)	N12E9－8,9,27,28	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－33°－E 4.78×4.40	壁高 床高	(N) 0.20～(S) 0.04 545.58～545.68
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.33×0.27×0.25) P2 (0.38×0.30×0.11) P3 (0.37×0.35×0.17) P4 (0.34×0.34×0.15)					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居中央 N－33°－E (0.77×0.66)		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を配した石囲炉と推定されるが、攪乱が著しく形態は不明である。		
備考	住居址西側に河原石を配した方形の石囲炉がもう一つ存在する。炉石は花びら状に開く。						

第121図　八千原遺跡A地区第19号住居址、炉址実測図



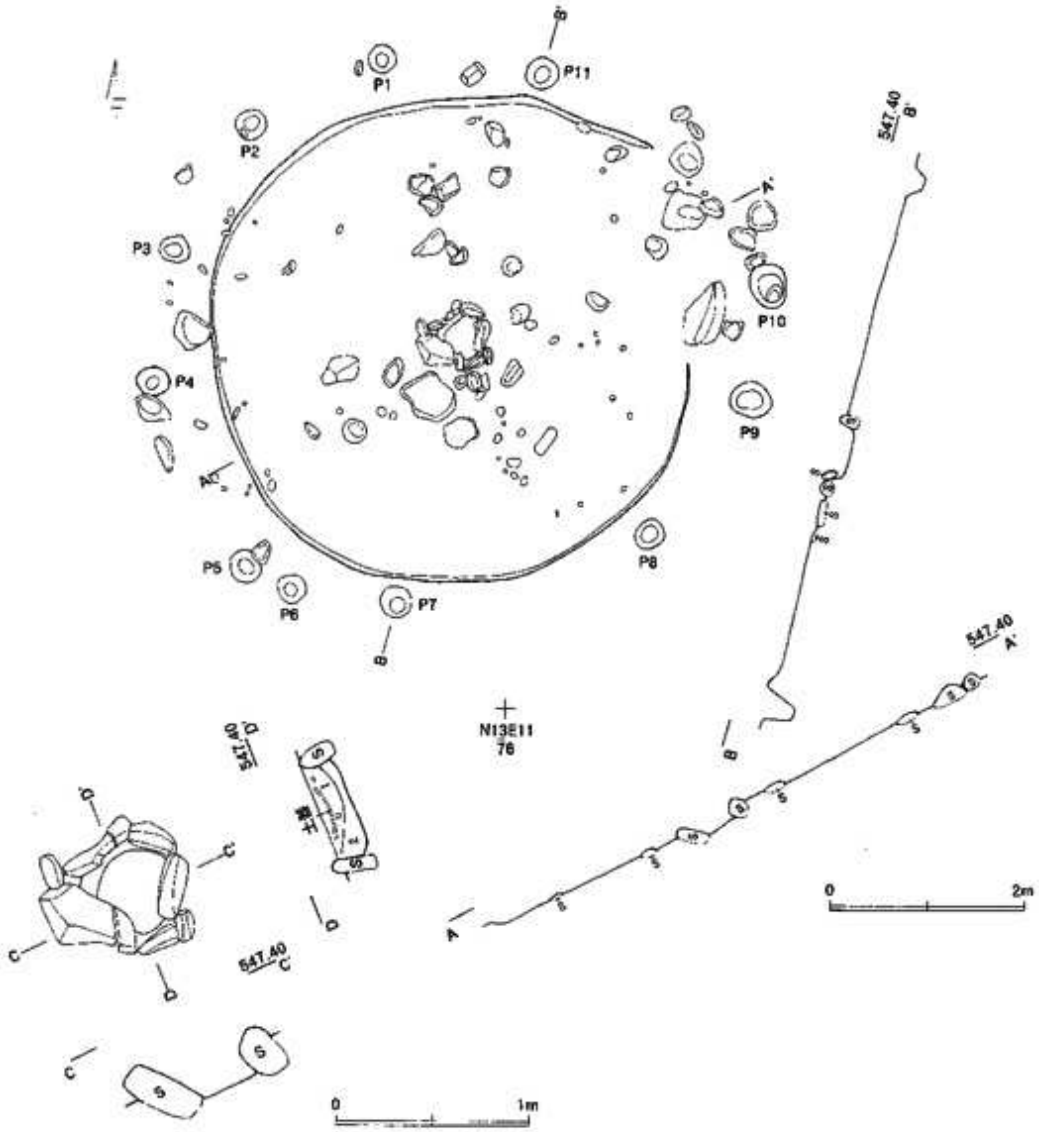
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－1号住居址 第122図 第190、191図	位置 (グリット)	N13E11－73,87,88,89, 92,93	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－42°－W 2.80×2.77？	壁高 床高	(W) 0.11 547.16～547.21
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	住居中央 N－42°－W 0.71×0.65	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉で、炉石は北東部が著しく破損している。炉底に土器片が裏返しで敷かれている。			
備考	8号住居址を切り、住居址床面に平石が点在するが、平面形態等は不明である。覆土に骨片が混入している。						

第122図　八千原遺跡B地区第1号住居址、炉址実測図



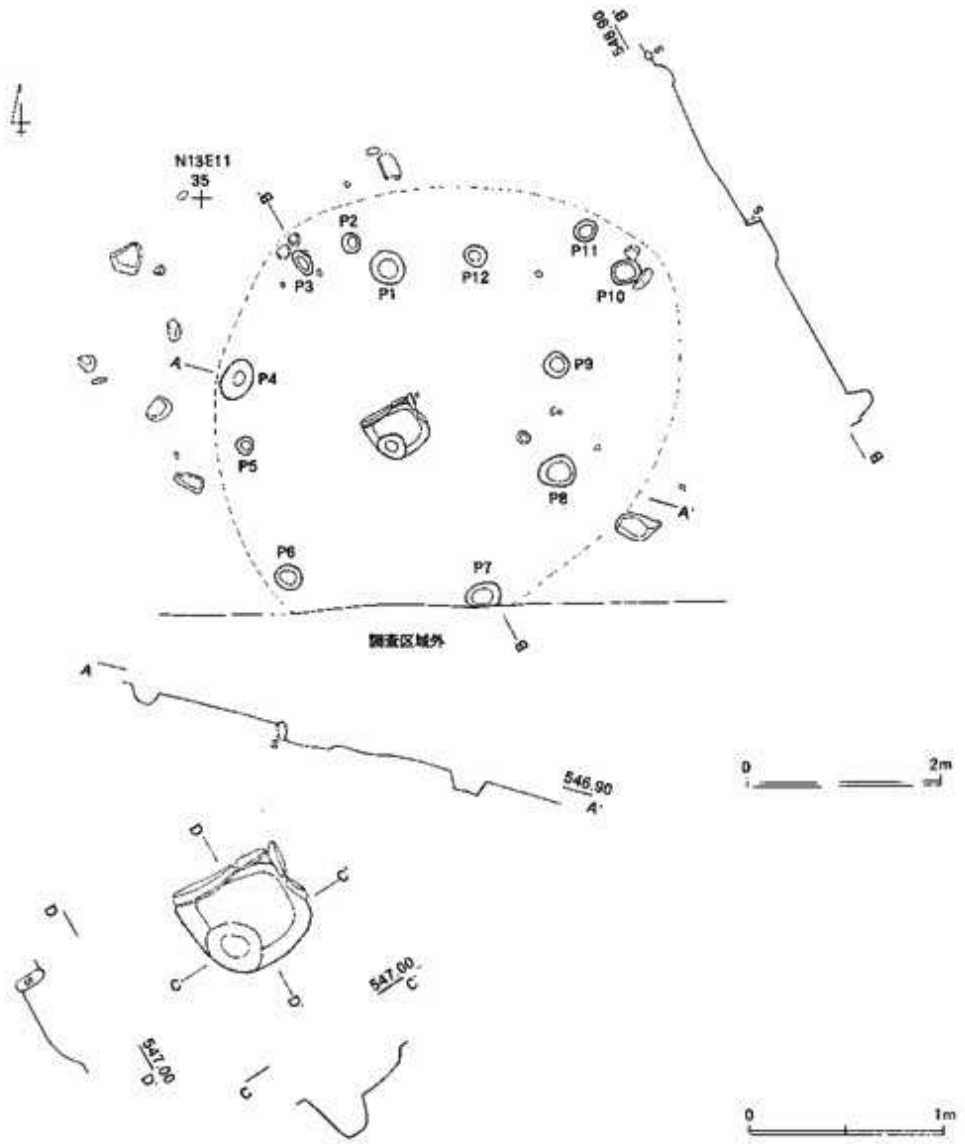
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－3号住居址 第123図 第192、193図	位置 (グリット)	N14E11－6,7,14,15,26,27	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－15°－E 5.00×5.22？	壁高	547.12～547.18
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.21×0.24×0.25）P2（0.23×0.21×0.26）P3（0.29×0.26×0.15） P4（0.35×0.33×0.17）P5（0.26×0.31×0.16）P6（0.25×0.21×0.06） P7（0.38×0.47×0.27）P8（0.40×0.37×0.20）P9（0.30×0.50×0.18） P10（0.25×0.34×0.20）P11（0.30×0.25×0.18）P12（0.75×0.44×0.28） P13（0.30×0.32×0.21）P14（0.31×0.29×0.30）P15（0.35×0.44×0.26） P16（0.49×0.49×0.26）				覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央北寄り N－15°－E 0.81×0.62	覆土 備考	1 黒褐色土 比較的大きな河原石を4個使用した石囲炉で、炉石はかなり火熱を受けていたが、炉内には焼土、炭化物は確認されなかった。			
備考	西壁はすでに水田造成時に削平され残存していなかった。推定の住居址プランの径は5.0m～5.5mを測る。						

第123図　八千原遺跡B地区第3号住居址、炉址実測図



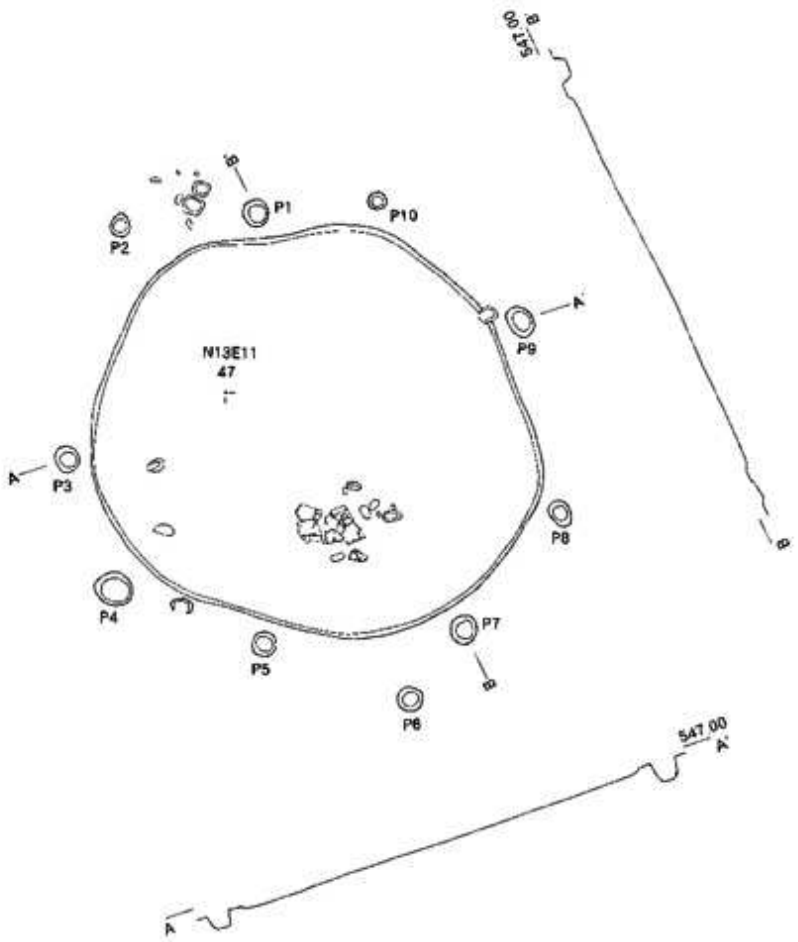
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－4号住居址 第124図 第192、193図	位置 (グリット)	N13E11－84,85,96,97	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－13°－E 4.95～4.86		壁高 床高	(S) 0.07 547.06～547.17
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.28×0.27×0.24) P2 (0.30×0.30×0.20) P3 (0.27×0.30×0.21) P4 (0.29×0.33×0.20) P5 (0.33×0.30×0.50) P6 (0.27×0.29×0.50) P7 (0.31×0.30×0.26) P8 (0.30×0.30×0.26) P9 (0.35×0.41×0.40) P10 (0.45×0.35×0.23) P11 (0.32×0.32×0.45)					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－13°－E 0.80×0.62	覆土 備考	1 暗茶褐色粘質土 2 茶褐色砂質土 河原石と平石による方形の石囲炉で、炉石は火熱により赤色を呈する。				
備考	平石の破片等が多く床面に点在する。							

第124図　八千原遺跡B地区第4号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－5号住居址 第125図 第193図	位置 (グリット)	N13E11－26,27,28,33,34,35	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－30°－W 4.40×4.90？	床高	546.71～546.85
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.32×0.33×0.19）P2（0.19×0.17×0.06）P3（0.25×0.15×0.15） P4（0.42×0.33×0.13）P5（0.18×0.16×0.20）P6（0.25×0.27×0.19） P7（0.23×0.35×0.20）P8（0.30×0.36×0.13）P9（0.25×0.25×0.21） P10（0.22×0.30×0.06）P11（0.22×0.22×0.15）P12（0.21×0.22×0.17）			覆土	1 黒褐色土 （焼土混入）		
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央西寄り N－30°－W 0.57×0.53	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石による方形の石囲炉であると推定されるが、炉石は崩壊もしくは抜かれていて形態ははっきり分からない。			
備考	平面形態は柱穴の配列等により推定する。床面は部分的に堅くしまった部分がある。						

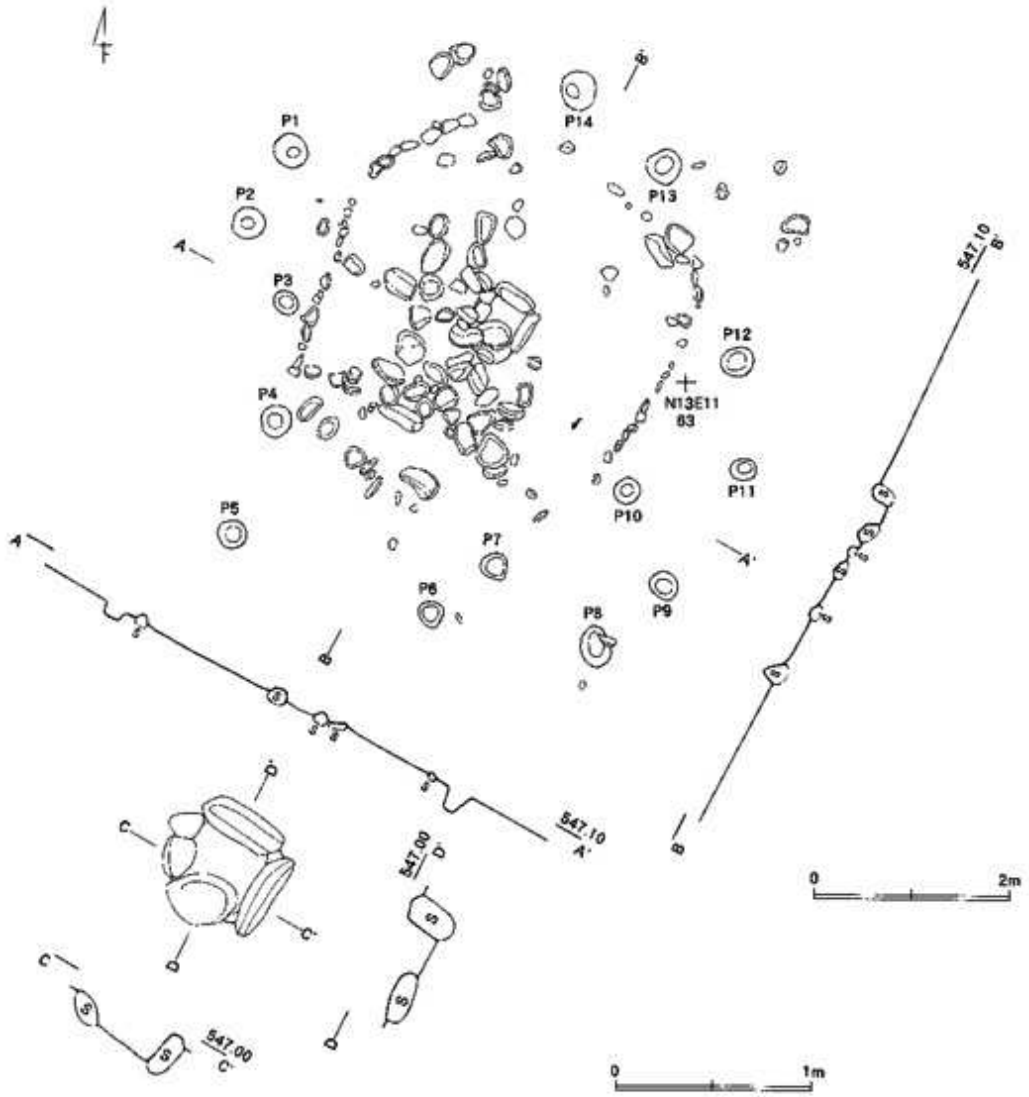
第125図　八千原遺跡B地区第5号住居址、炉址実測図



0 2m

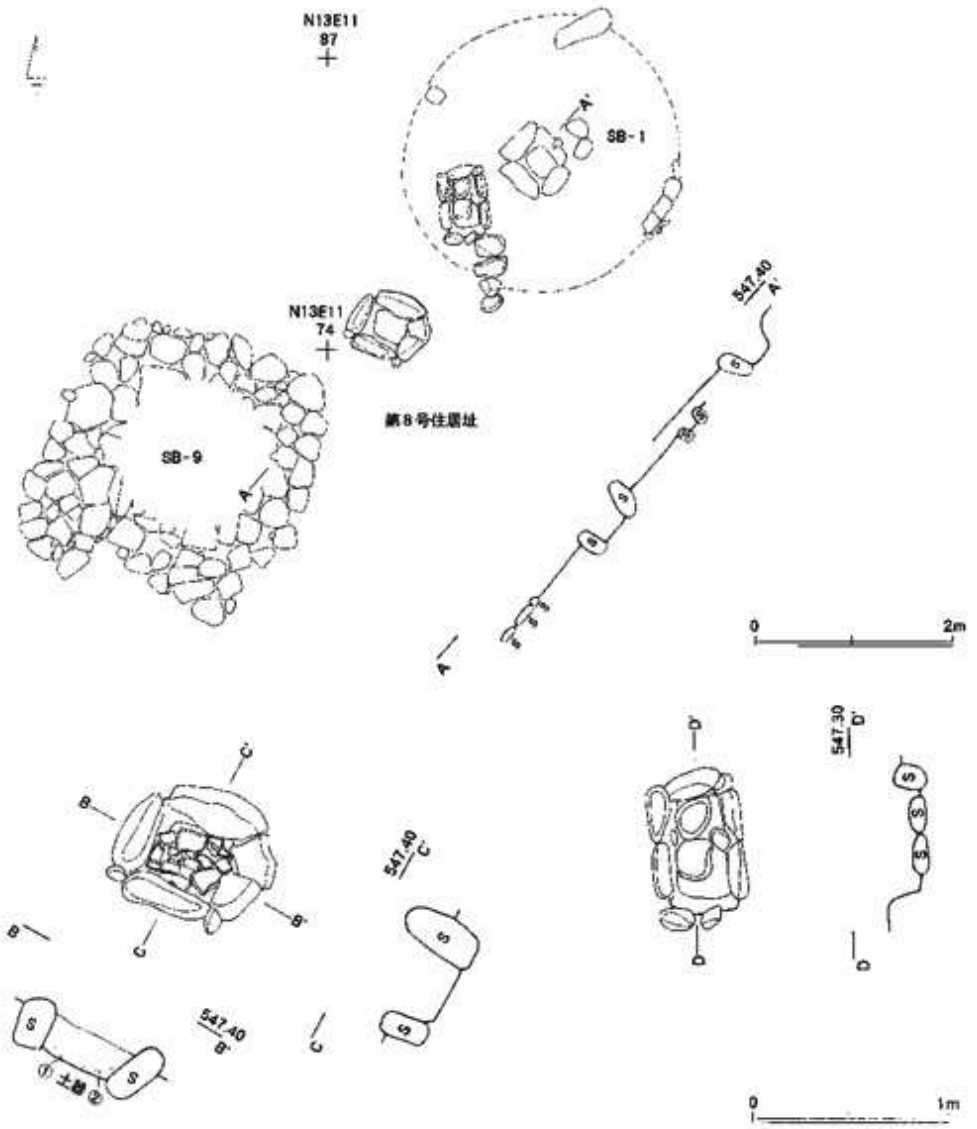
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－6号住居址 第126図 第193図	位置 (グリット)	N13E11－47,48,54,55	平面形態 主軸方位 規　模	円形 不明 4.18×4.60	壁高 床高	(S) 0.03 546.81～546.88
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.27×0.25×0.12) P2 (0.23×0.18×0.16) P3 (0.27×0.24×0.15) P4 (0.34×0.37×0.14) P5 (0.25×0.25×0.29) P6 (0.25×0.25×0.29) P7 (0.29×0.25×0.22) P8 (0.27×0.20×0.18) P9 (0.32×0.25×0.17) P10 (0.17×0.18×0.15)			覆土	1 黒褐色土		
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			遺物 備考			
備考	床面は部分的に堅くしまった面が存在するが、炉は確認されず不明確な点が多い。						

第126図　八千原遺跡B地区第6号住居址実測図



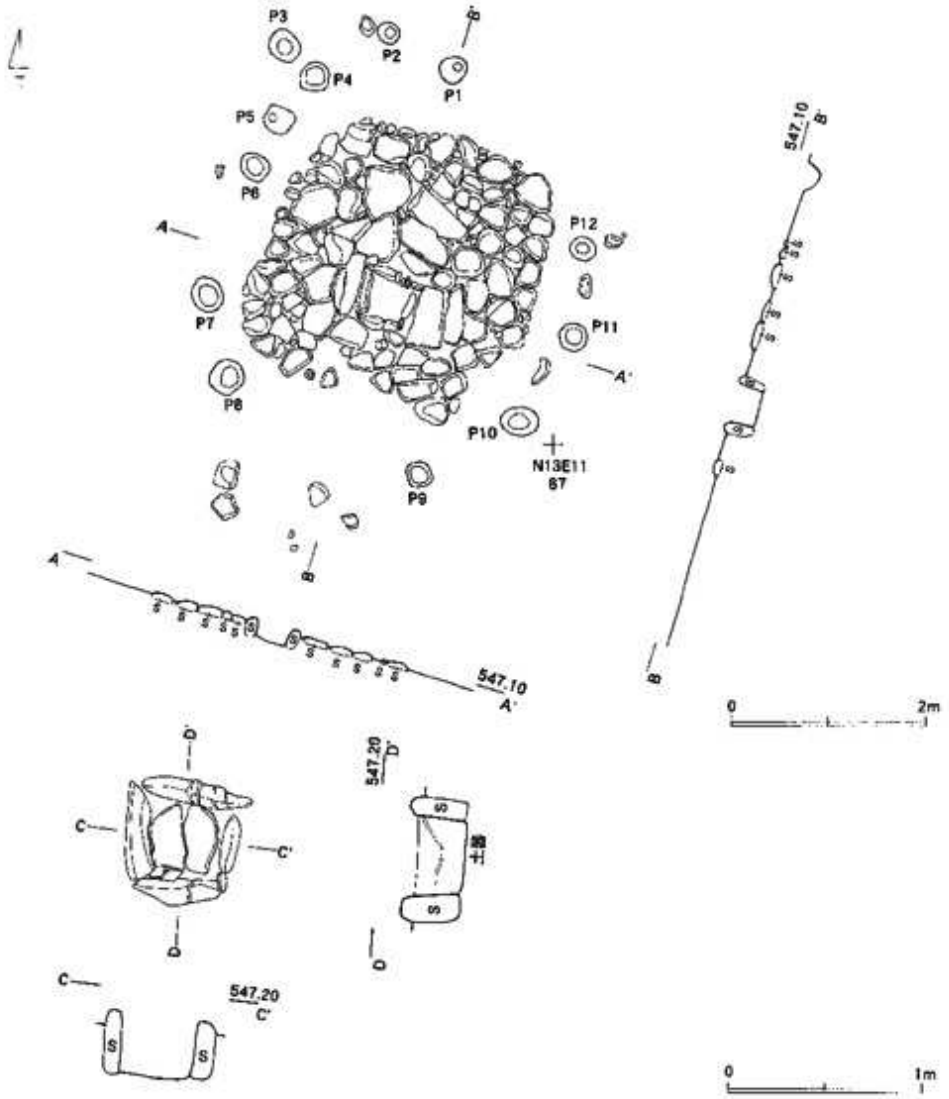
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－7号住居址 第127図 第194図	位置 (グリット)	N13E11－62,63,78,79	平面形態 主軸方位 規　模	(六角形) N－30°－E 6.76×5.63	床高	546.91~547.03
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.35×0.31×0.46) P2 (0.31×0.32×0.13) P3 (0.24×0.23×0.12) P4 (0.32×0.30×0.14) P5 (0.26×0.28×0.05) P6 (0.26×0.25×0.03) P7 (0.28×0.26×0.04) P8 (0.42×0.29×0.07) P9 (0.28×0.26×0.06) P10 (0.27×0.26×0.04) P11 (0.20×0.26×0.20) P12 (0.29×0.33×0.09) P13 (0.35×0.34×0.14) P14 (0.39×0.34×0.12)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－30°－E 0.82×0.64		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉と考えられるが南と西は炉石が無い。炉石は火熱で赤色を呈しているが、焼土等は検出されなかった。		
備考	こぶし大の河原石が首飾り状に連なり輪郭を形成している。このことから推定して平面形態は六角形である。床には人頭大の河原石が炉の周囲に散在している。						

第127図　八千原遺跡B地区第7号住居址、炉址実測図



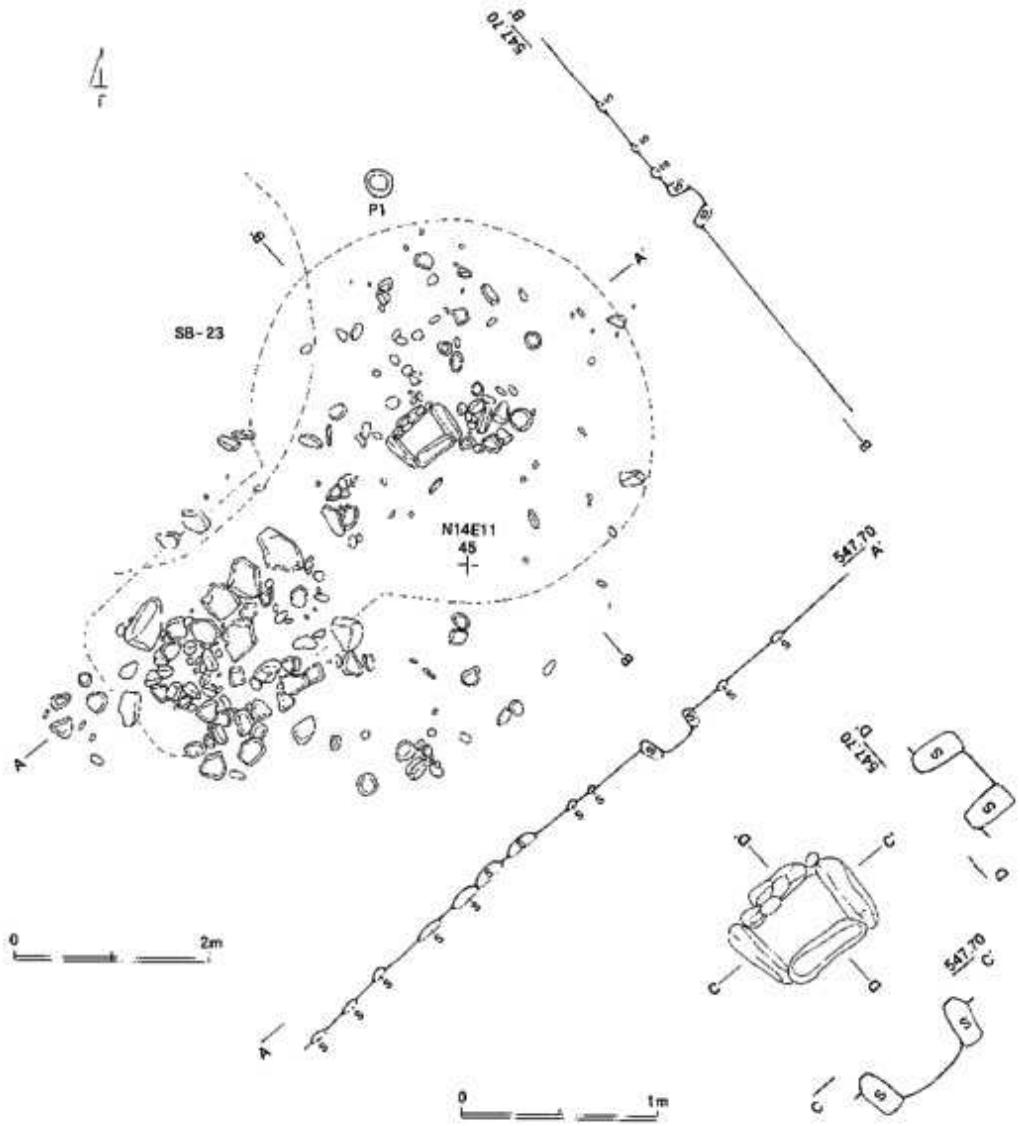
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－8号住居址 第128図 第194図	位置 (グリット)	N13E11－73,74,87,88	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－25°－E 規模不明	床高	547.05～547.07	
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ N－25°－E 0.80×0.70	覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した石囲炉であり、炉石の上端は床面より8.0cm ～18.0cm出る。炉底は土器片を真返して敷きつめてある。				
備考	1、9号住居址に切られ、炉址のみ残存していた。炉址の北東には、長方形（0.50m×0.80m）の石組が検出されたが、削平が著しく詳細は不明である。							

第128図　八千原遺跡B地区第8号住居址、炉址実測図



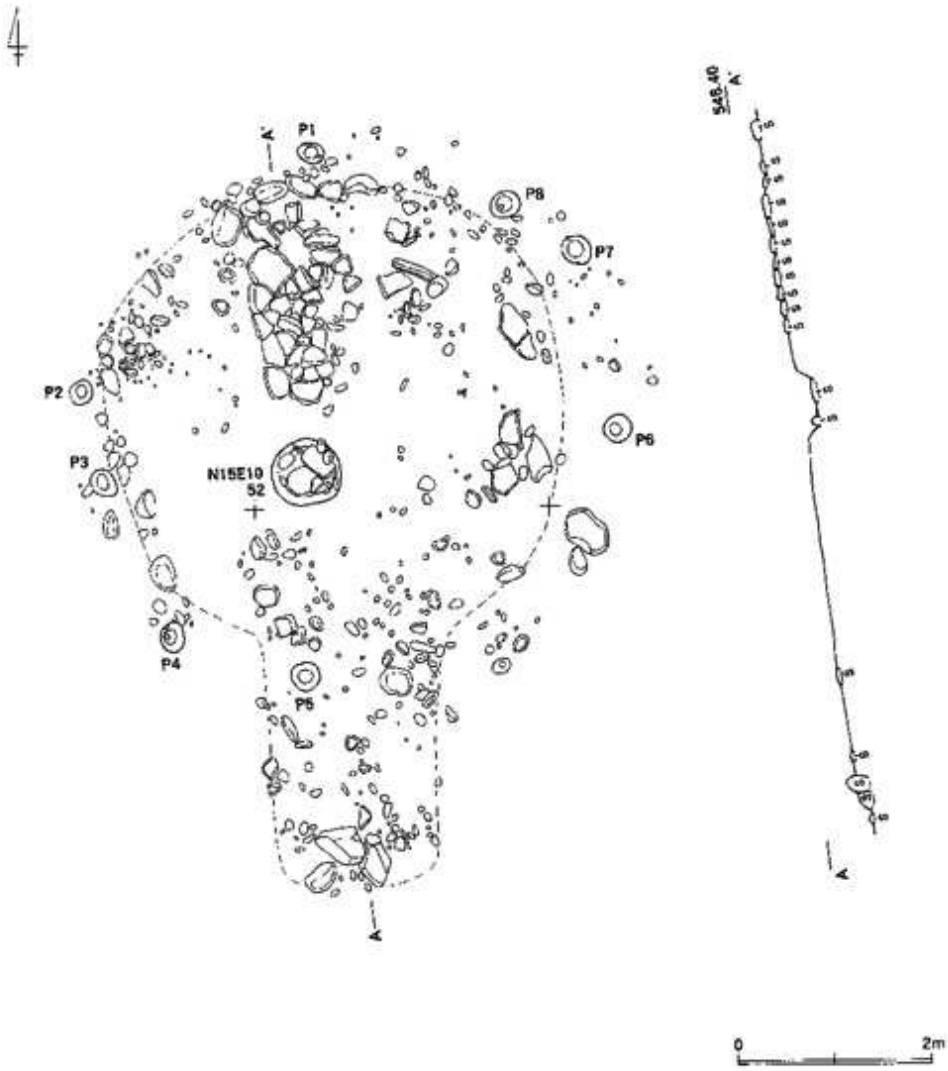
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－9号住居址 第129図 第194、195図	位置 (グリット)	N13E11－74	平面形態 主軸方位 規模	方形？ N－13°－E 不明	床高	546.95～547.05
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.26×0.26×0.19) P2 (0.21×0.21×0.23) P3 (0.34×0.30×0.21) P4 (0.29×0.29×0.09) P5 (0.31×0.30×0.17) P6 (0.30×0.30×0.13) P7 (0.35×0.30×0.17) P8 (0.35×0.34×0.15) P9 (0.25×0.25×0.10) P10 (0.28×0.38×0.15) P11 (0.28×0.27×0.14) P12 (0.23×0.26×0.15)			覆土	1 黒褐色土		
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－13°－E 0.64×0.58		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した石囲炉。炉石の上端は床面より4.0～6.0cm出る。炉の内部に深鉢半片が出土した。焼土は確認されなかった。		
備考	8号住居址を切る。敷石部の規模は4.60m×4.23mである。平石を敷き詰めた主体部が残存していた。張出し部の存在は不明である。敷石部南東西側寄りに深鉢が埋設されていた。敷石は鉄平石のほか河原石を使用し、鉄平石間は小礫を詰めている。敷石の外側の周囲は12個の柱穴列が確認されている。						

第129図　八千原遺跡B地区第9号住居址、炉址実測図



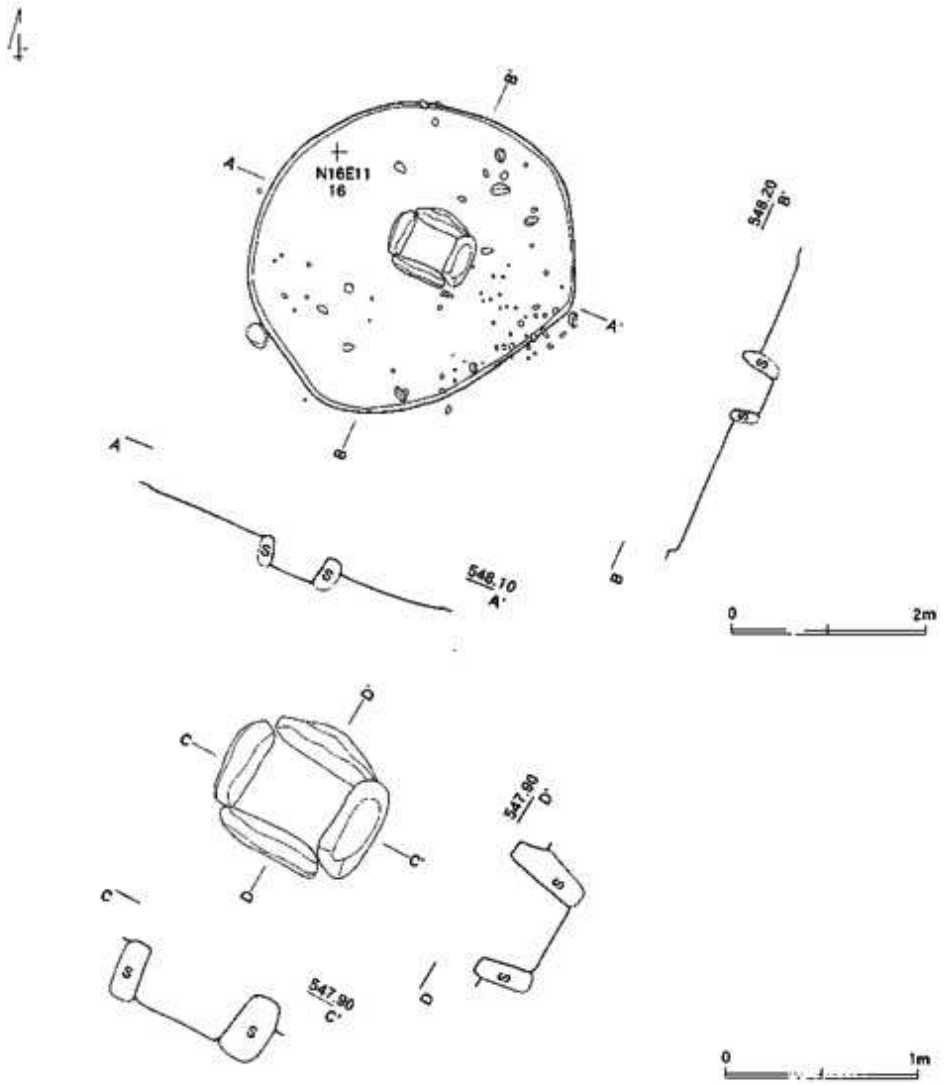
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-13号住居址 第130図 第195、196図	位置 (グリット)	N14E11－45,46,56,57, 58,64,65	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡型 N－38°－W 4.09×4.07？	床高	547.51～547.57	
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.27×0.26×0.09）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南西寄り N－38°－W 0.69×0.53	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石と平石を使用した方形の石囲炉で、西側の炉石が無い。				
備考	張出し部の規模は2.65×1.70？で敷石住居であると推定される。23号住居址に切られる。床に河原石や山石の破片が散在している。							

第130図　八千原遺跡B地区第13号住居址、炉址実測図



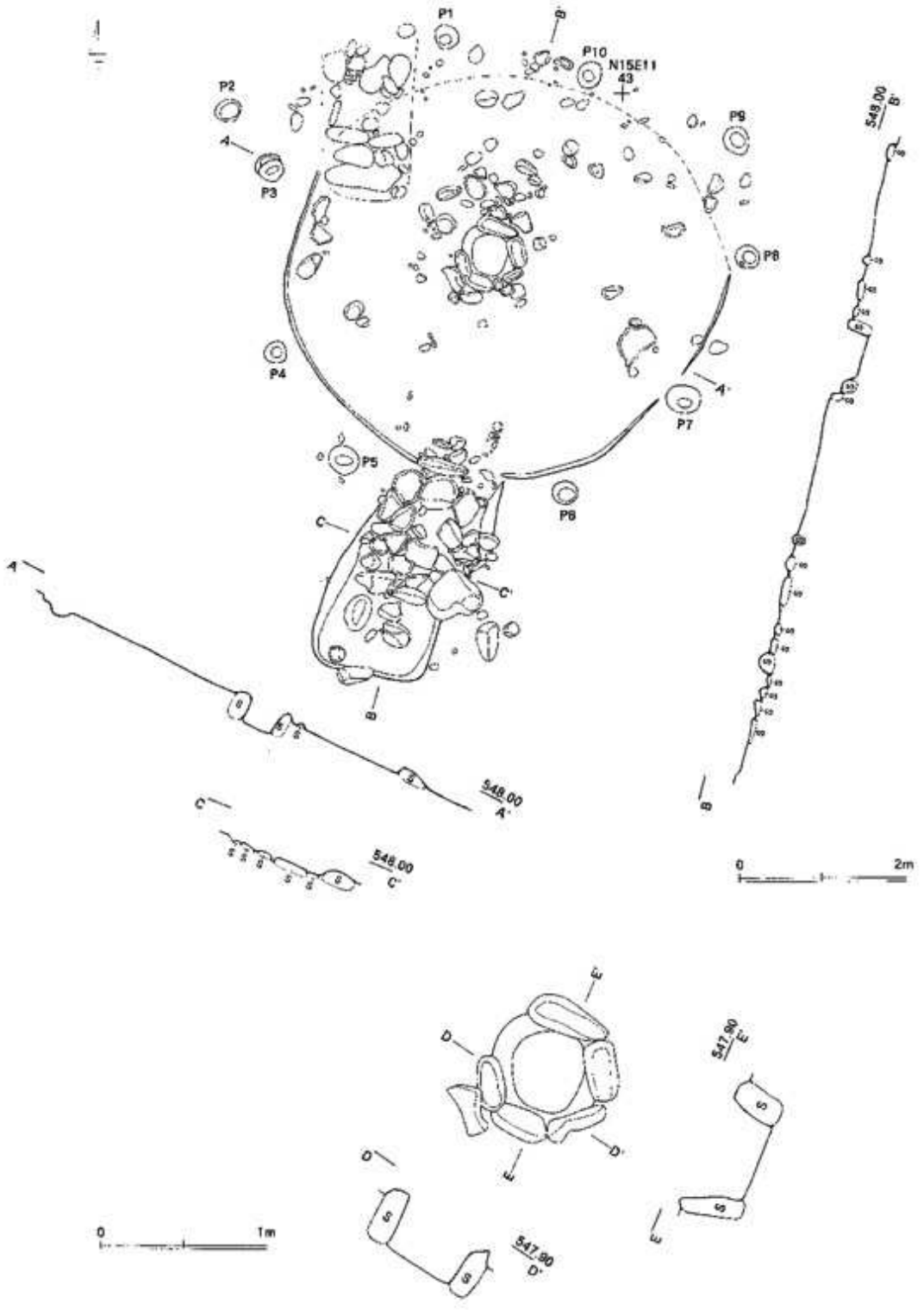
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-14号住居址 第131図 第196、197図	位置 (グリット)	N15E10－51,52,69,70	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－6°－W 4.90×4.70？	壁高 床高	(S) 0.07～(W) 0.02 547.81～548.10
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り 0.72×0.66		覆土 備考	1 黒褐色土 炉石は一部火熱を受け、炭化物、焼土などが確認された。底部には安山岩の平石が並んでいる。		
備考	敷石住居。主体部のプランは北側に2.40×1.20の規模で平石8枚からなる敷石と、周辺に残る平石や小穴の並びから推定した。張出し部のプランも平石と河原石が残存していることから推定した。炉の底に平石が敷かれ、本住居址の下層に遺構があるとも考えられたが、周辺の撹乱が著しく不明である。						

第131図　八千原遺跡B地区第14号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-15号住居址 第132図 第197図	位置 (グリット)	N16E11－15,16,25,26	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－23°－E 3.35×3.33	壁高 床高	(S) 0.07 547.63~547.74
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土 （炭化物を多量に混入する。）
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－23°－E 0.75~0.87	覆土備考	1 黒褐色土 大きな河原石を4個用いた石囲炉。炉石は火熱を受け、一部赤色を呈している。覆土は炭化物を含み、底に焼土が確認された。			
備考	本住居址の壁は32号住居址の張出し部に接近している。両住居址の比高差は0.55mあり、本住居址が下である。床面は堅く締まる。覆土に人の頭大の河原石が多量に含まれていた。						

第132図　八千原遺跡B地区第15号住居址、炉址実測図


P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
N15E11
43
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
548.00
548.00
549.00
547.90
547.90
0
2m
0
1m

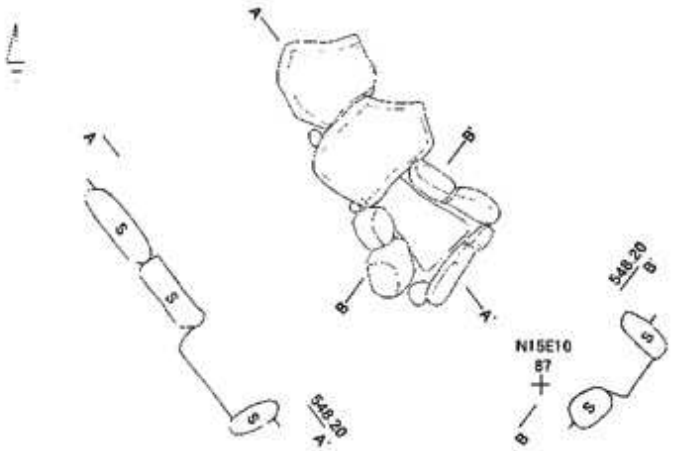
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-17号住居址 第133図 第197、198図	位置 (グリット)	N15E11－37,38,39,42, 43,44,	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－10°－E 4.80×5.25	壁高 床高	(W) 0.00～(E) 0.01 547.60～547.77

柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.29×0.26×0.13) P2 (0.26×0.31×0.15) P3 (0.31×0.33×0.17) P4 (0.25×0.25×0.12) P5 (0.35×0.35×0.13) P6 (0.28×0.29×0.08) P7 (0.32×0.40×0.17) P8 (0.26×0.28×0.18) P9 (0.34×0.28×0.17) P10 (0.30×0.27×0.15)	覆土	1 黒褐色土 （骨片混入）

炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－10°－E 0.88～0.78	覆土 備考	1 黒褐色土（炭化物を僅かに混入する） おそらく河原石を6個使用し、全体の平面形が六角形を呈してした。石は火熱を受け、炉内部に土器を埋設し、炉底は焼けている。

備考	張出し部は2.54×1.43。主体部の平面形プランは、西側、東側に残る壁から推定した。主体部と張出し部の接点は0.62×0.18の河原石を横に据えて敷石としている。主体部の床面には安山岩の平石や偏平の河原石が点在している。張出し部は平石や偏平の河原石が敷かれ、その周囲には河原石が配置されていたと推定できる。

第133図　八千原遺跡B地区第17号住居址、炉址実測図



0　2m

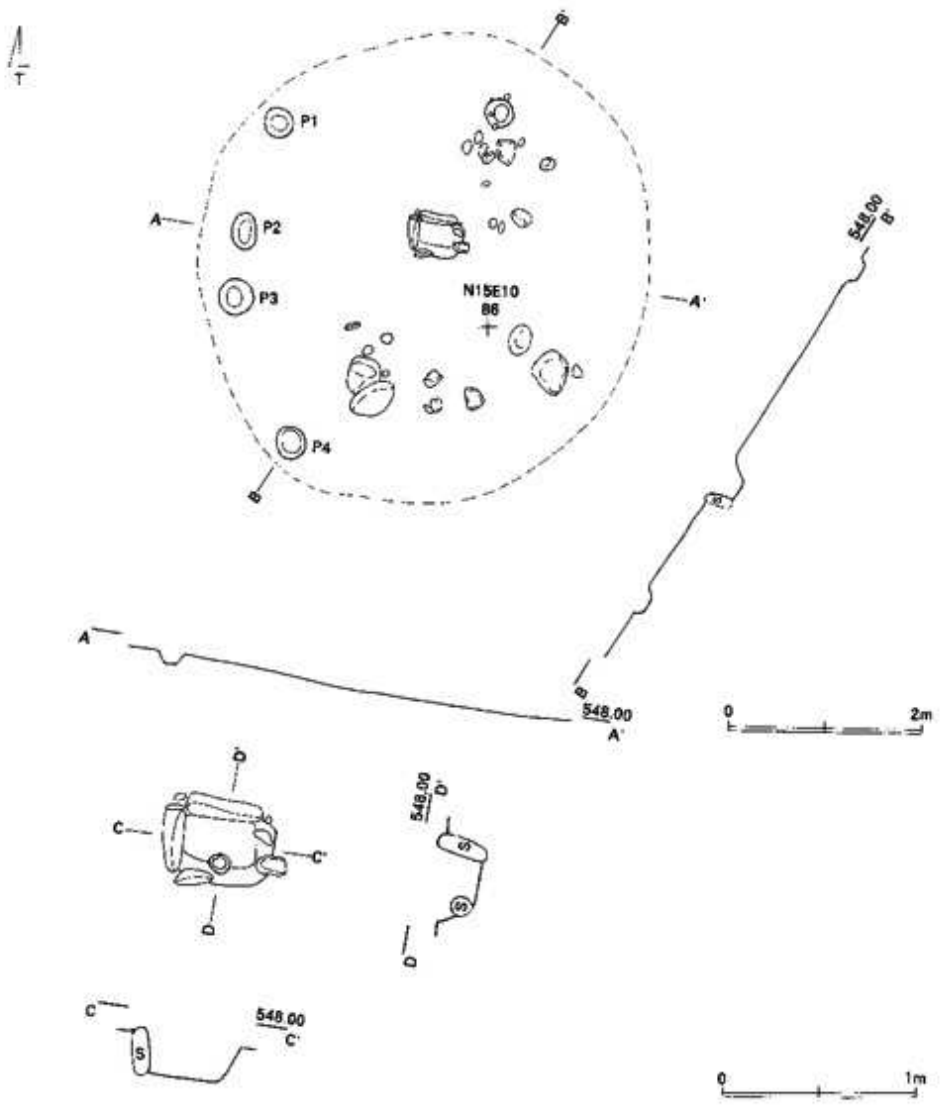
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-18号住居址 第134図 第198図	位置 (グリット)	N15E10－87,88,93,94	平面形態 主軸方位 規　模	不明 N－35°－E 不明	床高	547.95～548.00

柱穴（長径×短径×深さ）	覆土	1 黒褐色土

炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	不明 N－35°－W 0.07×0.65	覆土 備考	1 黒褐色土

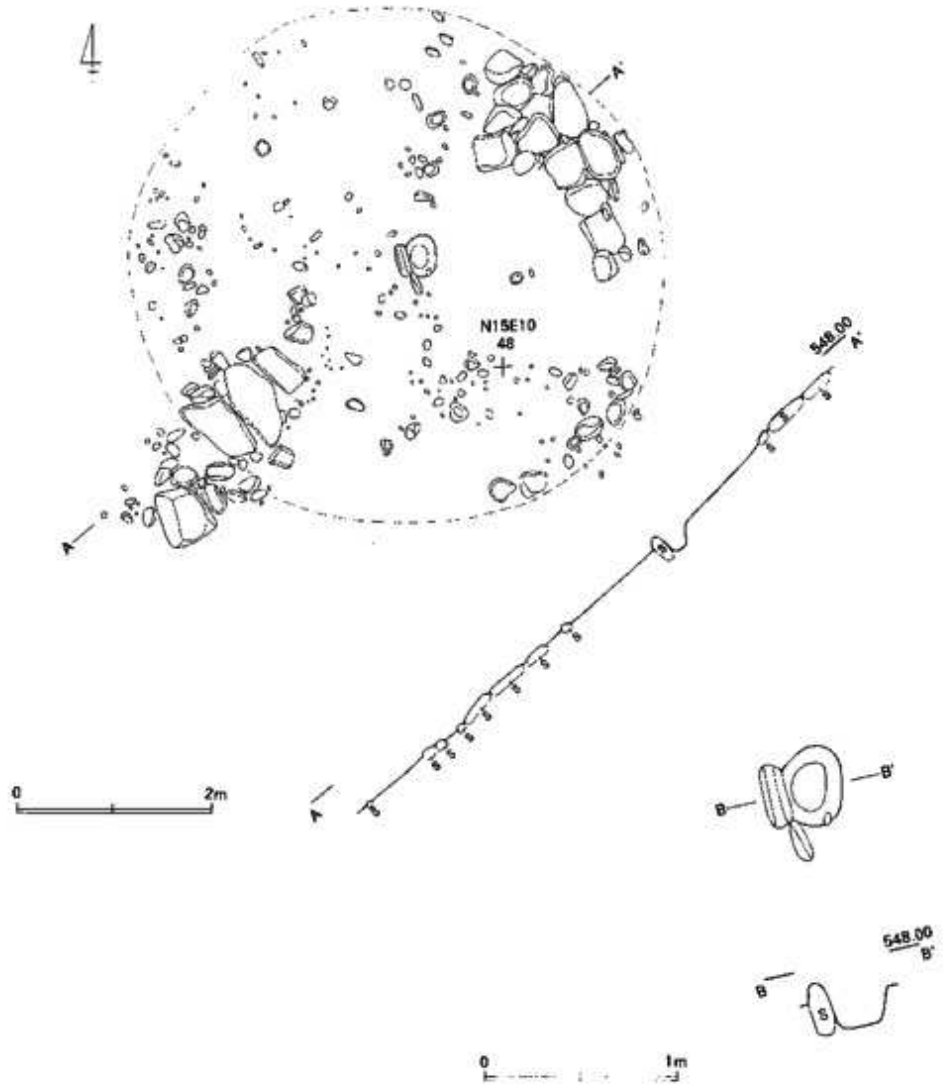
備考	19号住居址に切られると推定される。炉址のみが検出され、平面形等は不明である。2枚の平石が炉の北側に敷かれている。

第134図　八千原遺跡B地区第18号住居址実測図



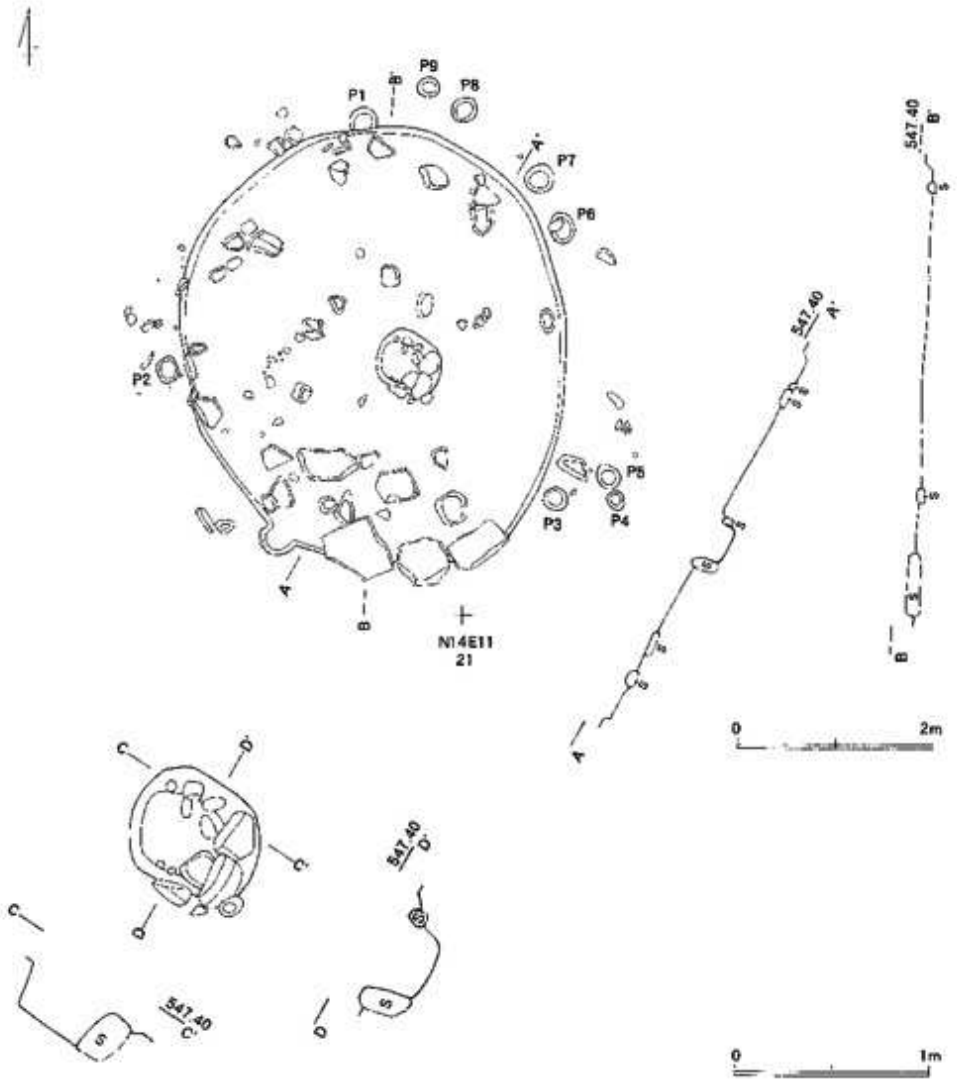
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-19号住居址 第135図 第198図	位置 (グリット)	N15E10－85,86,94,95	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－5°－E 4.85×4.61	床高	547.82～548.09
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.28×0.29×0.13) P2 (0.29×0.28×0.09) P3 (0.37×0.24×0.10) P4 (0.36×0.34×0.10) P5 (0.32×0.30×0.08)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ N－5°－E 0.42～0.55		覆土 備考	1 黒褐色土		
備考	18号住居址を切ると推定される。19号住居址と同様に、炉址のみ検出され、平面形等は不明である。						

第135図　八千原遺跡B地区第19号住居址、炉址実測図



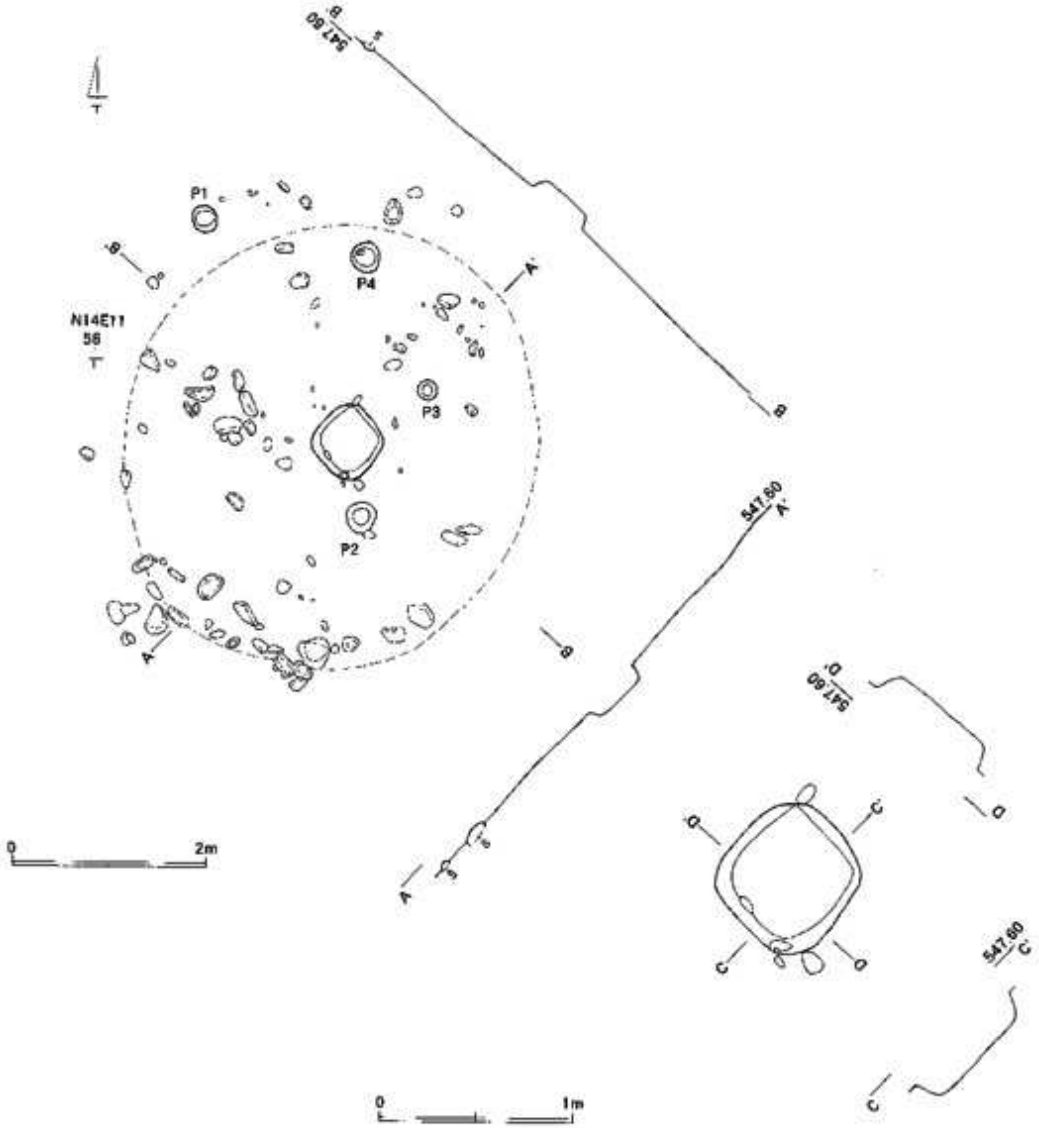
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-20号住居址 第136図 第199図	位置 (グリット)	N15E10－47,48,53,54,68	平面形態 主軸方位 規　模	(柄鏡形) N－48°－E 5.38×5.46	床高	547.83~548.05
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.22×0.28×0.18) P2 (0.25×0.21×0.10) P3 (0.23×0.22×0.12) P4 (0.19×0.17×0.18) P5 (0.24×0.24×0.18) P6 (0.31×0.24×0.21) P7 (0.29×0.30×0.12) P8 (0.24×0.25×0.07) P9 (0.19×0.21×0.15)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 0.40~0.41		覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した石囲炉で、炉石は一部火熱を受けていた。後世の暗渠排水工事により撹乱され形態は不明である。		
備考	張出し部の規模は1.25×1.08である。平石の並びにより主体部が円形の敷石住居址と推定できる。床上の石は住居北側と南側に部分的に敷かれているが、北側は半偏の河原石で、南側は平石である。						

第136図　八千原遺跡B地区第20号住居址、炉址実測図



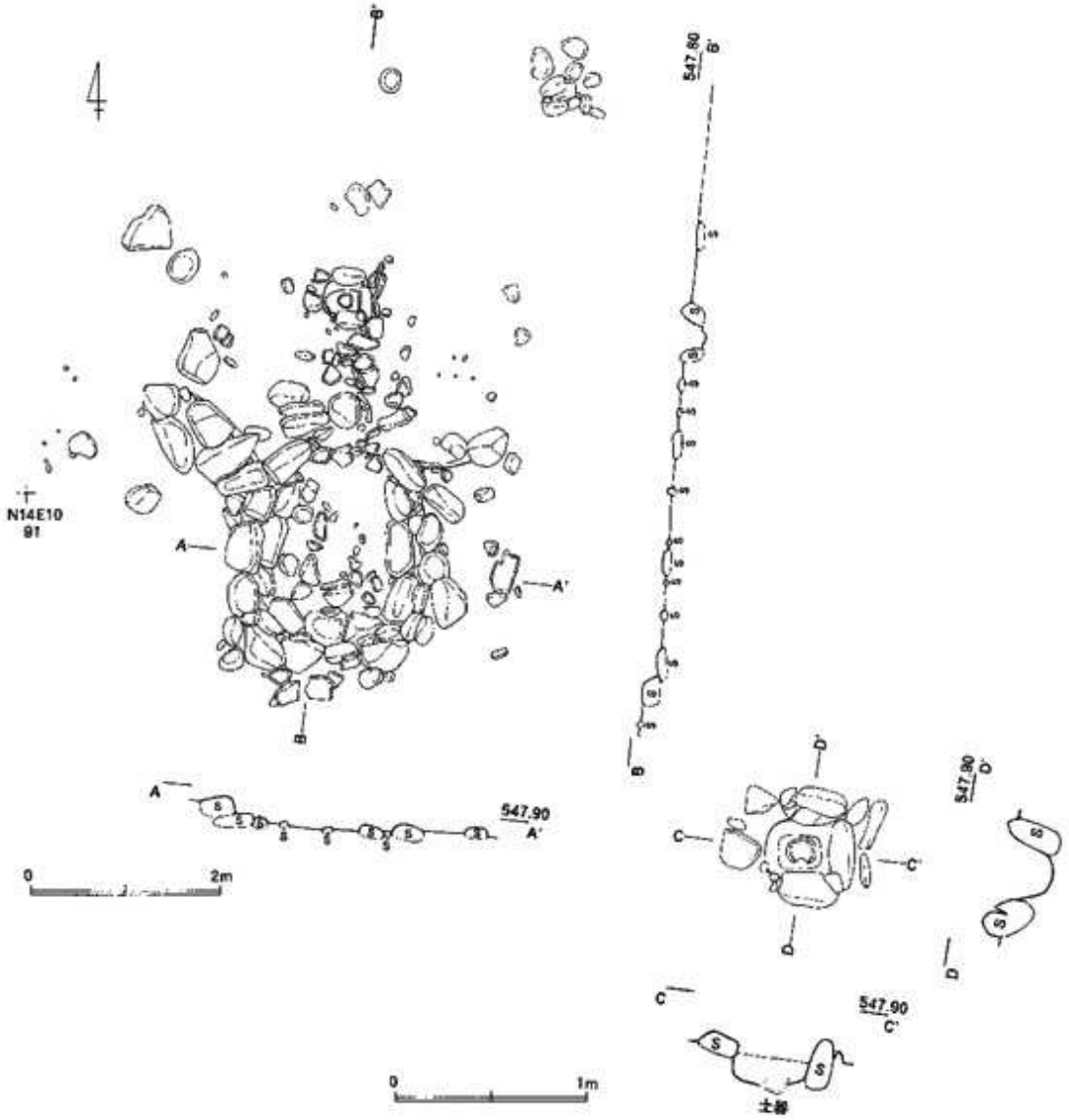
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-21号住居址 第137図 第199図	位置 (グリット)	N14E11－39,40,41,42	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－13°－E 4.60×3.92		壁高 床高	(S) 0.06～ (N) 0.09 547.19～547.28
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－13°－E 0.62×0.65		覆土備考	1 黒褐色土（焼土を混入する。） 炉石は崩壊あるいは抜けていて形態ははっきりしない。炉底は赤く焼け、しまっている。			
備考	住居址南側に鉄平石の平石が並んで敷かれている。その他床面全体に河原石や平石の破片が散在している。							

第137図　八千原遺跡B地区第21号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-23号住居址 第138図 第199、200図	位置 (グリット)	N14E11－57,58,64,65	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－40°－W 4.60×4.17	床高	547.47～547.56
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.27×0.25×0.16）P2（0.31×0.30×0.09）P3（0.20×0.19×0.12） P4（0.30×0.29×0.10）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ N－40°－W 0.67×0.67		覆土備考	1 黒褐色土（焼土ブロック状に混入する。） 炉石等は無く、形態も不明である。		
備考	13号住居址と隣接して検出され、13号住居址を切ると推定される。						

第138図　八千原遺跡B地区第23号住居址、炉址実測図



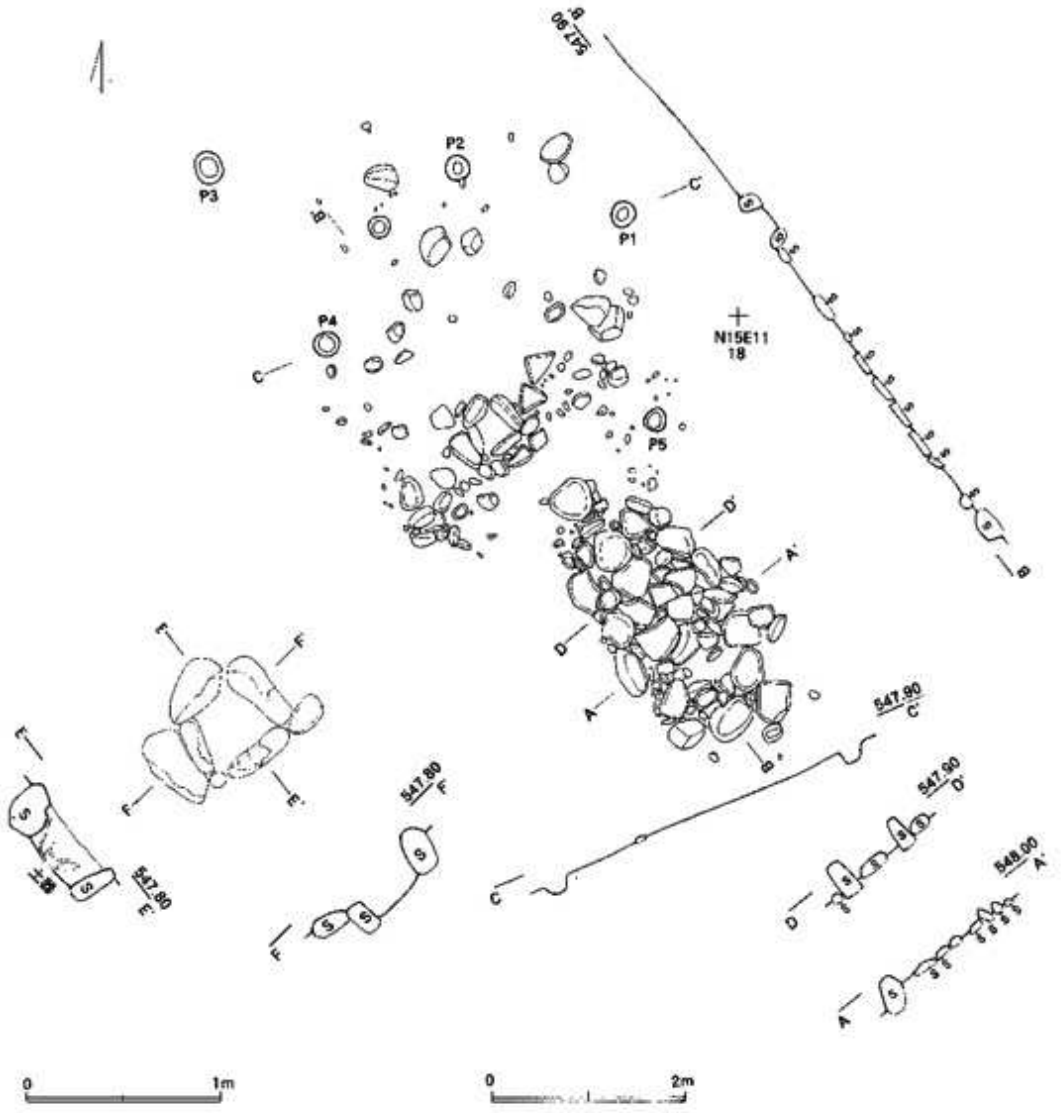
遺構番号	B-24号住居址	位置（グリット）	N14E11－99,100 N15E11－1,2	平面形態	柄鏡形	床高	547.65～547.76
遺構図版	第139図			主軸方位	N－5°－E		
遺物図版	第200図			規模	6.76×7.07		

柱穴（長径×短径×深さ）		覆土	1 黒褐色粘質土

炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り？ N－5°－E 0.64×0.76	覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉で、炉石は火熱により割れ、一部赤色を呈する。炉掘土層が正位に埋設されている。

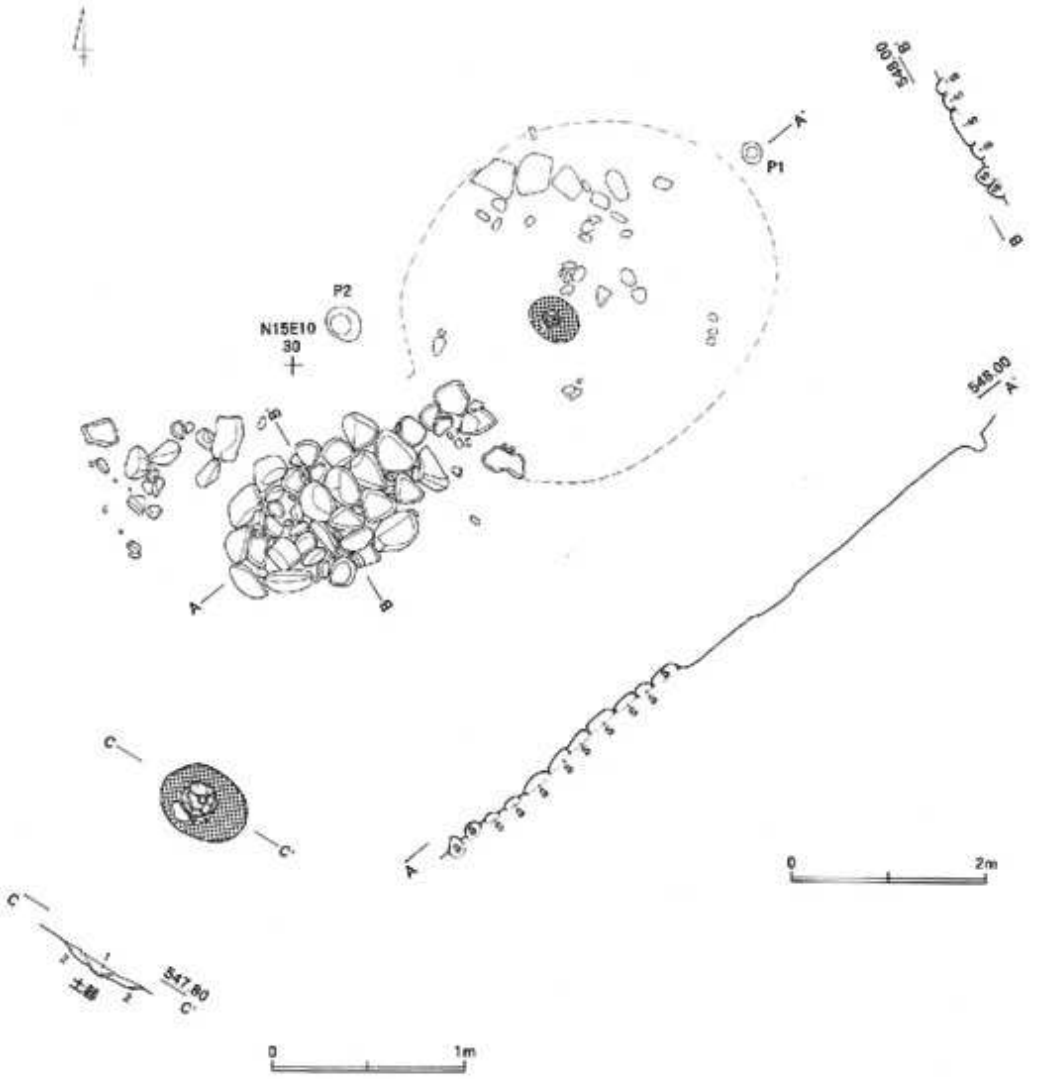
備考	37号住居址を切ると推定される。張出し部の規模は2.60×2.40で、円形または隅丸方形の平面形態をなし、床面には外側1列のほか敷石がなく、河原石が散在しているが、三方の壁は厚手の河原石で1～2段の石積みにより構築されている。主体部は張出し部に比べると敷石も無く形態も不明である。

第139図　八千原遺跡B地区第24号住居址、炉址実測図



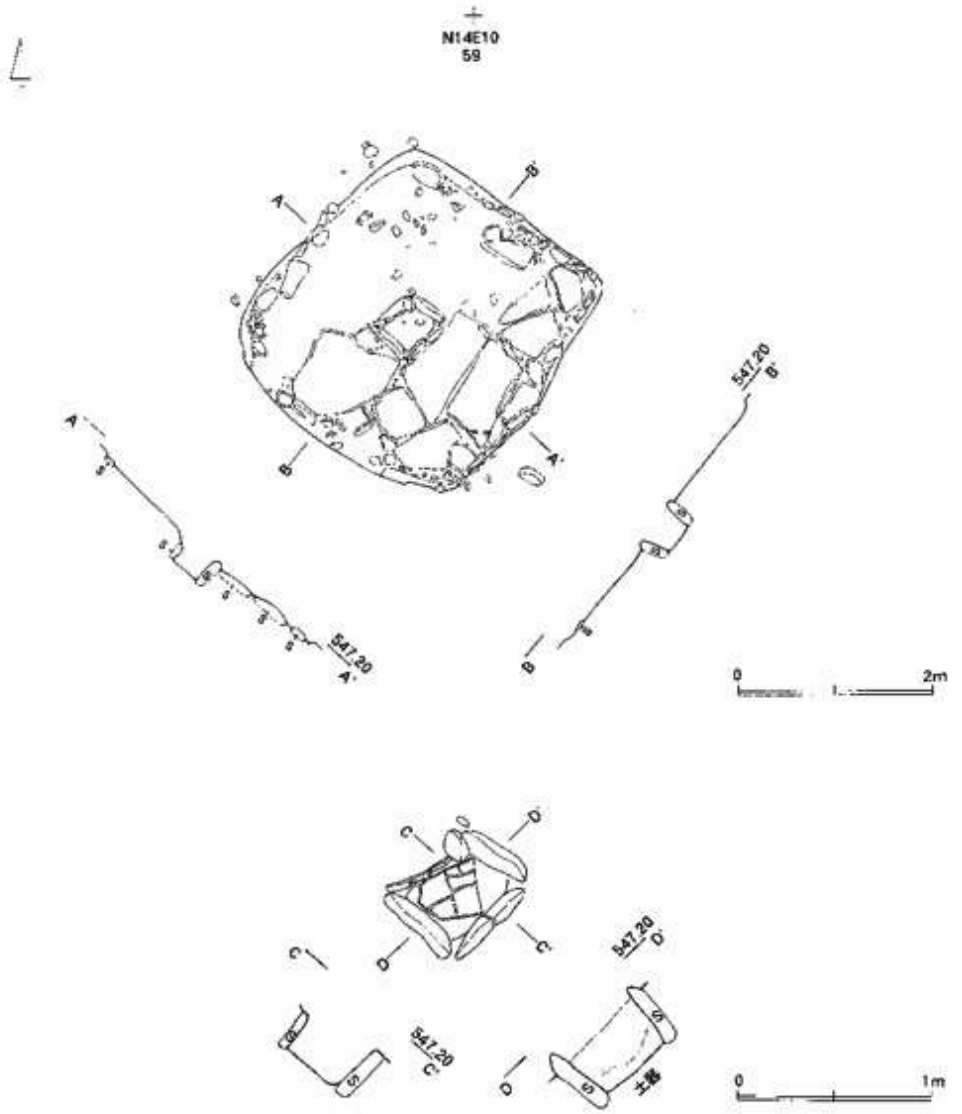
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-25号住居址 第140図 第200、201図	位置 (グリット)	N15E11－3,18,19	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形 N－46°－W 5.60×3.82	床高	547.69～547.78
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.25×0.24×0.19）P2（0.25×0.24×0.15）P3（0.31×0.27×0.16） P4（0.24×0.25×0.10）P5（0.22×0.21×0.23）				覆土	1 黒褐色粘質土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り？ N－46°－W 0.84×0.76	覆土備考	1 黒褐色土 4個の河原石を使用した石囲炉で、火熱を受け破損している。炉内部に土器が埋設されている。			
備考	35号住居址を切る。張出し部3.00×1.72。主体部の敷石は部分的にしか認められず、平面形は不明である。張出し部の両側には向かって左に直径12cmの凝灰岩製の石棒と、右に一辺13cmの安山岩製の三角の石柱が床面より20cm前後突出して縦に立てられていて、どちらも上部が欠損している。						

第140図　八千原遺跡B地区第25号住居址、炉址実測図



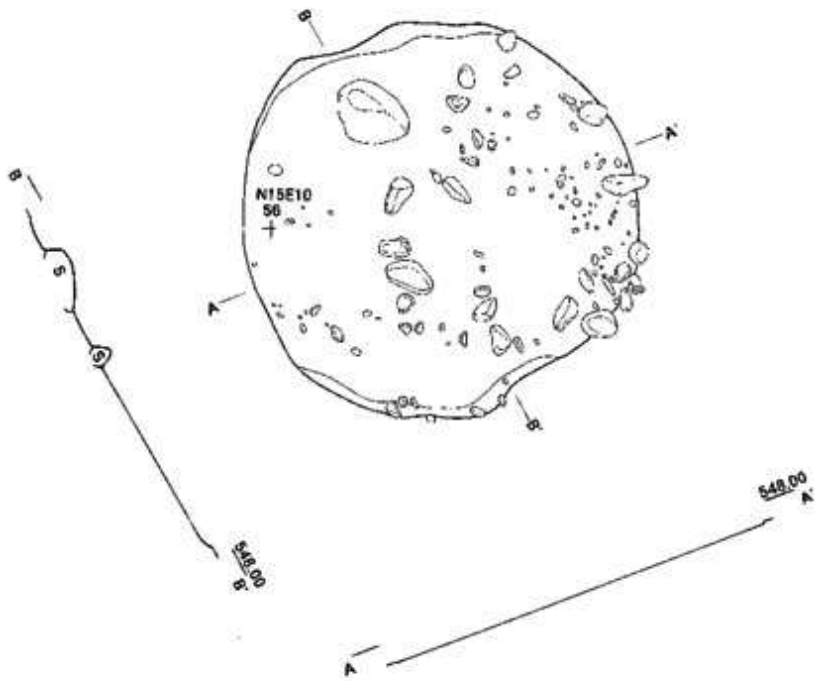
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-26号住居址 第141図 第201図	位置 (グリット)	N15E10－30 N15E11－21,22,39,40	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－50°－E 3.90×3.40	床高	547.66～547.79
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.21×0.19×0.19）P2（0.21×0.19×0.19）					覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ 不明 0.56×0.65		覆土備考	1 黒褐色土 2 赤褐色土（焼土を多く混入する。） 焼土が著しく、炉の正確な形態は不明である。炉内に土器が埋設されている。		
備考	張出し部の規模は2.78×1.56mで、比較的厚い安山岩の平石が2列から3列に敷かれている。特に南端部には大きな（50cm前後の）河原石を積んで構築されている。主体部のプランは不明である。						

第141図　八千原遺跡B地区第26号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-28号住居址 第142図 第201、202図	位置 (グリット)	N14E10－41,42,59,60	平面形態 主軸方位 規　模	方形 N－45°－E 2.91×3.05	壁高 床高	(N) 0.08～(S) 0.04 546.97～547.08
性穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－45°－E 0.60×0.53	覆土備考	1 暗茶褐色土 2 暗茶褐色土（焼土ブロック状混入） 河原石を使用した石囲炉で、石は火熱を受け赤色を呈している。内部に土器が、覆土中に微少の焼土が含まれていた。			
備考	主体部の主に南東部に敷石が敷かれ、北西部にはみられなかった。敷石には鉄平石を用い、その周囲に丸い河原石を巡らしている。鉄平石の内、一辺30 cm以上の石は11枚使用され、最大の石は縦92cm 、横88cm 、厚さ5cm から7cm である。						

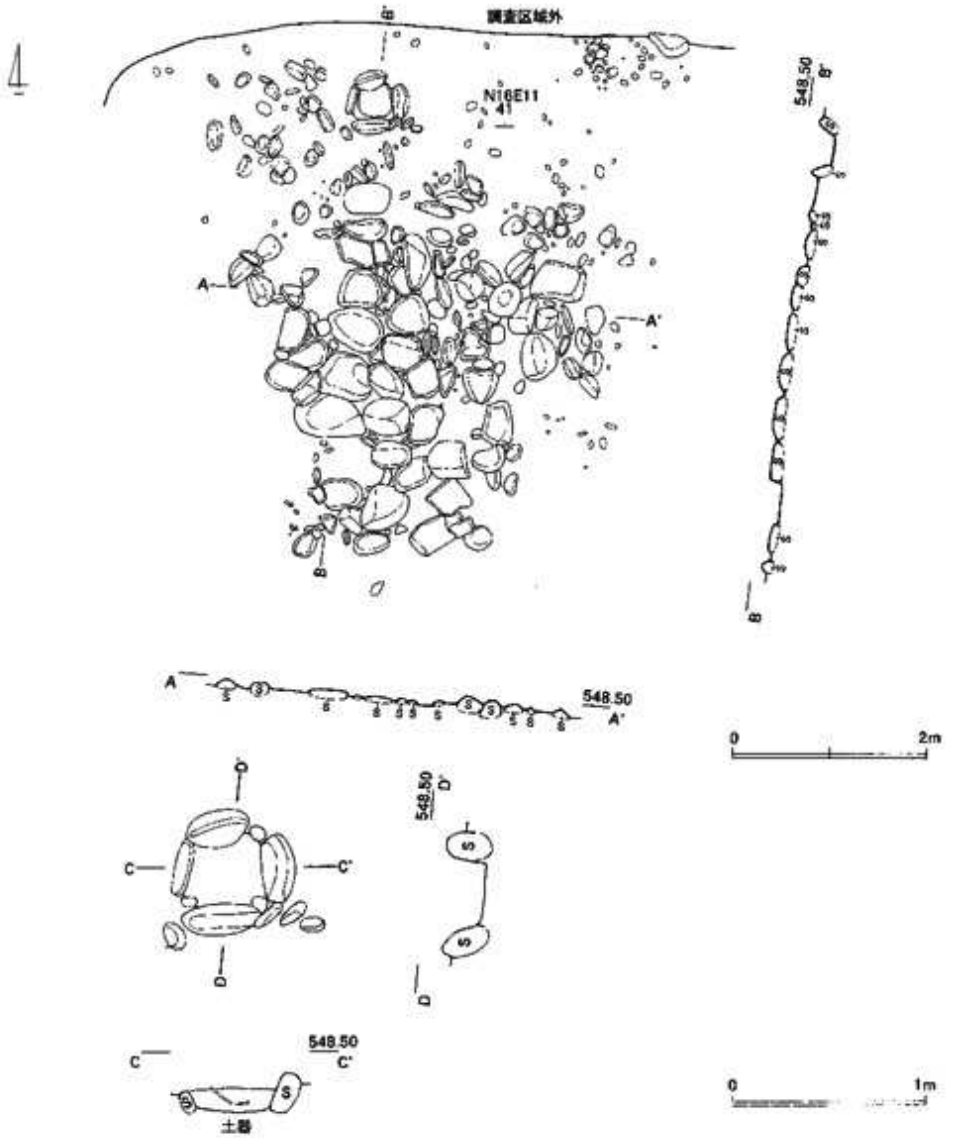
第142図　八千原遺跡B地区第28号住居址、炉址実測図



0 2m

遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-29号住居址 第143図 第202図	位置 (グリット)	N15E10 - 55,56	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ 不明 4.12 × 4.02	壁高 床高	(N) 0.07 547.80~547.75
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	炉等は検出されなかった。床上には河原石が散在している。						

第143図　八千原遺跡B地区第29号住居址、炉址実測図

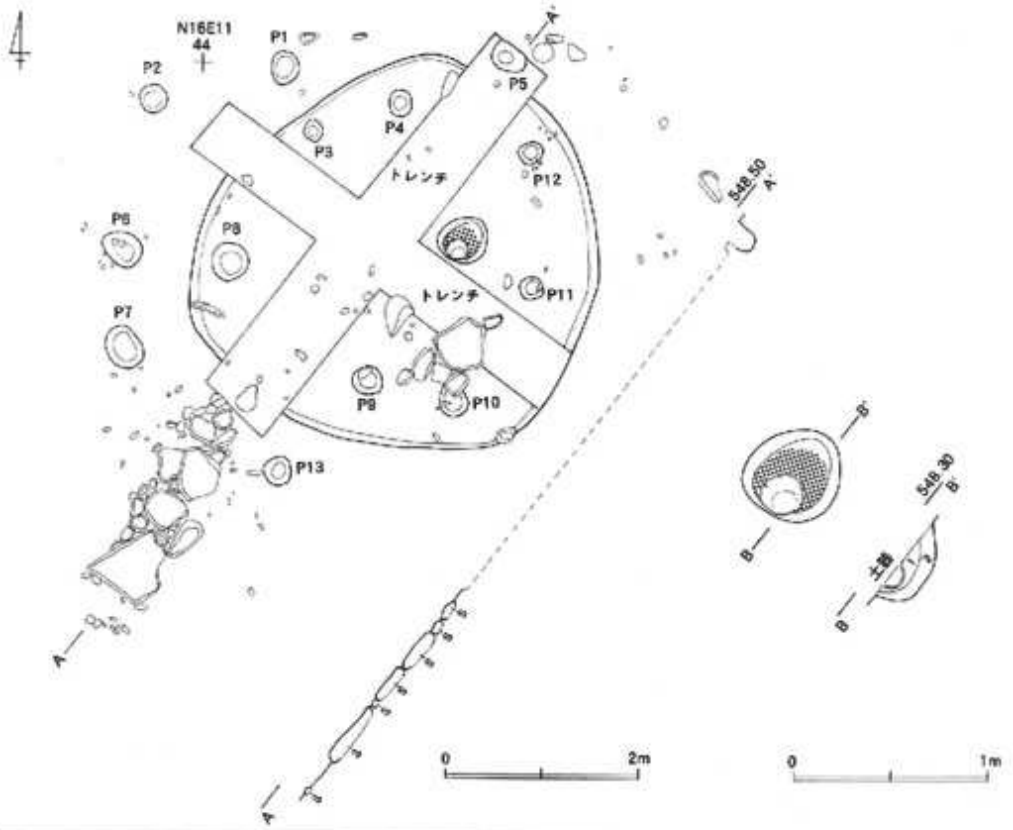


遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-30号住居址 第144図 第202～205図	位置 (グリット)	N16E11－39,40,41,42	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形 N－5°－E 5.81×4.35	床高	548.29～548.39

柱穴（長径×短径×深さ）		覆土	1 黒褐色土

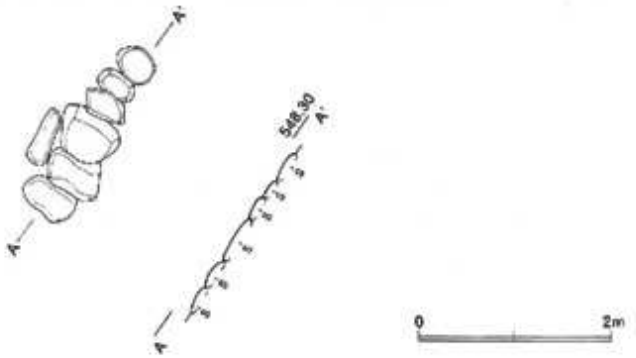
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央北寄り N－5°－E 0.65×0.63	覆土備考	1 黒褐色土 河原石を4個使用した石囲炉である。炉石は火熱を受けて痕がみられるが、焼土等は確認されなかった。
備考	住居址北側は調査区外である。主体部、張出し部の平面形態は不明である。張出し部には偏平の河原石が縦石より主軸方位に沿って一列敷き詰められている。その他にも張出し部の周辺にも河原石が多く検出されているが、同住居址のものか、他の重複した遺構のものか明確でない。			

第144図　八千原遺跡B地区第30号住居址、炉址実測図



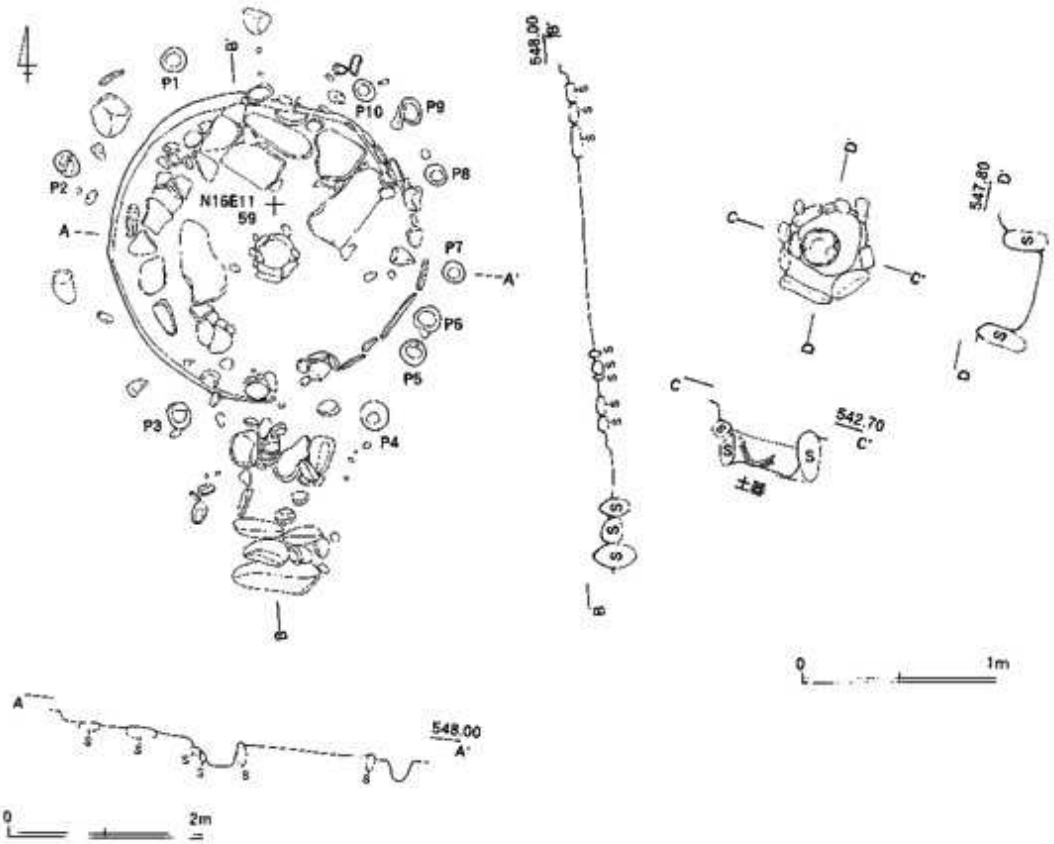
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-31号住居址 第145図 第205図	位置 (グリット)	N16E11－39,40,42	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形？ N－40°－E 4.03×4.19	床高	548.25～548.30
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.34×0.28×0.18）P2（0.28×0.27×0.12）P3（0.21×0.19×0.14） P4（0.26×0.23×0.13）P5（0.38×0.34×0.30）P6（0.35×0.41×0.09） P7（0.43×0.38×0.02）P8（0.39×0.36×0.20）P9（0.29×0.30×0.19） P10（0.33×0.30×0.17）P11（0.22×0.23×0.20）P12（0.22×0.25×0.08）				覆土	1 黒褐色土 （焼土ブロック状に混入）	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央東寄り 0.46×0.50		覆土 備考	1 黒褐色土（焼土ブロック状混入） 2 赤褐色土（焼土ブロック状混入）		
備考	張出し部の規模は2.96×0.85である。主体部と推定される場所に十字のトレンチをいれてみた。床に赤褐色を呈して焼け堅くしまった部分が検出され、その覆土には土層が正位に堆設されており、これがかまどと推定されるが、形態等は不明である。						

第145図　八千原遺跡B地区第31号住居址、炉址実測図



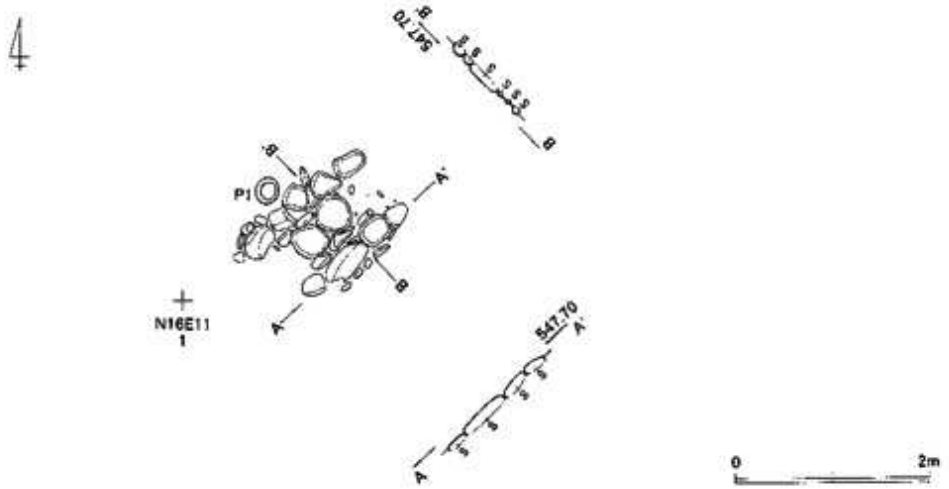
遺構番号	B-32号住居址	位置（グリット）	N16E11－26	平面形態	柄鏡形	床高	548.11～548.19
遺構図版				主軸方位	N－35°－E		
遺物図版	第146図			規模	1.96×0.76		
備考	住居址東側は調査区外である。偏平の河原石が一列に並んでいて、これを敷石住居址の張出し部ととらえた。						

第146図　八千原遺跡B地区第32号住居址実測図



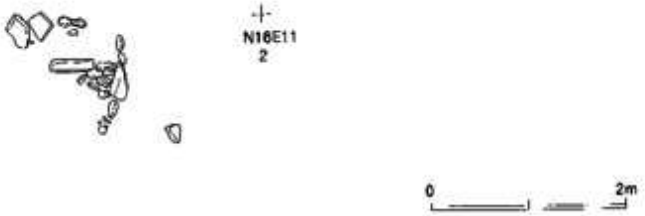
遺構番号	B-33号住居址	位置（グリット）	N15E11－58,59,62,63	平面形態	柄鏡形	壁高	(W) 0.09
遺構図版	第147図			主軸方位	N－5°－W	床高	547.73～547.85
遺物図版	第205,206図			規模	3.15×3.26		
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－5°－W 0.50×0.48	覆土備考	1 黒褐色土 全体の平面形は五角形と推定される石囲炉である。炉石は火熱を受け一部赤色を呈し、炉内部に土器が埋設されている。			
備考	張出し部の規模は1.96×1.50である。主体部には安山岩の平石が20枚程敷かれていて、東南側には長さ20cmから58cmの平石を垂直に立てて並べ壁としていた。主体部と張出し部の接する部端には24cm×18cmの多孔石を4個の河原石で囲った遺構が、その25cm西には同じ大きさの河原石を平石と河原石で3方を囲った遺構がある。						

第147図　八千原遺跡B地区第33号住居址実測図



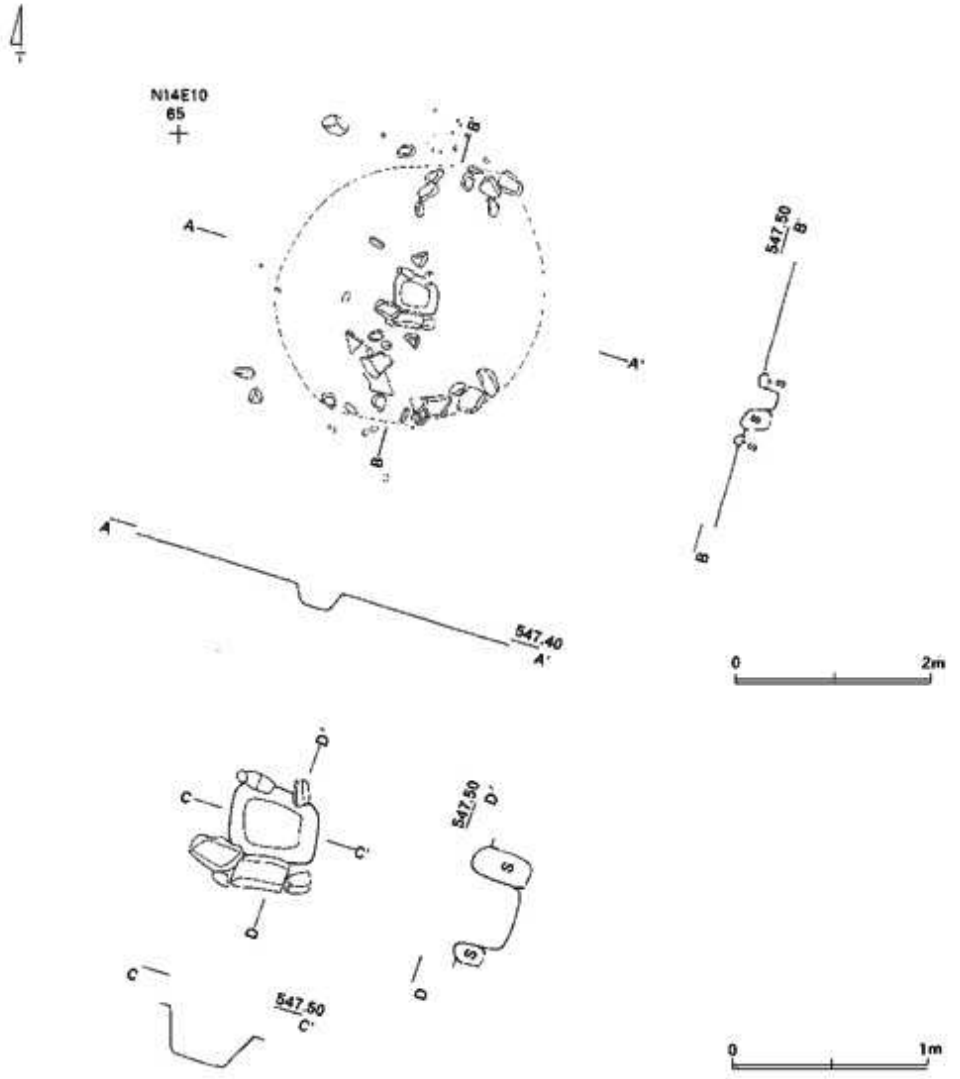
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-35号住居址 第148図 第206図	位置 (グリット)	N15E11－19	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－43°－E 1.40×0.70	床高	547.60~547.66
備考	25号住居址の床面に河原石で並べて敷かれているが、その並びの規則性から、25号住居址とは異なる遺構と考えた。						

第148図　八千原遺跡B地区第35号住居址実測図



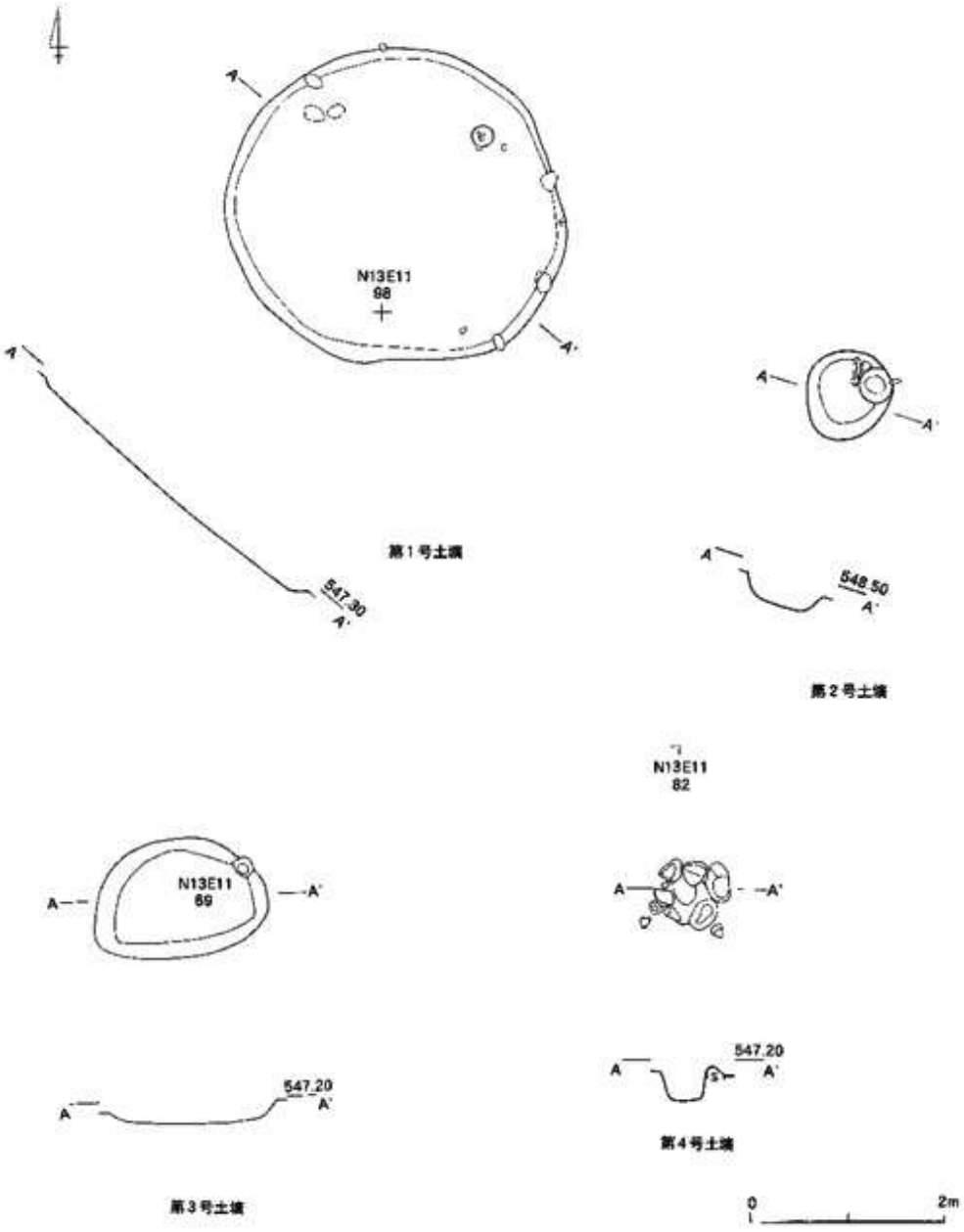
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-37号住居址 第149図 第206図	位置 (グリット)	N15E11－2	平面形態 主軸方位 規　模	不明 不明 1.15×0.76	床高	547.62~547.64
備考	24号住居址の床面に河原石で並べて敷かれているが、24号住居址とは異なる遺構と考えた。						

第149図　八千原遺跡B地区第37号住居址実測図



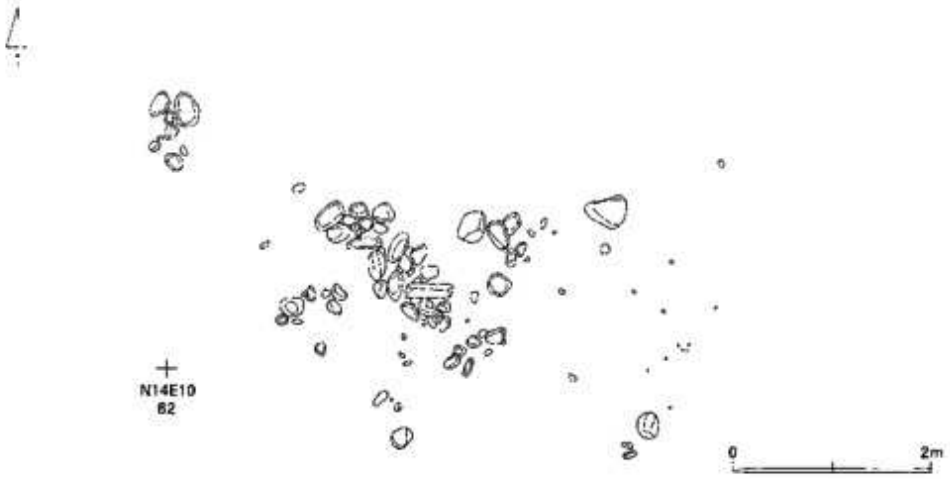
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B-38号住居址 第150図 第206図	位置 (グリット)	N14E10－66	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－20°－E 2.64×2.72	床高	547.31～547.35
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土 （焼土ブロック状に混入）
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－20°－E 0.54×0.44		覆土備考	1 黒褐色土 平石を使用した石囲炉であると考えられるが、炉石等は破損、あるいは抜けていて形態は明らかでない。		
備考	平石が部分的に敷かれている。石の並びから形態や規模を推定した。						

第150図　八千原遺跡B地区第38号住居址、炉址実測図



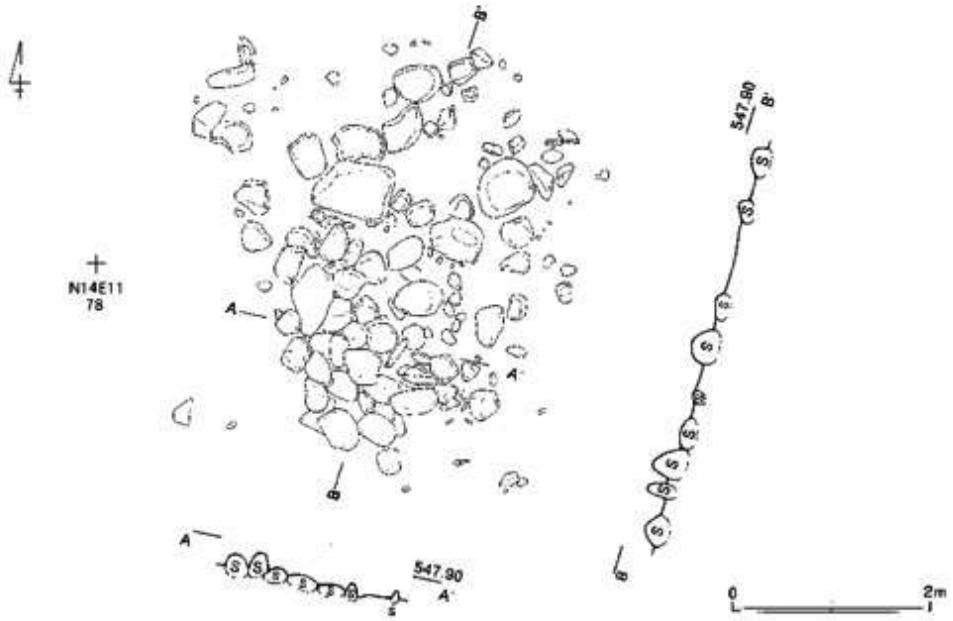
遺構番号	位置	規模（長径×短径×深さ）	平面形態	断面形態	備考
B－1号土壙	N14E11－3,4N13E11－97,98	3.54×3.26×0.24	円形	たらい状	第206図
B－2号土壙	N16E11－2,3,4,17,18,19,23	0.96×0.84×0.36	円形	たらい状	第206図
B－3号土壙	N13E11－69,70,71,72	1.86×1.26×0.24	楕円形	たらい状	第207図
B－4号土壙	N13E11－82,83	1.08×0.66×0.42	不整形	たらい状	第207図

第151図　八千原遺跡B地区第1号、第2号、第3号、第4号土壙実測図



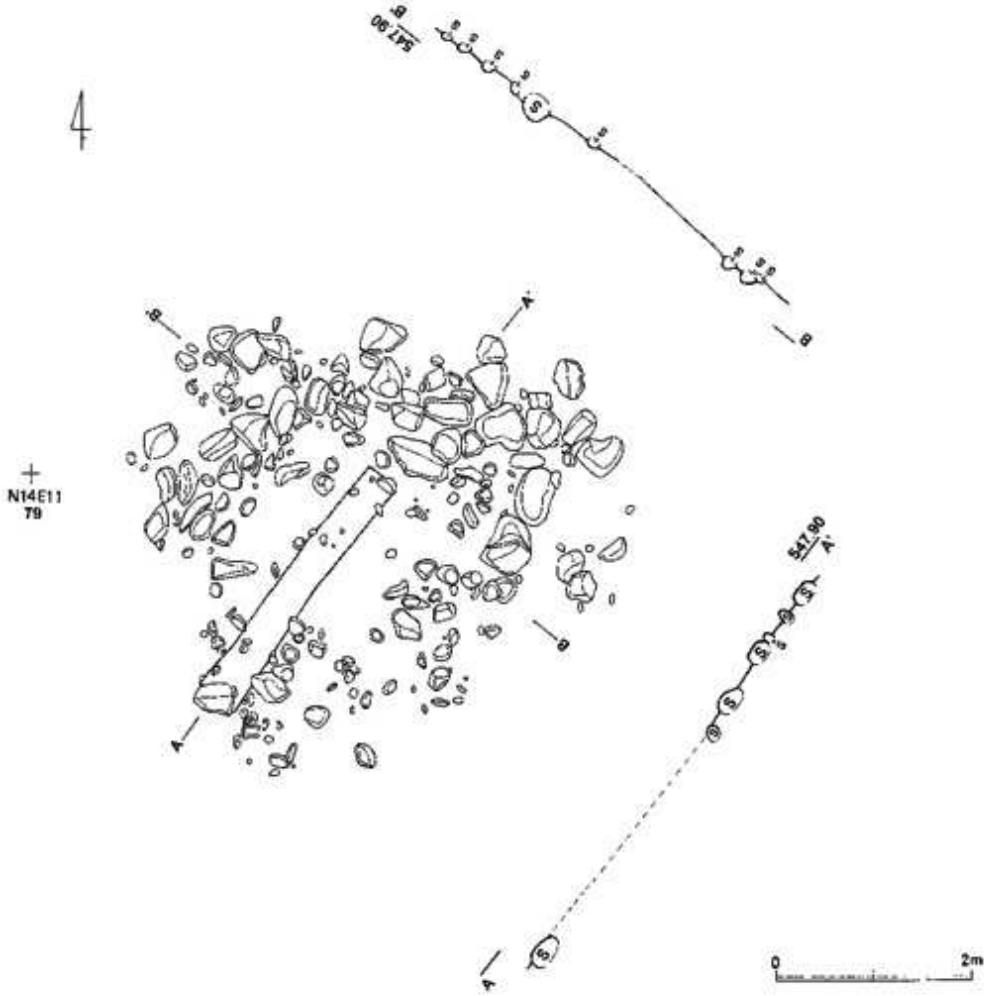
遺構番号	B－1号集石	位置（グリット）	N14E10－78,79	平面形態	不明	標高	546.17～567.56
遺構図版	第152図			主軸方位	不明		
遺物図版	第207図			規　模	6.15×3.46		
備考							

第152図　八千原遺跡B地区第1号集石実測図



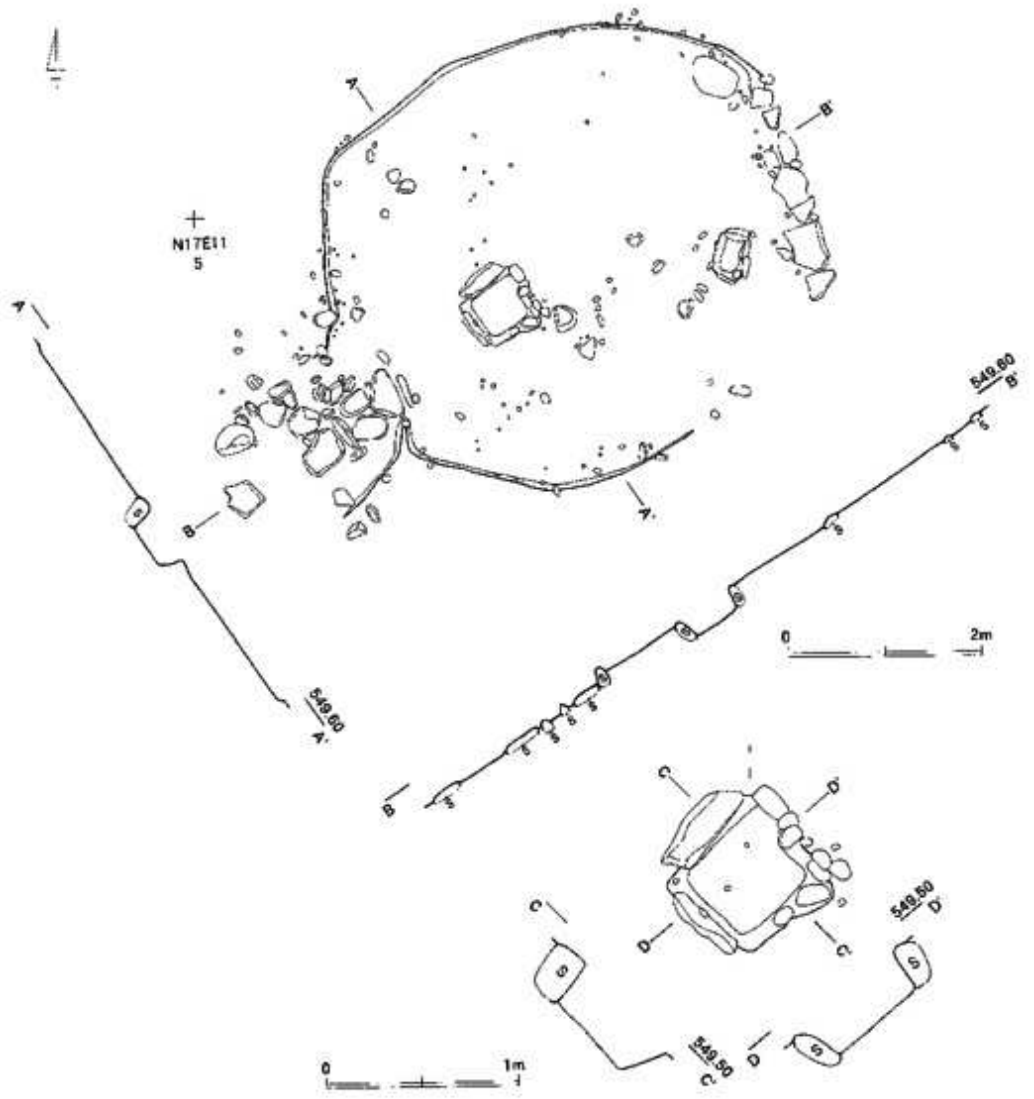
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－2号集石 第153図 第207図	位置 (グリット)	N14E11－76,77,84,85	平面形態 主軸方位 規　模	不明 不明 5.45×5.05	標高	547.51～547.67
備考							

第153図　八千原遺跡B地区第2号集石実測図



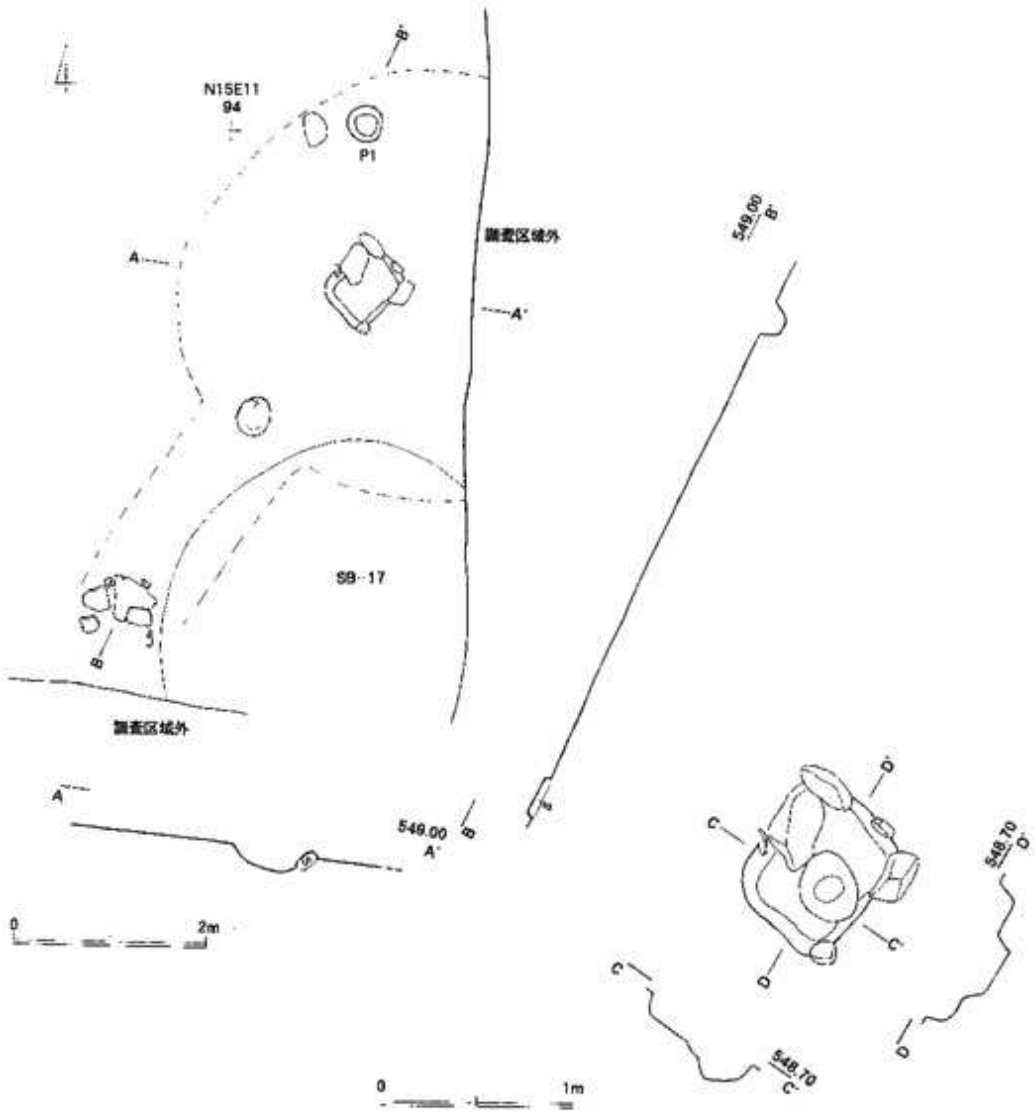
遺構番号 遺構図版 遺物図版	B－3号集石 第154図	位置 (グリット)	N14E11－78,79,82,83	平面形態 主軸方位 規　模	不明 不明 5.23×5.10	標高	547.57～547.68
備考							

第154図　八千原遺跡B地区第3号集石実測図



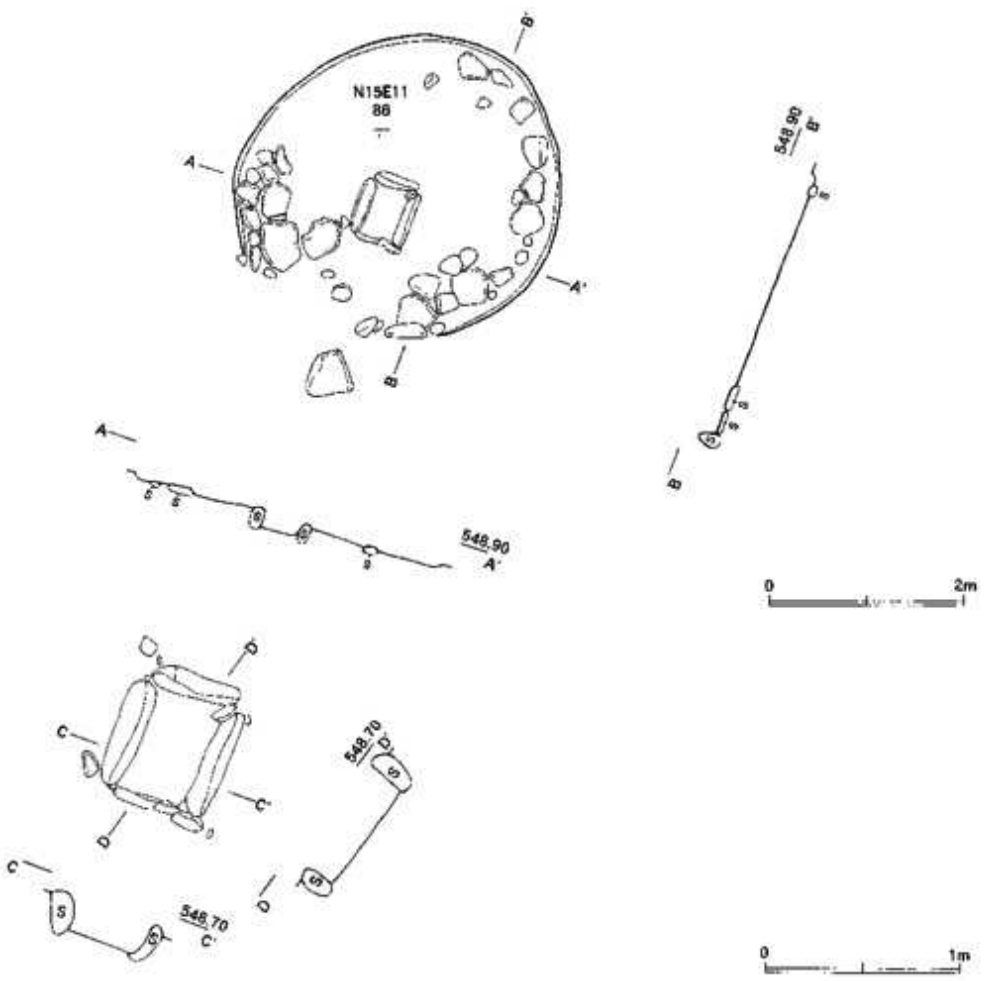
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－1号住居址 第155図 第208図	位置 (グリット)	N17E11－6,7,8,13,14,15	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－55°－E 4.55×5.50	壁高 床高	(S) 0.05～(N) 0.02 547.23～547.41
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南西寄り N－55°－E 0.75×0.75		覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉であるが三方の石は崩壊している。炉石は火熱により部分的に赤色を呈している。		
備考	張出し部の規模は2.03×1.73で、偏平な河原石を敷いているが、形態は明らかでない。主体部の北側には平石が並んで敷かれているが、その他の部分は敷かれていない。主体部北側に上述の他に炉がもう1つある。(0.58×0.36)。これは偏平な河原石を使用した長方形の炉である。						

第155図　八千原遺跡C地区第1号住居址、炉址実測図



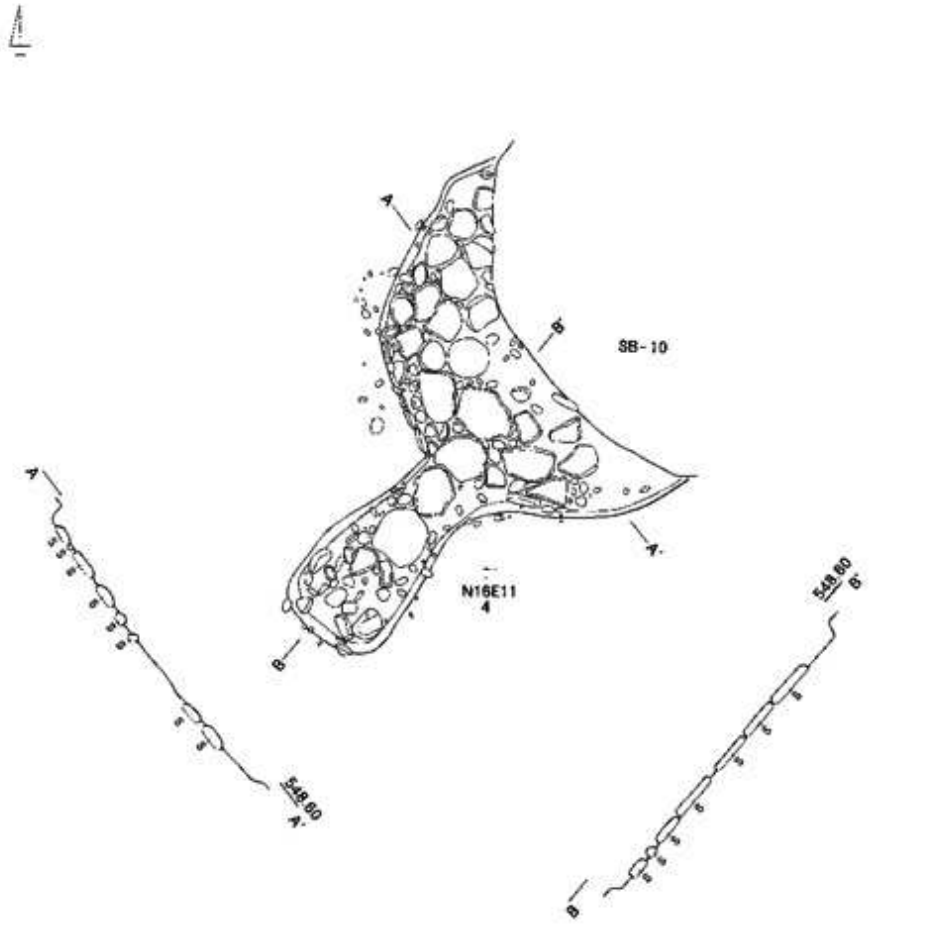
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－2号住居址 第156図 第208図	位置 (グリット)	N15E11－87,88,93,94	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－25°－E 4.40×2.97	床高	548.65~548.69
住穴（長径×短径×深さ）	P1（0.36×0.35×0.15）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ N－30°－E 0.76×0.66		覆土 備考	1 黒褐色土 炉石は崩壊していて明確でないが、方形を呈した石囲炉であると考えられる。		
備考	17号住居址に切られる。住居址の南西端に火山岩製の容器が正位に埋設され炉と容器を結ぶ直線上の住居址外に平石が数枚敷かれていることからも、もとは柄鏡形敷石住居址であったかもしれないが、いずれにせよ不明確な部分が多い住居址である。						

第156図　八千原遺跡C地区第2号住居址、炉址実測図



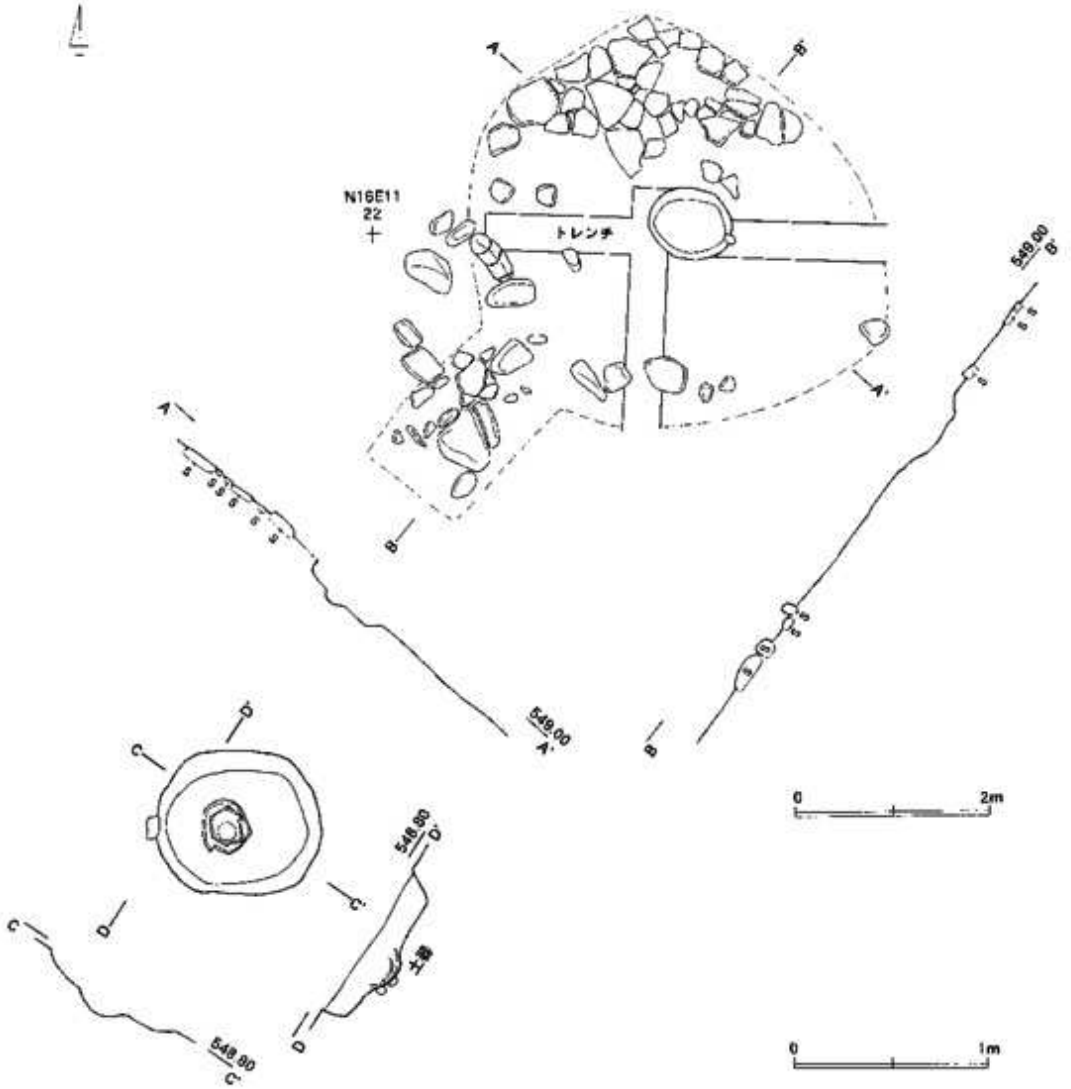
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－3号住居址 第157図 第208、209図	位置 (グリット)	N15E11－86,87,94,95	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－19°－E 3.05×3.35	壁高 床高	(N) 0.05 548.55~548.60	
柱穴（長軸×短軸×深さ）						覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－19°－E 0.74×0.61		覆土備考	1 黒褐色土 河原石と山石を使用した方形の石囲炉である。焼土はほとんど確認できなかった。			
備考	平石と偏平な河原石が部分的に散かれていて、その並びから円形を呈していたことが推定できる。南端には偏平な石を横に立てて壁をつくっている。							

第157図　八千原遺跡C地区第3号住居址、炉址実測図



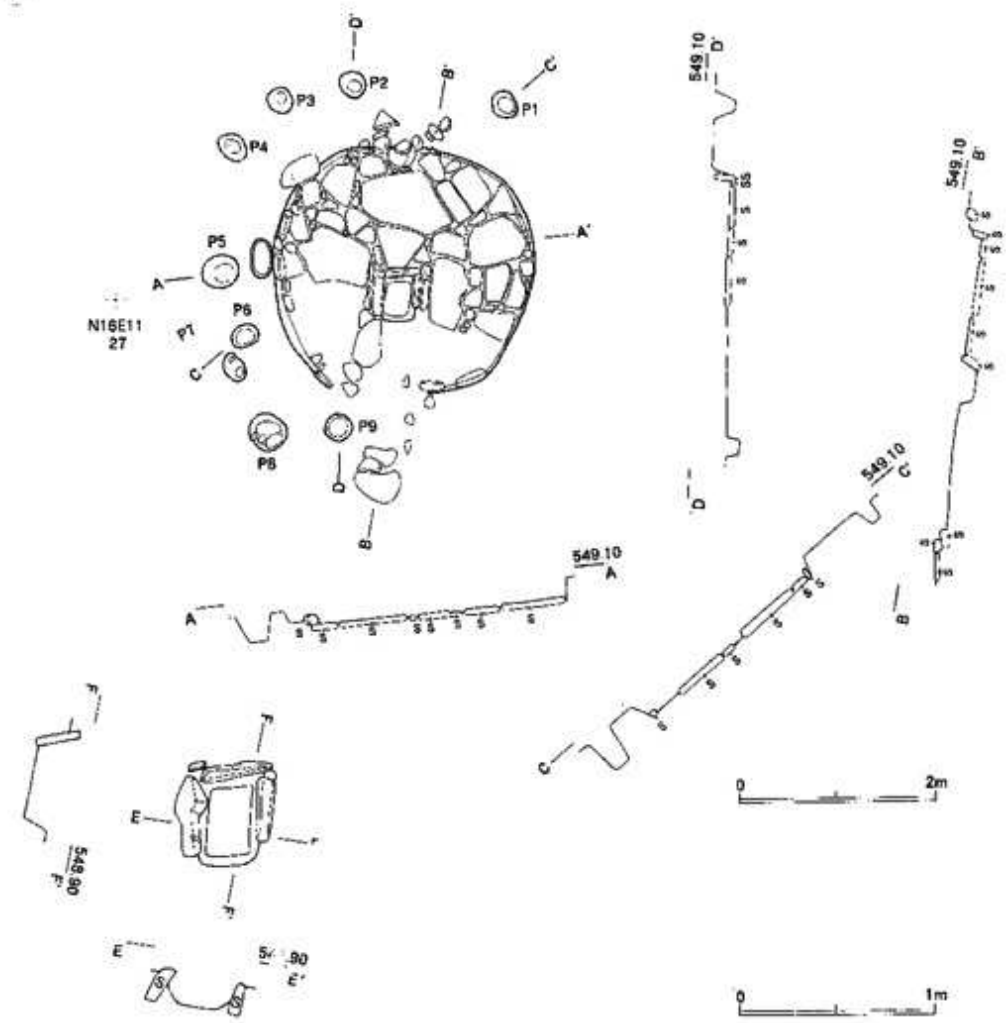
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－4号住居址 第158図 第209図	位置 (グリット)	N15E11－97,N16E11－ 4,5,16,17	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形 N－39°－E 1.47×3.57	壁高 床高	(S) 0.18～(N) 0.08 548.31～548.35
柱穴（長径×短径×深さ）					覆土	1. 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	張出し部の規模は2.13×1.12°である。床は平石と偏平な河原石が敷かれ、石と石の間は小さい礫を詰めてある。住居の周囲には偏平で長方形の河原石を横に立てて並べている。主体部北側は10号住居址に破壊され敷石は無かった。						

第158図　八千原遺跡C地区第4号住居址実測図



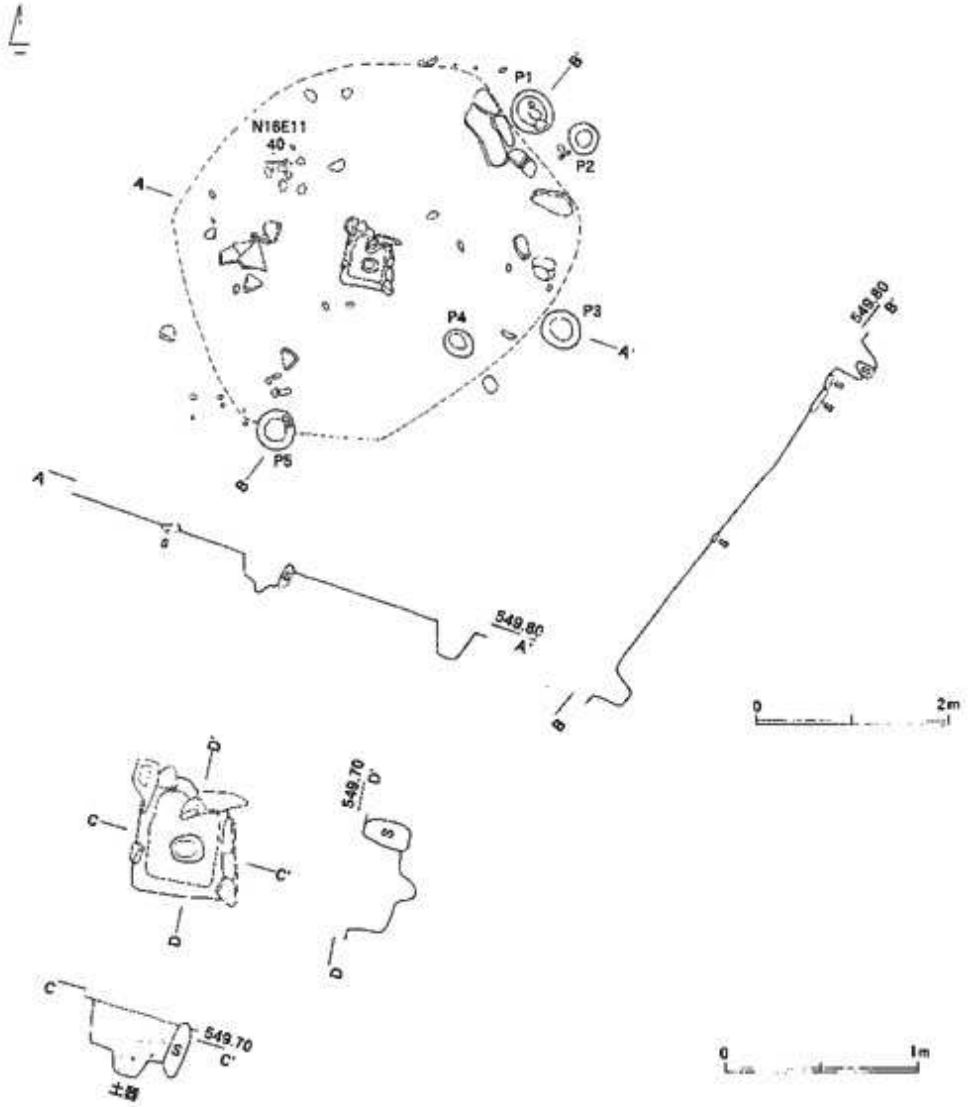
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－5号住居址 第159図 第209、210図	位置 (グリット)	N16E11－23,24,37,38	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形？ N－40°－E 3.94×4.50	床高	548.64~548.99	
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ 0.74×0.93	覆土備考	1 黒褐色土 炉と推定される場所には土器が上からつぶされたように割れていた。				
備考	住居址北側の床には平石が敷かれている。東側には人の頭大より大きめの火熱を受けた河原石が集まっているが、形態等は不明である。南側には偏平の河原石が敷かれている。							

第159図　八千原遺跡C地区第5号住居址、炉址実測図



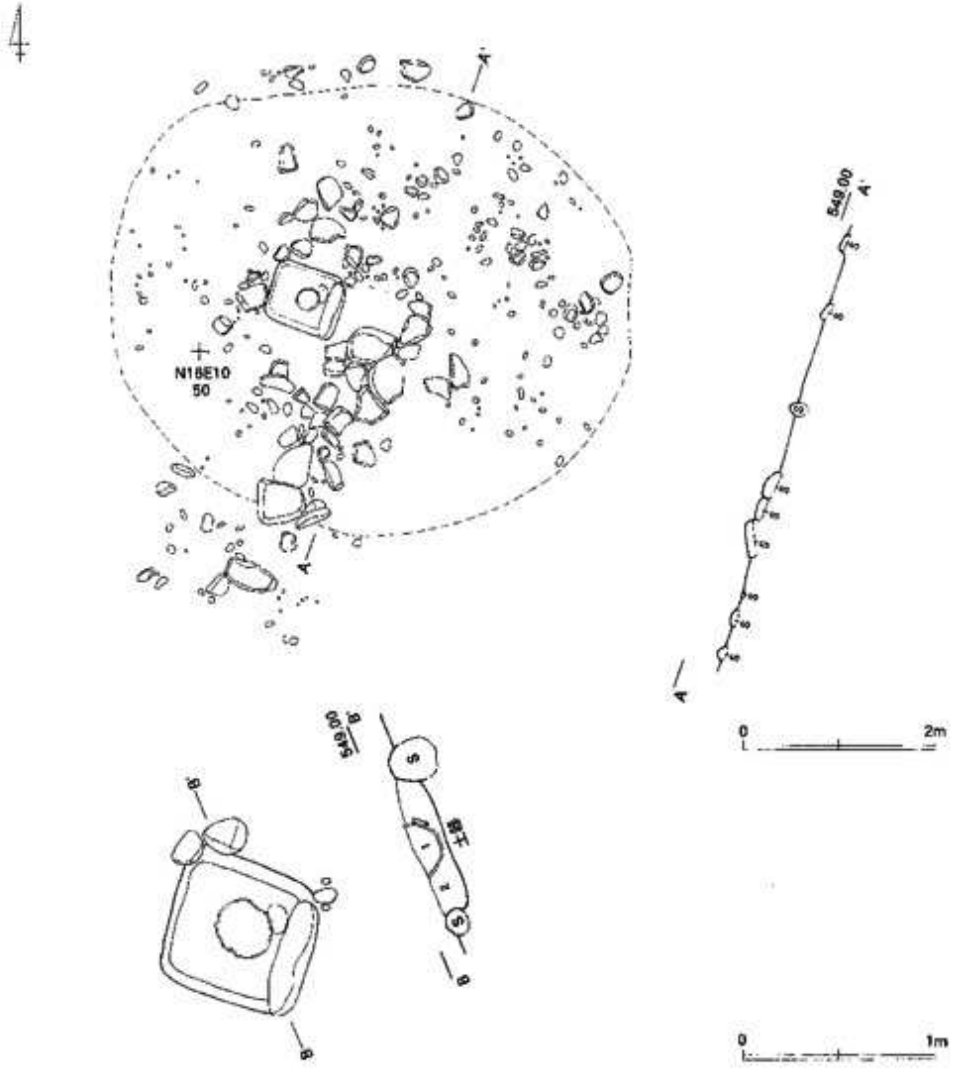
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－6号住居址 第160図 第210、211図	位置 (グリット)	N16E11－27,28,32,33	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形？ N－10°－E 2.55×2.60	床高	548.75～548.87	
柱穴（長径×短径×深さ）						覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－10°－E 0.55×0.48	覆土備考	1 黒褐色土 方形の石囲炉である。炉石はほとんど崩壊していて、南側の石は無いが、平石を使用していると思われる。				
備考	主体部北半分の床は比較的大きな平石が敷かれている。石と石の隙間には小さな河原石が詰められている。張出し部と推定される場所には平石が2枚敷かれている。住居址の端は、偏平で長方形の河原石を横にして立てている。							

第160図　八千原遺跡C地区第6号住居址、炉址実測図



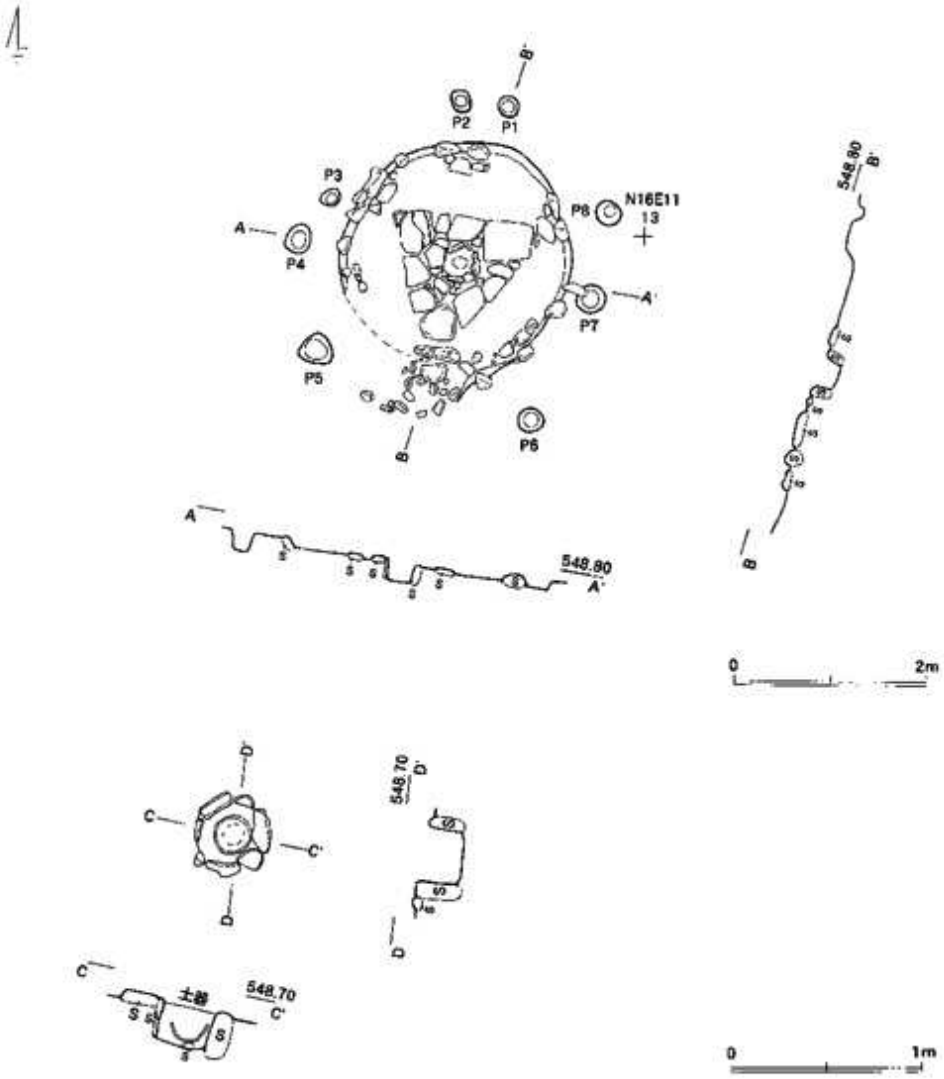
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－7号住居址 第161図 第211図	位置 (グリット)	N17E11－34,35,45,46,54	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－12°－E 3.82×4.15	床高	547.62～547.69
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.43×0.41×0.20）P2（0.31×0.30×0.15）P3（0.38×0.40×0.27） P4（0.27×0.30×0.20）P5（0.40×0.38×0.32）					覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央？ N－12°－E 0.58×0.50		覆土 備考	1 黒褐色土 炉石は剥れていたり抜けていたりしているが、平石を使用した方形の石囲炉であると推定される。炉内には土器が正位に埋設されている。		
備考	平石が部分的に床に載かれている。柱穴の並びから規模や形態を推定した。炉の内部には土器が正位に埋設されている。						

第161図　八千原遺跡C地区第7号住居址、炉址実測図



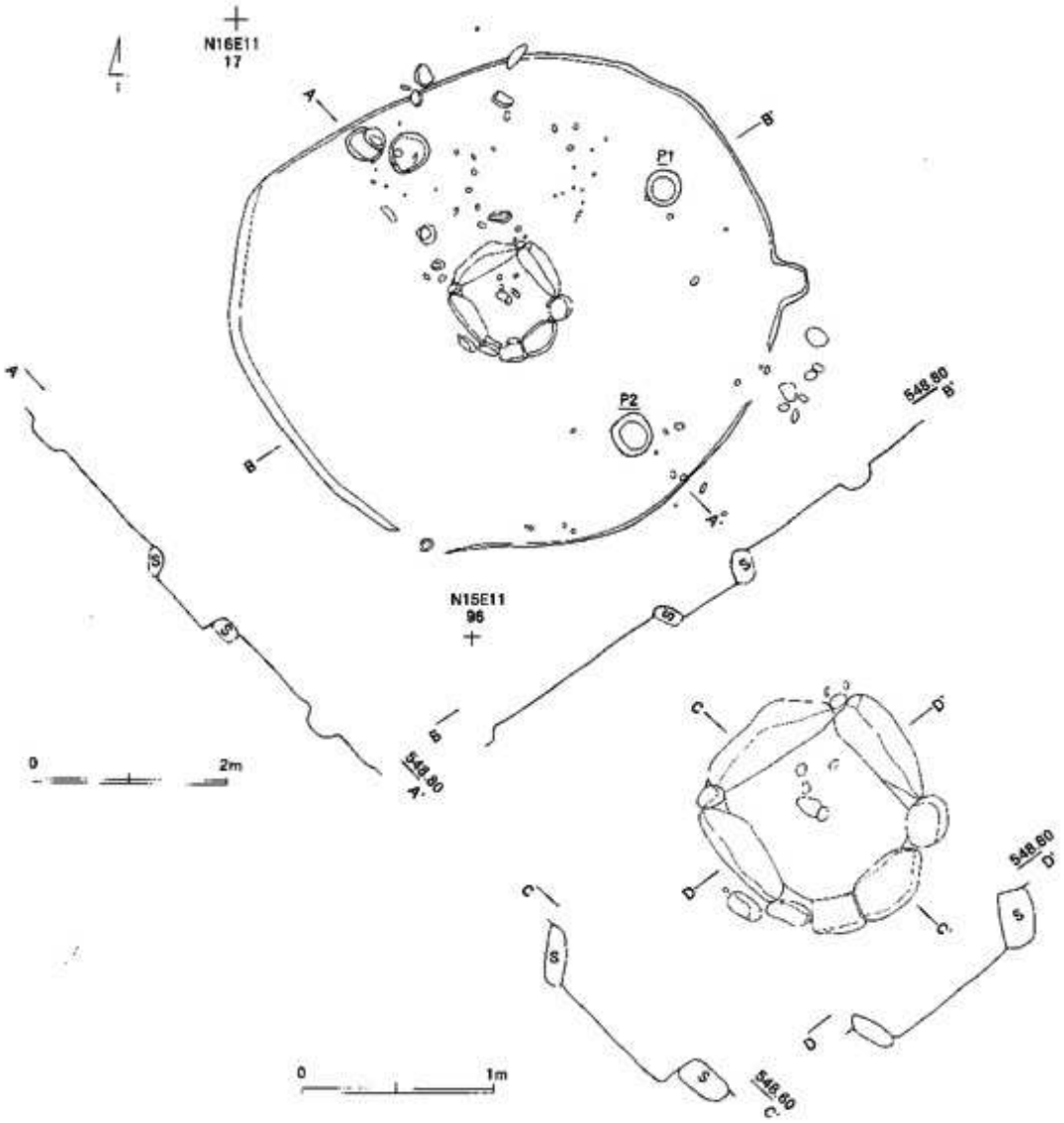
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－8号住居址 第162図 第212図	位置 (グリット)	N16E11－41,42,58,60	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－17°－E 4.60×5.26	床高	548.75~548.95
柱穴（長径×短径×深さ）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－17°－E 0.65×0.75	覆土 備考	1 黒褐色土 2 暗茶褐色土 炉の内部には土器が埋設されている。			
備考	床には平石が部分的に敷かれている。住居の形態等は不明確である。						

第162図　八千原遺跡C地区第8号住居址、炉址実測図



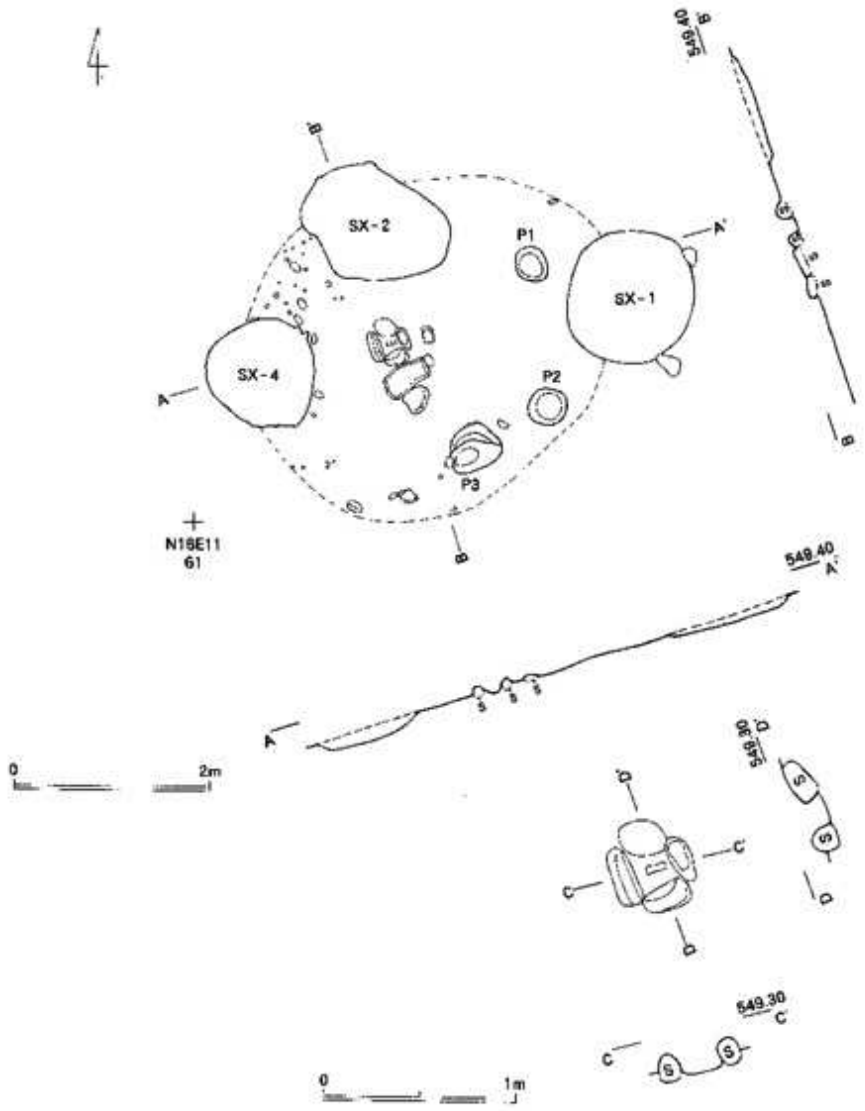
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－9号住居址 第163図 第212図	位置 (グリット)	N16E11－13,28	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形？ N－5°－E 2.35×2.34	標高 床高	(E) 0.10 548.56~548.60
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.20×0.20×0.11) P2 (0.20×0.18×0.11) P3 (0.16×0.19×0.13) P4 (0.28×0.25×0.15) P5 (0.30×0.35×0.11) P6 (0.25×0.25×0.11) P7 (0.28×0.28×0.20) P8 (0.24×0.24×0.10)			覆土	1 黒褐色土		
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－5°－E 0.45×0.38	覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した六角形の石囲炉で、炉底は赤褐色を呈して締まっている。内部には土器が正位に埋設されている。			
備考	炉を中心に三角形に平石が敷かれている。三角形の頂点が接する住居址の壁の部分には偏平の河原石を立てている。三角形を構成している石の外周のへりは面がそろっていることから、もともと三角形に敷かれたものであることがわかる。 南側には偏平の河原石を立てて框石にしているようだが、張出し部は確認されなかった。						

第163図　八千原遺跡C地区第9号住居址、炉址実測図



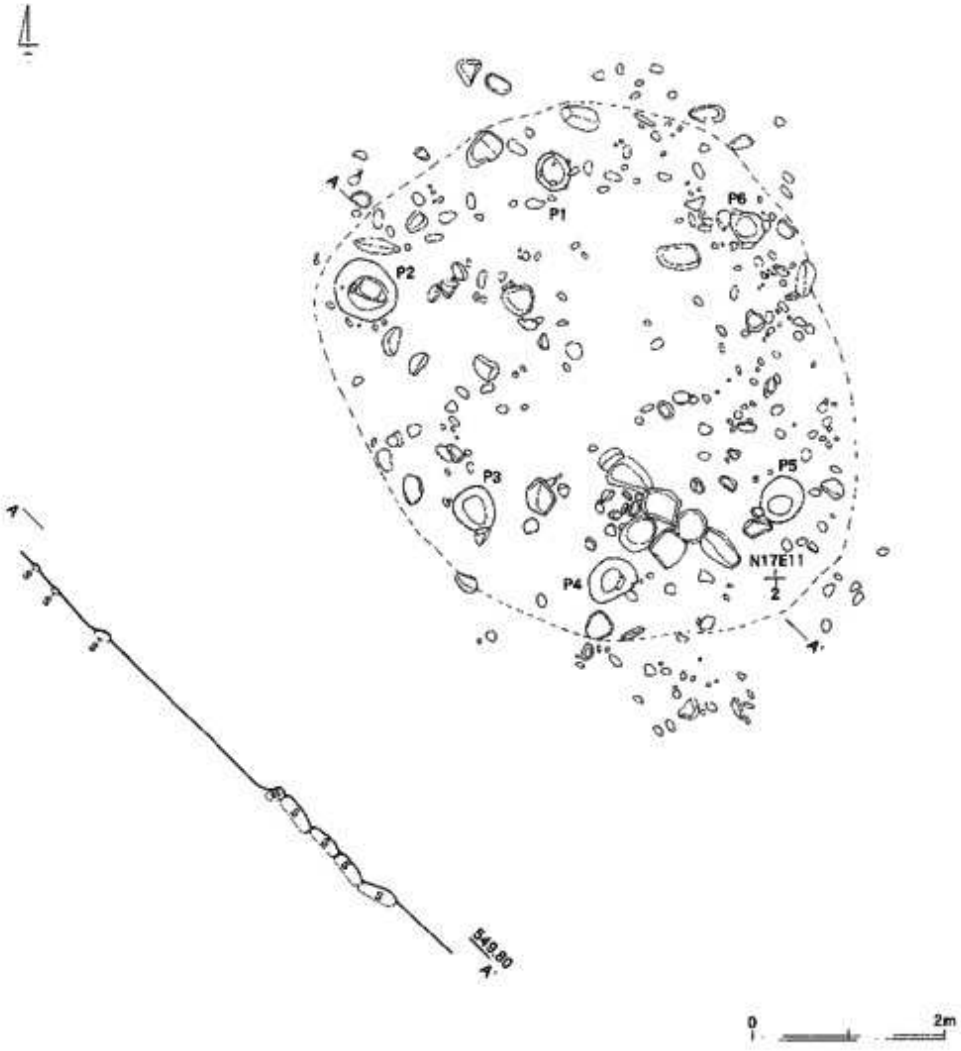
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-10号住居址 第164図 第212、213図	位置 (グリット)	N15E11－5,6,15,16	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－45°－W 5.10×5.88		壁高 床高	(S) 0.03 548.43～548.35
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.37×0.34×0.15）P2（0.44×0.41×0.18）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－45°－W 1.24×1.11		覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した大型の石囲炉であり、炉石は方形をつくっている。			
備考	4号住居址に重複して上層に構築された住居址だが、4寸住居址を破壊して作られている。床は軟弱である。規模は本調査で確認された中で比較的大きかった。							

第164図　八千原遺跡C地区第10号住居址、炉址実測図



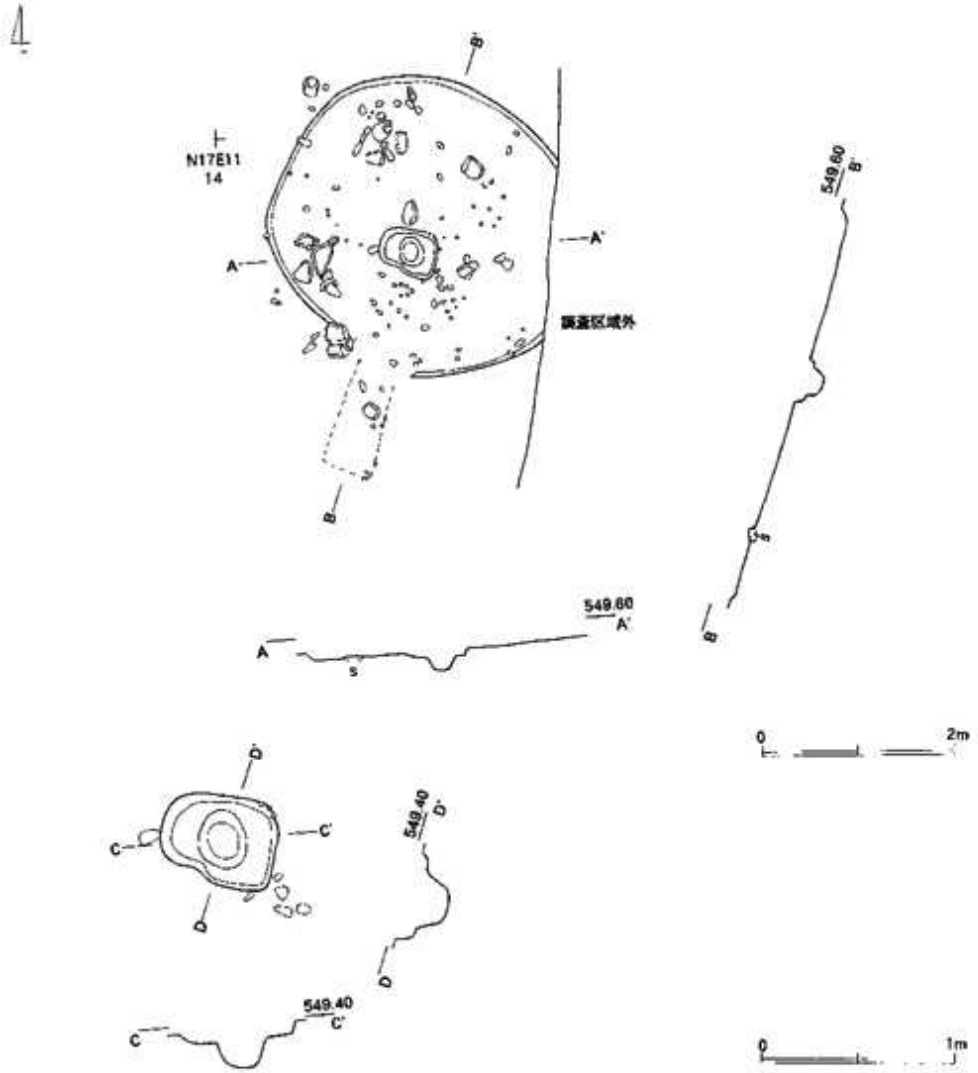
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-11号住居址 第165図 第213図	位置 (グリット)	N16E11－78,79,82,83	平面形態 主軸方位 規　模	円形？ N－20°－W 3.48×3.65	床高	549.15～549.21
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.35×0.31×0.09）P2（0.36×0.39×0.15）P3（0.48×0.60×0.24）					覆土	1 黒褐色土
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央東寄り N－20°－W 0.50×0.42		覆土 備考	1 黒褐色土 4個の河原石を使用した方形の石囲炉である。焼土は確認されなかった。		
備考	炉の南側に平石と偏平の河原石が2枚並んで敷かれている他、敷石は確認されなかった。柱穴の並びにより住居址の規模を推定したが、平面形態等は不明である。						

第165図　八千原遺跡C地区第11号住居址、炉址実測図



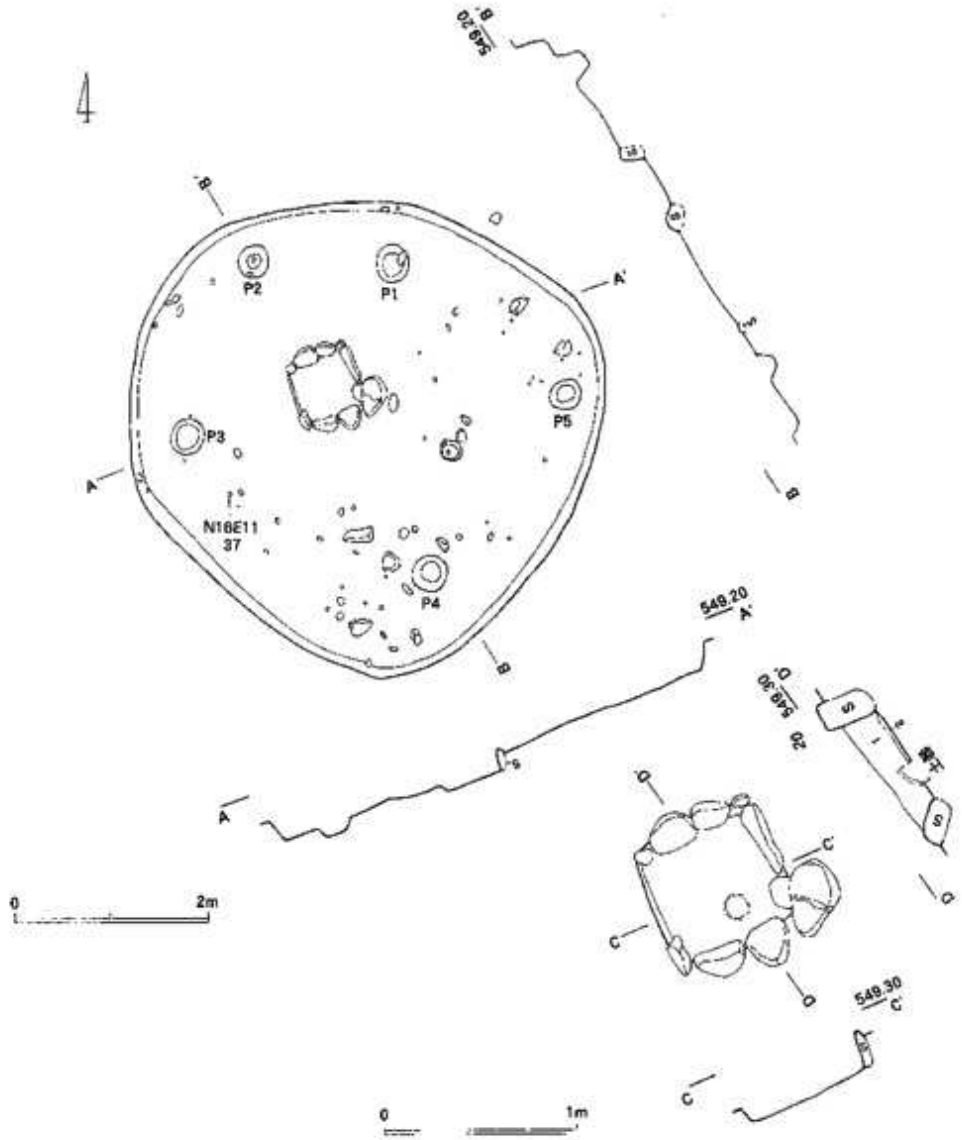
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-12号住居址 第166図 第213図	位置 (グリット)	N17E11－2,18,19,20,21,22,23	平面形態 方位主軸 規　模	円形 N－45°－W 5.85×4.90	床高	547.54~547.66
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.40×0.35×0.16）P2（0.62×0.62×0.15）P3（0.45×0.42×0.32） P4（0.45×0.49×0.40）P5（0.46×0.42×0.45）P6（0.31×0.35×0.40）				覆土		
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）			覆土 備考			
備考	住居址南側に半石と偏平の河原石が5枚敷かれている。また6個の柱穴はほぼ円形に並んでいる。人の頭大の河原石や、大小の石を著しく含む層中にあり、形態等は不明である。						

第166図　八千原遺跡C地区第12号住居址実測図



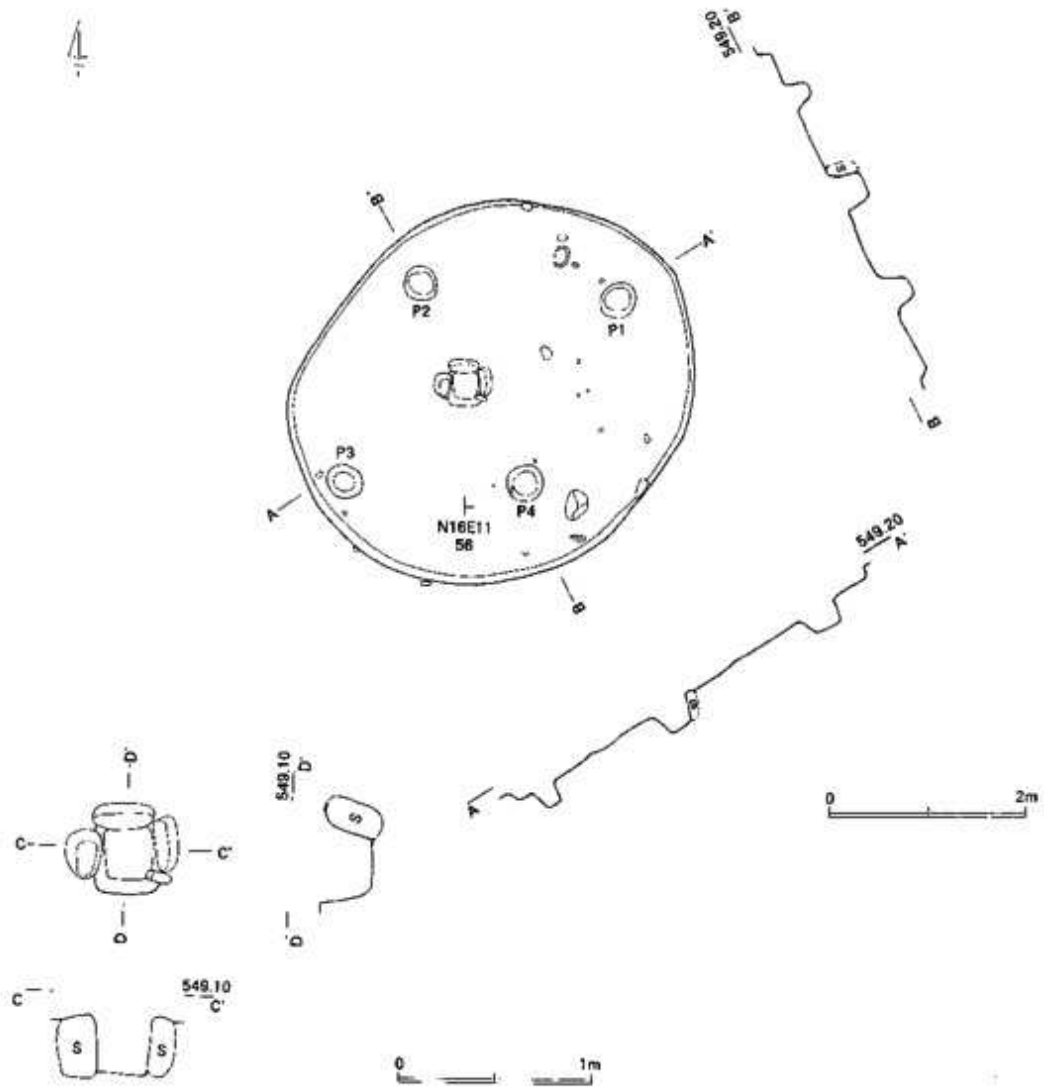
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-13号住居址 第167図 第213、214図	位置 (グリット)	N17E11－8,13,28	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形？ N－18°－E 3.70×2.92	壁高 床高	(W) 0.08～(S) 0.04 549.38～549.40
柱穴（長径×短径×深さ）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り 0.45×0.60	覆土備考	1 黒褐色土 焼土など検出されず形態は不明確である。			
備考	床には平石の破片が散在する。張出し部を有する敷石住居址であったかもしれない。						

第167図　八千原遺跡C地区第13号住居址、炉址実測図



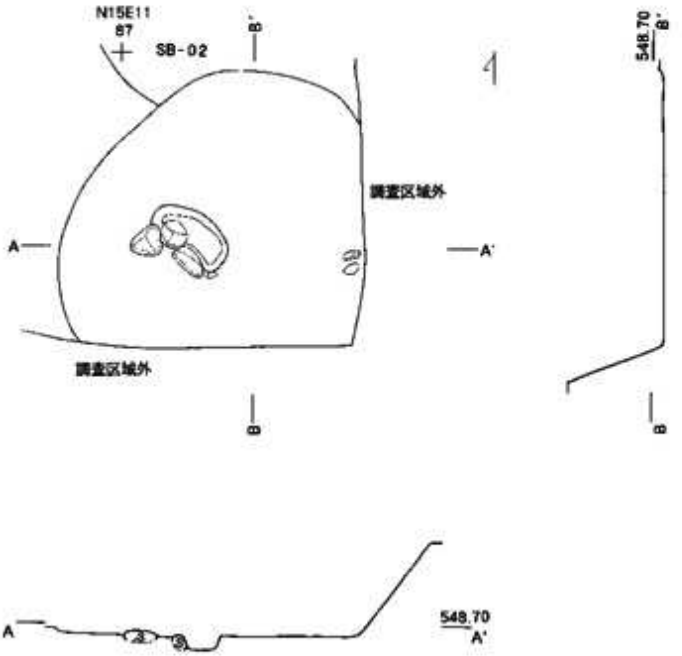
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-14号住居址 第168図 第214、215図	位置 (グリット)	N16E11－35,36,37,44,45,46	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－20°－W 4.80×4.85	壁高 床高	(N) 0.30～(S) 0.16 548.60～548.75	
住穴（長径×短径×深さ）	P1（0.40×0.33×0.20）P2（0.31×0.30×0.12）P3（0.35×0.35×0.09） P4（0.37×0.36×0.16）P5（0.30×0.31×0.20）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央北寄り N－20°－W 0.95×0.72		覆土備考	1 黒茶褐色土 2 赤褐色土　河原石を使用した方形の石囲炉であるが、一辺に石を2個ずつ並べて使用し隅に小さい石を配している。炉底は焼けて堅くしまり炉内に土器が逆さに埋設されている。			
備考	全体的に床面は軟弱である。住居址の大きさに比べて炉が比較的大きい。							

第168図　八千原遺跡C地区第14号住居址、炉址実測図



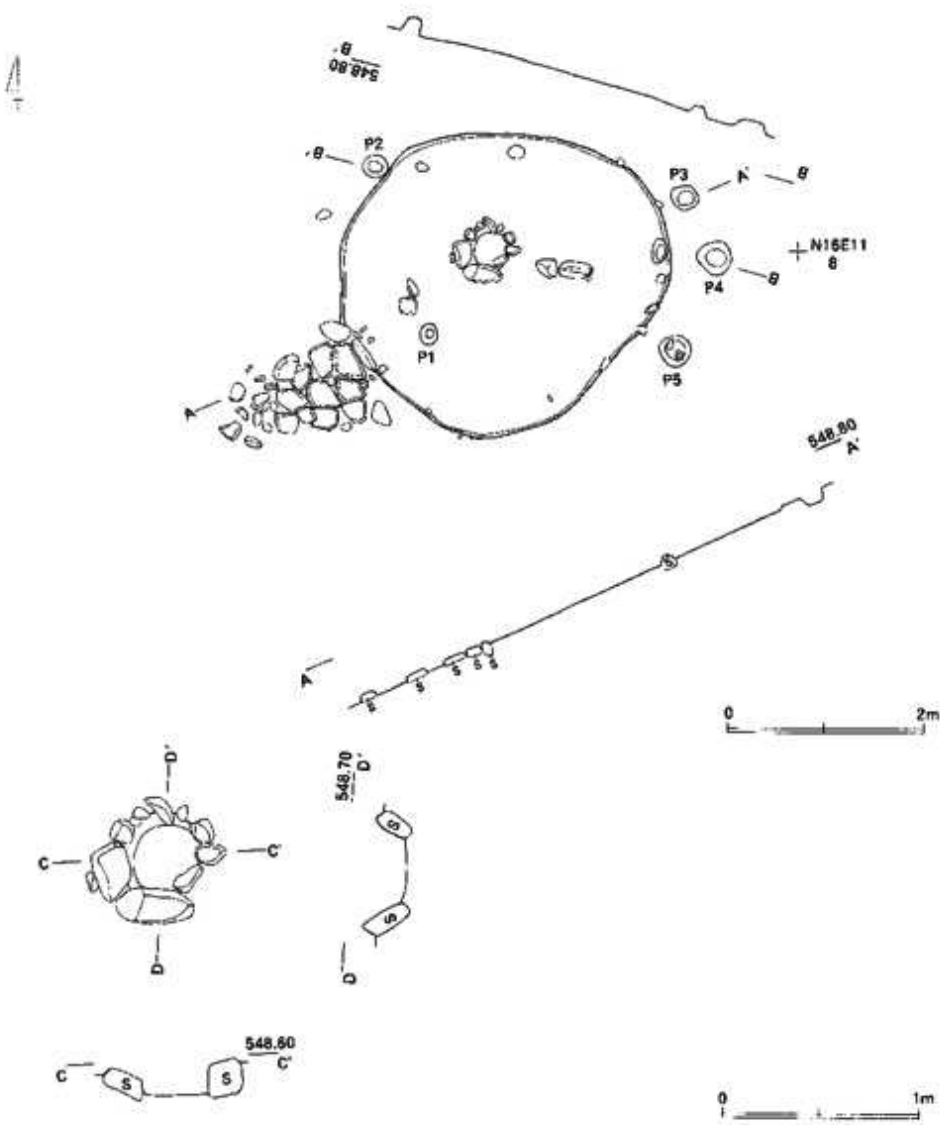
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-16号住居址 第169図 第216図	位置 (グリット)	N16E11－27,28,32,33	平面形態 主軸方位 規　模	円形 N－0° 3.92×4.10	壁高 床高	(S) 0.14～ (N) 0.12 548.90～548.68	
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.35×0.35×0.20) P2 (0.35×0.33×0.18) P3 (0.35×0.35×0.25) P4 (0.36×0.36×0.15)					覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央 N－0° 0.48×0.60	覆土備考	1 黒褐色土 河原石を使用した方形の石囲炉である。覆土からは焼土がほとんど検出されなかった。				
備考	床面は比較的平らで堅くしまっている。覆土には人の頭大の河原石を含んでいた。							

第169図　八千原遺跡C地区第16号住居址、炉址実測図



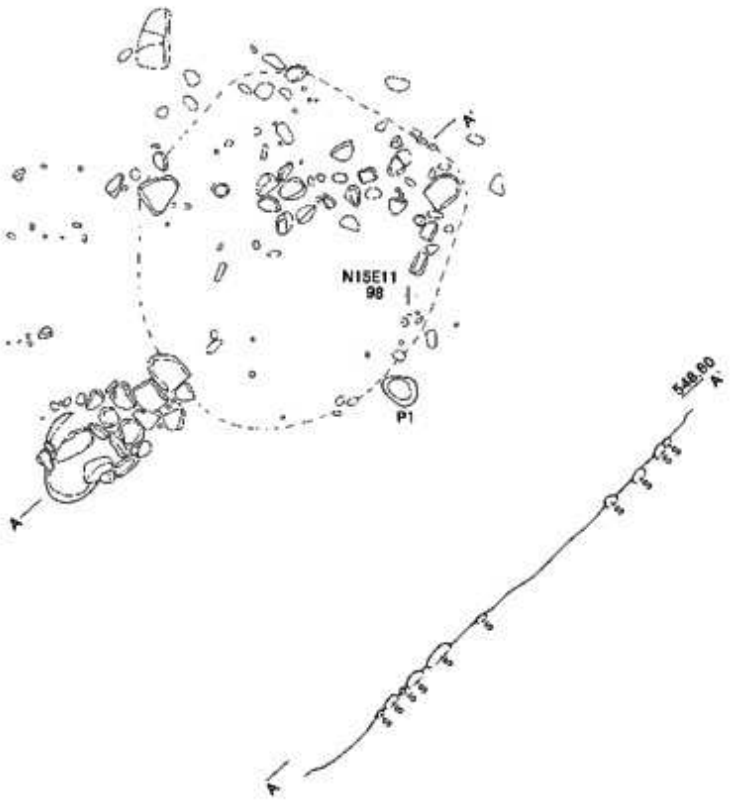
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-17号住居址 第170図 第216図	位置 (グリット)	N15E11－87,88	平面形態 主軸方位 規模	不明 不明	壁高 床高	
柱穴（長径×短径×深さ）					覆土	1 黒褐色土	
炉	位置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	不明 不明	覆土 備考	1 黒褐色土			
備考	調査区の中で水はけが悪く、調査の環境が最も悪い場所にあったため、不明な点が多い。						

第170図　八千原遺跡C地区第17号住居址実測図



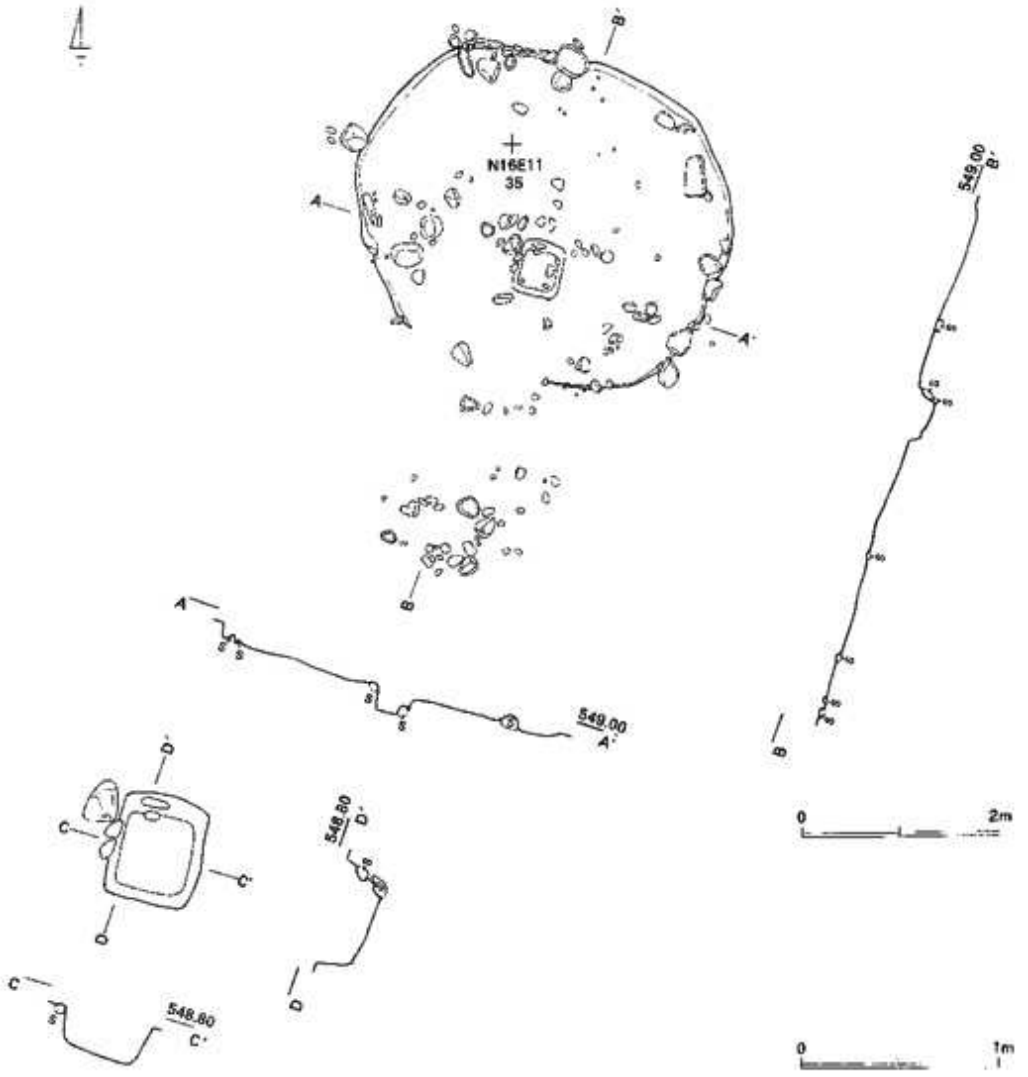
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-18号住居址 第171図 第216図	位置 (グリット)	N16E11－7,8,13,14	平面形態 主軸方位 規　模	柄鏡形 N－65°－E 3.45×3.14	床高	548.49~548.58
柱穴（長径×短径×深さ）	P1 (0.21×0.16×0.18) P2 (0.23×0.25×0.16) P3 (0.25×0.30×0.27) P4 (0.34×0.35×0.07) P5 (0.32×0.33×0.15)				覆土	1 黒褐色土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央東寄り N－65°－E 0.65×0.53	覆土 備考	1 黒褐色土 河原石を使用した石囲炉であると思われるが、炉石が欠損しており、形態等は不明である。			
備考	張出し部には平石が一部敷かれており、その規模は1.57×0.87である。主体部には敷石は見られなかった。						

第171図　八千原遺跡C地区第18号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-19号住居址 第172図 第216図	位置 (グリット)	N15E11－98,99 N16E11－2,3,4,	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形？ N－45°－E 不明	標高 床高	(S) 0.05～ (N) 0.03 548.26～548.36
柱穴（長径×短径×深さ）	P1（0.30×0.35×0.07）					覆土	
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）		覆土 備考				
備考	張出し部には平石と偏平の河原石が部分的に敷かれていて、その規模は1.80×1.05である。主体部の形態規模は不明である。						

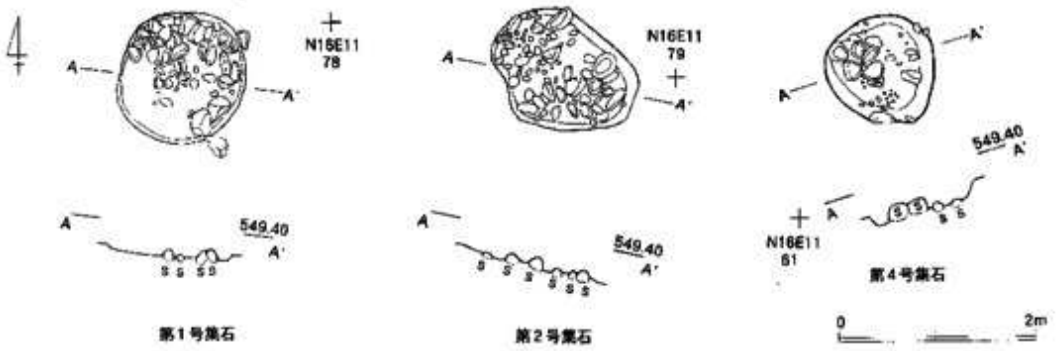
第172図　八千原遺跡C地区第19号住居址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	C-20号住居址 第173図 第217図	位置 (グリット)	N16E11－26,27,34,35, 46,47	平面形態 主軸方位 規　模	楕円形？ N－20°－E 3.30×3.90	壁高 床高	(W) 0.15～(N) 0.65 548.71～548.76

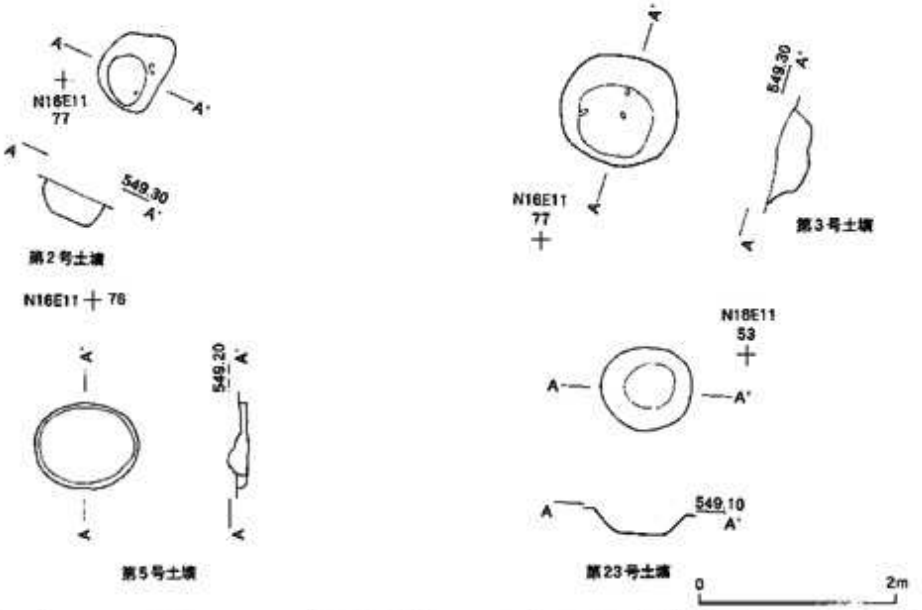
柱穴（長径×短径×深さ）				覆土	1 黒褐色土
炉	位　置 主軸方位 規模（全長×最大幅）	中央南寄り N－10°－E 0.58×0.47	覆土 備考	1 黒褐色土 炉石は確認できなかった。	
備考	平石と河原石が散在する。住居址の端に偏平の平石が立てられていた部分が残る。楕円形の敲石住居址であった可能性がある。				

第173図　八千原遺跡C地区第20号住居址、炉址実測図



遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－1号集石 第174図	位置 (グリット)	N16E11－78	平面形態 主軸方位 規模	不明 不明 1.38×1.30	覆土 標高	1 黒褐色土 549.18～549.08
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－2号集石 第174図	位置 (グリット)	N16E11－79,82	平面形態 主軸方位 規模	不明 不明 1.54×1.18	覆土 標高	1 黒褐色土 549.15～549.04
遺構番号 遺構図版 遺物図版	C－4号集石 第174図	位置 (グリット)	N16E11－79	平面形態 主軸方位 規模	不明 不明 1.18×1.12	覆土 標高	1 黒褐色土 549.17～548.99

第174図　八千原遺跡C地区第1号、第2号、第4号集石実測図

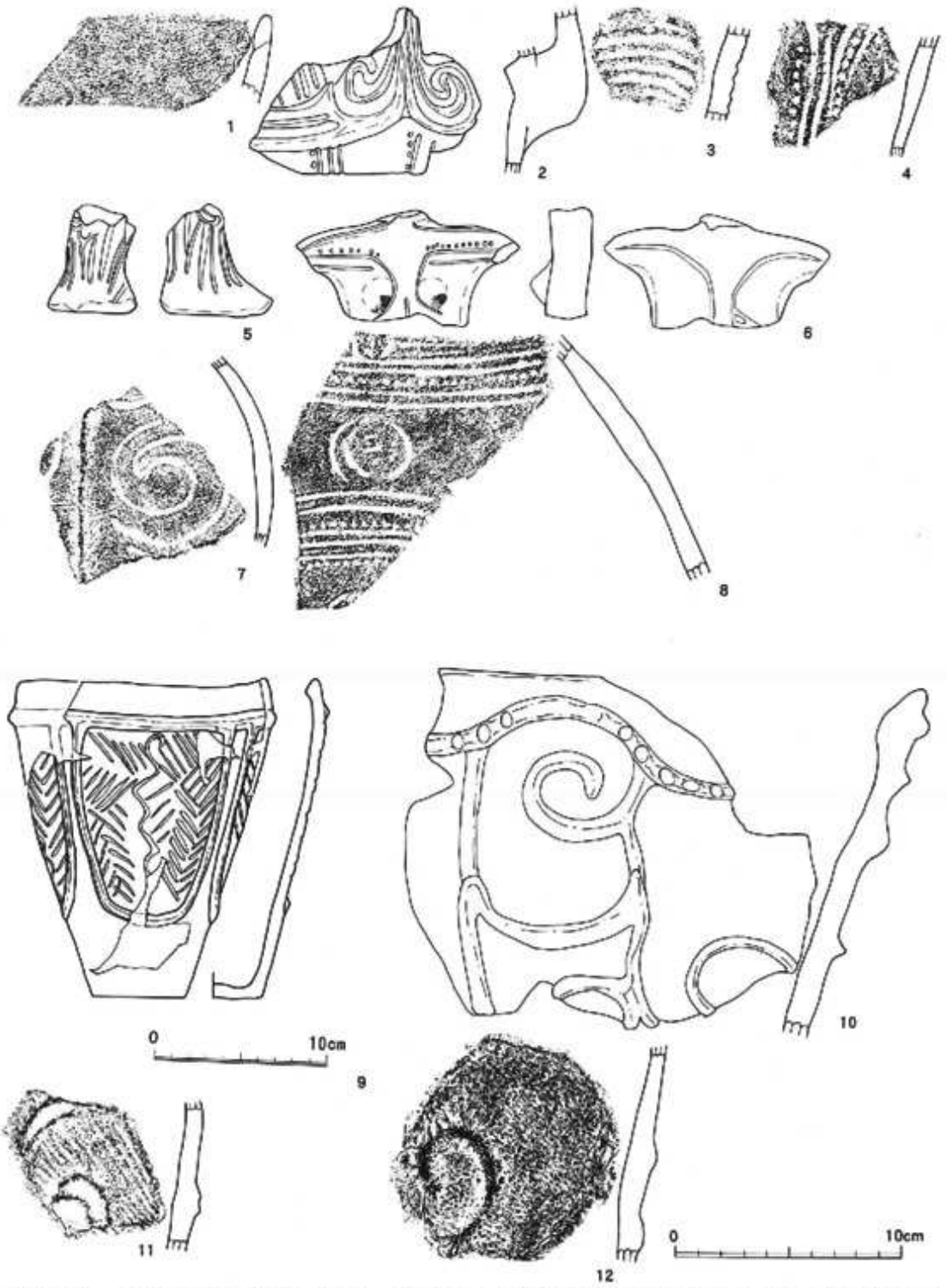


遺構番号	位置	規模（長径×短径×深さ）	平面形態	断面形態	遺物図版
C－2号土壙	N16E11－76,85	0.85×0.64×0.52	不整形	たらい状	
C－3号土壙	N16E11－85	1.20×1.12×0.48	円形	たらい状	第217図
C－5号土壙	N16E11－75,76	1.06×0.88×0.20	楕円形	たらい状	第218図
C－23号土壙	N16E11－53	0.92×0.84×0.26	円形	たらい状	第217図

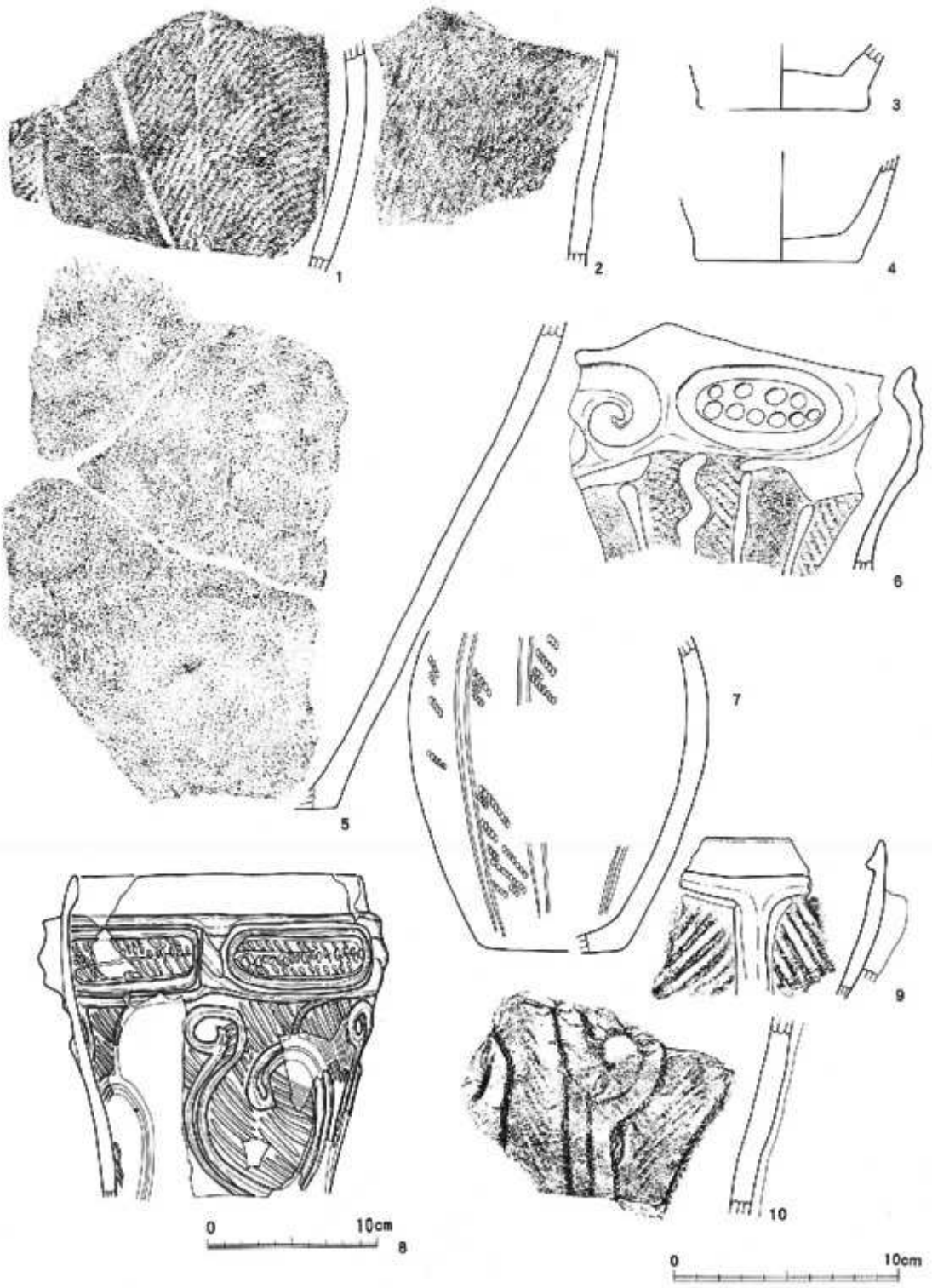
第175図　八千原遺跡C地区第2号、第3号、第5号、第23号、土壙実測図

第3節　出土した遺物

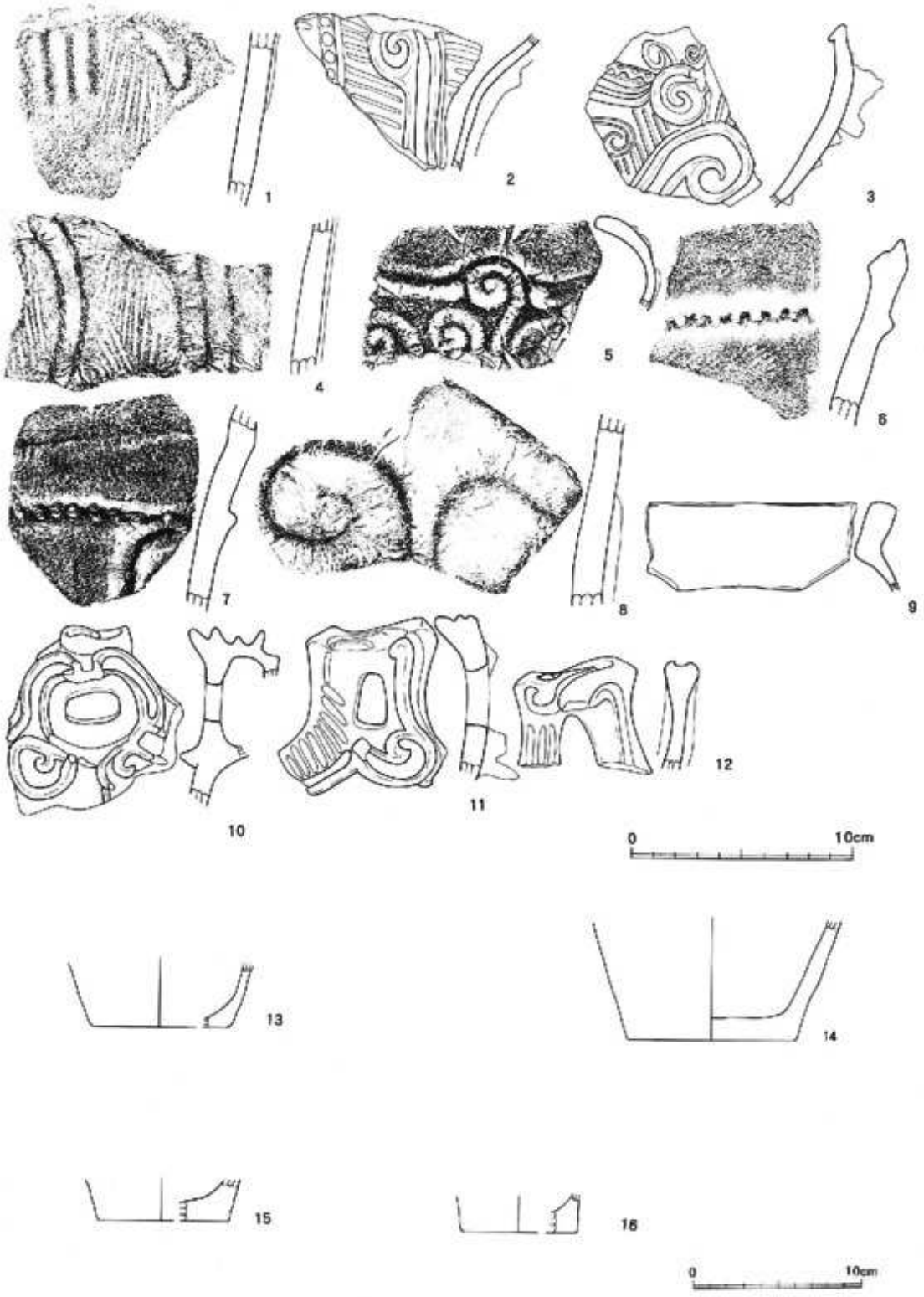
1.土器



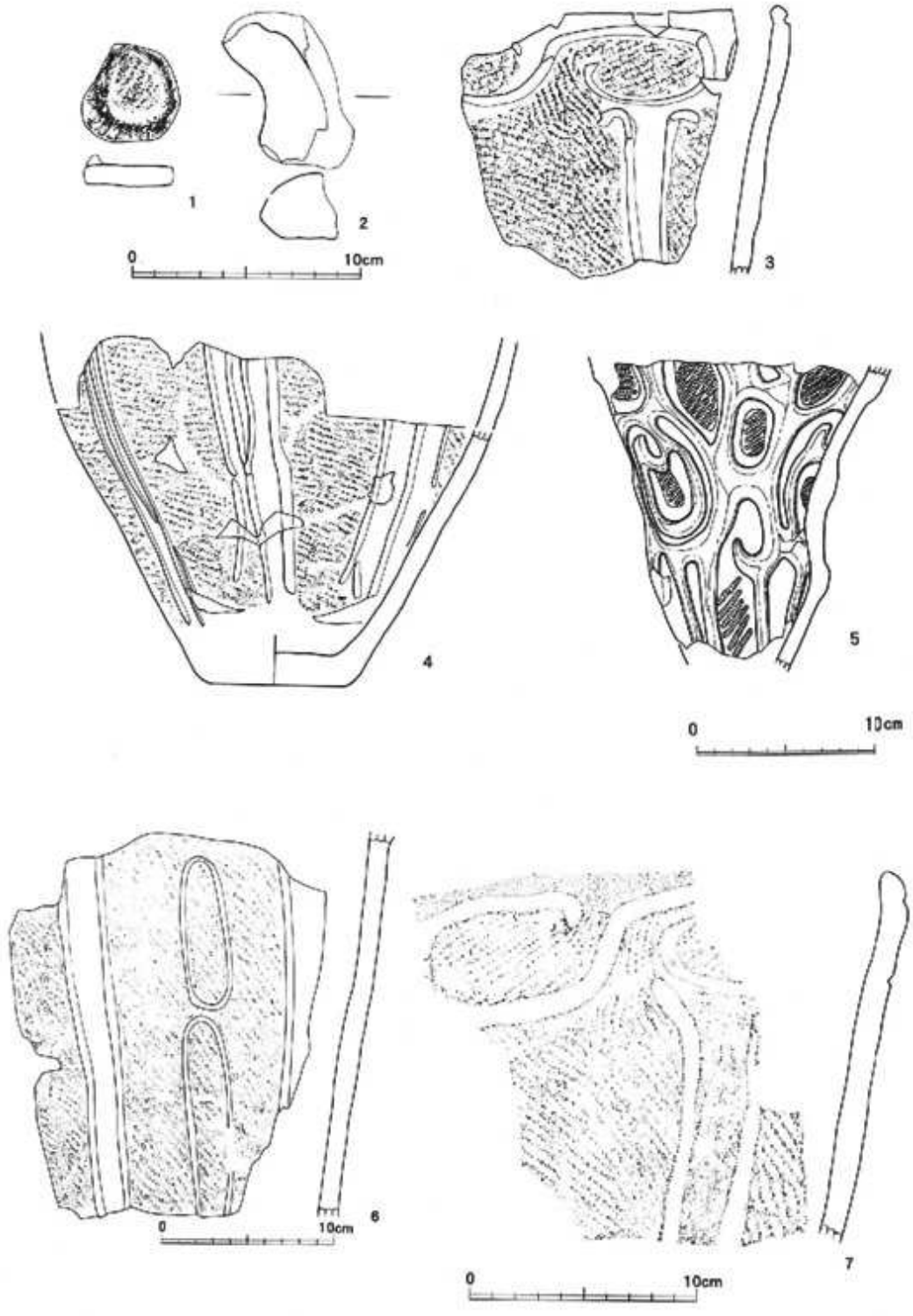
第176図　八千原遺跡A地区第1号（1～6）第2号（7）第3号（8）第4号（9～12）住居址出土遺物



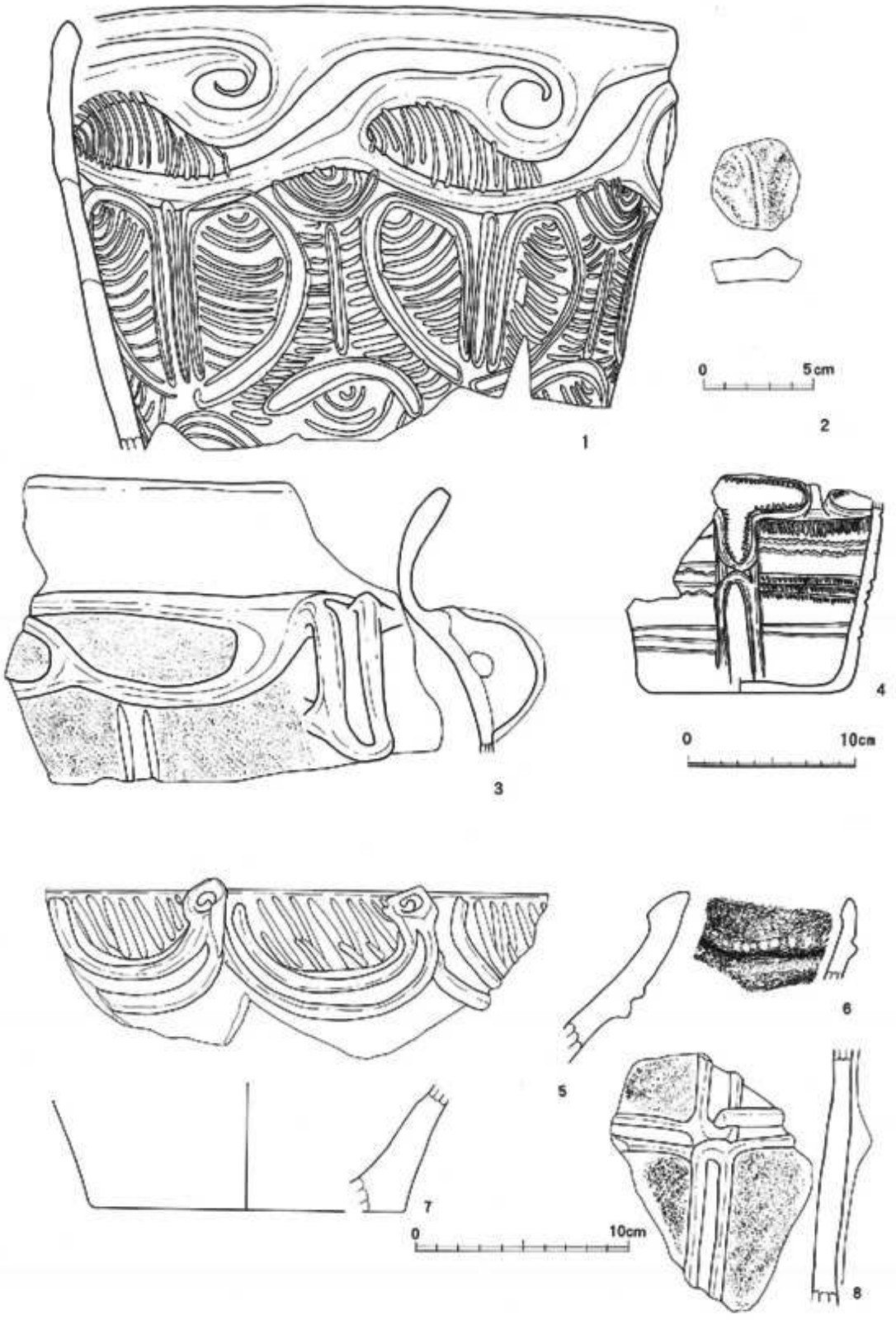
第177図　八千原遺跡A地区第4号（1～5）第5号（6,7）第6号（8）第7号（9,10）
住居址出土遺物



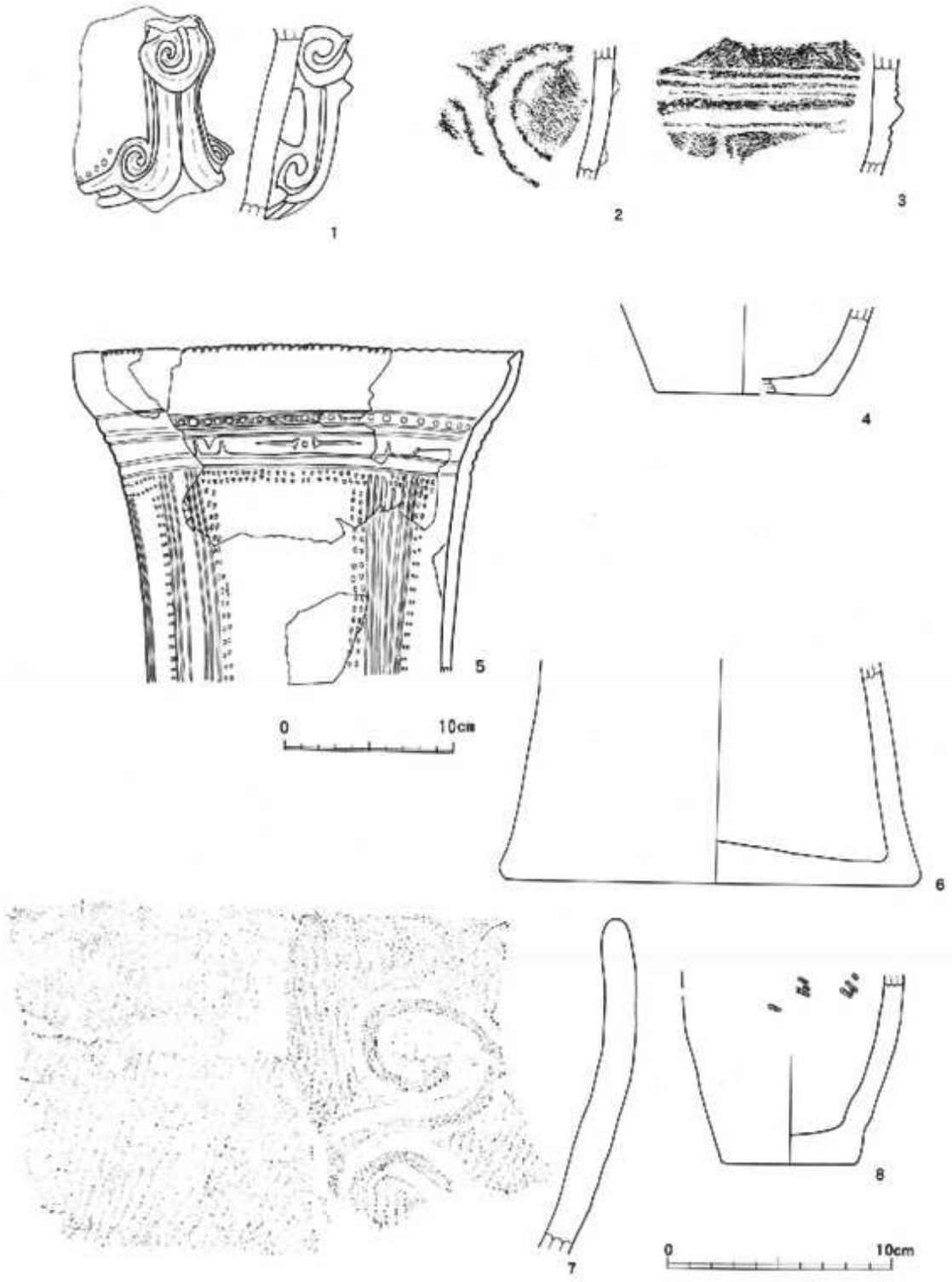
第178図　八千原遺跡Ａ地区第７号（1～16）住居址出土遺物



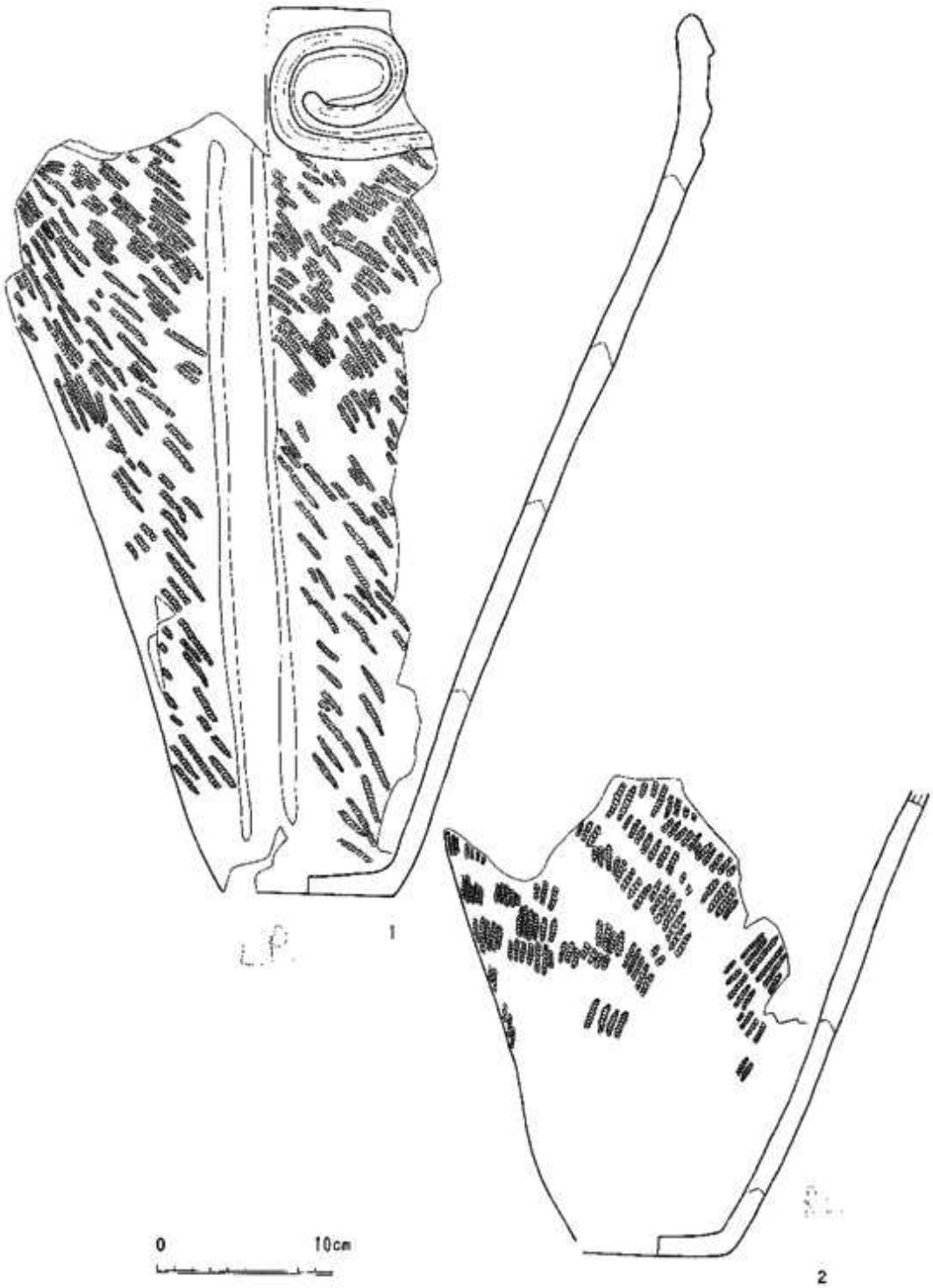
第179図　八千原遺跡A地区第7号（1,2）第8号（3～7）住居址出土遺物



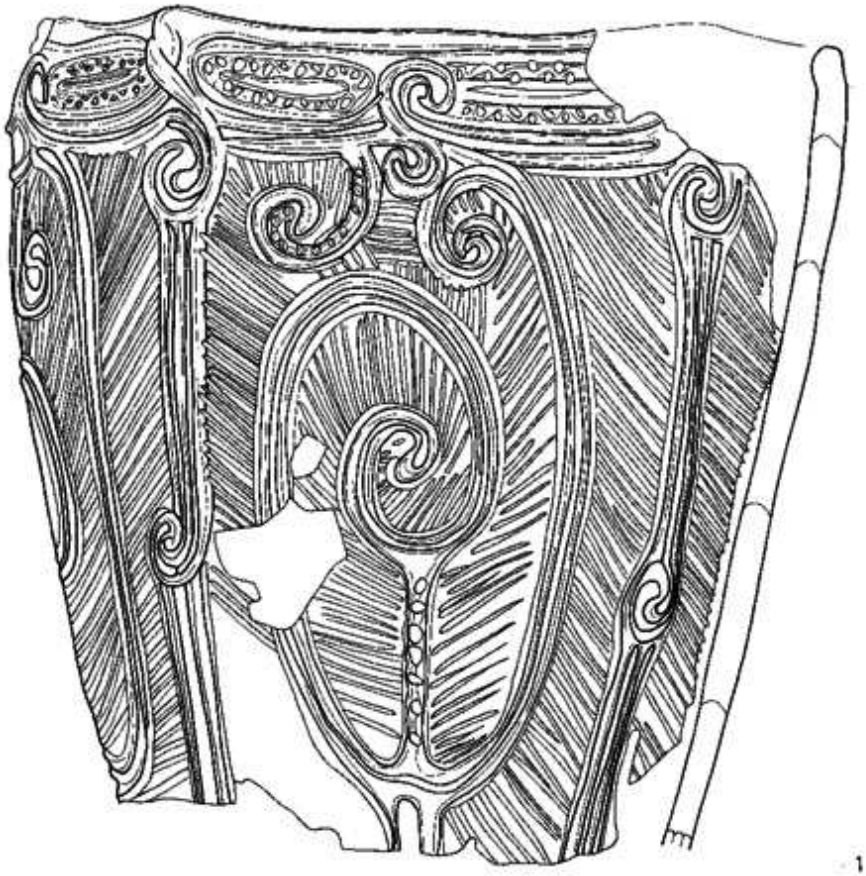
第180図　八千原遺跡A地区第8号（1～3）第9号（4,5,7）第10号（6,8）住居址出土遺物



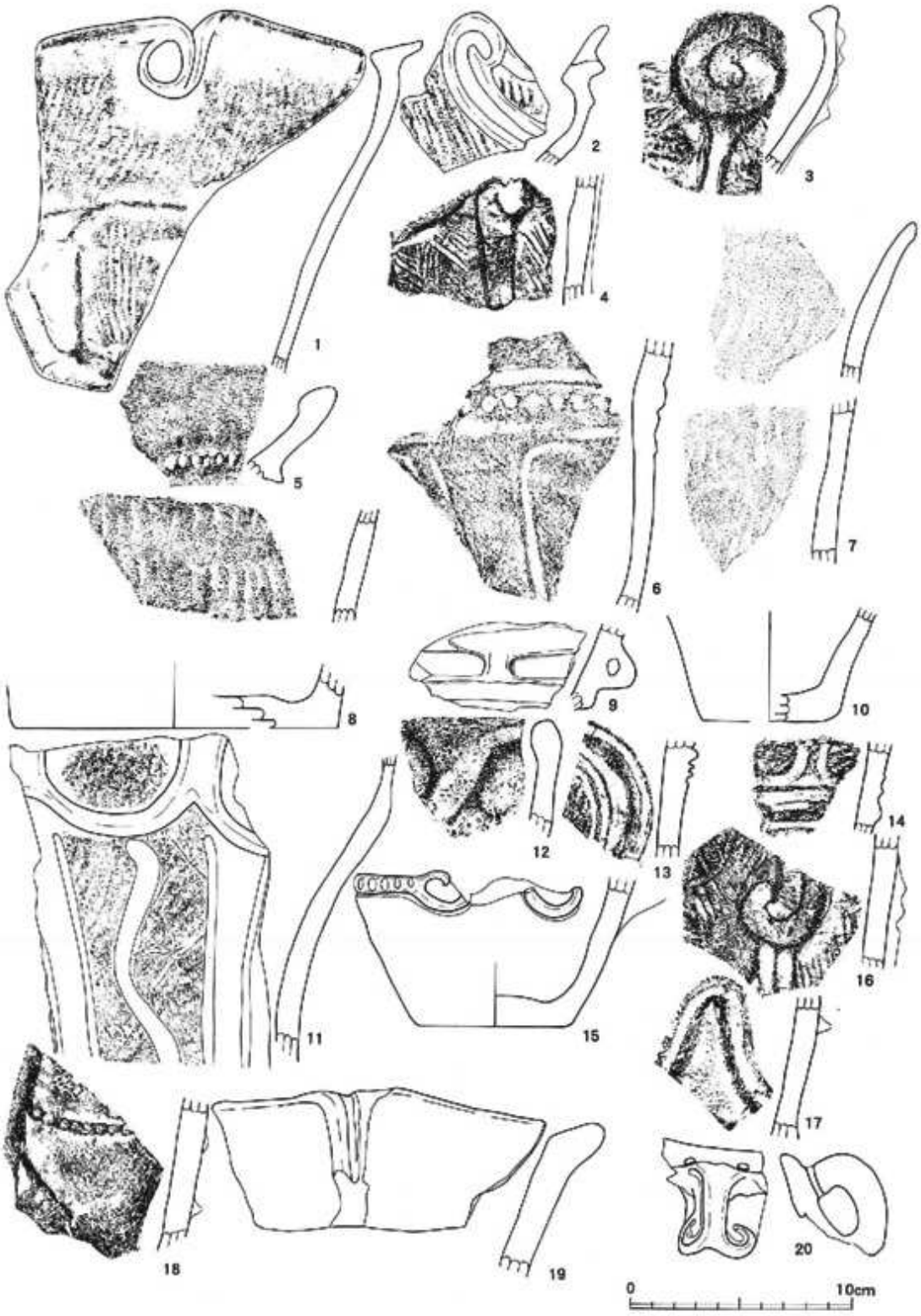
第181図　八千原遺跡A地区第11号（1～4）第12号（5,6）第13号（7,8）住居址出土遺物



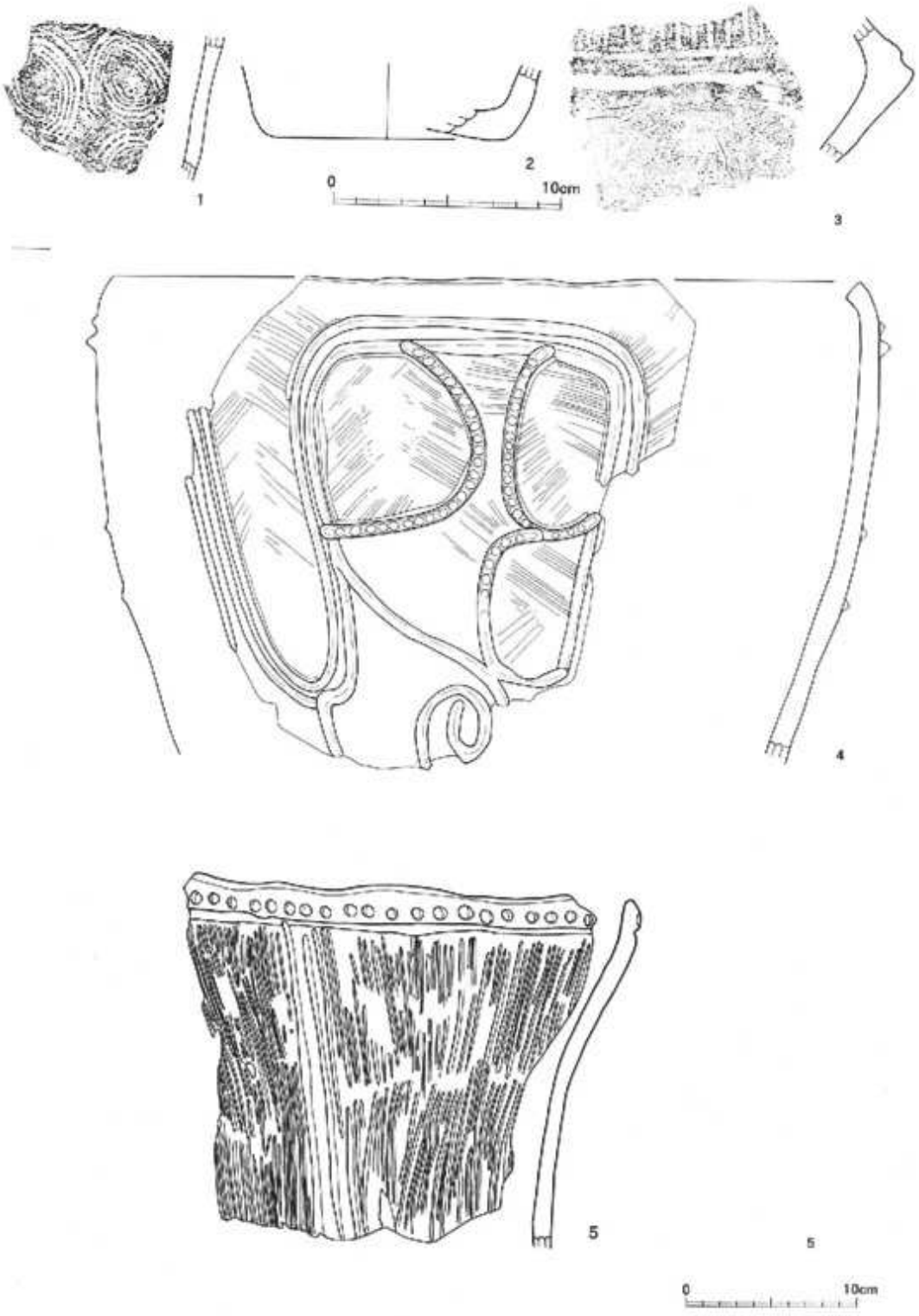
第182図　八千原遺跡A地区第13号（1,2）住居址出土遺物



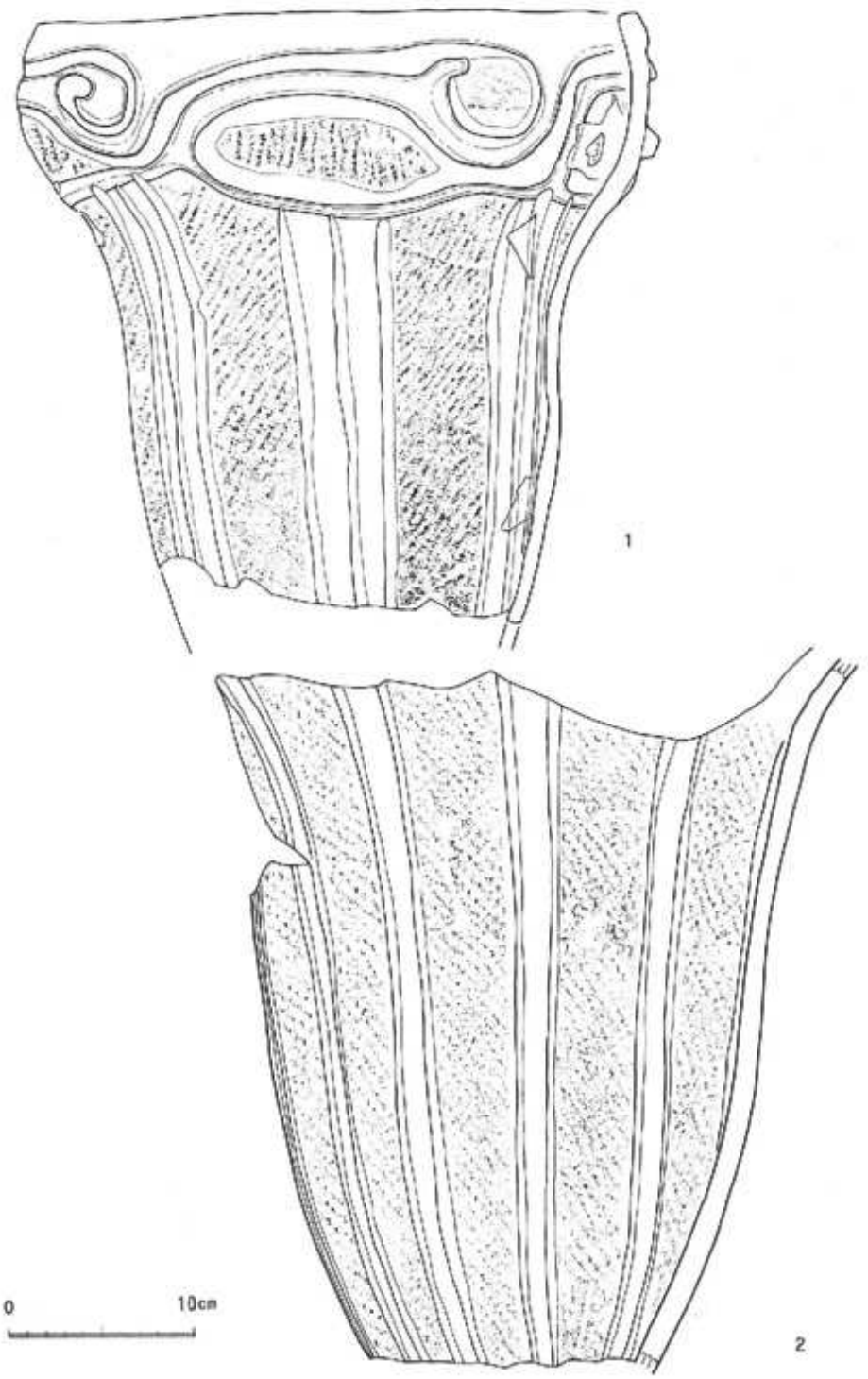
第183図　八千原遺跡Ａ地区第13号（1）住居址出土遺物



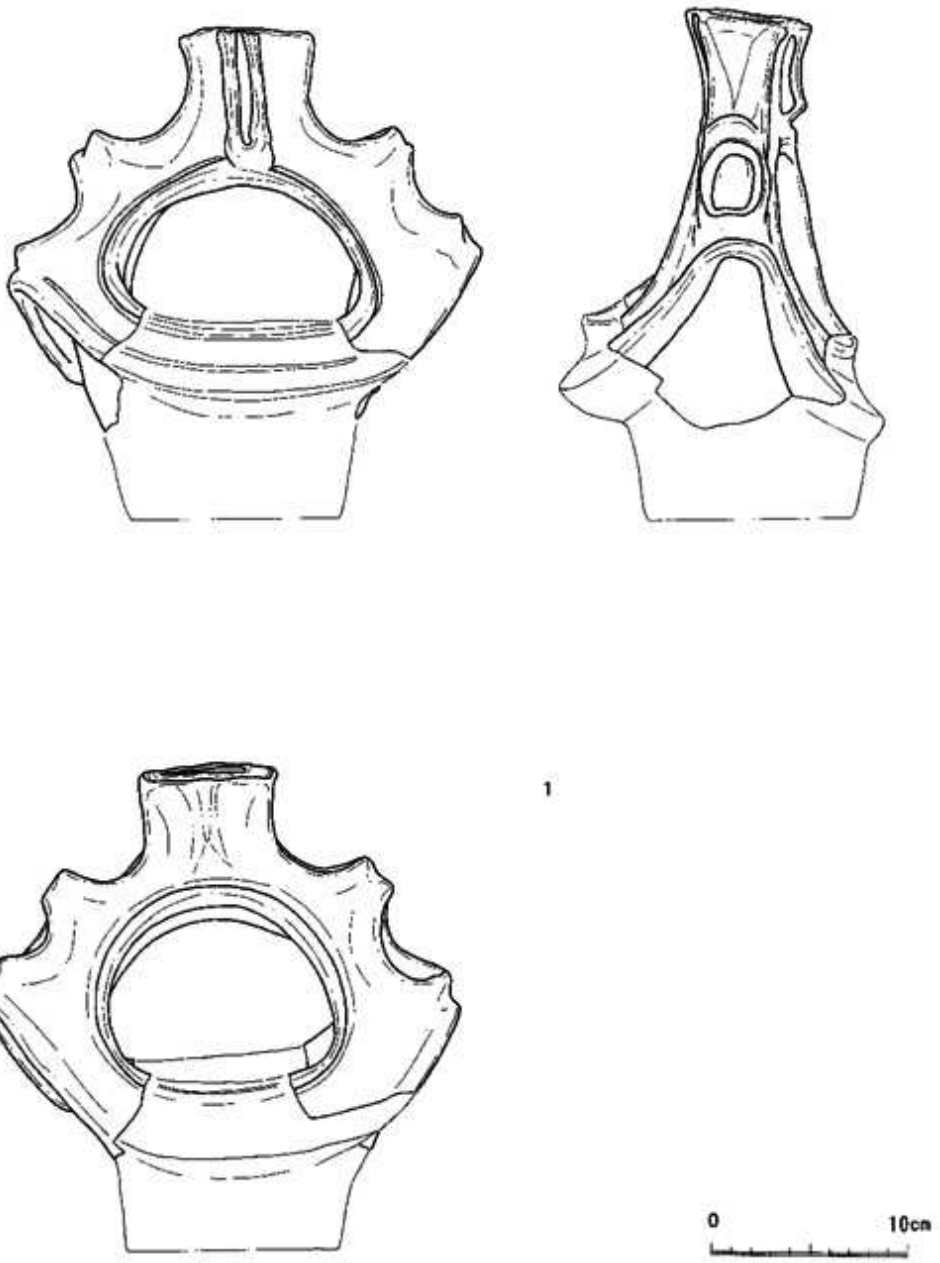
第184図　八千原遺跡A地区第14号（1）第15号（2～10）第16号（11～20）住居址出土遺物



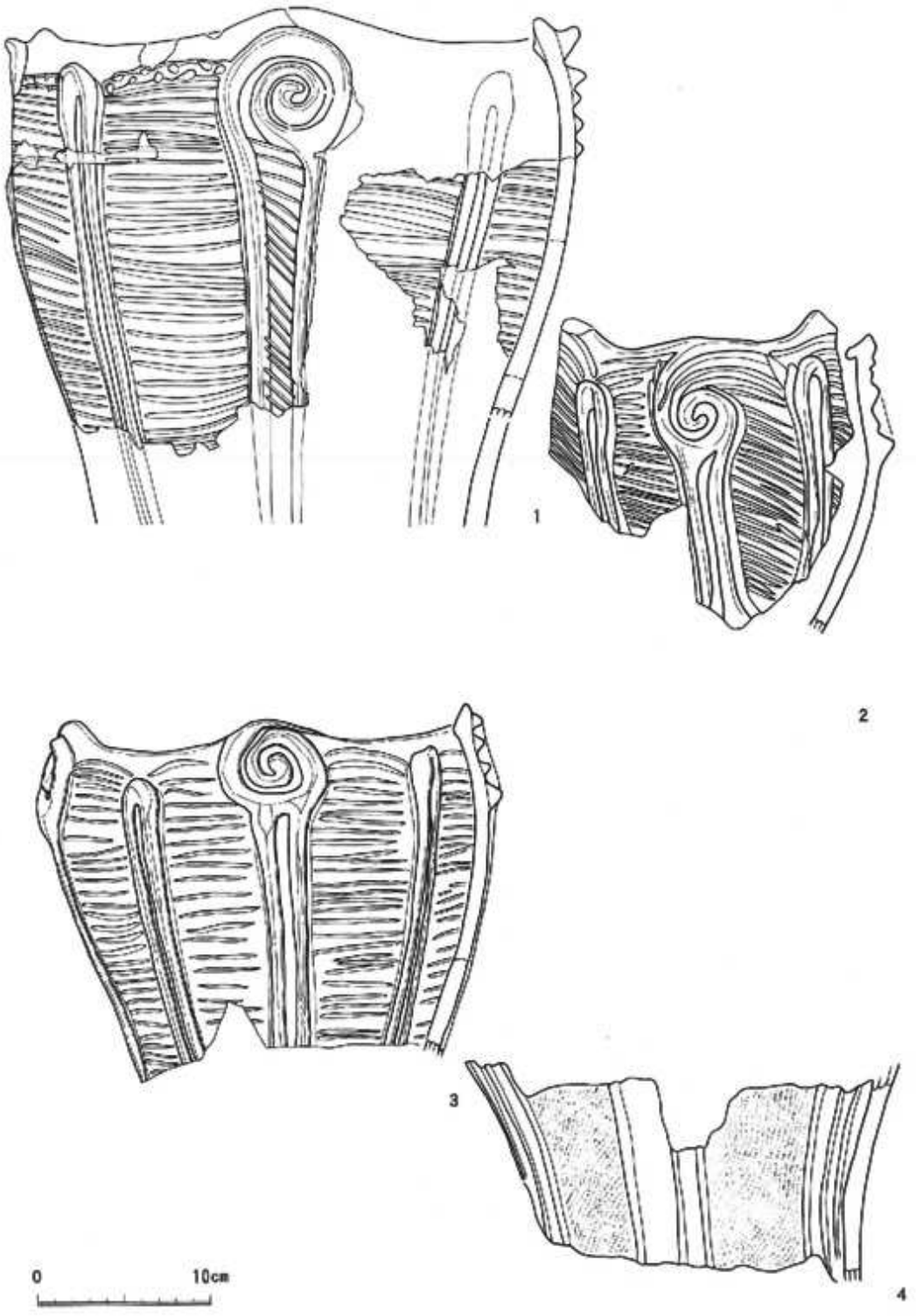
第185図　八千原遺跡A地区第16号（1～4）第17号（5）住居址出土遺物



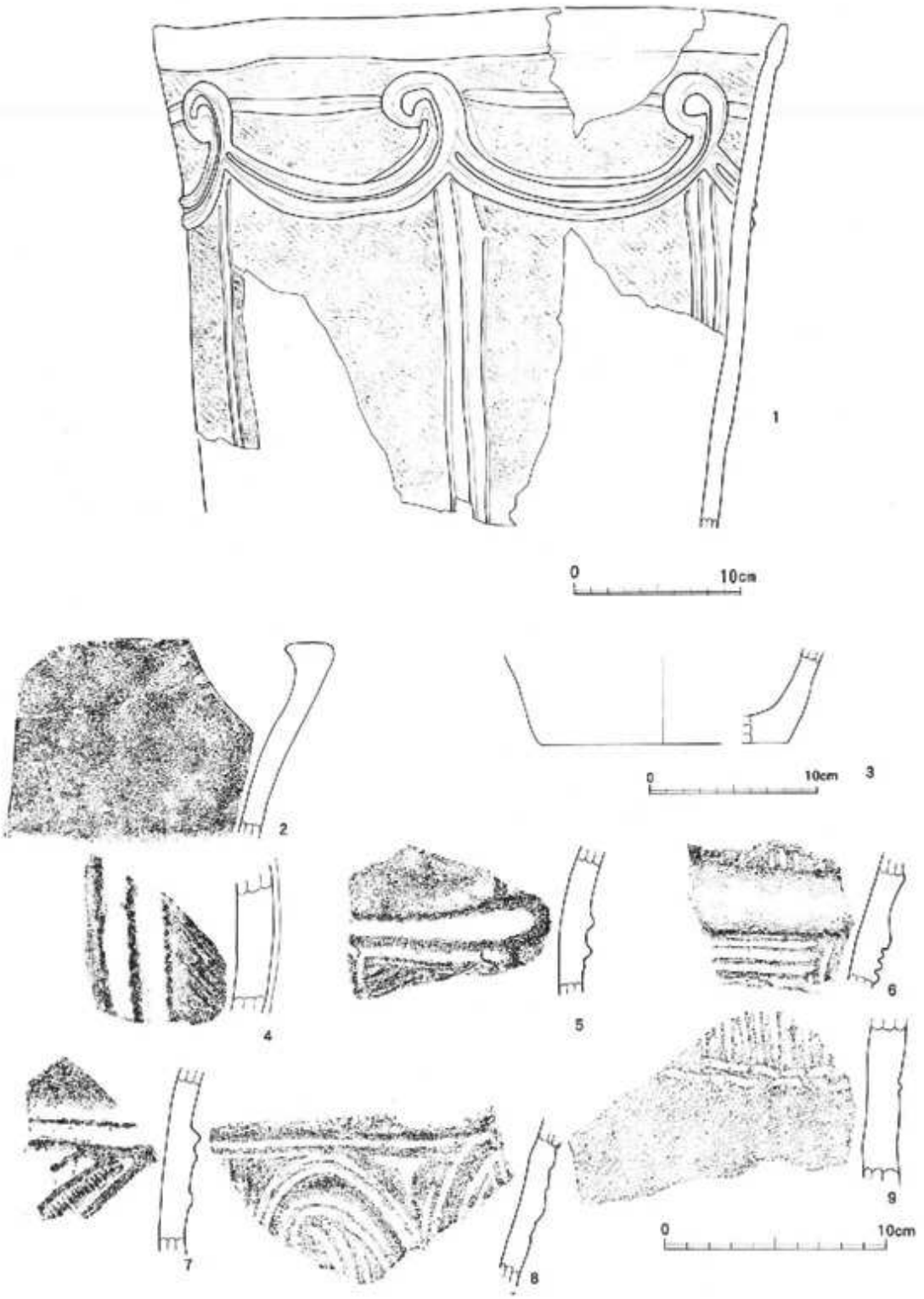
第186図　八千原遺跡A地区第17号（1.2）住居址出土遺物



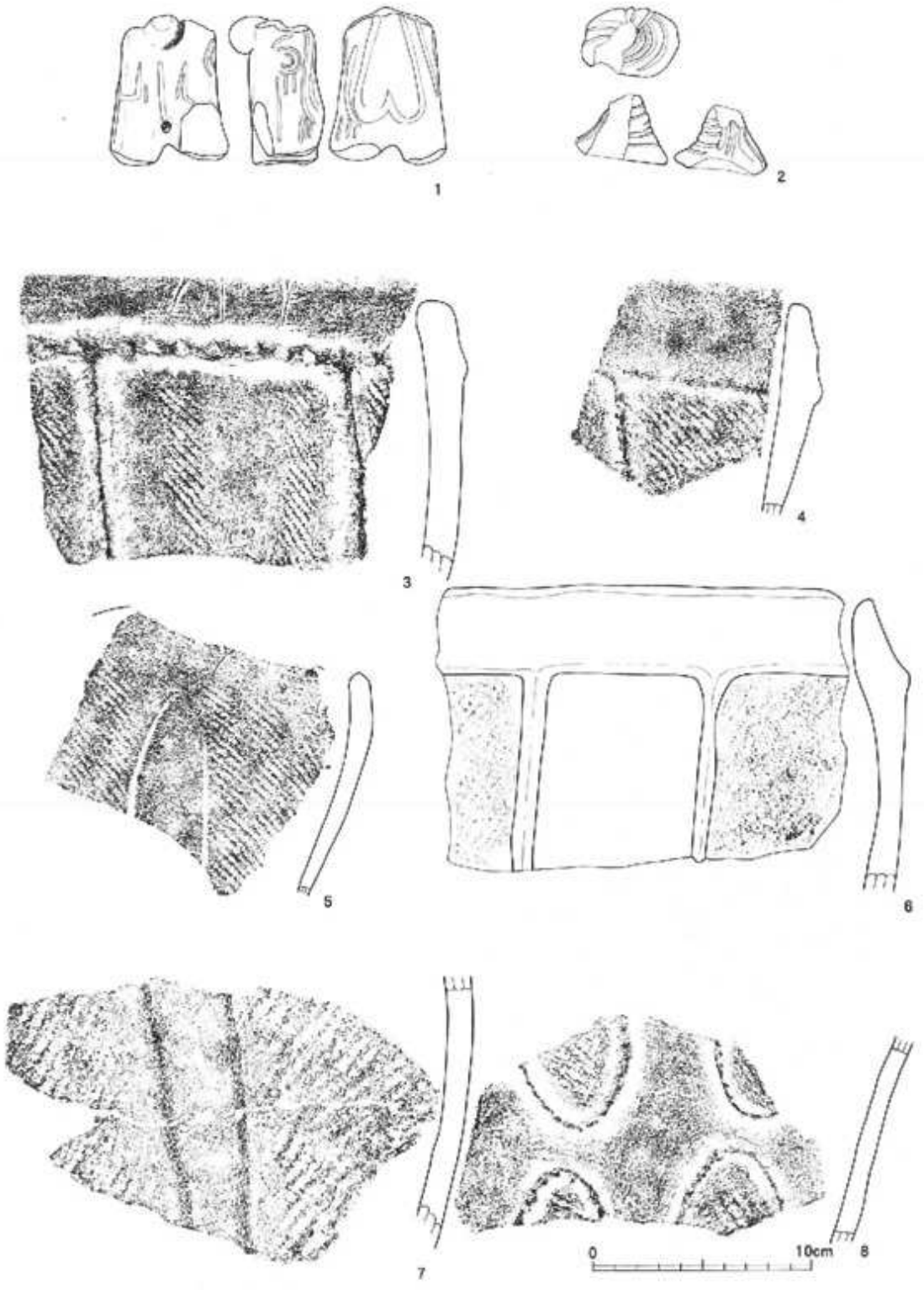
第187図　八千原遺跡A地区第18号（1）住居址出土遺物



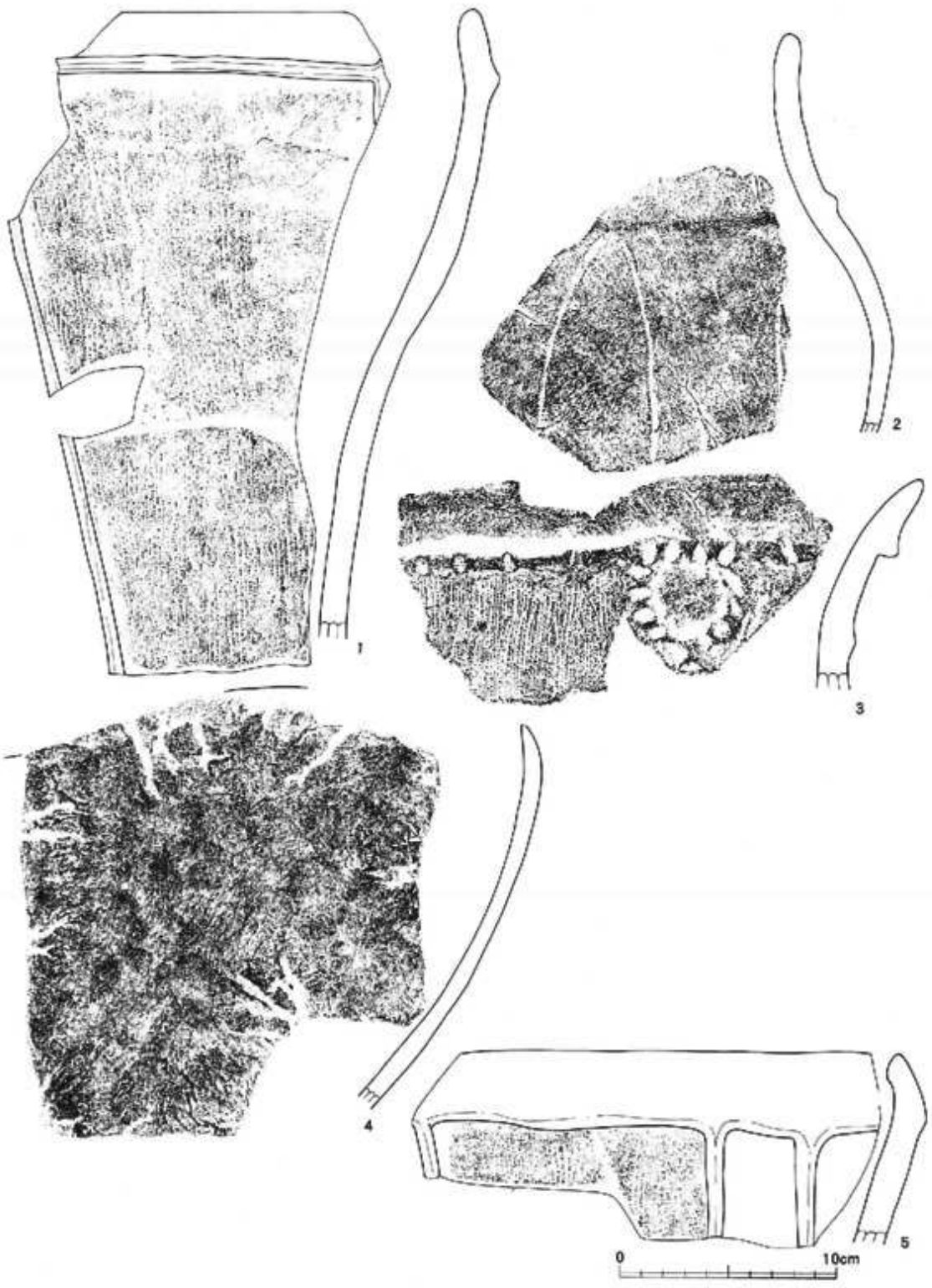
第188図　八千原遺跡A地区第18号（1～4）住居址出土遺物



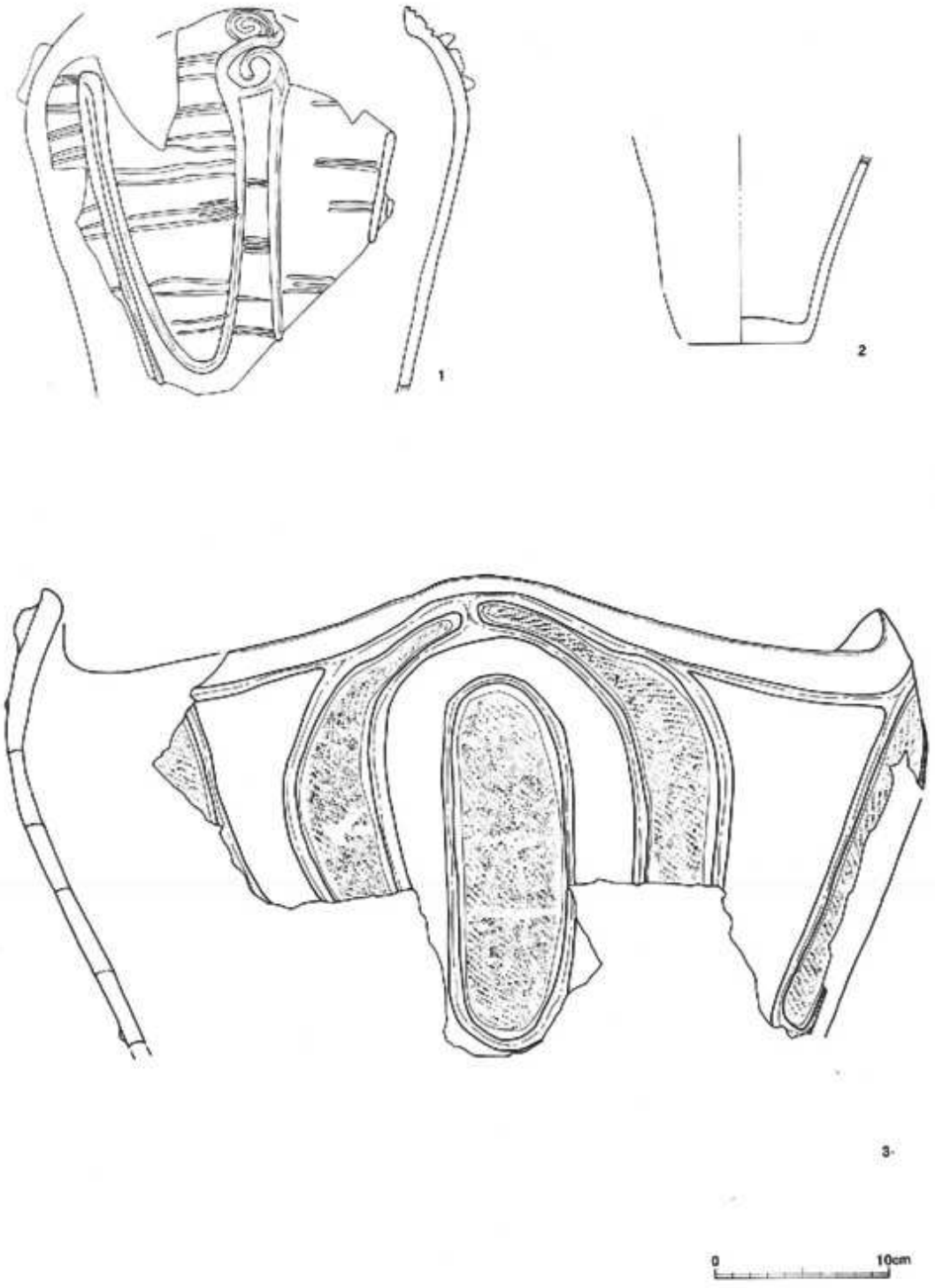
第189図　八千原遺跡Ａ地区第18号（1）第19号（2～9）住居址出土遺物



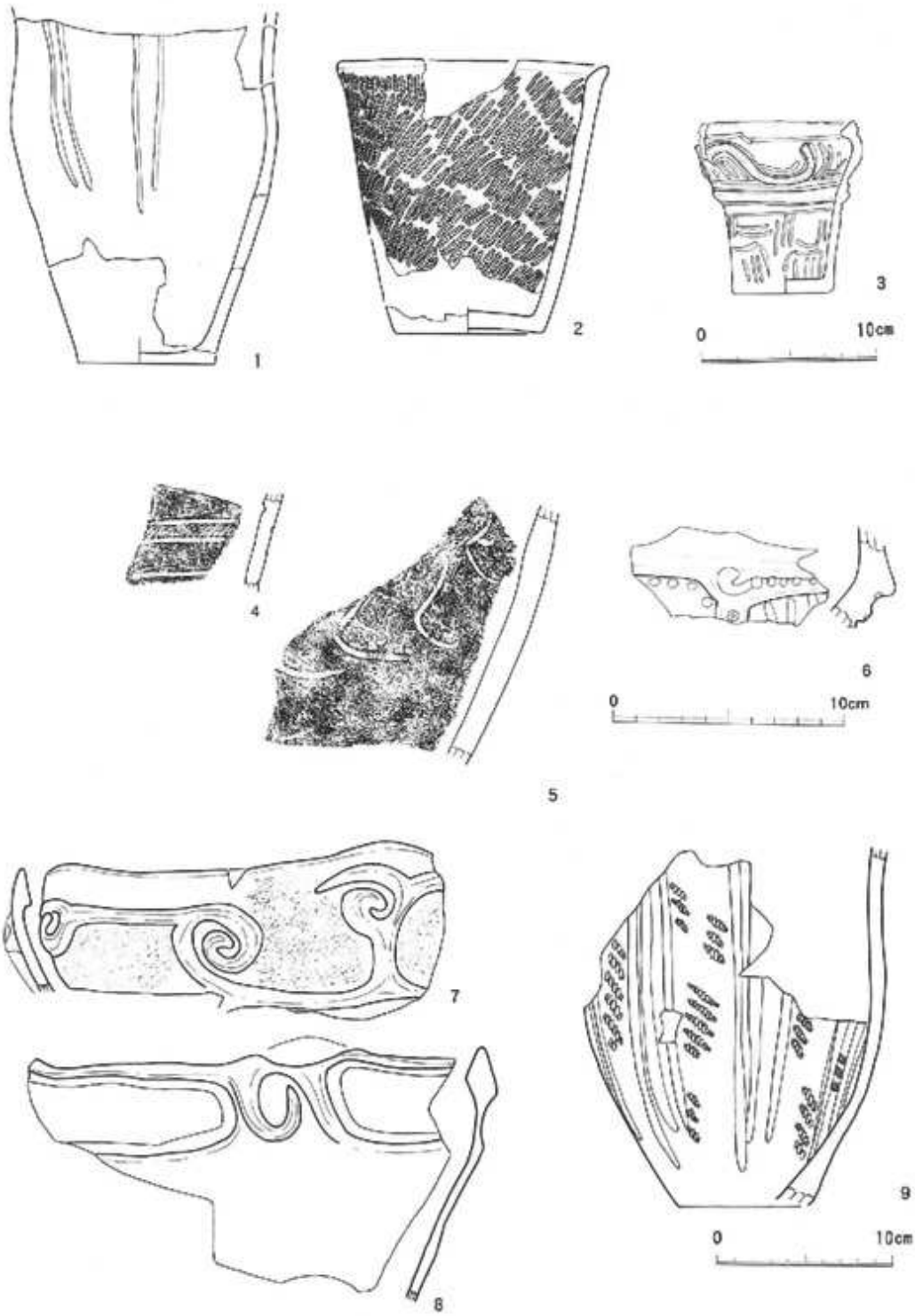
第190図　八千原遺跡A地区第19号（1～2）B地区第1号（3～8）住居址出土遺物



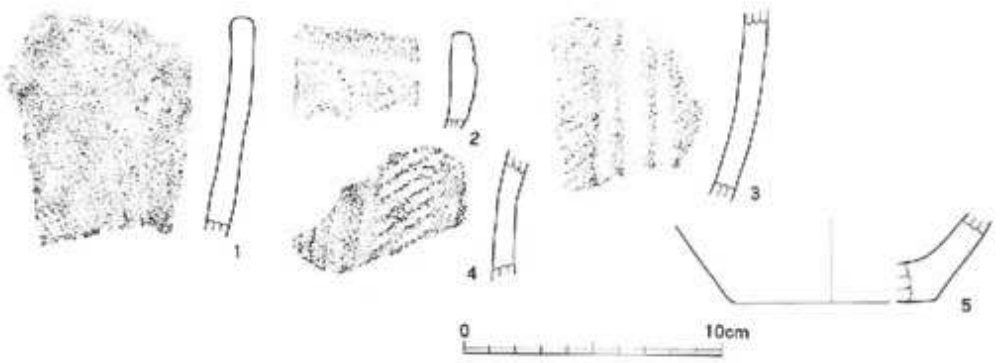
第191図　八千原遺跡B地区第1号（1～5）住居址出土遺物

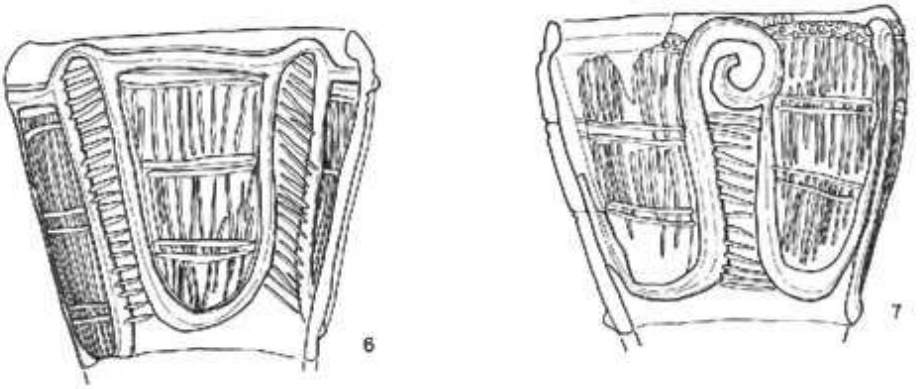


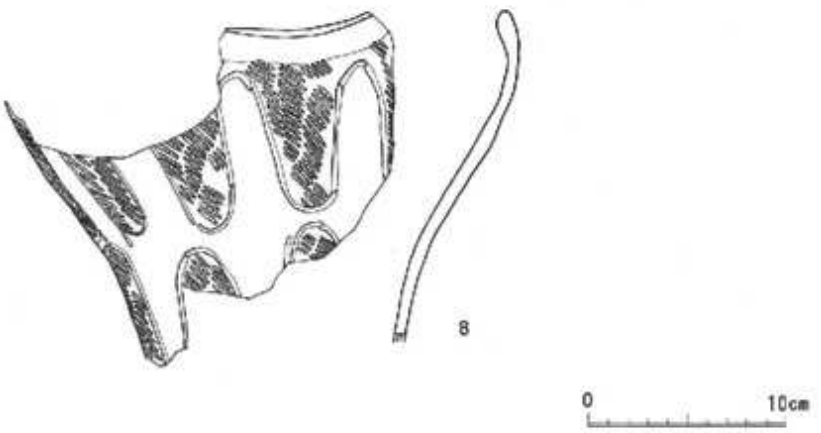
第192図　八千原遺跡B地区第3号（1,2）第4号（3）住居址出土遺物



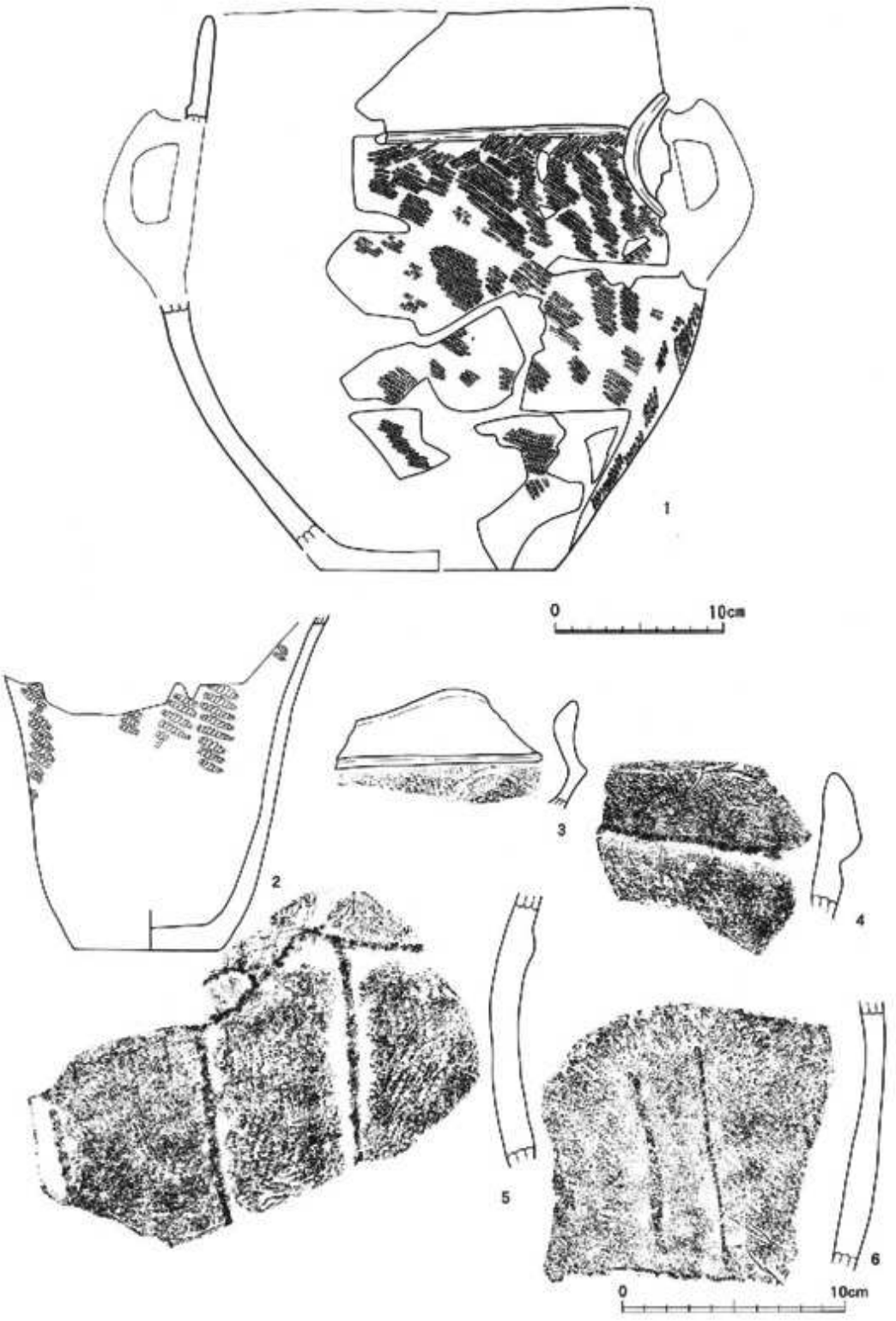
第193図　八千原遺跡B地区第3号（1）第4号（2,3）第5号（4～6）第6号（7～9）
住居址出土遺物



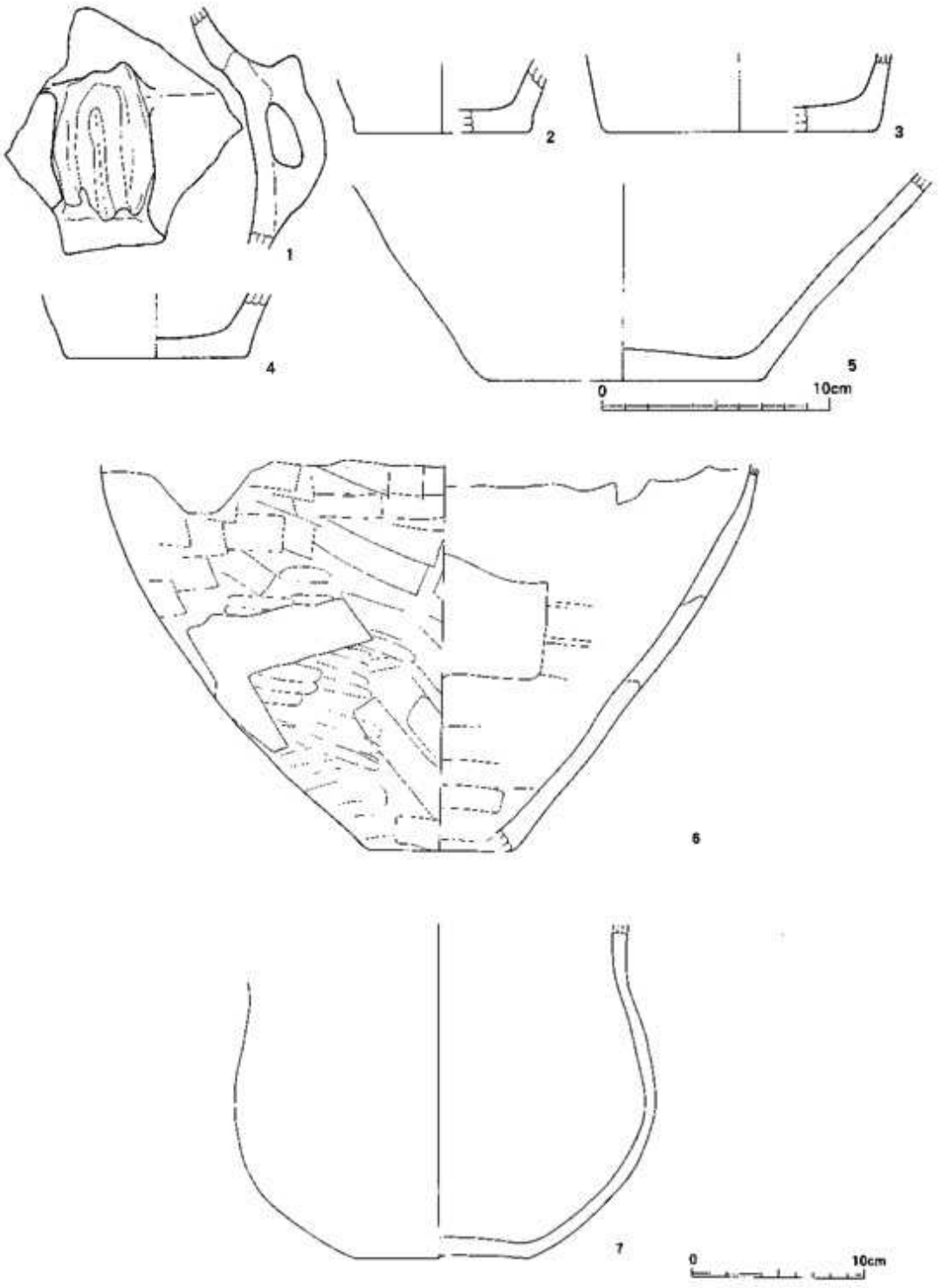




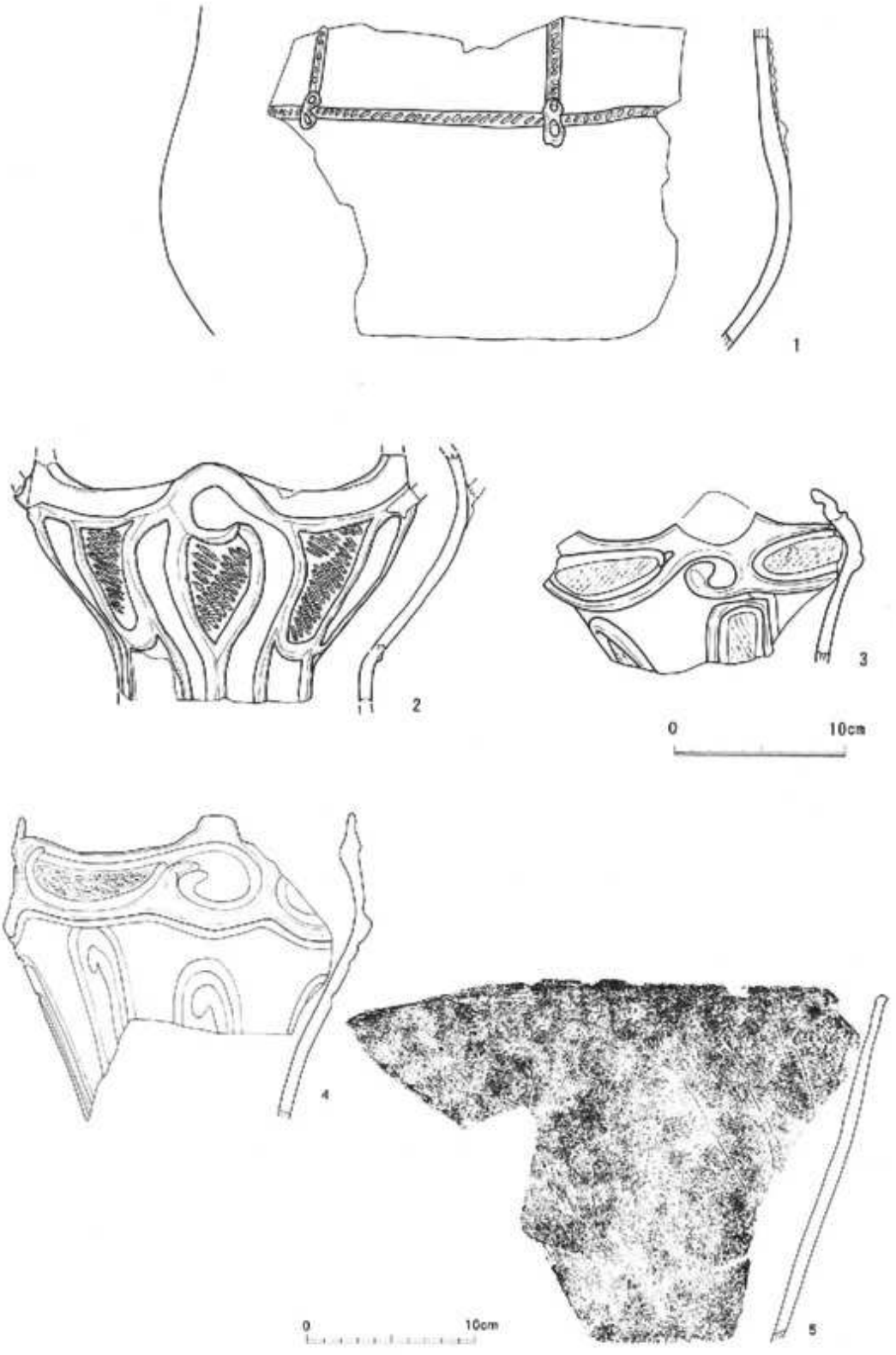
第194図　八千原遺跡B地区第7号（1～5）第8号（6,7）第9号（8）住居址出土遺物



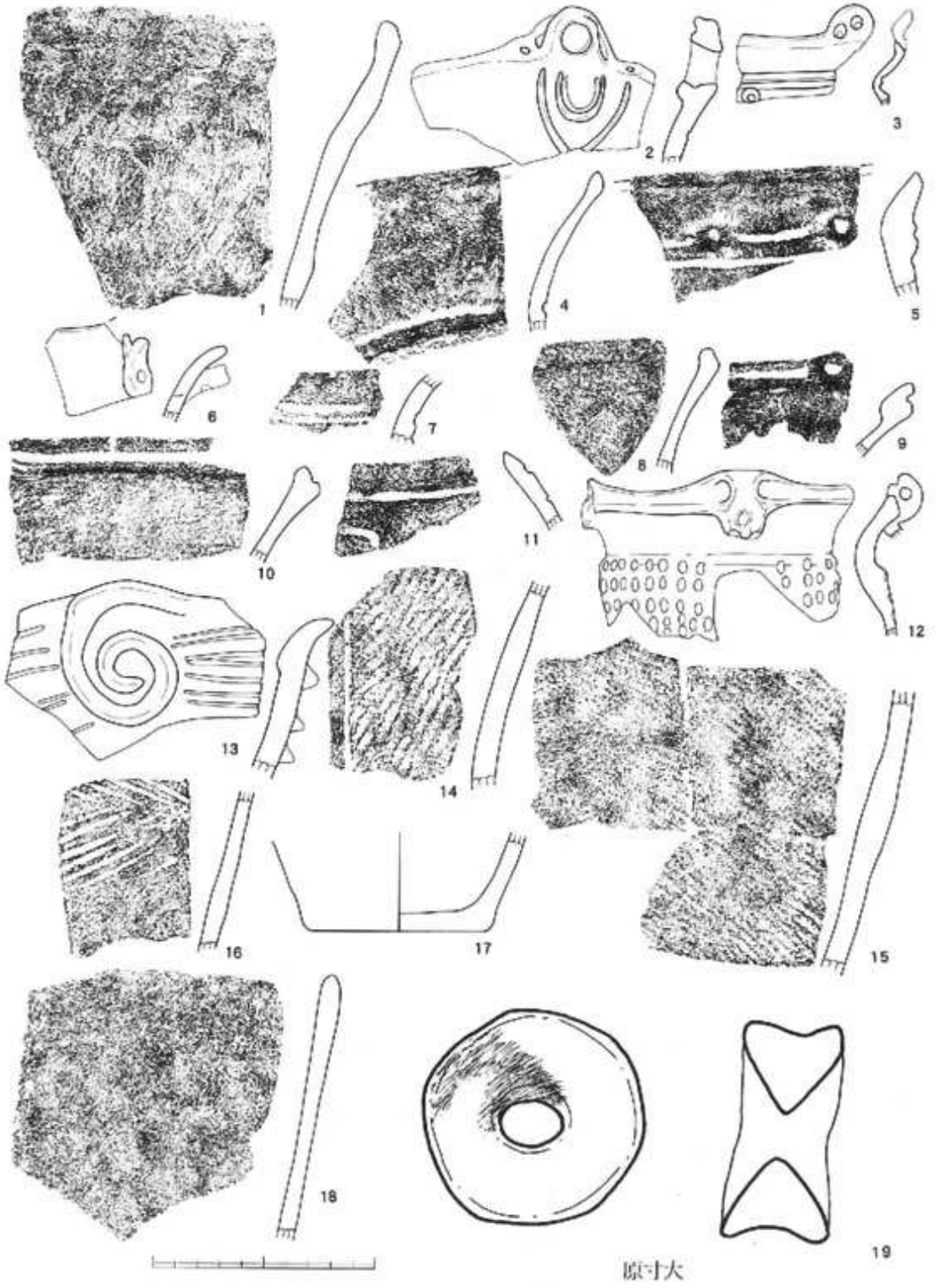
第195図　八千原遺跡B地区第9号（1,2）第13号（3~6）住居址出土遺物



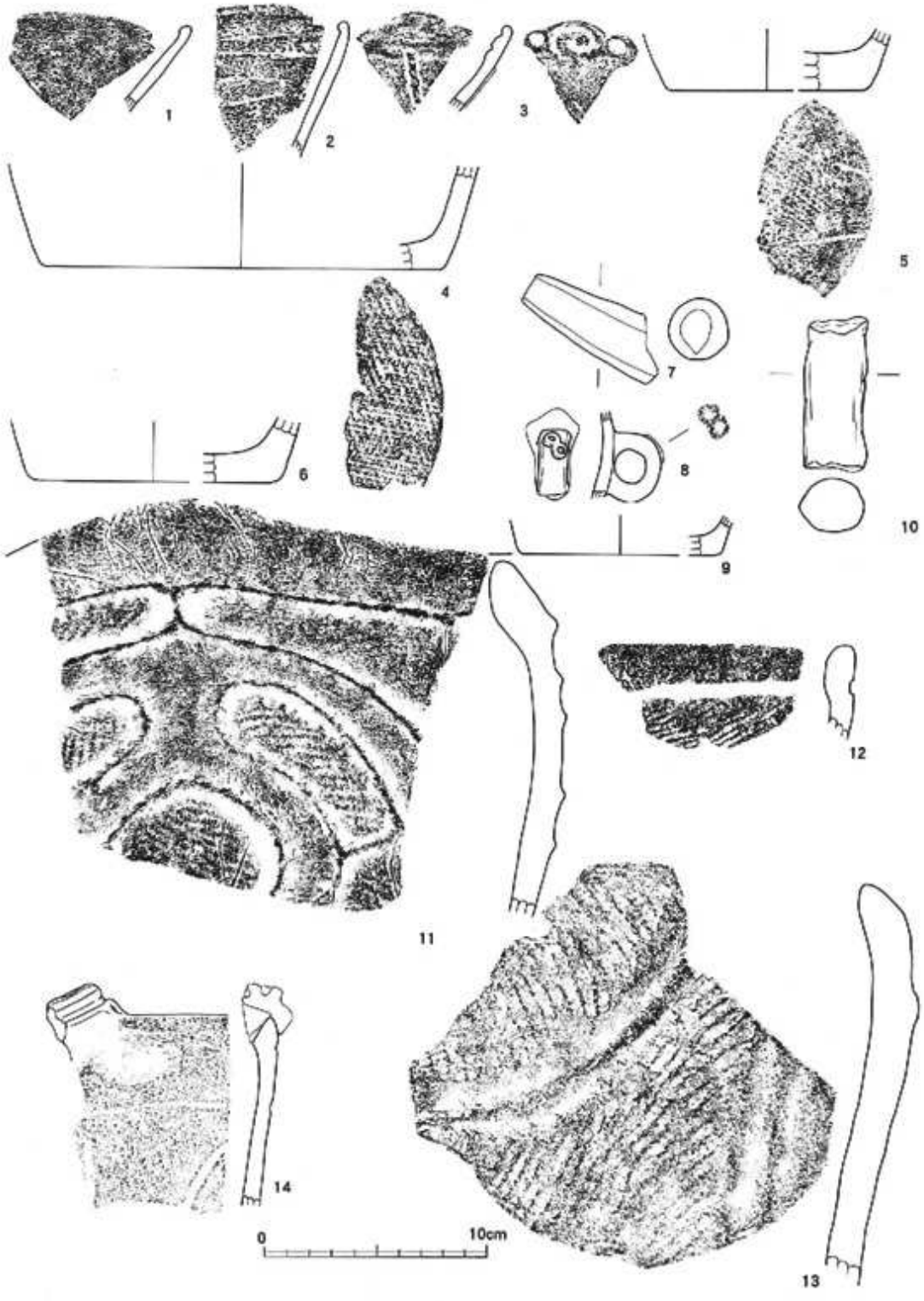
第196図　八千原遺跡B地区第13号（1～4）第14号（5～7）住居址出土遺物



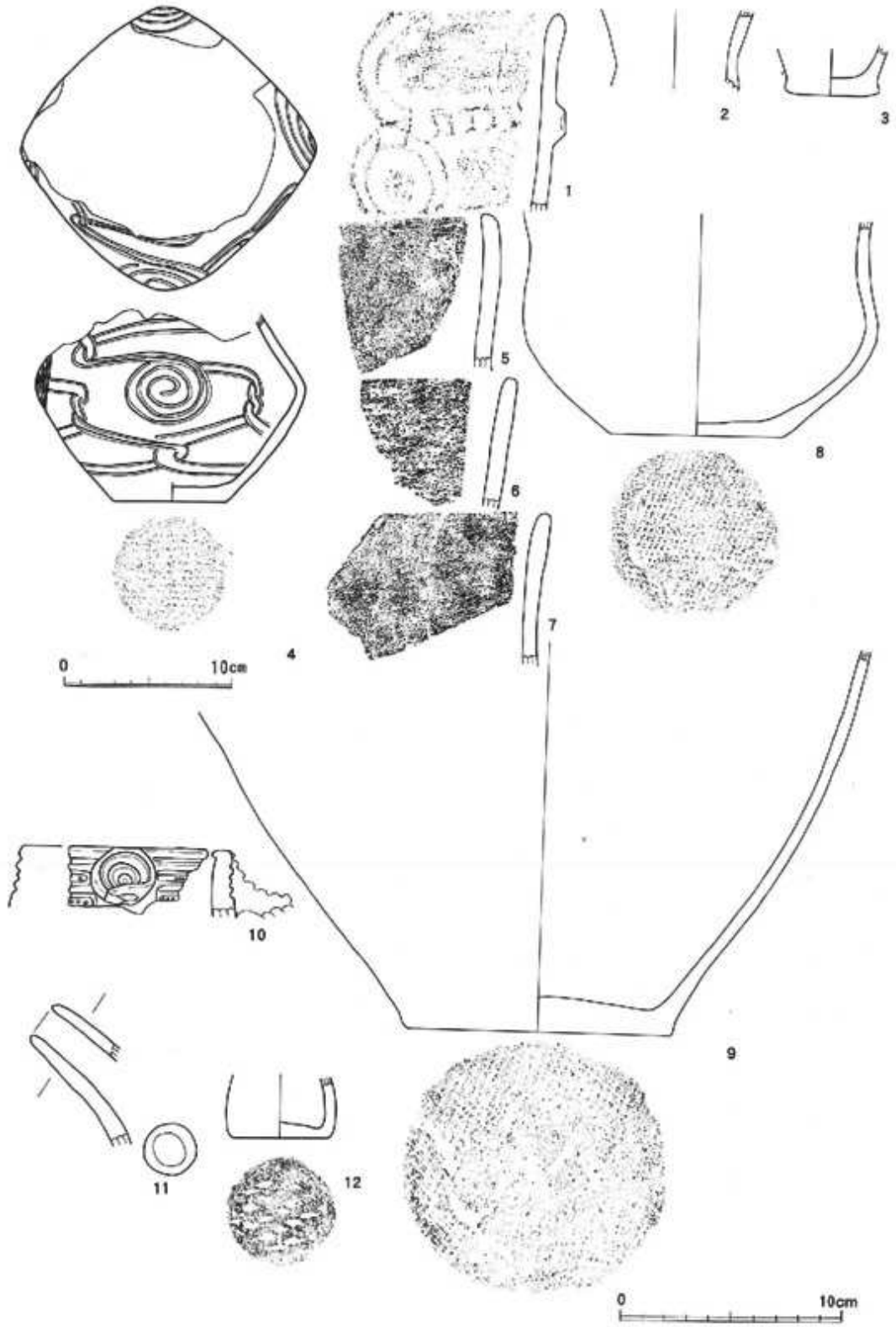
第197図　八千原遺跡B地区第14号（1）第15号（2～4）第17号（5）住居址出土遺物



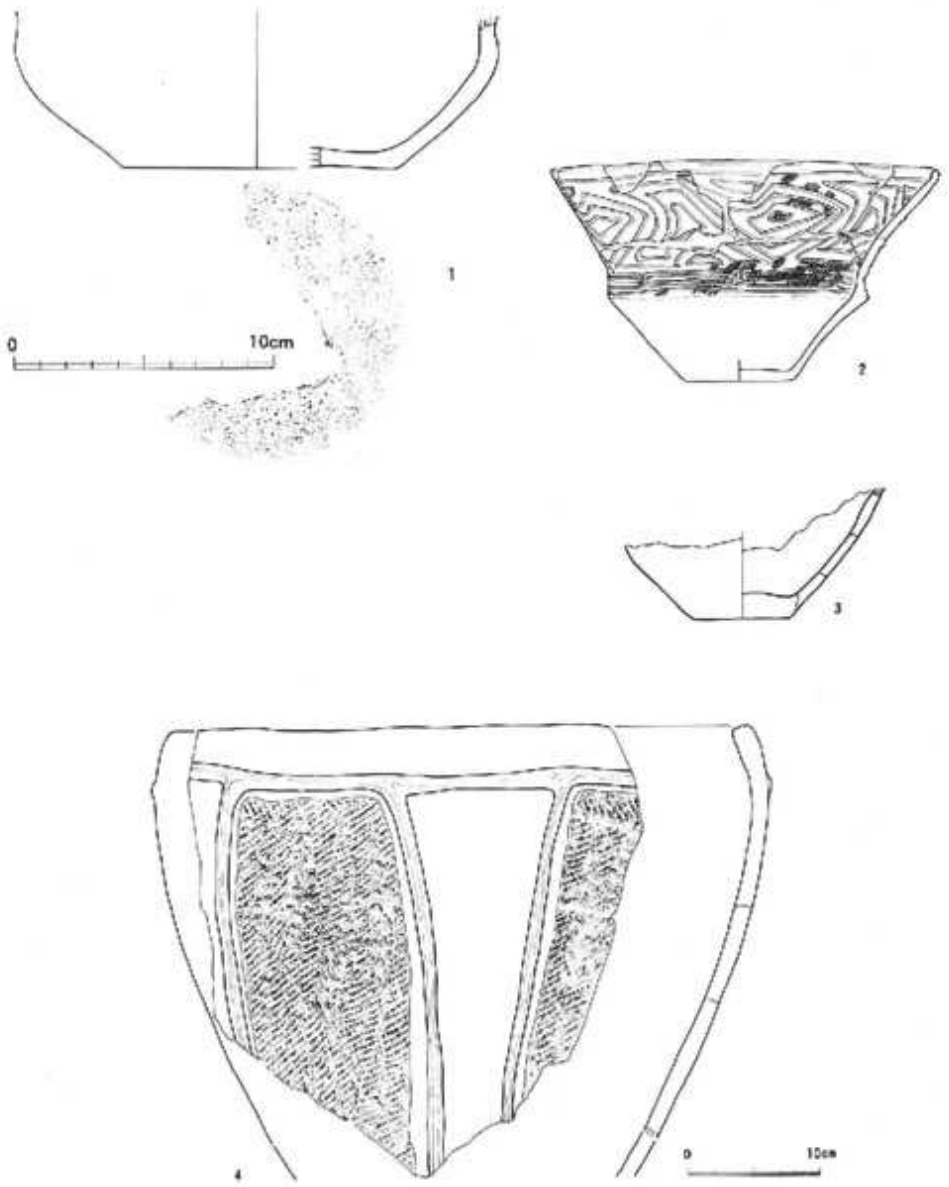
第198図　八千原遺跡B地区第17号（1～12）第18号（13～15）第19号（16～19）
住居址出土遺物



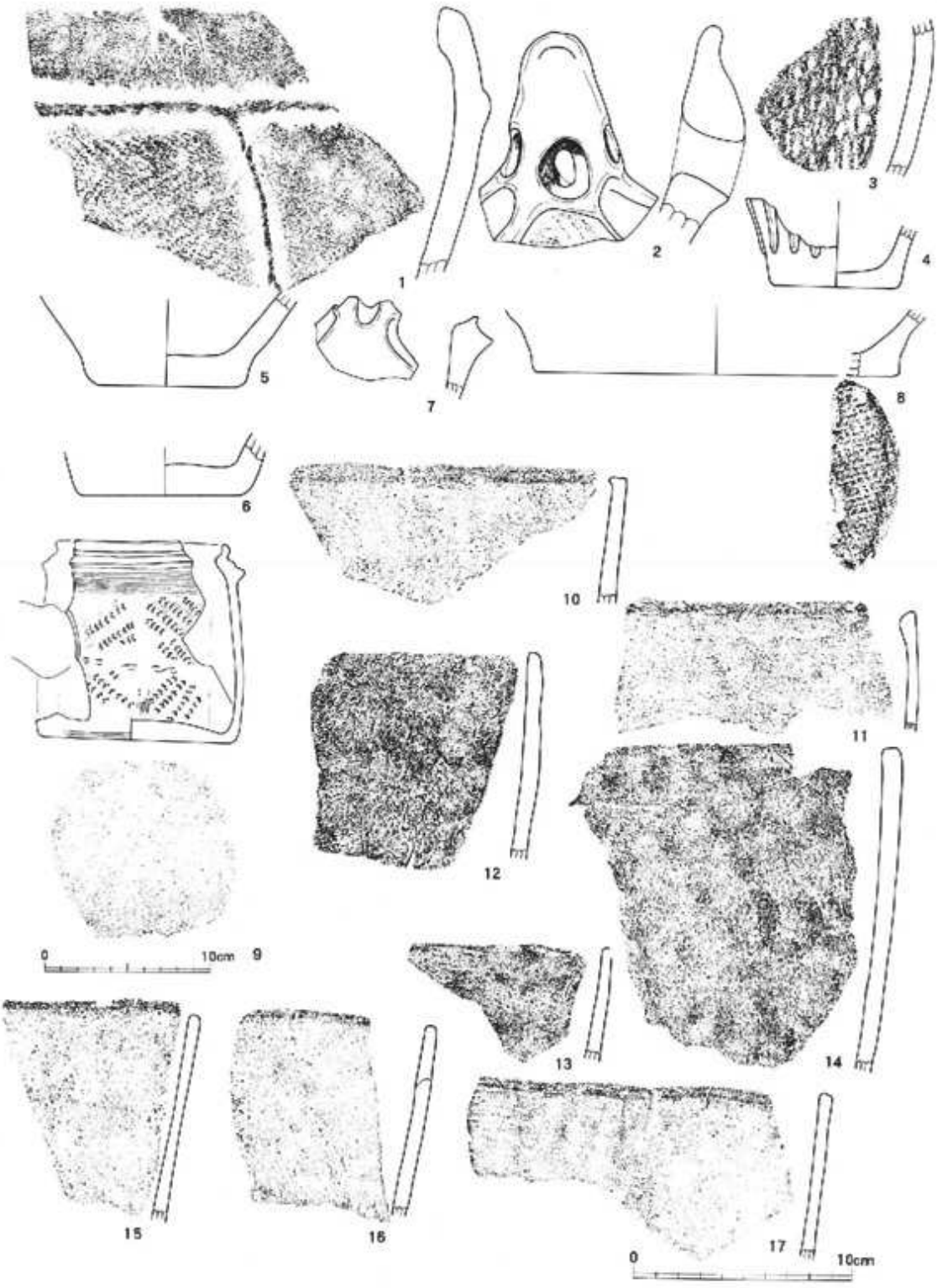
第199図　八千原遺跡B地区第20号（1～10）第21号（11～13）第23号（14）住居址出土遺物



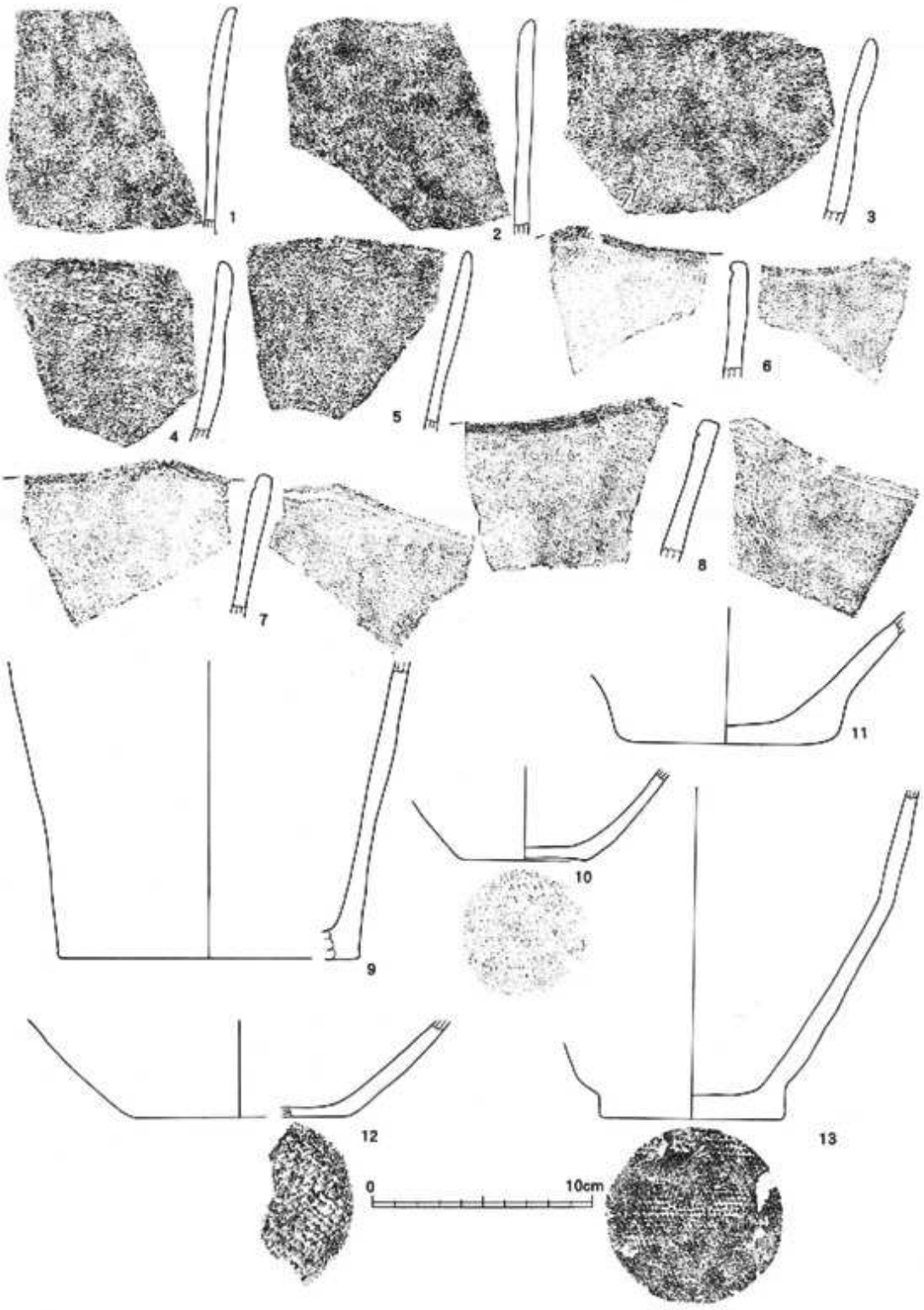
第200図　八千原遺跡B地区第23号（1～3）第24号（4）第25号（5～12））住居址出土遺物



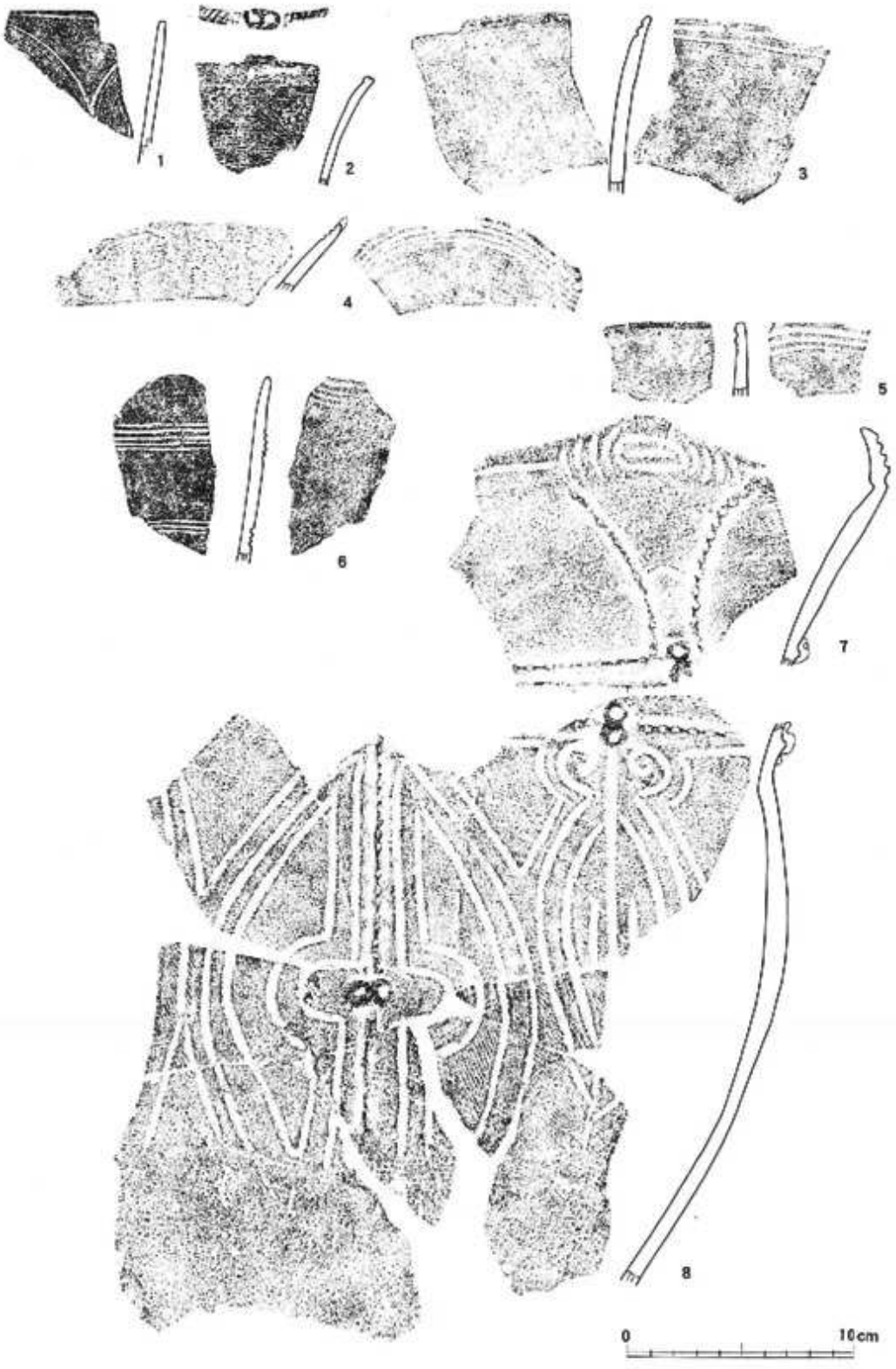
第201図　八千原遺跡B地区第25号（1）第26号（2,3）第28号（4）住居址出土遺物



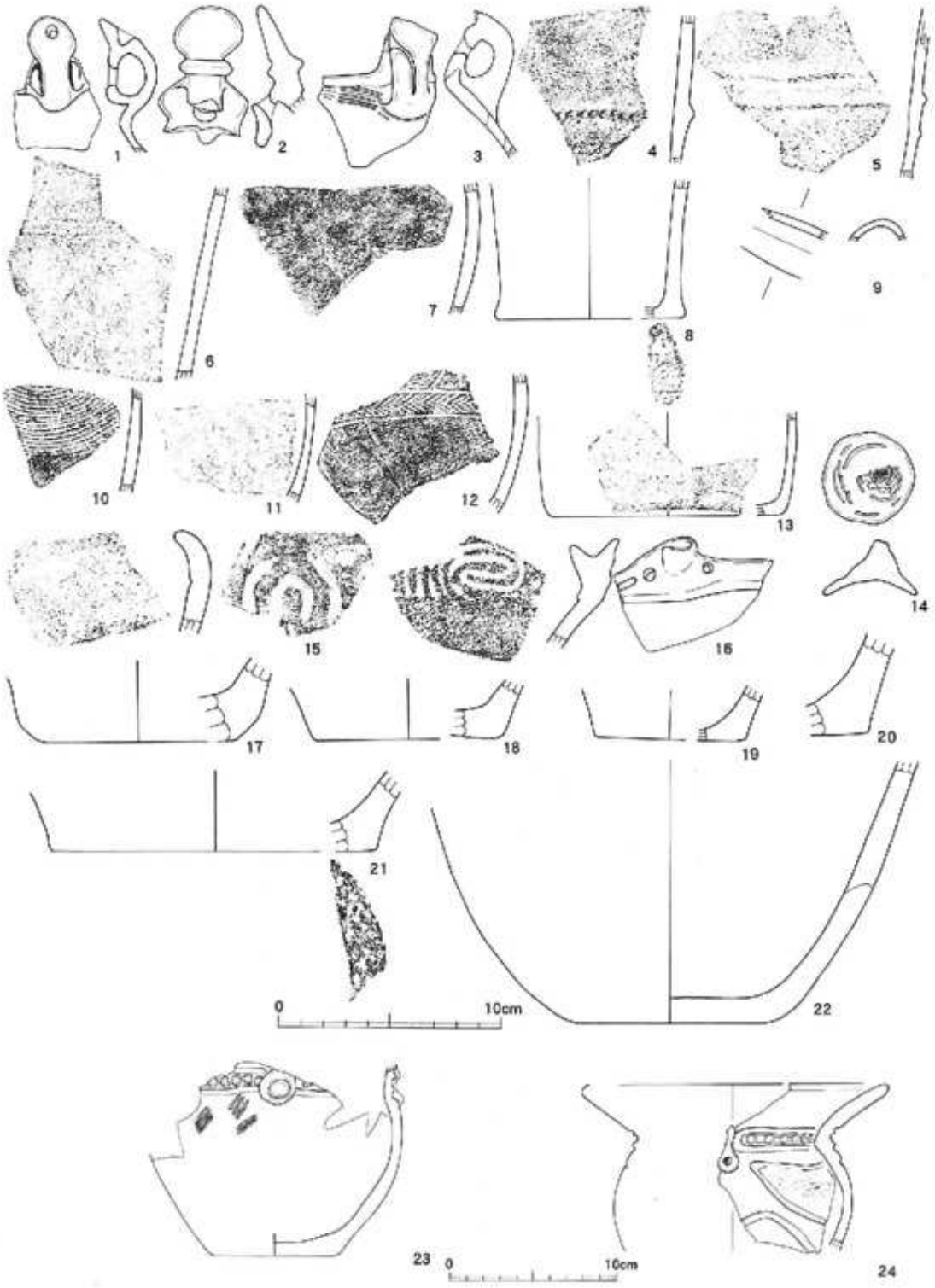
第202図　八千原遺跡B地区第28号（1～6）第29号（7,8）第30号（9～17）住居址出土遺物



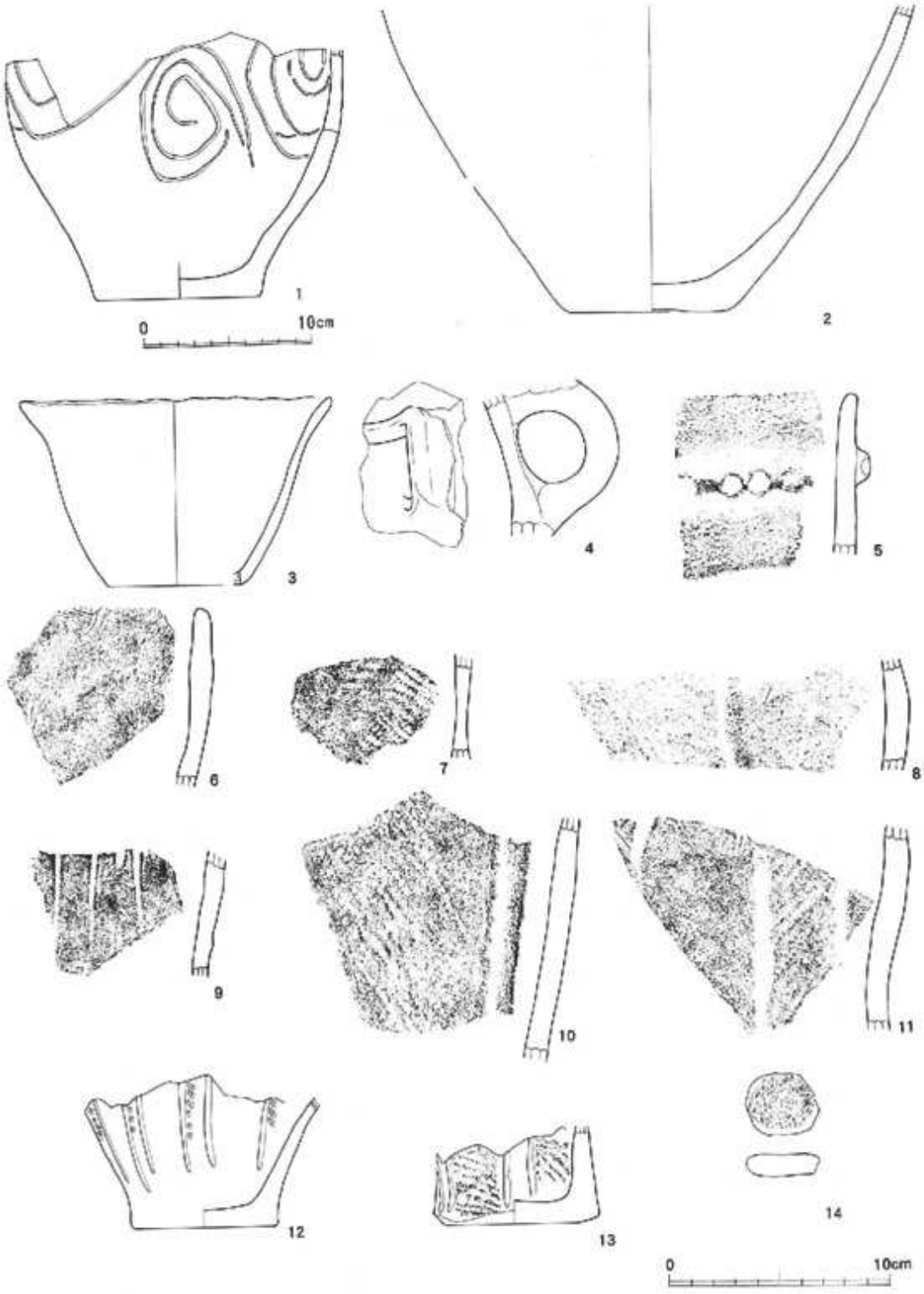
第203図　八千原遺跡B地区第30号（1～13）住居址出土遺物



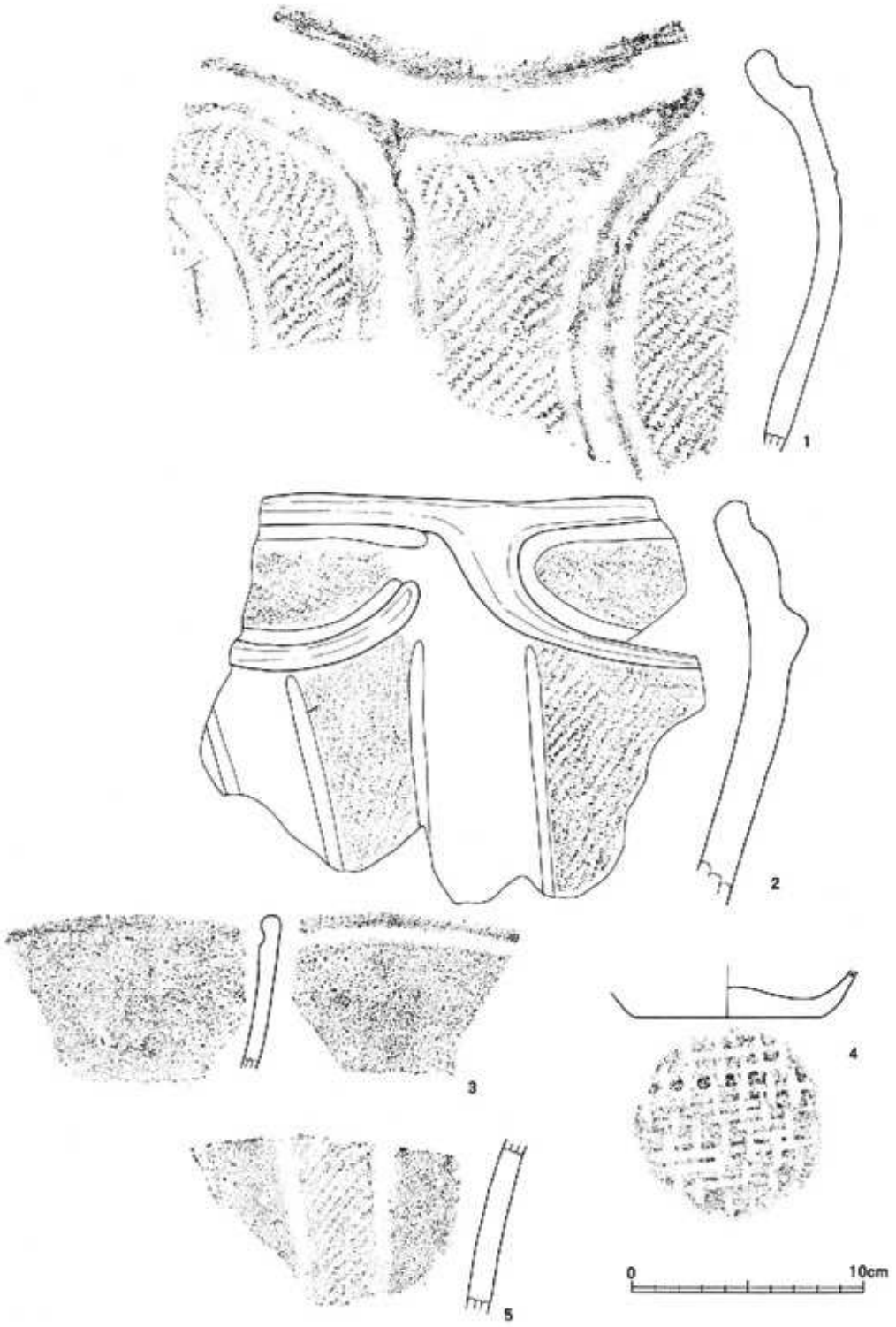
第204図　八千原遺跡B地区第30号（1～8）住居址出土遺物



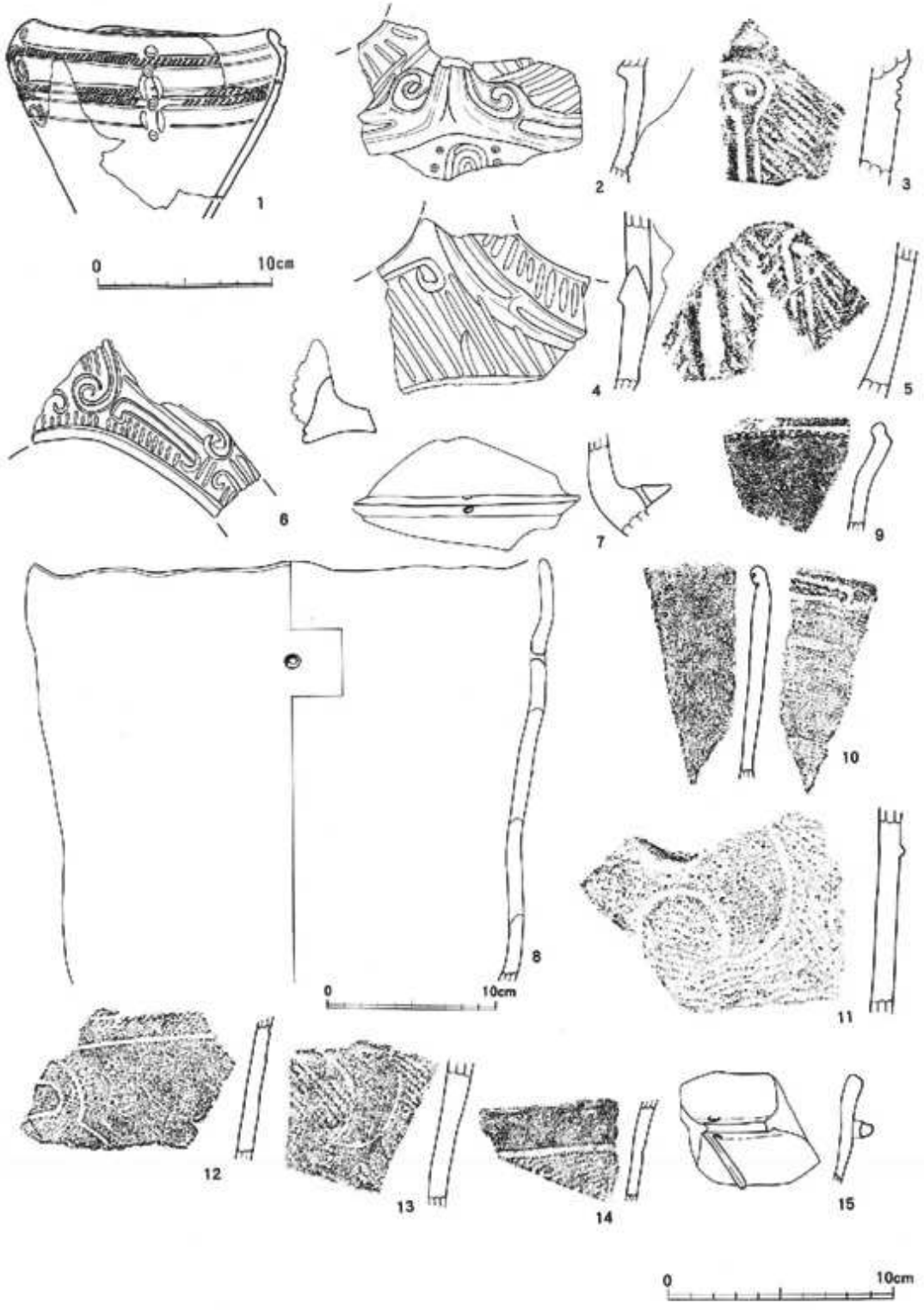
第205図　八千原遺跡B地区第30号（1～14）第31号（15～22）第33号（23,24）
住居址出土遺物



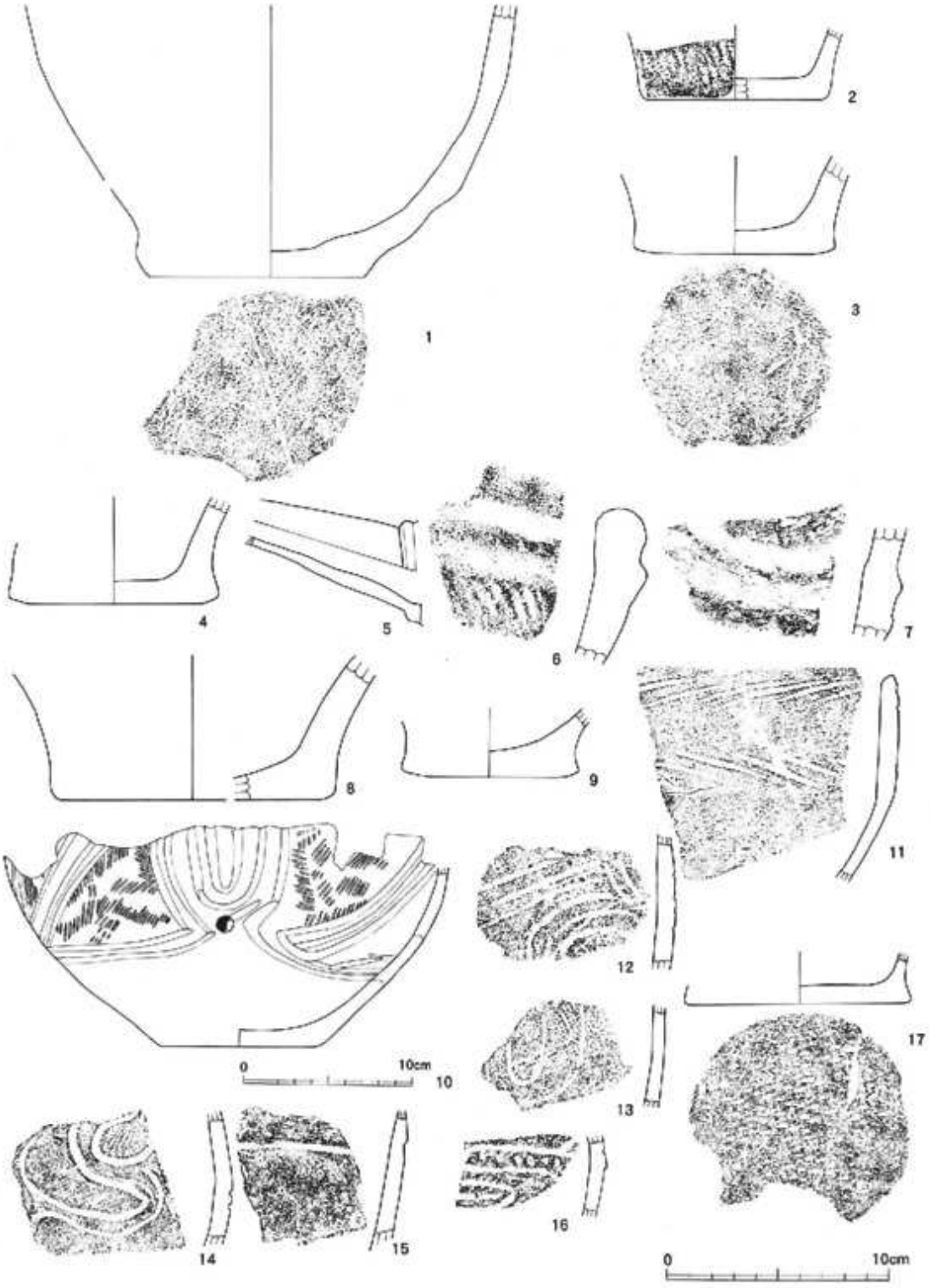
第206図　八千原遺跡B地区第33号（1,2）第35号（3）第37号（4,5）第38号（6～9）住居址
第1号（10～13）第2号（14）土壙出土遺物



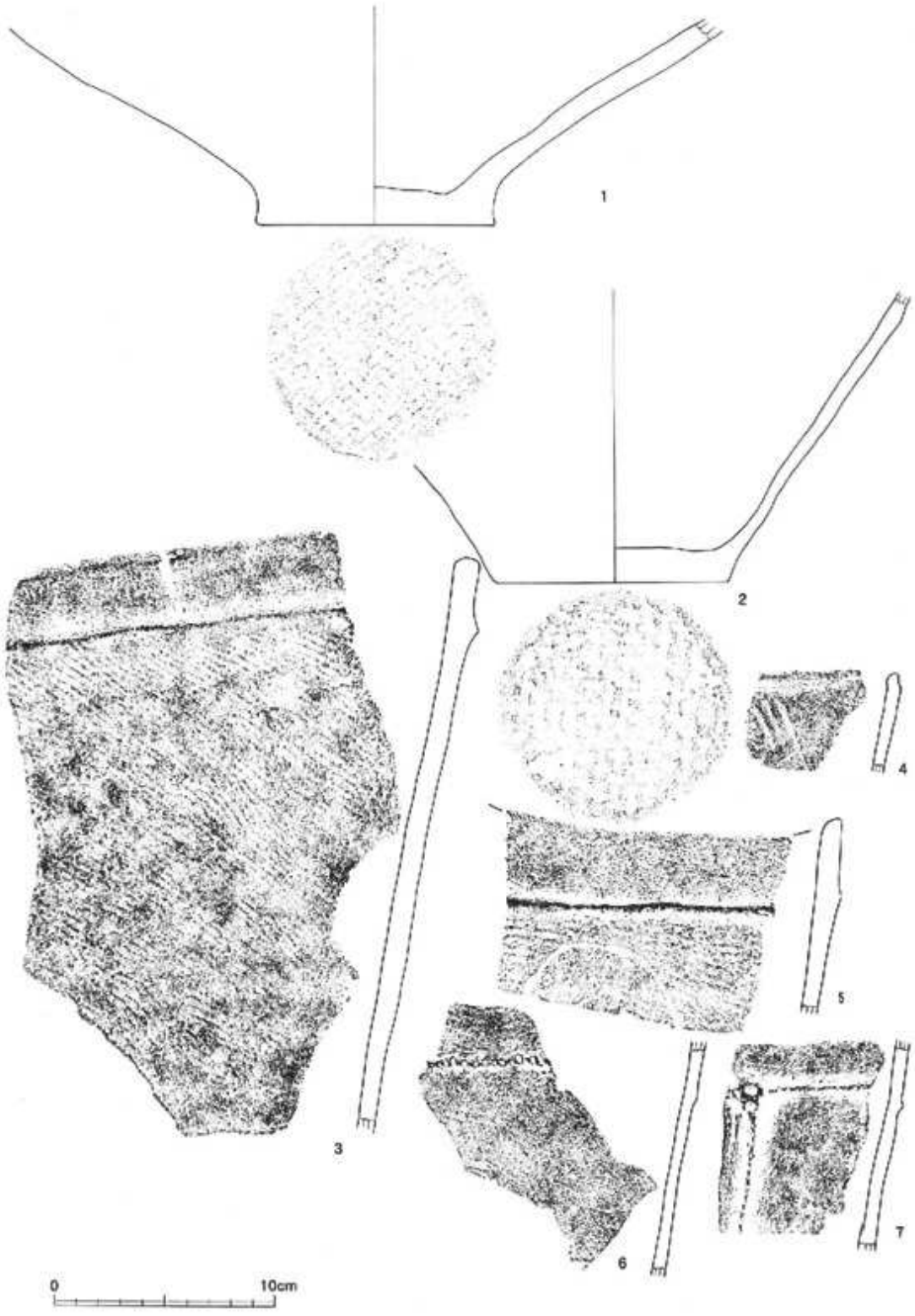
第207図　八千原遺跡B地区第3号（1）土壙、第1号（2～4）第2号（5）集石出土遺物



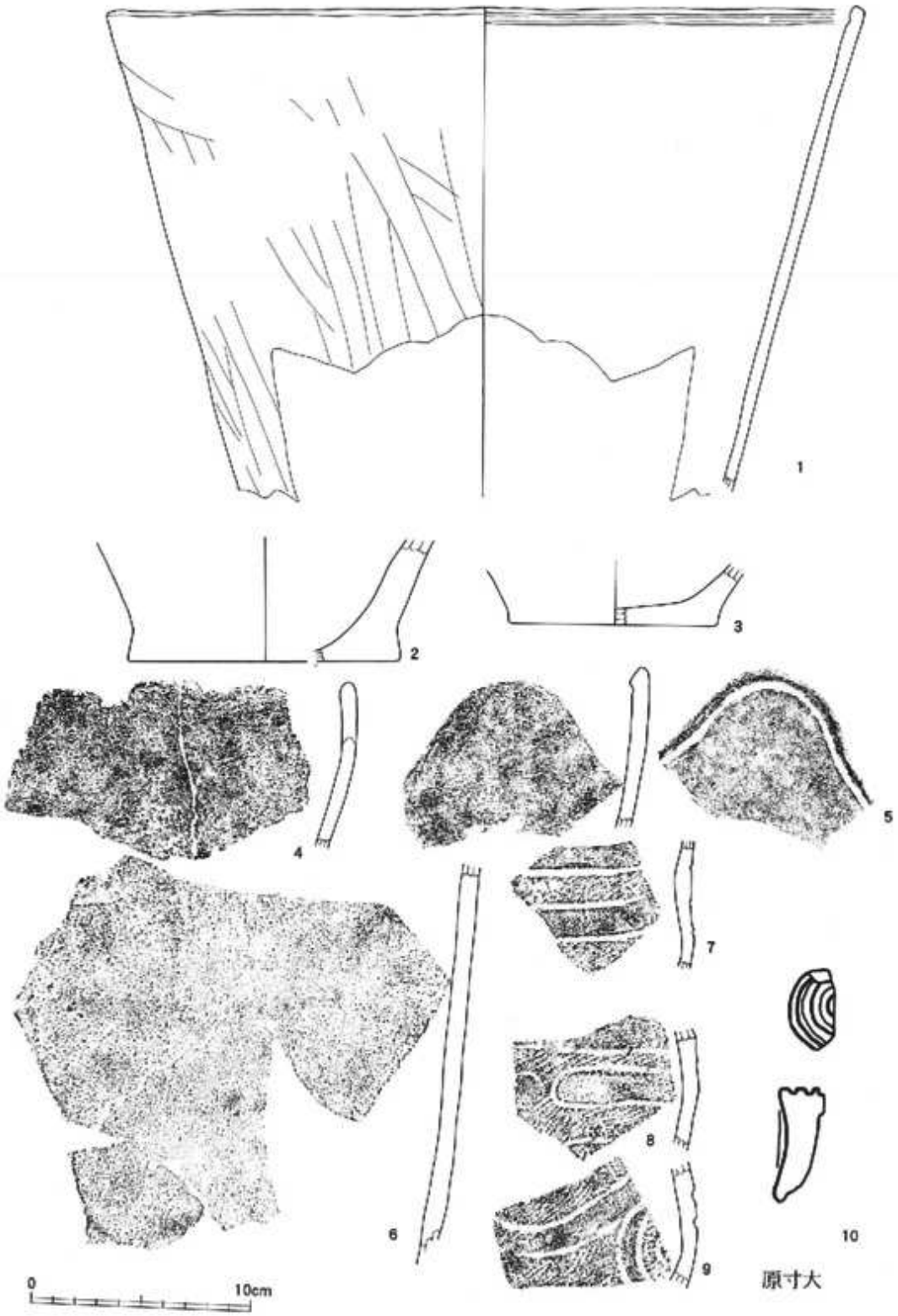
第208図　八千原遺跡C地区第1号（1）第2号（2～7）第3号（8～15）住居址出土遺物



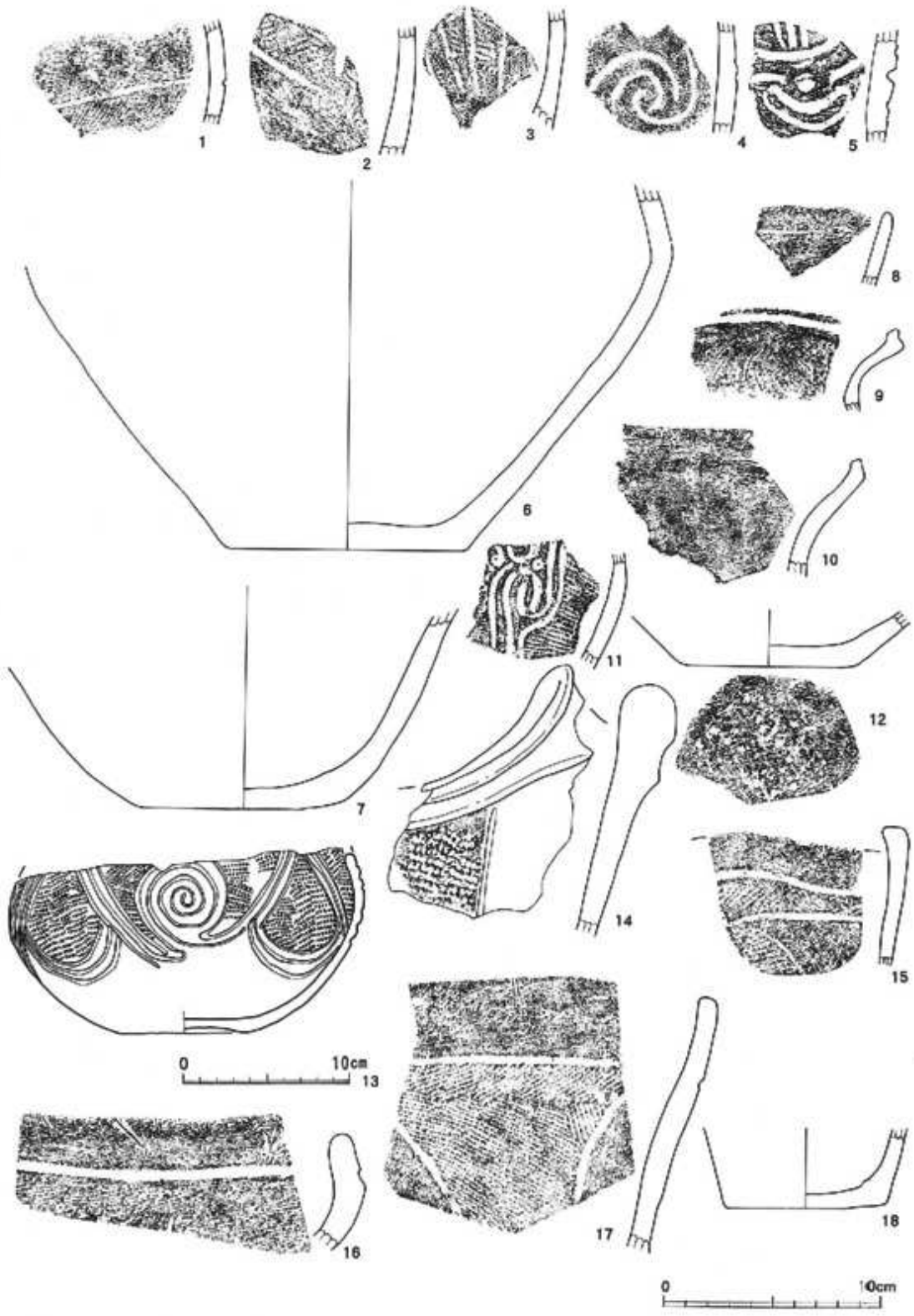
第209図　八千原遺跡C地区第3号（1～5）第4号（6～9）第5号（10～17）住居址出土遺物



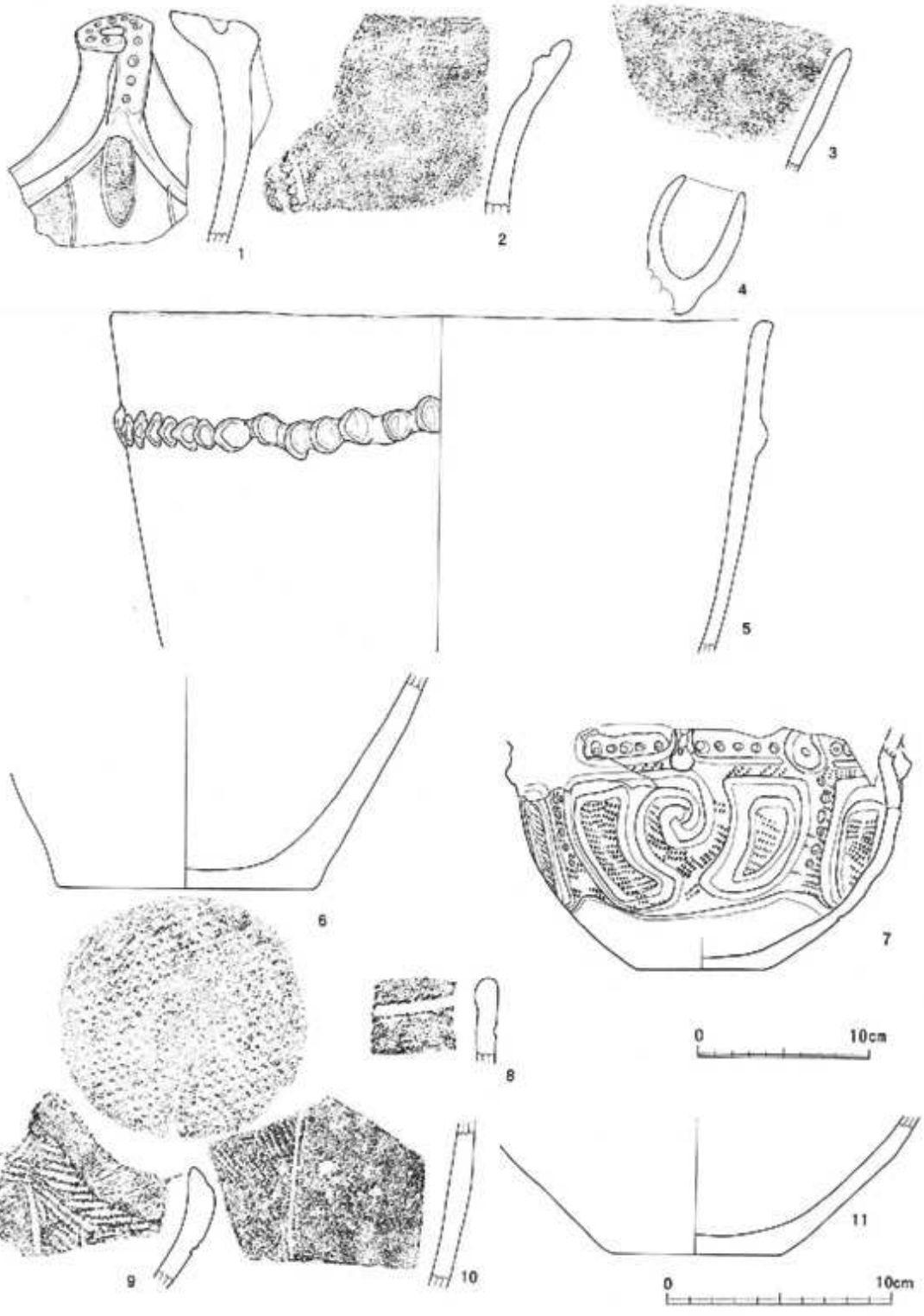
第210図　八千原遺跡C地区第5号（1,2）第6号（3～7）住居址出土遺物



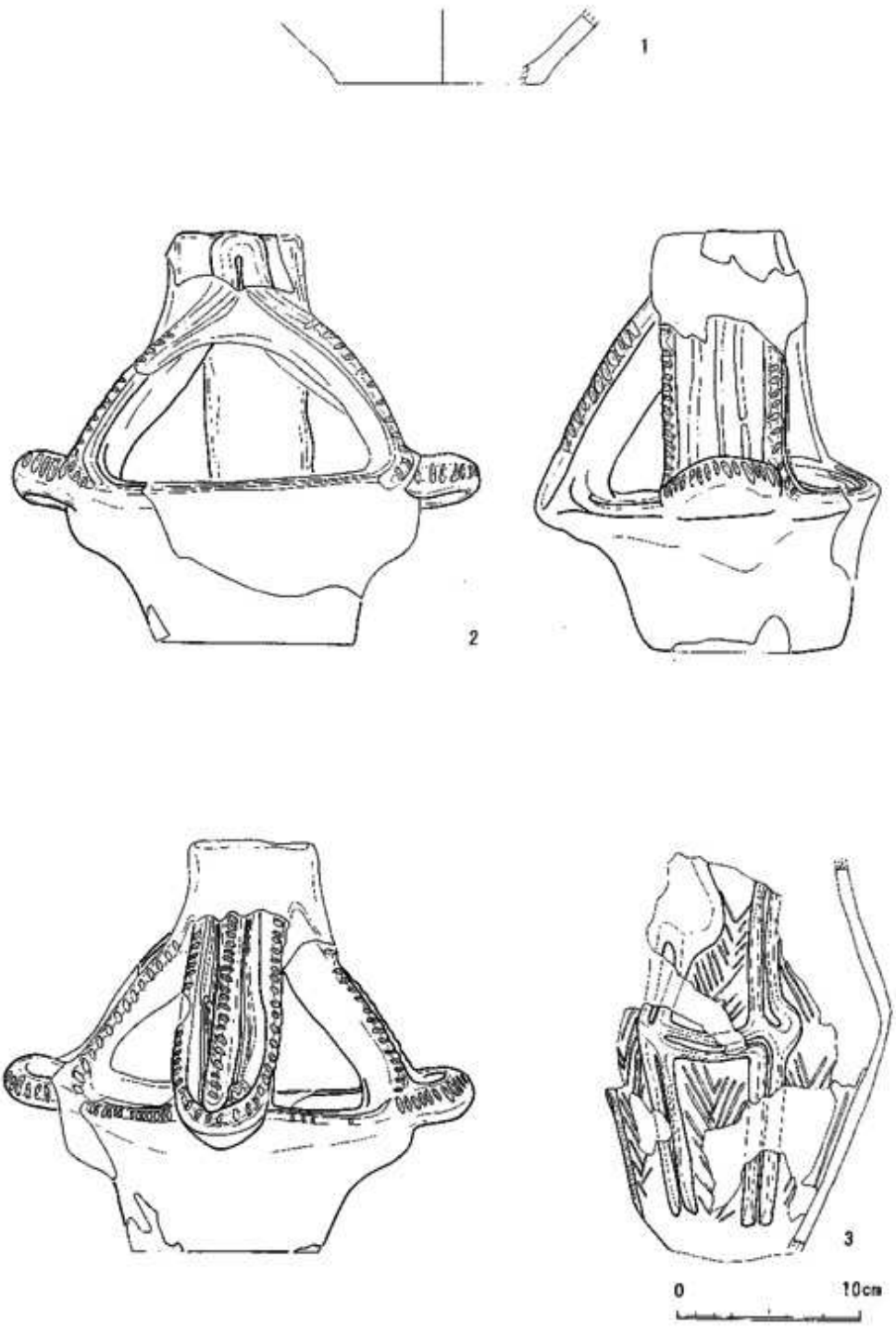
第211図　八千原遺跡C地区第6号（1～3）第7号（4～10）住居址出土遺物



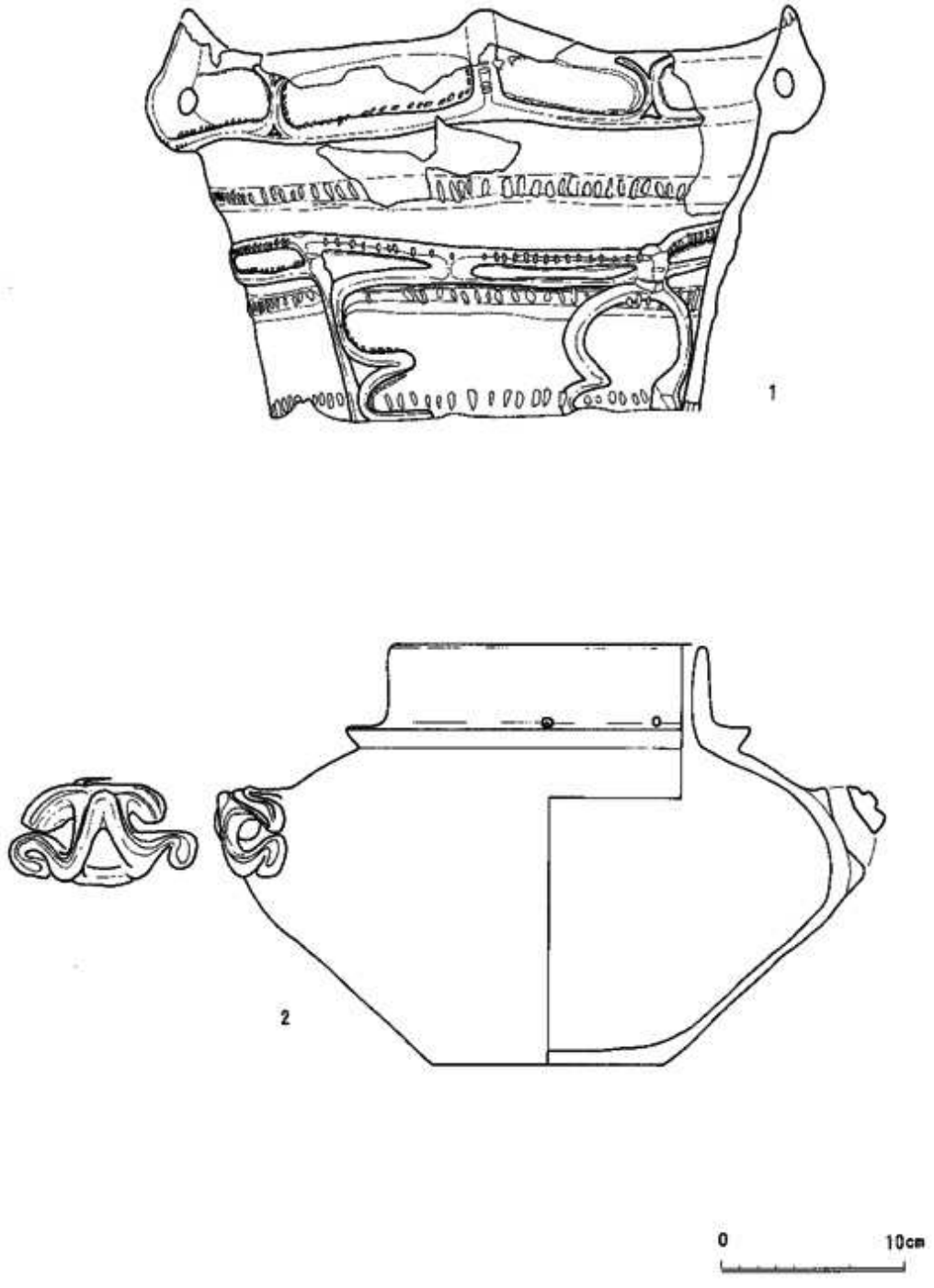
第212図　八千原遺跡C地区第8号（1～12）第9号（13）第10号（14～18）住居址出土遺物



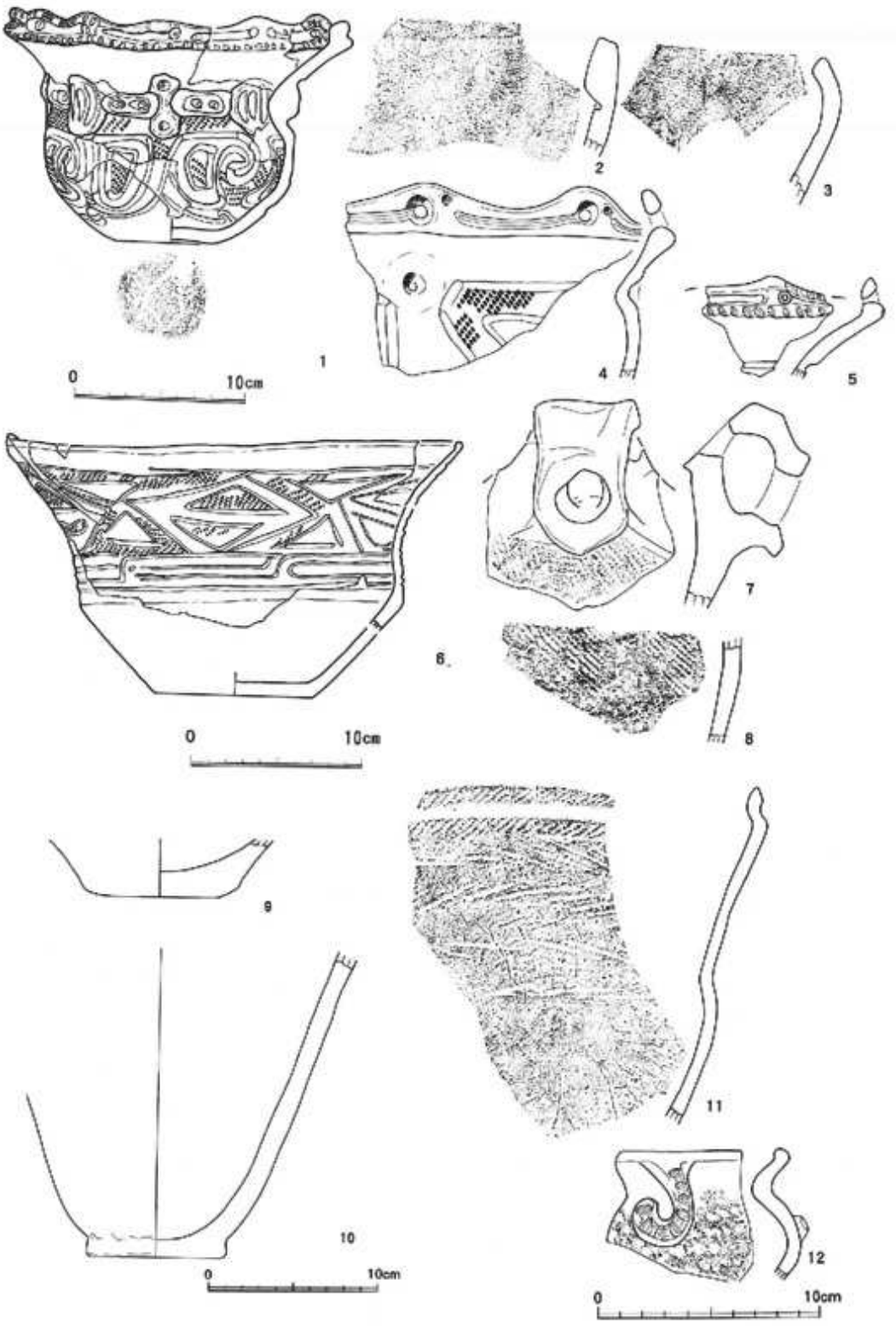
第213図　八千原遺跡C地区第10号（1～4）第11号（5,6）第12号（7,11）第13号（8～10）住居址出土遺物



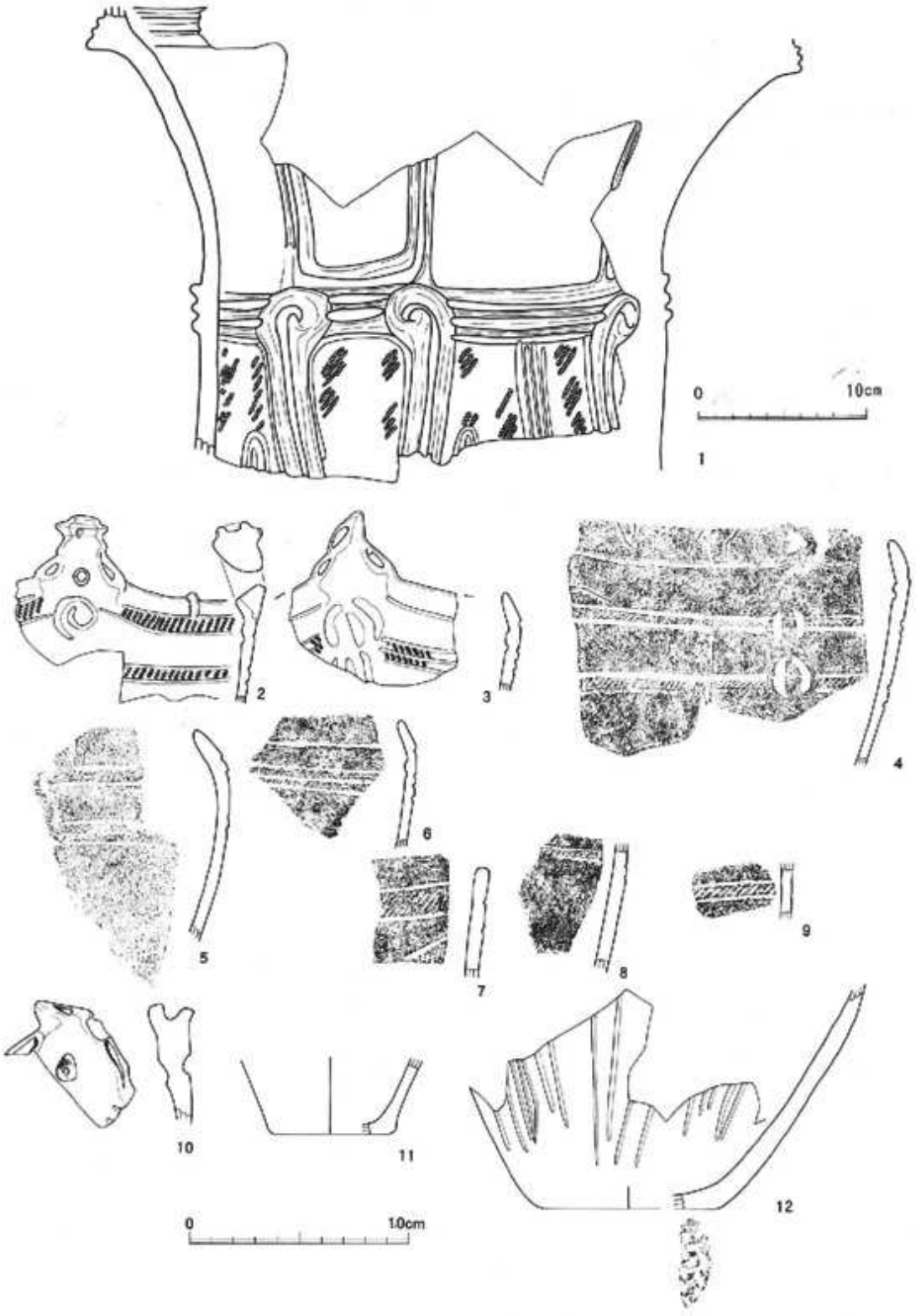
第214図　八千原遺跡C地区第13号（1）第14号（2,3）住居址出土遺物



第215図　八千原遺跡C地区第14号（1,2）住居址出土遺物



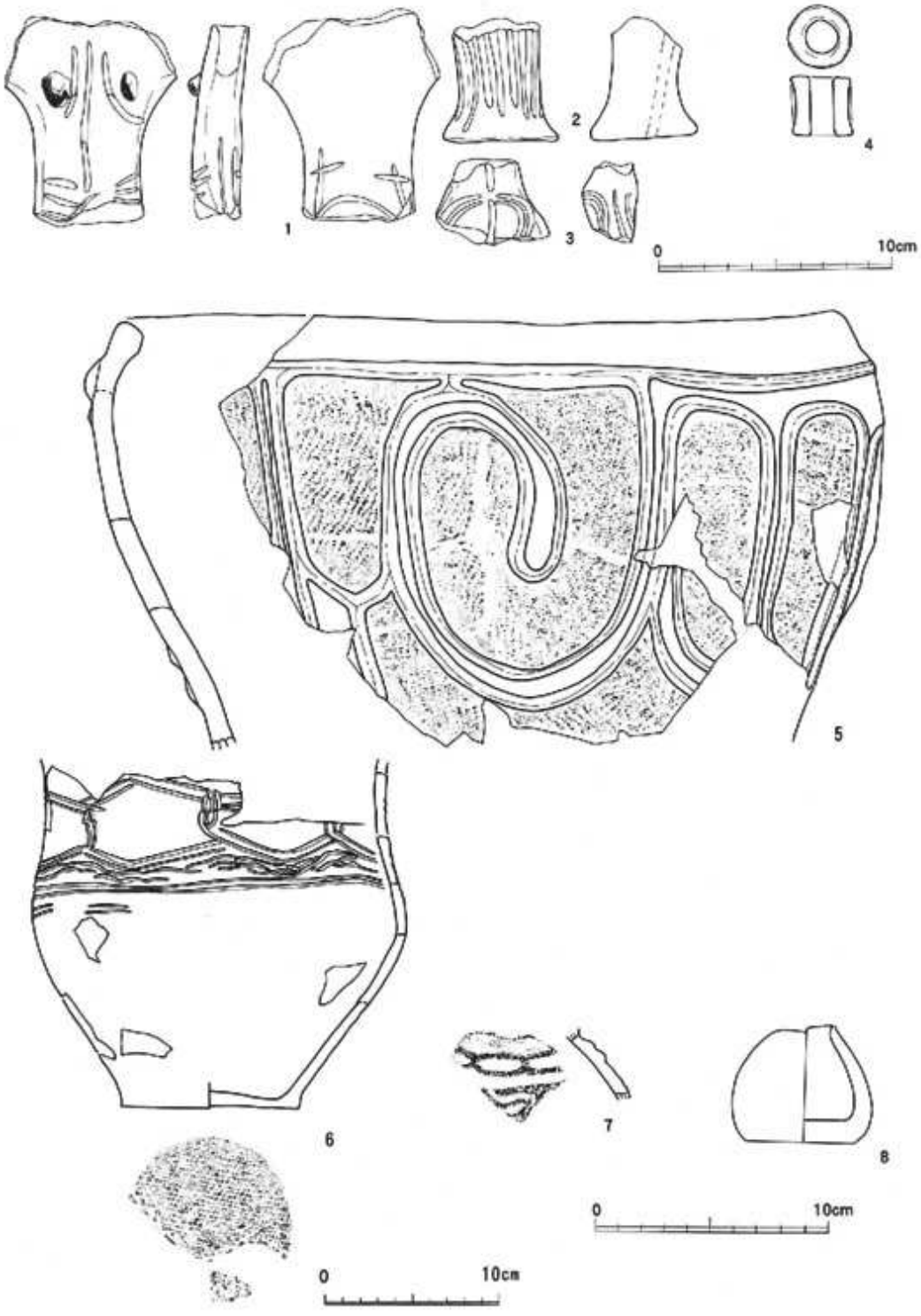
第216図　八千原遺跡C地区第16号（1～5）第17号（6）第18号（7～10）第19号（11,12）住居址出土遺物



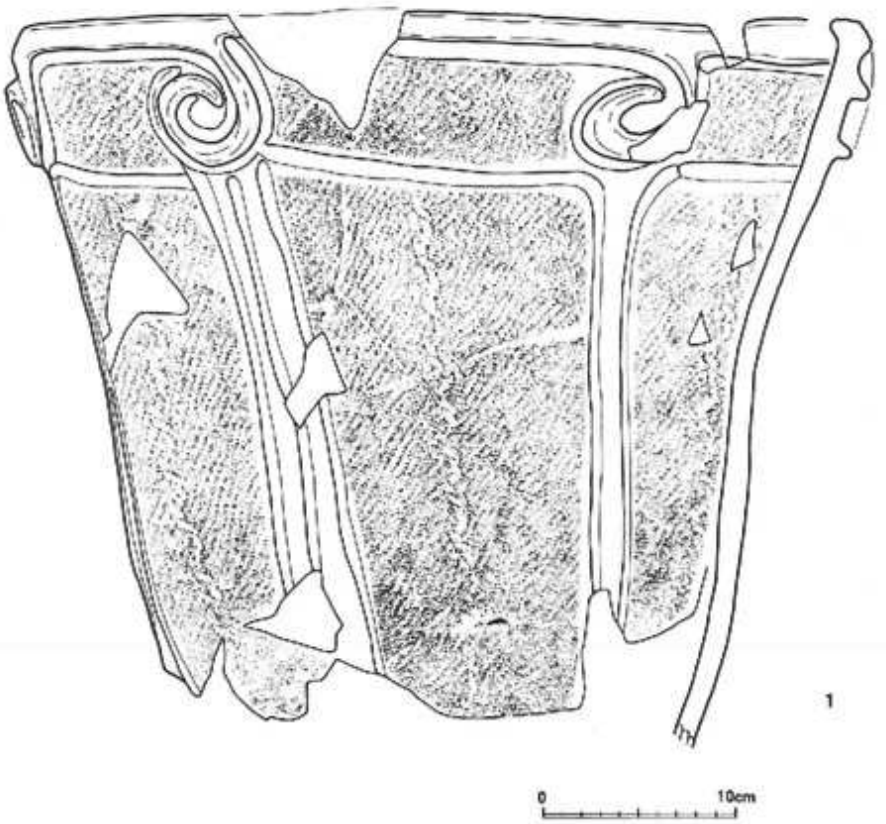
第217図　八千原遺跡C地区第20号(1)住居址、第3号(2～11) 第23号(12)土壙址出土遺物

原寸大

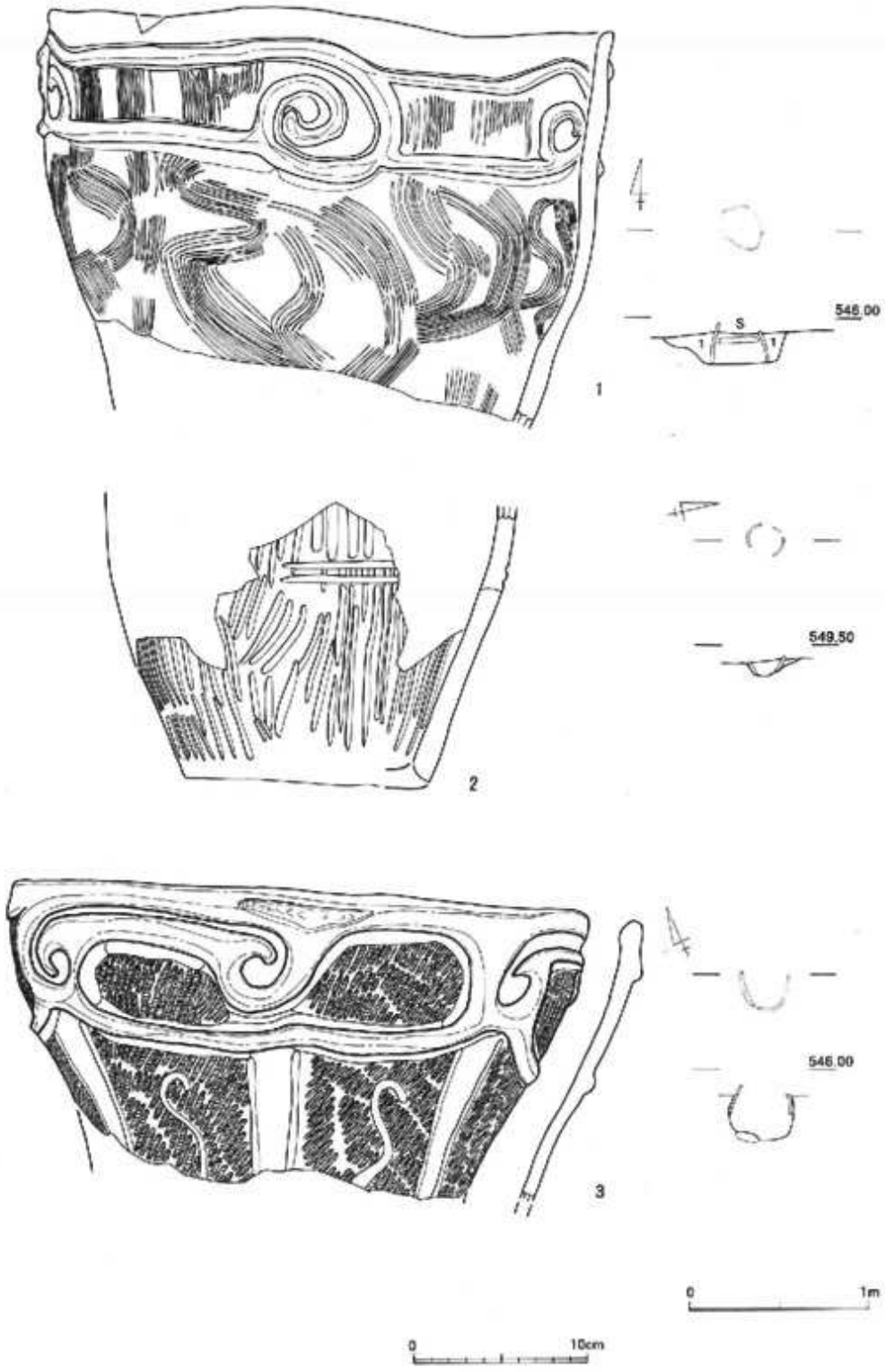
第218図　八千原遺跡C地区第5号（1）土壙A地区（2～8）遺構外出土遺物



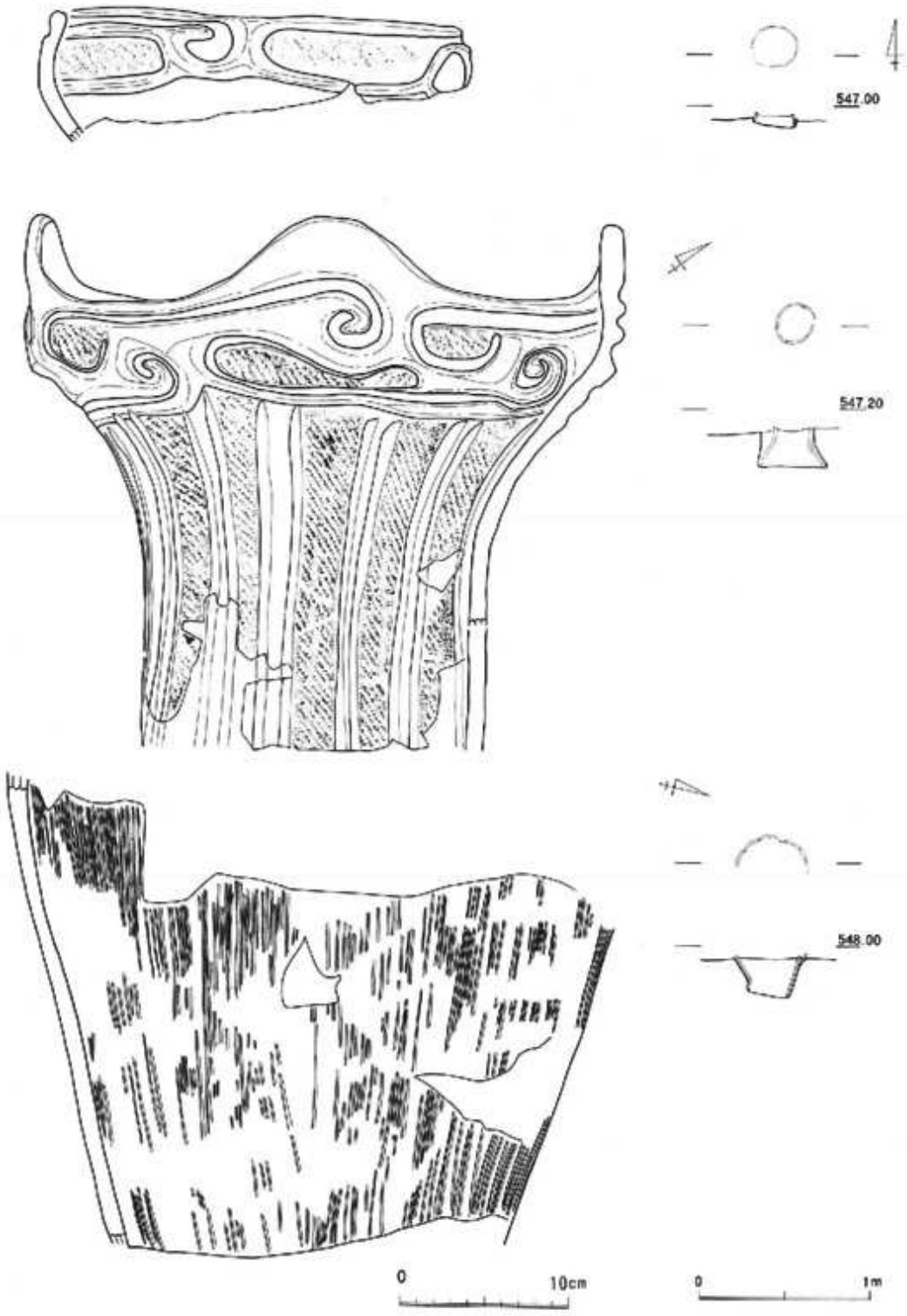
第219図　八千原遺跡A地区（1～4）B地区（5～7）C地区（8）遺構外出土遺物



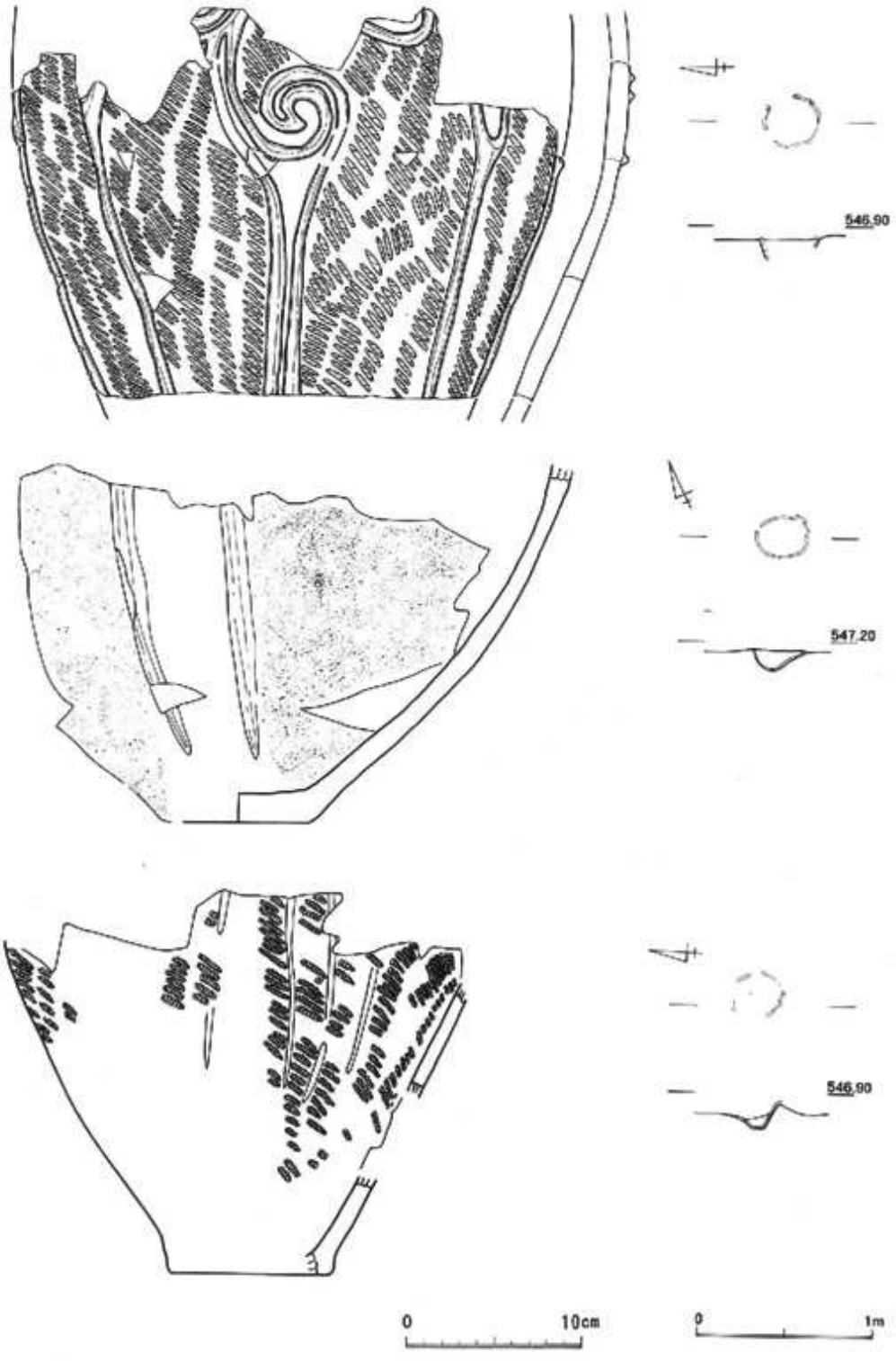
第220図　八千原遺跡Ａ地区第２号（1）埋甕址



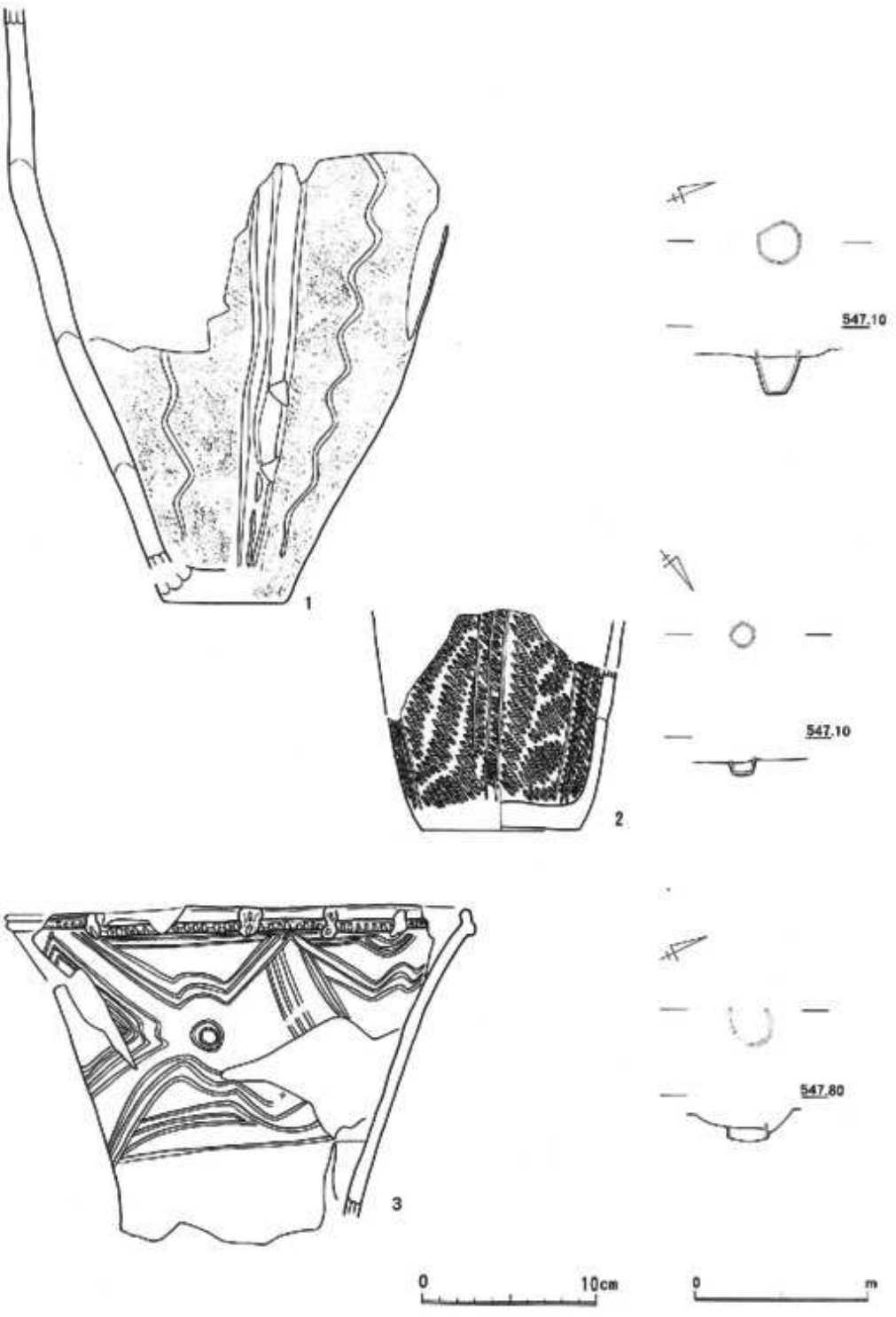
第221図　八千原遺跡A地区第1号（1）第3号（2）第7号（3）埋甕址



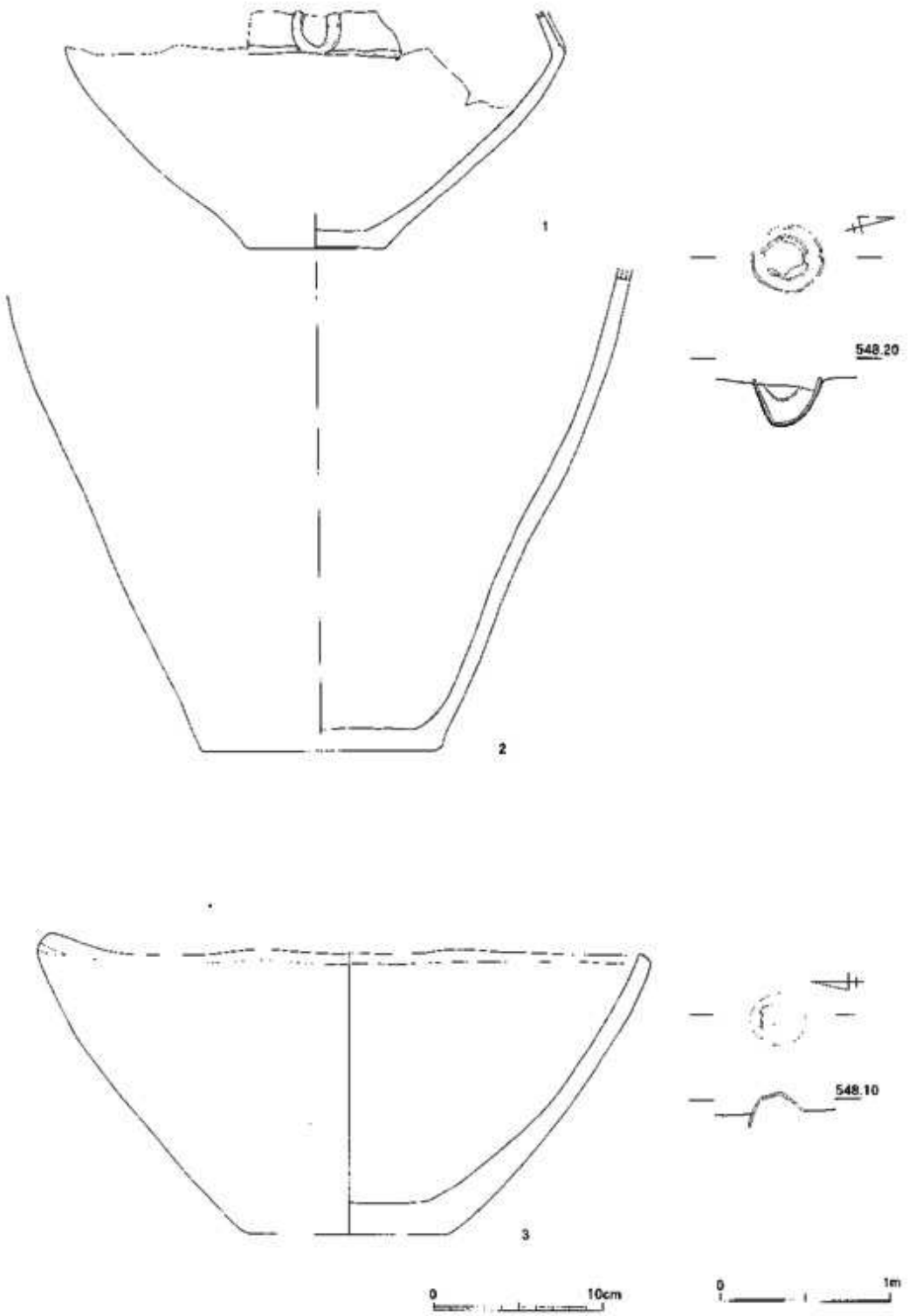
第222図　八千原遺跡B地区第1号（1）第2号（2）第3号（3）埋甕址



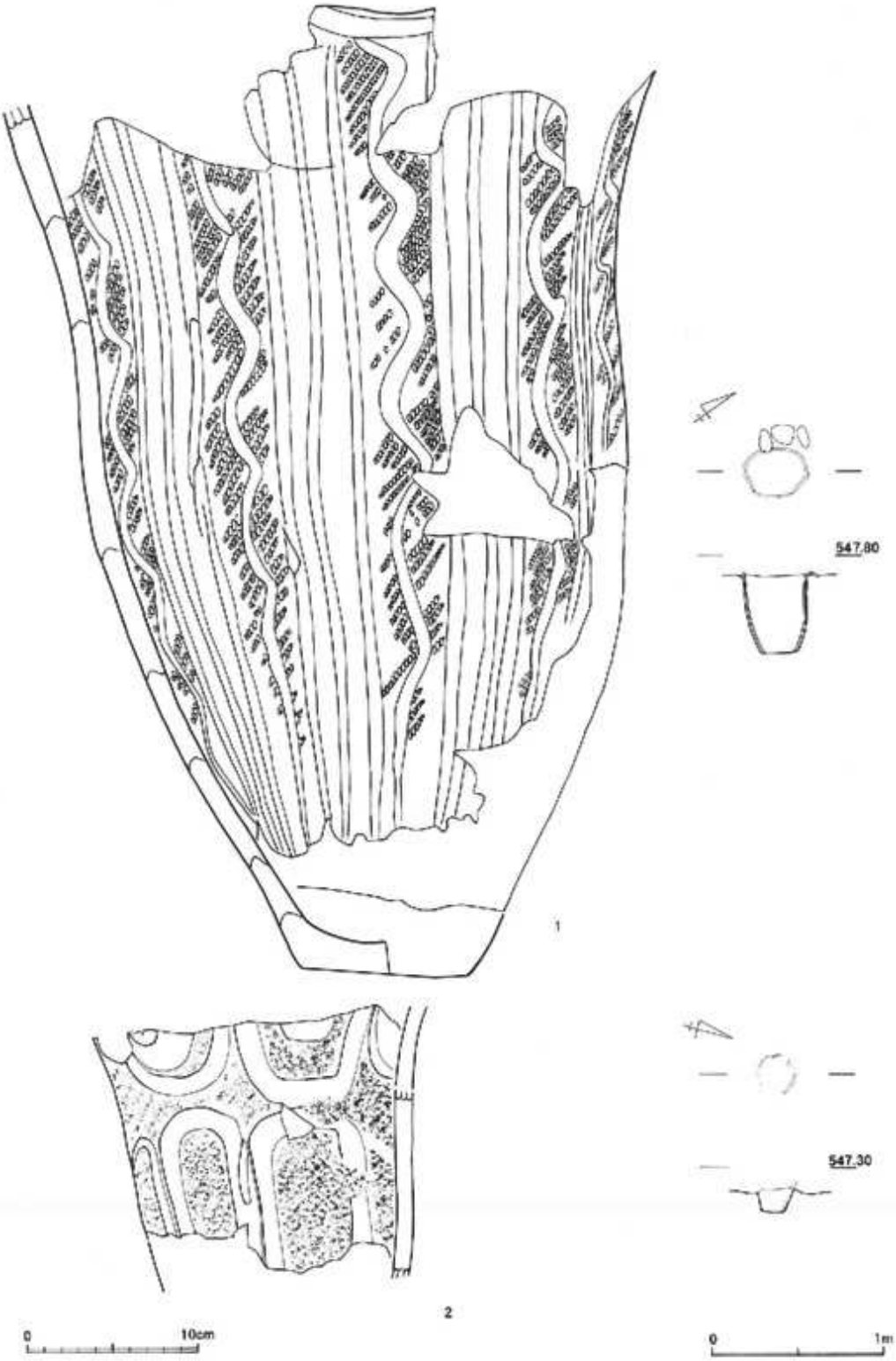
第223図　八千原遺跡B地区第4号（1）第5号（2）第6号（3）埋甕址



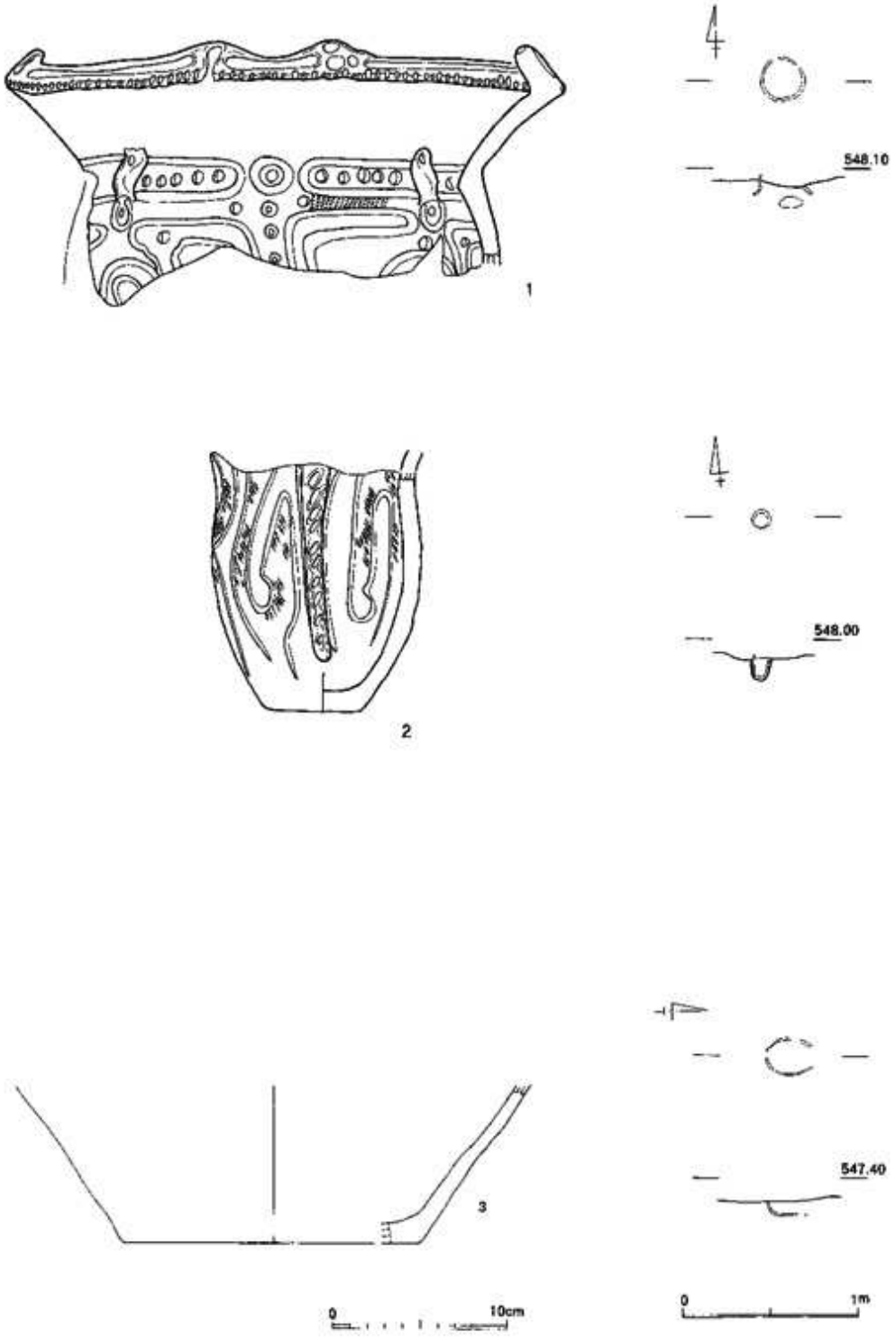
第224図　八千原遺跡B地区第7号（1）第8号（2）第9号（3）埋甕址



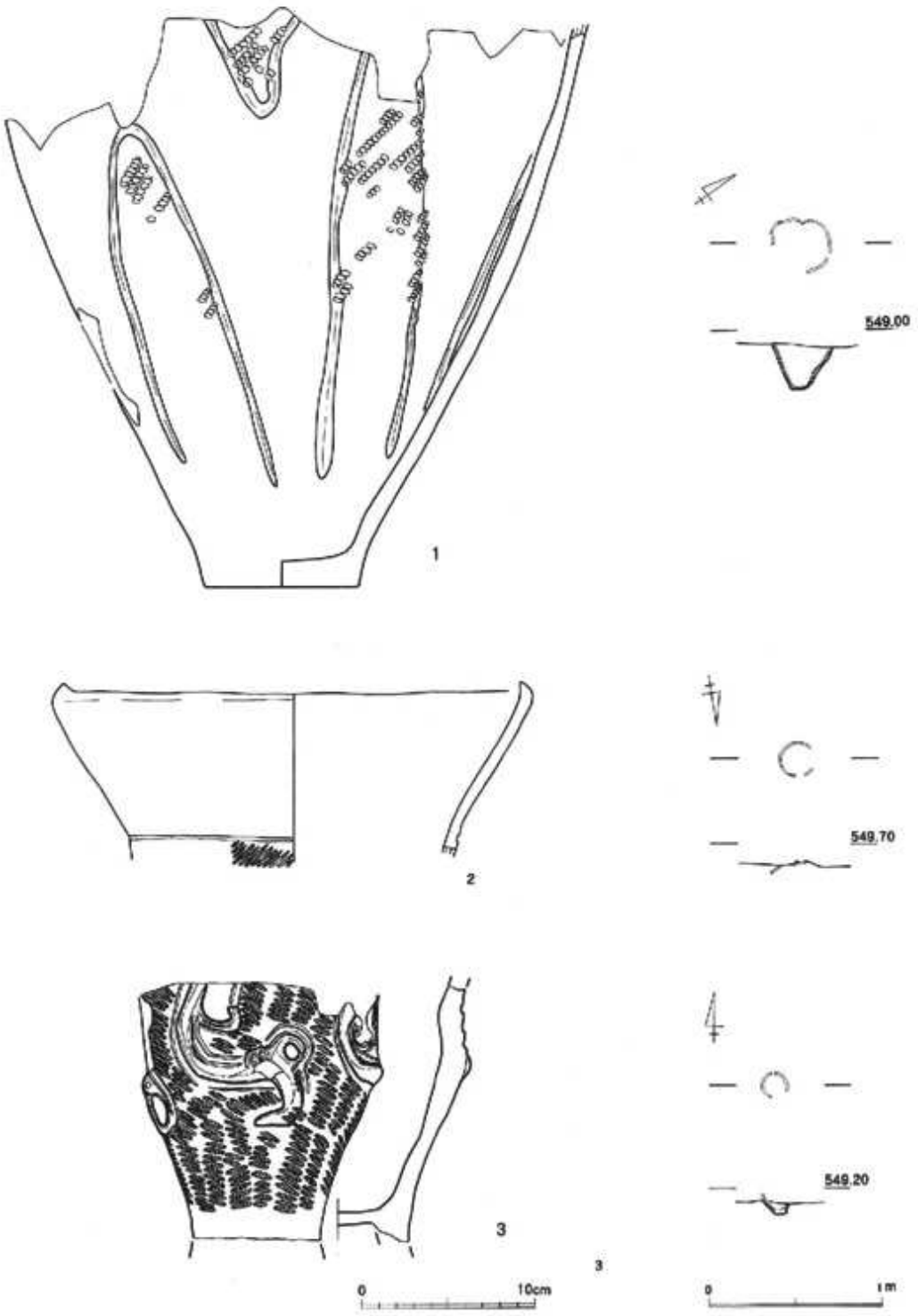
第225図　八千原遺跡B地区第10号（1,2）第13号（3）埋甕址



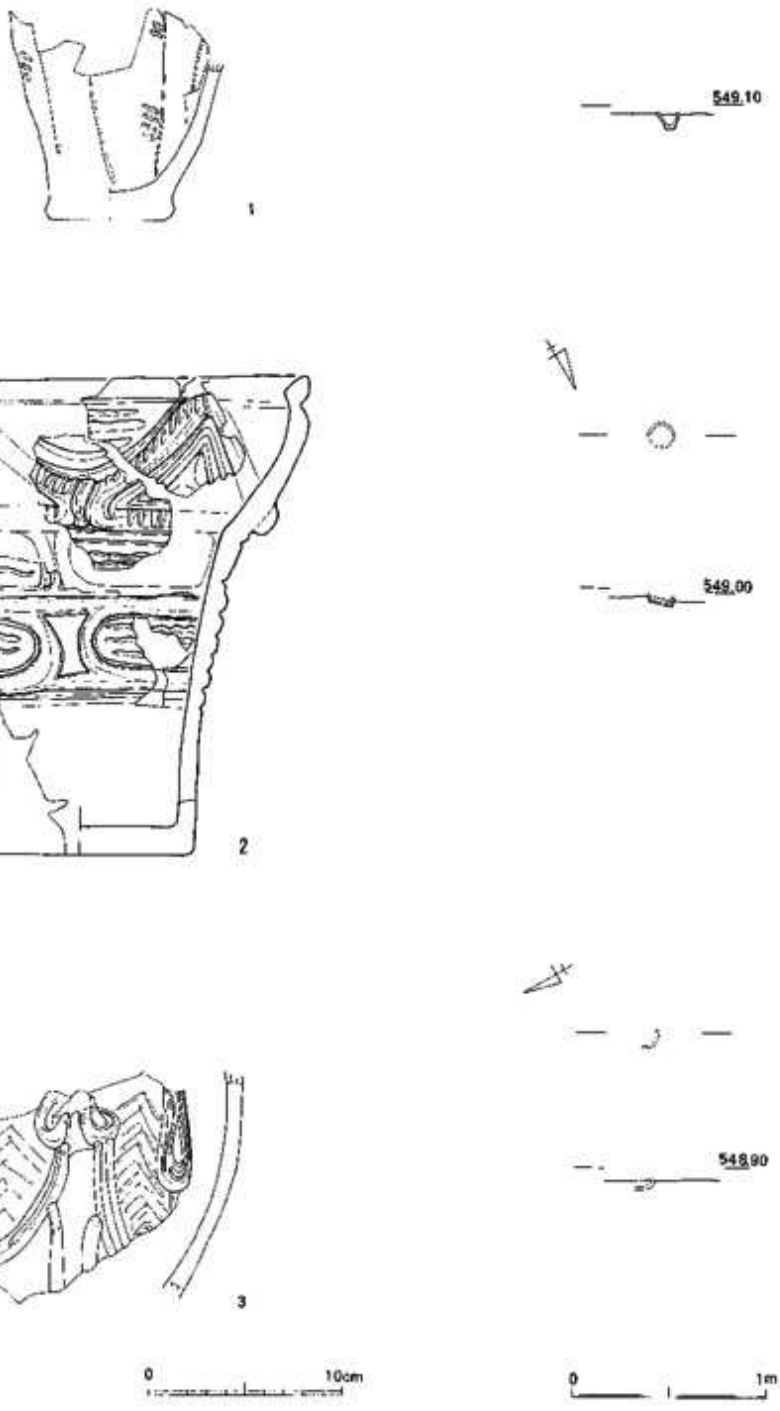
第226図　八千原遺跡B地区第11号（1）第12号（2）埋甕址



第227図　八千原遺跡B地区第14号（1）第15号（2）第19号（3）埋甕址



第228図　八千原遺跡C地区第1号（1）第4号（2）第6号（3）埋甕址



第229図　八千原遺跡C地区第7号（1）第8号（2）第10号（3）埋甕址

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－1号 住居址 第176図－1	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 口縁部	胎：粗砂粒、雲母、石英を多く含む 焼：良好 色：(内外) 5YR5／8明赤褐	口縁部はやや内湾する。	(外) (内) 撫で	
A－1号 住居址 第176図－2	深鉢 縄文	口径 残高7.8 底径 口縁部	胎：礫、石英を含む 焼：良好 色：(内外) 5YR5／6明赤褐	口縁部把手、渦巻状に隆帯を貼付けた後沈線を施す。	(外) (内)	
A－1号 住居址 第176図－3	深鉢 縄文	口径 残高4.5 底径 胴部	胎：石英、金雲母、細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 2.5YR5／6明赤橙		(外) (内)	
A－1号 住居址 第176図－4	深鉢 縄文	口径 残高5.7 底径 胴部	胎：石英、細砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	縦位の沈線、列状の刺突文。	(外) (内)	
A－1号 住居址 第176図－5	土偶 縄文	口径 残高4.8 底径 胴部	胎：石英、細砂粒を含む 焼：良好 色：(外内) 5YR5／4にぶい赤褐	縦位の沈線文。	(外) (内)	
A－1号 住居址 第176図－6	土偶 縄文	口径 残高5.2 底径 胴部	胎：礫、石英、金雲母含む 焼：良好 色：(外内) 5YR6／6橙	沈線と連続した刺突文。	(外) (内)	
A－2号 住居址 第176図－7	深鉢 縄文	口径 残高 底径8.5 胴部	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい橙 (内) 5YR6／6橙	磨消縄文構成。LR縄文回転の後、沈線による区画文を施す。	(外) (内) 撫で	
A－3号 住居址 第176図－8	たる 縄文	口径 残高12.5 底径 胴部	胎：石英、金雲母 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	横位の2本1組の沈線の間に連続した刺突文が施される。	(外) (内)	
A－4号 住居址 第176図－9	深鉢 縄文	口径14.8 器高18.5 底径 5.5 完形	胎：粗砂粒、雲母、長石を多く含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 5YR3／3極暗赤褐	口唇部に顎を有する。胴部は隆帯の区画文により4分割され区画内に蛇行沈線及び鋸歯状の短い沈線が施される。	(外) (内)	
A－4号 住居址 第176図－10	深鉢 縄文	口径14.8 残高16.5 底径 胴部	胎：礫、金雲母、石英含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁部内面に段を有する。隆帯に刻み目、地に単節縄文が施される。	(外) (内)	
A－4号 住居址 第176図－11	深鉢 縄文	口径 残高6.7 底径 胴部	胎：金雲母、石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐		(外) (内)	
A－4号 住居址 第176図－12	深鉢 縄文	口径 残高9.0 底径 胴部	胎：粗砂粒、金雲母含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／1褐灰		(外) (内)	
A－4号 住居址 第177図－1	深鉢 縄文	口径 残高10.5 底径 胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／3浅黄 (内) 10YR6／3にぶい黄橙	LR縄文を回転する。	(外) (内)	
A－4号 住居址 第177図－2	深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径 胴部	胎：粗砂粒、石英、雲母含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR4／4褐	LR縄文を回転する。	(外) (内)	

第27表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－4号 住居址 第177図－3	深鉢 縄文	口径 残高3.0 底径7.8 底部	胎：粗砂粒、石英含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／2灰褐	平底より立ち上がる。	(外) (内) 磨耗り	
A－4号 住居址 第177図－4	深鉢 縄文	口径 残高4.8 底径7.2 底部	胎：石英、金雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／6赤褐 (内) 2.5YR2／2極暗赤褐	平底より立ち上がる。	(外) (内)	
A－4号 住居址 第177図－5	深鉢 縄文	口径 残高12.0 底径 胴部	胎：粗砂粒を多く含む 焼：良好 色：(外内) 5YR5／6明赤褐	平底より立ち上がり、直線的に上へ向かって開く胴部に移行する。	(外) (内)	
A－5号 住居址 第177図－6	深鉢 縄文	口径 残高9.5 底径 胴部	胎：石英、金雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R5／6赤 (内) 10R2／1赤黒	口縁部に沈線の楕円形区画文と渦巻文、胴部を2本1組の沈線が垂下し、RL縄文を縦に回転し、区画内並行沈線文。	(外) (内)	
A－5号 住居址 第177図－7	深鉢 縄文	口径 残高14.5 底径6.5 底部～胴部	胎：礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR6／1褐灰	垂下する2条の沈線が胴部を分割し、RL縄文を回転する。	(外) (内)	
A－6号 住居址 第177図－8	深鉢 縄文	口径 残高 底径 口縁～胴部	胎：石英、粗砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(外内) 5YR4／6赤褐	口縁部ヒネリ状隆帯垂下4分割、楕円形区画内交互刺突文及び斜位の沈線、胴部渦巻状隆帯4単位及び斜位の沈線	(外) (内) 磨耗り	
A－7号 住居址 第177図－9	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 口縁部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR6／6橙	隆帯と箆による斜線文による構成。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第177図－10	深鉢 縄文	口径 残高 底径9.0 胴部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3明赤褐 (内) 2.5YR4／3橙	腕骨状H状懸垂文と箆による斜線文による構成。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－1	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 胴部	胎：石英、雲母含む 焼：良好 色：(外) 10R5／6にぶい赤褐 (内) 10R4／3にぶい赤褐	隆帯と斜線文。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－2	深鉢 縄文	口径 残高6.5 底径 胴部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 2.5YR5／6明赤褐	腕骨状H状懸垂文と箆による斜線文、キザミ隆帯による構成。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－3	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 胴部	胎：微砂粒、雲母含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR4／3褐	隆帯と沈線による渦巻き文と交互刺突文による構成。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－4	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R4／4赤褐 (内) 10R4／3赤褐	腕骨状H状懸垂文と箆による斜線文。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－5	深鉢 縄文	口径 残高4.2 底径 口縁部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／2灰白	小渦文。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－6	深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 胴部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R4／6赤 (内) 2.5YR6／6橙	口縁に平行にキザキ隆帯がめぐり、胴部にLR縄文が回転される。	(外) (内)	

第28表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－7号 住居址 第178図－7	深鉢 縄文	口径 残高9.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	口縁部外側に緩い稜を持って微妙に屈曲する。横位のキザミ隆帯と隆帯による構成。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－8	深鉢 縄文	口径 残高9.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR7／4淡赤褐	隆帯の渦巻文。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－9	深鉢 縄文	口径 残高3.0 底径 口縁部	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／1灰白	口縁部屈曲して外反し、口唇部に稜を持つ。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－10	深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	堵状突起の把手。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－11	深鉢 縄文	口径 残高8.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／2褐灰	堵状突起の把手。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－12	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR4／4にぶい赤褐	堵状突起の把手。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－13	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 底部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／4にぶい赤褐	平底。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－14	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	平底。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－15	深鉢 縄文	口径 残高3.6 底径 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R4／4赤褐 (内) 2.5YR5／4にぶい赤褐	平底。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第178図－16	深鉢 縄文	口径 残高2.3 底径 底部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R3／6暗赤 (内) 2.5YR5／4にぶい赤褐	平底。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第179図－1	土製 円盤 縄文	平面3.8 ×4.2 厚さ1.0	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR4／6褐	円文区画LR縄文回転。	(外) (内)	
A－7号 住居址 第179図－2	土偶 縄文	残高7.2 厚さ2.8 脚部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内)		(外) (内)	
A－8号 住居址 第179図－3	深鉢 縄文	口径 残高16.5 底径 口縁部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	口縁部施状工具による沈線の渦巻連弧文、胴部2本の沈線による懸垂文を施す。LR縄文を縦、横に回転する。	(外) 指で (内) 指で	
A－8号 住居址 第179図－4	深鉢 縄文	口径 残高20.0 底径 胴部～底部	胎：細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR6／2灰褐	3本の沈線垂下による胴部8分割、区画内RL縄文回転。	(外) (内)	

第29表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－8号 住居址 第179図－5	深鉢 縄文	口径 残高23.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	頸部に弱いくびれを持つ。隆線による渦巻文、懸垂文。区画内LR縄文回転。	(外) (内)	
A－8号 住居址 第179図－6	深鉢 縄文	口径 残高16.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	RL縄文と沈線による構成。	(外) (内)	
A－8号 住居址 第179図－7	深鉢 縄文	口径 残高16.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 6YR5／4にぶい赤褐	口縁部沈線による連続した渦巻文、胴部懸垂文。LR縄文を縦、横に回転する。	(外) (内)	
A－8号 住居址 第180図－1	深鉢 縄文	口径36.0 残高27.2 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／2灰褐	口縁部渦巻文と崩れた区画文が連結して入り組んで展開する。胴部は5単位の沈線の文様構成によって分割される。	(外) 撫で (内) 撫で	炉内埋設
A－8号 住居址 第180図－2	土製 円盤 縄文	平面4.2 ×4.4 厚さ1.0	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 7.5YR5／6明褐		(外) (内)	
A－8号 住居址 第180図－3	深鉢 縄文	口径 残高16.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	把手付深鉢。口縁部は無文で3本の沈線が胴部上位の区画より垂下している。区画内RL縄文回転施文。	(外) (内)	
A－9号 住居址 第180図－4	深鉢 縄文	口径 残高11.4 底径 7.0 胴部～底部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR3／1暗赤灰	楕円区画文が縦と横に連続して施され、横位にめぐる沈線と波状沈線と爪形状の刻目が胴部を横に分割する。	(外) 撫で (内) 撫で	
A－9号 住居址 第180図－5	深鉢 縄文	口径 残高9.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR7／4にぶい橙	口縁部2本の隆帯による連弧文、区画内施状工具による斜線文が施される。	(外) (内)	
A－10号 住居址 第180図－6	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR2／2極暗赤褐 (内) 2.5YR4／6赤褐	口縁部に横位に隆線と連続する刺突文が施される。	(外) (内)	
A－9号 住居址 第180図－7	深鉢 縄文	口径 残高 6.0 底径14.4 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR6／6橙	平底。	(外) (内)	
A－10号 住居址 第180図－8	深鉢 縄文	口径 残高12.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	H状懸垂文、撚りの不明な縄文が回転される。	(外) (内)	
A－11号 住居址 第181図－1	深鉢 縄文	口径 残高9.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／2灰褐	把手付深鉢。沈線と刺突文が施される。	(外) (内)	
A－11号 住居址 第181図－2	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR5／4にぶい褐		(外) (内)	
A－11号 住居址 第181図－3	深鉢 縄文	口径 残高5.4 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／4浅黄橙 (内) 10YR8／2灰白	隆帯と沈線の文様構成。	(外) (内)	

第30表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－11号 住居址 第181図－4	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径8.0 底部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR5／8明赤褐	平底。	(外) (内)	
A－12号 住居址 第181図－5	深鉢 縄文	口径26.5 残高20.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 7.5YR6／3にぶい褐	反りぎみの胴部より頸部を経て内湾ぎみに開く口縁部に至る。口唇に刻目が施され頸部以下沈線と刺突文による構成。	(外) 指で (内) 撫で	
A－12号 住居址 第181図－6	深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径19.2 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR7／4にぶい褐	平底より大きく内側に向かって立上がり、反りぎみに内傾する胴部へ移行する。	(外) 指で (内) 撫で 削り	
A－13号 住居址 第181図－7	深鉢 縄文	口径 残高15.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10R5／4赤褐 (内) 2.5YR4／2灰赤	口縁部にS字状の隆帯を施した後LR縄文を施文。	(外) (内)	
A－13号 住居址 第181図－8	深鉢 縄文	口径 残高8.7 底径6.0 胴部～底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／8橙	平底より立上がり張りの無い胴部に至る。RL縄文回転施文。	(外) (内)	
A－13号 住居址 第182図－1	深鉢 縄文	口径 残高52.2 底径10.0 胴部～底部 1/2	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／6橙	平底より立上がり、外反ぎみに大きく開く胴部からそのまま内湾ぎみの口縁部に至る。LR縄文を回転する。	(外) (内)	
A－13号 住居址 第182図－2	深鉢 縄文	口径 残高28.0 底径 9.6 胴部～底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／8橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	平底より立上がり張りの無い胴部に至る。RL縄文回転施文。	(外) (内)	
A－13号 住居址 第183図－1	深鉢 縄文	口径41.0 残高43.0 底径 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR4／4褐	口縁部ヒネリ状隆帯垂下4分割、及び楕円形区画内交互刺突文。胴部蕨手状懸垂文4分割、大柄渦巻文、斜線文。	(外) (内) 撫で	埋甕
A－14号 住居址 第184図－1	深鉢 縄文	口径 残高17.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 10YR6／4にぶい黄橙	口縁部内側に強い使を経て屈曲して大きく開く。隆帯を施した後RL縄文を斜位に回転させている。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－2	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 口縁部突起	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／8赤褐 (内) 2.5YR4／6赤褐	隆帯と斜線文。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－3	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／8赤褐 (内) 2.5YR2／2極暗赤褐	口縁部内側に隆帯を貼着して段をつくる。口縁部より蕨手状懸垂文と平行沈線文。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－4	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR2／2黒褐 (内) 2.5YR4／6赤褐	H状懸垂文、区画内綾杉状沈線文。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－5	深鉢 縄文	口径 残高5.4 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／8赤褐 (内) 2.5YR4／6赤褐	口縁部内側に折り返して肥厚する。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－6	深鉢 縄文	口径 残高12.4 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR4／2灰褐	箆状工具による沈線の区画文と刺突文およびRL縄文の構成。	(外) (内)	

第31表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－15号 住居址 第184図－7	深鉢 縄文	口径 残高7.7 底径 底部	胎：石英、雲母、微砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／1褐灰	指頭圧痕。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－8	深鉢 縄文	口径 残高5.3 底径 底部	胎：石英、雲母、微砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／2灰褐	指頭圧痕。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－9	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 頸部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	橋状把手。	(外) (内)	
A－15号 住居址 第184図－10	深鉢 縄文	口径 残高5.2 底径 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR3／2暗赤褐	平底。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－11	深鉢 縄文	口径 残高13.8 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 5YR3／2暗赤褐	口縁部隆帯による楕円形区画文、垂下する2本の沈線による胴部分割、区画内蛇行懸垂文とLR縄文回転。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－2	深鉢 縄文	口径 残高5.3 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6橙 (内) 5YR8／4淡橙		(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－13	深鉢 縄文	口径 残高4.3 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／4褐 (内) 7.5YR5／6明褐		(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－14	深鉢 縄文	口径 残高4.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／2灰褐 (内) 7.5YR6／3にぶい褐		(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－15	深鉢 縄文	口径 残高7.1 底径6.8 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR7／6橙	頸部にキザミ隆帯を横位に施す。把手付着の痕跡有り。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－16	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 7.5YR6／6橙	鋸歯状のH状懸垂文、綾杉状沈線文。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－17	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐		(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－18	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／8明赤褐	キザミ隆帯による区画文。区画内条線文。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－19	深鉢 縄文	口径 残高7.8 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	口縁部に縦位の隆帯が施される。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第184図－20	有孔鍔付 縄文	口径 残高6.8 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	有孔鍔付土器。	(外) (内)	

第32表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－16号 住居址 第185図－1	深鉢 縄文	口径 残高6.8 底径 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 7.5YR3／2黒褐	櫛描条線文による渦巻状の文様。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第185図－2	深鉢 縄文	口径 残高3.4 底径 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 5YR4／2灰褐	上げ底ぎみの平底。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第185図－3	浅鉢 縄文	口径 残高6.5 底径 胴部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR8／3淡黄 (内) 7.5YR6／3にぶい褐	口縁部近くの文様は箆状工具による沈線文。	(外) (内)	
A－16号 住居址 第185図－4	深鉢 縄文	口径 残高28.2 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／6橙	口縁部内側に肥厚する。隆帯とキザミ隆帯により区画を形成し区画内は綾杉状の櫛描条線文。	(外) 撫で (内) 撫で	
A－17号 住居址 第185図－5	深鉢 縄文	口径 残高17.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR4／4にぶい赤褐	口縁部横位の沈線、その上位に刺突文。胴部縦位の条線文。	(外) (内)	
A－17号 住居址 第186図－1	深鉢 縄文	口径33.5 残高29.8 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 5YR6／2灰褐	口縁部4単位の渦巻状隆帯と楕円形区画、胴部3本1組の垂下沈線7分割。口縁部区画内RL、胴部LR縄文。	(外) 撫で (内) 撫で	埋甕①
A－17号 住居址 第186図－2	深鉢 縄文	口径 残高42.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／6橙	2本1組の垂下沈線で13分割区画内3段のRLR縄文を回転する。	(外) (内)	埋甕②
A－18号 住居址 第187図－1	つ手 縄文	口径 残高24.5 底径 つ手部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／3にぶい赤褐		(外) (内)	
A－18号 住居址 第188図－1	深鉢 縄文	口径34.0 残高24.8 底径 口縁～胴部	胎：雲母、微砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／6橙	口縁部横位交互刺突文。小波状口縁、波頂下より厳手状懸垂文、その間に2本1組の隆帯を垂下し、平行沈線文施文。	(外) 撫で (内) 撫で	埋甕②
A－18号 住居址 第188図－2	深鉢 縄文	口径 残高17.5 底径 口縁～胴部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／2灰褐	小波状口縁、厳手状懸垂文と2本1組の隆帯を交互に垂下させ、その間を沈線の斜線文を施す。	(外) 撫で (内) 撫で	
A－18号 住居址 第188図－3	深鉢 縄文	口径23.4 残高23.5 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 10YR3／6黒褐	4単位の波状口縁、波頂下より厳手状懸垂文、その間に2本1組の隆帯を垂下させ、後平行沈線文を施す。	(外) (内)	埋甕①
A－18号 住居址 第188図－4	深鉢 縄文	口径 残高13.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(内外) 5YR6／8橙	3本1組の沈線を垂下させ胴部を分割、区画内LR縄文を回転させる。	(外) (内)	
A－18号 住居址 第189図－1	深鉢 縄文	口径38.2 残高31.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／2灰褐	口縁部に6単位の渦巻き連弧文、渦巻きの下に3本1組の垂下沈線、口縁部から胴部にRL縄文を回転。	(外) (内) 撫で	埋甕③
A－19号 住居址 第189図－2	深鉢 縄文	口径 残高9.4 底径 口縁部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR2／4極暗赤褐 (内) 5YR3／2暗赤褐	口縁部内側に稜を経て、面を取った口唇部に至る。口縁部無文。	(外) (内)	

第33表　八千原遺跡A地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
A－19号 住居址 第189図－3	深鉢 縄文	口径 残高5.8 底径14.8 底部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／8赤褐 (内) 5YR3／6暗赤褐	平底。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－4	深鉢 縄文	口径 残高7.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	3本1組の隆帯からなる懸垂文と斜線文。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－5	深鉢 縄文	口径 残高6.8 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR4／2灰褐	頸部に横位の蛇骨状の隆帯がめぐる。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－6	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／3にぶい橙	横位の隆帯に爪形状のキザミ目、横位平行沈線文。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－7	深鉢 縄文	口径 残高6.7 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	2本1組の横位隆帯と、斜位の沈線文を施文の後、斜位の粘土紐文を施す。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－8	深鉢 縄文	口径 残高7.8 底径 胴部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 5YR6／6橙	隆帯と沈線から成る文様構成。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第189図－9	深鉢 縄文	口径 残高7.1 底径 胴部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	沈線文。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第190図－1	土偶 縄文	口径 残高6.9 底径 胴部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	箆状工具による沈線文。	(外) (内)	
A－19号 住居址 第190図－2	土偶 縄文	口径 残高3.0 底径 足部	胎：石英、雲母、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR5／8明赤褐	箆状工具による沈線文。	(外) (内)	
B－1号 住居址 第190図－3	深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 口縁部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁に平行なキザミ隆帯がめぐり、そこから垂下する隆帯が胴部を分割する。胴部にRL縄文を回転して縄文する。	(外) (内)横位の施	炉より出土
B－1号 住居址 第190図－4	深鉢 縄文	口径 残高9.7 底径 口縁部	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／3にぶい橙	口縁に平行な隆帯を施した後そこから垂下する隆帯で胴部を区画し、胴部にRL文を転がす。	(外) (内)	
B－1号 住居址 第190図－5	深鉢 縄文	口径 残高10.5 底径 口縁部	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／3にぶい橙 (内) 7.5YR5／3にぶい橙	波状口縁。胴部に沈線の区画を施し、区画の外にRL縄文を転がす。	(外) (内)	
B－1号 住居址 第190図－6	深鉢 縄文	口径 残高13.3 底径 口縁部	胎：石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／3浅黄橙 (内) 10YR7／4にぶい黄褐	口縁部外側に肥厚する。口縁に平行な隆帯とそこから垂下する隆帯によって胴部を区画し、胴部にLR縄文を転がす。	(外) (内)	炉底に敷詰められて出土
B－1号 住居址 第190図－7	深鉢 縄文	口径 残高12.3 底径 胴部	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 2.5YR5／6明赤褐	垂下する2本1組の隆帯により胴部を分割し、区画内にLR縄文を回転する。	(外) (内)	

第34表　八千原遺跡A地区B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－1号 住居址 第190図－8	深鉢 縄文	口径 残高9.5 底径 胴部	胎：雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	キザミ隆帯により胴部に2段に区画が施され、区画内にRL縄文を回転する。	(外) 撫で (内) 撫で	炉底に敷詰められて出土
B－1号 住居址 第191図－1	深鉢 縄文	口径 残高19.0 底径 口縁部	胎：雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／6橙	縦位の凸帯により胴部を区画し、区画内に4本1組の条線文を縦位に施して埋める。	(外) (内)	炉の覆土より出土
B－1号 住居址 第191図－2	深鉢 縄文	口径 残高18.2 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／6明褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	頸部に口縁に平行な凸帯をめぐらせ、胴部に沈線によって区画を施す。区画内にRL縄文を回転する。	(外) (内)	炉底に敷詰められて出土
B－1号 住居址 第191図－3	深鉢 縄文	口径 残高8.9 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／8赤褐 (内) 7.5YR6／4にぶい褐	口縁に平行なキザミ隆帯、その下にキザミ隆帯の輪状の文様を貼付する。胴部には8本1組の縦位の条線文を施す。	(外) (内)	
B－1号 住居址 第191図－4	深鉢 縄文	口径 残高18.8 底径 口縁部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR6／6橙	無文。口縁部に指頭圧痕。	(外) (内)	炉底に敷詰められて出土
B－1号 住居址 第191図－5	深鉢 縄文	口径 残高8.8 底径 口縁部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／1褐灰	口縁部は凸帯により外側に肥厚する。口縁部の隆帯から垂下する凸帯に胴部が区画され5本1組の条線文を施す。	(外) (内)	炉底に敷詰められて出土
B－3号 住居址 第192図－1	深鉢 縄文	口径 残高22.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、細砂粒多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	口縁部4単位の波状口縁。波頂部より垂下する凸帯によりU字状区画が施され、区画内に横位の条線文を施す。	(外) (内)	
B－3号 住居址 第192図－2	深鉢 縄文	口径 残高12.0 底径 8.0 底部～胴部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 2.5YR4／2灰赤	平底より立ち上がり、外反気味の胴部に移行する。	(外) (内)	柱穴P1より出土
B－4号 住居址 第192図－3	深鉢 縄文	口径42.8 残高27.6 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	4単位の波状口縁。胴部は凸帯によって面積的な区画が施され、区画内にRL縄文を回転して施す。	(外) (内) 横位の撫で	炉の覆土中
B－3号 住居址 第193図－1	深鉢 縄文	口径 残高19.0 底径 7.4 胴部	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	平底より立ち上がり、肩の張る胴部よりややくびれる頸部に移行する。2本1組の垂下沈線により胴部を区分割する。	(外) (内) 撫で	
B－4号 住居址 第193図－2	深鉢 縄文	口径15.4 残高15.8 底径 8.6 完形	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／2灰褐	平底より立ち上がり、やや張りのある胴部から内側に稜を経て小さく外反する口縁に至るLR縄文を回転する。	(外) (内) 削り 撫で	
B－4号 住居址 第193図－3	ミニチュア 縄文	口径 残高9.5 底径 完形	胎：石英、雲母、粗砂粒多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR7／6橙	平底より立ち上がり、頸部より開いて内湾し、内側に強い稜を経て短く外屈する口縁に至る。粗雑して文様不明。	(外) (内)	
B－5号 住居址 第193図－4	深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 胴部	胎：雲母、白色砂粒、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／2灰褐 (内) 10YR6／1褐灰	横位の沈線に囲まれた縄文帯の磨消縄文構成。LR縄文を回転する。	(外) (内)	
B－5号 住居址 第193図－5	深鉢 縄文	口径 残高11.4 底径 胴部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／2灰黄褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	曲線的な沈線の文様構成。	(外) 削り 撫で (内)	

第35表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－5号 住居址 第193図－6	浅鉢 縄文	口径 残高3.6 底径 胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄橙 (内) 7.5YR8／3浅黄橙	口縁部の屈曲部に隆帯と沈線の入組んだ文様に連続した刺突文を施す文様構成。	(外) (内)	
B－6号 住居址 第193図－7	深鉢 縄文	口径 残高5.1 底径 口縁部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	口縁部内側に折返しと肥厚する。口縁部に隆帯による渦巻と崩れた区画文が連結して入組んで展開する。LR縄文。	(外) (内)	
B－6号 住居址 第193図－8	深鉢 縄文	口径 残高15.0 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	4単位の波状口縁で、内湾気味に大きく開く胴部より口縁に至る。口縁部に隆帯の渦巻と沈線の崩れた区画文の構成。	(外) (内)	
B－6号 住居址 第193図－9	深鉢 縄文	口径 残高21.0 底径 胴部～底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	平底より立ち上がり、張りのある胴部に移行する。3本1組の垂下沈線により胴部を分割する区画内RL縄文回転。	(外) (内)	
B－7号 住居址 第194図－1	深鉢 縄文	口径 残高8.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	RL縄文を転がす。	(外) (内)	
B－7号 住居址 第194図－2	深鉢 縄文	口径 残高3.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤褐 (内) 5YR4／1褐灰	口縁に平行な沈線をめぐらし胴部にLR縄文を転がす。	(外) (内)	
B－7号 住居址 第194図－3	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR3／1黒褐		(外) (内)	
B－7号 住居址 第194図－4	深鉢 縄文	口径 残高4.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／8橙		(外) (内)	
B－7号 住居址 第194図－5	深鉢 縄文	口径 残高4.5 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR6／6橙	平底。	(外) (内)	
B－8号 住居址 第194図－6	深鉢 縄文	口径16.8 残高17.8 底径 口縁～胴部	胎：金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／4にぶい赤褐	口縁部内側に肥厚する。胴部に凸帯でU字状に区画した後に口縁部に凸帯を施す。区画内は3段の縦位の沈線文。	(外) (内)	炉底に敷つめられて出土
B－8号 住居址 第194図－7	深鉢 縄文	口径18.0 残高16.0 底径 口縁～胴部	胎：金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR4／4にぶい赤褐	口縁部内側に肥厚する。胴部に渦巻から垂下した凸帯でU字状に区画した後に口縁部に横位に交互刺突文を施す。	(外) (内)	炉底に敷詰められて出土
B－9号 住居址 第194図－8	深鉢 縄文	口径20.0 残高17.2 底径 口縁部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／1褐灰 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	波状口縁。胴部は上と下に沈線で区画文を形成し、区画内にRL縄文を回転して埋める。	(外) (内)	
B－9号 住居址 第195図－1	深鉢 縄文	口径23.5 器高33.8 底径14.0 1/2	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR6／2灰黄褐	平底より立ち上がり張りのある胴部に移行し、隆帯の巡る頸部を経て内傾する口縁部に至る。LR縄文を横読に転がす。	(外) (内)	炉より出土
B－9号 住居址 第195図－2	深鉢 縄文	口径 残高15.0 底径 6.6 胴部～底部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR5／6明赤褐	平底より立ち上がり、外反気味の胴部に移行する。胴部にRL縄文を転がす。	(外) (内)	

第36表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－13号 住居址 第195図－3	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR5／8明赤褐	波状口縁。口縁部に横位の隆帯がめぐり、沈線による区画文を施し、区画内RL縄文をかす。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第195図－4	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	口縁部外側に稜をもって肥厚する。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第195図－5	深鉢 縄文	口径 残高8.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／8橙	垂下する隆帯によって胴部を分割し、区画内にLR縄文を転がす。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第195図－6	深鉢 縄文	口径 残高12.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／6にぶい橙 (内) 2.5YR4／4にぶい赤褐	2本1組の垂下する隆帯により胴部を分割し、区画内にRL縄文を転がす。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第196図－1	両耳 土器 縄文	口径 残高10.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR5／6明赤褐		(外) (内)	
B－13号 住居址 第196図－2	深鉢 縄文	口径 残高3.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 5YR3／2暗赤褐	平底。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第196図－3	深鉢 縄文	口径 残高4.4 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	平底。	(外) (内)	
B－13号 住居址 第196図－4	深鉢 縄文	口径 残高2.8 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	平底。	(外) (内)	
B－14号 住居址 第196図－5	深鉢 縄文	口径 残高 9.3 底径12.2 胴部～底部	胎：雲母、白色礫多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	平底より開いて立ち上がる。胎土は非常に脆い。	(外) (内)	
B－14号 住居址 第196図－6	深鉢 縄文	口径 残高23.0 底径 胴部	胎：礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／6赤 (内) 10YR5／3にぶい黄褐	平底より立ち上がり、上に向かって大きく開く胴部に移行する。	(外) 斜位の削り、指で (内) 横位の削り	
B－14号 住居址 第196図－7	浅鉢 縄文	口径 残高19.5 底径10.3 胴部～底部	胎：金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	上底ぎみの平底より立ち上がり、丸みのある胴部よりくびれる頸部に移行する。	(外) (内)	
B－14号 住居址 第197図－1	深鉢 縄文	口径 残高19.4 底径 胴部	胎：石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	細いキザミ隆帯が縦横に交差し、「8」の字状貼付文を施す。	(外) (内)	
B－15号 住居址 第197図－2	深鉢 縄文	口径20.0 残高15.2 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR5／2灰褐橙	胴部より口縁部に向かって開口する。4単位の対称的な把手を有する。隆帯で曲線的な区画を施し、RL縄文を施す。	(外) (内)	
B－15号 住居址 第197図－3	深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／4にぶい赤褐 (内) 5YR4／4にぶい赤褐	4単位の把手を有すると推定される。口縁部に隆帯による渦巻と区画文が連続し、区画内にLR縄文を回転する。	(外) (内)	

第37表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－15号 住居址 第197図－4	深鉢 縄文	口径 残高18.0 底径 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／6赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	口縁部に隆帯と沈線による渦巻と区画文を連続して展開する。沈線により∩字状に区画し胴部を分割する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第197図－5	精製 深鉢 縄文	口径 残高21.5 底径 口縁部	胎：石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／3にぶい黄橙 (内) 10YR5／3にぶい黄橙	口縁部は肥厚する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－1	精製 深鉢 縄文	口径 残高13.8 底径 口縁部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／2明褐灰	口縁部内側にやや肥厚する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－2	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 胴部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	環状突起を有する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－3	浅鉢 縄文	口径 残高4.6 底径 口縁部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 2.5YR5／6明赤褐	口縁部は屈曲し、刺突文は施された突起を有する。頸部に「8」字状貼付文を施す。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－4	浅鉢 縄文	口径 残高7.7 底径 口縁部	胎：礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／6橙	口縁部は上へ向かって大きく開き、先で短く内屈する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－5	浅鉢 縄文	口径 残高5.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／6黄橙 (内) 7.5YR8／7黄橙	口縁部外反し、刺突文と沈線による構成の文様を施す。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－6	浅鉢 縄文	口径 残高4.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙		(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－7	浅鉢 縄文	口径 残高3.7 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 7.5YR7／6橙	口縁部は短く内屈する。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－8	浅鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR7／6橙		(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－9	浅鉢 縄文	口径 残高3.8 底径 口縁部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙		(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－10	浅鉢 縄文	口径 残高4.8 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR8／4淡橙 (内) 7.5YR8／3浅黄橙	口唇部は縁に平行な沈線がめぐる。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－11	浅鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 5YR4／2灰褐	沈線による文様構成。	(外) (内)	
B－17号 住居址 第198図－12	小型壺 縄文	口径 残高7.4 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR8／6浅黄橙 (内) 10YR8／3浅黄橙	くびれた頸部より緩やかに外反し、さらに屈曲して内傾する口縁に至る。口縁部に把手を有する。	(外) (内)	

第38表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－18号 住居址 第198図－13	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 口縁部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／6橙	口縁部は緩やかな波状を呈し波頂部に隆帯により渦巻を施す。横位の条線文を施す。	(外) (内)	
B－18号 住居址 第198図－14	深鉢 縄文	口径 残高9.9 底径 胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／4にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙		(外) (内)	
B－18号 住居址 第198図－15	深鉢 縄文	口径 残高13.4 底径 胴部	胎：石英、金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／3にぶい赤褐	胴部にLR縄文を回転して施文する。	(外) (内)	
B－19号 住居址 第198図－16	深鉢 縄文	口径 残高8.0 底径 胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／5明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐		(外) (内)	
B－19号 住居址 第198図－17	深鉢 縄文	口径 残高4.7 底径 底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR3／2暗赤褐	平底。胴部に被杉状沈線文を施す。	(外) (内)	
B－19号 住居址 第198図－18	無文 深鉢 縄文	口径 残高12.2 底径 口縁部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／3にぶい黄橙 (内) 10YR5／3にぶい黄橙		(外) (内)	
B－19号 住居址 第198図－19	耳飾 縄文	直径3.3 厚み1.5 底径 完形	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	中心に孔を有する円形で縁の断面は凹む。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－1	精製 深鉢 縄文	口径 残高4.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 7.5YR5／6明褐	口縁部は内側に小さく肥厚する。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－2	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.5 底径 口縁部	胎：石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR2／1黒褐	口縁部は短く内屈する。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－3	精製 深鉢 縄文	口径 残高4.7 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／4にぶい黄褐 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	口縁部の波頂部より細いキザミ隆帯を垂下させる。	(外) 磨き (内)	
B－20号 住居址 第199図－4	粗製 深鉢 縄文	口径 残高4.6 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／3にぶい赤褐 (内) 5YR6／6橙	平底。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－5	粗製 深鉢 縄文	口径 残高2.7 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／2明褐灰	平底。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－6	粗製 深鉢 縄文	口径 残高2.7 底径 底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	平底。	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－7	注口 縄文	口径 残高7.0 底径 注口部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／4浅黄 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	注口部	(外) (内)	

第39表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－20号 住居址 第199図－8	注口 把手 縄文	口径 残高3.0 底径 取手	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／2灰褐 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	「8」字状貼付が施される	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－9	注口 縄文	口径 残高1.8 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR7／2灰褐 (内) 2.5YR6／2灰黄	平底	(外) (内)	
B－20号 住居址 第199図－10	土偶 縄文	口径 残高6.8 底径 脚部	胎：石英、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	径3.1cm×2.2cm	(外) (内)	
B－21号 住居址 第199図－11	深鉢 縄文	口径 残高16.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR5／8明赤褐	波状口縁。曲線的な区画文が施され、区画内にLR縄文を回転している。	(外) 撫で (内) 撫で	
B－21号 住居址 第199図－12	深鉢 縄文	口径 残高4.8 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒を含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR6／6明赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	口縁部内側に肥厚する。口縁に平行な沈線がめぐり、胴部にLR縄文が回転している。	(外) (内)	
B－21号 住居址 第199図－13	深鉢 縄文	口径 残高18.1 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫を含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／6橙	口縁部区画内RL縄文、胴部RL縄文が回転している。	(外) (内)	
B－23号 住居址 第199図－14	深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 口縁部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	口縁部内側に段を有して肥厚する。突起を有する。	(外) (内)	
B－23号 住居址 第200図－1	深鉢 縄文	口径 残高9.0 底径 口縁部	胎：石英、細砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR5／8明赤褐	隆帯による曲線的な文様を施した後、口縁に平行にキザミ隆帯がめぐる。	(外) (内)	
B－23号 住居址 第200図－2	ミニチュア 縄文	口径 残高3.4 底径 胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／2灰褐 (内) 7.5YR7／3にぶい橙		(外) 撫で (内)	
B－23号 住居址 第200図－3	ミニチュア 縄文	口径 残高2.4 底径4.2 底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	平底で立ち上がる部分でいったんくびれて外傾する胴部に至る。	(外) (内)	
B－24号 住居址 第200図－4	壺 縄文	口径 残高12.0 底径 3.6 胴部～底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR7／6橙 (内) 5YR5／2灰褐	平底より立ち上がり胴部中位で強く張り胴部上位で窄まる。平面形は底が円形で、胴部が方形である。沈線の文様構成。	(外) 撫で (内)	炉に埋設
B－25号 住居址 第200図－5	粗製無文深鉢 縄文	口径 残高7.3 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐		(外) (内)	
B－25号 住居址 第200図－6	粗製無文深鉢 縄文	口径 残高6.1 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 7.5YR4／2灰褐		(外) (内)	
B－25号 住居址 第200図－7	粗製無文深鉢 縄文	口径 残高6.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5Y7／3浅黄 (内) 2.5Y7／3浅黄		(外) (内)	

第40表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－25号 住居址 第200図－8	深鉢 縄文	口径 残高10.2 底径 8.0 胴部～底部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR5／2灰褐	平底より立ち上がり、張りのある胴部より頸部で緩くくびれる。	(外) (内) 横位の撫で	炉に2個の土器が重ねて埋設（上）
B－25号 住居址 第200図－9	深鉢 縄文	口径 残高17.9 底径12.0 胴部～底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 10YR6／4にぶい黄橙	平底より立ち上がり、丸みをもって上に向かって開く胴部に移行する。	(外) (内)	炉に2個の土器が重ねて埋設（下）
B－25号 住居址 第200図－10	注口 縄文	口径 残高3.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／8橙	口縁部内側に1本の沈線をめぐらす。注口部の上に渦巻を付けた後、口縁に平行な隆帯をめぐらせている。	(外) 撫で (内)	
B－25号 住居址 第200図－11	注口 縄文	口径 残高6.7 底径 注口部	胎：石英、白色砂粒、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい黄橙 (内) 10YR6／1褐灰	注口部。	(外) (内)	
B－25号 住居址 第200図－12	ミニチュア 縄文	口径 残高2.8 底径4.5 胴部～底部	胎：石英、白色砂粒、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい黄橙 (内) 10YR8／3浅黄橙	平底より内湾気味に立ち上がる。	(外) (内)	
B－25号 住居址 第201図－1	浅鉢 縄文	口径 残高 6.0 底径10.4 胴部～底部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 10YR6／6明黄褐	上底ぎみの平底より立ち上がり、大きく開いて胴部上位で強く張る。	(外) (内) 撫で	
B－26号 住居址 第201図－2	深鉢 縄文	口径28.0 残高16.8 底径 口縁1/2	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／6明褐 (内) 10YR7／3にぶい黄褐	平底より立ち上がり、外反する胴部より稜を経て屈曲し、大きく開口する口縁に至る。	(外) (内)	炉に2個の土器が重ねて埋設（下）
B－26号 住居址 第201図－3	無文深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径 7.3 胴部～底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／6明褐 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	平底より立ち上がり、やや丸みをもって上へ向かって大きく開く胴部に移行する。	(外) (内)	炉に2個の土器が重ねて埋設（上）
B－26号 住居址 第201図－4	深鉢 縄文	口径42.8 残高34.6 底径 口縁部1/4	胎：金雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／6明赤褐	口縁に平行な隆帯をめぐらせた後、そこから隆帯を垂下させ胴部を区画する。区画内LR縄文を回転する。	(外) 撫で (内) 撫で	炉より出土
B－28号 住居址 第202図－1	深鉢 縄文	口径 残高12.5 底径 口縁部	胎：雲母、長石、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／8赤褐 (内) 5YR4／8赤褐	口縁部肥厚する。	(外) (内)	
B－28号 住居址 第202図－2	深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／6褐 (内) 7.5YR5／6明褐	把手部	(外) (内)	
B－28号 住居址 第202図－3	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 胴部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR4／3にぶい黄褐 (内) 10YR6／6明黄褐	三仏生。	(外) (内)	
B－28号 住居址 第202図－4	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径6.0 底部	胎：礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	平底。 胴部に隆帯を垂下させて分割している。	(外) (内)	
B－28号 住居址 第202図－5	深鉢 縄文	口径 残高4.5 底径3.2 底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／6橙	平底。	(外) (内)	

第41表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－28号 住居址 第202図－6	深鉢 縄文	口径 残高2.9 底径7.0 底部	胎：石英、雲母、砂粒多量に含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／8赤褐 (内) 5YR4／8赤褐	平底。	(外) (内)	
B－29号 住居址 第202図－7	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／8明赤褐	把手部。	(外) (内)	
B－29号 住居址 第202図－8	深鉢 縄文	口径 残高2.9 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR7／4にぶい橙	平底。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－9	粗製 深鉢 縄文	口径 残高11.8 底径12.2 胴部～底部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR7／1明褐灰	方形の平底よりやや内傾する胴部を経て、内側に稜を伴て短く屈曲する口縁に至る。細い沈線により類似縄文を施す。	(外) 撫で (内) 撫で	
B－30号 住居址 第202図－10	粗製 深鉢 縄文	口径 残高5.8 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	口唇部に面取りが施される。無文。	(外) 横位の削り (内)	
B－30号 住居址 第202図－11	粗製 深鉢 縄文	口径 残高5.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－12	粗製 深鉢 縄文	口径 残高9.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／4にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－13	粗製 深鉢 縄文	口径 残高5.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／3にぶい褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－14	粗製 深鉢 縄文	口径 残高14.9 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／6橙	口唇部に面取りが施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－15	粗製 深鉢 縄文	口径 残高9.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／6橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－16	粗製 深鉢 縄文	口径 残高8.8 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第202図－17	粗製 深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	口唇部に面取りが施される。	(外) 横位の削り、撫で (内) 横位の削り、撫で	
B－30号 住居址 第203図－1	粗製 深鉢 縄文	口径 残高10.1 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	器厚が一定していない。無文。	(外) (内) 横位の削り、撫で	
B－30号 住居址 第203図－2	粗製 深鉢 縄文	口径 残高9.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	無文。	(外) (内)	

第42表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－30号 住居址 第203図－3	粗製 深鉢 縄文	口径 残高8.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－4	粗製 深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－5	粗製 深鉢 縄文	口径 残高8.5 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／3にぶい黄橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－6	粗製 深鉢 縄文	口径 残高5.9 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	波状口縁。内側に口縁に平行して沈線が施される。	(外) 撫で (内) 撫で	
B－30号 住居址 第203図－7	粗製 深鉢 縄文	口径 残高6.4 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／4にぶい黄橙 (内) 10YR7／4にぶい黄橙	波状口縁。内側に口縁に平行して沈線が施される。	(外) 撫で (内) 撫で	
B－30号 住居址 第203図－8	粗製 深鉢 縄文	口径 残高6.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	波状口縁。内側に口縁に平行して沈線が施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－9	粗製 深鉢 縄文	口径 残高12.0 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／2明褐灰	平底より立ち上がり、張りのない胴部に移行する。	(外) 縦位の削り (内)	
B－30号 住居址 第203図－10	粗製 深鉢 縄文	口径 残高4.2 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 2.5Y8／3浅黄 (内) 2.5Y7／2灰黄	上底ぎみの平底より、立ち上がり、丸みをもって上へ向かって開く胴部に至る。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－11	粗製 深鉢 縄文	口径 残高5.8 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい褐 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	平底より立ち上がり、上へ向かって開く胴部に至る。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－12	粗製 深鉢 縄文	口径 残高4.4 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／2灰褐	上底ぎみの平底より、立ち上がり、丸みをもって上へ向かって開く胴部に至る。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第203図－13	粗製 深鉢 縄文	口径 残高15.0 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	平底で立ち上がり部は直立し、張りのある胴部に移行する。	(外) (内)	炉に埋設
B－30号 住居址 第204図－1	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.4 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／2灰黄褐 (内) 7.5YR5／1褐灰	外側に口縁に平行な沈線をめぐらせている。条線文による曲線的な文様を施す。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第204図－2	精製 深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／3にぶい赤褐 (内) 7.5YR4／3褐	口唇部に刻目を施し、「8」字状貼付文が施される。胴部に横位の条線文が施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第204図－3	精製 深鉢 縄文	口径 残高7.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	内側に口縁に平行な3条の沈線をめぐらせている。	(外) 撫で (内) 撫で	

第43表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－30号 住居址 第204図－4	精製 深鉢 縄文	口径 残高3.9 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR3／2暗赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐	内側に口縁に平行な4条の沈線がめぐる。口縁部に小突起を有する。	(外) 撫で (内) 撫で	
B－30号 住居址 第204図－5	精製 深鉢 縄文	口径 残高3.3 底径 口縁部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／4にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	内側に口縁に平行に3条の沈線がめぐる。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第204図－6	精製 深鉢 縄文	口径 残高8.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐		(外) (内)	
B－30号 住居址 第204図－7	深鉢 縄文	口径 残高35.0 底径 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	第204図－8と同一個体。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第204図－8	深鉢 縄文	口径 残高 底径 胴部	胎： 焼： 色：(外) YR／ (内) YR／	口縁部に突起を有する。細いキザミ隆帯と「8」字状貼付文と沈線による区画文とその磨消縄文と文様構成。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－1	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 取手	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／4にぶい黄橙 (内) 7.5YR7／6橙	把手。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－2	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.2 底径 取手	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	把手。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－3	精製 深鉢 縄文	口径 残高4.0 底径 取手	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／2灰黄褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	把手。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－4	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.9 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	胴部に細いキザミ隆帯が施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－5	精製 深鉢 縄文	口径 残高8.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	胴部に細いキザミ隆帯と沈線が施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－6	精製 深鉢 縄文	口径 残高9.1 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／3にぶい赤褐 (内) 5YR4／2灰褐	胴部に沈線が施される。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－7	精製 深鉢 縄文	口径 残高5.8 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR2／2黒褐 (内) 10YR5／2灰黄褐	無文。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－8	精製 深鉢 縄文	口径 残高6.3 底径 胴部～底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	平底より立ち上がり、外反ぎみに小さく外傾する胴部に移行する。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－9	注口 縄文	口径 残高1.0 底径 注口	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 10YR6／4にぶい黄橙	注口部。	(外) (内)	

第44表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	分様・形態ほか	整形ほか	備考
B－30号 住居址 第205図－10	注口 縄文	口径 残高4.7 底径 注口	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR5／3にぶい橙	沈線による同心円状の文様を施す。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－11	注口 縄文	口径 残高6.0 底径 注口	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／3褐 (内) 7.5YR3／3暗褐	沈線による綾状の文様を施す。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－12	注口 縄文	口径 残高4.8 底径 注口	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR4／2灰褐 (内) 7.5YR6／2灰褐	沈線による羽状斜線文を施す。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－13	注口 縄文	口径 残高4.7 底径 注口	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／2にぶい黄橙 (内) 10YR5／2灰黄褐	平底。	(外) (内)	
B－30号 住居址 第205図－14	蓋 手捏 縄文	直径4.2 高さ2.4 底径 完形	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／6明褐 (内) 7.5YR7／4にぶい橙		(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－15	深鉢 縄文	口径 残高4.7 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／4にぶい褐 (内) 7.5YR5／3にぶい褐	太い沈線による文様を施す。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－16	浅鉢 縄文	口径 残高5.2 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	口縁部に突起を有する。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－17	深鉢 縄文	口径 残高3.7 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR4／3にぶい橙	平底。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－18	深鉢 縄文	口径 残高2.8 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 2.5YR3／2暗赤褐	平底。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－19	深鉢 縄文	口径 残高2.4 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 2.5YR3／2暗赤褐	平底。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－20	深鉢 縄文	口径 残高4.6 底径 底部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／6橙	平底。 残存部が小さいため底径は不明。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－21	深鉢 縄文	口径 残高3.6 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／6橙	平底。	(外) (内)	
B－31号 住居址 第205図－22	深鉢 縄文	口径 残高11.8 底径 底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	粘土帯積上げ。平底より丸みをもって立ち上がる。	(外) (内)	炉に埋設
B－33号 住居址 第205図－23	深鉢 縄文	口径 残高11.3 底径 7.3 胴部～底部	胎：石英、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／8赤 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	平底より立ち上がり、丸みのある胴部より括れる頸部に移行する。頸部に隆帯と刺突文による文様を施す。LR縄文	(外) (内)	炉に埋設(上)

第45表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－33号 住居址 第205図－24	浅鉢 縄文	口径16.0 残高10.3 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR4／4にぶい赤褐 (内) 5YR5／2灰褐	丸い胴部より屈曲して外反する口縁に至る。頸部に文様帯と「8」字状貼付文が施され、胴部に磨消縄文の文様構成。	(外) (内)	
B－33号 住居址 第206図－1	深鉢 縄文	口径 残高16.2 底径 9.6 胴部～底部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	平底より外反して立ち上がり、張りのある胴部に移行する。沈線による渦巻状の文様を施し胴部を5分割する。	(外) 撫で (内) 削り、撫で	炉に埋設(下)
B－33号 住居址 第206図－2	深鉢 縄文	口径 残高13.9 底径 7.5 胴部～底部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	平底より立上がり、張りのある胴部に至る。	(外) 撫で (内) 削り	
B－35号 住居址 第206図－3	深鉢 縄文	口径14.0 残高 8.5 底径 3.0 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5Y2／2オリーブ灰 (内) 5Y4／1灰	平底より立ち上がり、外反ぎみの口縁に至る。	(外) (内)	
B－37号 住居址 第206図－4	両耳 土器 縄文	口径 残高7.5 底径 片耳部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／6橙	両耳の把手部。	(外) (内)	
B－37号 住居址 第206図－5	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 口縁部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／4にぶい橙 (内) 5YR6／4にぶい橙	口縁に平行して太いキザミ隆帯がめぐる。	(外) (内)	
B－38号 住居址 第206図－6	深鉢 縄文	口径 残高8.1 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／3にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	無文。	(外) (内) 撫で	
B－38号 住居址 第206図－7	深鉢 縄文	口径 残高4.7 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR2／3極暗赤褐	胴部にRL縄文を回転して施す。	(外) (内)	
B－38号 住居址 第206図－8	深鉢 縄文	口径 残高5.1 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／4にぶい赤褐	沈線を垂下させ、胴部を分割し、区画内にRL縄文を回転する。	(外) (内)	
B－38号 住居址 第206図－9	深鉢 縄文	口径 残高5.7 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR4／3にぶい赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	沈線文。	(外) (内)	
B－1号土壙 第206図－10	深鉢 縄文	口径 残高11.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	隆帯を垂下させ胴部を分割しRL縄文を回転して施す。	(外) (内)	
B－1号土壙 第206図－11	深鉢 縄文	口径 残高9.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／8明赤褐	沈線を垂下させ、胴部を分割し、LR縄文を回転する。	(外) (内)	
B－1号土壙 第206図－12	深鉢 縄文	口径 残高6.2 底径6.6 胴部～底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR6／6橙	平底より外反ぎみに立ち上がる2本1組の沈線を垂下させ、胴部を分割し、区画内にRL縄文を回転する。	(外) (内)	
B－1号土壙 第206図－13	深鉢 縄文	口径 残高4.5 底径8.5 底部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR2／4極赤褐 (内) 5YR2／3極赤褐	平底より外反ぎみに立ち上がる2本1組の沈線を垂下させ、胴部を分割し、区画内にRL縄文を回転する。	(外) (内) 縦位の削り	

第46表　八千原遺跡B地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
B－2号土壙 第206図－14	土製 円盤 縄文	直径2.7 厚み1.0 底径 完形	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR5／8明赤褐		(外) (内)	
B－3号土壙 第207図－1	深鉢 縄文	口径 残高17.6 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／6橙	波状口縁。口縁に平行な隆帯を施し、胴部は2本1組の隆帯による曲線的な区画文を施しLR縄文を回転する。	(外) (内)	
B－1号集石 第207図－2	深鉢 縄文	口径 残高18.0 底径 口縁～胴部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／4にぶい褐 (内) 7.5YR7／6橙	口縁部に崩れた楕円形区画文を連続して施し、沈線を垂下させ胴部を分割し、区画内にLR縄文を回転する。	(外) (内)	
B－1号集石 第207図－3	無文 粗製 深鉢 縄文	口径 残高6.5 底径 口縁部	胎：礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR3／4暗褐 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	内側に口縁に平行な沈線を施す。	(外) (内)	
B－1号集石 第207図－4	深鉢 縄文	口径 残高 底径8.2 底部	胎：粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR7／3にぶい橙	平底、底の中央が内側に肥厚する。	(外) (内) 撫で	
B－2号集石 第207図－5	深鉢 縄文	口径 残高7.5 底径 胴部	胎：石英、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／8橙 (内) 5YR6／8橙	垂下沈線により胴部を分割する。区画内にLR縄文を回転する。	(外) (内)	
C－1号 住居址 第208図－1	深鉢 縄文	口径14.3 残高10.6 底径 口縁～胴部	胎：雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR5／2灰黄褐 (内) 10YR5／2灰黄褐	3単位の波状口縁。磨消縄文の縄文帯を括弧形の沈線と刺突文が縦に切るような文様構成。LR縄文回転後沈線文。	(外) (内) 磨き	
C－2号 住居址 第208図－2	深鉢 縄文	口径 残高6.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、白色砂粒、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR4／4褐	把手部。 渦巻状文様と沈線と刺突文による文様構成。	(外) (内)	
C－2号 住居址 第208図－3	深鉢 縄文	口径 残高5.6 底径 胴部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／6橙	鰓手状の沈線文が垂下し胴部を区画し、RL縄文を回転する。	(外) (内)	
C－2号 住居址 第208図－4	深鉢 縄文	口径 器高7.4 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／8明赤褐	口縁部棱をもって内側に肥厚する。箆状工具による平行斜線文を施す。	(外) (内)	
C－2号 住居址 第208図－5	深鉢 縄文	口径 残高5.7 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 2.5YR5／8明赤褐 (内) 5YR4／3にぶい赤褐		(外) (内)	
C－2号 住居址 第208図－6	釣り手 土器 縄文	口径 残高4.0 底径 胴部	胎：石英、金雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR4／6赤褐	沈線による文様構成。	(外) (内)	
C－2号 住居址 第208図－7	有孔 つば 縄文	口径 残高4.6 底径 胴部	胎：石英、雲母、白色砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3浅黄褐 (内) 10YR5／3にぶい黄褐		(外) 箆削り (内) 撫で	
C－2号 住居址 第208図－8	無文 深鉢 縄文	口径30.0 残高25.0 底径 口縁～胴部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 10YR8／3にぶい黄橙 (内) 10YR5／3にぶい黄橙	粘土帯積上げ 口縁部はゆるい波状を呈する波頂部の下に一孔を有する。	(外) 縦位の削り (内) 横位の撫で	

第47表　八千原遺跡B地区・C地区出土遺物観察表

遺構No 図版No	器種 種類	法量	器質	文様・形態ほか	整形ほか	備考
C－3号 住居址 第208図－9	深鉢 縄文	口径 残高5.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR4／4褐	口縁部は短く内屈し、小さく肥厚す。口縁に平行な沈線が施され、その下に刻目がめぐらされる。	(外) 磨き (内)	
C－3号 住居址 第208図－10	深鉢 縄文	口径 残高10.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR5／4にぶい褐	口縁部短く内屈する。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第208図－11	深鉢 縄文	口径 残高9.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／4にぶい橙 (内) 7.5YR7／4にぶい橙	沈線による曲線的な区画が施され、その中を縄文で埋めている。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第208図－12	深鉢 縄文	口径 残高6.4 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 5YR6／4にぶい橙	磨消縄文構成。LR縄文を回転する。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第208図－13	深鉢 縄文	口径 残高6.5 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR6／3にぶい黄橙 (内) 10YR7／3にぶい黄橙	磨消縄文構成。沈線による曲線的な区画を施した後LR縄文を回転する。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第208図－14	深鉢 縄文	口径 残高4.6 底径 胴部	胎：石英、雲母、白色砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR5／3にぶい褐 (内) 7.5YR6／4にぶい橙	LR縄文を回転した後沈線の区画を施す。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第208図－15	深鉢 縄文	口径 残高4.9 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／8橙 (内) 7.5YR6／8橙	隆帯に一孔を貫く。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第209図－1	深鉢 縄文	口径 残高12.4 底径 胴部～底部	胎：雲母、礫含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR5／6明赤褐	平底より立ち上がり丸みのある胴部に移行する。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第209図－2	深鉢 縄文	口径 残高3.4 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 10YR7／3にぶい黄橙 (内) 7.5YR7／4にぶい黄橙	平底。 胴部にRL縄文を回転する。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第209図－3	深鉢 縄文	口径 残高4.5 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／6明赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	平底。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第209図－4	深鉢 縄文	口径 残高4.9 底径 底部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR5／8明赤褐 (内) 5YR5／6明赤褐	平底。	(外) (内)	
C－3号 住居址 第209図－5	注口 縄文	口径 残高6.7 底径 注口	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR6／6橙 (内) 7.5YR6／6橙	注口部。	(外) (内)	
C－4号 住居址 第209図－6	深鉢 縄文	口径 残高7.0 底径 口縁部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 7.5YR7／6橙 (内) 5YR7／6橙	口縁に平行な太い隆帯を施し、胴部にRL縄文を回転する。	(外) (内)	
C－4号 住居址 第209図－7	深鉢 縄文	口径 残高5.2 底径 胴部	胎：石英、雲母、粗砂粒含む 焼：良好 色：(外) 5YR6／6橙 (内) 5YR6／4にぶい橙		(外) (内)	

第48表　八千原遺跡C地区出土遺物観察表